

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 376 集

まいさわ
米沢遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業関連遺跡発掘調査

日本鉄道建設公団盛岡支社

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

米沢遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に分布しております。これら先人の貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは私達県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発も県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会文化課の指導と調整のもとに開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業に関連して、平成10年度から発掘調査を行った二戸市米沢遺跡の調査結果をまとめたものであります。調査によって、馬淵川西岸の河岸段丘上に縄文時代、奈良時代、平安時代の住居跡や土坑のほか、土器や石器などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご支援を賜りました日本鉄道建設公団盛岡支社、二戸市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成13年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 村上 勝治

例 言

1. 本報告書は、岩手県二戸市米沢字下平85-3ほかに所在する米沢遺跡発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業に伴い、県教育委員会文化課と日本鉄道建設公団盛岡支社の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
3. 発掘調査は、平成10年度から12年度にかけて実施したものである。委託者は日本鉄道建設公団盛岡支社である。
4. 岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡略号は、以下のとおりである。
跡登録台帳番号…… I E 9 9 - 0 3 9 0
遺跡略号…………… M Z - 98 (平成10年度)、M Z - 99 (平成11年度)、M Z - 00 (平成12年度)
5. 発掘調査期間と調査面積、野外調査担当者は、以下のとおりである。
調査期間 平成10年7月1日～10月22日、平成11年4月15日～11月12日、平成12年4月11日～5月31日
調査面積 平成10年度 3,300㎡、平成11年度 12,280㎡、平成12年度 1,069㎡
調査担当 平成10年度 工藤 徹、相津吉彦、平成11年度 工藤 徹、鈴木 聡、北田 勲、藤原賢徳、平成12年度 工藤 徹、齋藤麻紀子
6. 調査の室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。
整理期間 平成10年11月1日～平成11年3月31日、平成11年11月1日～平成12年3月31日、平成12年11月1日～平成13年3月31日
整理担当 平成10年度 工藤 徹、相津吉彦、平成11年度 工藤 徹、鈴木 聡、北田 勲、藤原賢徳、平成12年度 工藤 徹、齋藤麻紀子
7. 本報告書の執筆は、第I章の「調査に至る経過」を中川重紀、その他を工藤 徹が担当している。
8. 自然科学関連の分析鑑定は次の機関に依頼した。(敬称略)
石質鑑定……………花崗岩研究会
樹種同定……………木工舎「ゆい」(高橋利彦)
火山灰分析……………(株)古環境研究所
植物珪酸体分析……………(株)古環境研究所
鉄製品保存処理……………新日鉄釜石文化財処理センター
非破壊ガラス成分分析……岩手県立博物館
玉類遺物産地分析……………京都大学原子炉研究所
9. 座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に依頼した。
座標原点の測量……………(株)ハイマーテック、 空中写真……………(株)東邦航空
10. 本報告書の作成にあたり、次の方々ならびに機関から御指導と御協力をいただいた。(敬称略)
鈴木克彦(青森県立郷土館)、長尾正義(三沢市教育委員会)、八戸市立博物館、八戸市教育委員会、岩手県立博物館、二戸市教育委員会、日本鉄道建設公団盛岡支社
11. 野外調査にあたっては二戸市と地元の方々にご多大なるご協力をいただいた。
12. 土層の観察は、『新版標準土色帖』(小山・竹原：1989)によった。
13. 本遺跡から出土した遺物および調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

本文目次

序

例言

I. 調査に至る経過	1	9. 遺物包含層	108
II. 遺跡の立地と環境		V. 遺構外出土遺物	
1. 遺跡の位置	4	1. 土器	111
2. 遺跡周辺の地形と地質	4	2. 石器・石製品	112
3. 基本層序	6	3. 土製品	113
4. 周辺の遺跡	7	4. 金属製品	114
III. 調査の方法と室内整理		VI. まとめ	
1. 野外調査の方法	10	1. 遺構	166
2. 室内整理の方法	12	2. 遺物	166
IV. 検出された遺構と遺物		3. おわりに	167
1. 竪穴住居跡・住居状遺構	17	付篇 分析・鑑定	
2. 土坑	61	1. 炭化材の樹種同定	178
3. 陥し穴状遺構	83	2. 火山灰の分析鑑定	192
4. 柱穴状ピット	87	3. 自然科学分析	194
5. 石囲炉・焼土遺構	90	4. 耳飾り玉非破壊分析	207
6. 溝状遺構	99	5. ガラス玉非破壊分析	211
7. 畠状遺構	105	報告書抄録	
8. 井戸跡	105	職員一覧	

図版目次

第1図 岩手県全図及び二戸市位置図	2	第12図 第6号住居跡	23
第2図 周辺の地形図	3	第13図 第7号住居跡	24
第3図 地形分類図	5	第14図 第8号住居跡(1)	26
第4図 基本土層	6	第15図 第8号住居跡(2)	27
第5図 遺跡位置及び周辺の遺跡	8	第16図 第8号住居跡(3)	28
第6図 小グリッド配置図	13	第17図 第9号住居跡	30
第7図 実測図凡例	14	第18図 第10号住居跡(1)	32
第8図 遺構配置図	15・16	第19図 第10号住居跡(2)	33
第9図 第1号住居跡	18	第20図 第10号住居跡(3)	34
第10図 第2・3号住居跡	19	第21図 第11号住居跡(1)	35
第11図 第4・5号住居跡	21	第22図 第11号住居跡(2)	36

第23図	第11号住居跡(3)	37	第60図	第15～17号溝状遺構	104
第24図	第12・13号住居跡(1)	39	第61図	畠状遺構(1)	106
第25図	第13号住居跡(2)	40	第62図	畠状遺構(2)	107
第26図	第14号住居跡	41	第63図	井戸跡	108
第27図	第15号住居跡(1)	43	第64図	遺物包含層(早期)	109
第28図	第15号(2)・16号住居跡	44	第65図	遺物包含層(前期)	110
第29図	第17～19号住居跡(1)	47	第66図	遺構内出土遺物(1)	115
第30図	第19号住居跡(2)	49	第67図	遺構内出土遺物(2)	116
第31図	第20号住居跡	50	第68図	遺構内出土遺物(3)	117
第32図	第21号住居跡	52	第69図	遺構内出土遺物(4)	118
第33図	第22号住居跡(1)	53	第70図	遺構内出土遺物(5)	119
第34図	第22号住居跡(2)	54	第71図	遺構内出土遺物(6)	120
第35図	第23号住居跡(1)	56	第72図	遺構内出土遺物(7)	121
第36図	第23号住居跡(2)	57	第73図	遺構内出土遺物(8)	122
第37図	第24号住居跡(1)	58	第74図	遺構内出土遺物(9)	123
第38図	第24号住居跡(2)	59	第75図	遺構内出土遺物(10)	124
第39図	第1号住居状遺構	60	第76図	遺構内出土遺物(11)	125
第40図	第1～8号土坑	63	第77図	遺構内出土遺物(12)	126
第41図	第9～16号土坑	66	第78図	遺構内出土遺物(13)	127
第42図	第17～19号土坑	68	第79図	遺構内出土遺物(14)	128
第43図	第20～29号土坑	72	第80図	遺構内出土遺物(15)	129
第44図	第30～37号土坑	75	第81図	遺構外出土土器(1)～VI層～	130
第45図	第38～44号土坑	77	第82図	遺構外出土土器(2)～VI層～	131
第46図	第45・46号土坑	79	第83図	遺構外出土土器(3)～VI層～	132
第47図	第47～51号土坑	81	第84図	遺構外出土土器(4)～VI層～	133
第48図	第1～4号陥し穴状遺構	84	第85図	遺構外出土土器(5)～VI層～	134
第49図	第5～7号陥し穴状遺構	86	第86図	遺構外出土土器(6)～VI層～	135
第50図	柱穴状ピット(1)	88	第87図	遺構外出土土器(7)～IV a層～	136
第51図	柱穴状ピット(2)	89	第88図	遺構外出土土器(8)～IV a層～	137
第52図	第1・2号石囲炉、第1・2号焼土	91	第89図	遺構外出土土器(9)～IV a層～	138
第53図	第3～8号焼土	92	第90図	遺構外出土土器(10)	139
第54図	第9～11号焼土	94	第91図	遺構外出土土器(11)	140
第55図	第12～15号焼土	96	第92図	遺構外出土土器(12)	141
第56図	第16～23号焼土	98	第93図	遺構外出土土器(13)	142
第57図	第1～6号溝状遺構	100	第94図	遺構外出土石器(1)～VI層～	143
第58図	第7～10号溝状遺構	101	第95図	遺構外出土石器(2)～VI層～	144
第59図	第11～14号溝状遺構	103	第96図	遺構外出土石器(3)～VI層～	145

第 97 図	遺構外出土石器 (4) ~ VI 層 ~	146	第107 図	長瀬 B・米沢遺跡関連 遺構配置図 (1)	169
第 98 図	遺構外出土石器 (5) ~ IV a 層 ~	147	第108 図	長瀬 B・米沢遺跡関連 遺構配置図 (2)	170
第 99 図	遺構外出土石器 (6) ~ IV a 層 ~	148	第109 図	尖底部角度	171
第100 図	遺構外出土石器 (7)	149	第110 図	土器模式図 1 (早期)	172
第101 図	遺構外出土石器 (8)	150	第111 図	土器模式図 2 (早期)	173
第102 図	遺構外出土石器 (9)	151	第112 図	土器模式図 3 (前期)	174
第103 図	遺構外出土石器 (10)・石製品	152	第113 図	土師器模式図 4	175
第104 図	遺構外出土土製品	153	第114 図	土師器模式図 5	176
第105 図	遺構外出土貨幣	154			
第106 図	住居跡規模及び軸方向分布図	167			

写 真 図 版 目 次

写真図版 1	全景写真	217	写真図版23	第14号住居跡	239
写真図版 2	調査前風景・基本土層	218	写真図版24	第15号住居跡 (1)	240
写真図版 3	第 1 号住居跡 (1)	219	写真図版25	第15号住居跡 (2)	241
写真図版 4	第 1 号住居跡 (2)	220	写真図版26	第15号住居跡 (3)	242
写真図版 5	第 2 号住居跡	221	写真図版27	第16号住居跡	243
写真図版 6	第 3 号住居跡	222	写真図版28	第17号住居跡	244
写真図版 7	第 4 号住居跡	223	写真図版29	第18号住居跡	245
写真図版 8	第 5 号住居跡	224	写真図版30	第19号住居跡 (1)	246
写真図版 9	第 6 号住居跡	225	写真図版31	第19号住居跡 (2)	247
写真図版10	第 7 号住居跡 (1)	226	写真図版32	第20号住居跡	248
写真図版11	第 7 号住居跡 (2)	227	写真図版33	第21号住居跡 (1)	249
写真図版12	第 8 号住居跡 (1)	228	写真図版34	第21号住居跡 (2)	250
写真図版13	第 8 号住居跡 (2)	229	写真図版35	第22号住居跡 (1)	251
写真図版14	第 9 号住居跡	230	写真図版36	第22号住居跡 (2)	252
写真図版15	第10号住居跡 (1)	231	写真図版37	第22号住居跡 (3)	253
写真図版16	第10号住居跡 (2)	232	写真図版38	第23号住居跡 (1)	254
写真図版17	第11号住居跡 (1)	233	写真図版39	第23号住居跡 (2)	255
写真図版18	第11号住居跡 (2)	234	写真図版40	第24号住居跡 (1)	256
写真図版19	第11号住居跡 (3)	235	写真図版41	第24号住居跡 (2)	257
写真図版20	第12号住居跡	236	写真図版42	第 1 号住居状遺構	258
写真図版21	第13号住居跡 (1)	237	写真図版43	第 1 ~ 4 号土坑	259
写真図版22	第13号住居跡 (2)	238	写真図版44	第 5 ~ 8 号土坑	260

写真図版45	第9～12号土坑	261	写真図版 74	遺構内出土遺物 (1)	290
写真図版46	第13～16号土坑	262	写真図版 75	遺構内出土遺物 (2)	291
写真図版47	第17～20号土坑	263	写真図版 76	遺構内出土遺物 (3)	292
写真図版48	第21～24号土坑	264	写真図版 77	遺構内出土遺物 (4)	293
写真図版49	第25～28号土坑	265	写真図版 78	遺構内出土遺物 (5)	294
写真図版50	第29～32号土坑	266	写真図版 79	遺構内出土遺物 (6)	295
写真図版51	第33～36号土坑	267	写真図版 80	遺構内出土遺物 (7)	296
写真図版52	第37～40号土坑 (1)	268	写真図版 81	遺構内出土遺物 (8)	297
写真図版53	第40 (2) ～43号土坑	269	写真図版 82	遺構内出土遺物 (9)	298
写真図版54	第44～46号土坑	270	写真図版 83	遺構内出土遺物 (10)	299
写真図版55	第47～51号土坑	271	写真図版 84	遺構内出土遺物 (11)	300
写真図版56	第1～4号陥し穴状遺構	272	写真図版 85	遺構内出土遺物 (12)	301
写真図版57	第5～7号陥し穴状遺構	273	写真図版 86	遺構外出土土器 (1) ～VI層～	302
写真図版58	第1・2号石囲炉、第1・2号焼土	274	写真図版 87	遺構外出土土器 (2) ～VI層～	303
写真図版59	第3～6号焼土	275	写真図版 88	遺構外出土土器 (3) ～VI層～	304
写真図版60	第7～9号焼土	276	写真図版 89	遺構外出土土器 (4) ～VI層～	305
写真図版61	第10～13号焼土	277	写真図版 90	遺構外出土土器 (5) ～IV a層～	306
写真図版62	第14～17号焼土	278	写真図版 91	遺構外出土土器 (6) ～IV a層～	307
写真図版63	第18～21号焼土	279	写真図版 92	遺構外出土土器 (7)	308
写真図版64	第22・23号焼土 第1・2号溝状遺構	280	写真図版 93	遺構外出土土器 (8)	309
写真図版65	第3～6号溝状遺構	281	写真図版 94	遺構外出土土器 (9)	310
写真図版66	第7号溝状遺構 (1)	282	写真図版 95	遺構外出土土器 (1) ～VI層～	311
写真図版67	第7 (2) ～9号溝状遺構	283	写真図版 96	遺構外出土土器 (2) ～VI層～	312
写真図版68	第10・11号溝状遺構	284	写真図版 97	遺構外出土土器 (3) ～IV a層～	313
写真図版69	第12～14号溝状遺構	285	写真図版 98	遺構外出土土器 (4)	314
写真図版70	第15～17号溝状遺構 (1)	286	写真図版 99	遺構外出土土器 (5)	315
写真図版71	第17号溝状遺構(2)、畠状遺構(1)	287	写真図版100	遺構外出土土器 (6) ・石製品	316
写真図版72	畠状遺構 (2)、井戸跡	288	写真図版101	遺構外出土土製品	317
写真図版73	早期遺物包含層	289	写真図版102	遺構外出土貨幣	318

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	9	第5表	金属製品観察表	165
第2表	土器観察表	155	第6表	ガラス製品観察表	165
第3表	石器・石製品観察表	162	第7表	古代の住居跡一覧表	168
第4表	土製品観察表	165			

I. 調査に至る経過

米沢遺跡は「東北新幹線盛岡・八戸間の建設工事」の施行に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

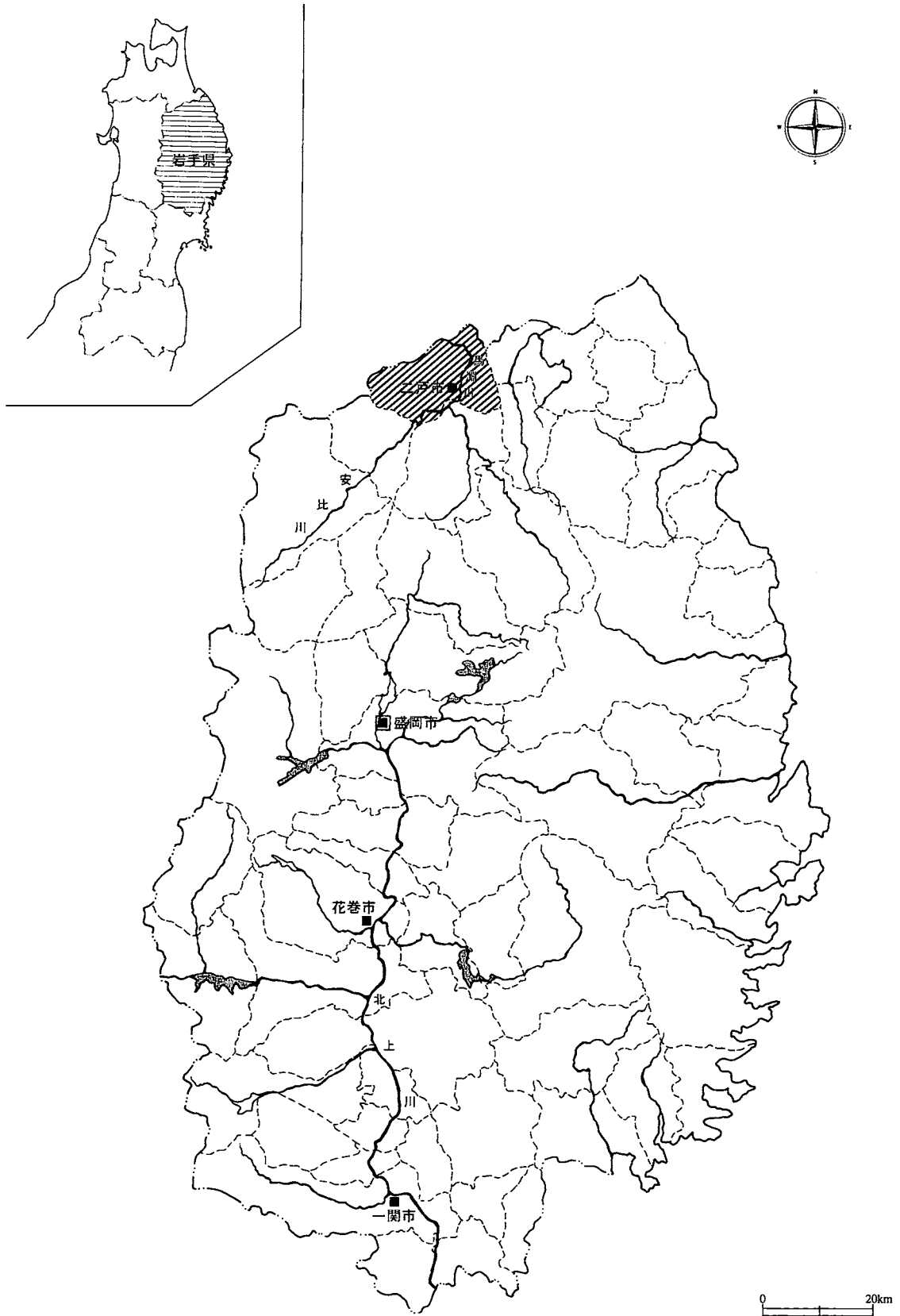
東北新幹線は昭和48年盛岡・青森間の整備計画が策定され、平成3年に盛岡・沼宮内間及び八戸・青森間は新幹線鉄道直通線（ミニ新幹線）とし、沼宮内・八戸間は標準軌新線（フル規格新幹線）として実施計画が認可され、同年9月に盛岡・青森間の建設工事に着手した。その後、平成7年に盛岡・沼宮内間がフル規格新幹線に変更になり、現在、盛岡・八戸間96.6kmの新幹線工事が本格的に進められている。

また、八戸・新青森間については、平成10年3月に標準軌新幹線（フル規格新幹線）として実施計画の認可を受けて同年7月に八甲田トンネル出口の工事に着手している。盛岡・八戸間の埋蔵文化財については、岩手県教育委員会が平成8年度に分布調査を実施し、米沢遺跡も確認されている。その結果に基づいて岩手県教育委員会は日本鉄道建設公団盛岡支社に対し、事業について照会した。回答を受けた教育委員会は日本鉄道建設公団と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センターの受諾事業とすることとした。

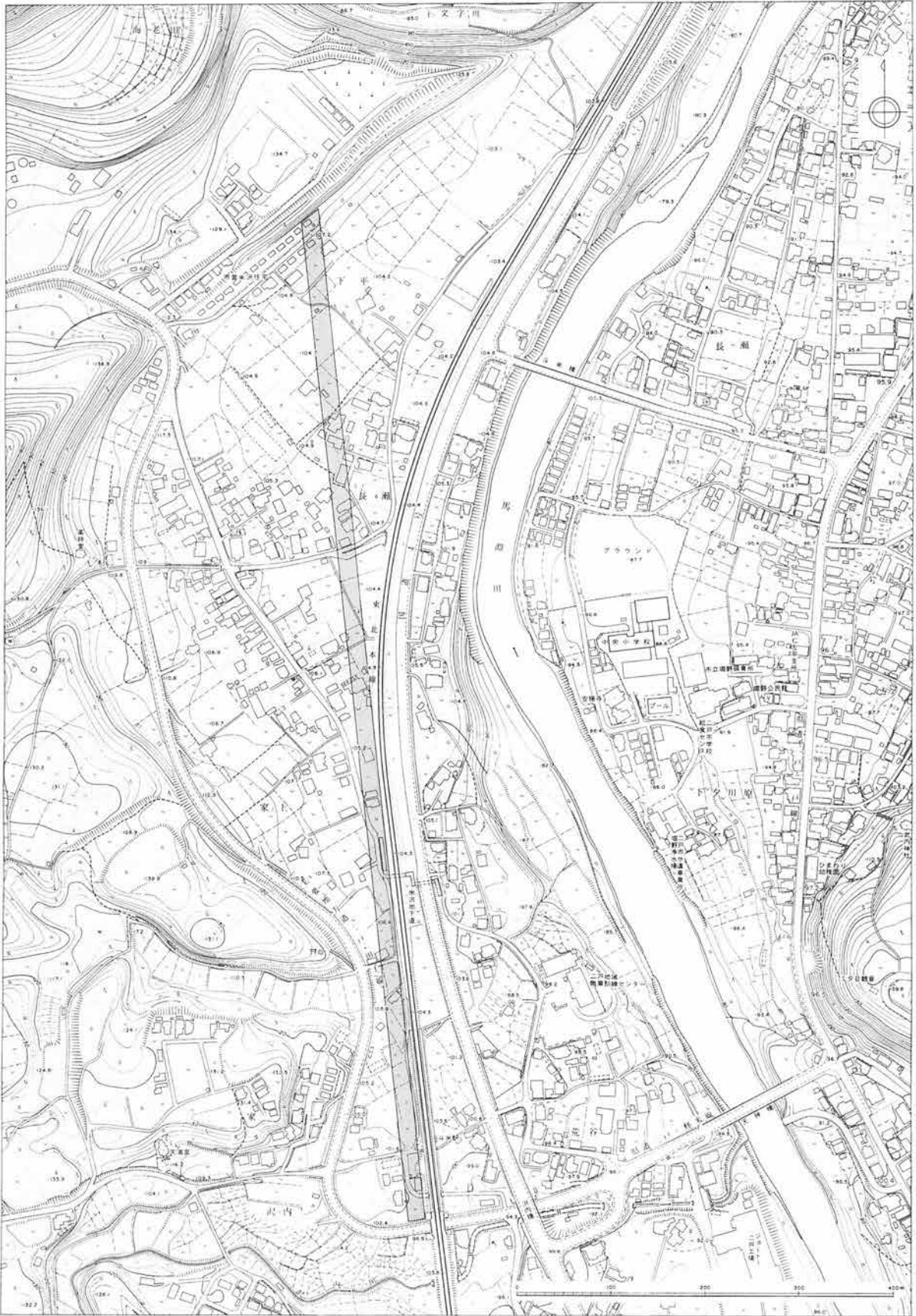
これにより、岩手県教育委員会は平成11年度事業について、平成11年25日付け「教文第1110号」により財団法人岩手県文化振興事業団に通知した。

これを受けた財団法人岩手県文化振興事業団は米沢遺跡について同年4月1日付けで委託契約を締結し、4月15日から発掘調査に着手する予定であるが、同遺跡は規模が大きい関係で平成10年6月25日付けで10年度分の委託契約を締結し、一部発掘調査を行っており11年度、12年度も継続して実施するものである。

なお、発掘調査は12年度で完了し、平成13年度に報告書を刊行する予定である。



第1図 岩手県全図及び二戸市位置図



第2図 周辺の地形図

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

二戸市は岩手県最北部、馬淵川の河岸段丘上に発達した内陸の都市である。隣接する町村は、青森県三戸郡名川町・三戸町・田子町、岩手県浄法寺町・軽米町・九戸村・一戸町である。面積は238.17km²、人口約28,000人の市政都市である（1972年施行）。

米沢遺跡は、北緯40度17分04秒・東経141度17分38秒付近、二戸市米沢字長瀬24-2ほかに南北に細長く伸びて位置し、東日本旅客鉄道東北本線斗米駅から北に約100m、馬淵川から西に約300m、二戸市役所の北西約2.1kmの地点にある。遺跡の標高は104m～106m、馬淵川との比高は約25mを測る。

この米沢遺跡は、国土地理院発行の5万分の1地形図「一戸」NK-54-18-11及び2万5千分の1地形図「陸奥福岡」NK-54-18-11の図幅中に含まれる。

2. 遺跡周辺の地形と地質

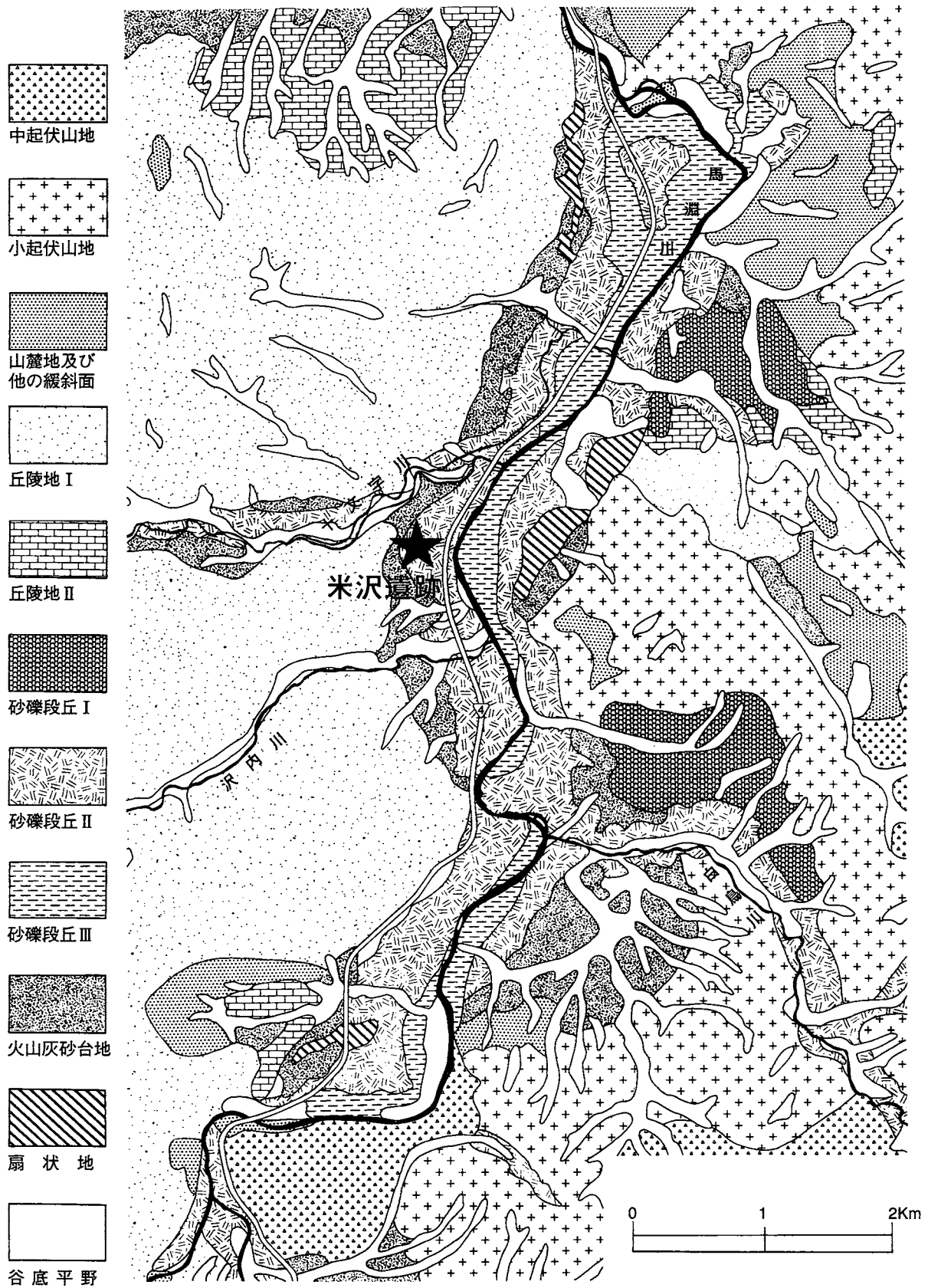
本遺跡の所在する二戸市は、青森県との県境に東を北上山地に、西を奥羽山脈に挟まれる形で位置し、中心を馬淵川が北流している。馬淵川は北上山地北部（葛巻町多々良山付近）を源流とし、沢内川・安比川・十文字川等の支流を統合しながら青森県八戸湾に流れ込んでいる。緩やかに曲流するこの馬淵川によって、市内の石切所地区から金田一地区にかけて、数段の段丘と狭い沖積平野が形成されている。段丘群は大池・中川他（1966）、松山（1981）らの研究によって、高位から仁左平・福岡・長嶺・米沢・堀野・中曽根といった段丘に区分されている。このような地形の形成には馬淵川だけではなく、沢内川も影響を与えたものと考えられる。

段丘上には十和田火山群を起源とする噴出物が堆積しており、間欠的に堆積した火山灰は地形面や地層を対比するための鍵層となっている。標高140m～200mの仁左平段丘上は、チャート・頁岩からなる礫層の上に高館火山灰以上の火山灰をのせている。続く標高140m～100mの福岡段丘は、火山灰流凝灰岩台地の性格を持ち、八戸火山灰（12,700±260BP）以上の火山灰が堆積する。

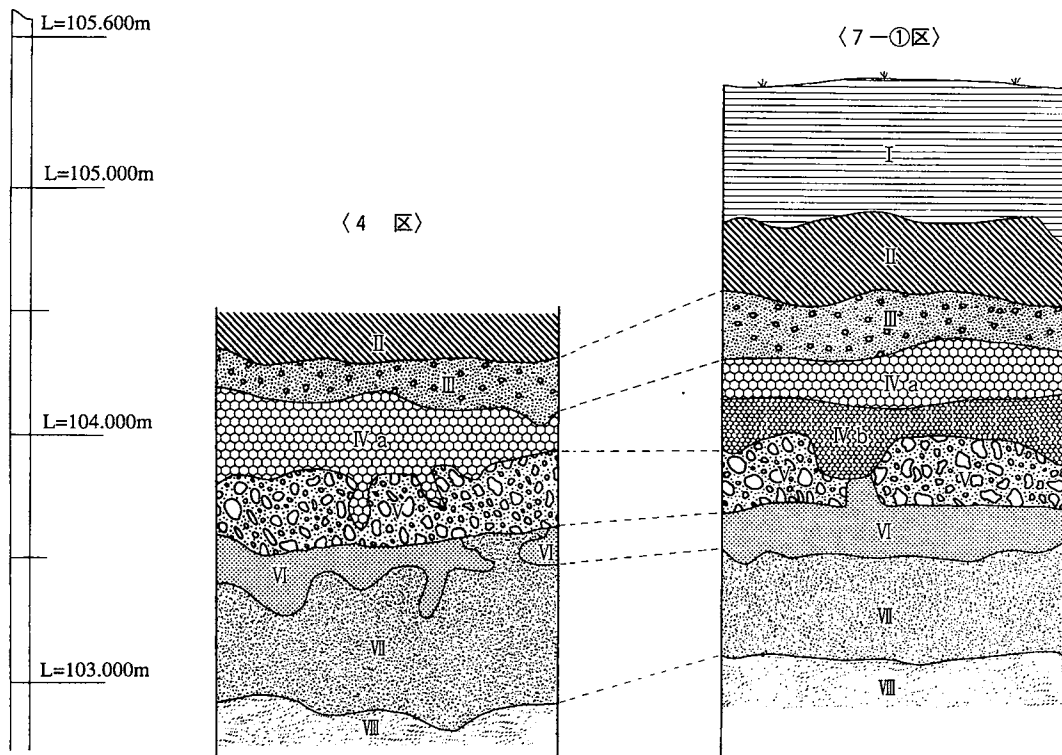
米沢段丘は松山によって馬淵川東岸の中町段丘と西岸の堀野段丘に区分される。標高は100m～110m、沖積段丘の古期面に相当し南部浮石（8,600±250BP）以上の火山灰が堆積する。さらに低位の中曽根段丘は、中曽根浮石（4,400±140BP）の堆積が見られるが、南部浮石は乗せない段丘であるとされている（松山）。

米沢遺跡は、このうち米沢段丘上、馬淵川西岸に立地しており、西側には奥羽山脈に続く標高300m前後の山々が、東側には馬淵川を挟んで北上山地に連なる折爪岳がせまる。遺跡の南方約350m地点には沢内川が流れ、約400m東流して遺跡の東方を流れる馬淵川に合流する。

遺跡の現況は、宅地・畑地である。周辺は国道4号線のバイパスが通り、郊外型店舗の進出等開発が進みつつある地域である。



第3図 地形分類図



第4図 基本土層

3. 基本層序

調査区内では、基本的には第4図に示すような層序が観察される。本遺跡の基本層序は以下のように大別される。

- 第Ⅰ層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 現表土及び耕作土。草木根を含む。
- 第Ⅱ層 7.5YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 10YR6/3 におい黄橙色の十和田a降下火山灰がブロック状に混入している。古代の遺構確認面である。
- 第Ⅲ層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 中礫浮石が7%混入している。
- 第Ⅳa層 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや密 南部浮石（径3mm～5mm）が5%混入している。縄文時代前期の遺構確認面である。
- 第Ⅳb層 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや密 南部浮石（径5mm～10mm）が10%混入している。
- 第Ⅴ層 7.5YR5/6 明褐色の南部浮石層（ゴロタ）
- 第Ⅵ層 10YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 南部浮石 1%を含む。八戸火山灰漸移層である。縄文時代早期の遺構確認面である。
- 第Ⅶ層 10YR5/6 黄褐色土 粘性・やや強 しまり・密 八戸火山灰層である。
- 第Ⅷ層 10YR5/3 におい黄橙色の砂質土 粘性・弱 しまり・やや密

4・周辺の遺跡

二戸地区の遺跡が初めて調査されたのは、大正期のことである（大正13年 小田島祿郎）。以後、縄文時代から中近世まで、多数の遺跡が確認されている。多くの遺跡からは縄文土器が出土しており、日本中世の締め括りとも言える、九戸政実の乱の舞台となった土地でもあることから、中世のものと思われる城館跡も多い。これらの遺跡は、馬淵川とその支流の流域、特に馬淵川西岸に多く分布しており、段丘面では米沢段丘と堀野・福岡段丘に多く立地している。遺跡の時代や時期は、複合している場合が多く、そのほとんどは縄文時代と古代の複合遺跡である。

上位の福岡段丘上には、縄文・弥生・中世の複合遺跡の火行塚遺跡、縄文・古代・中世の複合遺跡である上里遺跡、中世の城館跡である佐々木館址等の遺跡が分布している。国の史跡指定を受けた中世の城館跡、九戸城跡はこの段丘上の馬淵川東岸に位置している。九戸城は前述した九戸政実の本拠地であり、現在も二戸市による調査が続いている。

本遺跡の位置する米沢段丘上には、長瀬遺跡群・家の上遺跡・荒谷遺跡・荒谷B遺跡・上村遺跡・下村遺跡・沢内遺跡・上田面遺跡など縄文時代と古代・中世の複合遺跡が多く分布している。長瀬A～Dの長瀬遺跡群からは、縄文から中世にかけての住居跡が出土している。長瀬B遺跡では古代の集落跡の下から、縄文時代早期の住居跡が発見された。この長瀬遺跡群は本遺跡とJ R東日本東北本線の線路を挟む形で隣接しており、本遺跡との関連も考えられる。

馬淵川対岸の堀野段丘上に位置する堀野遺跡は、縄文・古代の複合遺跡である。縄文時代の配石遺構・古代の集落跡・古墳などが見つかり、住居跡は復元され展示されている。また出土遺物の大半を占める土師器は、県南部や北上川流域のものとは異なった形式を持ち、県北部でも古い時代の土師器であるとされている。

この地域は、昭和50年代から国道4号線のバイパス建設や県道の改修工事、東北新幹線盛岡八戸間建設工事等、大規模な土木工事が続いている。それに伴って緊急の発掘調査も多く、二戸市も遺跡の調査・保護に力を注いでいる。

《参考・引用文献》

二戸市教育委員会（1978）：『中曾根遺跡発掘調査報告書』

二戸市教育委員会（1981）：『中曾根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』「第Ⅱ章 自然的環境」（松山 力）

村井貞充（1975）：『九戸の地学』

中川久夫（1981）：「第四系」北上川流域地質説明書

（財）岩手県文化振興事業団（1978）：『二戸市沢内B遺跡』岩埋文報告書第7集

（財）岩手県文化振興事業団（1982）：『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第35集

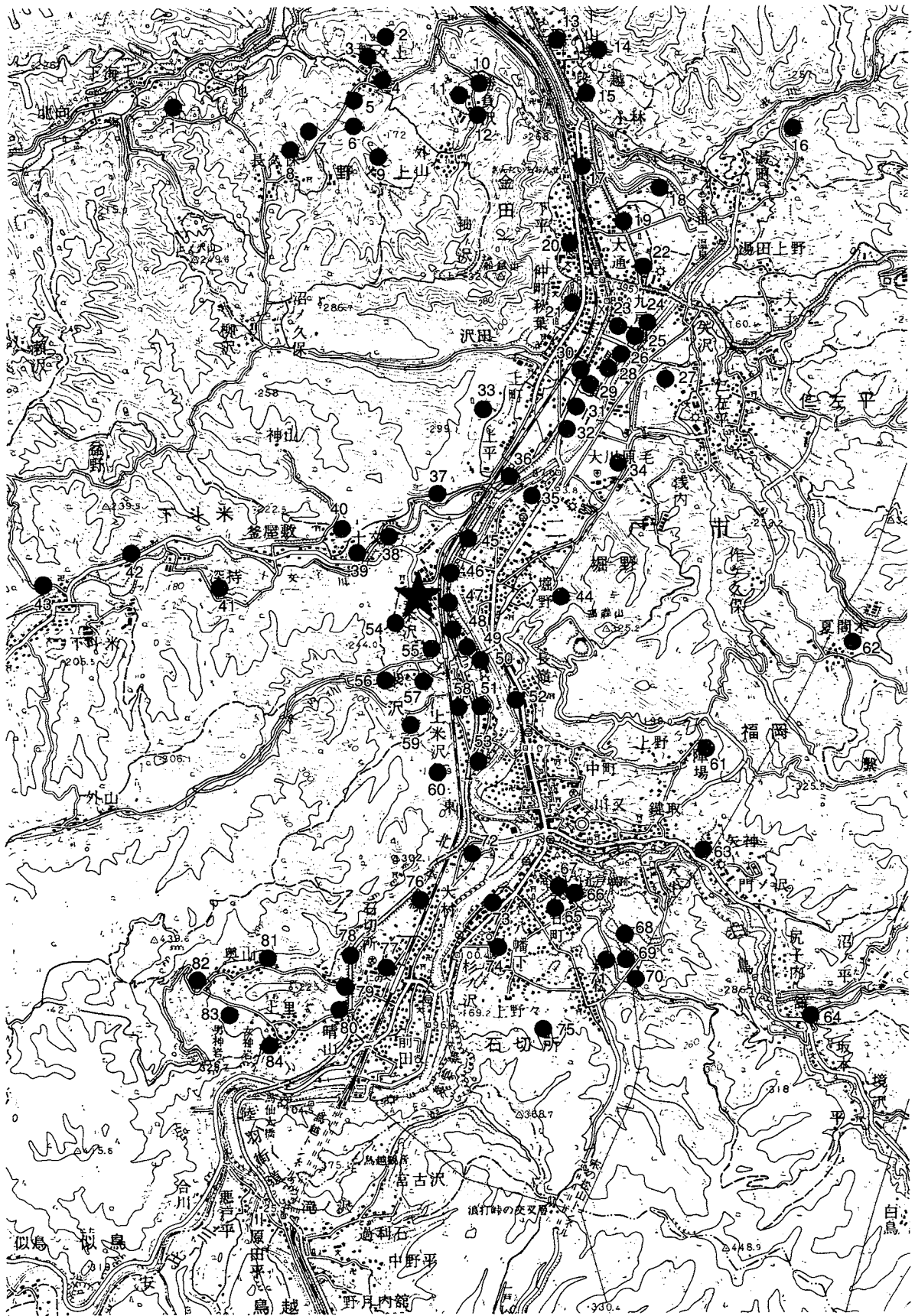
（財）岩手県文化振興事業団（1983）：『長瀬C遺跡第2次発掘調査報告書』岩埋文報告書第51集

（財）岩手県文化振興事業団（1983）：『荒谷A遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第57集

（財）岩手県文化振興事業団（1985）：『岩手の遺跡』

（財）岩手県文化振興事業団（1988）：『米沢遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第132集

（財）岩手県文化振興事業団（2000）：『上台遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第334集



第5図 遺跡位置及び周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代
1	海上館	城館跡	堀切	中世
2	野々上Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
3	出張	集落跡	土師器	奈良・平安
4	野々上館	城館跡	堀切	奈良・平安
5	野々上Ⅲ	散布地	縄文土器	縄文
6	仏畑	散布地	縄文土器	縄文
7	林向	散布地	縄文土器	縄文
8	上の沢Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文
9	上の沢Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
10	勝負沢Ⅰ	集落跡	土師器	奈良・平安
11	勝負沢Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
12	勝負沢Ⅲ	散布地	縄文土器	縄文
13	下山井	散布地	縄文土器	縄文
14	下山井館	城館跡		中世
15	段ノ越	散布地	縄文土器	縄文
16	天狗	散布地	縄文土器	縄文
17	駒焼場	集落跡	環壕集落、鎬矢	平安
18	大釜	散布地	縄文土器(中期)	縄文
19	馬場	集落跡	土師器	奈良
20	秋葉	散布地	縄文土器	縄文
21	四戸城(金田一城)	城館跡	空堀、平場、土塁	中世末~近世
22	沖	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
23	八ッ長Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
24	八ッ長Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
25	八ッ長Ⅲ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
26	八ッ長Ⅳ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
27	芦花	散布地	縄文土器	縄文
28	荒田Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
29	荒田Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
30	荒田Ⅲ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
31	荒田Ⅳ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
32	上田面Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
33	上町	散布地	縄文土器	縄文
34	大川原毛	散布地	縄文土器	縄文
35	堀野	集落跡・祭祀跡	古墳、麻手刀、竪穴住居、配石	縄文・古代
36	上田面	集落跡	方形周溝墓、住居跡、土師器、鉄製品	弥生・古代
37	海老田	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
38	細越	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
39	釜屋敷	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
40	十字字	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
41	上野平	集落跡	土師器	奈良・平安
42	米田平	散布地	縄文土器	縄文
43	下斗米館(下館)	城館跡	空堀、平場	中世
44	堀野館(小四郎館)	城館跡	空堀、平場、土師器	中世
45	長瀬D			
46	長瀬C	集落跡	縄文土器、土師器	
47	長瀬B	集落跡	縄文土器、土師器	縄文・古代
48	長瀬A	集落跡	縄文土器	縄文・古代
49	家ノ上	集落跡	縄文土器	縄文
50	荒谷B	集落跡	縄文土器	縄文
51	荒谷A	集落跡	縄文土器	縄文
52	長嶺	散布地	縄文土器	縄文
53	上村			
54	佐々木館(稲村館)	散布地・城館跡	縄文土器、土師器、堀	中世
55	沢内B	集落跡		縄文
56	上平Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
57	沢内A			
58	下村	集落跡	配石、住居跡	縄文・古代
59	上平Ⅲ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
60	上平Ⅳ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
61	横山	散布地	縄文土器	縄文
62	夏間木	散布地	注口土器	縄文
63	矢神			
64	坂本館(白鳥館)	城館跡	土師器、塀、平場	古代・中世
65	在府小路	散布地・城館跡	縄文土器、環跡、陶磁器	縄文・中近世
66	三ノ丸	城館跡	土塁	中世末~近世
67	九戸城(白鳥城、福岡城)	城館跡	石垣、堀跡、石類、枘形	中近世
68	上穴牛	散布地	縄文土器、土師器	縄文・奈良・平安
69	天神下Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・奈良・平安
70	天神下Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・奈良・平安
71	柿木平	散布地	縄文土器、土師器	縄文・奈良・平安
72	中曾根	集落跡	住居跡、円形周溝、土墳群	縄文・古代・中世
73	橋場	城館跡	縄文岩偶(晩期)、土塁(既破壊)	縄文・中世
74	八幡下	散布地	縄文土器	縄文
75	村松館	城館跡		中世
76	大村	散布地	縄文土器	縄文
77	森合	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
78	火行塚	集落跡	住居跡、弥生包含層、弥生土器、玉類、土師器	縄文・古代・中世
79	石切所館	城館跡	平場、空堀、板碑	中世
80	上里	集落跡・城館跡	大型住宅、フラスコ土墳群、堀跡、人骨、獣骨、土製品	縄文・中世
81	横長根	散布地	縄文土器	縄文
82	土川Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文
83	土川Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代
84	蒼前館	城館跡	平場、空堀	中世
★	米沢	集落跡	縄文土器、土師器	縄文・古代

Ⅲ. 調査の方法と室内整理

1. 野外調査の方法

(1) 調査区の設定

調査区の設定は、調査区が北から南方向に長く狭いため便宜的に調査区を縦断するように基準点1と2を設けて基準線とし、基準点1からこれと平行及び直行する線を5m間隔で引き、5×5mの方眼とした。実際には直線の交点に杭を打設して区割りを行った。

グリッドは起点を南西に置き、100×100mの大区画と、大区画をさらに5×5mの間隔で20等分した小区画に細分している。大区画は起点から南にアルファベットの大文字F～Q、東にローマ数字のⅡ～Ⅳを、小区画は北から南にアルファベットの小文字a～t、西から東へ算用数字1～20を付している。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせでLⅢa1、MⅢb2というように呼称している。基準点1・2及び補点1～8の成果値は以下のとおりである。

基準点1	X=31,670.000	Y=39,170.000	H=106.987
基準点2	X=31,690.000	Y=39,170.000	H=106.499
補点1	X=31,480.000	Y=39,190.000	H=102.609
補点2	X=31,500.000	Y=39,190.000	H=102.340
補点3	X=31,560.000	Y=39,180.000	H=104.589
補点4	X=31,580.000	Y=39,180.000	H=105.086
補点5	X=31,840.000	Y=39,150.000	H=105.582
補点6	X=31,860.000	Y=39,150.000	H=105.620
補点7	X=32,040.000	Y=39,130.000	H=104.857
補点8	X=32,060.000	Y=39,130.000	H=104.840

(2) 粗掘・遺構検出

調査はまず雑物の除去後に、表土の厚さや遺構の有無、遺物の出土状況を確認する目的で調査区全体に2m幅のトレンチを適宜設定した。その結果、I層からの遺物・遺構は確認されなかったため重機でI層を除去した。その後、人力によってII層以下を掘り下げた。

遺構の検出は、II層以下で行った。

(3) 遺構の命名

検出された遺構には、SI01・SK02・SN03などと検出順に遺構名を付しているが、室内整理の中で再吟味し、一部については名称を変更した。なお、調査は3年にわたって行われたが、遺構番号は通し番号とした。

遺構の種類	検出時の略号	室内整理によって変更した名称	掲載した遺跡略号
堅穴住居跡・住居状遺構	SI	第〇〇号住居跡・第〇〇号住居状遺構	SI
土坑	SK	第〇〇号土坑	SK
陥し穴状遺構	SKT	第〇〇号陥し穴状遺構	SKT
柱穴状ピット	P	第〇〇号柱穴状ピット	P
石囲炉・焼土	SN	第〇〇号石囲炉・第〇〇号焼土	SN

溝状遺構	S D	第〇〇号溝状遺構	S D
畠状遺構	畠状遺構	畠状遺構	
井戸跡	井戸跡	井戸跡	

新旧名称の対照表は以下のとおりである。

新遺構名	旧遺構名	現場登録	新遺構名	旧遺構名	現場登録	新遺構名	旧遺構名	現場登録
第1号住居跡	第20号住居跡	S I 20	第6号土坑	第53号土坑	S K 53	第36号土坑	第15号土坑	S K 15
第2号住居跡	第3号住居跡	S I 03	第7号土坑	第9号土坑	S K 09	第37号土坑	第16号土坑	S K 16
第3号住居跡	第5号住居跡	S I 05	第8号土坑	第10号土坑	S K 10	第38号土坑	第17号土坑	S K 17
第4号住居跡	第1号住居跡	S I 01	第9号土坑	第11号土坑	S K 11	第39号土坑	第21号土坑	S K 21
第5号住居跡	第2号住居跡	S I 02	第10号土坑	第19号土坑	S K 19	第40号土坑	第27号土坑	S K 27
第6号住居跡	第4号住居跡	S I 04	第11号土坑	第20号土坑	S K 20	第41号土坑	第35号土坑	S K 35
第7号住居跡	第6号住居跡	S I 06	第12号土坑	第25号土坑	S K 25	第42号土坑	第36号土坑	S K 36
第8号住居跡	第10号住居跡	S I 10	第13号土坑	第28号土坑	S K 28	第43号土坑	第45号土坑	S K 45
第9号住居跡	第11号住居跡	S I 11	第14号土坑	第29号土坑	S K 29	第44号土坑	第34号土坑	S K 34
第10号住居跡	第12号住居跡	S I 12	第15号土坑	第30号土坑	S K 30	第45号土坑	第48号土坑	S K 48
第11号住居跡	第14号住居跡	S I 14	第16号土坑	第31号土坑	S K 31	第46号土坑	第49号土坑	S K 49
第12号住居跡	第16号住居跡	S I 16	第17号土坑	第41号土坑	S K 41	第47号土坑	第22号土坑	S K 22
第13号住居跡	第18号住居跡	S I 18	第18号土坑	第42号土坑	S K 42	第48号土坑	第23号土坑	S K 23
第14号住居跡	第19号住居跡	S I 19	第19号土坑	第39号土坑	S K 39	第49号土坑	第24号土坑	S K 24
第15号住居跡	第21号住居跡	S I 21	第20号土坑	第32号土坑	S K 32	第50号土坑	第37号土坑	S K 37
第16号住居跡	第22号住居跡	S I 22	第21号土坑	第33号土坑	S K 33	第51号土坑	第38号土坑	S K 38
第17号住居跡	第23号住居跡	S I 23	第22号土坑	第40号土坑	S K 40	(抹消)	第18号土坑	S K 18
第18号住居跡	第24号住居跡	S I 24	第23号土坑	第43号土坑	S K 43	(抹消)	第26号土坑	S K 26
第19号住居跡	第25号住居跡	S I 25	第24号土坑	第50号土坑	S K 50	第1号陥し穴状遺構	第1号陥し穴状遺構	S K T 01
第20号住居跡	第7号住居跡	S I 07	第25号土坑	第1号土坑	S K 01	第2号陥し穴状遺構	第2号陥し穴状遺構	S K T 02
第21号住居跡	第8号住居跡	S I 08	第26号土坑	第2号土坑	S K 02	第3号陥し穴状遺構	第3号陥し穴状遺構	S K T 03
第22号住居跡	第9号住居跡	S I 09	第27号土坑	第3号土坑	S K 03	第4号陥し穴状遺構	第4号陥し穴状遺構	S K T 04
第23号住居跡	第15号住居跡	S I 15	第28号土坑	第4号土坑	S K 04	第5号陥し穴状遺構	第5号陥し穴状遺構	S K T 05
第24号住居跡	第17号住居跡	S I 17	第29号土坑	第5号土坑	S K 05	第6号陥し穴状遺構	第6号陥し穴状遺構	S K T 06
第1号住居状遺構	第13号住居跡	S I 13	第30号土坑	第6号土坑	S K 06	第7号陥し穴状遺構	第7号陥し穴状遺構	S K T 07
第1号土坑	第44号土坑	S K 44	第31号土坑	第7号土坑	S K 07	第1号石囲炉	第6号焼土	S N 06
第2号土坑	第46号土坑	S K 46	第32号土坑	第8号土坑	S K 08	第2号石囲炉	第20号焼土	S N 20
第3号土坑	第47号土坑	S K 47	第33号土坑	第12号土坑	S K 12	第1号焼土	第9号焼土	S N 09
第4号土坑	第51号土坑	S K 51	第34号土坑	第13号土坑	S K 13	第2号焼土	第10号焼土	S N 10
第5号土坑	第52号土坑	S K 52	第35号土坑	第14号土坑	S K 14	第3号焼土	第11号焼土	S N 11

第4号焼土	第12号焼土	SN12	第18号焼土	第2号焼土	SN02	第8号溝状遺構	第8号溝状遺構	SD08
第5号焼土	第13号焼土	SN13	第19号土坑	第3号土坑	SN03	第9号溝状遺構	第9号溝状遺構	SD09
第6号焼土	第14号焼土	SN14	第20号土坑	第4号土坑	SN04	第10号溝状遺構	第10号溝状遺構	SD10
第7号焼土	第15号焼土	SN15	第21号土坑	第5号土坑	SN05	第11号溝状遺構	第11号溝状遺構	SD11
第8号焼土	第16号焼土	SN16	第22号土坑	第21号土坑	SN21	第12号溝状遺構	第12号溝状遺構	SD12
第9号焼土	第17号焼土	SN17	第23号土坑	第7号土坑	SN07	第13号溝状遺構	第13号溝状遺構	SD13
第10号焼土	第18号焼土	SN18	(抹消)	第8号土坑	SN08	第14号溝状遺構	第14号溝状遺構	SD14
第11号焼土	第19号焼土	SN19	第1号溝状遺構	第1号溝状遺構	SD01	第15号溝状遺構	第15号溝状遺構	SD15
第12号焼土	第22号焼土	SN22	第2号溝状遺構	第2号溝状遺構	SD02	第16号溝状遺構	第16号溝状遺構	SD16
第13号焼土	第23号焼土	SN23	第3号溝状遺構	第3号溝状遺構	SD03	第17号溝状遺構	第17号溝状遺構	SD17
第14号焼土	第24号焼土	SN24	第4号溝状遺構	第4号溝状遺構	SD04	畠状遺構	畠状遺構	
第15号焼土	第25号焼土	SN25	第5号溝状遺構	第5号溝状遺構	SD05	井戸跡	井戸跡	
第16号焼土	第26号焼土	SN26	第6号溝状遺構	第6号溝状遺構	SD06			
第17号焼土	第1号焼土	SN01	第7号溝状遺構	第7号溝状遺構	SD07			

(4) 遺構の精査と実測

遺構の精査は住居跡は4分法で、土坑は2分法で行い、必要に応じて使い分けた。記録として必要な図面は精査の各段階において行っている。

遺構の実測は簡易遣り方測量で行った。平面図は、グリッド区画線を基準とした1m間隔の水糸を遺構全体に張り、それを測量基準線として実測した。断面図は水平水糸を張ってそれを実測基準線とした。実測図の縮尺は平面図、断面図とも20分の1を原則とした。基本層序の層位はローマ数字、遺構埋土の土層は算用数字で表した。

(5) 遺物の取り上げ

遺物の取り上げにあたってはXYZ座標を測定して分布状況を図面に取り把握に努めたが、調査の進行上遺構内遺物については埋土あるいは埋土上位下位、床面の別で取り上げ、遺外遺物については小グリッド、基本層序で取り上げたものがほとんどである。なお、縄文早期及び前期の遺物については点取りを行ったが、出土層位は早期がVI層、前期がIV a層である。

(6) 写真撮影

野外調査における写真撮影は、35mm判2台(モノクローム・カラーリバーサル1台ずつ)と6×7cm版モノクローム1台を使用し、遺構・遺物の検出状況や出土状況を中心に撮影した。6×7cm版モノクロームについては撮影を省略した遺構もある。他にポラロイドカメラ1台をメモ的に使用している。調査終了直前にはセスナ機による空中写真撮影を行った。

2. 室内整理の方法

(1) 遺物の処理

室内整理は現場で残った遺物の水洗・注記から開始し、接合・復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業・実測・拓本・写真撮影・トレースを行い、遺物図版を作成した。石器類は器種毎に登録し、土器類と同様に進めた。

(2) 遺構図面

野外調査で得られた図面類は、平面図、断面図の点検・標高値の確認等を行い必要に応じて合成した。その後トレース・遺構図版作成の順に進めた。

(3) 図版について

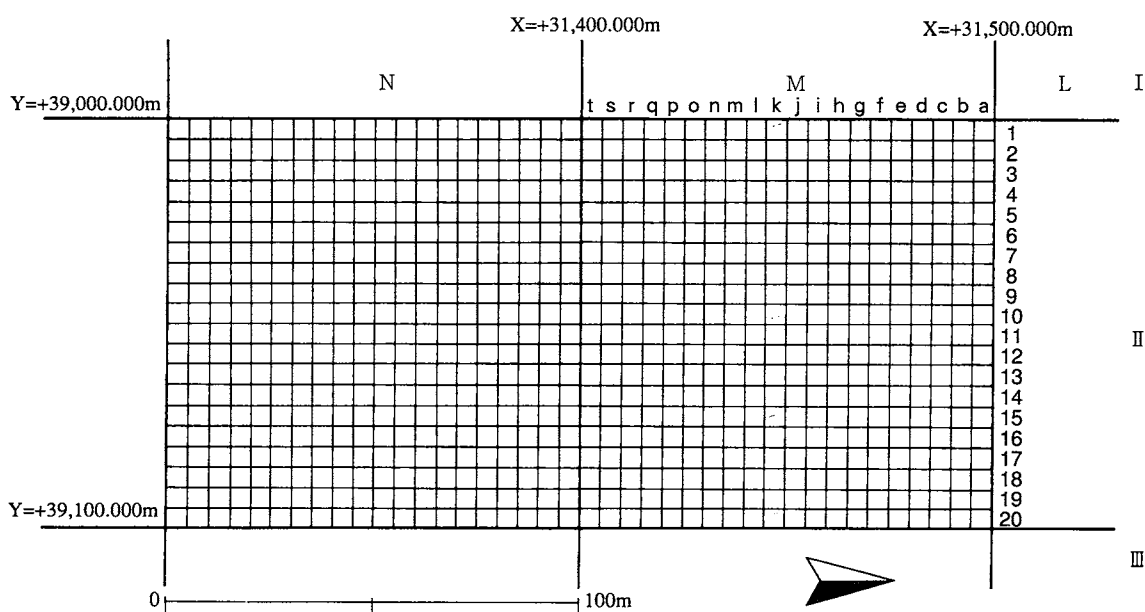
遺構図版は遺構の種類毎に掲載した。縮尺はそれぞれにスケールを付している。方位は座標北を示している。

遺物図版は、本報告書の分類基準によってまとめて掲載した。縮尺は土器実測図が3分の1を基本としているが、遺物により2分の1から5分の1にしてある。拓影図も3分の1を基本としている。剥片石器は2分の1、礫石器・石製品は3分の1である。土製品は2分の1、3分の1、鉄製品は2分の1から3分の1、銭貨は1分の1である。各図版内にはそれぞれスケールを付している。

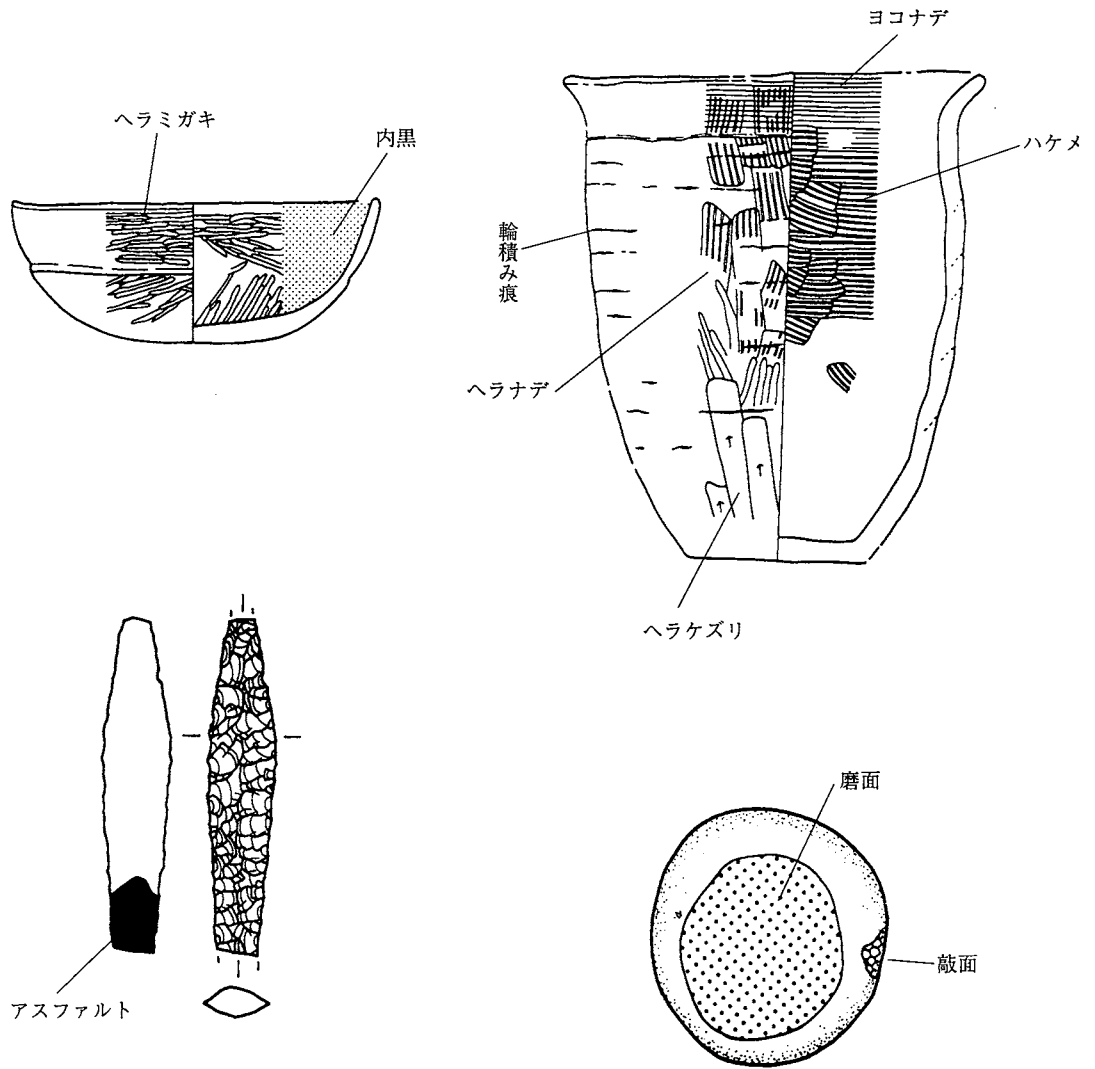
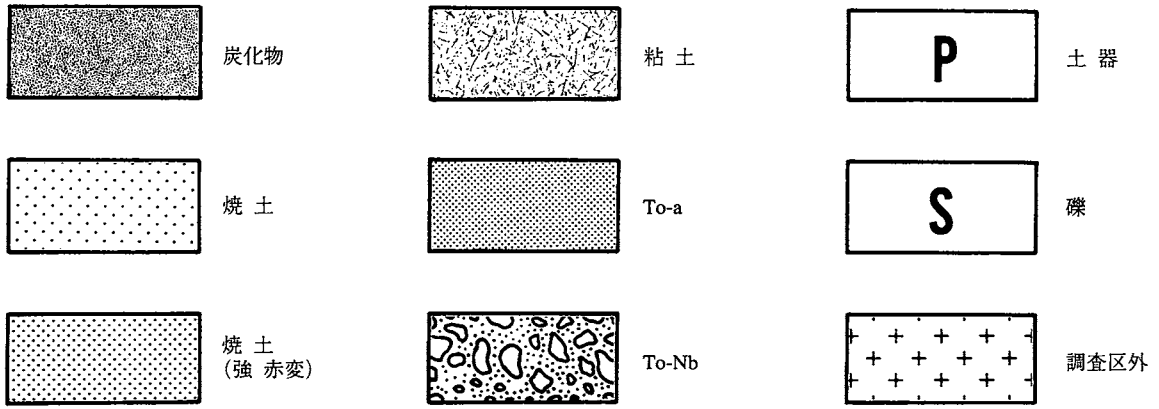
遺構・遺物図版に使用したスクリーン・トーンについては凡例として示してある。

(4) 遺物写真図版について

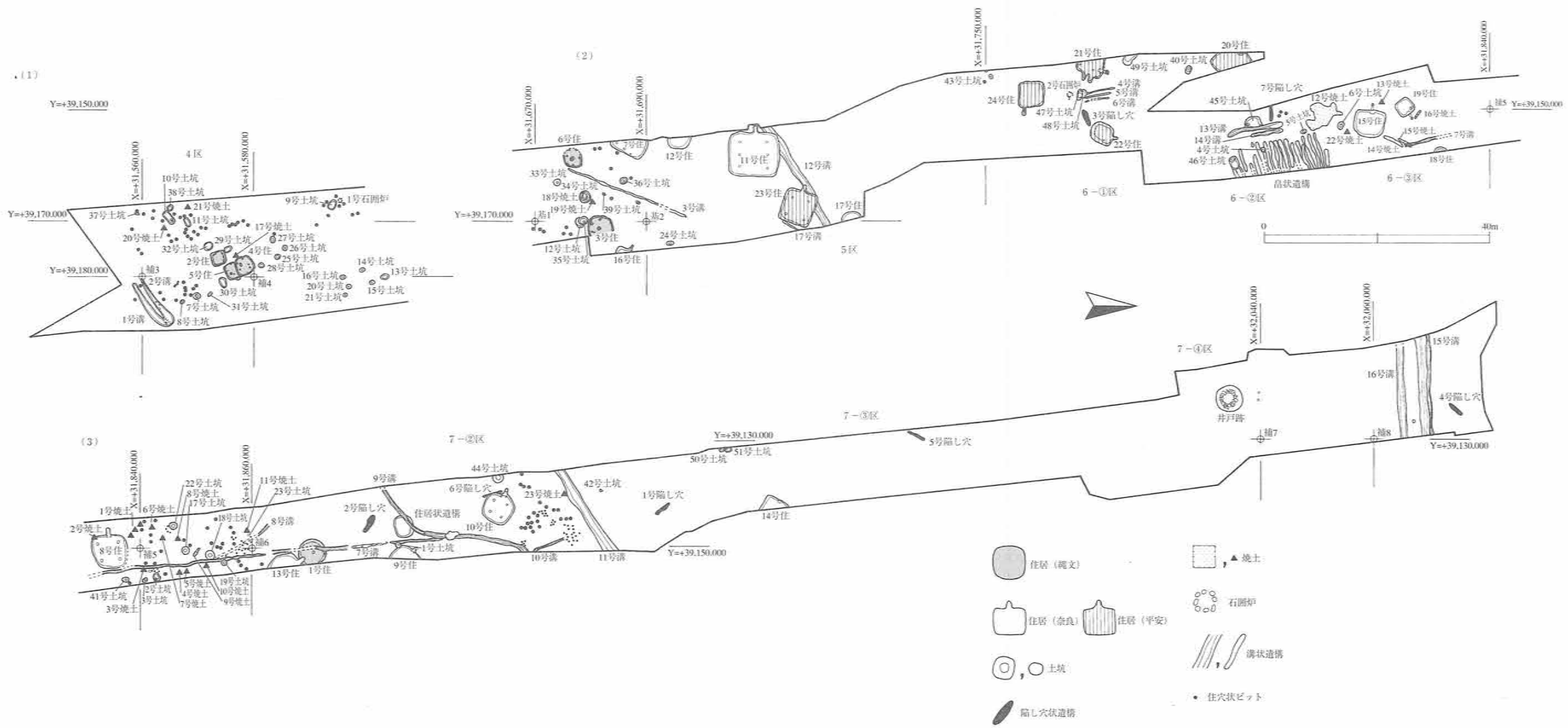
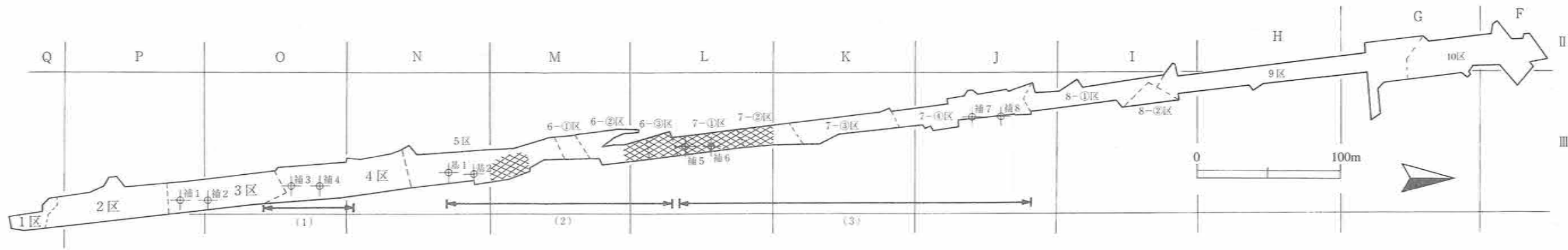
遺物写真図版の縮尺は、基本的に遺物図版に準じた。遺物番号は、遺物図版番号と一致している。



第6図 小グリッド配置図



第7図 実測図凡例



第8図 遺構配置図

IV. 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡・住居状遺構

縄文時代の竪穴住居が6棟、古代の住居跡は18棟、住居状遺構1棟が検出された。重複する遺構も一部見られるが、多くは単独で検出された。

第1号住居跡

遺構（第9図・写真図版3・4）

<位置>調査区中央部7①区の平坦面、グリッドLⅢf11に位置する。

<検出状況>VI a層上面で、南部浮石を多量に含む略円形の広がり確認された。東側の一部は調査区外に延びる。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<規模・平面形>径5.0×5.5m、不整形円形を呈すると推定される。

<床面積>19.6㎡（推定）

<埋土>1層は南部浮石がレンズ状に堆積する。2層は炭化物を含む暗褐色土である。

<壁>VI a、VI b層を壁とし、緩やかに立ち上がる。

北側45cm、西側48cm、南側44cm、東側41cm

<床面>VI b層相当で、ほぼ平坦である。

<柱穴>中央に1基、北側壁上面に2基の計3基検出された。

PP1 径28×26cm 深さ39.6cm PP2 径34×26cm 深さ47.2cm

PP3 径22×25cm 深さ23.9cm

<炉>中央から北西よりにごく弱く赤変した焼土と思われる広がり検出されたが、地床炉であるとの確証は得られない。

遺物（第66図・写真図版74）

床面直上から土器片9点が出土している。1は深鉢の口縁部片で、貝殻腹縁圧痕が施される。2は深鉢の口縁部片で、貝殻腹縁圧痕と刺突文が施される。3は深鉢の体部破片で、貝殻腹縁押し引き文が施される。4～9は深鉢の体部破片で、貝殻腹縁圧痕が施される。7には炭化物が付着する。

時期 検出状況や出土した遺物の特徴から、縄文時代早期中葉と推定される。

第2号住居跡

遺構（第10図・写真図版5）

<位置>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、グリッドOⅢf16に位置する。

<検出状況>Ⅱ層中で、南部浮石を含む黒色土の広がり確認された。

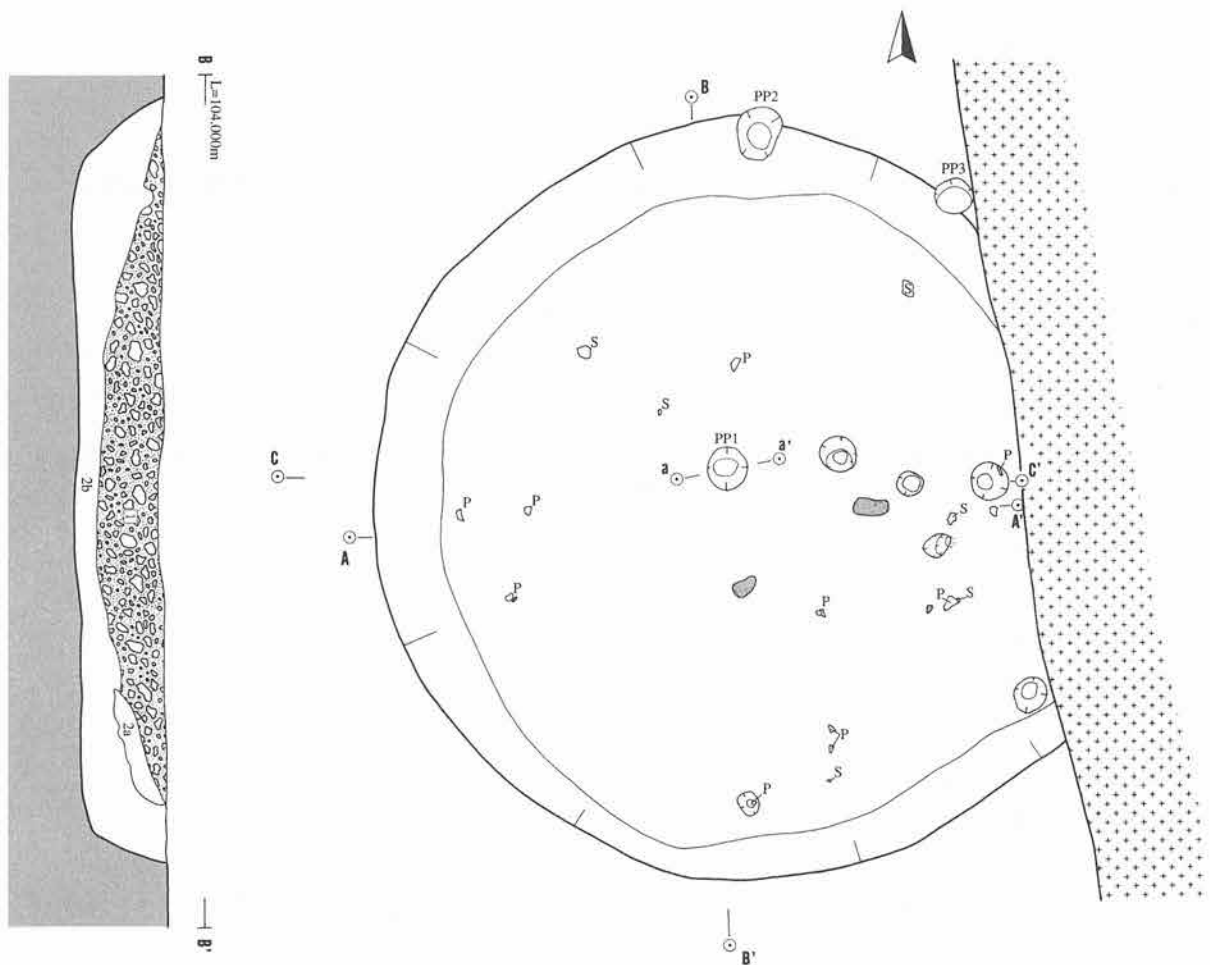
<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<規模・平面形>一辺2.3m、隅丸方形を呈する。

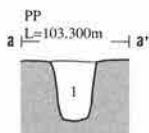
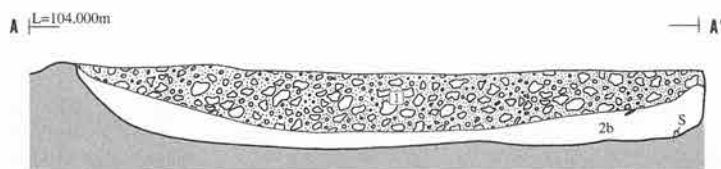
<床面積>5.2㎡

<埋土>南部浮石を含む黒色土主体である。炭化物混入

<壁>Ⅲ層下位・Ⅳa・Ⅳb・Ⅴ層を壁とし、各壁ともやや外傾する。

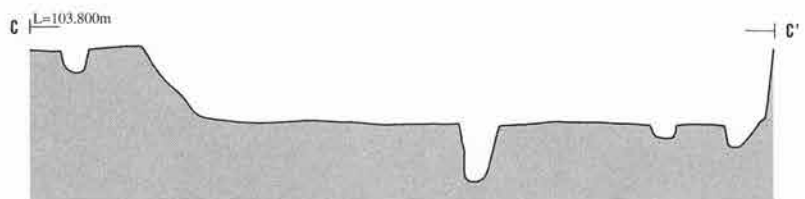


No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	28×26	39.6
PP2	34×26	47.2
PP3	22×25	23.9

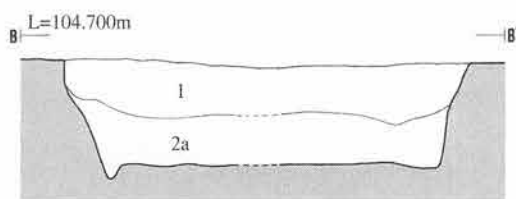
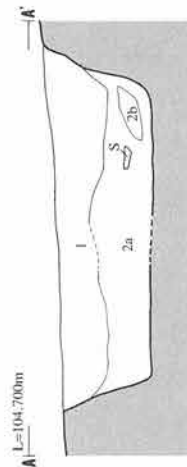
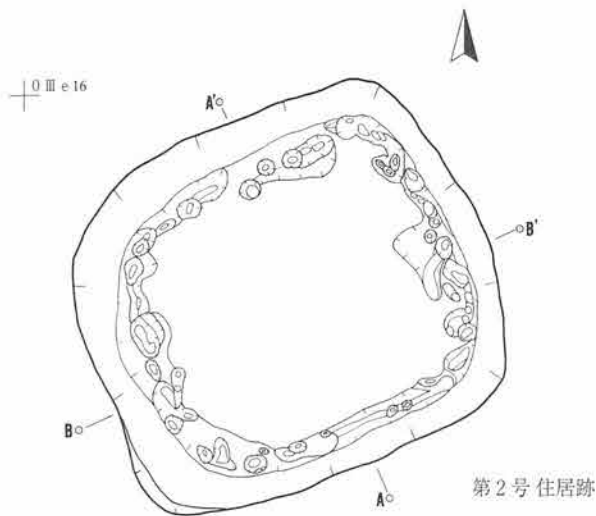


- 1 7.5YR5/8 明褐色 南部浮石 粘性・なし しまり・なし
(上部粒径3~5mm 下部粒径30~50mm)
- 2a 7.5YR4/4 褐色土 粘性・中 しまり・密 To-Nb 粒 (径5~20mm) 7% 混入
- 2b 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・密 7.5YR4/4 褐色土 (粘性・中 しまり・密)
斑状に混入 7.5YR5/8 明褐色 To-Nb 粒 (径1~3mm) 5% 含 炭化物粒微量 (1%) 混入

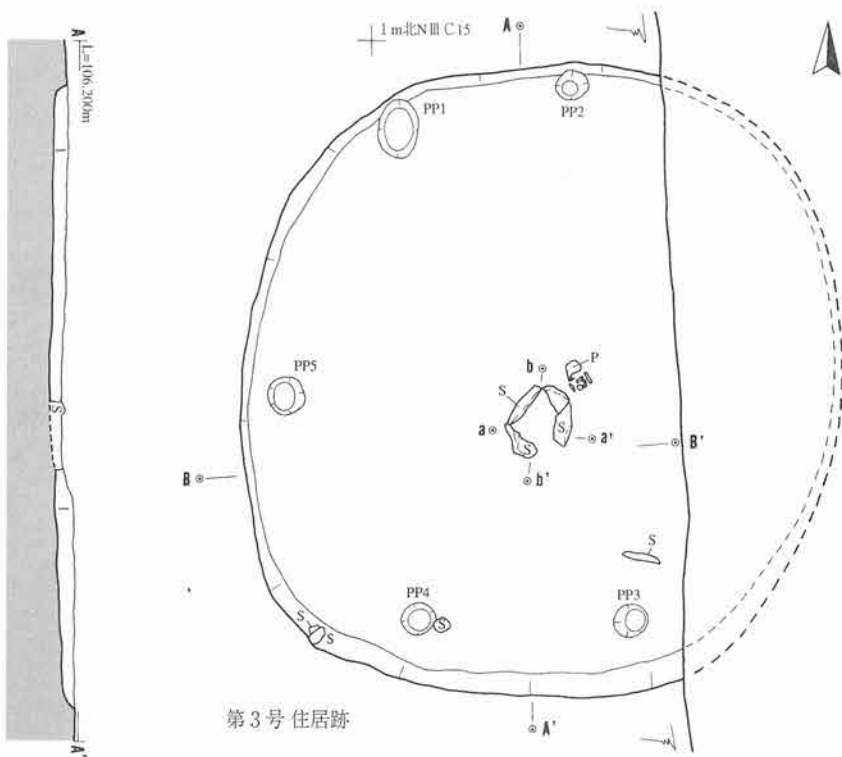
1 7.5YR4/3 褐色土 粘性・中しまり・やや密 7.5YR5/6 明褐色
To-Nb 粒 (径1~2mm) 2% 含む 炭化物粒微量混入



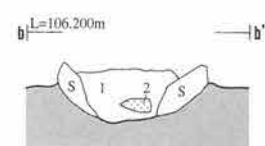
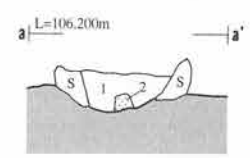
第9図 第1号住居跡



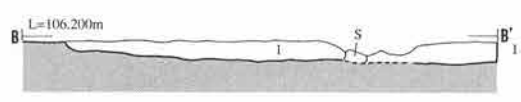
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径5~10mm) 少量混入
 2a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径5~15mm) 多量混入
 2b 7.5YR4/3 褐色土 粘性・やや強 しまり・中



No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	37×28	28.8
PP2	24×20	27.6
PP3	23×22	35.9
PP4	25×21	27.0
PP5	24×23	20.7



1 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-Cu 微量混入焼土粒微量混入
 2 5YR5/6 明赤褐色土 To-Nb 微量混入



1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径2~5mm) 少量混入

第10図 第2号・3号住居跡

北壁68cm、西壁73cm、南壁62cm、東壁70cm

<床面>V層相当で、硬くしまる。

<柱穴>深さ14cm前後の壁溝をめぐらし、さらに小柱穴を掘り込む。

<炉>検出されない。

遺物 出土していない。

時期 検出状況、埋土状況、住居の形状の特徴から、縄文時代前期と推定される。

第3号住居跡

遺構（第10図・写真図版6）

<位置>調査区中央部5区の平坦面、グリッドNⅢd15に位置する。

<検出状況>Ⅳa層上面で、中礫浮石を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。平成10年度は東側は調査区外であったため全容は明らかにならなかった。平成12年度に再調査を行ったが、市道直下にあり工事の際破壊されたものと思われ、住居の東側部分については検出できなかった。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<規模・平面形>径4.1m、略円形を呈すると思われる。

<床面積>推定13.1m²

<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土主体である。

<壁>Ⅳa層を壁とし、緩やかに立ち上がる。北壁8.8cm、西壁9cm、南壁10.1cm

<床面>Ⅳa層相当で、硬くしまる。

<柱穴>壁際に5基検出された。

PP1 径37×28cm 深さ28.8cm PP2 径24×20cm 深さ27.6cm

PP3 径23×22cm 深さ35.9cm PP4 径25×21cm 深さ27.0cm

PP5 径24×23cm 深さ20.7cm

<炉>住居の中央部分に石囲炉が検出された。20～30cmの砂岩で構築され、規模は43×50cm、焼土は弱く赤変している。焼土の厚さは最大18cmである。

遺物（第66図・写真図版74）

石囲炉付近から完形の小型深鉢1点が出土している。LR縦位縄文が施される。胎土には砂粒が含まれる。

時期 出土遺物の特徴から判断し、縄文時代中期に属すると思われる。

第4号住居跡

遺構（第11図・写真図版7）

<位置>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、グリッドOⅢe16に位置する。

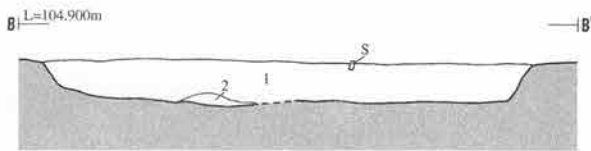
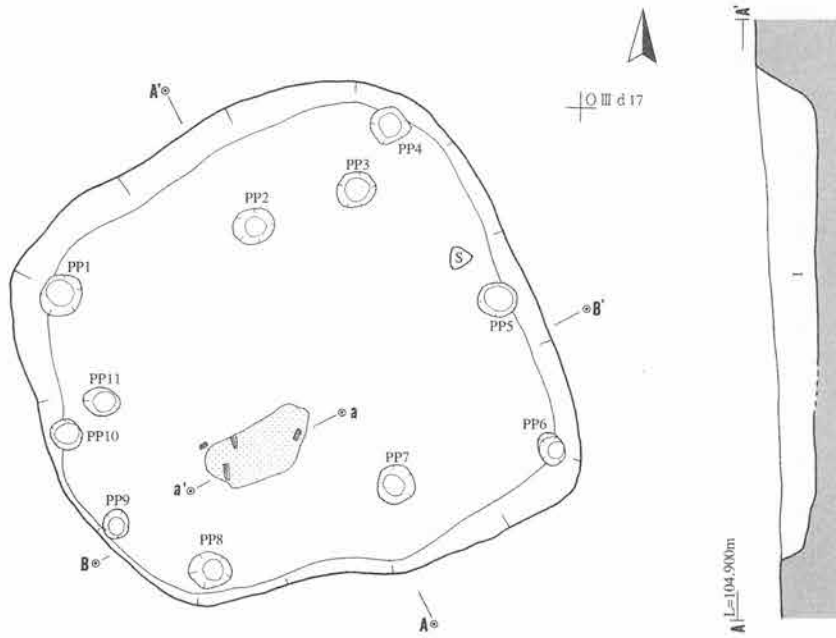
<検出状況>Ⅲ層中で、中礫浮石を含む黒色土の広がり確認された。

<重複状況>南側で第5号住居跡と重複する。当住居跡の方が新しいと思われる。

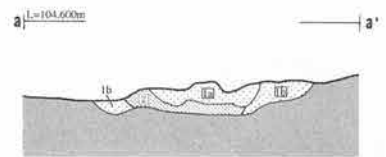
<規模・平面形>一辺3.2m、不整隅丸方形を呈する。

No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	28×26	36.1
PP2	25×24	22.4
PP3	25×23	19.0
PP4	25×23	31.7
PP5	26×23	7.3
PP6	22×16	28.1
PP7	25×23	16.3
PP8	29×25	23.3
PP9	17×16	18.0
PP10	20×18	19.3
PP11	25×19	36.6

第4号住居跡



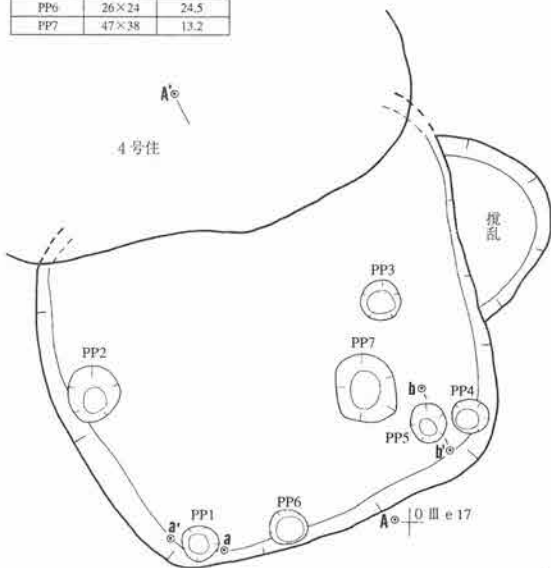
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu・To-Nb 微量混入
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・やや疎



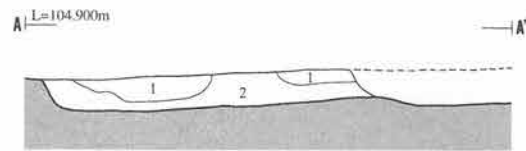
- 1a 5YR3/3 暗赤褐色焼土
- 1b 5YR2/2 黒褐色土 焼土粒多量混入
- 2 5YR5/8 明赤褐色土 固く締まる



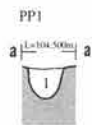
No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	25×24	24.0
PP2	38×33	25.5
PP3	25×24	27.7
PP4	24×22	22.6
PP5	26×23	23.4
PP6	26×24	24.5
PP7	47×38	13.2



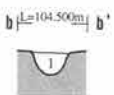
第5号住居跡



- 1 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu 微量混入
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・やや疎



- PP1 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu 微量混入



- PP5 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu・To-Nb 微量混入

第11図 第4号・5号住居跡

<床面積>8.7㎡

<埋土>中礫浮石及び南部浮石を含む黒色土主体である。

<壁>Ⅳ a・Ⅳ b層を壁とし、各壁とも緩やかに外傾する。

北西壁28~32cm、南西壁21cm、北東壁28~31cm、南東壁10~15.5cm (第5号住居と切り合う)

<床面>Ⅳ b層相当で、やや凹凸がみられ硬くしまる。

<柱穴>配置は不明瞭であるが、11基の柱穴状ピットが検出された。

P P 1 径28×26cm 深さ36.1cm P P 2 径25×24cm 深さ22.4cm

P P 3 径25×23cm 深さ19.0cm P P 4 径25×23cm 深さ31.7cm

P P 5 径26×23cm 深さ 7.3cm P P 6 径22×16cm 深さ28.1cm

P P 7 径25×23cm 深さ16.3cm P P 8 径29×25cm 深さ23.3cm

P P 9 径17×16cm 深さ18.0cm P P 10 径20×18cm 深さ19.3cm

P P 11 径25×19cm 深さ26.6cm

<炉>住居内南西寄りに地床炉と思われる赤褐色焼土が確認された。規模は75cm×35cm、厚さは最大11cmを測る。焼土内には炭化物が少量混入する。

遺物 (第66図・写真図版74)

埋土中から土器片 3点が出土している。いずれも地文のみの深鉢体部破片と思われる。

時期 検出状況から判断し、縄文時代中期から後期と推定される。

第5号住居跡

遺構 (第11図・写真図版8)

<位置>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、グリッドOⅢ e 16~17に位置する。

<検出状況>Ⅲ層中で、中礫浮石及び南部浮石を含む黒色土の広がりが確認された。

<重複状況>北側で第4号住居と重複する。当住居跡の方が古いと思われる。

<規模・平面形>一辺2.3m、不整隅丸方形と推定される。

<床面積>推定4.8㎡

<埋土>中礫浮石を含む黒色土主体である。

<壁>Ⅳ a・Ⅳ b層を壁とし、各壁とも緩やかに外傾して立ち上がる。

南西壁 15cm、南東壁 15~17cm、北東 16.2cm

<床面>Ⅳ b層相当で、やや凹凸がみられ硬くしまる。

<柱穴>配置は不規則であるが、7基の柱穴状ピットが検出された。

P P 1 径25×24cm 深さ20.4cm P P 2 径38×30cm 深さ25.5cm

P P 3 径25×24cm 深さ27.7cm P P 4 径24×22cm 深さ22.6cm

P P 5 径26×23cm 深さ23.4cm P P 6 径26×24cm 深さ24.5cm

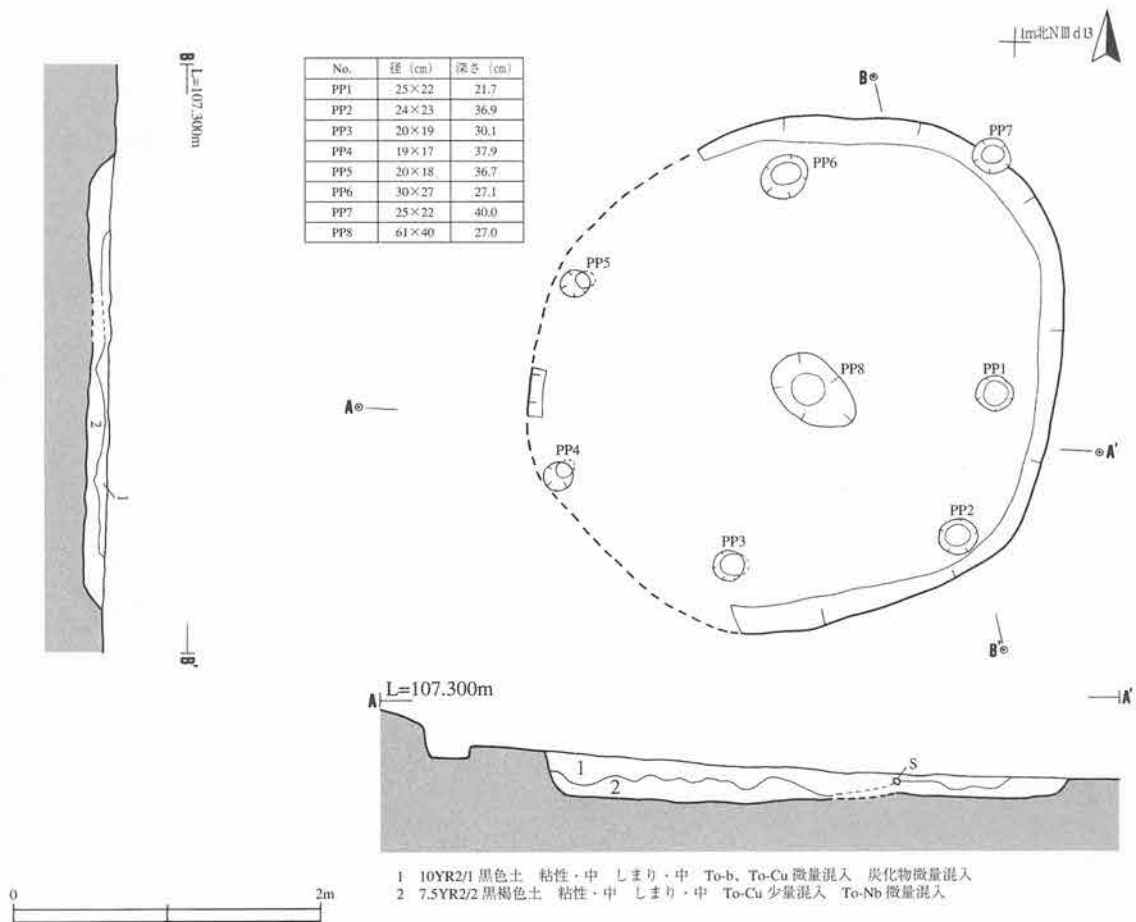
P P 7 径47×38cm 深さ13.2cm

<炉>検出されない。

遺物 (第66図・写真図版74)

埋土中から土器片 1点が出土している。深鉢の底部片である。

時期 検出状況から判断し、縄文時代中期から後期と推定される。



第12図 第6号住居跡

第6号住居跡

遺構（第12図・写真図版9）

<位置>調査区中央部5区の平坦面、グリッドNⅢe14に位置する。

<検出状況>Ⅱ層中で不整な黒褐色土の広がりが確認された。検出以前に一部トレンチをいれたため西壁を削剥した。

<重複状況>重複はなく、単独で検出された。

<規模・平面形>3.3×3.5m、略円形を呈する。

<床面積>10.99 m²

<埋土>黒褐色土主体である。

<壁>Ⅲ層を壁とし、緩やかに立ち上がる。

北壁14.8cm、南壁23cm、東壁14cm

<床面>Ⅲ層面相当で、平坦である。

<柱穴>住居中央に1基、壁際に7基の柱穴が検出された。

PP1 径25×22cm 深さ21.7cm PP2 径24×23cm 深さ36.9cm

PP3 径20×19cm 深さ30.1cm PP4 径19×17cm 深さ37.9cm

PP5 径20×18cm 深さ36.7cm PP6 径30×27cm 深さ27.1cm

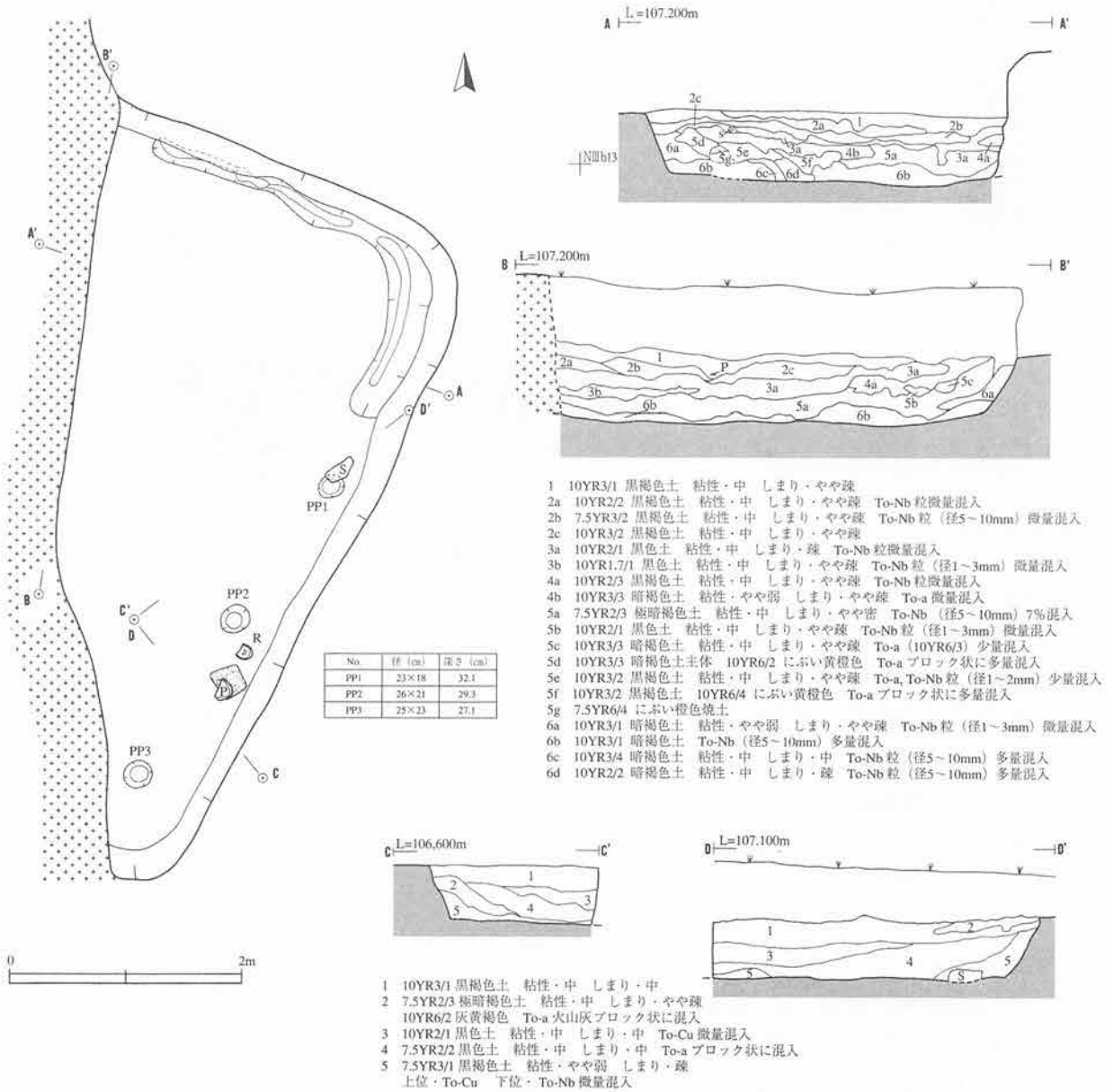
PP7 径25×22cm 深さ40.0cm PP8 径61×40cm 深さ27.0cm

<炉>検出されない。

遺物 (第66図・写真図版74)

埋土中から3点出土している。15・16は鉢の体部片で、外面にミガキが入り、沈線が施される。17は深鉢の体部片で、不整綾絡文を施す。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、縄文時代後期から晩期と推定される。



第13図 第7号住居跡

第7号住居跡

遺構（第13図・写真図版10・11）

- <位置>調査区中央部5区の平坦面、グリッドNⅢb12に位置する。
- <検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰を含む不整形の黒色土の土層変化が確認された。北西半は西側調査区外に延びているものと推定される。
- <重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。
- <主軸>不明
- <規模・平面形>一辺6.2m、隅丸方形を呈すると推定される。
- <床面積>推定31.3㎡
- <埋土>6層に細分される。十和田a降下火山灰をブロック状に含む。
- <壁>Ⅱ～Ⅳb層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は南東壁45～50cm、北東壁55～63cmを測る。
- <床面>Ⅴ層上面で、硬くしまり、北東側に壁溝がめぐる。土器片、粘土塊、炭化したイネ科草（スキ？）が確認された。壁溝は幅10～28cm、深さ4.5～13cmを測る。
- <柱穴>壁際に3基検出された。P P 1 径23×18cm、深さ32.1cm P P 2 径26×21cm、深さ29.3cm P P 3 径25×23cm、深さ27.1cmを測る。
- <カマド>検出されていないが、周囲の住居跡の例から推定し調査区外の北西壁に構築されるものと思われる。
- <付属施設>なし

遺物（第66図・写真図版74）

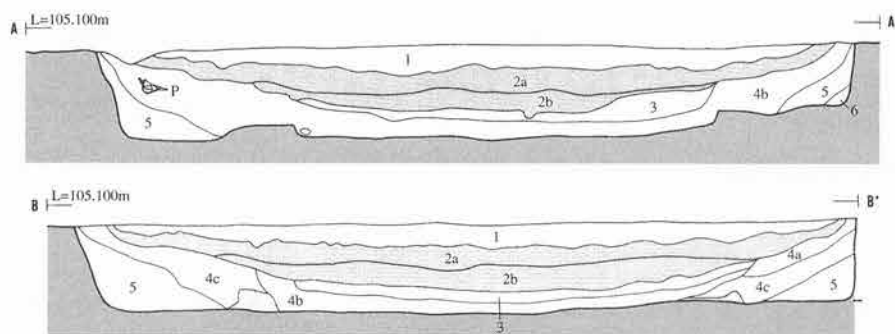
非ロクロ成形の鉢1点と敲石1点が出土している。18は指ナデ調整される。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）の住居跡と推定される。

第8号住居跡

遺構（第14～16図・写真図版12・13）

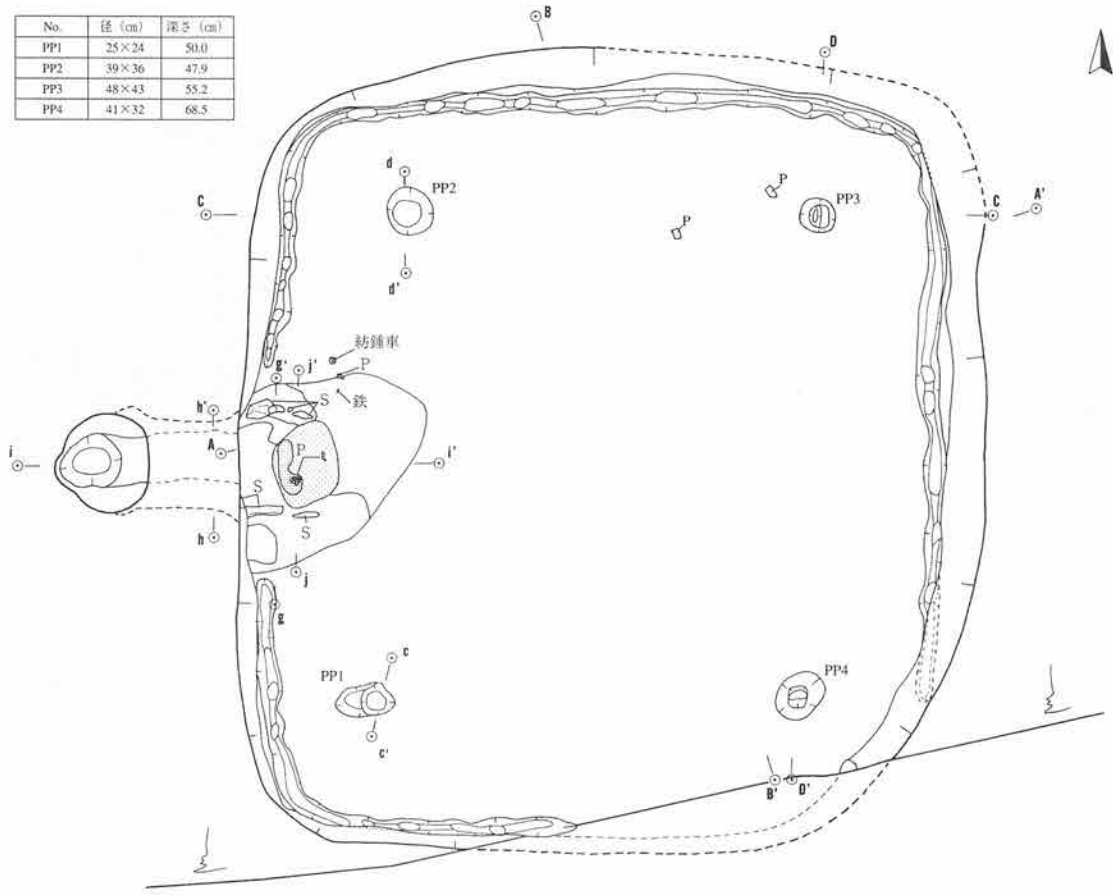
- <位置>調査区中央部7①区の平坦面、グリッドLⅢn11に位置する。
- <検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰を含む楕円形状の黒褐色土の土層変化が確認された。北東側に攪乱があり削剥される。
- <主軸> N-90°-W
- <重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。
- <規模・平面形>一辺6m、隅丸方形を呈する。
- <床面積>36㎡(推定)
- <埋土>上位は黒褐色土主体、中位には十和田a降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒褐色土を主体とする。
- <壁>Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、直立ぎみに立ち上がる。壁高は、北壁68～71cm、西壁63～67cm、南壁70cm、東壁60cmを測る。
- <床面>Ⅳb層下位で、硬くしまる。炭化材、焼土、土器、礫が多量に散在することから焼失住居と思われる。各壁に壁溝がめぐる。壁溝幅10～18cm、深さ10～12cm。
- <柱穴>主柱穴4基が確認された。P P 1 径25×24cm、深さ50.0cm、P P 2 径39×36cm、深さ47.9cm、



- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-a ブロック状に少量混入
- 2a 10YR6/4 におい黄橙色 To-a 粘性・なし しまり・中
- 2b 10YR6/3 におい黄橙色 To-a 粘性・なし しまり・やや密
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 炭化物微量混入
- 4a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-a 少量混入 To-Nb 微量混入
- 4b 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb 粒微量混入 炭化物微量混入
- 4c 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-a, To-Nb 粒微量混入 炭化物微量混入
- 5 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu, To-Nb (径3-5mm) 微量混入
- 6 10YR4/3 におい黄橙色土 粘性・やや強 しまり・やや疎

第14図 第8号住居跡 (1)

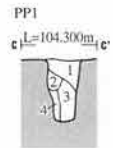
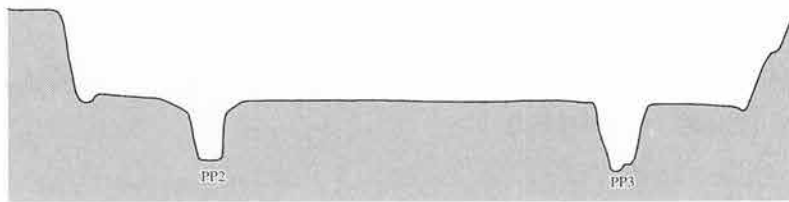
No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	25×24	50.0
PP2	39×36	47.9
PP3	48×43	55.2
PP4	41×32	68.5



1:100

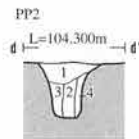
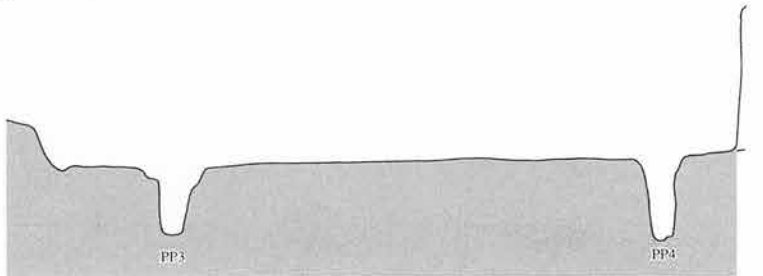


L=105.100m



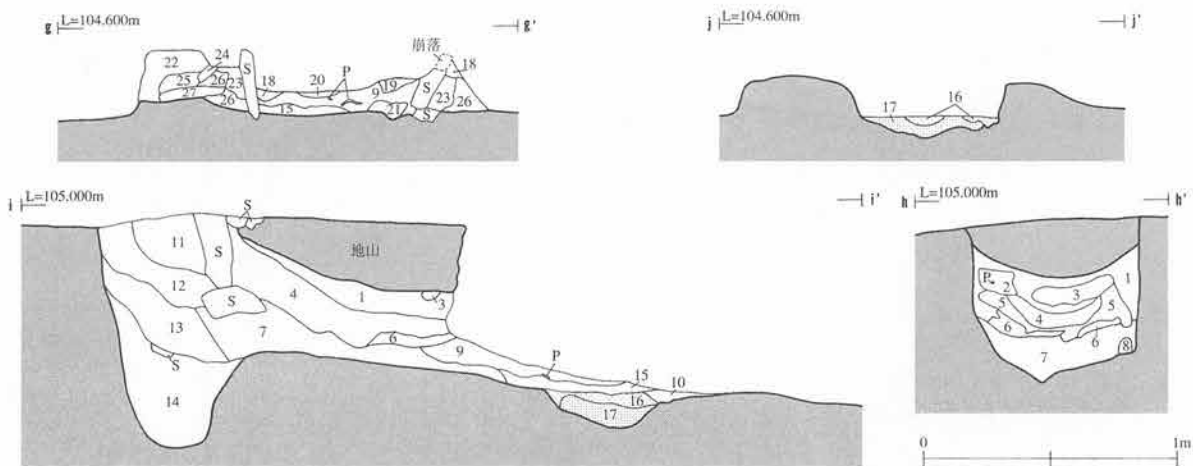
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径5mm) を含む 炭化物を1%含む
- 2 10YR3/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
To-Nb粒を3%含む 黄色砂状粒混入
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒を7%含む 灰白色を全体に含む
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nbを3%含む

L=105.600m

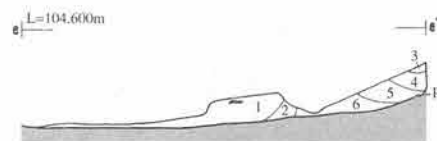


- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒を1%含む 炭化物を1%含む
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径5-10mm) を全体に含む
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径2-5mm) を全体に含む
- 4 10YR3/3 黒褐色土とTo-Nb粒の混土 粘性・やや強
しまり・やや密

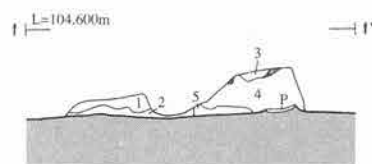
第15図 第8号住居跡 (2)



- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb粒(径2~3mm)を3%含む 黄褐色粘土粒を10%含む
- 2 10YR3/3 黒褐色土と2.5YR6/4に黄褐色土の混土 粘性・やや強 しまり・やや密 土器片あり
- 3 2.5YR6/4 に黄褐色土 粘性・強 しまり・やや密 上部に2層黒褐色土 下部に2.5YR6/4主体
- 4 2.5YR5/4 黄褐色土 粘性・強 しまり・やや密 粘土
- 5 2.5YR7/3 浅黄色土 粘性・やや強 しまり・やや密
- 6 7.5YR4/2 灰褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密
- 7 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb粒(径2~3mm)を5%含む
- 8 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/3に黄褐色土の混土 粘性・やや強 しまり・なし
- 9 10YR3/3 黒褐色土主体 粘性・やや強 しまり・中 黄褐色土ブロック3%混入
- 10 10YR5/8 黄褐色土 粘性・強 しまり・疎
- 11 10YR2/3 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・やや密 黒色土、灰白色粘土ブロック、黄褐色土ブロック混入 炭化物1%混入
- 12 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 黄褐色土ブロック1%混入 灰白色粘土7%混入
- 13 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・疎 黄褐色粒(径2mm 中振浮石?)を3%含む
- 14 10YR3/1 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎
- 15 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb粒(径2~3mm)を3%含む
- 16 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・やや強 しまり・疎
- 17 7.5YR5/8 明褐色焼土 粘性・なし しまり・疎 To-Nb粒(径1~5mm)を7%含む
- 18 10YR3/4 暗褐色土 粘性・強 しまり・疎 黒色土、褐色土粒状に混入
- 19 10YR2/3 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや密 10YR5/8 黄褐色土ブロックを含む
- 20 10YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb粒(径2~3mm)を7%含む
- 21 10YR2/2 黒褐色土、10YR2/3黒褐色土の混土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒(径3mm)を3%含む
- 22 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/4に黄褐色土の混土 粘性・やや強・しまり・やや疎 To-Nb粒(径2mm)を1%含む
- 23 2.5YR5/4 黄褐色砂質土 粘性・なし しまり・疎 砂岩を支える土
- 24 10YR1.7/1 黒色土と7.5YR4/3 褐色土の混土 粘性・やや強 しまり・やや密
- 25 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-Nb粒を1%含む
- 26 10YR3/3 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
- 27 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎 2.5YR7/6 明黄褐色土ブロック状に混入



- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 黄褐色土ブロック1%混入 炭化物混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 黄褐色土ブロック1%混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6 黄褐色土の混土 粘性・中 しまり・やや疎
- 4 10YR5/4 に黄褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 5 10YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 中央にやや赤みを帯びる
- 6 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・やや強 しまり・中



- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 10YR5/6 黄褐色土ブロック10%混入
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・中 10YR5/6 黄褐色土ブロック2%混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/4 に黄褐色土の混土 粘性・弱 しまり・やや疎
- 4 10YR1.7/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・中 10YR5/6 黄褐色土ブロック1%混入
- 5 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 10YR5/6 黄褐色土ブロック5%混入

第16図 第8号住居跡(3)

P P 3 径48×43cm、深さ55.2cm、P P 4 径41×32cm、深さ68.5cm。柱穴間距離は3.0~3.5mである。

＜カマド＞西壁中央部に設置される。本体の規模は180×130cmを測る。カマドの残存状況は良好である。袖部の芯材と天井部は砂岩で構築される。燃焼部は強く赤変し、範囲は65×53cm、厚さ最大9cmの現地性の焼土が形成されている。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から緩やかに上がり煙出し部に至る構造をもつ。規模は全長140cm、幅70~80cmを測る。煙出し部は径75×70cm、煙道部底面から深さ32cmの円形のピットを伴うものである。各部の埋土には焼土粒や炭化物、南部浮石粒が含まれる。

＜付属施設＞検出されない。

遺物(第66~69図・写真図版74~77)

非ロクロ成形の坏・甕類と金属製品3点、土製品1点、磨敲石1点が出土している。20、21は外面に有する坏で、内面が黒色処理される。出土した坏の底部は丸底や丸底風平底を特徴とする。甕は頸部有段のものが多い。外面調整はヘラケズリとハケメ、内面はハケメを主体とする。40は球胴甕でやや古手のものと思われる。頸部に段を有し、外面はヘラケズリ・ハケメ、内面はヘラミガキ調整である。41は土製紡錘車で、ミガキが丁寧に施される。43の金属製品は不明である。44は刀子片、45については詳細は不明であるが、締金具と推定される。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

第9号住居跡

遺構（第17図・写真図版14）

<位置>調査区中央部7②区の平坦面、グリッドLⅢc11に位置する。第10号住居跡の南東約11m地点にある。

<検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰をブロック状に含む不整な黒褐色土の土層変化が確認された。東半は調査区外に延びる。

<主軸>N-40°-W

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<規模・平面形>一辺約4m、隅丸方形を呈すると推定される。

<床面積>16㎡(推定)

<埋土>上位は黒褐色土主体、中位には十和田a降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒色土主体とする。

<壁>Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北西壁57～71cm、南西壁64～74cm。

<床面>Ⅳb層下部で、硬くしまる。炭化材が散在することから焼失住居と思われる。各壁に壁溝が巡る。壁溝の幅14～26cm、深さ8～25cm。

<柱穴>補助柱と思われるピット1基が検出された。P P 1 径21×20cm、深さ17.6cm。

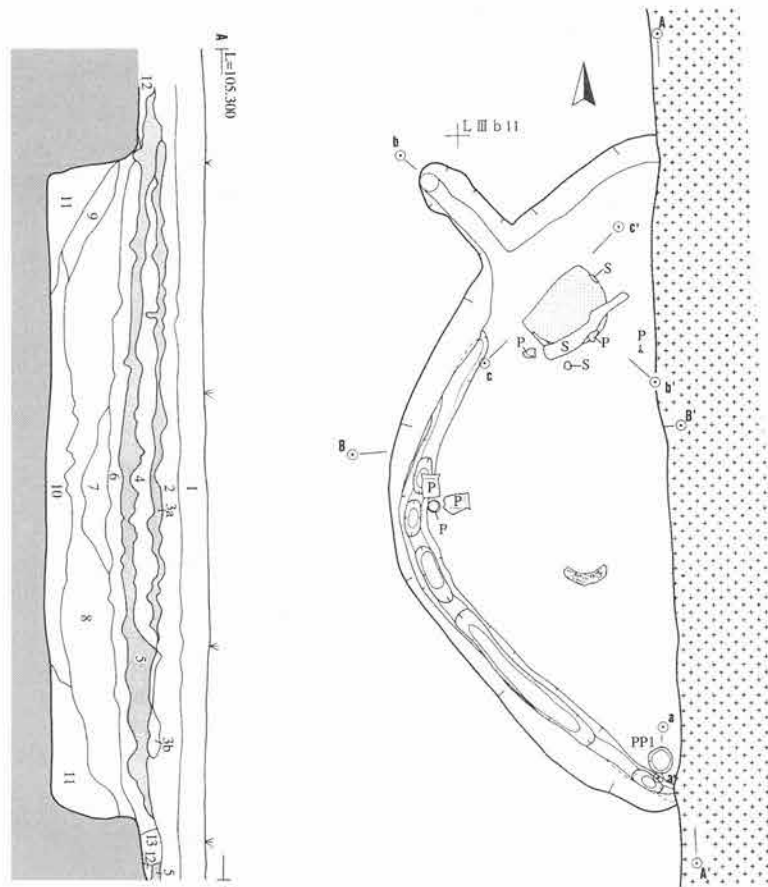
<カマド>北西壁中央部に設置される。本体の規模は70×55cmを測る。カマドの残存状況はあまりよくない。袖部の芯材は砂岩で構築される。燃焼部は強く赤変し、焼土範囲は65×50cm、厚さ最大6cmの現地性の焼土が形成されている。煙道部は掘り込み式で、燃焼部から緩やかに上がり煙出し部に至る構造をもつ。規模は全長85cm、幅34～39cmを測る。煙出し部は径40×35cm、煙道部底面から深さ12cmの円形のピットを伴うものである。各部の埋土には焼土粒や炭化物、十和田a降下火山灰、南部浮石が含まれる。

<付属施設>検出されない。

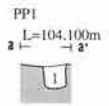
遺物（第69図・写真図版77）

カマドから坏、甕が1点ずつ出土した。46は外面有段で、底部はヘラケズリ調整である。47は頸部有段で、外面はヘラミガキ、内面はハケメ調整である。

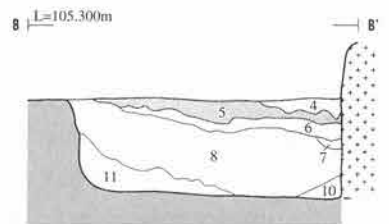
時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。



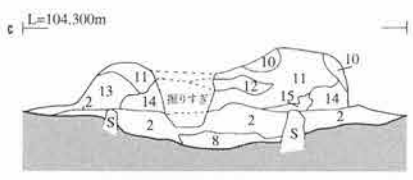
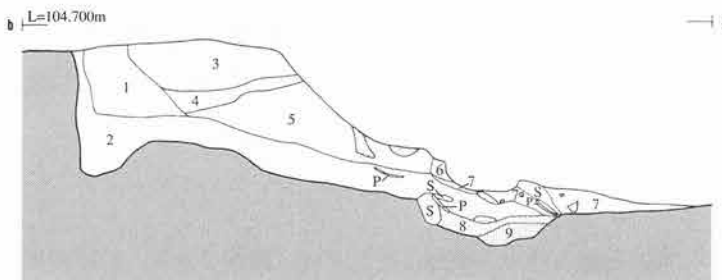
No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	21×20	17.6



- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nbを5%含む
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・やや密 火山性浮石微量混入 草木根あり(耕作土)
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 火山性浮石微量混入
- 3a 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 10YR6/4にぶい黄橙色 To-aを多量に含む
- 3b 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR6/4にぶい黄橙色 To-a微量混入
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR6/4にぶい黄橙色 To-aを含む
- 5 10YR5/4 にぶい黄橙色 To-a
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb粒(径1~2mm) 微量混入
- 7 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密 10YR5/4にぶい黄橙色 To-a斑状に混入 To-Nb粒(径1~2mm) 微量混入
- 8 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒(径2~4mm) 少量混入 炭化物微量混入
- 9 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb粒(径2~5mm) 少量混入
- 10 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb(径2~5mm) 少量混入 炭化物微量混入
- 11 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb(径4~10mm) 少量混入 炭化物微量混入
- 12 7.5YR3/2 黒褐色土 活性・中 しまり・やや疎
- 13 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎



- 1 10YR2/2 黒褐色土と10YR8/3浅黄橙色のTo-aの混土 粘性・弱 しまり・密
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR8/6 黄橙色のTo-Nb(径1~3mm)を2%, To-Cu(径1mm)を3%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや疎 10YR8/2 灰白色の To-Nb(径1~5mm)を10%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR8/6黄橙色のTo-Nb(径1~3mm)を3%含む
- 5 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu(径1mm)を3%含む 10YR7/4にぶい黄橙色粘土質土ブロック状に混入
- 6 10YR6/3 にぶい黄橙色粘土質土(粘性・中 しまり・密)と 10YR2/1 黒色土(粘性・中 しまり・やや疎)の混土
- 7 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・密 10YR8/6 黄橙色のTo-Nb(径1~20mm)を10%含む 炭化物混入 10YR6/3にぶい黄橙色の粘土質土をブロック状に含む
- 8 10YR4/6 褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR8/6のTo-Nb(径1~10mm)を5%含む 被熱のため他の部分より明るい色をしている
- 9 7.5YR8/8 黄橙色南部浮石(径5~30mm) 粘性・なし しまり・なし 表面は被熱の影響で2.5YR4/8 赤褐色を呈している
- 10 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR8/8黄橙色のTo-Nb(1%), 粘土質土混入
- 11 10YR7/4 にぶい黄橙色粘土質土 粘性・やや強 しまり・やや疎 10YR2/2黒褐色土混入
- 12 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR7/8黄橙色のTo-Nbを1%, 10YR7/4にぶい黄橙色粘土質土を含む
- 13 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 10YR8/8黄橙色のTo-Nb3%混入
- 14 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu 1%混入
- 15 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 砂質土を1%含む



第17図 第9号住居跡

第10号住居跡

遺構（第18～20図・写真図版15・16）

<位置>調査区中央部7②区の平坦面、グリッドKⅢ t 9に位置する。第9号住居跡の北西約11m地点にある。

<検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<主軸>N-60°-W

<規模・平面形>一辺5.2m、隅丸方形を呈する。

<床面積>27m²

<埋土>上位は黒褐色土主体、中位には十和田a降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒褐色土主体とする。

<壁>Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北西壁66～68cm、南西壁64～67cm、南東壁63～69cm、北東壁73～81cmを測る。

<床面>Ⅳ層下位で、硬くしまる。炭化材、焼土、土器、礫が多量に散在することから焼失住居と思われる。壁際に壁溝がめぐる。壁溝幅10～23cm、深さ7～15cm。

<柱穴>主柱穴が4基検出された。P P 1 径33×25cm、深さ55.5cm、P P 2 径28×30cm、深さ72.1cm、P P 3 径48×47cm、深さ69.1cm、P P 4 径27×30cm、深さ83.0cm。柱穴間距離は2.2～2.5mである。

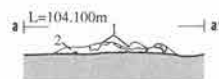
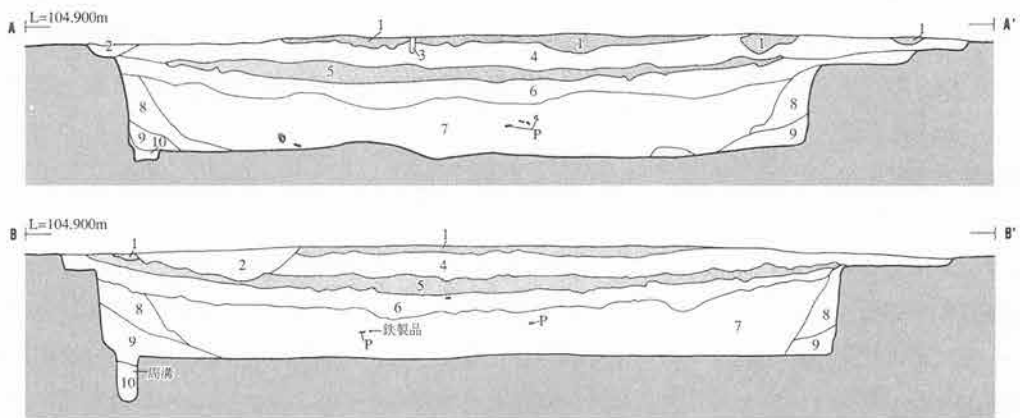
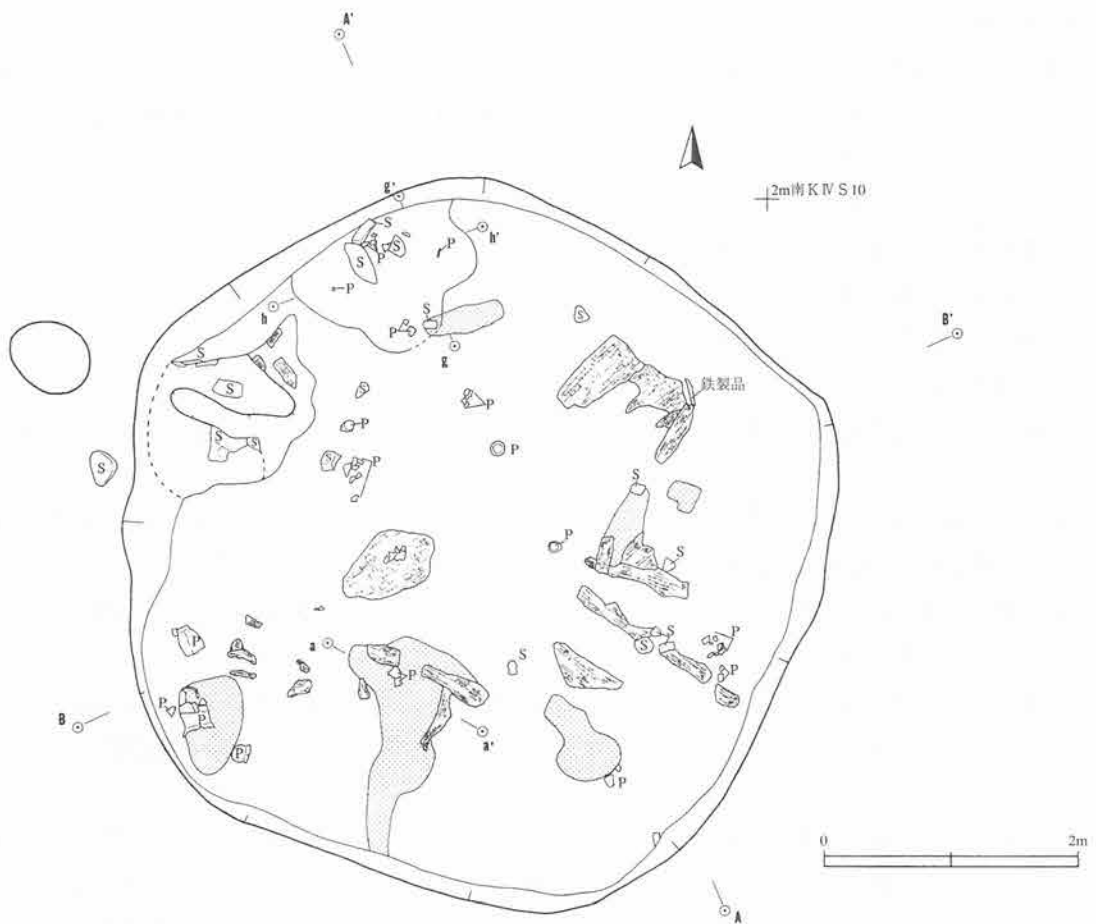
<カマド>北西壁中央部に設置される。カマドの残存状況は比較的良好で、本体の規模は108×75cmである。袖部の芯材と天井部は砂岩礫で構築される。燃烧部は強く赤変し、焼土範囲は60×50cm、厚さ14cmの現地性の焼土が形成されている。煙道部は掘り込み式で、燃烧部から緩やかに上がり煙出し部に至る。全長85cm、幅34～39cm、煙出し部は径65×50cm、煙道部底面から深さ18cmの円形ピットが掘り込まれている。各部の埋土には焼土粒や炭化物含まれ、部分的に南部浮石が混入する。

<付属施設>検出されない。

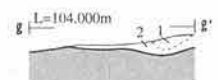
遺物（第70・71図・写真図版77・78）

非ロクロ成形の坏・甕類と金属製品3点が出土している。48は外面有段で、底部は丸底風である。内面底部もやや丸みをもつ。49から51は外面有段の坏で、内面は黒色処理される。外面調整はヘラナデ、ヘラケズリ主体、内面はヘラミガキ調整を主体とする。底部は平底風である。52は高台が付く可能性がある。外面はヘラケズリ後にハケメ調整した痕跡が認められる。53から55は頸部に段を有し、内面底部は卵形または丸みをもつ。外面調整はヘラミガキが多用される。53、55ともに底部に木葉痕がみられる。56は外面ヘラミガキ調整、底部はやや外面に張り出す。57は内外面ともハケメ調整が主体である。59は刀子、60・61は釘と思われる。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。



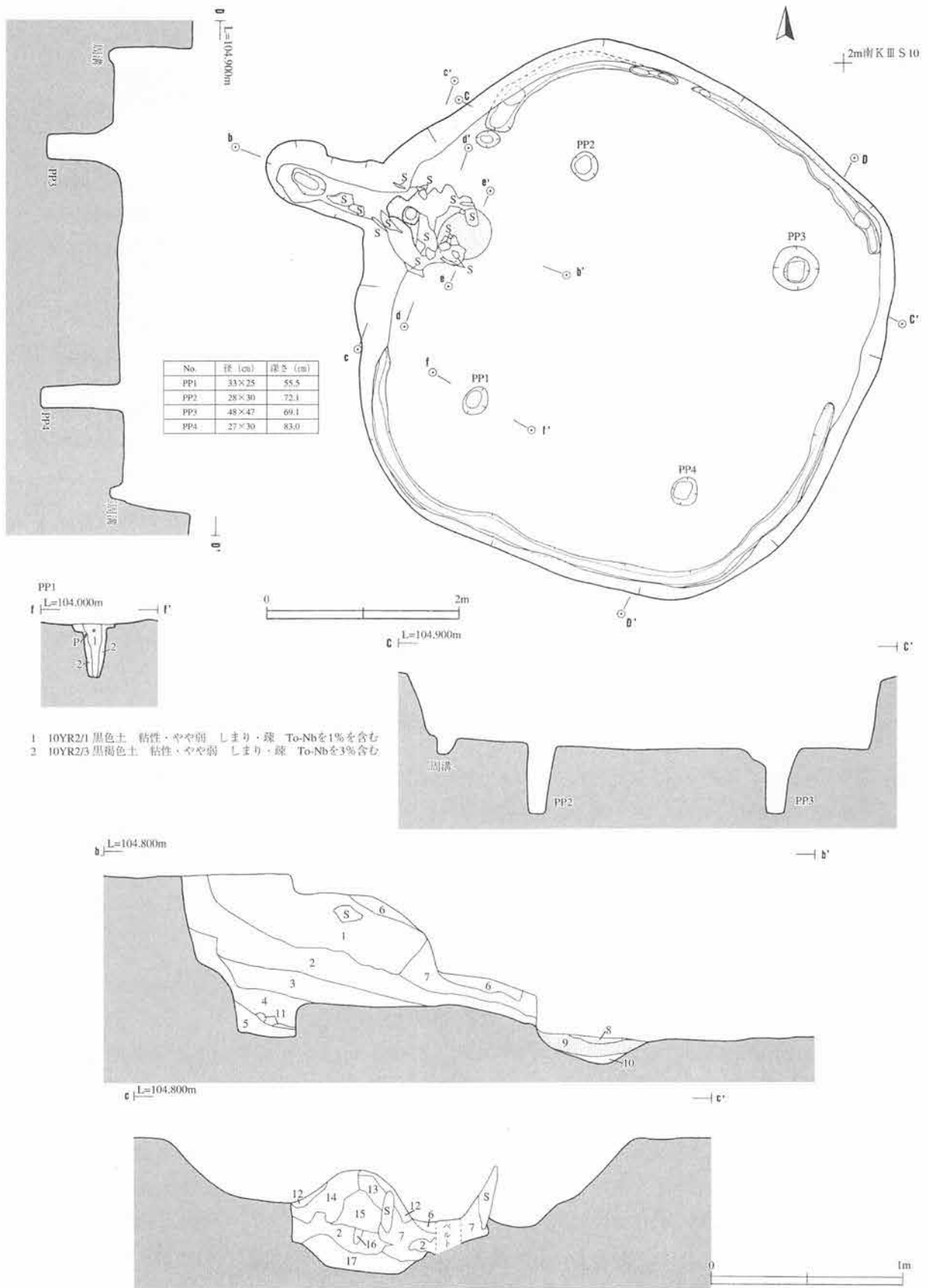
- 1 10YR5/6 黄褐色の焼土 粘性
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱



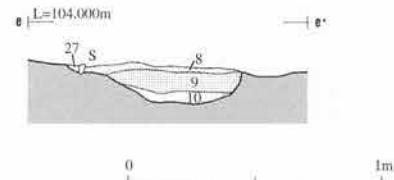
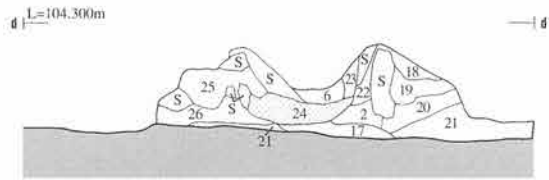
- 1 10YR7/4 におい黄橙色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密
- 10YR8/8 黄橙色 To-Nb (径1~5mm) を3%含む

- 1 10YR8/1 灰白色 To-a 粘性・なし しまり・なし
- 2 10YR4/3 褐色土 粘性・やや弱 しまり・中
- 10YR8/1 灰白色 To-aをブロック状に含む
- 3 10YR5/3 におい褐色土 粘性・弱 しまり・疎
- 10YR8/1 灰白色 To-aを1%含む
- 10YR3/1 黒褐色土粒状に混入
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中
- 10YR7/3 におい橙黄色 To-aを3%含む
- 5 10YR7/3 におい橙黄色 To-a 粘性・なし しまり・中
- 10YR3/1 黒褐色土を5%含む
- 6 10YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・やや疎
- 10YR8/6 To-Nbを1%含む
- 7 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
- 10YR8/6 To-Nbを10%含む
- 8 5YR3/4 暗赤褐色土と10YR2/1 黒色土の混土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
- To-CuとTo-Nb粒子 (径2mm) を各1%程度含む
- 9 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎
- 10YR8/6 To-Nbを3%含む
- 10 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎
- 10YR8/8 To-Nbを5%含む

第18図 第10号住居跡 (1)



第19図 第10号住居跡 (2)



- 1 10YR3/2 黒褐色土 (粘性・やや弱 しまり・やや疎) と10YR8/2 灰色粘土質土の混土炭化物を含む
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
10YR5/6 黄褐色の粘土質土をブロック状に混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR7/8 黄褐色のTo-Nb (径1~5mm) 1%と10YR5/6 黄褐色の粘土質土ブロック状に1%混入
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR7/6 明黄褐色To-Nb (径1~20mm) を1%含む
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・密 10YR7/8 黄褐色To-Nb (径1~20mm) を5%含む
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR8/6 黄褐色To-Nb (径1~15mm) を2%含む
- 7 10YR2/1 黒色土 (粘性・やや弱 しまり・疎) と10YR7/4にぶい黄褐色粘土質土の混土
- 8 10YR4/6 褐色焼土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 9 5YR5/8 明赤褐色南部浮石 粘性・なし しまり・なし
- 10 10YR3/1 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎 10YR8/6 黄褐色To-Nbを30%含む
- 11 10YR6/4 にぶい黄褐色の粘土質土
- 12 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密
- 13 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘性・やや強 しまり・やや密 暗褐色土ブロック状に混入
- 14 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Cu粒を全体に含む
- 15 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
- 16 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
- 17 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR8/6 黄褐色To-Nb (径3~10mm) を3%含む
- 18 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 10YR8/6 黄褐色To-Nb (径3~10mm) を1%含む
- 19 10YR5/3 にぶい黄褐色の粘土質土に10YR8/3黄褐色粘土質土 (粘性・やや弱 しまり・中) 混入
- 20 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 10YR8/6 黄褐色To-Nb (径1~5mm) を3%含む
- 21 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・密 10YR8/8 黄褐色To-Nb (径1~3mm) を5%含む
- 22 10YR2/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎 10YR8/6 淡黄褐色To-Cu (径1mm) を2%含む
- 23 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎
- 24 10YR3/2 黒褐色土焼土 粘性・中 しまり・やや密 10YR7/8 To-Nb (径1~2mm) を1%含む
- 25 10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性・弱 しまり・やや疎 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎の混土 To-Nb (径1mm) を1%含む
- 26 10YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・やや疎 10YR8/6 黄褐色 To-Nb (径2~5mm) を1%含む
- 27 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 10YR8/6黄褐色To-Nbを2%含む

第20図 第10号住居跡 (3)

第11号住居跡

遺構 (第21~23図・写真図版17~19)

<位置>調査区中央部5区の平坦面、グリッドMⅢ r 11に位置する。第12号住居跡の北11m地点にある。

<検出状況>Ⅱ層中で、十和田 a 降下火山灰を含む方形の黒褐色土の土層変化が確認された。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<主軸>N-90°-W

<規模・平面形>一辺8.5m、隅丸方形を呈する。当遺跡の古代の住居群の中で最大の遺構である。

<床面積>72.25㎡ 当遺跡の中で最大級の住居跡である。

<埋土>上位は黒褐色土主体、中位には十和田 a 降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒褐色土主体とする。

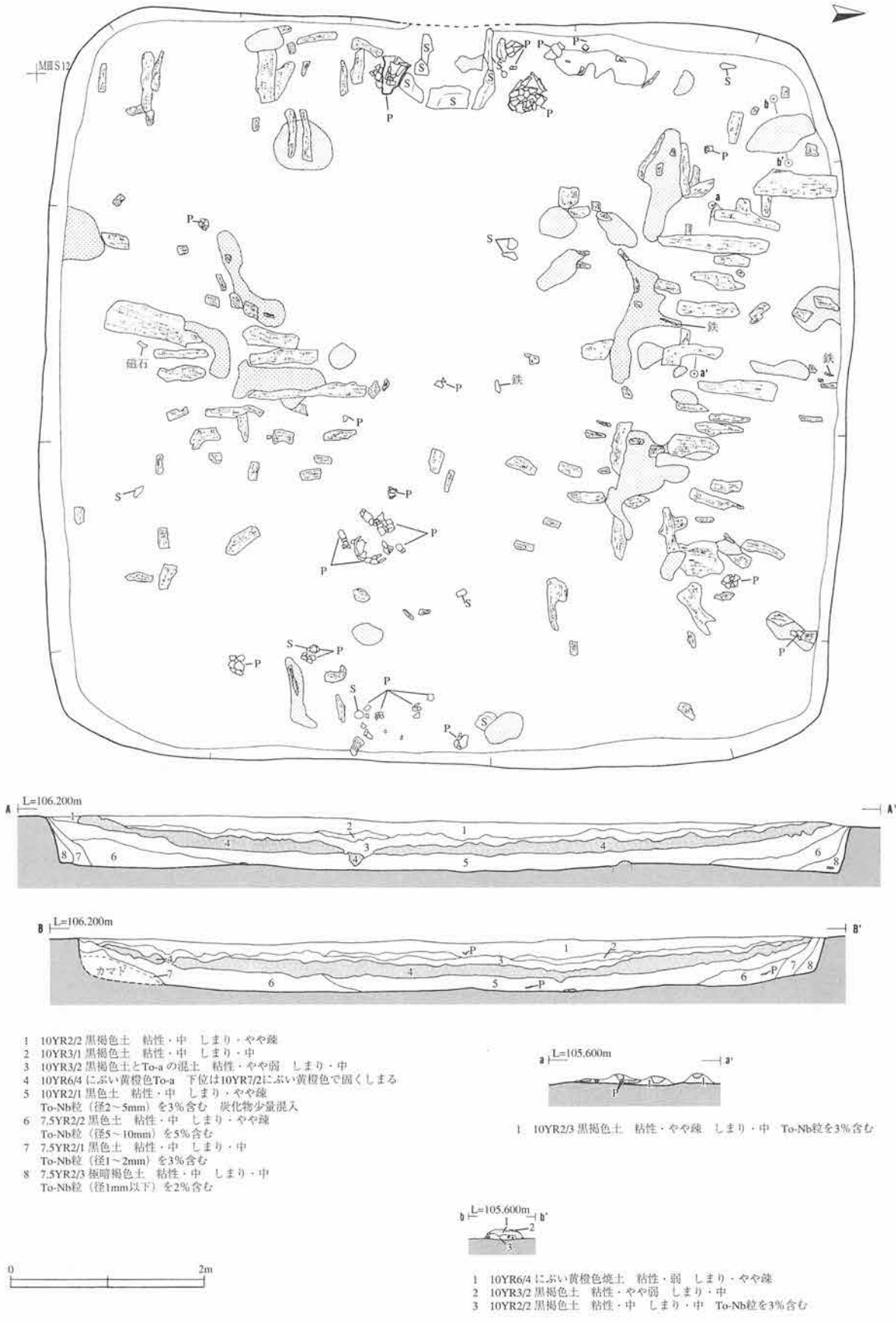
<壁>Ⅱ層下位~Ⅳ b層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は50cmを測る。

北壁48~56cm 西壁50~60cm 南壁53~59cm 東壁48~53cm

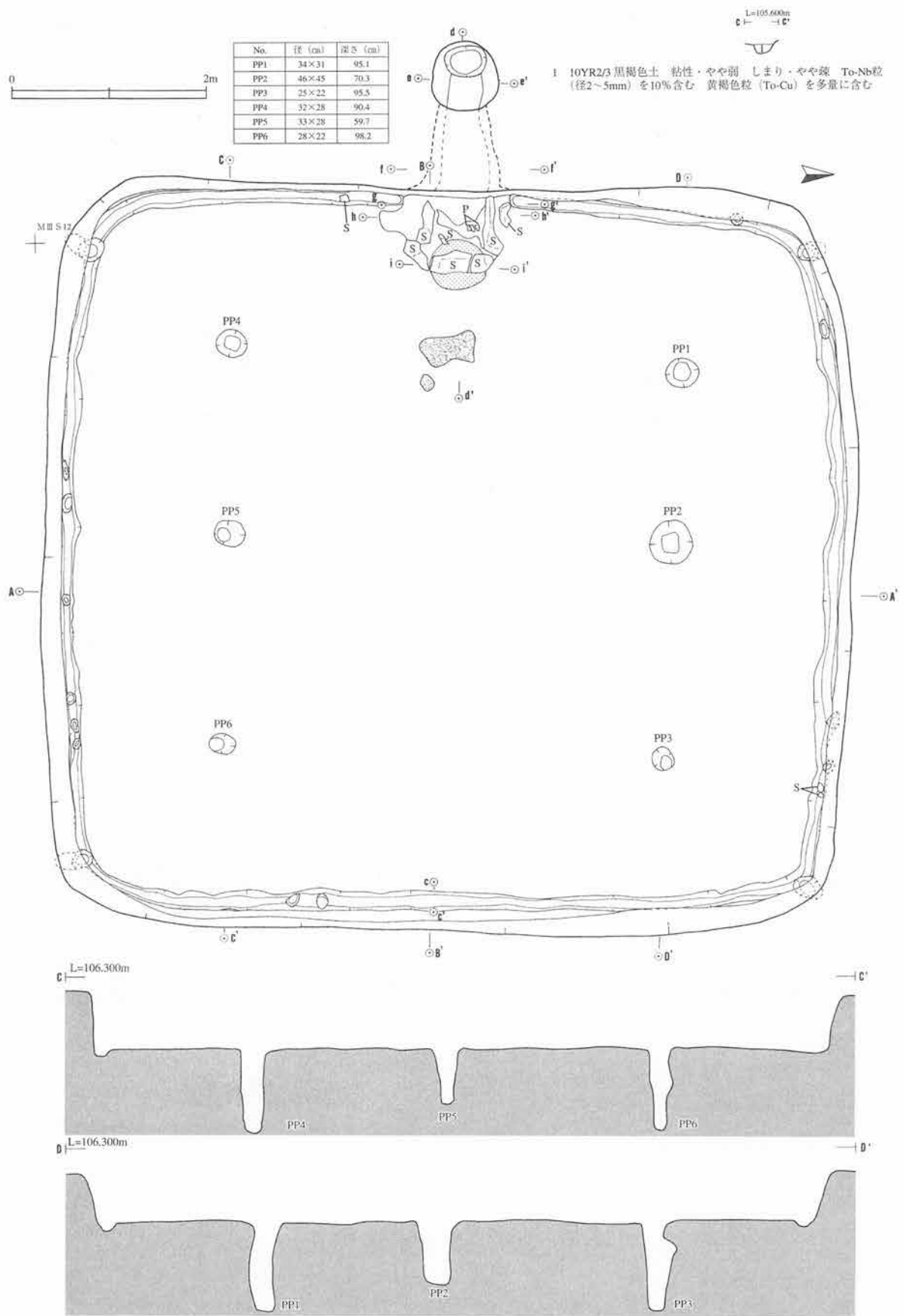
<床面>Ⅳ b層下位で、硬くしまる。炭化材、焼土、土器、鉄製品、礫が多量に散在することから焼失住居と思われる。各壁に壁溝がめぐる。壁溝 幅8~25cm 深さ5~15cm

<柱穴>主柱穴6基が検出された。P P 1 径34×31cm、深さ95.1cm、P P 2 径46×45cm、深さ70.3cm、P P 3 径25×22cm、深さ95.5cm、P P 4 径32×28cm、深さ90.4cm、P P 5 径33×28cm、深さ59.7cm、P P 6 径28×22cm、深さ98.2cm。柱穴間距離は東西方向2.0m、南北4.4mである。

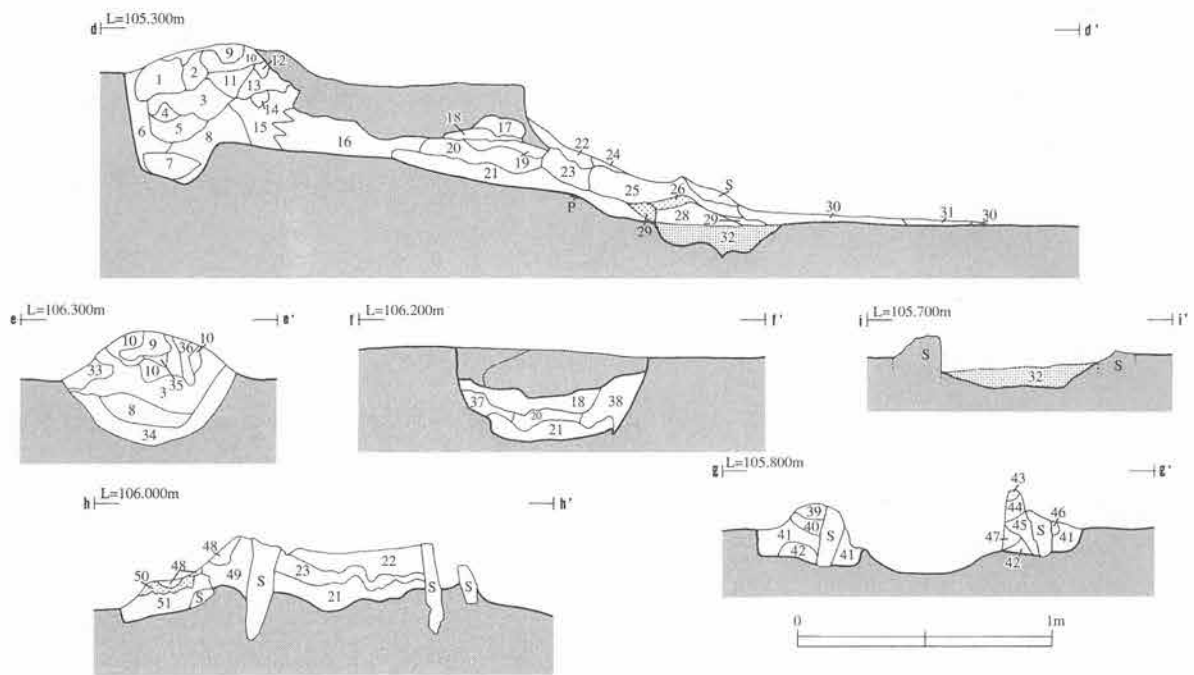
<カマド>西壁中央部に設置される。残存状況は良好である。本体の規模は120×95cmである。袖部の芯材と天井部は砂岩で構築される。燃焼部は強く赤変する。焼土の範囲は55×50cm、厚さは最大11cmを測る。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から緩やかに上昇し煙り出し部に至る構造をもつ。全長155cm、幅50~85cm、煙出し部は径75×68cm、煙道底面から深さ15cmの楕円状のピットが掘り込まれる。各部の埋土には焼土ブロック、炭化物、南部浮石粒が含まれる。



第21図 第11号住居跡 (1)



第22図 第11号住居跡 (2)



- 1 10YR5/4 におい黄褐色粘土主体 粘性・強 しまり・中
10YR2/2 黒褐色土ブロック状に混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 粘土ブロック1%混入
10YR3/3 暗褐色土を30%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・やや疎 10YR5/6黄褐色土を10%含む
- 4 10YR2/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 黄褐色土粒 (To-Cu?) わずかに含む
- 5 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・やや強 しまり・やや疎 10YR5/6 黄褐色土を20%含む
- 6 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cuを全体に含む
- 7 10YR6/4 におい黄褐色土 粘性・強 しまり・密 2.5YR8/3 淡黄色火山灰をブロック状に含む
- 8 10YR2/3 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・やや疎 焼土ブロックをわずかに含む
粘土ブロック3%混入
- 9 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・中 粘土ブロック混入
- 10 10YR5/3 におい黄褐色粘土主体 粘性・強 しまり・中主体
10YR3/4 暗褐色土ブロック状に混入
- 11 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・強 しまり・中 暗褐色土ブロック状に混入
中央部に10YR6/6 明黄褐色焼土混入
- 12 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎
- 13 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・強 しまり・やや疎 粘土ブロック3%混入
10YR2/3 黒褐色土を含む
- 14 7.5YR5/4 におい褐色土 粘性・強 しまり・中
- 15 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 粘土ブロック2%混入 10YR4/6褐色土1%混入
- 16 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・やや疎 To-Nb粒 (径5~10mm) を2%含む
- 17 7.5YR6/4 におい橙褐色粘土 粘性・強 しまり・中
- 18 10YR2/3 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎
- 19 10YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・疎
- 20 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・弱 しまり・やや疎
- 21 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径10mm) を5%含む
- 22 7.5YR4/4 褐色土主体 粘性・中 しまり・中 上部に10YR6/4 におい黄褐色粘土
- 23 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 焼土ブロック混入 (やや暗褐色)
- 24 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎
- 25 7.5YR4/3 褐色土主体 粘性・やや強 しまり・中 焼土ブロックを3%含む
- 26 10YR8/4 浅黄褐色焼土 粘性・強 しまり・疎
- 27 10YR5/6 明褐色焼土 粘性・なし しまり・疎
- 28 10YR8/1 灰白色火山灰 粘性・やや弱 しまり・中 To-a?
- 29 10YR7/4 におい黄褐色土 粘性・強 しまり・疎
- 30 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
- 31 10YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径10mm) を含む
- 32 7.5YR6/8 褐色焼土 粘性・なし しまり・疎 To-Nb粒 (径5~10mm) を30%含む
- 33 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 黄褐色土粒をわずかに含む
- 34 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径3mm) を1%含む 掘りすぎ部分
- 35 10YR5/6 黄褐色粘土 粘性・やや強 しまり・やや密 焼土ブロックわずかに混入
- 36 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
- 37 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・弱 しまり・中 中埋浮石含む
- 38 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎
- 39 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・やや強 しまり・中
- 40 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・中 10YR5/6 明褐色焼土ブロック状に混入
- 41 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径2~5mm) を7%含む
- 42 10YR2/3 黒褐色土主体 粘性・弱 しまり・中 To-Nbを含む
- 43 7.5YR7/8 黄褐色焼土 粘性・弱 しまり・中
- 44 10YR3/3 暗褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
- 45 2.5Y4/3 オリブ褐色砂質土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 46 10YR5/4 におい黄褐色粘土 粘性・強 しまり・中
- 47 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・疎 To-Nb粒をわずかに含む
- 48 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 49 10YR5/3 におい黄褐色土 粘性・強 しまり・中
- 50 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・なし しまり・疎 下部に炭化材を含む
- 51 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径5mm) を下部中心に2%含む

第23図 第11号住居跡 (3)

<付属施設>検出されない。

遺物 (第71・72図・写真図版79・80)

非ロクロ成形の甕3点と土製品2点、金属製品3点、石器3点が出土している。62は外面頸部有段で、底部内面はやや丸みをもつ。63は外面頸部有段で、底部内面は卵形である。外面調整はヘラミガキを主体とする。64は球胴甕で、外面頸部有段、外面調整はハケメを主体とする。65はミニチュア土器でヘラナア調整される。66は手づくねのミニチュア土器である。67は四面使用の砥石、68は石錘、69は石篋と思われる。70はヤリガンナまたは刀子と思われる。71は木質部が残存する刀子の破損品、72は鎌の一部と思われる。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代 (8世紀前半代) と推定される。

第12号住居跡

遺構（第24図・写真図版20）

〈位置〉調査区中央部5区の平坦面、グリッドMⅢ t 12に位置する。第7号住居跡の北約2.5m地点にある。

〈検出状況〉Ⅱ層中で、十和田 a 降下火山灰を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。北西半は調査区外に延びているものと思われる。

〈重複状況〉重複する遺構はなく、単独で検出された。

〈規模・平面形〉一辺3.5m、隅丸方形を呈すると推定される。

〈床面積〉27㎡（推定）

〈埋土〉上位は黒褐色土主体、中位には十和田 a 降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒褐色土主体とする。

〈壁〉Ⅱ層下位～Ⅳ b 層を壁とし、やや外傾して立ち上がる。壁高は北壁52～54cm、東壁42～48cm、南壁33～36cmである。北壁の立ち上がりが不明であったことから一部掘り過ぎがある。

〈床面〉Ⅳ層下位で、硬くしまる。炭化材、土器片が出土した。

〈柱穴〉確認できない。

〈カマド〉検出されていないが、周囲の住居跡の例から判断し調査区外の北西壁に設置されているものと思われる。

〈付属施設〉検出されない。

遺物（第72図・写真図版80）

非ロクロ成形の鉢1点が出土している。外面に指ナデの調整の痕跡が認められる。畠状遺構で同一土師器片が発見された。当住居と畠状遺構は同時期に存在した可能性が大きい。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

第13号住居跡

遺構（第24・25図・写真図版21・22）

〈位置〉調査区中央部7①区の平坦面、グリッドLⅢ g 11に位置する。第8号住居跡の北25m地点にある。

〈検出状況〉Ⅱ層上位で、十和田 a 降下火山灰を含む半楕円状の黒褐色土の土層変化が確認された。

〈重複状況〉重複する遺構はなく、単独で検出された。

〈主軸〉N-40°-W

〈規模・平面形〉一辺5.0m、隅丸方形を呈すると推定される。

〈床面積〉25㎡（推定）

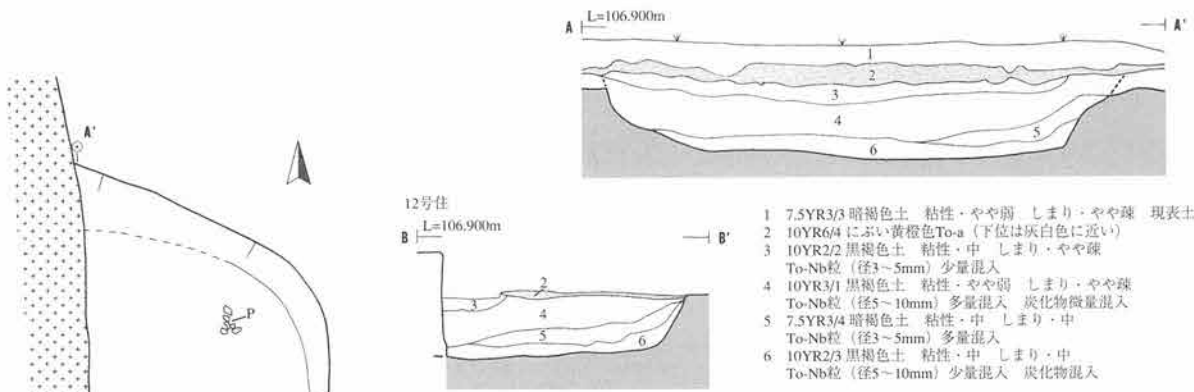
〈埋土〉上位は黒褐色土主体、中位には十和田 a 降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は黒褐色土を主体とする。

〈壁〉Ⅱ層～Ⅳ b 層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北西壁30cm、南西壁67～70cmである。

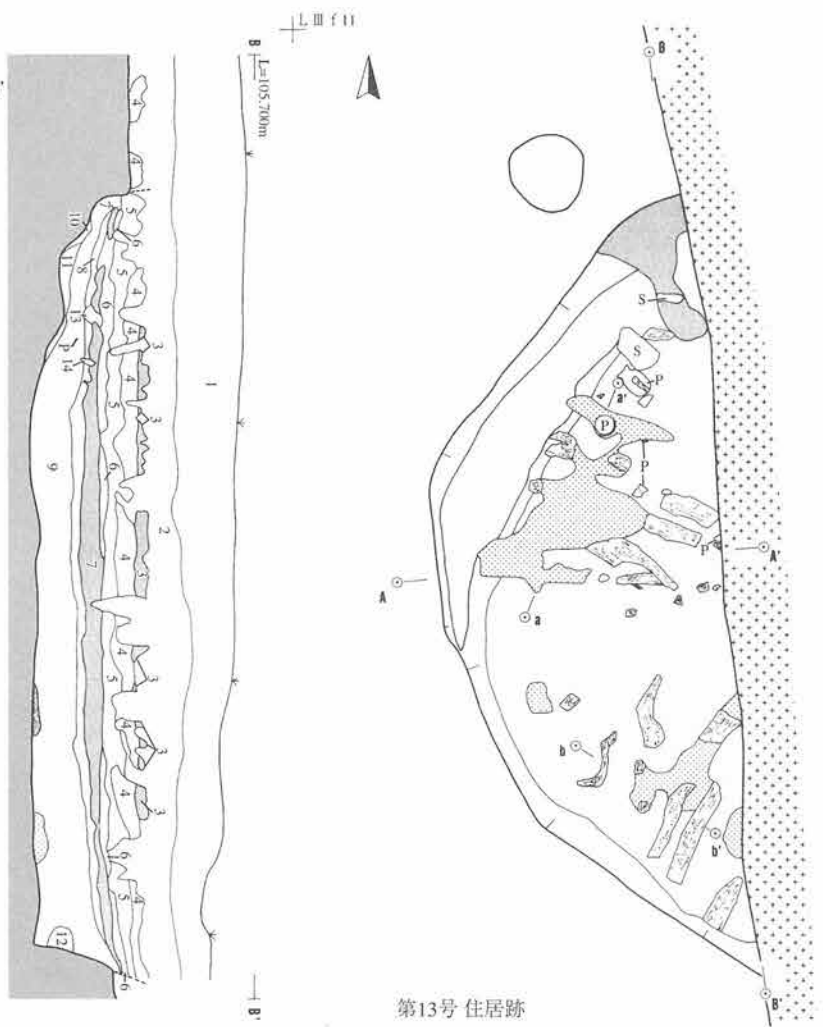
〈床面〉Ⅳ b 層下位で、硬くしまる。炭化物、焼土、土器が検出されたことから、焼失住居と思われる。北西及び南西壁に壁溝がめぐる。壁溝幅10～18cm、深さ6～15cm。

〈柱穴〉主柱穴が1基検出された。P P 1 径37×35cm、深さ74.0cm。

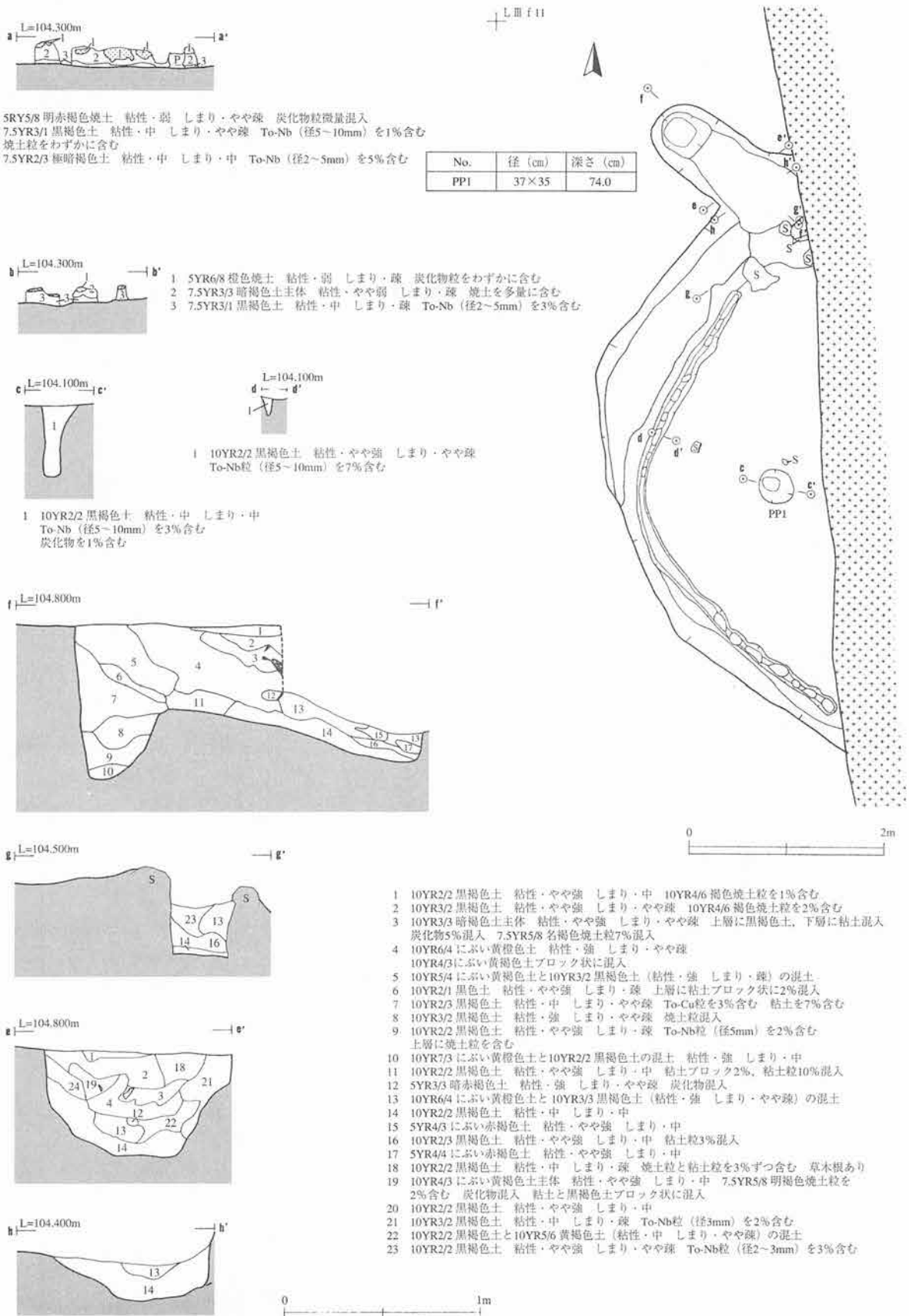
〈カマド〉北西壁中央に設置される。袖部の芯材と天井部は砂岩で構築される。燃焼部は赤変する。焼土の厚さは最大7cmである。煙道部は掘込み式で、燃焼部から上昇し煙りだし部に至り、規



- 1 表土及び攪乱
 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・密
 火山灰を含む 草本根多し
 3 10YR7/2 におい黄橙色To-a 粘性・弱 しまり・密
 4 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや密
 10YR7/3 におい黄橙色火山灰ブロックを5%含む
 5 10YR1.7/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・中
 10YR3/3 暗褐色土がブロック状に混入
 6 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
 7 2.5YR5/4 黄褐色土 To-a 粘性・弱 しまり・中
 最下部は2.5YR8/2 灰白色火山灰が堆積
 8 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎
 火山灰ブロックを3%含む
 9 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
 To-Nb粒 (径5~10mm) を全体に7%含む
 炭化物、土器片あり
 10 10YR5/6 黄褐色焼土と10YR3/2 黒褐色土の混土
 粘性・中 しまり・中 炭化物1%混入
 11 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
 砂岩ブロックを3%含む
 12 10YR3/3 暗褐色土主体 粘性・やや強 しまり・疎
 To-Cuを含む
 13 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・強 しまり・疎
 To-aを含む 草本根あり
 14 10YR3/2 黒褐色土主体 粘性・やや強 しまり・疎
 To-aを含む 草本根あり
 15 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
 To-Nb粒 (径3~10mm) を7%含む
 16 10YR4/6 褐色焼土 (粘性・弱 しまり・疎) と
 黒褐色土の混土
 17 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
 To-a混入 (攪乱)



第24図 第12号・13号住居跡 (1)



第25図 第13号住居跡 (2)

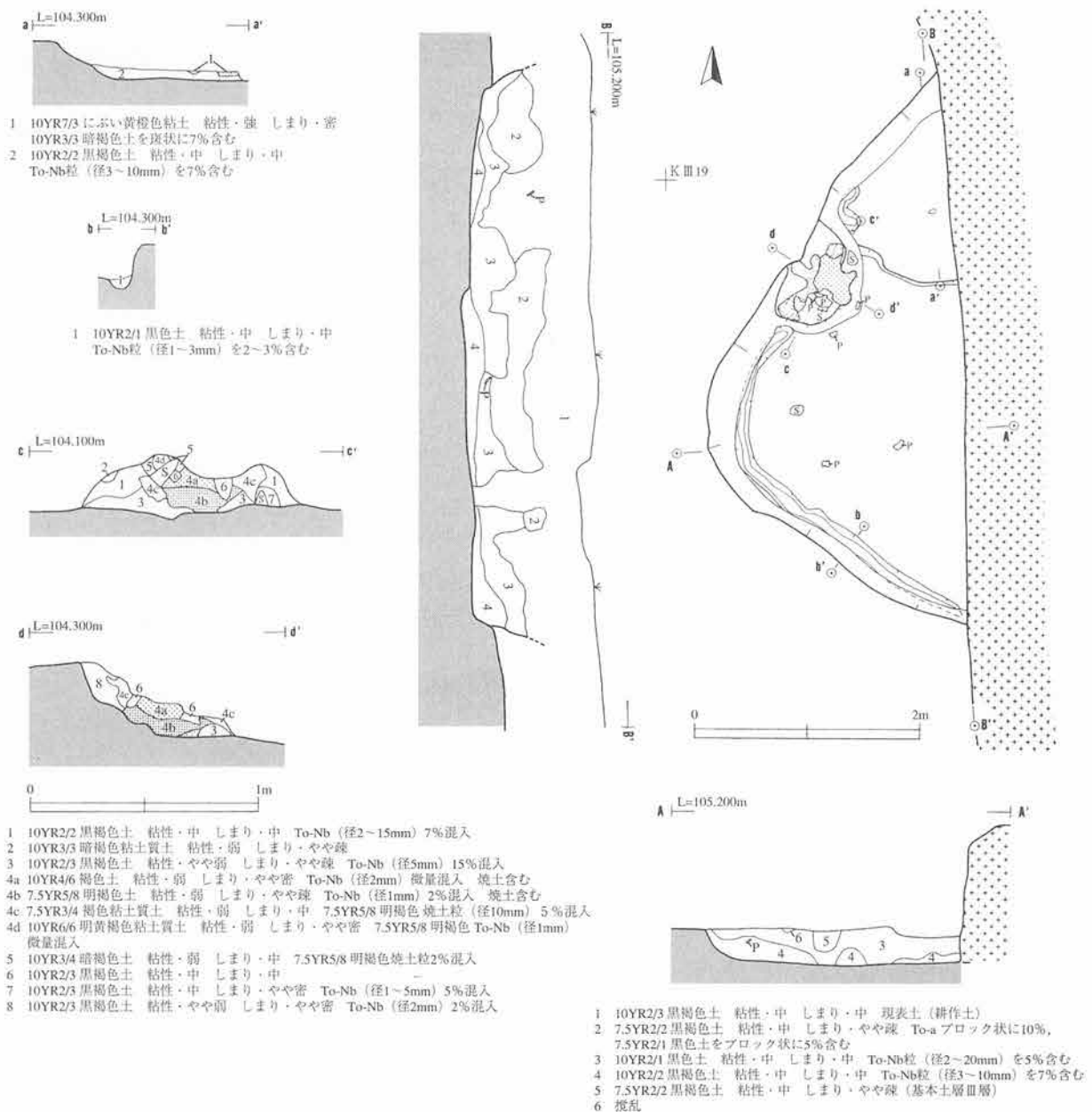
模は全長110cm、幅58~61cmである。煙出し部は径57×65cm、煙道部底面から深さ40cmのピットが掘り込まれる。煙出し部の埋土には多量の十和田 a 降下火山灰が含まれる。

<付属施設>検出されない。

遺物 (第72・73図・写真図版80)

非ロクロ成形の坏・甕類とガラス玉3点が出土した。74は平底の坏で、外面底部はヘラケズリ調整である。75・76は外面頸部有段の甕で、外面はヘラミガキ主体の調整である。77~79は瑠璃色のガラス製品で、装飾品の一部と思われる。

時期 検出状況や周囲の出土遺物、住居跡の特徴から、奈良時代(8世紀前半代)と思われる。



第26図 第14号住居跡

第14号住居跡

遺構（第26図・写真図版23）

- ＜位置＞調査区中央部7③区の平坦面、グリッドKⅢj9に位置する。第10号住居跡の北44m地点にある。
- ＜検出状況＞Ⅱ層下位で、十和田a降下火山灰を含む不整な黒褐色土の土層変化が確認された。検出が遅れたため、全体的に下げ過ぎている。東半は調査区外に延びているものと思われる。
- ＜重複状況＞重複する遺構はなく、単独で検出された。
- ＜主軸＞N-50°-W
- ＜規模・平面形＞一辺4.0m、隅丸方形を呈すると推定される。
- ＜床面積＞12.3㎡（推定）
- ＜埋土＞十和田a降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土を主体とする。
- ＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北西壁30cm、南西壁30cm。
- ＜床面＞Ⅳb層下位で、硬くしまり土器が出土している。北西、南西壁に壁溝がめぐる。壁溝幅10～18cm、深さ4～13cmを測る。
- ＜柱穴＞検出されない。
- ＜カマド＞北西壁中央部に設置される。袖部の芯材は砂岩で構築される。本体の規模は100×70cm、燃焼部の焼土範囲は40×30cm、厚さは15cmで赤変する。埋土には十和田a降下火山灰、南部浮石粒、炭化物が含まれる。煙道部、煙出し部は検出できない。
- ＜付属施設＞検出されない。

遺物（第73図・写真図版80）

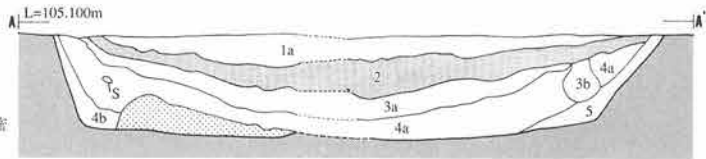
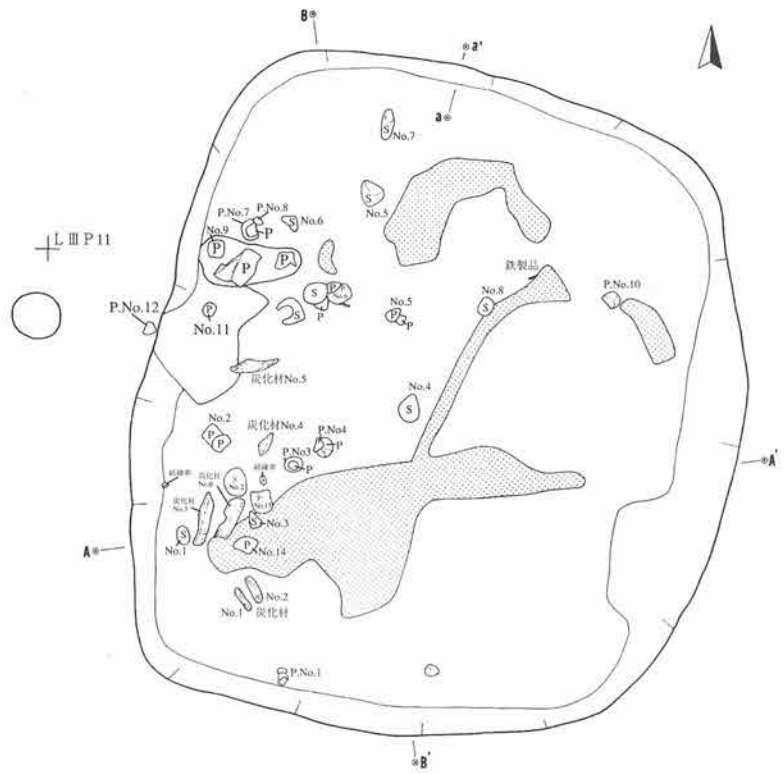
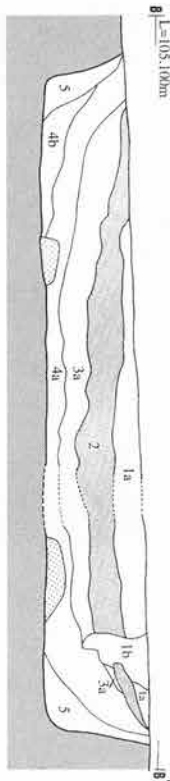
非ロクロ成形の坏1点が出土した。外面有段の平底で、内面は黒色処理される。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

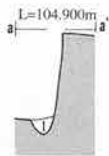
第15号住居跡

遺構（第27・28図・写真図版24～26）

- ＜位置＞調査区中央部南寄り6③区、グリッドLⅢp14に位置する。
- ＜検出状況＞Ⅱ層下位で、十和田a降下火山灰を含む方形の黒褐色土の土層変化が確認された。一部現代の住居の施設により破壊されている。
- ＜重複状況＞重複する遺構はなく、単独で検出された。
- ＜主軸＞N-75°-W
- ＜規模・平面形＞4.0×4.5mの不整隅丸方形を呈する。
- ＜床面積＞18㎡
- ＜埋土＞上位は黒褐色土主体、中位には十和田a降下火山灰がレンズ状に堆積し、下位は中礫浮石を含む黒褐色土を主体とする。
- ＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北東壁60.4cm、北西壁65.4cm、南西壁81.8cm、南東壁66.3cmである。
- ＜床面＞Ⅳb層下位で、硬くしまる。北壁と東壁の一部に幅15～20cm、深さ6～11cmの壁溝が見られる。焼土や炭化物が広がっていることから焼失住居の可能性が高い。
- ＜柱穴＞住居内外に柱穴状のピットが7基されたが主柱穴は定かではない。PP1径28×26cm、深さ9.1cm

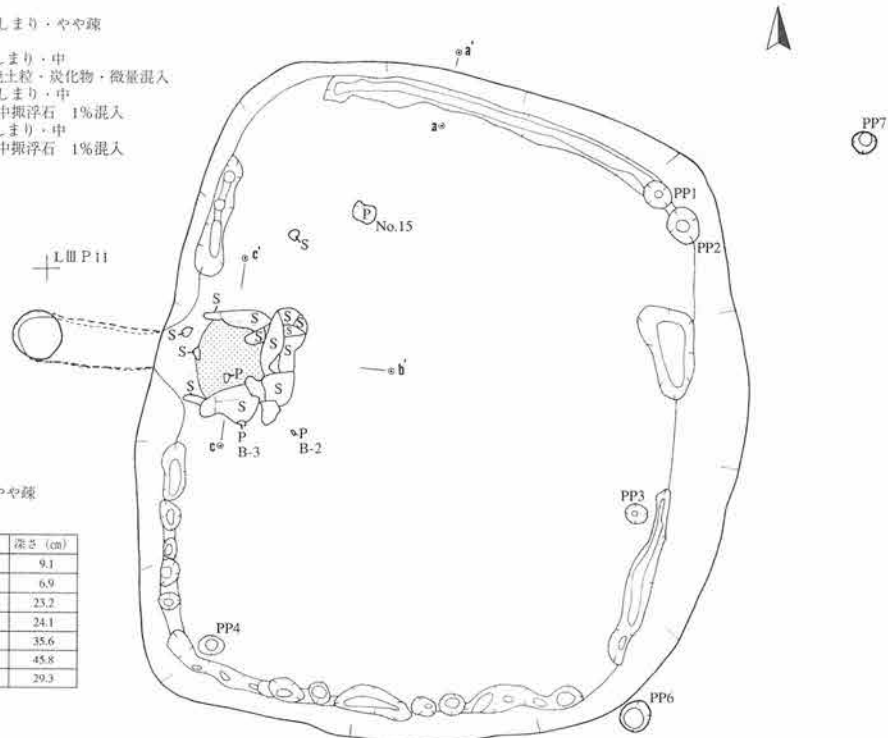


- 1a 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
To-a 微量混入
- 1b 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中
To-a 微量混入 (攪乱?)
- 2 7.5YR7/3 にぶい黄橙色To-a 粘性・弱 しまり・やや密
下部は、しまり・密
- 3a 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
To-Nb (径1~3mm) 2%混入
- 3b 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-a 微量混入 (攪乱?)
- 4a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
To-Nb (径3~5mm) 5%混入 焼土粒・炭化物・微量混入
- 4b 7.5YR2/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
To-Nb (径5~10mm) 2%混入 中振浮石 1%混入
- 5 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
To-Nb (径5~10mm) 1%混入 中振浮石 1%混入

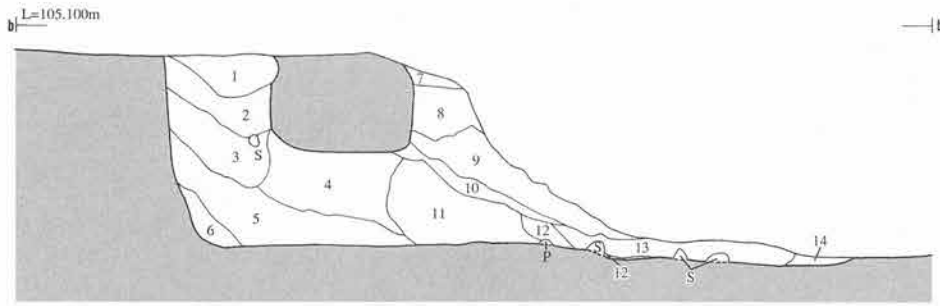


- i 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Nb (径3~10mm) 10%混入

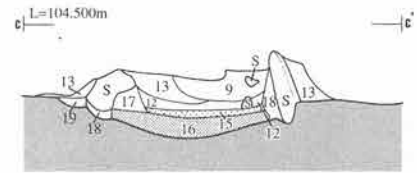
No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	25×21	9.1
PP2	29×22	6.9
PP3	18×14	23.2
PP4	20×17	24.1
PP5	29×23	35.6
PP6	24×22	45.8
PP7	18×17	29.3



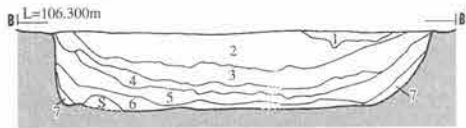
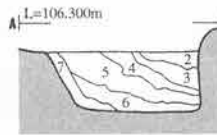
第27図 第15号住居跡 (1)



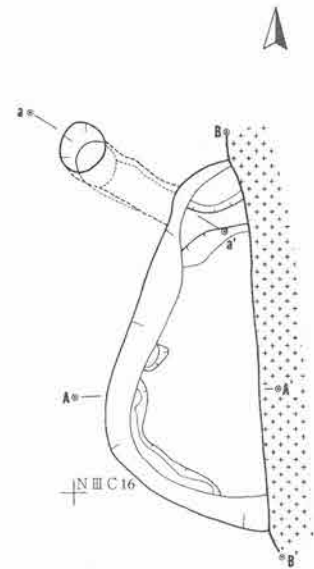
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-a 多量混入 To-Nb (径10mm) 極微量混入 炭化物粒微量混入
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-a 少量含む 炭化物粒微量混入
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土とTo-aの混土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-aをブロック状に含む 炭化物多量混入
- 4 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径3~5mm) を1%含む
- 5 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径5~10mm) 1%混入
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-aを多量に含む
- 7 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-aをブロック状に含む
- 8 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~10mm) 1%混入
- 9 7.5YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-a 少量混入
- 10 7.5YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 炭化物粒少量含む
- 11 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Cu To-Nb (径3~10mm) 1%混入
- 12 7.5YR4/6 褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb (径1~3mm) 微量混入 (下部はやや火熱を受けているか?)
- 13 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-a 多量混入 炭化物粒 微量混入
- 14 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径5~10mm) を3%含む
- 15 5YR4/6 赤褐色焼土 炭化物少量混入 To-Nb (径1~3mm) 1%混入
- 16 5YR6/8 橙色 南部浮石 強く赤変
- 17 5YR3/6 暗赤褐色土 焼土粒多量混入 To-Nb (径1~3mm) 1%混入
- 18 5YR3/3 暗赤褐色土 焼土粒多量混入 To-Nb (径1~3mm) 1%混入
- 19 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密 To-Nb (径3~10mm) 7%混入



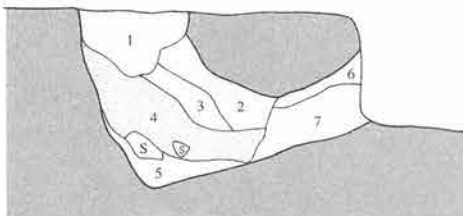
第15号 住居跡



- 1 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・中
- 2 7.5YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3mm程度) 1%混入
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb (径3~5mm) 3%混入 To-a含む
- 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb (径3~5mm) 5%混入 To-aをブロック状に多量に含む
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径3~8mm) 7%混入
- 6 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-aをブロック状に含む
- 7 10YR3/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 上部にTo-Cuを含む 下部にTo-Nb (径10mm) 程度を含む



第16号 住居跡



- 1 7.5YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-aをブロック状に少量含む To-Nb (径3~5mm) を微量含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cuを少量含む To-Nb (径3~10mm) を5%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-Cuを10%含む To-Nb (径3~5mm) を2%含む
- 4 10YR4/4 褐色焼土 粘性・やや強 しまり・疎 炭化物を少量含む 礫を含む
- 5 10YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・疎 To-Cuを微量含む
- 6 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-aをブロック状に含む To-Cuを微量含む
- 7 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Cuを微量含む To-Nb (径3~10mm) を5%含む 炭化物を微量含む

第28図 第15号 (2) ・16号住居跡

P P 2 径29×22cm、深さ6.9cm、P P 3 径18×14cm、深さ23.2cm、P P 4 径20×17cm、深さ24.1cm
P P 5 径29×23cm、深さ35.6cm、P P 6 径24×22cm、深さ45.8cm、P P 7 径18×17cm、深さ29cm。
＜カマド＞北西壁中央部に設置される。本体の規模は110×90cm、袖部の芯材と天井部は砂岩で構築される。燃焼部は強く赤変し、焼土の範囲は65×55cm、厚さは最大12cmを測る。煙道部はくり抜き式で、燃焼部からわずかに上昇して煙りだし部に至る構造をもつ。規模は全長120cm、幅32～42cm、煙出し部は、径40×38cm、上部から底面までの深さは72cmである。煙出し部の埋土には十和田 a 降下火山灰、南部浮石、炭化物が含まれる。

＜付属施設＞

遺物（第73・74図・写真図版80・81）

非ロクロ成形の坏・甕類と土製品2点が出土した。81は外面有段の坏で、底部は丸底風平底である。内外面の調整はヘラミガキである。82～85も底部は丸底風平底である。87～89は外面頸部に沈線状の段がみられる甕である。いずれも輪積み痕が明瞭である。90は球胴甕で、外面頸部に沈線状の段がみられる。外面はヘラケズリ調整である。91・92は土製紡錘車である。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

第16号住居跡

遺構（第28図・写真図版27）

＜位置＞調査区南部5②区 グリッドNⅢb16、NⅢc16に位置する

＜検出状況＞Ⅱ層中で、十和田 a 降下火山灰を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。東半が調査区外に延びている。

＜重複状況＞重複する遺構はなく、単独で検出された。

＜主軸＞ N-45°-W

＜規模・平面形＞一辺約2.5mの隅丸方形を呈すると推定される。

＜床面積＞6.25㎡(推定)

＜埋土＞上位は南部浮石を含む黒褐色土主体、下位は十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土を主体とする。

＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、直立気味に立ち上がる。壁高は北西壁45cm、南西壁43.1cmである。

＜床面＞Ⅳb層下位で、硬くしまる。南西壁に壁溝がめぐる。幅9～12cm、深さ3～6cm。

＜柱穴＞検出されない。

＜カマド＞本体と燃焼部は確認されない。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から下降し煙りだし部に至る構造をもつ。規模は長さ110cm、幅28～32cm、煙出し部は、径38×35cm、上部から底面までの深さは70cmで、底部はやや掘り込まれている。煙出し部の埋土には十和田 a 降下火山灰、南部浮石、炭化物が含まれる。

＜付属施設＞検出されない。

遺物 出土していない。

時期 検出状況等から、奈良時代（8世紀代）と推定される。

第17号住居跡

遺構（第29図・写真図版28）

＜位置＞調査区南部5②区、グリッドMⅢ n14に位置する。

＜検出状況＞Ⅱ層面で、不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。東半は調査区外にあるものと思われる。

＜重複状況＞重複する遺構はなく、単独で検出された。

＜主軸＞不明

＜規模・平面形＞一辺約3.2mの隅丸方形を呈すると推定される。

＜床面積＞10.24㎡(推定)

＜埋土＞上位は十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土を下位は南部浮石、中掬浮石を含む黒褐色土を主体とする。

＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳ b 層を壁とし、直立気味に立ち上がる。壁高は西壁44.7cm、南壁54.9cmである。

＜床面＞Ⅳ b 層下位で、硬くしまる。西側壁、南側壁に幅7～15cm、深さ3～10cmの壁溝がめぐる。

＜柱穴＞検出されない。

＜カマド＞検出されない。

＜付属施設＞検出されない。

遺物 出土していない。

時期 検出状況等から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

第18号住居跡

遺構（第29図・写真図版29）

＜位置＞調査区中央部南寄り6③区、グリッドLⅢ m12に位置する。

＜検出状況＞Ⅱ層面で、十和田 a 降下火山灰を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。東半は調査区外にあるものと思われる。

＜重複状況＞重複する遺構はなく、単独で検出された。

＜主軸＞不明

＜規模・平面形＞一辺約2mの隅丸方形を呈すると推定される。

＜床面積＞4㎡(推定)

＜埋土＞上位は十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む暗褐色土主体、下位は十和田 a 降下火山灰、南部浮石、を含む黒褐色土を主体とする。

＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳ b 層を壁とし、緩やかに立ち上がる。壁高は西壁53.5cm、南壁57.7cmを測る。

＜床面＞Ⅳ b 層下位で、硬くしまる。

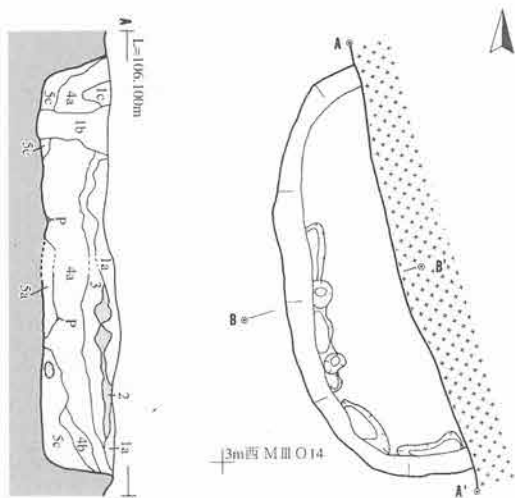
＜柱穴＞床面に P P 1 と P P 2 が検出されたが、主柱穴とは断定できない。 P P 1 径29×21cm（推定）、深さ10cm、 P P 2 径28×26cm（推定）、深さ11.3cm。

＜カマド＞検出されない。

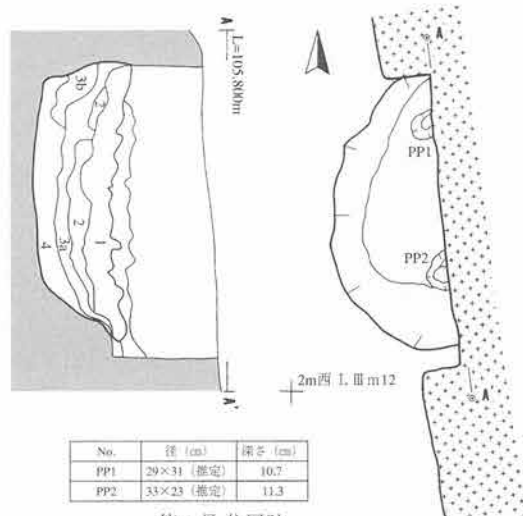
＜付属施設＞検出されない。

遺物 出土していない。

時期 検出状況等から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

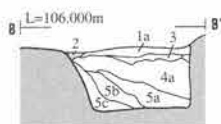


第17号 住居跡



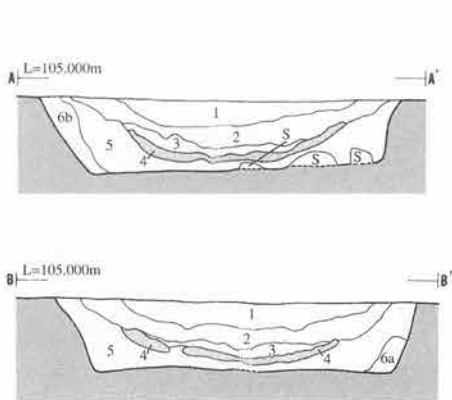
第18号 住居跡

No.	径 (cm)	高さ (cm)
PP1	29×31 (推定)	10.7
PP2	33×23 (推定)	11.3

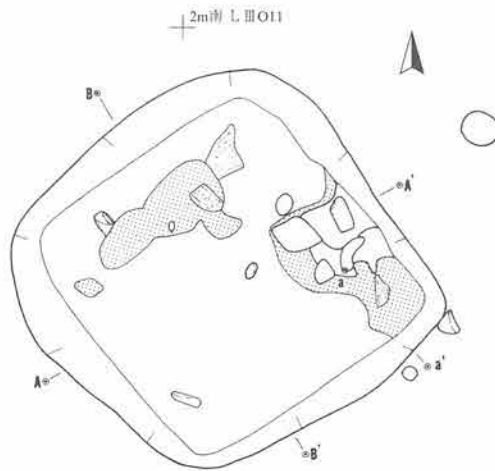


- 1a 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中
- 1b 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中、下に下がるに従って疎 後世の擾乱層
- 1c 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・密 後世の擾乱層
- 2 10YR5/8 黄褐色 To-a 粘性・弱 しまり・密
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径1~3mm) 2%混入
- 4a 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~8mm) 5%混入
- 4b 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Cu 7%混入
- 5a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~10mm) 10%混入
- 5b 10YR2/1 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb (径3~5mm) 1%混入
To-Cu 微量混入
- 5c 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb (径5~10mm) 5%混入
To-Cu 2%混入 焼土をブロック状に含む

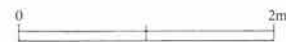
- 1層の上の部分 7.5YR4/3 褐色土 現在の表土
粘性・やや弱 しまり・強 礫を含む 10mm程度のTo-Nbを1%含む
雑物がかなり混入している。
- 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Cuを微量含む
以上の2層は遺構の埋土としては扱わないものである。
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-a部分は密 To-aブロック状に多量に含む
To-Nb 10%含む
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-aをブロック状に少量含む
To-Nb (径3~10mm) 10%混入 To-Cuを微量含む
- 3a 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Cuを含む
To-Nb (径5~10mm) を含む 上面と下面にTo-aを少量含む
- 3b 10YR2/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・疎 To-aを少量含む
To-Nb (径3~5mm) を2%含む
- 4 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 上面にTo-aを微量含む
To-Nb (径5~10mm) を10%含む To-Cuを微量含む



- 1 10YR2/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~10mm) 1%混入
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR6/3 におい黄褐色
To-a ブロック状に混入 To-Nb (径1~10mm) 1%混入
- 3 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径5~10mm) 1%混入
- 4 10YR5/4 におい黄褐色 To-a 10YR3/2 黒褐色土を含む To-Nb (径3~5mm) 1%混入
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-a ブロック状に少量混入
To-Nb (径3~5mm) 1%混入
- 6a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-a 斑状に少量混入
- 6b 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径1~3mm) 1%混入



第19号 住居跡



第29図 第17~19号住居跡 (1)

第19号住居跡

遺構（第29・30図・写真図版30・31）

<位置>調査区中央部南寄り6③区 グリッドLⅢn10,11、LⅢo10,11、第15号住居跡の北側に位置する。

<検出状況>Ⅱ層面で不整な黒褐色土の土層変化が確認された。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<主軸> N-65°-E

<規模・平面形>一辺約2.5mの隅丸方形を呈する。

<床面積>6.25㎡

<埋土>上位は南部浮石を含む黒褐色土主体、中位に十和田a降下火山灰をブロック状に含む暗褐色土、
下位は南部浮石をわずかに含む黒褐色土を主体とする。

<壁>Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、緩やかに立ち上がる。壁高は北西壁58.3cm、南西壁54.9cm、南東壁
51.6cm、北西壁52.4cmである。

<床面>Ⅳb層下位で、硬くしまる。南西壁に幅12～15cm、深さ7～13cmの壁溝がめぐる。焼土、炭化材
が散在することから焼失住居の可能性がある。

<柱穴>柱穴状ピット9基が検出された。P P 1 径19×17cm、深さ10.2cm、P P 2 径18×17cm、深さ5.9cm、
P P 3 径24×16cm、深さ6.0cm、P P 4 径20×14cm、深さ10.0cm、P P 5 径19×15cm、深さ10.1cm、
P P 6 径16×12cm、深さ9.3cm、P P 7 径18×15cm、深さ10.1cm、P P 8 径20×18cm、深さ27.0cm、
P P 9 径30×28cm、深さ38.6cm。

<カマド>北東壁中央に設置される。残存状況は良好である。本体の規模は70×50cmで、袖部の芯材と天
井部は砂岩で構築される。燃烧部は強く赤変し、焼土の範囲は、50×30cm 厚さは15cmである。
煙道部はくり抜き式で、燃烧部から下降して煙出し部に至る構造をもつ。規模は全長128cm、
煙出し部径は30×27cm、上部から底面までの深さは80cmである。各部の埋土には十和田a降下
火山灰、焼土が含まれる。

<付属施設>北東隅に貯蔵穴1基が確認された。開口部径90×66cm、底部径35×15cm、深さ31cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出状況等から、奈良時代（8世紀前半代）と推定される。

第20号住居跡

遺構（第31図・写真図版32）

<位置>調査区中央部6①区の平坦面、グリッドMⅢa9に位置する。南方19m地点に第21号住居跡が検
出された。

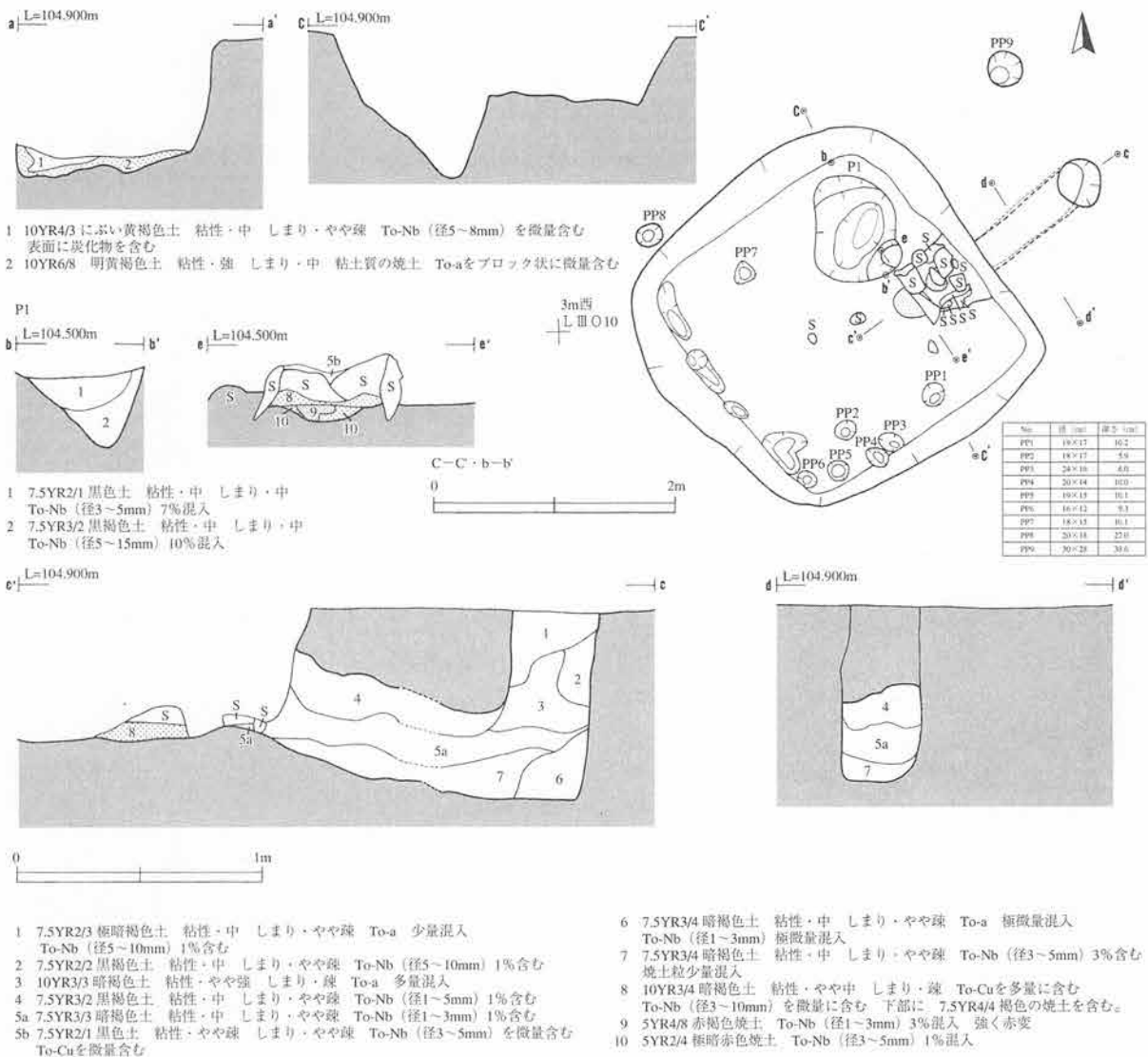
<検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰を含む不整な黒褐色土の土層変化が確認された。遺構は東西
調査区外に延びるものと思われる。

<重複状況>単独で検出された。

<主軸> N-55°-W

<規模・平面形>調査区外に延びているため全容は明らかではないが、検出部分や周囲の住居跡の例から
推定し一辺約5.6m、隅丸方形を呈すると思われる。

<床面積>推定28㎡



第30図 第19号住居跡(2)

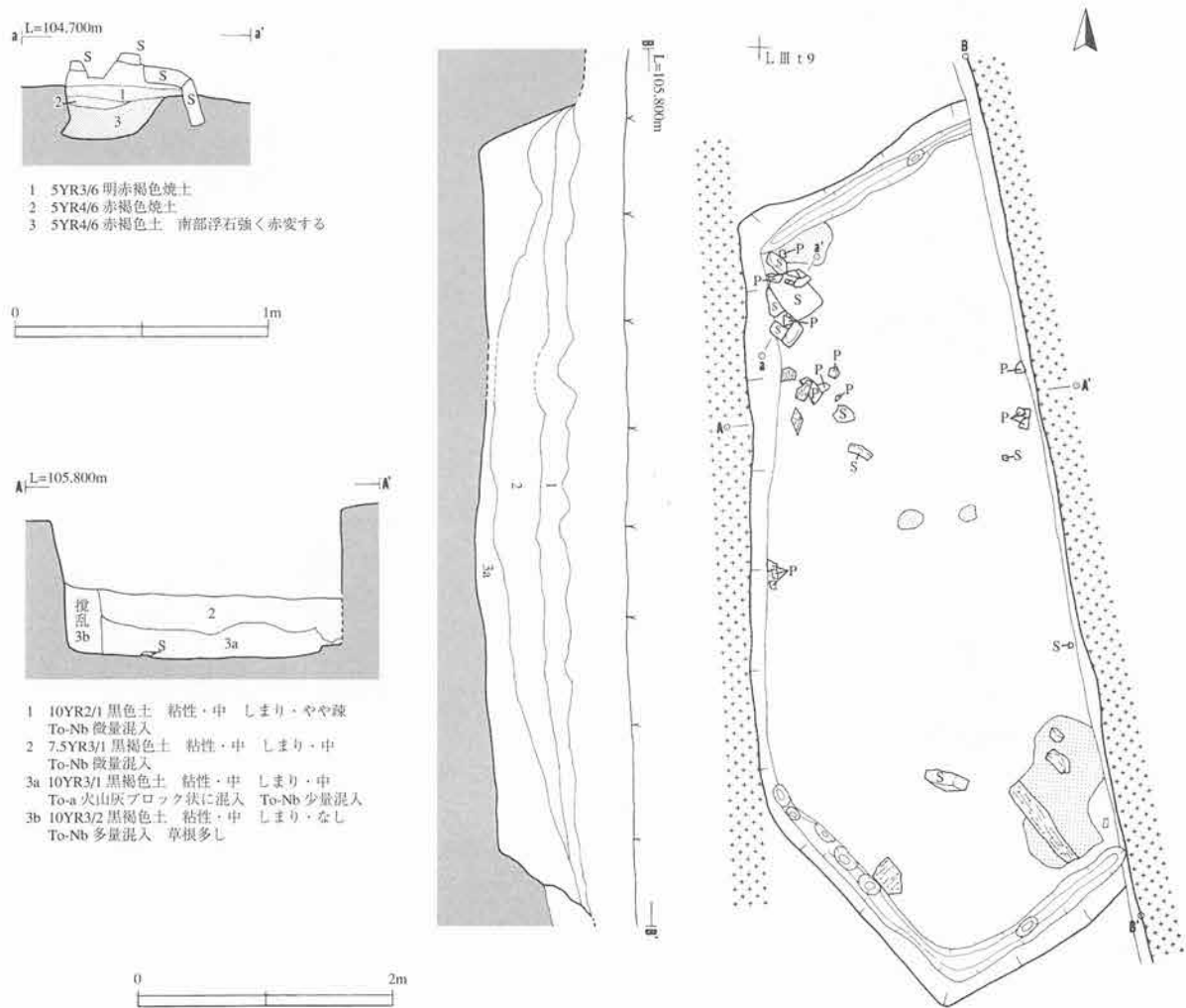
<埋土>上層は十和田a降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土主体、下層は南部浮石を含む黒褐色土を主体とする。

<壁>Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、やや外傾して立ち上がる。壁高は、北西壁55cm、南西壁37～45cm、南東壁40～43cmを測る。

<床面>Ⅳb層相当で、硬くしまる。焼土、炭化材、土器片が散在することから焼失住居と思われる。炭化材はナナカマドであるとの分析鑑定結果が得られ、住居の構築部材と推定される。北西、南西、南東側に壁溝がめぐる。壁溝は幅10～20cm、深さ6～15cmを測る。

<柱穴>確認できない。

<カマド>カマドの本体部は検出されないが、カマドを構築したと思われる礫と焼土が北西壁の北寄りに検出されたことから、本体部はここに設置されたものと思われる。焼土の範囲50×30cm、焼土の厚さは21cmである。煙道は確認されない。



第31図 第20号住居跡

<付属施設> 検出されない。

遺物 (第75図・写真図版82)

非ロクロ成形の甕2点と石器2点が出土している。93の外面調整はヘラケズリ、内面がヘラナデで、底部に木葉痕が認められる。94は内外面ともヘラナデ調整である。95は不定形石器、96は凹石である。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、平安時代(10世紀前半代)と推定される。

第21号住居跡

遺構（第32図・写真図版33・34）

<位置>調査区中央部6①区の平坦面、グリッドMⅢf 9に位置する。南東方向6.5m地点に第22号住居跡が検出された。

<検出状況>Ⅱ層中で、十和田a降下火山灰をブロック状に含む半楕円形状の黒褐色土の広がり確認された。北西半は調査区外に延びているものと思われる。

<主軸>N-20°-E

<重複状況>北東壁側でピット2基と重複する。当遺構の方が古いとおもわれる。

<規模・平面形>一辺約4m、隅丸方形を呈するものと推定される。

<床面積>推定17.6m²

<埋土>上層は黒褐色土主体、下層は十和田a降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土を主体とする。

<壁>Ⅱ層下位～Ⅳ層を壁とし、やや外傾して立ち上がる。壁高は、北東壁68～70cm、南東壁62cm、南西壁61～62cmを測る。

<床面>Ⅴ層上面で、硬くしまる。炭化材、炭化したイネ科草木、焼土、土器、礫が散在することから焼失住居と思われる。炭化材はコナラ属との分析結果を得た。

<柱穴>2基検出された。P P 1 径31～29cm、深さ14.6cm P P 2 径33～27cm（推定）、深さ30.6cm

<カマド>北東壁やや東寄りに設置される。本体の規模は95×85cmを測る。カマドの残存状況は良好である。袖部の芯材と天井部は砂岩で構築され、袖部には粘土質シルトが貼り付けられている部分もある。燃焼部は強く赤変し、厚さ25cm（最大）、範囲75×38cmの現地性の焼土が形成されている。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から緩やかに上がり煙出し部に至る構造をもつ。規模は全長140cm、幅30～38cmを測る。煙出し部は径53×49cm、煙道部底面までの深さは66cmである。楕円状の小ピットが掘り込まれ、大小の礫が埋まっている。これは上部施設の一部と推定される。各部の埋土には焼土粒や炭化物が含まれる。

<付属施設>南東壁側に出入り口の一部と推定される円形のピットが検出された。

P 7 2 開口部径69×60cm、底部径45×42cm、深さ65.2cm P 7 3 開口部径59×57cm、底部径28×27cm、深さ54.6cm。出入り口部分の全長は住居の壁から115cmを測る。

遺物（第75・76図・写真図版82・83）

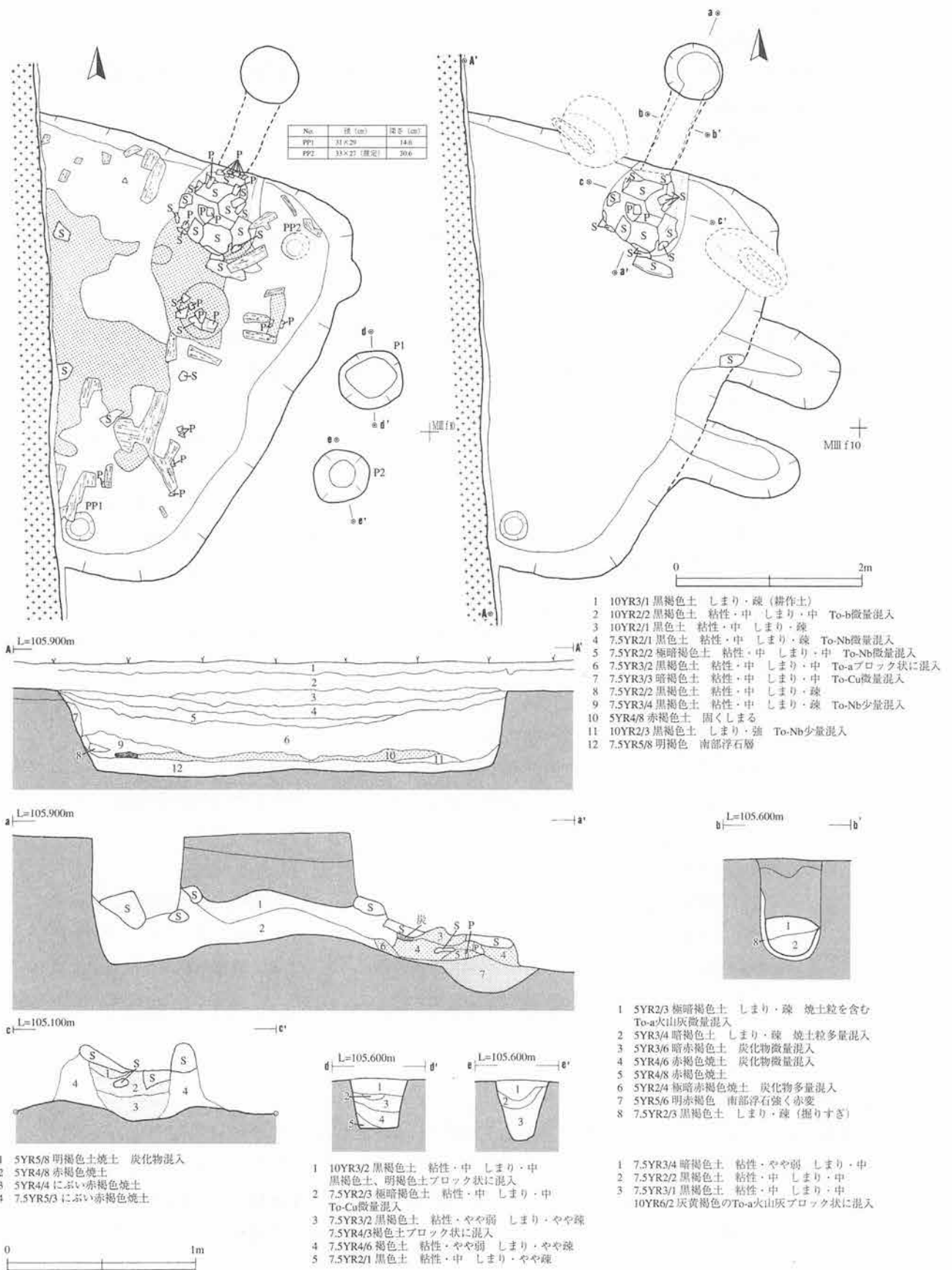
非ロクロ成形の甕3点とロクロ成形の甕4点、石器1点が出土した。98の底部には木葉痕が認められる。100～103はロクロ使用の甕で、100の外面にはヘラナデ調整が、101の外面にはヘラケズリ調整がみられる。103の底部には回転糸切り痕がある。104は磨製石斧の刃部である。時期 検出状況や出土遺物の特徴から、平安時代（10世紀前半代）と推定される。

第22号住居跡

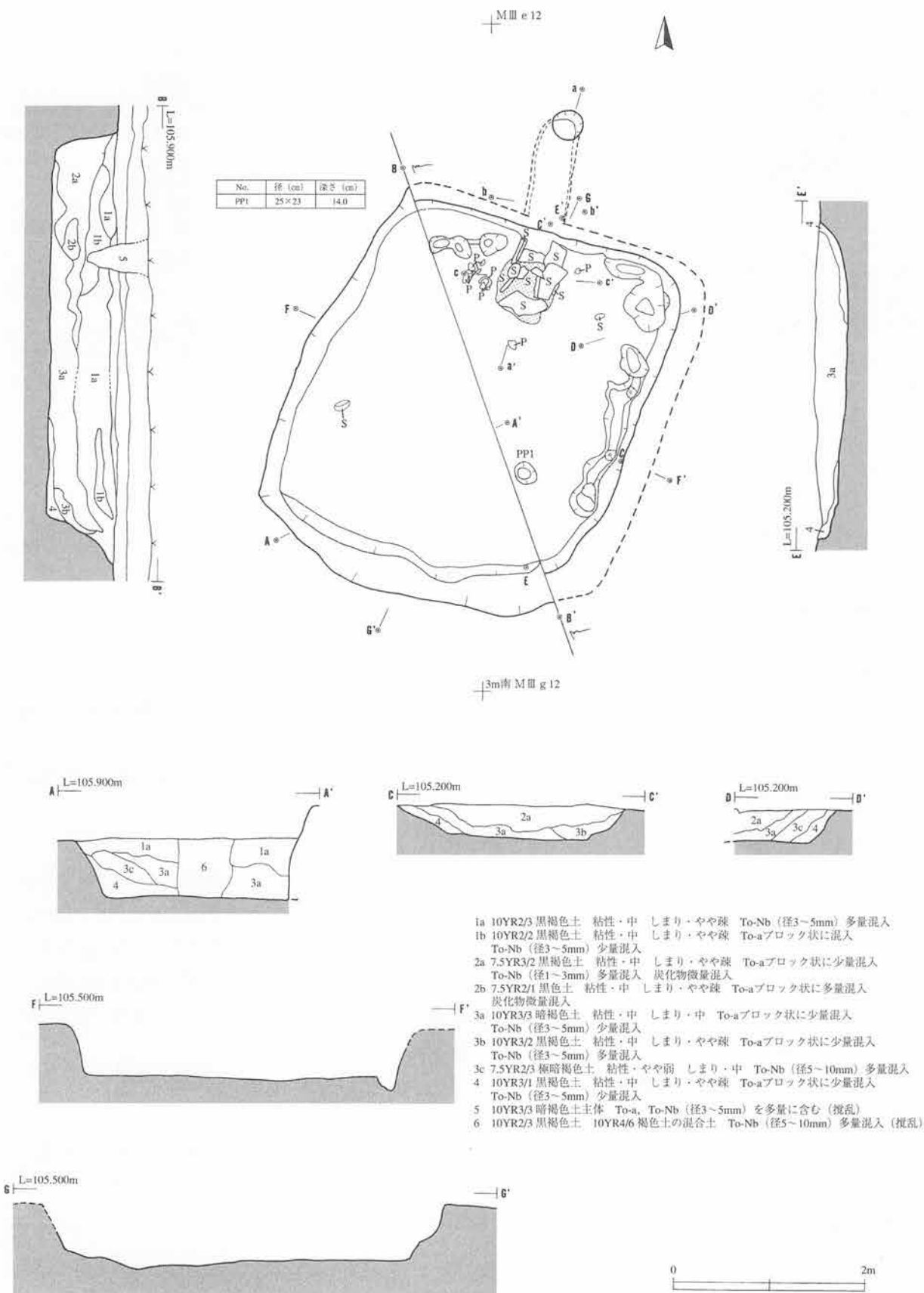
遺構（第33・34図・写真図版35～37）

<位置>調査区中央部6①区の平坦面、グリッドMⅢf 11に位置する。

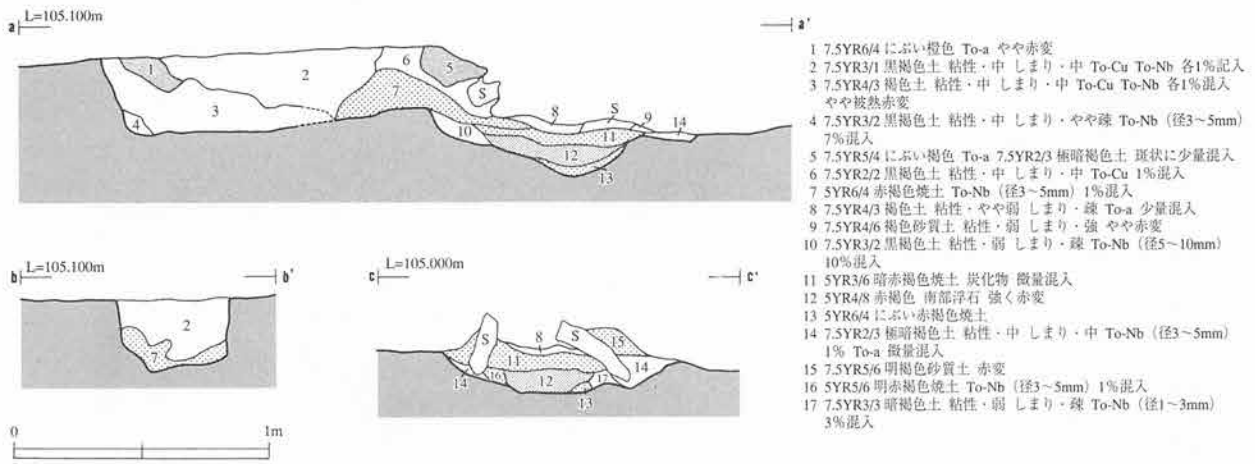
<検出状況>平成11年度、Ⅱ層面で、十和田a降下火山灰を含む不整な黒褐色土の土層変化が確認された。一部攪乱（水道管）が見られる。（東側は調査区外のため平成11年度は未調査）平成12年度の調査の際、東半部分が下水道の下より検出された。掲載した遺構図面は平成11年度と12年



第32図 第21号住居跡



第33図 第22号住居跡 (1)



第34図 第22号住居跡 (2)

度の実測図を合成したものである。

<重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。

<主軸>N-15°-E

<規模・平面形>4.0×3.5m、隅丸方形を呈している。

<床面積>約14m²

<埋土>十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土を主体とする。

<壁>II~IV b 層を壁とし、床面から直立して立ち上がる。壁高は北西壁50~55cm、南西壁55~62cm (11年度)、北東壁28~38cm 南東壁20~36cm (12年度)

<床面>V層上面で、硬くしまり、北東壁の一部と南東壁に壁溝がめぐる。壁溝は幅15~40cm、深さ5~10cmを測る。

<柱穴>1基検出された。P P 1 径25×23cm、深さ14.0cm

<カマド>北東壁ほぼ中央に設置される。本体の規模は80×60cmを測る。カマドの残存状況は良好である。

袖部の芯材と天井部は砂岩で構築される。燃焼部の焼土の範囲は60×55cm、焼土の厚さは16cmで、強く赤変している。煙道部はくり抜き式と思われるが、下水道設置により上部は破壊されたものと推定される。燃焼部から緩やかに上がり、煙出し部に至る。規模は全長115cm幅42~45cmを測る。煙出し部は径約30×28cm、煙道部底面までの深さは66cmである。各部の埋土には焼土粒や炭化物が含まれ、上部には十和田 a 降下火山灰が認められる。

<付属施設>検出されない。

遺物 (第76・77図・写真図版83)

ロクロ成形の坏1点と甕2点が出土している。105の外面には「口」の字の墨書がみられる。内面は黒色処理され、ミガキ調整される。106は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、平安時代 (10世紀前半代) と推定される。

第23号住居跡

遺構（第35・36図・写真図版38・39）

- <位置>調査区中央部5区の平坦面、グリッドMⅢ p 14に位置する。第11号住居跡の北東3m地点にある。
- <検出状況>Ⅱ層中で、十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む不整な黒褐色土の土層変化が確認された。
東半は調査区外に延びるものと推定される。東半は12年度の調査の際に検出された。
- <重複状況>第12号溝状遺構と重複する。当遺構が古い。
- <主軸>N-75°-W
- <規模・平面形>一辺5.5m、方形を呈する。
- <床面積>約30.25㎡
- <埋土>十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む黒色土を主体とする。
- <壁>Ⅱ層～Ⅳ b 層を壁とし、やや外傾して立ち上がる。壁高は北西壁43～45cm、南西壁42～48cm（平成11年）、南東壁37～42cm、北東壁35～40cm（平成12年度）である。
- <床面>Ⅳ b 層下部で、硬くしまる。南西壁に壁溝が部分的に設けられる。壁溝幅13～25cm、深さ4～10cm。
- <柱穴>主柱穴4基が検出された。P P 1 径43×42cm、深さ62.4cm、P P 2 径38×36cm、深さ68.5cm、P P 3 径38×33cm、深さ52.0cm、P P 4 径40×33cm、深さ78.0cmを測る。
- <カマド>北西壁中央部に設置される。残存状況は良くなく、袖部の芯材と燃焼部の焼土である。燃焼部は強く赤変する。焼土の範囲は22×18cm、焼土の厚さは最大10cmである。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から緩やかに下降し煙り出し部に至る構造をもつ。煙道部の全長143cm、幅38～50cm、煙出し部は径35×30cm、上部から底面までの深さは73cmである。各部の埋土には焼土ブロック、炭化物がわずかに含まれ、火山灰、南部浮石粒が混入する。
- <付属施設>検出されない。

遺物（第77図・写真図版83）

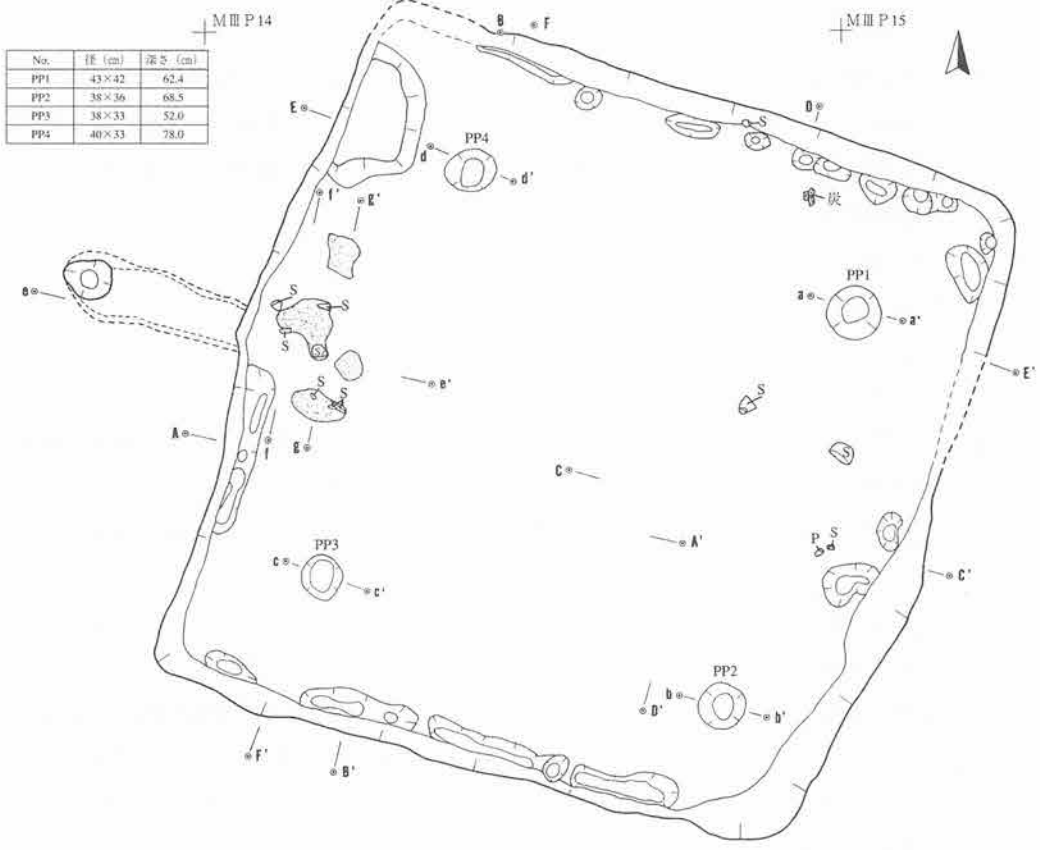
甕が2点出土している。108の外側はヘラナデとヘラケズリ、内側はヘラナデ調整される。109はロクロ使用の甕で、底部に回転糸切り痕が認められる。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、平安時代（10世紀前半代）と推定される。

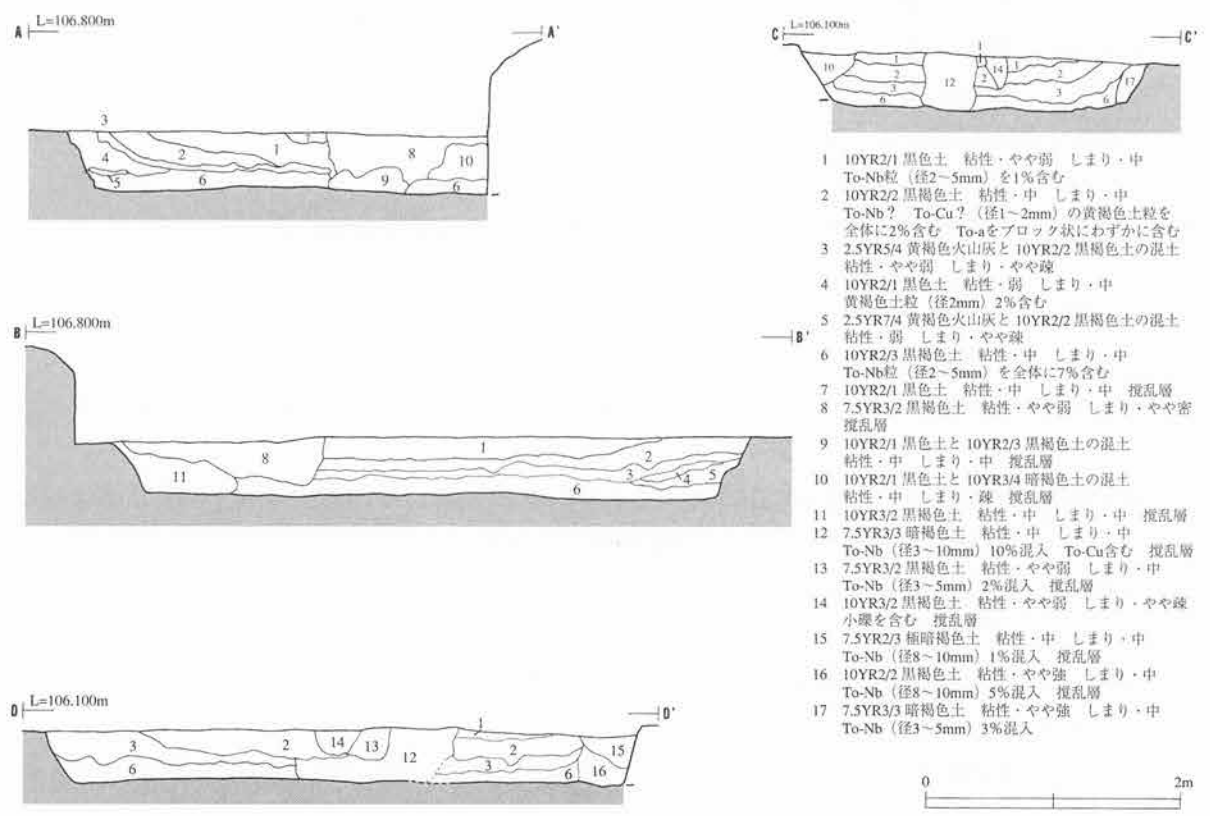
第24号住居跡

遺構（第37・38図・写真図版40・41）

- <位置>調査区中央部6①区の平坦面、グリッドMⅢ i 10に位置する。第22号住居跡の南西約9m地点にある。
- <検出状況>Ⅱ層中で、十和田 a 降下火山灰を含む不整形の黒褐色土の土層変化が確認された。調査区に未移転の箇所があったため、遺構は分割して調査した。
- <重複状況>重複する遺構はなく、単独で検出された。
- <主軸>N-90°-E
- <規模・平面形>一辺4.7m、隅丸方形を呈する。
- <床面積>22.1㎡
- <埋土>上層は黒褐色土主体、下層は十和田 a 降下火山灰をブロック状に含む黒褐色土を主体とする。

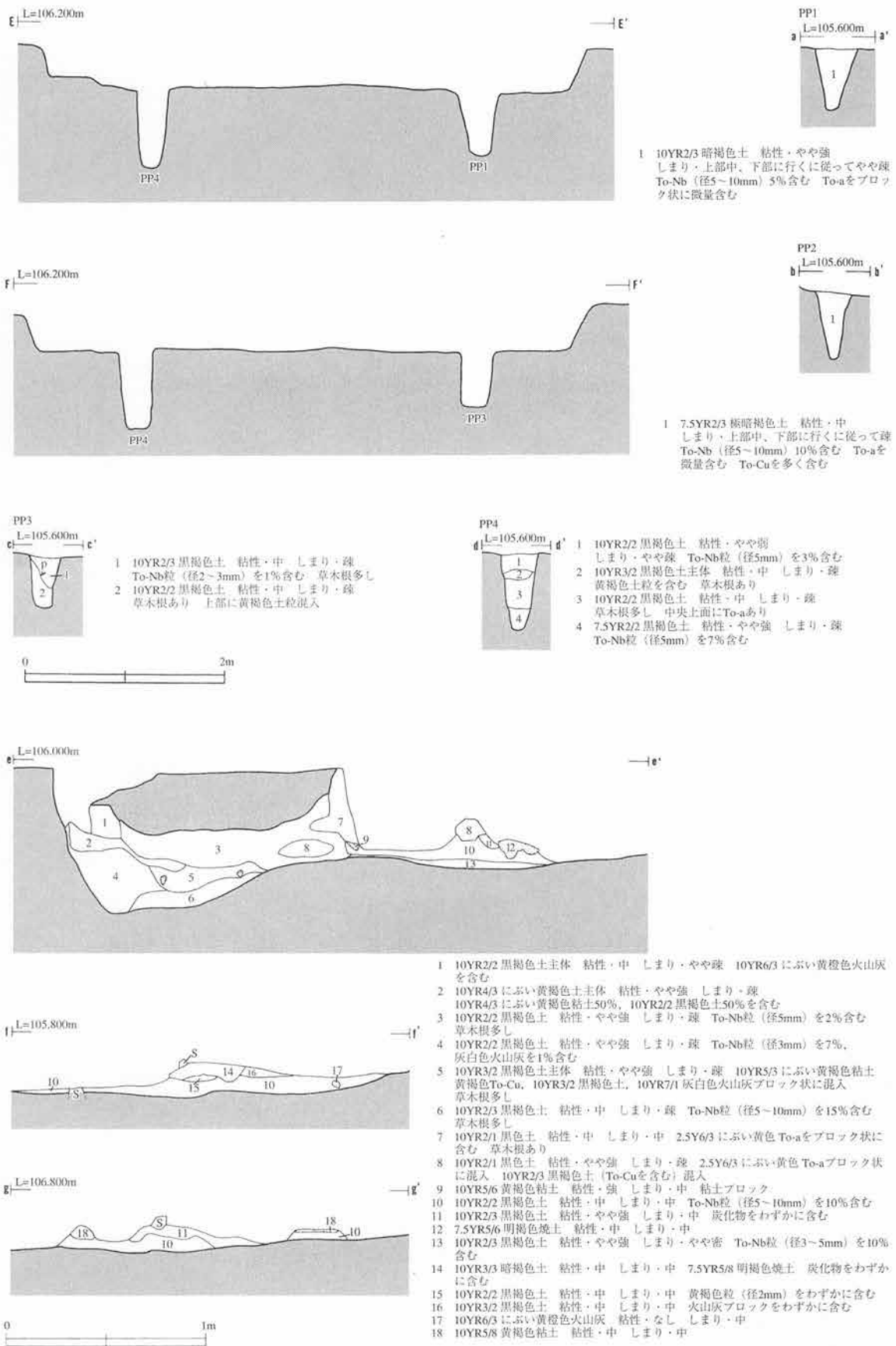


No.	径 (cm)	深さ (cm)
PP1	43×42	62.4
PP2	38×36	68.5
PP3	38×33	52.0
PP4	40×33	78.0

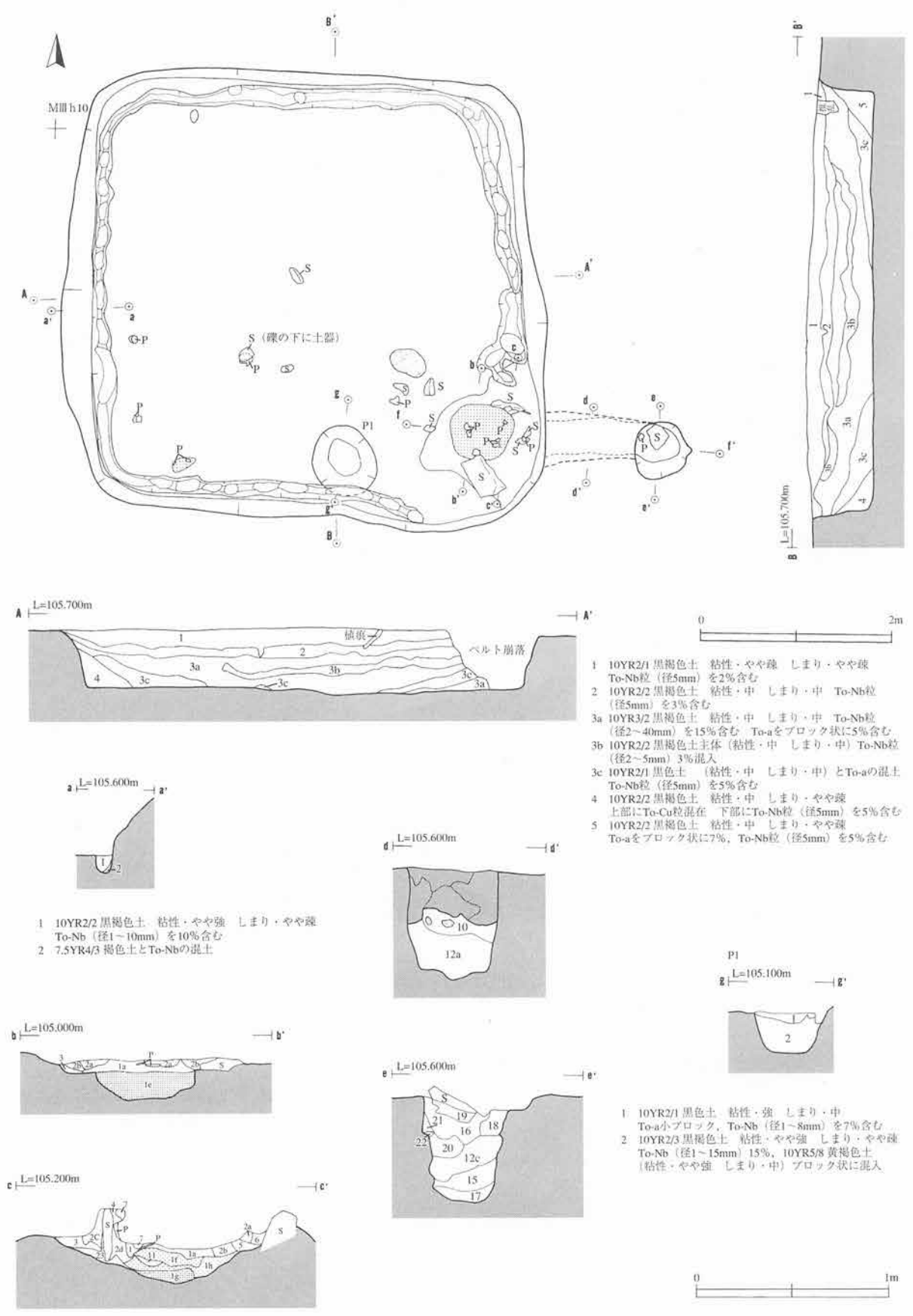


- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb粒 (径2-5mm) を1%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb? To-Cu? (径1-2mm) の黄褐色土粒を全体に2%含む To-aをブロック状におおむね含む
- 3 2.5YR5/4 黄褐色火山灰と 10YR2/2 黒褐色土の混土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・中 黄褐色土粒 (径2mm) 2%含む
- 5 2.5YR7/4 黄褐色火山灰と 10YR2/2 黒褐色土の混土 粘性・弱 しまり・やや疎
- 6 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径2-5mm) を全体に7%含む
- 7 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 攪乱層
- 8 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 攪乱層
- 9 10YR2/1 黒色土と 10YR2/3 黒褐色土の混土 粘性・中 しまり・中 攪乱層
- 10 10YR2/1 黒色土と 10YR3/4 暗褐色土の混土 粘性・中 しまり・疎 攪乱層
- 11 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 攪乱層
- 12 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3-10mm) 10%混入 To-Cu含む 攪乱層
- 13 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb (径3-5mm) 2%混入 攪乱層
- 14 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 小礫を含む 攪乱層
- 15 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径8-10mm) 1%混入 攪乱層
- 16 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb (径8-10mm) 5%混入 攪乱層
- 17 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb (径3-5mm) 3%混入

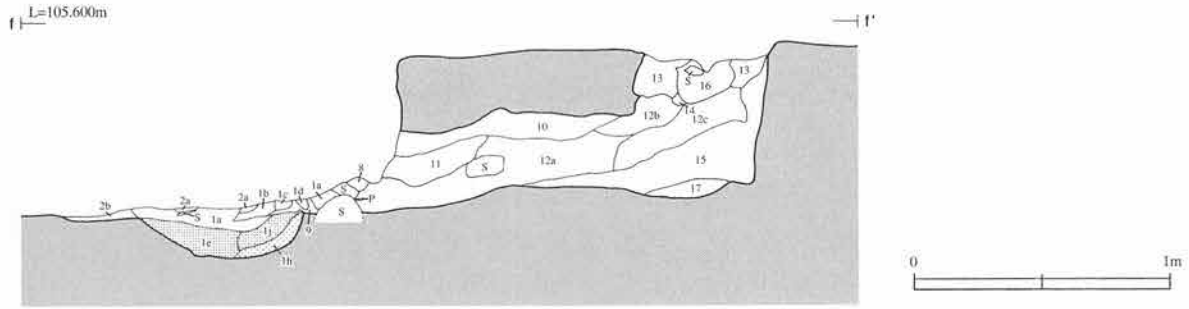
第35図 第23号住居跡 (1)



第36図 第23号住居跡 (2)



第37図 第24号住居跡 (1)



- 1a 7.5YR4/6 褐色粘土質土 粘性・強 しまり・中
To-Nb (径2-5mm) 2%, 焼土粒 (径2mm) 混入
- 1b 7.5YR4/4 褐色粘土質土 粘性・弱 しまり・やや密 To-Nb (径3-5mm),
To-Cuを1%含む 焼土粒微量混入
- 1c 10YR2/3 黒褐色粘土質土 粘性・やや強 しまり・密 焼土粒混入
- 1d 7.5YR2/3 極暗褐色粘土質土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 1e 2.5YR4/8 赤褐色南部浮石 粘性・なし しまり・中
- 1f 7.5YR5/8 明褐色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・やや密
To-Nb (径2-3mm) 微量混入 To-Cu 2%混入
- 1g 2.5YR5/8 明赤褐色南部浮石 粘性・なし しまり・中
- 1h 7.5YR5/8 明褐色-2.5YR4/8 赤褐色焼土主体に10YR2/3 黒褐色土
(粘性・弱 しまり・疎) 混入
- 1i 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性・弱 しまり・やや疎 焼土粒混入
- 1j 5YR6/8 橙褐色粘土質土 粘性・弱 しまり・中 To-Nb (径3-5mm) 5%混入
To-Cu 10%混入
- 2a 10YR5/6 黄褐色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-Nb (径3-5mm)
微量混入
- 2b 10YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性・強 しまり・中 To-Nb (径5mm) 2%混入
- 2c 10YR5/8 黄褐色粘土質土 粘性・やや強 しまり・中
To-Cu 3%, To-Nb (径5mm) 微量混入
- 2d 7.5YR4/4 褐色粘土質土 粘性・強 しまり・中 To-Nb (径5mm) 微量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-Nb (径3-5mm) 微量混入
- 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎
- 5 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径10mm) 微量混入
- 7 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土質土 粘性・やや強 しまり・中
To-Cu 3%, To-Nb (径5mm) 微量混入
- 8 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Cu, 焼土粒微量混入
10YR6/8 粘土質土ブロックを含む
- 9 10YR2/3 黒褐色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・密
- 10 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
木根あり To-Cu混入 To-aブロック状に混入
- 11 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-Cu微量混入
- 12a 7.5YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-aブロック,
To-Cu 2%混入 煙道部カマド側に粘土質土ブロック混入
- 12b 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 10YR4/6 褐色粘土質
土 (粘性・弱 しまり・密) 10YR6/3 (粘性・弱 しまり・密)
ブロック状に混入
- 12c 7.5YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・中
To-a (10YR5/4と10YR6/3) ブロック状に混入
- 13 10YR6/6 明黄褐色粘土質土 粘性・中 しまり・密
To-Cu, To-Nb (径2mm) 微量混入
- 14 10YR4/4 褐色粘土質土 粘性・やや弱 しまり・やや密
- 15 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Cu微量混入
- 16 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土質土 (粘性・中 しまり・密) と
10YR6/6 明黄褐色粘土質土 (粘性・やや強 しまり・密) が混在
10YR3/4 暗褐色土 (粘性・中 しまり・やや疎) を含む
- 17 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb (径5mm),
To-Cu微量混入 焼土粒を含む
- 18 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・密 To-a (10YR6/3)
ブロック, To-Cu, 焼土粒微量混入
- 19 10YR3/3 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 10YR6/6
明黄褐色粘土質土ブロック状に混入
- 20 10YR2/2-2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
10YR6/3 にぶい黄褐色粘土質土ブロック To-Cu (2%) 混入
- 21 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 To-Cu微量混入
- 22 10YR6/4 粘土質土 粘性・中-やや弱 しまり・密

第38図 第24号住居跡(2)

<壁> II層~IV b層を壁とし、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は北壁59~64cm、西壁60~67cm、南壁59~66cm、東壁55~61cmを測る。

<床面> IV層下位で、硬くしまる。各壁際に壁溝がめぐる。壁溝幅10~28cm、深さ5~20cm。

<柱穴> 住居内に小ピットが1基検出されたが、主柱穴とは考えられない。

<カマド> 東壁の南隅に設置される。本体は砂岩で構築された袖部と燃焼部が残る。燃焼部は強く赤変する。焼土の範囲は65×55cm、厚さは最大16cmを測る。煙道部はくり抜き式で、燃焼部から緩やかに上昇し煙り出し部に至る構造をもち、規模は全長150cm、幅40×55cmである。煙り出し部は径58×55cm、上部から底面までの深さは51cmである。

<付属施設> 南壁側に貯蔵穴と思われるほぼ円形のピット1基を検出した。開口部径75cm、底部径40cm、深さ40cmである。

遺物 (第77図・写真版83)

坏1点と甕の破片2点、石器2点が出土している。110はロクロ成形の坏で、内面は黒色処理され、ヘラミガキ調整される。底部には回転糸切り痕がみられる。111・112は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。同一個体の可能性がある。113・114はいずれも石皿である。

時期 検出状況や出土遺物の特徴から、平安時代(10世紀前半代)と推定される。

第1号住居状遺構

遺構（第39図・写真図版42）

＜位置＞調査区中央部7②区、グリッドLⅢc10に位置する。第9号住居跡の西1.6mの地点にある。

＜検出状況＞Ⅱ層上面で、十和田a降下火山灰を含む楕円形状の黒褐色土の土層変化が確認された。カマド及び柱穴ともに検出されないことから竪穴状遺構とした。

＜重複状況＞第9号溝状遺構と重複する。当遺構が古いと思われる。

＜規模・平面形＞2.6×3.5m、隅丸方形を呈する。＜床面積＞9.1m²

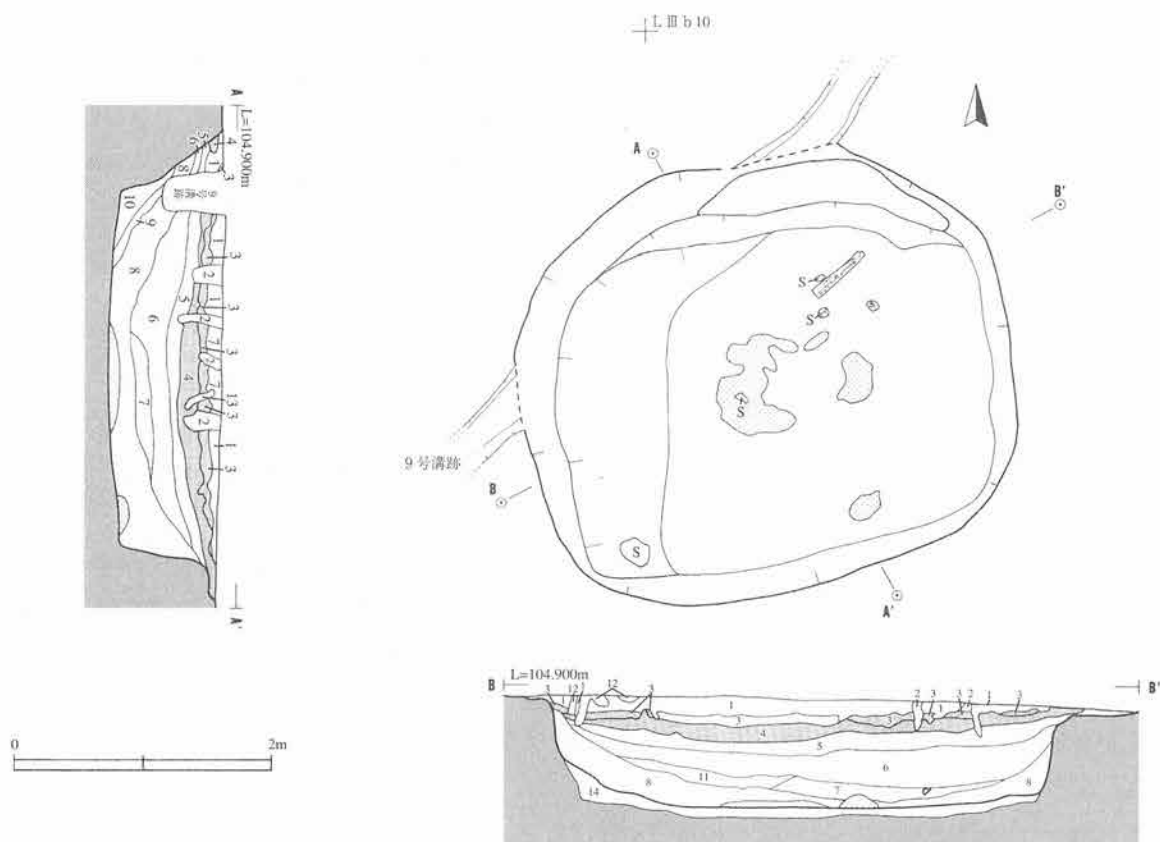
＜埋土＞黒褐色土を主体とし、中位には十和田a降下火山灰がレンズ状に堆積する。

＜壁＞Ⅱ層下位～Ⅳb層を壁とし、西側はゆるやかに、東側は直立して立ち上がる。壁高は北西壁65～67cm、南西壁46～58cm、南東壁72～78cm、北東壁63～68cmを測る。

＜床面＞Ⅳb層下位で、硬くしまる。炭化物、焼土が中央付近から検出された。北東側に床面から30cmほどの高まりがみられる。＜柱穴＞検出されない。＜カマド＞検出されない。＜付属施設＞なし

遺物 出土していない。

時期 検出状況や周囲の出土遺物・住居跡の特徴から、奈良時代と思われる。



- | | |
|--|---|
| <p>1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・中
 2 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・弱 しまり・疎
 10YR5/3 にふい黄褐色 To-a を2%含む (攪乱)
 3 10YR4/1 灰白色と10YR6/2 灰黄褐色のTo-a
 4 10YR7/3 にふい黄褐色のTo-a 下位に10YR8/1 灰白色が混入
 粘性・弱 しまり・やや密
 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや疎 10YR7/6 明黄褐色To-Nb
 (径5～8mm) を1%、10YR8/2 灰白色 To-a を3%含む
 6 10YR3/3 黒褐色土 粘性・弱 しまり・中 10YR7/6 明黄褐色 To-Nb
 (径1～8mm) 5%混入
 7 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎 10YR7/6 明黄褐色 To-Nb
 (径1～15mm) 3%混入</p> | <p>8 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR8/4 浅黄褐色 To-Nb
 (径1～10mm) 3%混入
 9 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎 10YR8/6 黄褐色 To-Nb (径1～5mm) 1%混入
 10 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 10YR6/6 明黄褐色 To-Nb
 (径1～10mm) 2%混入
 11 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR7/8 黄褐色 To-Nb
 (径3～12mm) 3%混入
 12 10YR4/3 にふい黄褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 (攪乱)
 13 10YR3/1 黒褐色土と10YR8/2 灰白色 To-a の混土 粘性・中 しまり・やや疎 (攪乱)
 14 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 10YR8/6 黄褐色の To-Nb 15%混入
 はり床と考えられる</p> |
|--|---|

第39図 第1号住居状遺構

2. 土坑

調査区全体で51基の土坑を検出した。平面形は円形もしくは楕円形を基調とする。遺物が出土した土坑は11基である。用途・性格については不明である。各々の規模・形状等については以下にまとめた。

第1号土坑（第40図・写真図版43）

＜位置・検出状況＞7②区、LⅢc 10に位置する。検出面はIV a層上面で、円形の黒色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形はほぼ円形で、断面形はU字形を呈する。

＜規模＞開口部径103cm、底部径68×50cm、深さ110cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒褐色土を主体とする。

＜底面＞Ⅶ層相当で、やや丸みを帯びる。

＜壁＞わずかに外傾して立ち上がる。

＜出土遺物＞貝殻腹縁圧痕を施す口縁部片1点が出土している。（第78図・写真図版83）

＜時期＞検出面や周囲の出土遺物から判断し、縄文時代早期中葉に属すると思われる。

第2号土坑（第40図・写真図版43）

＜位置・検出状況＞7①区、LⅢl 12に位置する。検出面はIV a層で、南部浮石を多量に含む褐色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は不整形、断面形は浅鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径140×97cm、底部径130×58cm、深さ17cmである。

＜埋土＞南部浮石を主体とする。

＜底面＞Ⅵb層相当で、やや丸みを帯びる。

＜壁＞緩やかに外傾して立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞検出面や周囲の出土遺物から判断し、縄文時代早期中葉に属すると思われる。

第3号土坑（第40図・写真図版43）

＜位置・検出状況＞7①区、LⅢl 12に位置する。検出面はIV a層で、楕円状の黒褐色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は楕円形で、断面形は鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径97×61cm、底部径37×35cm、深さ21cmである。

＜埋土＞黒褐色土と褐色土を主体とする。（焼土粒を含む）下部に黄褐色土が堆積する。

＜底面＞ほぼ平坦である。

＜壁＞外傾して立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞検出面や周囲の出土遺物から判断し、縄文時代早期中葉に属すると思われる。

第4号土坑（第40図・写真図版43）

＜位置・検出状況＞調査区南部6②区、LⅢt 11,12に位置する。Ⅵa層で、黒褐色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径86×60cm、底部径64×45cm、深さ20cmである。

<埋土>黒褐色土と褐色土を主体とする。南部浮石を含む。

<底面>ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代早期中葉に属すると思われる。

第5号土坑（第40図・写真図版44）

<位置・検出状況>6②区、LⅢr11に位置する。Ⅵa層で、黒褐色土の広がりが確認された。第12号焼土の南側に位置する。

<形状>平面形は不整形、断面形はV字型を呈する。

<規模>開口部径94×66cm、底部径50×20cmの不整形、深さ38cmである。

<埋土>上位は南部浮石を主体とする。下位は暗褐色土と黄褐色土である。

<底面>丸味を帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代早期中葉に属すると思われる。

第6号土坑（第40図・写真図版44）

<位置・検出状況>6②区、LⅢq11に位置する。第12号焼土の北側に位置する。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径129×70cm、底部径111×61cmの不整形、深さ15cm前後である。

<埋土>上位は南部浮石を主体とする。下位は暗褐色土と褐色土である。

<底面>ほぼ平坦である。

<壁>直立気味に立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代早期に属すると思われる。

第7号土坑（第40図・写真図版44）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢf17に位置する。検出面はⅢ層上面で、黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形で、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径100×85cm、底部径60×45cm、深さ43cmである。

<埋土>南部浮石を含む黒褐色土と極暗褐色土。上位に炭化物粒が混入する。

<底面>Ⅴ層相当で、やや丸みを帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

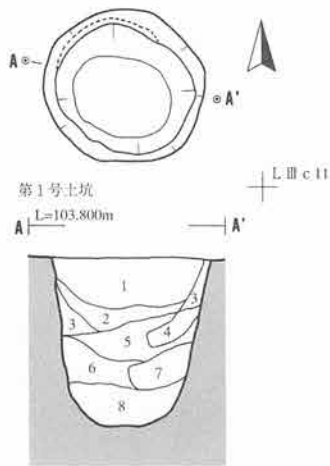
<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、検出面等から縄文時代前期に属すると思われる。

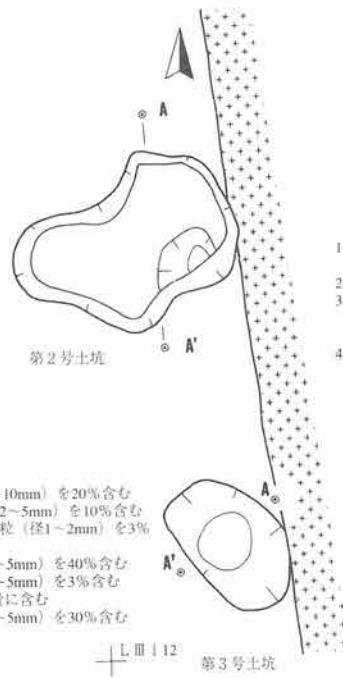
第8号土坑（第40図・写真図版44）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢg17に位置する。検出面はⅢ層で、南部浮石を含む黒褐色土の土層変化が確認された。

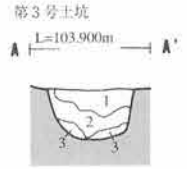
<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。



- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径2~10mm) を20%含む
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・疎 To-Nb粒 (径2~5mm) を10%含む
- 3 10YR4/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb粒 (径1~2mm) を3%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性・弱 しまり・密 To-Nb粒 (径2~5mm) を40%含む
- 5 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 To-Nb粒 (径2~5mm) を3%含む
- 6 10YR6/4 褐色土 粘性・弱 しまり・疎 八戸火山灰を多量に含む
- 7 10YR4/4 褐色土 粘性・なし しまり・密 To-Nb粒 (径1~5mm) を30%含む
- 8 10YR7/1 灰白色砂質土 粘性・なし しまり・密



- 第2号土坑
- L=103.800m
- 1 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・弱 しまり・やや疎 To-Nb粒 (径3~10mm) を10%含む
 - 2 10YR5/8 明褐色南部浮石 粘性・弱 しまり・疎
 - 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性・中 しまり・密 To-Nb粒 (径2~10mm) を7%含む 八戸火山灰の漸移層
 - 4 10YR4/6 褐色土 粘性・中 しまり・密 To-Nb (径3~5mm) を5%含む 7.5YR5/8 明褐色焼土粒を1%含む



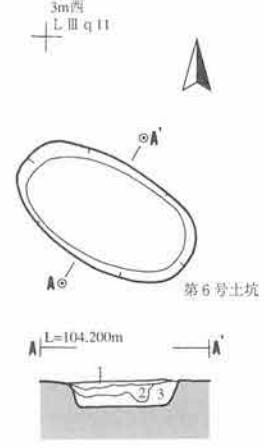
- 第3号土坑
- L=103.900m
- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロックを3%含む
 - 2 10YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 焼土ブロックを2%含む
 - 3 10YR5/6 黄褐色土 粘性・中 しまり・やや密



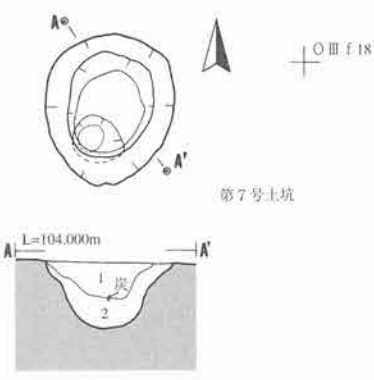
- 1 10YR6/6 明黄褐色南部浮石 (径3~20mm) を主体とし、中に10YR2/1 黒色土を含む 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cuを多量に含む
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb (径3~10mm) を内部に5%、表層部に多量に含む
- 3 10YR5/6 黄褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb (径3~10mm) を5%含む 炭化物粒を微量含む



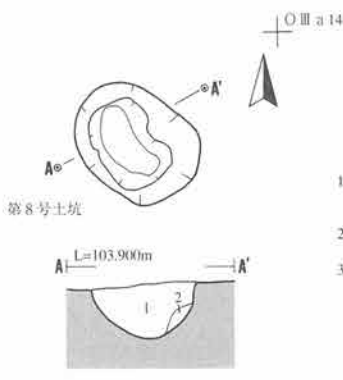
- 1 7.5YR6/8 橙色のTo-Nb (径3~20mm) を主体として間に7.5YR4/6褐色土を含む 粘性・やや弱 しまり・中
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~5mm) を3%含む To-Cuを多量に含む
- 3 10YR5/8 黄褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Cuを多量に含む



- 1 10YR6/6 明黄褐色南部浮石 (径3~20mm) を主体に10YR5/6の黄褐色土と10YR4/4の褐色土を含む 粘性・弱 しまり・やや密
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・弱 しまり・やや密 To-Cuを7%含む To-Nb (径3~5mm) を2%含む
- 3 10YR4/6 褐色土 粘性・弱 しまり・密 To-Cuを7%含む To-Nb (径3~8mm) を1%含む



- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~20mm) 少量混入 炭化物微量混入
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~15mm) 多量混入



- 1 7.5YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb多量に含む
- 2 7.5YR5/6 明褐色土 粘性・弱 しまり・疎 To-Nb多量に含む
- 3 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb多量に含む



第40図 第1~8号土坑

<規模>開口部径88×66cm、底部径48×20cm、深さ45cmである。

<埋土>黒褐色土、明褐色土、黒褐色土の3層からなる。いずれも南部浮石を含む。

<底面>V層相当で、丸味を帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第9号土坑（第41図・写真図版45）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ a 14に位置する。検出面はⅢ層下位で、南部浮石を含む黒色土の広がり確認された。

<形状>平面形は長方形、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径174×136cm、底部径155×110cm、深さ28cmである。

<埋土>南部浮石を含む黒色土の単層である。

<底面>V層上面で、ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第10号土坑（第41図・写真図版45）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ h 14に位置する。検出面はⅢ層で、南部浮石を含む黒色土の広がり確認された。

<形状>平面形は長方形で、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径270×119cm、底部径256×112cm、深さ14cmである。

<埋土>上位は黒色土、下位は黒褐色土。いずれも南部浮石を含む。

<底面>Ⅳ a 層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>直立ぎみに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第11号土坑（第41図・写真図版45）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ g 15に位置する。検出面はⅢ層面で、南部浮石を含む黒褐色土の広がり確認された。

<形状>平面形は隅丸方形、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径122×78cm、底部径104×64cm、深さ20cmである。

<埋土>上位は黒色土、下位は南部浮石を多量に含む黒褐色土である。

<底面>Ⅳ a 層相当で、南側にやや傾斜がある。

<壁>直立ぎみに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第12号土坑（第41図・写真図版45）

<位置・検出状況>5区の平坦面、NⅢ e 15に位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色土の広がり確認された。

第35号土坑に切られる。

<形状>平面形は略円形、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径168cm、底部径157cm、深さ16cmである。

<埋土>上位は黒色土、下位は黒褐色土。いずれも南部浮石を含む。

<底面>V層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第13号土坑（第41図・写真図版46）

<位置・検出状況>調査区4区の緩やかな傾斜地、NⅢ s 17に位置する。検出面はIV b層で、黒褐色土の土層変化が確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径130×89cm、底部径105×70cm、深さ18cmである。

<埋土>南部浮石を含む黒褐色土である。

<底面>V層相当で、平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>116は網目状撚糸文が施文される。（第78図・写真図版83）

<時期>検出面から、縄文時代前期に属すると思われる。

第14号土坑（第41図・写真図版46）

<位置・検出状況>調査南部4区のNⅢ t 17に位置する。IV b層で、黒色土の広がり確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径105×80cm、底部径90×60cm、深さ14cmを測る。

<埋土>南部浮石を含む黒褐色土である。

<底面>V層相当で、平坦である。

<壁>ゆるやかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代前期に属すると思われる。

第15号土坑（第41図・写真図版46）

<位置・検出状況>4区の緩やかな傾斜地、NⅢ t 17に位置する。検出面はIV b層で、黒色の土層変化が確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径90×70cm、底部径65×50cm、深さ18cmである。

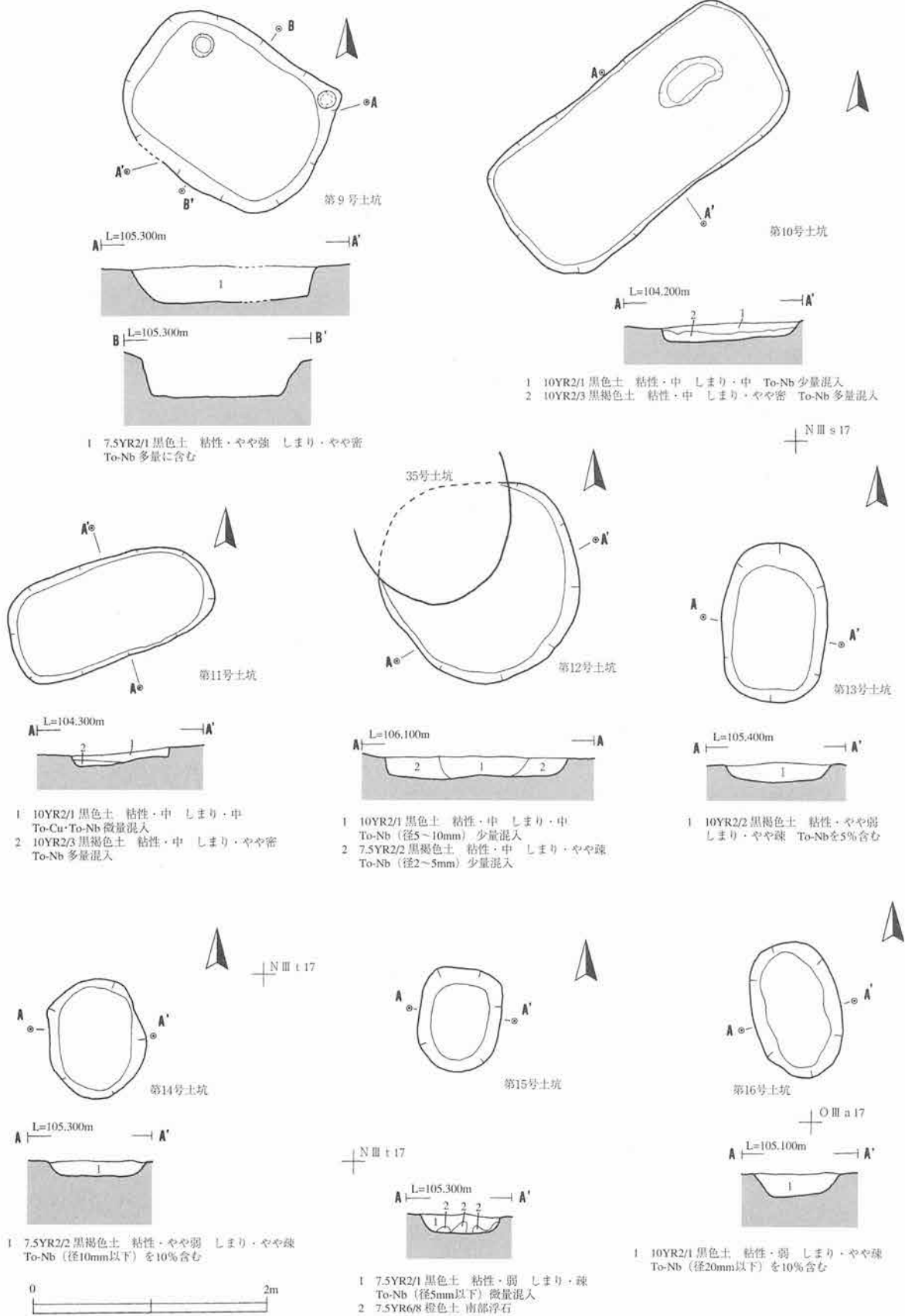
<埋土>南部浮石を含む黒褐色土である。

<底面>V層相当で、平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代に属すると思われる。



第9号土坑

第10号土坑

第11号土坑

第12号土坑

第13号土坑

第14号土坑

第15号土坑

第16号土坑

1 7.5YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb 多量に含む

1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb 少量混入
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密 To-Nb 多量混入

1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu・To-Nb 微量混入
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密 To-Nb 多量混入

1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径5~10mm) 少量混入
2 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径2~5mm) 少量混入

1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nbを5%含む

1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb (径10mm以下) を10%含む

1 7.5YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・疎 To-Nb (径5mm以下) 微量混入
2 7.5YR6/8 橙色土 南部浮石

1 10YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・やや疎 To-Nb (径20mm以下) を10%含む

第41図 第9~16号土坑

第16号土坑（第41図・写真図版46）

＜位置・検出状況＞4区の緩やかな傾斜地、OⅢ a 17に位置する。検出面はⅣ b層で、楕円状の黒色の土層変化が確認された。

＜形状＞平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径115×75cm、底部径100×50cm、深さ17cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒色土である。

＜底面＞Ⅴ層相当で、ほぼ平坦である。

＜壁＞緩やかに外傾して立ち上がる。

＜出土遺物＞土器片1点が出土している。

＜時期＞出土遺物の特徴から判断し、縄文時代前期に属すると思われる。

第17号土坑（第42図・写真図版47）

＜位置・検出状況＞7①の平坦面区、LⅢ k 11に位置する。検出面はⅣ a層で、南部浮石を含む黒色土の広がり確認された。

＜形状＞平面形は略楕円形、断面形はフラスコ状を呈する。

＜規模＞開口部径160×145cm、底部径184×160cm、深さ143cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒色土と黒褐色土である。調査に不備があり、下部は埋土を記録していない。

＜底面＞Ⅶ層相当で、ほぼ平坦である。

＜壁＞底部から内傾して立ち上がり、上面に向かって緩やかに立ち上がる。

＜出土遺物＞出土していない。

＜時期＞検出面から判断し、縄文時代前期以降と思われる。

第18号土坑（第42図・写真図版47）

＜位置・検出状況＞7①区平坦面、LⅢ j 11に位置する。検出面はⅣ a層で、楕円状の黒褐色土の広がり確認された。

＜形状＞平面形は楕円形、断面形はフラスコ状を呈する。

＜規模＞開口部径118×165cm、底部径210×190cm、深さ143cmである。

＜埋土＞南部浮石と中掘浮石を含む黒褐色土主体である。

＜底面＞Ⅶ層相当で、ほぼ平坦である。

＜壁＞底部から内傾して立ち上がり、上面に向かって緩やかに立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期以降と思われる。

第19号土坑（第42図・写真図版47）

＜位置・検出状況＞7①区、LⅢ i 11に位置する。検出面はⅣ a層で、円形の褐色土の広がり確認された。

＜形状＞平面形は楕円形、断面形はフラスコ状を呈する。

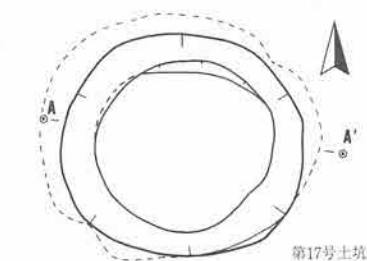
＜規模＞開口部径108×92cm、底部径122×108cm、深さ113cmである。

＜埋土＞褐色土と黒褐色土を主体とする。南部浮石が多量に混入する。人為堆積の様相を示す。

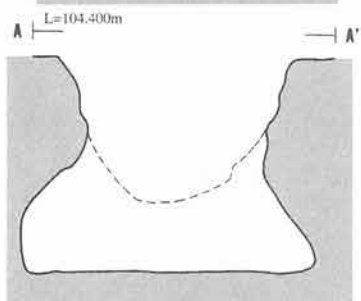
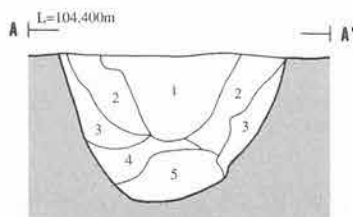
＜底面＞Ⅶ層上面で、ほぼ平坦である。

＜壁＞底部から直立ぎみに立ち上がり、中央部で最大径を測る。

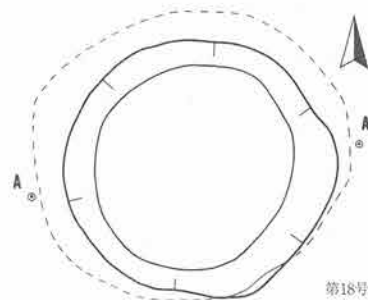
＜出土遺物＞なし



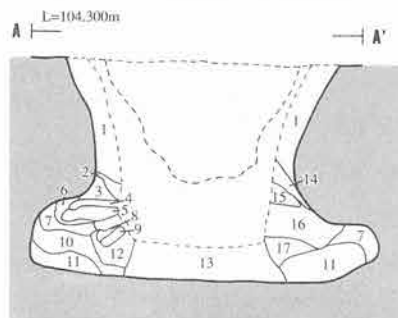
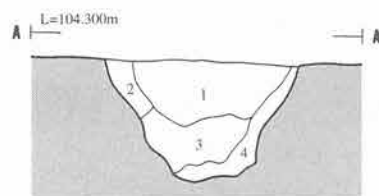
第17号土坑



- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb粒 (径10~20mm) を全体に3%含む
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-Nb粒 (径10mm) を1%含む 黄褐色砂混在
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・密 To-Nb粒 (径5~20mm) を10%含む (掘りすぎ?)
- 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径5~20mm) を全体に10%含む
- 5 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径5~20mm) を全体に10%含む



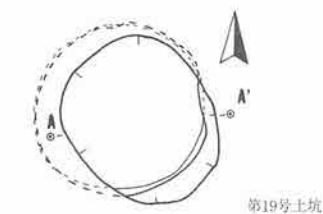
第18号土坑



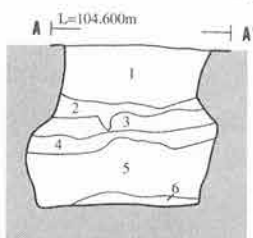
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや密 To-Nb粒 (径1~2mm) を7%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Cu 多量混入 To-Nb (径5~10mm) 微量混入
- 3 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径5~10mm) を3%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色土主体 To-Cuブロック状に混入

フラスコ付け足し部分

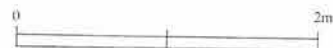
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒 (径2~10mm) を全体に10%含む
- 2 10YR4/4 褐色土 粘性・弱 しまり・疎 八戸火山灰
- 3 10YR4/6 褐色土と10YR2/2 黒褐色砂質土の混土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径10mm) を3%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径5~10mm) を7%含む 八戸火山灰?を含む
- 5 10YR4/4 褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径3~10mm) を3%含む
- 6 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・なし しまり・疎
- 7 10YR6/6 明黄褐色砂質土 粘性・なし しまり・やや疎
- 8 10YR4/6 褐色土 粘性・強 しまり・やや疎 八戸火山灰
- 9 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6 褐色土がブロック状に混じる To-Nb粒 (径5~10mm) 混入
- 10 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・なし しまり・疎
- 11 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性・なし しまり・疎 掘りすぎ部分か?
- 12 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性・強 しまり・疎 八戸火山灰がブロック状に混入 黒色砂質土がブロック状に混入
- 13 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径5~10mm) が1%混入
- 14 7.5YR2/2 黒褐色土 To-Nb粒 (径2~20mm) が10%混入
- 15 10YR4/6 褐色 To-Nb
- 16 10YR3/4 暗褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径1~10mm) が15%混入
- 17 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒 (径5mm) が3%混入



第19号土坑



- 1 10YR4/6 褐色土 粘性・やや弱 しまり・密 To-Nb粒2%混入
基本土層IV a層八戸火山灰と思われる
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒20%混入
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒20%混入
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎 浮石粒 (径2~5mm) 全体に3%混入
- 5 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・中 砂質シルト 浮石粒 (径5~10mm) 1%混入
- 6 10YR8/2 灰白色砂質土主体 10YR3/3 暗褐色土粒と10YR7/6 明黄褐色砂 (火山灰?) 粒混入 粘性・なし しまり・疎



第42図 第17~19号土坑

＜時期＞検出面等から判断し縄文時代前期以降と思われる。

第20号土坑（第43図・写真図版47）

＜位置・検出状況＞4区の緩やかな傾斜地、OⅢ a 17に位置する。検出面はIV b層で、不整な黒色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は不整な円形、断面形は浅鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径95×80cm、底部径40×25cm、深さ23cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒色土と黒褐色土。

＜底面＞V層相当で、丸みを帯びる。

＜壁＞緩やかに外傾して立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第21号土坑（第43図・写真図版48）

＜位置・検出状況＞4区の緩やかな傾斜地、OⅢ a 17に位置する。検出面はIV b層で、楕円形の黒褐色土の広がり確認された。

＜形状＞平面形は楕円形で、断面形は浅鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径77×58cm、底部径64×43cm、深さ19cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒色土と黒褐色土。上位には炭化物が混入する。

＜底面＞V層相当で、やや東側に傾く。

＜壁＞緩やかに立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第22号土坑（第43図・写真図版48）

＜位置・検出状況＞7①区、LⅢ k 10に位置する。検出面はIV a層上面で、南部浮石を含む黒色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は不整な円形で、断面形は鉢状を呈する。

＜規模＞開口部径135cm、底部径50×75cm、深さ87cmである。

＜埋土＞南部浮石を含む黒褐色土を主体とする。

＜底面＞V層相当で、東側にやや傾く。

＜壁＞緩やかに立ち上がる。

＜出土遺物＞なし

＜時期＞出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代前期に属すると思われる。

第23号土坑（第43図・写真図版48）

＜位置・検出状況＞7①区の平坦面、LⅢ d i 10に位置する。IV a層で、南部浮石を含む黒色土の広がりが確認された。

＜形状＞平面形は楕円形、断面形は鉢形状を呈する。

＜規模＞開口部径60×48cm、底部径20×8cm、深さ61cmを測る。

＜埋土＞南部浮石を含む黒褐色土を主体とする。

＜底面＞V層相当で、やや丸味を帯びる。

<壁>外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代前期に属すると考えられる。

第24号土坑（第43図・写真図版48）

<位置・検出状況>調査区南部5②区、MⅢa15に位置する。

<形状>平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径118×81cm、底部径90×57cm、深さ12cmである。

<埋土>黒色土と黒褐色土を主体とする。南部浮石を含む。

<底面>ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>土器片2点が出土した。（第78図・写真図版83）

<時期>詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代前期に属すると考えられる。

第25号土坑（第43図・写真図版49）

<位置・検出状況>調査南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢd16に位置する。Ⅲ層上面で、楕円状の黒色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径98×89cm、底部径73×60cm、深さ39cmを測る。

<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土の単層である。

<底面>Ⅳa層相当で、平坦である。

<壁>ゆるやかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>土器片1点が出土した。（第78図・写真図版83）

<時期>詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代前期以降に属する遺構と考えられる。

第26号土坑（第43図・写真図版49）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢc16に位置する。検出面はⅡ層で、不整な楕円形黒褐色土の土層変化が確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形で、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径102×70cm、底部径74×37cm、深さ34cmである。

<埋土>上位は中礫浮石を含む黒色土、下位は南部浮石を含む黒褐色土である。

<底面>Ⅲ層相当で、やや丸みを帯びる。

<壁>北側は直立ぎみに、南側は緩やかに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第27号土坑（第43図・写真図版49）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢd15に位置する。検出面はⅡ層で、楕円状の黒褐色土の土層変化が確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径122×78cm、底部径104×64cm、深さ20cmである。
<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土の単層である。
<底面>Ⅲ層相当で、ほぼ平坦である。
<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。
<出土遺物>土器片1点と磨敲石1点が出土した。(第78図・写真図版83・84)
<時期>詳細は不明であるが、縄文時代前期以降と思われる。

第28号土坑(第43図・写真図版49)

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢd16に位置する。検出面はⅡ層面で、楕円状の黒褐色土の土層変化が確認された。
<形状>平面形は不整楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。
<規模>開口部径112×89cm、底部径72×53cm、深さ36cmである。
<埋土>黒色土の単層である。
<底面>Ⅲ層相当で、丸みを帯びる。
<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。
<出土遺物>土器片2点が出土した。(第78図・写真図版84)
<時期>詳細は不明であるが、縄文時代前期以降に属すると思われる。

第29号土坑(第43図・写真図版50)

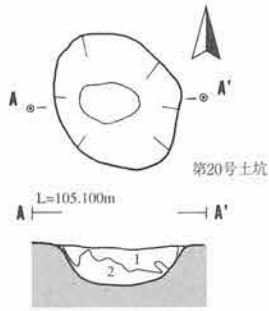
<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢe16に位置する。検出面はⅡ層で、不整な楕円形黒褐色土の土層変化が確認された。
<形状>平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状を呈する。
<規模>開口部径164×111cm、底部径141×75cm、深さ18cmである。
<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土の単層である。
<底面>ほぼ平坦で、焼土ブロックが確認された。
<壁>緩やかに立ち上がる。
<出土遺物>なし
<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第30号土坑(第44図・写真図版50)

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢf17に位置する。検出面はⅡ層で、黒色土の土層変化が確認された。
<形状>平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。
<規模>開口部径202×98cm、底部径185×80cm、深さ15cmである。
<埋土>上位は中礫浮石を含む黒色土、下位は南部浮石を含む黒褐色土である。
<底面>Ⅲ層相当で、やや凹凸がある。
<壁>緩やかに立ち上がる。
<出土遺物>なし
<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

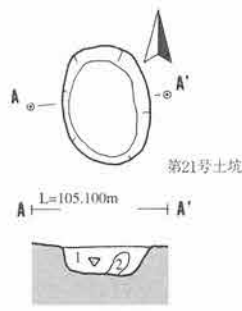
第31号土坑(第44図・写真図版50)

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢf17に位置する。検出面はⅡ層で、黒褐色土の



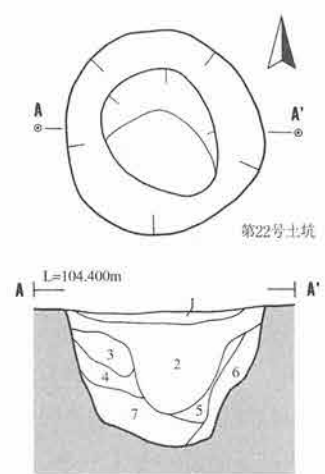
第20号土坑

- 1 7.5YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり疎
To-Nb (径2mm以下) 微量混入
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎
To-Nbを40%含む



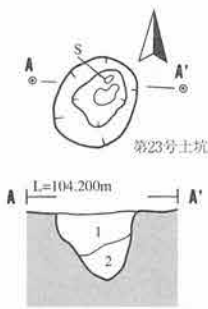
第21号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり疎
To-Nbを10%含む 炭化物混入
- 2 10YR1.7 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Nb (径5mm以下) を1%含む



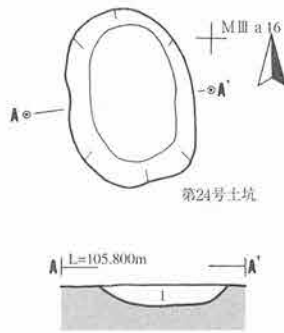
第22号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎
To-Nb粒 (径5~30mm) を20%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・密
To-Nb粒 (径5~20mm) を全体に20%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/6 褐色砂の混土
粘性・なし しまり・中 To-Nb粒 (径2~5mm) を10%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径2~5mm) を10%含む
- 5 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中
To-Nb粒 (径5~10mm) を7%含む
- 6 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径2~30mm) を全体に20%含む
- 7 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径5~10mm) を7%含む



第23号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径2~10mm) を全体に7%含む
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや疎
To-Nb粒 (径5~10mm) を3%含む



第24号土坑

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密
To-Nb (径3~10mm) を多量に含む To-Cuを少量含む



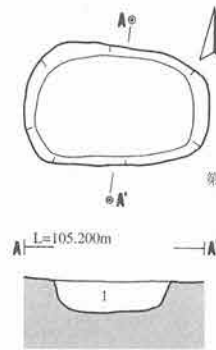
第25号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Cu微量混入



第26号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Cu微量混入
- 2 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Nb粒状に微量混入



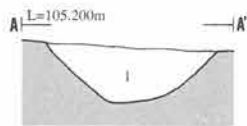
第27号土坑

- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Cu微量混入



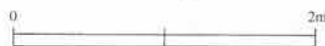
第28号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎



第29号土坑

- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
To-Cu微量混入



第43図 第20~29号土坑

広がり確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径103×55cm、底部径93×44cm、深さ20cmである。

<埋土>中振浮石を含む黒褐色土の単層である。

<底面>Ⅲ層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>やや外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第32号土坑 (第44図・写真図版50)

<位置・検出状況>調査南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ f 15に位置する。Ⅱ層で、黒色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整な方形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径165×155cm、底部径128×121cm、深さ41cmを測る。

<埋土>上位は南部浮石を含む黒色土、下位は南部浮石を含む黒褐色土である。

<底面>Ⅳ a層相当で、平坦である。

<壁>ゆるやかに立ち上がる。

<出土遺物>石斧1点が出土した。(第78図 写真図版84)

<時期>詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代中期以降と考えられる。

第33号土坑 (第44図・写真図版51)

<位置・検出状況>5区の平坦面、NⅢ f 13に位置する。検出面はⅢ層上面で、不整な円形の黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は略円形で、断面形は逆台形を呈する。

<規模>開口部径125cm、底部径62cm、深さ87cmである。

<埋土>上位は黒褐色土で礫を含む。下位は赤褐色土を主体とする。いずれも南部浮石を含む。

<底面>Ⅵ層相当で、やや丸みを帯びる。

<壁>緩やかに外傾し立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。土壙墓の可能性はある。

第34号土坑 (第44図・写真図版51)

<位置・検出状況>5区の平坦面、NⅢ d 14に位置する。検出面はⅢ層上面で、楕円状の黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径210×205cm、底部径70×44cm、深さ98cmである。

<埋土>黒褐色土と暗赤褐色土を主体とする。下位には南部浮石が混入する。

<底面>ⅤからⅥ層相当で、中心部がやや窪む。

<壁>緩やかに外傾し、上部でやや直線的に立ち上がる。

<出土遺物>土器片2点が出土した。(第78図・写真図版84)

<時期>詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第35号土坑（第44図・写真図版51）

<位置・検出状況>5区の平坦面、NⅢ e 15に位置する。検出面はⅢ層面で、楕円形の黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径163×140cm、底部径143×103cm、深さ64cmである。

<埋土>上位は黒褐色土、下位は南部浮石を含む。極暗赤褐色土を主体とする。

<底面>ほぼ中央部に副穴がある。

<壁>西側は緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第36号土坑（第44図・写真図版51）

<位置・検出状況>5区平坦面、NⅢ c 13に位置する。Ⅲ層面で、黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径119×103cm、底部径112×85cm、深さ31cmを測る。

<埋土>十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土と中礫浮石を含む黒褐色土を主体とする。調査に不手際があり土層断面を記録していない。

<底面>Ⅳ a 層相当で、やや丸味を帯びる。

<壁>ゆるやかに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代中期以降と考えられる。

第37号土坑（第44図・写真図版52）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ i 17に位置する。検出面はⅡ層面で、黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形で、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径113×74cm、底部径83×45cm、深さ25cmである。

<埋土>黒褐色土を主体とする。

<底面>Ⅲ層相当で、やや丸みを帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

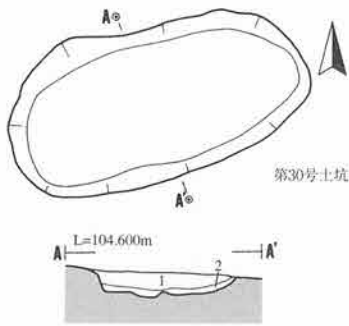
第38号土坑（第45図・写真図版52）

<位置・検出状況>調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢ g 14に位置する。検出面はⅡ層で、黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形、断面形は皿状を呈する。

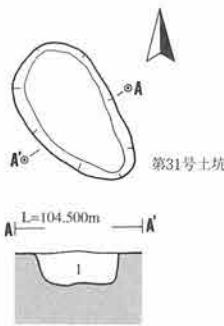
<規模>開口部径107×93cm、底部径92×80cm、深さ22cmである。

<埋土>南部浮石を含む黒褐色土の単層である。



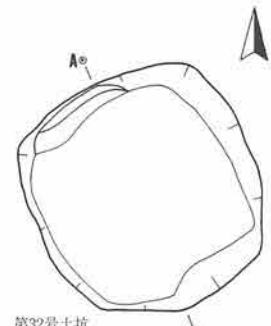
第30号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu微量混入
- 2 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb (径3~5mm) 微量混入



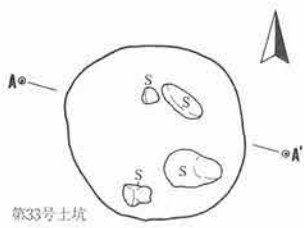
第31号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu微量混入

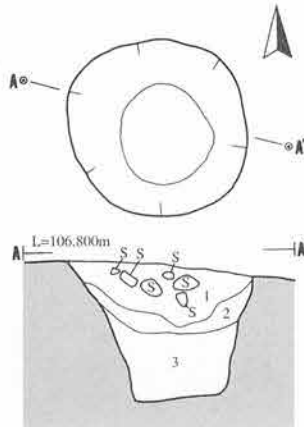


第32号土坑

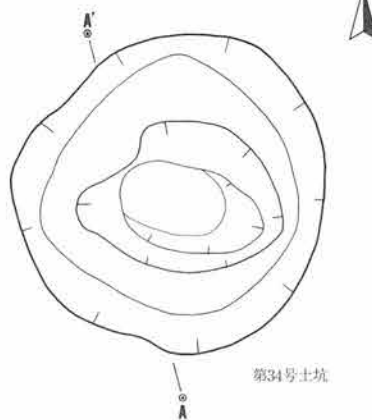
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径2~7mm) 少量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや密 To-Nb (径3~10mm) 多量混入



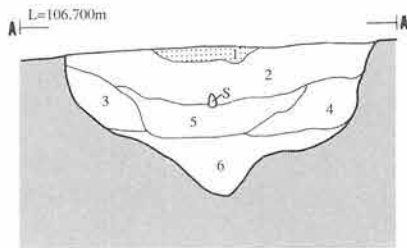
第33号土坑



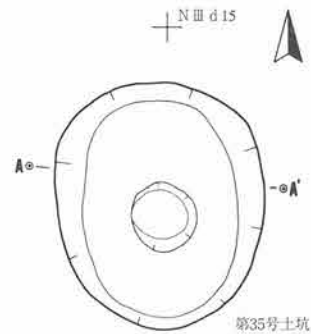
- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 小大礫含む (径3~12mm) To-Nb混入
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb混入
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb微量混入



第34号土坑

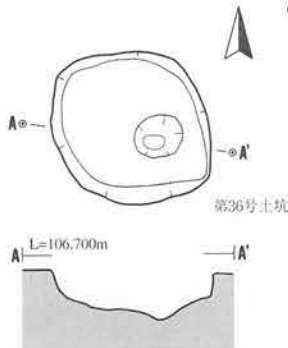


- 1 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・弱 しまり・密 黒褐色土混入
- 2 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 小礫含む (径8mm) To-Nb混入
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb混入
- 4 7.5YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb混入
- 5 7.5YR1.7/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb混入
- 6 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや強 しまり・疎 To-Nb多量混入

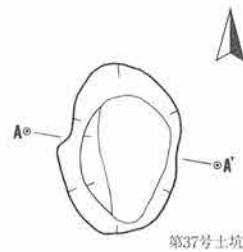


第35号土坑

- 1 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密
- 2 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 小礫含む (径5mm) To-Nb混入
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Nb混入



第36号土坑



第37号土坑

- 1 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb微量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu微量混入
- 3 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu微量混入



第44図 第30~37号土坑

<底面>Ⅲ層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>やや直立ぎみに立ち上がる。

<出土遺物>土器片2点が出土した。(第78図・写真図版84)

<時期>詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第39号土坑(第45図・写真図版52)

<位置・検出状況>5区の平坦面、MⅢe9に位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整楕円形、断面形は円筒形を呈する。

<規模>開口部径65×30cm、底部径55×24cm、深さ24cmである。

<埋土>黒褐色土を主体とする。

<底面>Ⅳa層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第40号土坑(第45図・写真図版52・53)

<位置・検出状況>6①区の平坦面、MⅢc9に位置する。検出面はⅢ層面で、楕円状の黒褐色土の広がりが確認できた。

<形状>平面形は不整形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径123×94cm、底部径90×70cm、深さ33cmである。

<埋土>黒褐色土と暗褐色土を主体とする。中位に焼土がある。(投げ込みか)

<底面>Ⅳa層相当で、やや丸味を帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第41号土坑(第45図・写真図版53)

<位置・検出状況>7①区の平坦面、LⅢm12に位置する。検出面はⅡ層で、楕円状の黒色土の広がりが確認された。

<形状>平面形は不整楕円形、断面形は漏斗状を呈する。

<規模>開口部径115×80cm、底部径17×30cm、深さ77cmである。

<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土主体。

<底面>Ⅳa層相当である。

<壁>底部から直立ぎみに、中場からは緩やかに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代に属すると思われる。

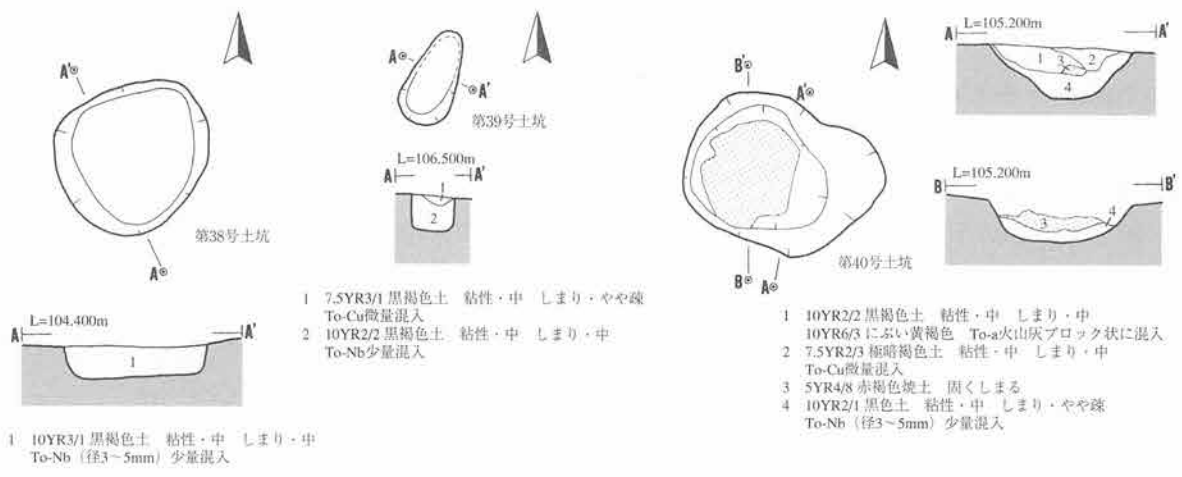
第42号土坑(第45図・写真図版53)

<位置・検出状況>7③区、KⅢo8に位置する。Ⅲ層上面で、楕円状の黒色土の広がりが確認された。

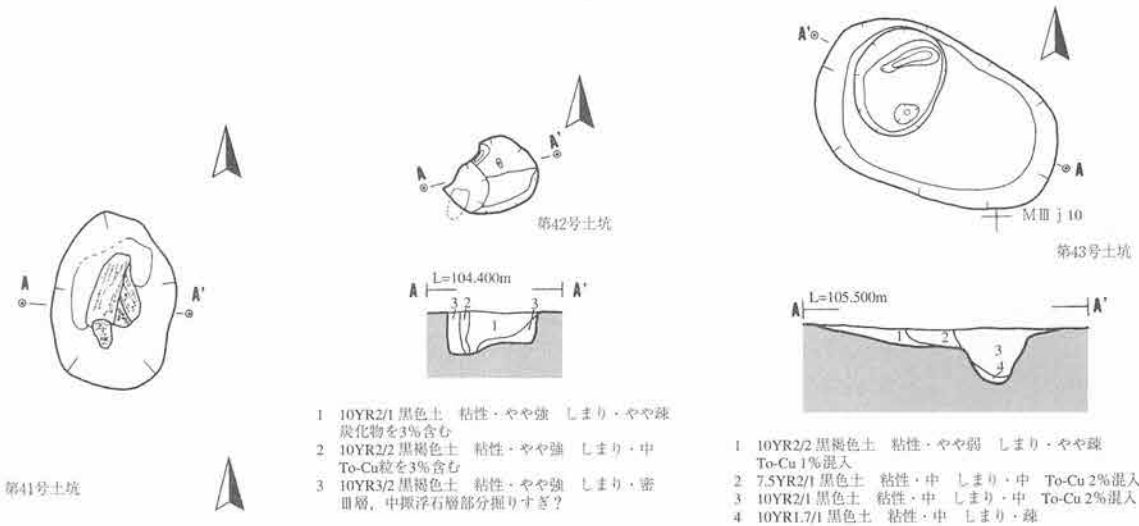
<形状>平面形は不整楕円形、断面形は半円筒形を呈する。

<規模>開口部径56×43cm、底部径47×35cm、深さ24cmを測る。

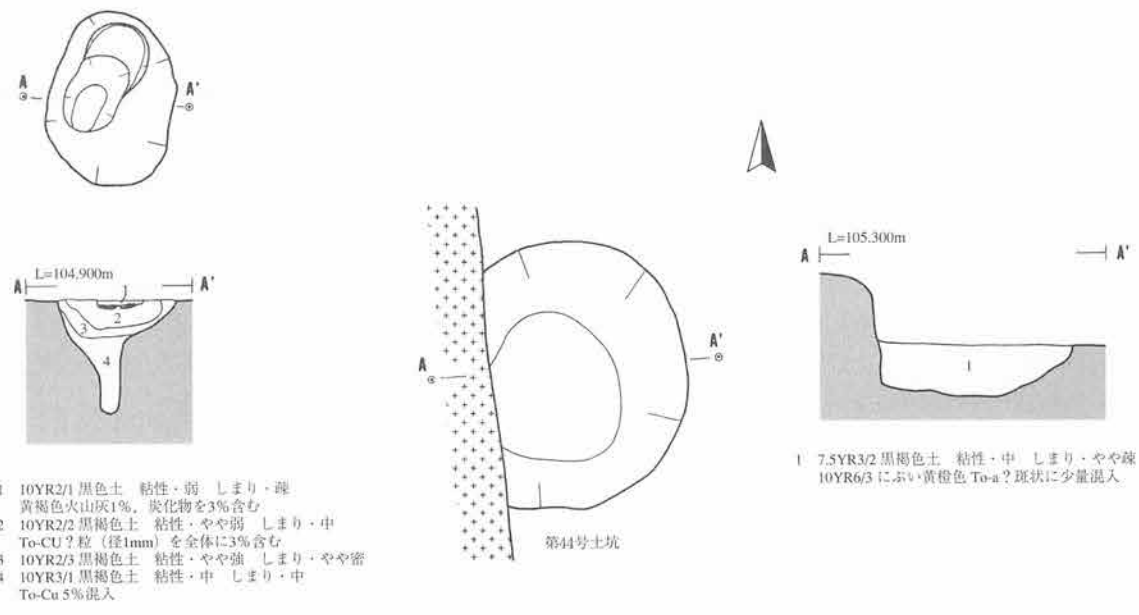
<埋土>中礫浮石を含む黒褐色土主体。炭化物が混入する。



1 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径3~5mm) 少量混入



第41号土坑



1 10YR2/1 黒色土 粘性・弱 しまり・疎 黄褐色火山灰1%, 炭化物を3%含む
 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Cu ? 粒 (径1mm) を全体に3%含む
 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密
 4 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu 5%混入

1 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR6/3 におい黄褐色 To-a ? 斑状に少量混入



第45図 第38~44号土坑

<底面>東側がやや浅くなる。

<壁>直立する。

<出土遺物>石鏃2点が出土する。

<時期>検出面や周囲の出土遺物の特徴等から縄文時代中期以降と思われる。

第43号土坑（第45図・写真図版53）

<位置・検出状況>6①区の平坦面、MⅢ j 10に位置する。検出面はⅢ層上面で、楕円状の黒褐色土の広がり確認された。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径165×105cm、底部径70×45cm、深さ35cmである。

<埋土>中礫浮石を含む黒色土主体。

<底面>Ⅳ a 層相当で、丸味を帯びる。

<壁>緩やかに立ち上がる。

<出土遺物>石皿1点が出土している。（第78図・写真図版84）

<時期>詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と思われる。

第44号土坑（第45図・写真図版54）

<位置・検出状況>7②区の、KⅢ t 8 d に位置する。検出面はⅡ層で、円形の黒褐色の広がり確認された。西調査区外に延びる。

<形状>平面形は略円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径175×165cm、底部径97×88cm、深さ33cmである。

<埋土>十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土。

<底面>ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、奈良時代以降と思われる。

第45号土坑（第46図・写真図版54）

<位置・検出状況>6②区の平坦面、MⅢ a 11に位置する。検出面はⅢ層で、十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土の広がり確認された。

<形状>平面形は不整な楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径300×210cm、底部径210×180cm、深さ25cmである。

<埋土>十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土と黒色土主体。一部、焼土と炭化物がみられる。

<底面>Ⅲ層相当で、やや丸味を帯びる。

<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

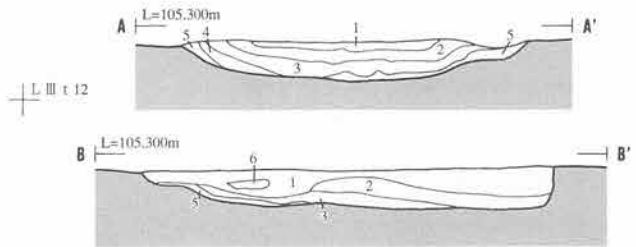
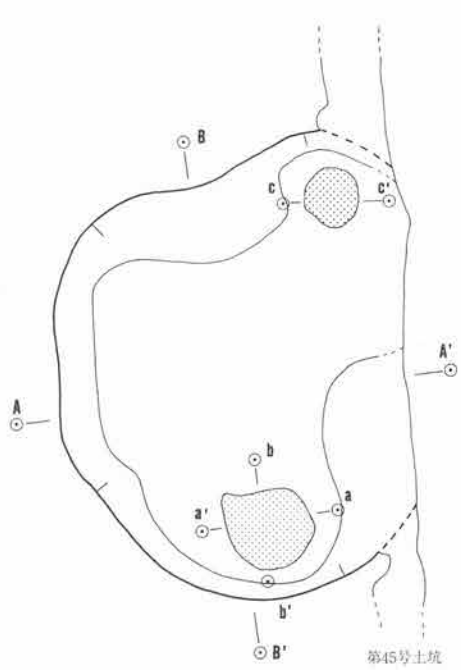
<出土遺物>土師器片1点が出土している。

<時期>出土遺物等から判断し古代に属すると思われる。

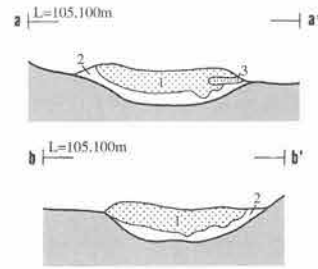
第46号土坑（第46図・写真図版54）

<位置・検出状況>6②区の平坦面、MⅢ a 13に位置する。検出面はⅡ層で、十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土の広がり確認された。

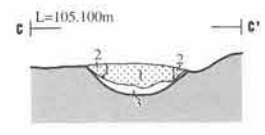
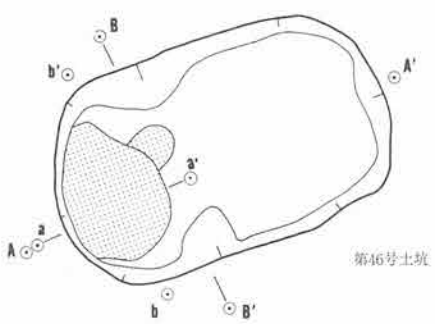
<形状>平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。



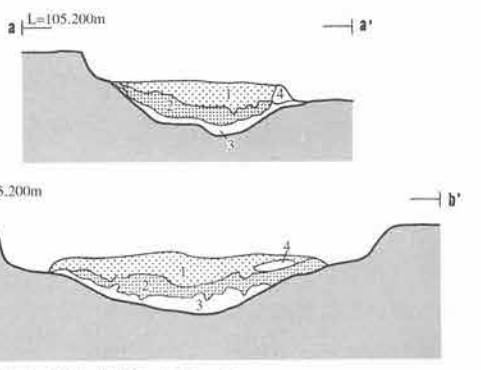
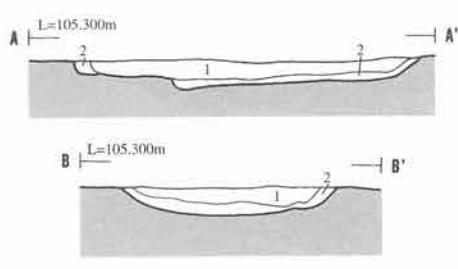
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 2.5Y6/3 にぶい黄色To-aを斑状に5%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・やや疎 2.5Y6/3 にぶい黄色To-aを斑状に30%含む
- 3 7.5YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・疎 2.5Y6/3 にぶい黄色To-aを斑状に7%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・やや密 2.5Y6/3 にぶい黄色To-aを15%含む
- 5 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu粒を3%含む(掘りすぎ)
- 6 7.5YR2/3 極暗褐色土主体 粘性・中 しまり・疎 黒褐色土に弱い黄褐色焼土が混入炭化物2%混入



- 1 10YR4/4 褐色焼土 粘性・中 しまり・やや疎 10YR3/2 黒褐色土が斑状に5%混入焼成弱 7.5YR5/6 明褐色焼土ブロックが斑状に2%混入 To-aブロックがわずかに混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや疎 砂質土 焼土粒3%混入
- 3 7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性・なし しまり・疎(砂粒子状)

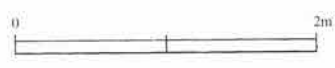


- 1 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・なし しまり・疎 焼成弱
- 2 10YR3/2 黒褐色土主体 粘性・中 しまり・疎 黒褐色土と1層焼土の混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎 1層焼土粒2%混入



- 1 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・やや強 しまり・やや疎 10YR6/2 灰黄褐色To-aをブロック状に40%含む
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 下層(底面) To-Cu粒を2%含む

- 1 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・やや弱 しまり・中 10YR3/2 黒褐色土が斑状に7%混入する(上部中心)
- 2 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性・なし しまり 疎 1層より橙色が強い 砂粒子状
- 3 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 砂質土 2層焼土と黒色土の混入
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中



第46図 第45号・46号土坑

<規模>開口部径230×140cm、底部径205×118cm、深さ19cmである。

<埋土>十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土と黒色土主体。一部、焼土がみられる。

<底面>Ⅲ層相当で、ほぼ平坦である。

<壁>緩やかに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>検出面や周囲の出土遺物の特徴等から古代に属すると考えられる。

第47号土坑 (第47図・写真図版55)

<位置・検出状況> 6①区の平坦面、MⅢ g 11に位置する。検出面はⅡ層面で、楕円状の黒褐色土の土層変化が確認できた。

<形状>平面形は楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径124×96cm、底部径82×63cm、深さ50cmを測る。

<埋土>調査の不手際により記録していない。

<底面>Ⅳ a 層相当で、やや丸味がある。

<壁>ゆるやかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>甕が2点出土している。132の底部に木葉痕が認められる。(第78・79図・写真図版84)

<時期>詳細は不明であるが、検出面や周囲の出土遺物の特徴等から平安時代に属する遺構と考えられる。

第48号土坑 (第47図・写真図版55)

<位置・検出状況> 6①区の平坦面、MⅢ g 10に位置する。検出面はⅡ層面で、円形の黒褐色土の土層変化が確認できた

<形状>平面形は略円形で、断面形は皿状を呈する。

<規模>開口部径171cm、底部径149cm、深さ22cmである。

<埋土>黒褐色土主体である。上位には十和田 a 降下火山灰が混入する。

<底面>Ⅲ層相当で、やや丸みを帯びる。

<壁>北側は直立ぎみに立ち上がる。

<出土遺物>なし

<時期>出土遺物がなく詳細は不明であるが、平安時代に属すると思われる。

第49号土坑 (第47図・写真図版55)

<位置・検出状況> 6①区、MⅢ e 9に位置する。検出面はⅡ層面で、十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土の広がりが確認された。西側は調査区外に延びる。

<形状>平面形は長楕円形、断面形は浅鉢状を呈する。

<規模>開口部径(285)×147cm、底部径185×80cm、深さ36cmである。

<埋土>黒褐色土と暗褐色土を主体とする。十和田 a 降下火山灰を含む

<底面>Ⅲ層相当で、やや丸味を帯びる。

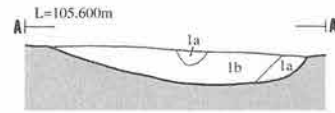
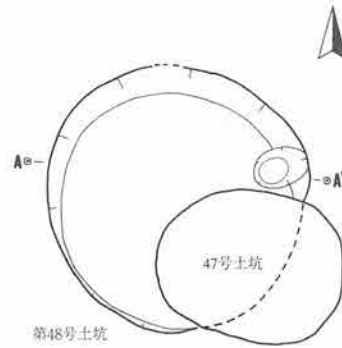
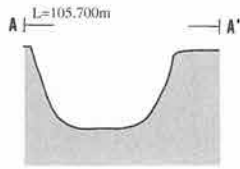
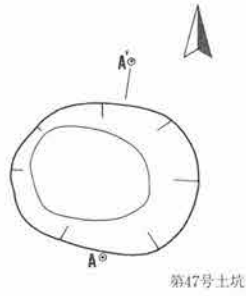
<壁>緩やかに外傾して立ち上がる。

<出土遺物>なし

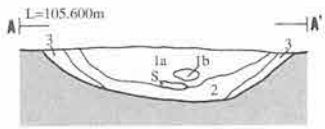
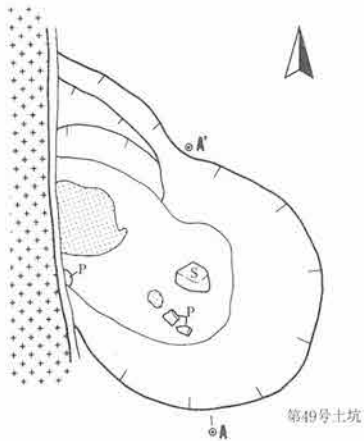
<時期>検出状況から、平安時代に属すると思われる。

第50号土坑 (第47図・写真図版55)

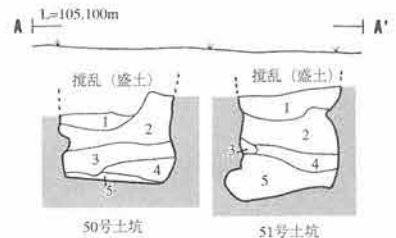
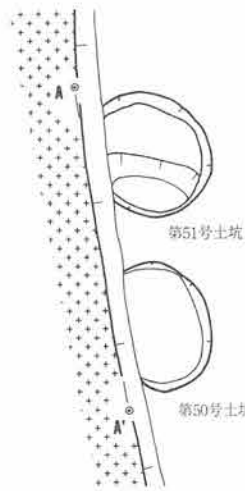
<位置・検出状況> 7③区、KⅢ l 9 c に位置する。検出面はⅢ層で、円形の黒褐色土の土層変化が確認さ



1a 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・なし
 10YR6/3 にふい黄橙色 To-a火山灰まだら状に混入
 1b 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・なし To-Cu微量混入



1a 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・なし To-Nb少量混入
 1b 10YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・なし
 2 10YR3/1 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・なし
 10YR6/3 にふい黄橙色 To-a火山灰多量混入
 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu微量混入



50号土坑
 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 攪乱の下に黒褐色土、焼土、炭化材混入
 2 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 黄褐色To-Nb?粒(径3mm)を全体に3%含む 下部に炭化物を1%含む
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 黒色土ブロックを3%含む 浮石粒(径2mm)を全体に3%含む
 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 暗褐色土と黒褐色土がブロック状に混入
 5 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒(径5~10mm)を20%含む
 51号土坑
 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 浮石粒(径2~5mm)を7%含む
 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 浮石粒(径2mm)を全体に7%含む 左半にTo-Cu(III層)混入
 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 基本層III層の土が入り込む
 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 浮石粒(径2~3mm)を2%含む
 5 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・中 To-Nbを20%含む



第47図 第47~51号土坑

れた。一部調査区外に延びる。検出が遅れたため掘りすぎている。

<形状>平面形は楕円形で、断面形は円筒形を呈する。

<規模>開口部径75×65cm、底部径72×55cm、深さ57cm(推定)である。

<埋土>黒褐色土主体である。

<底面>IV a 層相当、ほぼ平坦である。

<壁>直立して立ち上がる。

<出土遺物>寛永通寶2点、鉄斧1点が出土している。(第79図・写真図版84)

<時期>出土遺物等から判断し近世の墓壇の可能性が高い。

第51号土坑 (第47図・写真図版55)

<位置・検出状況>7③区、KⅢ k 7に位置する。検出面はⅢ層で、円形の黒褐色土の土層変化が確認された。一部調査区外に延びる。検出が遅れたため掘りすぎている。

<形状>平面形は楕円形で、断面形は円筒形を呈する。

<規模>開口部径86×77cm、底部径75×64cm、深さ70cm(推定)である。

<埋土>黒褐色土主体である。

<底面>IV a 層相当、ほぼ平坦である。

<壁>直立して立ち上がる。

<出土遺物>寛永通寶3点が出土している。

<時期>出土遺物等から判断し近世の墓壇の可能性が高い。

3. 陥し穴状遺構

全体で7基の陥し穴状遺構を検出した。いずれも長楕円形の溝状を呈する。

第1号陥し穴状遺構（第48図・写真図版56）

<位置・検出状況>調査区中央7③区、KⅢn9区に位置する。Ⅱ層面で検出。

<形状>平面形は長楕円形、断面形はV字形を呈する。<軸方向>W-35°-N

<規模>開口部径350×65cm 底径部径312×24cm 深さ148cmを測る。

<埋土>黒褐色土を主体とする。南部浮石、中振浮石を含む。

<底面>Ⅵb層相当で、平坦である。

<壁>直立する。

<出土遺物>後晩期の縄文土器が2点出土している。

<時期>出土した遺物や検出面等から縄文時代後期以降と思われる。

第2号陥し穴状遺構（第48図・写真図版56）

<位置・検出状況>調査区中央7②区、LⅢd10区に位置する。Ⅱ層下位で検出。

<形状>平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈する。<軸方向>W-62°-N

<規模>開口部径380×88cm 底径部径300×16cm 深さ194cmを測る。

<埋土>黒褐色土を主体とする。南部浮石、中振浮石を含む。

<底面>Ⅵb層相当で、平坦である。

<壁>底面から直立し、上方で外傾する。

<出土遺物>縄文土器20点余り出土している。（第79図・写真図版84）

<時期>出土した遺物や検出面等から縄文時代と思われる。

第3号陥し穴状遺構（第48図・写真図版56）

<位置・検出状況>調査区南より6①区、MⅢg11区に位置する。Ⅱ層下位で検出。

<形状>平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈する。<軸方向>N-70°-E

<規模>開口部径330×65cm、底部径335×15cm、深さ173cmを測る。

<埋土>黒褐色土を主体とする。南部浮石、中振浮石を含む。

<底面>Ⅵb層相当で、平坦である。

<壁>直立する。

<出土遺物>縄文土器4点が出土している。

<時期>出土した遺物や検出面等から縄文時代と思われる。

第4号陥し穴状遺構（第48図・写真図版56）

<位置・検出状況>調査区中央7④区、JⅢf5区に位置する。Ⅲ層上面で検出。

<形状>平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈する。<軸方向>N-42°-E

<規模>開口部径325×59cm 底径部径284×18cm 深さ153cmを測る。

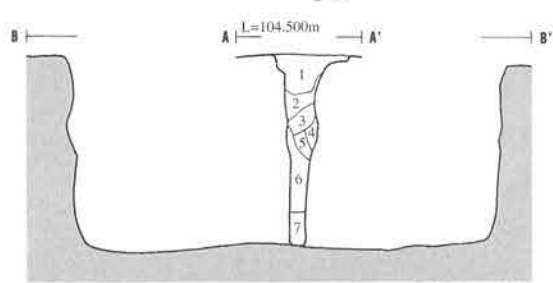
<埋土>黒褐色土を主体とする。南部浮石、中振浮石を含む。

<底面>Ⅵb層相当で、平坦である。

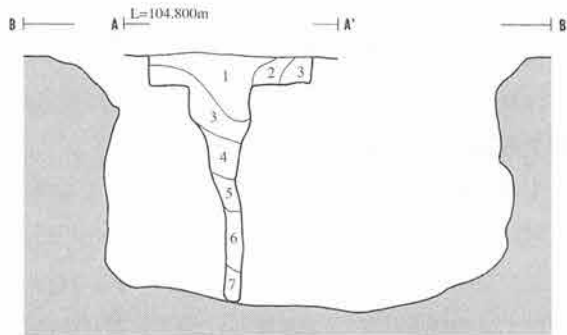
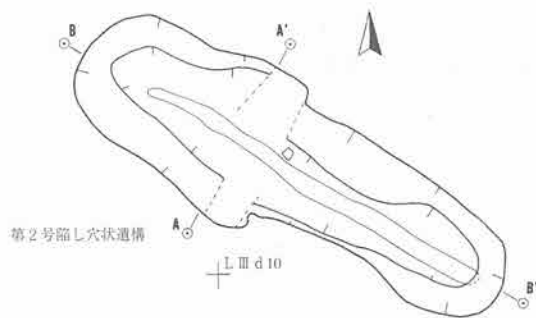
<壁>底面から直立し、上方で外傾する。

<出土遺物>出土していない。

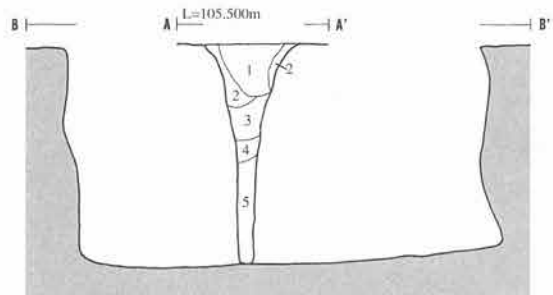
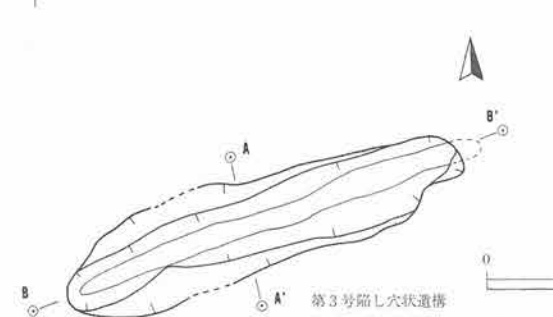
<時期>検出面等から縄文時代と思われる。



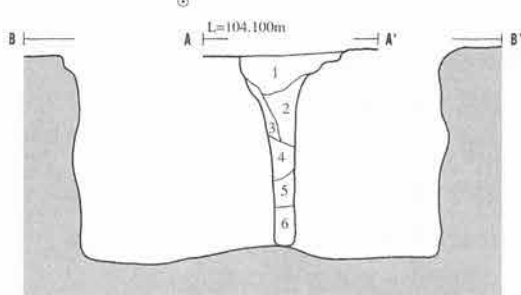
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Cuを全体に3%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや密 To-Cuブロック1%・To-Cu粒3%混入
 - 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密 To-Cu粒3%混入
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性・強 しまり・やや密 To-Cu粒(径5mm)を3%含む
 - 5 10YR2/2 黒褐色土~10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・疎
 - 6 10YR2/3 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・疎 To-Nb粒(径5~10mm)を30%含む
 - 7 10YR4/6 褐色土 粘性・やや強 しまり・やや密(掘りすぎ?)
- M III f 11



- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu(径1mm以下)とTo-Nb(径1~2mm)を各1%含む 植根多し
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb(径1~10mm)を1%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu(径1mm以下)を1%含む
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb(径1~3mm)を5%含む
- 5 10YR1.7/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb(径1~10mm)を3%含む
- 6 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb(径1~10mm)を7%含む
- 7 10YR2/2 黒褐色土(粘性・やや弱 しまり・やや疎)と10YR7/4 黄褐色砂質土の混土



- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒(径10mm)をわずかに含む 中振浮石粒を全体に7%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 色調は1層とはほぼ同等であるが中振浮石粒を15%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒(径2~5mm)を10%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6 褐色土の混土 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb(径5~20mm)を15%含む
- 5 10YR2/3 黒褐色土主体 粘性・やや強 しまり・やや疎 To-Nb(径5~10mm)を30%含む



- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb(径5mm)を1%含む 黄褐色粒(To-Cu?径2mm)を全体に3%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb(径3mm)を2%含む 下部に中振浮石層を含む
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu粒を2%含む 全体に黄色みがかかる中振浮石層主体
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb粒(径5~10mm)を5%含む
- 5 7.5YR6/8 褐色南部浮石 粘性・なし
- 6 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・やや強 しまり・疎 To-Nb粒(径3~20mm)を7%含む

第48図 第1~4号陥し穴状遺構

第5号陥し穴状遺構（第49図・写真図版57）

＜位置・検出状況＞調査区中央7③区、KⅢe6区に位置する。Ⅲ層面で検出。

＜形状＞平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈する。＜軸方向＞N—26°—E

＜規模＞開口部径367×58cm 底径部径326×17cm 深さ112cmを測る。

＜埋土＞黒褐色土を主体とする。南部浮石、中礫浮石を含む。

＜底面＞Ⅵb層相当で、平坦である。

＜壁＞底面から直立し、上方で外傾する。

＜出土遺物＞縄文土器1点が出土している。（第79図・写真図版84）

＜時期＞出土した遺物や検出面等から縄文時代と思われる。

第6号陥し穴状遺構（第49図・写真図版57）

＜位置・検出状況＞調査区中央7②区、KⅢt9区に位置する。Ⅵa層で検出。検出が遅れたため下部のみの記録である。

＜形状＞平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈すると思われる。＜軸方向＞N—25°—W

＜規模＞開口部径348×18cm 底径部径300×10cm 深さ52cmを測る。

＜埋土＞黒褐色土を主体とする。南部浮石を含む。

＜底面＞Ⅶ層相当で、平坦である。

＜壁＞底面から直立する。

＜出土遺物＞出土していない。

＜時期＞検出面等から縄文時代と思われる。

第7号陥し穴状遺構（第49図・写真図版57）

＜位置・検出状況＞調査区中央6②区、LⅢs10, s11区に位置する。

＜形状＞平面形は長楕円形、断面形はY字形を呈する。N—90°—W

＜規模＞開口部径290×40cm 中端部分径257×14cm 底径部径255×14cm 深さ164cmを測る。

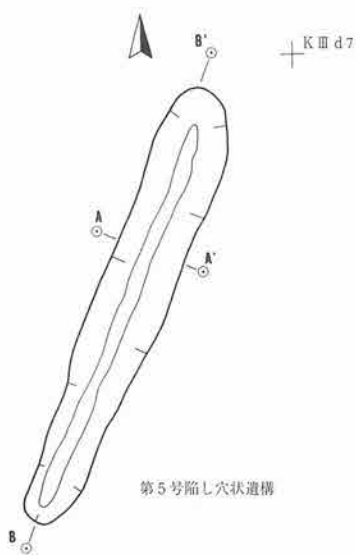
＜埋土＞黒褐色土を主体とする。南部浮石を含む。

＜底面＞Ⅶ層相当で、平坦である。

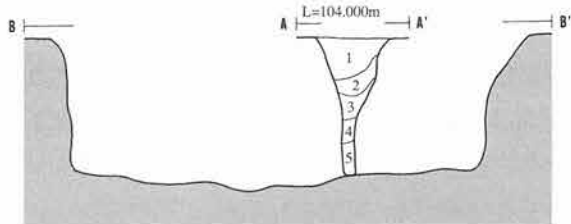
＜壁＞底面から直立する。

＜出土遺物＞出土していない。

＜時期＞検出面等から縄文時代と思われる。

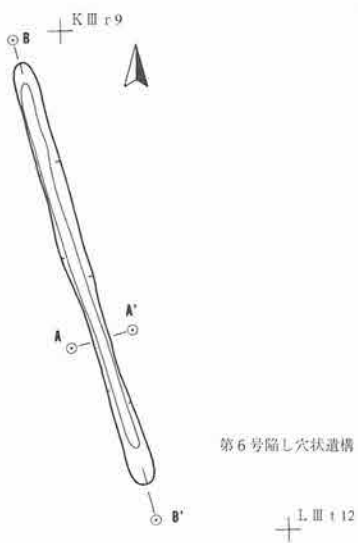


第5号陥し穴状遺構

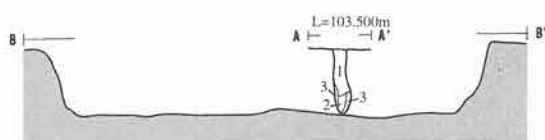


- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb粒（径5～30mm）を3%含む To-Cu粒を全体に含む
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性・やや弱 しまり・中 To-Nb粒（径2～10mm）を2%含む
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性・弱 しまり・疎 To-Nb粒（径10mm）を10%含む To-Cuを7%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色土主体 粘性・弱 しまり・疎 To-Nb粒（径1～20mm）を15%含む
- 5 7.5YR2/2 黒褐色土主体 粘性・弱 しまり・疎 黄褐色土粒との混入

第5号陥し穴状遺構



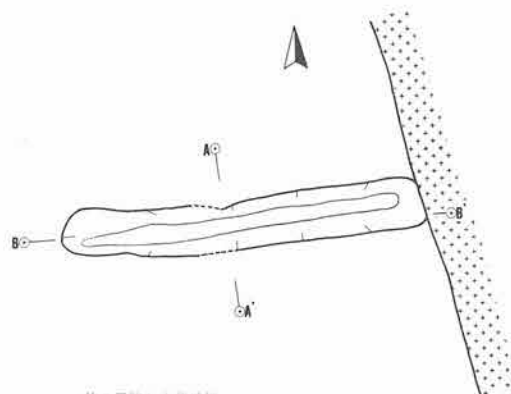
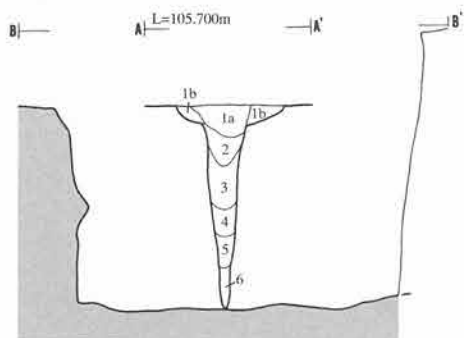
第6号陥し穴状遺構



- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや弱 しまり・疎 To-Nb粒（径5～20mm）を20%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6 黄褐色土の混入 粘性・やや強 しまり・中 お互いに層状を成して堆積している
- 3 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性・弱 しまり・中

第6号陥し穴状遺構

第7号陥し穴状遺構



第7号陥し穴状遺構

- 1a 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu 3%含む
- 1b 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu 1%含む
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu 1%含む To-Nb 微量混入
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb（径1～3mm）微量混入
- 4 7.5YR4/4 褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 To-Nb（径5～15mm）を多量に含む
- 5 10YR5/6 黄褐色土 粘性・やや強 しまり・やや疎
- 6 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・やや弱 しまり・やや疎



第49図 第5～7号陥し穴状遺構

4. 柱穴状ピット (第50・51図) 遺物 (第79図・写真図版84)

いずれも規則的な配置はみられず、住居跡の柱穴とは断定できなかった。時期についても不明である。埋土は黒褐色土を主体とする。

ピット群 (P 77~P 129)

<位置>調査区中央7①区 (1) L III j 11~L III h 12区 (2) L III l 10~L III l 12区

<検出状況> II層面で検出

<規模・形状> (1) 8×10mの範囲、(2) 10×6mの範囲、径15~30cm 深さ10~50cm (30cm前後が多い)。

P 130・P 131・P 132

<位置>調査区中央7①区 L III l 11区の平坦面。L III i 10区の平坦面。

<検出状況> IV b層で検出 <形状>平面形はほぼ円形を呈する。<規模>開口部径35~40cm、底部径22~33cm 深さ23cm前後を測る。

P 133

<位置>調査区北寄り7④区 J III e 5区に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は楕円形、断面形は円筒形を呈する。<規模> 開口部径34×32cm 底部径24×18cm 深さ27cmを測る。

P 134

<位置>調査区北寄り7④区、J III e 5区、P 133の北105cmの地点に位置する。<検出状況> II層で検出 <形状>平面形は楕円形、断面形は円筒形を呈する。<規模>開口部径36×29cm、底部径16×15cm 深さ27cmを測る。

P 135

<位置>調査区北寄り7④区、J III g 6区の平坦面に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は楕円形、断面形はV字形を呈する。<規模>開口部径60×47cm、底部径20×18cm、深さ43cmを測る。

P 136

<位置>調査区南寄り6①区、M III j 9区平坦面に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は円形、断面形は円筒形を呈する。<規模>開口部径28cm、底部径20cm、深さ27cmを測る。

P 137

<位置>調査区南寄り6①区、M III k 10区の平坦面に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は不整形円形、断面形は深鉢形を呈する。<規模> 開口部径35cm 底部径17cm 深さ38cmを測る。

P 138

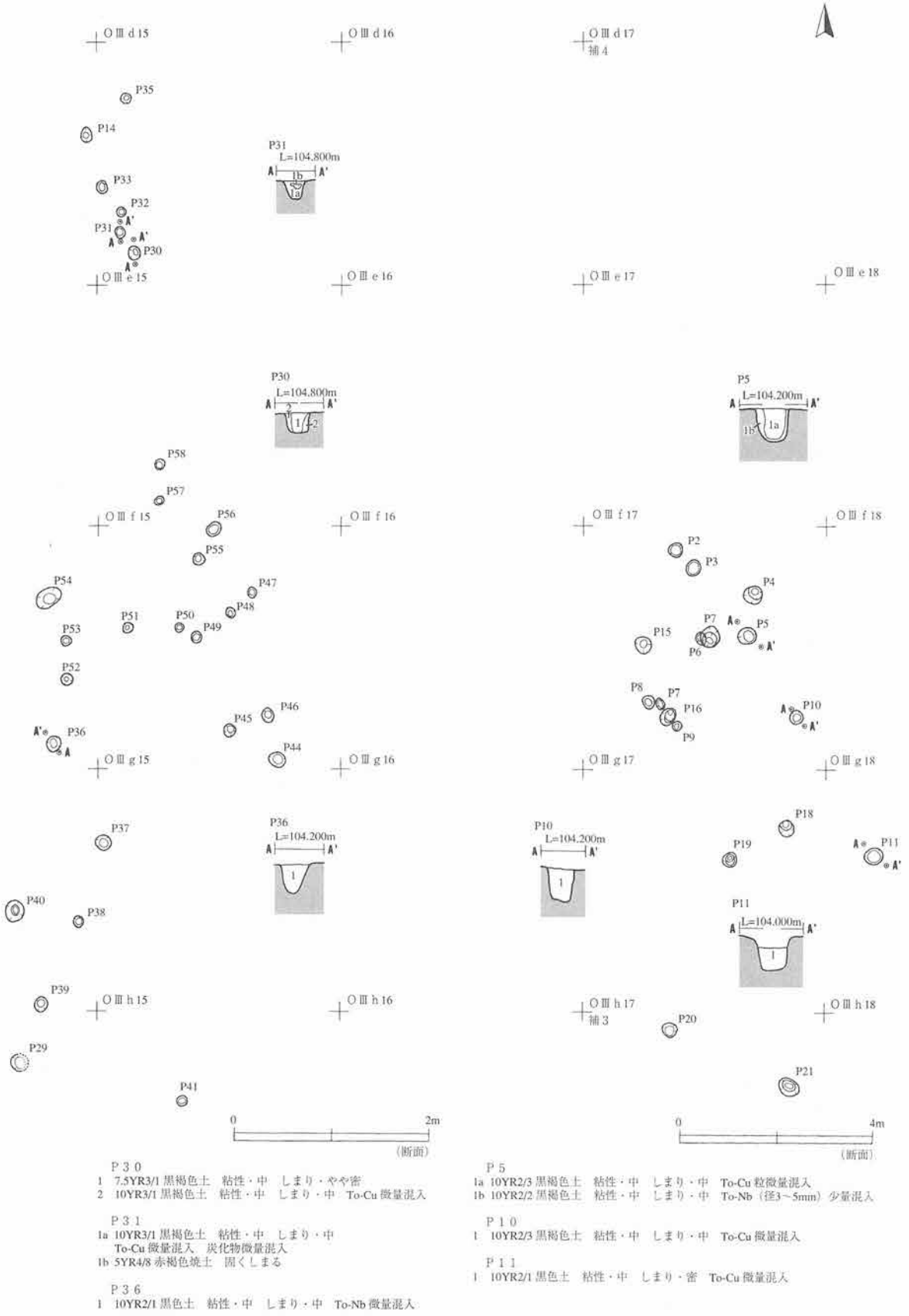
<位置>調査区南寄り6②区、L III r 10区の平坦面に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は不整形円形、断面形は逆台形を呈する。<規模>開口部径23×20cm、底部径10cm、深さ11.7cmを測る。

P 139

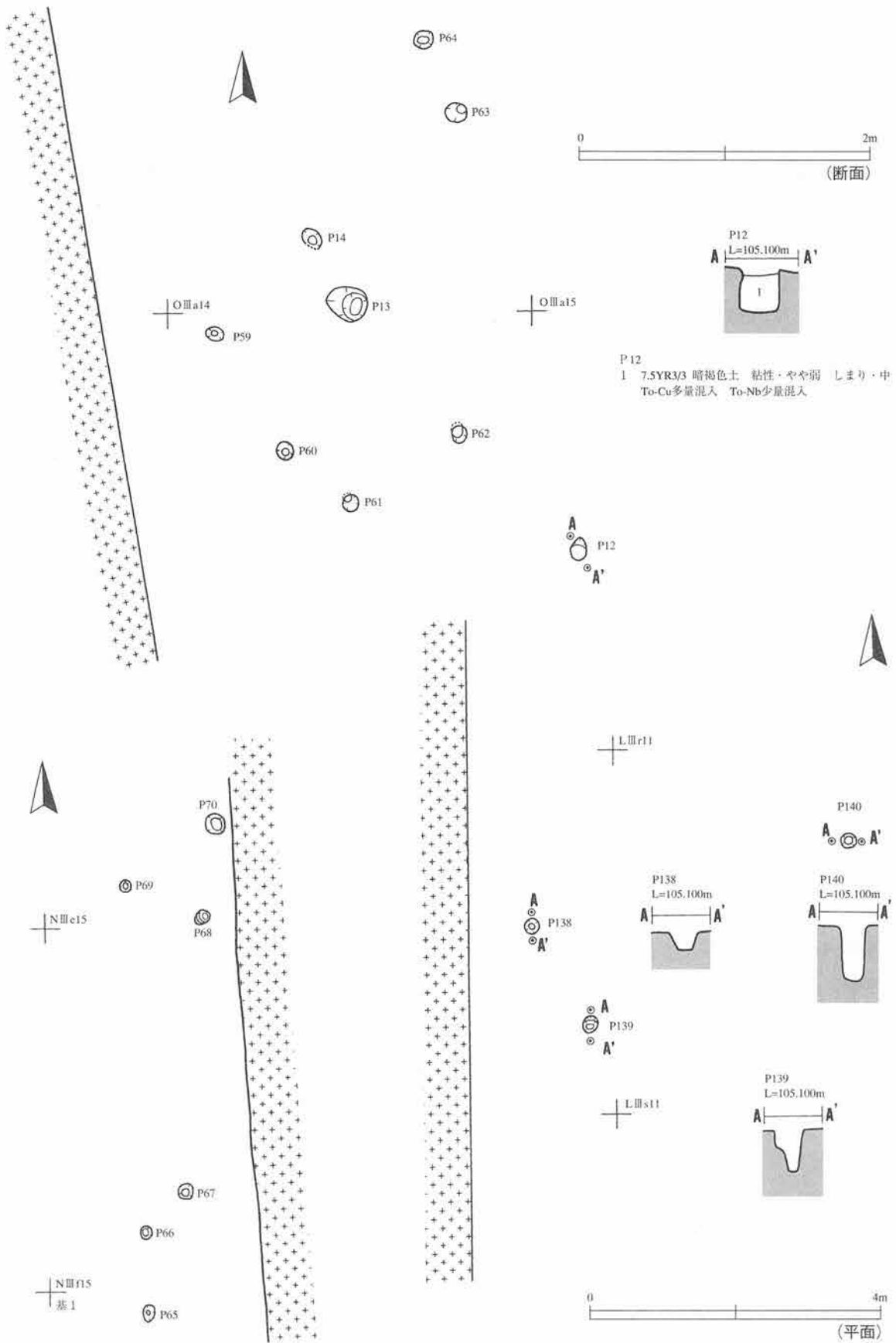
<位置>調査区南寄り6②区、L III r 10区の平坦面、P 138の南東約130cmに位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は不整形円形、断面形は中端を持つ円筒形を呈する。<規模>開口部径20×19cm、底部径13×9cm、深さ28cmを測る。

P 140

<位置>調査区南寄り6②区、L III r 11区の平坦面に位置する。<検出状況> II層で検出。<形状>平面形は不整形円形、断面形は円筒形を呈する。<規模>開口部径20×18cm、底部径14×11cm、深さ37cmを測る。



第50図 柱穴状ピット (1)



第51図 柱穴状ピット (2)

5.石囲炉・焼土遺構

石囲炉2基と焼土23基が検出された。焼土の規模・形状は一様ではないが、いずれも強く赤変している。焼土の周囲からは明確な柱穴は検出されず、住居の床面と判断できる痕跡も確認されない。

第1号石囲炉（第52図・写真図版58）

<位置>4区の平坦面、OⅢa14区に位置する。

<検出面>Ⅱ層面で、石囲炉の構成礫を検出した。構成礫と思われるものが周囲に散在する。住居に伴う炉跡と考えられるが、壁の立ち上がりや柱穴を検出できないため独立した石囲炉として登録した。重機による攪乱があり、破壊された可能性が高い。

<規模・形状>63×68cm、亜角礫8個で構成される。焼土の範囲35×54cm <厚さ>11cm

<遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代に属すると思われる。

第2号石囲炉（第52図・写真図版58）

<位置>6①区の平坦面、MⅢG11区に位置する。

<検出面>Ⅱ層面で検出された。上面には十和田a降下火山灰が堆積する。

<規模・形状>180×190cm、炉は砂岩で構築される。焼土の範囲90×80cmの円形 <厚さ>15cm前後

<遺物>土師器片数十点が確認された。

<時期>出土遺物の特徴から判断し、平安時代と思われる。周囲に第24号住居跡があることから、これに関連する施設と思われる。

第1号焼土（第52図・写真図版58）

<位置>調査区中央7①区の平坦面、LⅢf10区に位置する。

<検出面>Ⅵa層で検出された。

<規模・形状>122×43cmの不整な長楕円形 <厚さ>15～23cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第2号焼土（第52図・写真図版58）

<位置>調査区中央7①区の平坦面、LⅢn11区に位置する。

<検出面>Ⅵa層で検出された。

<規模・形状>124×30cmの長楕円形、 <厚さ>13cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第3号焼土（第53図・写真図版59）

<位置>調査区中央7①区の平坦面、LⅢl11区に位置する。

<検出面>Ⅵa層で検出された。

<規模・形状>58×21cmの不整形 <厚さ>19cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

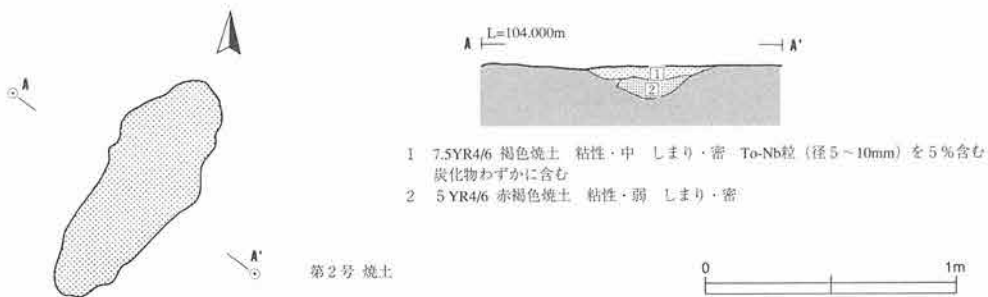
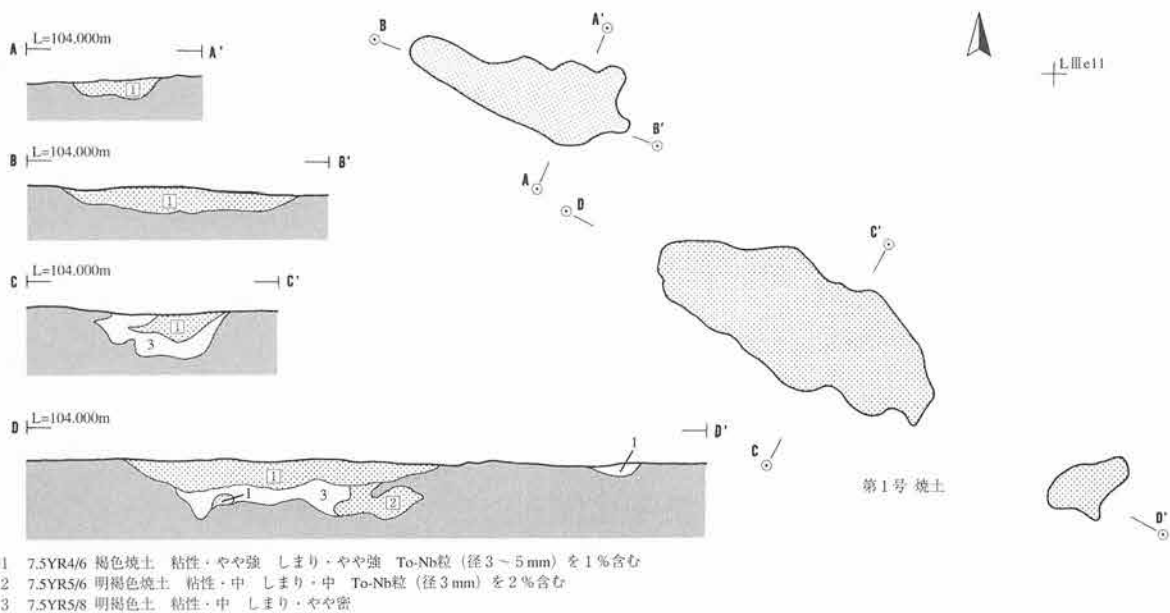
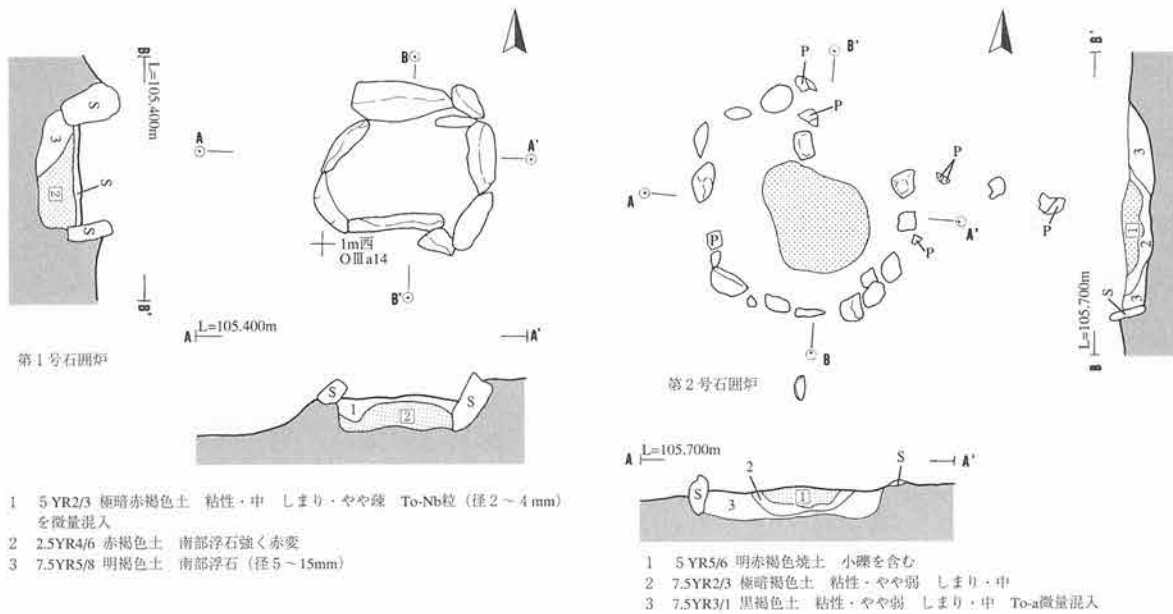
第4号焼土（第53図・写真図版59）

<位置>調査区中央7①区の平坦面、LⅢk11区に位置する。

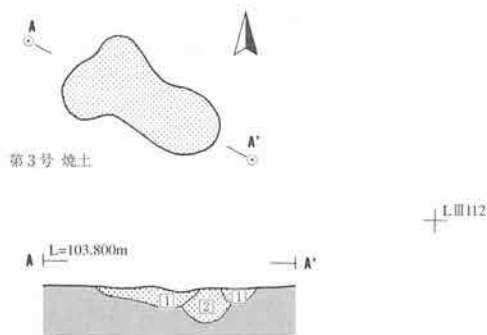
<検出面>Ⅵa層で検出された。

<規模・形状>161×51cmの不整な長楕円形 <厚さ>18cm

<遺物>貝殻腹縁圧痕を施す土器片1点が出土している。（第79図・写真図版84）

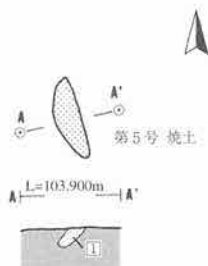


第52図 第1号・2号石囲炉、第1号・2号焼土



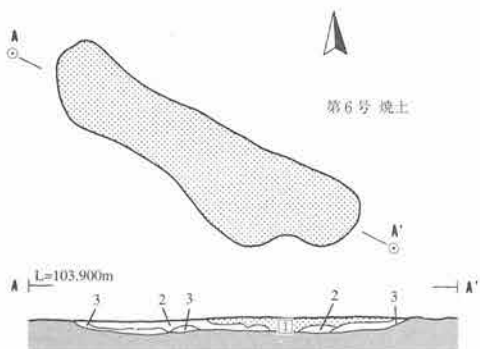
第3号 焼土

- 1 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・強 しまり・中 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロックを2%含む
- 2 7.5YR5/6 明褐色土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒 (径5mm) を1%, 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロックを1%含む



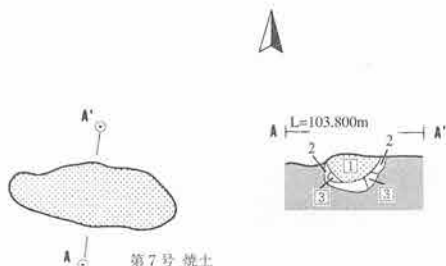
第5号 焼土

- 1 7.5YR 5/6 明褐色土と7.5YR 5/8 明褐色焼土の混土 粘性・極めて強 しまり・密



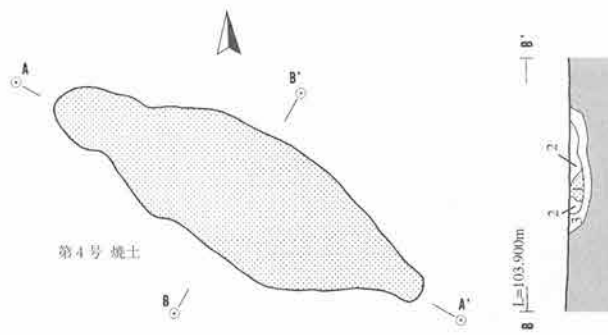
第6号 焼土

- 1 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性・強 しまり・中 10YR3/4 暗褐色土混入 赤変弱
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性・強 しまり・中 焼土ブロック (径3mm) を2%含む 赤変弱
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 焼土ブロックを1%含む

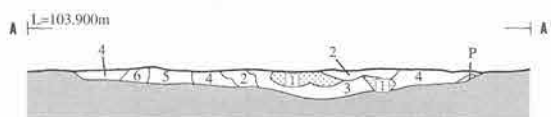


第7号 焼土

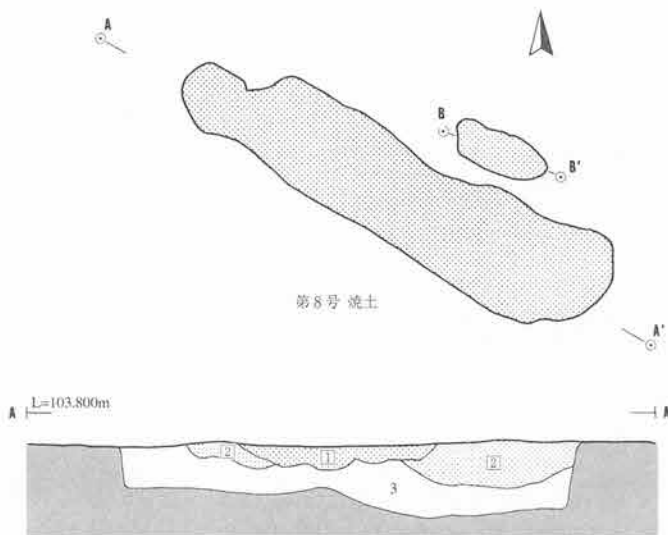
- 1 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・強 しまり・やや疎 To-Nb粒 (径5mm) を2%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径2~3mm) を3%含む
- 3 7.5YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径5mm) をわずかに含む



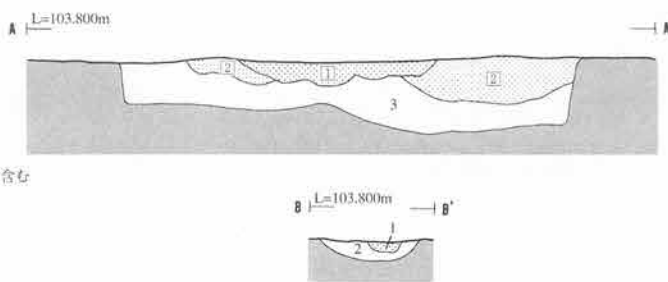
第4号 焼土



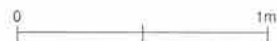
- 1 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・やや強 しまり・中 赤変強
- 2 7.5YR4/6 褐色土 粘性・やや強 しまり・中 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロックを1%, To-Nb粒 (径3~5mm) を1%含む
- 3 7.5YR4/4 褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径20mm) を1%含む 1層焼土粒をブロック状にわずかに含む
- 4 7.5YR4/3 褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒 (径5mm) を3%含む 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロック粒を1%含む
- 5 10YR4/6 褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径3~20mm) を5%含む
- 6 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径5mm) を10%含む 7.5YR5/8 明褐色焼土ブロック粒を1%含む



第8号 焼土



- A-A'
- 1 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒 (径5mm) を上部中心に3%含む
 - 2 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・強 しまり・中 To-Nb粒 (径5~10mm) を上部中心に7%含む 赤変弱
 - 3 10YR4/6 褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径3~5mm) を2%含む 暗褐色土と焼土がブロック状に混入
- B-B'
- 1 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性・強 しまり・疎 焼成弱 To-Nb粒 (径2~5mm) を3%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・やや強 しまり・中 To-Nb粒 (径3mm) を2%含む 焼土ブロック混入



第53図 第3~8号焼土

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期中葉に属すると思われる。炉穴の可能性もある。

第5号焼土（第53図・写真図版59）

＜位置＞調査区中央7①区の平坦面、LⅢk11に位置する。第4号焼土の北45cmにある。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞31×7cmの長楕円形　　＜厚さ＞8cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第6号焼土（第53図・写真図版59）

＜位置＞調査区中央7①区の平坦面、LⅢl10区に位置する。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞132×19cmの長楕円形、　　＜厚さ＞5cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第7号焼土（第53図・写真図版60）

＜位置＞調査区中央の平坦面、LⅢl10区、6号焼土の北東2.3mに位置する。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞67×24cmの長楕円形　　＜厚さ＞14cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第8号焼土（第53図・写真図版60）

＜位置＞調査区中央7①の平坦面、LⅢk10区に位置する。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞187×32cmの長楕円形　　＜厚さ＞16～27cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第9号焼土（第54図・写真図版60）

＜位置＞調査区中央7①区の平坦面、LⅢj11区に位置する。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞196×31cmの不整な長楕円形　　＜厚さ＞11cm前後　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第10号焼土（第54図・写真図版61）

＜位置＞調査区中央7①区の平坦面、LⅢj10区、第9号焼土の北東2.1mに位置する。

＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞130×37cmの長楕円形　　＜厚さ＞11cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第11号焼土（第54図・写真図版61）

＜位置＞調査区中央7①区の平坦面、LⅢh10区に位置する。

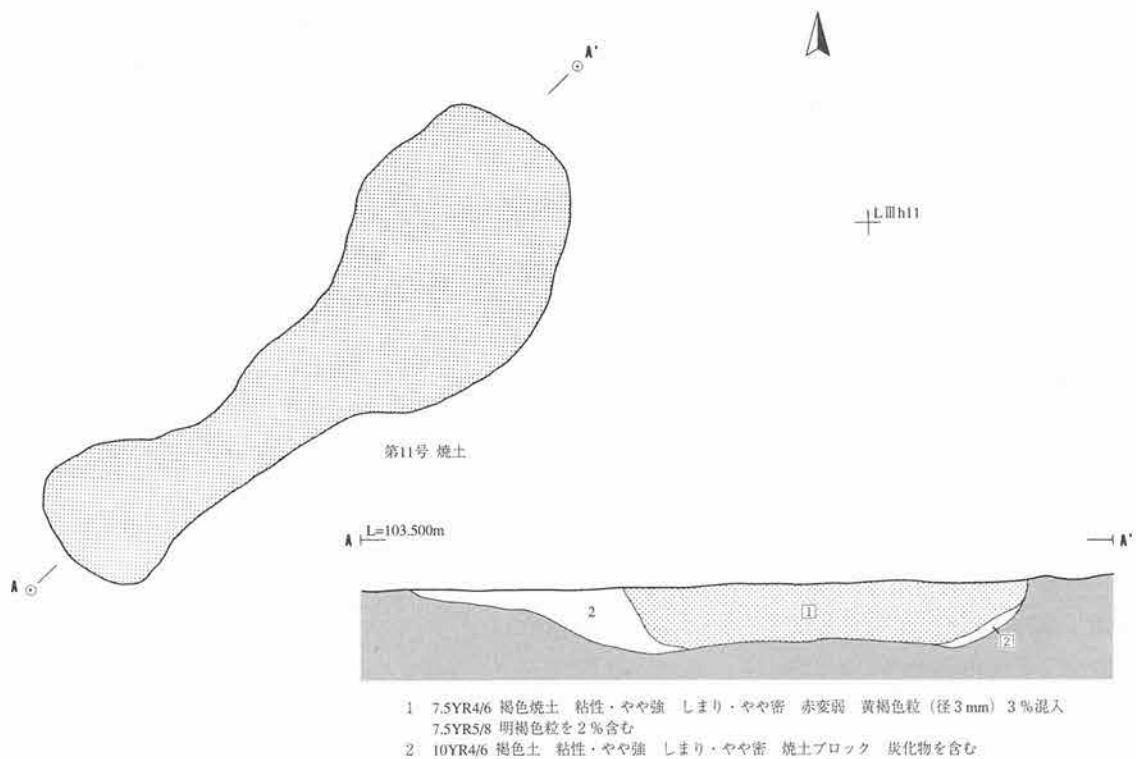
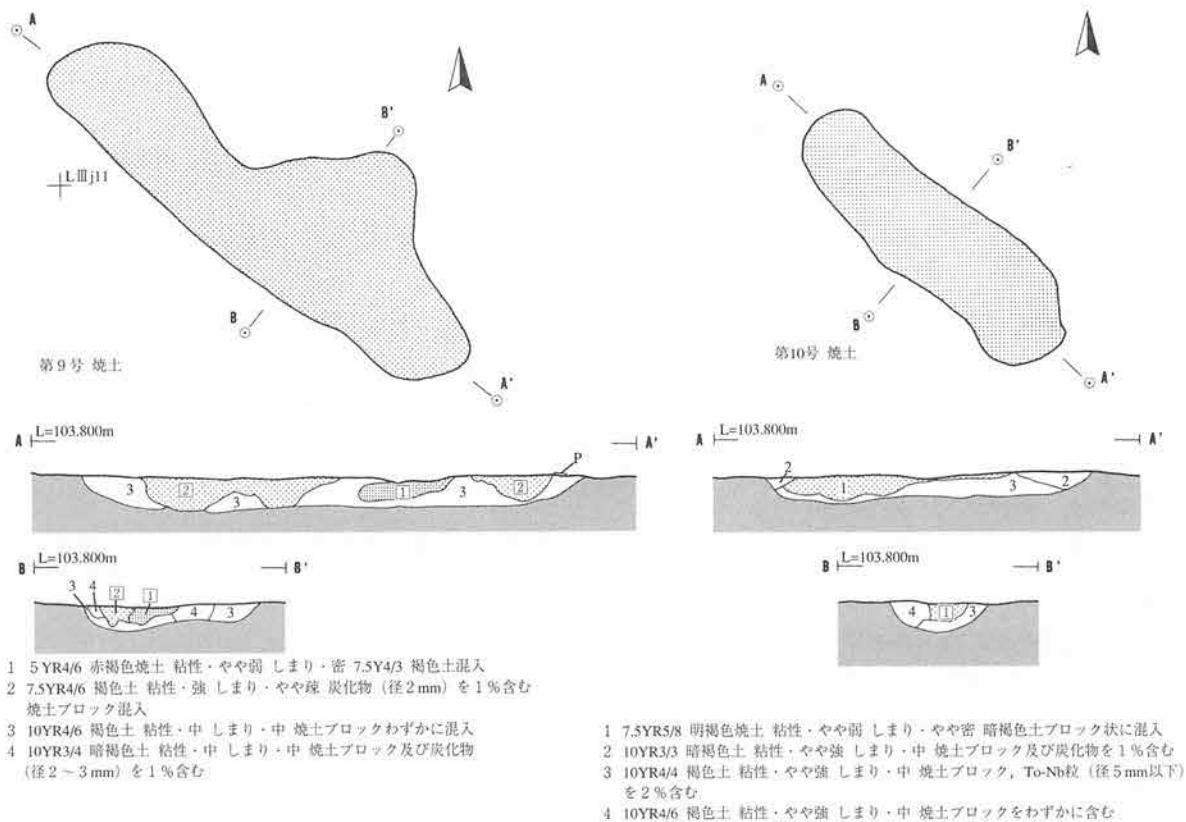
＜検出面＞Ⅵa層で検出された。

＜規模・形状＞248×35cmの不整な長楕円形　　＜厚さ＞21cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第12号焼土（第55図・写真図版61）

＜位置＞調査区南寄り6②区、LⅢq11,r11区に位置する。



第54図 第9~11号焼土

＜検出面＞VI層で検出された。比較的範囲の大きい焼土であり、焼失した住居跡とも考えられるが、住居となる痕跡は確認できない。

＜規模・形状＞600×345cmの不整形　　＜厚さ＞約5～7cm

＜遺物＞縄文早期中葉と思われる土器片が多数と石器1点が出土した。土器はいずれも貝殻腹縁圧痕が施される。(第79・80図・写真図版84・85)

＜時期＞出土した遺物の特徴から縄文早期中葉と思われる。

第13号焼土(第55図・写真図版61)

＜位置＞調査区南寄り6③区、LⅢo10区に位置する。

＜検出面＞VI層で検出された。

＜規模・形状＞52×30cmの不整楕円形　　＜厚さ＞19cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第14号焼土(第55図・写真図版62)

＜位置＞調査区南寄り6③区、LⅢo12区に位置する。

＜検出面＞VI層で検出された。

＜規模・形状＞320×68cmの不整な長楕円形　　＜厚さ＞9～23cm

＜遺物＞石器2点が出土している。(第80図・写真図版85)

＜時期＞検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第15号焼土(第55図・写真図版62)

＜位置＞調査区南寄り6③区、LⅢn12,o12区、第14号焼土の北側30cmに位置する。

＜検出面＞VI層で検出された。

＜規模・形状＞280×41cmの不整形　　＜厚さ＞20～50cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第16号焼土(第56図・写真図版62)

＜位置＞調査区南寄り6③区、LⅢn10区に位置する。

＜検出面＞VI層で検出された。

＜規模・形状＞200×30cmの不整長楕円形　　＜厚さ＞8～19cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代早期に属すると思われる。

第17号焼土(第56図・写真図版62)

＜位置＞4区、OⅢe16に位置する。

＜検出面＞II層で検出された。

＜規模・形状＞53×23cmの不整形　　＜厚さ＞5～9cm　　＜遺物＞出土していない。

＜時期＞検出状況や周囲の出土遺物の特徴から判断し、縄文時代中期以降と思われる。

第18号焼土(第56図・写真図版63)

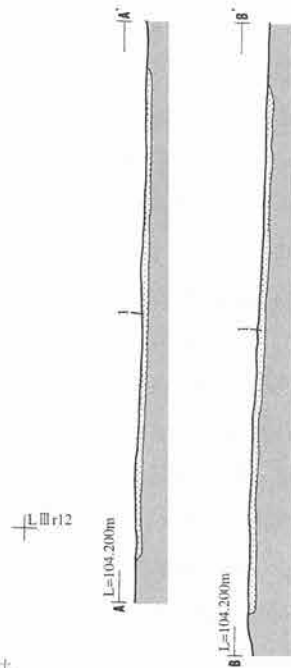
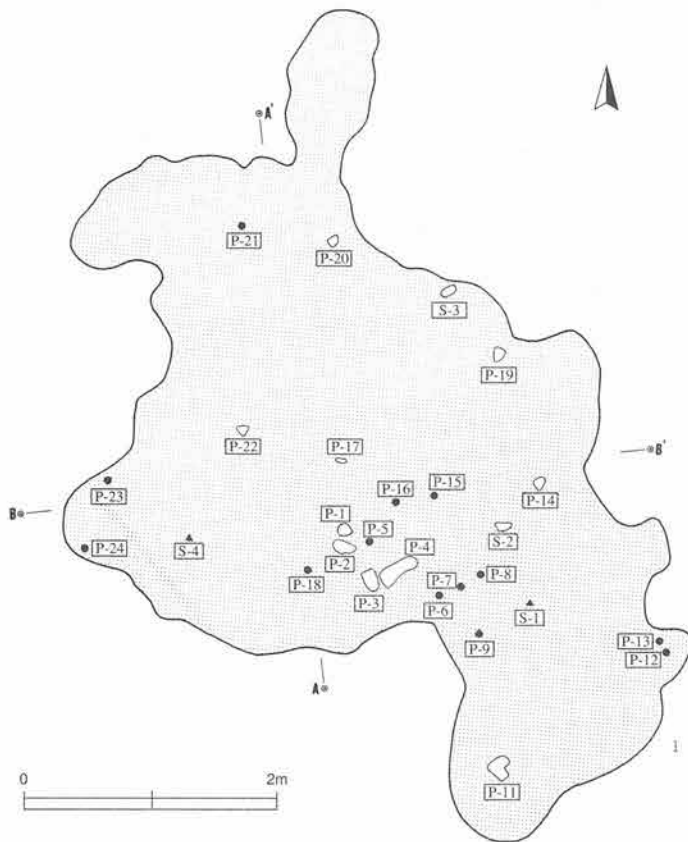
＜位置＞5区、NⅢe14に位置する。

＜検出面＞II層中で検出された。第34号土坑の上面に広がる。

＜規模・形状＞80×120cmの不整形　　＜厚さ＞11cm　　＜遺物＞出土していない。

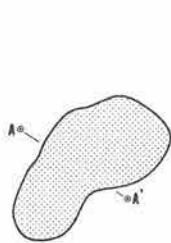
＜時期＞検出状況等から判断し、縄文時代と思われる。

第19号焼土(第56図・写真図版63)

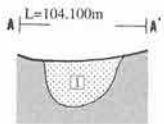


第12号 焼土

1 5 YR4/8 赤褐色焼土 (粘性・弱 しまり・密) と10YR3/4 暗褐色 (粘性・やや弱 しまり・密) の混合土 To-Nb (径3~20mm) を10%含む 炭化物粒 (径3~10mm) を3%含む

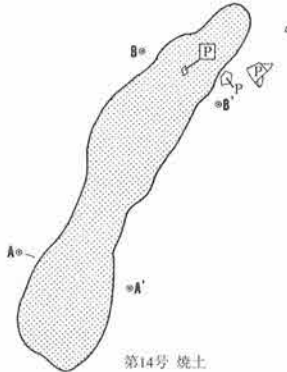


第13号 焼土

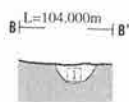
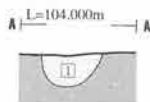


1 7.5YR5/8 明褐色焼土 粘性・弱 しまり・中 To-Nb (径3~10mm) を上層部に多量に含む

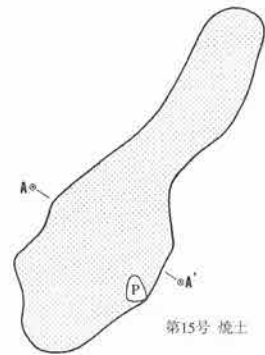
L III o12



第14号 焼土

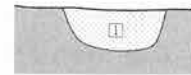


1 5 YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・やや弱 しまり・やや疎 上層にTo-Nb (径3~20mm) を多量に含む



第15号 焼土

L=104.000m



1 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性・中 しまり・中 To-Nb (径1~20mm) を上位に7% 下位に3%含む 炭化物粒 (径3~8mm) を1%含む



第55図 第12~15号焼土

<位置>5区の平坦面、NⅢ d 14に位置する。

<検出面>Ⅱ層中で検出された。

<規模・形状>45×50cmの不整楕円形 <厚さ>3～9cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代に属する可能性がある。

第20号焼土（第56図・写真図版63）

<位置>4区、OⅢ h 15に位置する。

<検出面>Ⅲ層中で検出された。

<規模・形状>52×45cmの不整形 <厚さ>9cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代前期以降と思われる。

第21号焼土（第56図・写真図版63）

<位置>4区、OⅢ g 14に位置する。

<検出面>Ⅲ層中で検出された。

<規模・形状>35×19cmの不整形 <厚さ>5cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代前期以降と思われる。

第22号焼土（第56図・写真図版64）

<位置>調査区南寄り6②区、LⅢ q 12区に位置する。

<検出面>Ⅵ層で検出された。

<規模・形状>22×18cmの不整形 <厚さ>約2cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代中期以降と思われる。

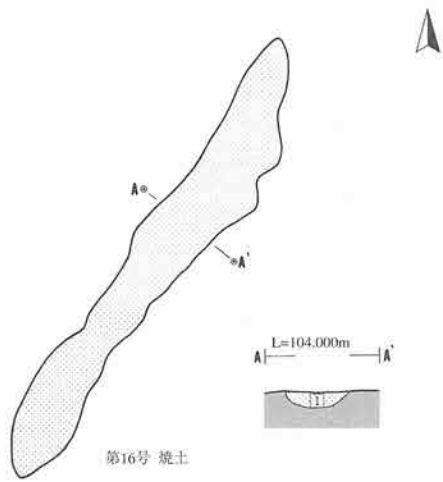
第23号焼土（第56図・写真図版64）

<位置>調査区中央7②区、KⅢ q 9区に位置する。

<検出面>Ⅱ層中で検出された。

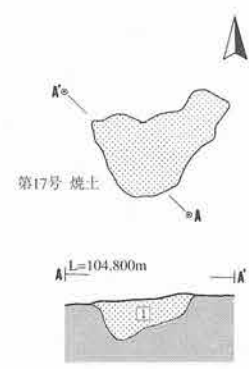
<規模・形状>52×11cmの不整形 <厚さ>3cm <遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、検出状況から古代以降と思われる。



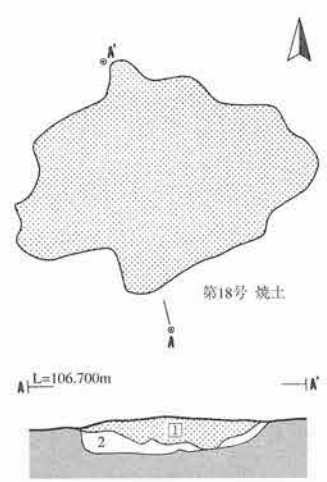
第16号 焼土

1 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性・やや弱 しまり・密
To-Nb (径3~8mm) を2%含む 炭化物粒 (径3~5mm) を1%含む



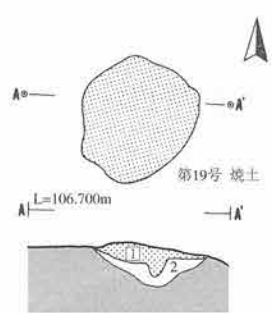
第17号 焼土

1 5 YR4/8 赤褐色焼土



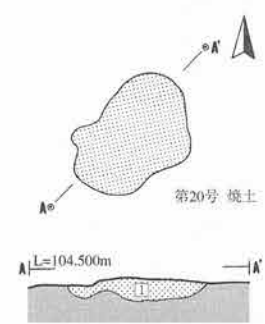
第18号 焼土

1 5 YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・弱 しまり・密 黒褐色土混入
2 5 YR2/1 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや密 焼土粒微量混入



第19号 焼土

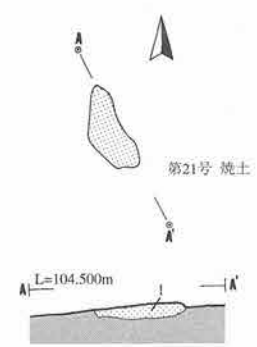
1 5 YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・弱 しまり・密 黒褐色土混入
2 5 YR2/1 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや密 焼土粒微量混入



第20号 焼土

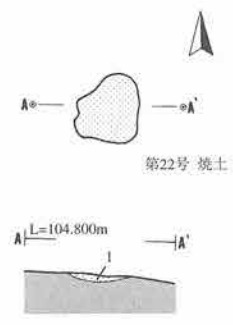
1 5 YR3/6 暗赤褐色焼土

1 5 YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・弱 しまり・密 黒褐色土混入
2 5 YR2/1 黒褐色土 粘性・弱 しまり・やや密 焼土粒微量混入



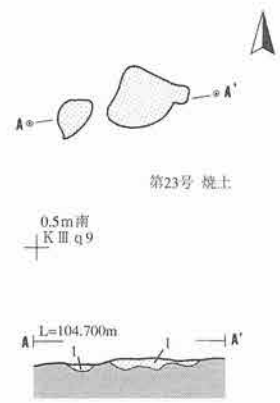
第21号 焼土

1 5 YR3/3 暗赤褐色焼土



第22号 焼土

1 5 YR3/6 暗赤褐色焼土 7.5YR2/2 黒褐色土まだら状に混入



第23号 焼土

1 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・弱 しまり・やや密
粗礫粒 (径2~3mm) 3%混入



第56図 第16~23号焼土

6. 溝状遺構

調査区全体で17条検出した。

第1号溝状遺構（第57図・写真図版64）

＜位置＞調査区南部4区の緩やかな傾斜地、OⅢh17～g18区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層上面で検出。

＜形状＞平面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ9.3m 幅35～138cm 深さ7cmを測る。

＜埋土＞黒褐色土を主体とする。上面に十和田a降下火山灰が堆積する。＜出土遺物＞出土していない。

＜時期＞不明である。

第2号溝状遺構（第57図・写真図版64）

＜位置＞調査区南部4区の緩やかな傾斜地 OⅢi17～h18区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層上面で検出。

第2号溝状遺構に平行する。＜形状＞平面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ8.95m、幅47

～123cm、深さ11cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。上面に十和田a降下火山灰が堆積する。

＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞不明である。

第3号溝状遺構（第57図・写真図版65）

＜位置＞調査区南部4区 NⅢe13～a14区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層上面で検出。＜形状＞平面形

は溝状、断面形はU字形を呈する。＜規模＞長さ22m 幅21～45cm 深さ25～30cmを測る。＜埋土＞黒褐色

土を主体とする。十和田a降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞不明である。

第4号溝状遺構（第57図・写真図版65）

＜位置＞調査区南寄り6区 MⅢf11区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出。第5,6号溝状

遺構に平行する。＜形状＞平面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ5.38m、幅24cm、深さ5

cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。十和田a降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。

＜時期＞不明である。

第5号溝状遺構（第57図・写真図版65）

＜位置＞調査区南寄り6区、MⅢf11区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出。＜形状＞平面

形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ4.5m 幅25cm 深さ8cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主

体とする。十和田a降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞不明である。

第6号溝状遺構（第57図・写真図版65）

＜位置＞調査区南寄り6区、MⅢg11～f11区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。＜形状＞平

面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ4.87m 幅26cm 深さ8cmを測る。＜埋土＞黒褐色土

を主体とする。十和田a降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞不明であるが、畝跡

の可能性はある。

第7号溝状遺構（第58図・写真図版66）

＜位置＞調査区中央6③～7②区、LⅢn12～LⅢb10区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検

出した。＜形状＞平面形は溝状でほぼ直線的に伸びる。断面形は概ね浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ70m、

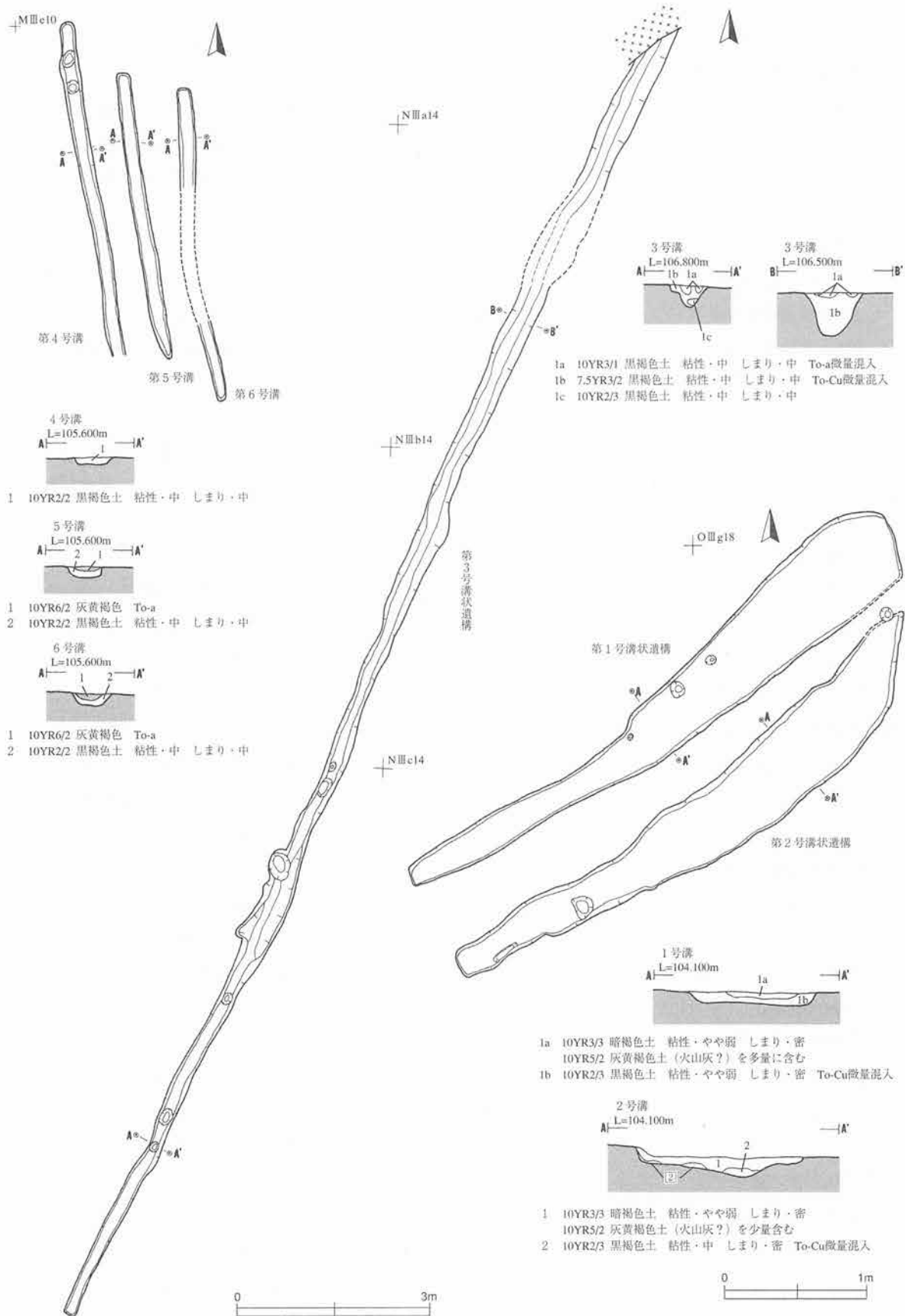
幅35cm前後、深さ15cm前後を測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。十和田a降下火山灰を含む。

＜出土遺物＞縄文土器5点、土師器6点が出土している。＜時期＞出土遺物や検出面から古代と思われる。

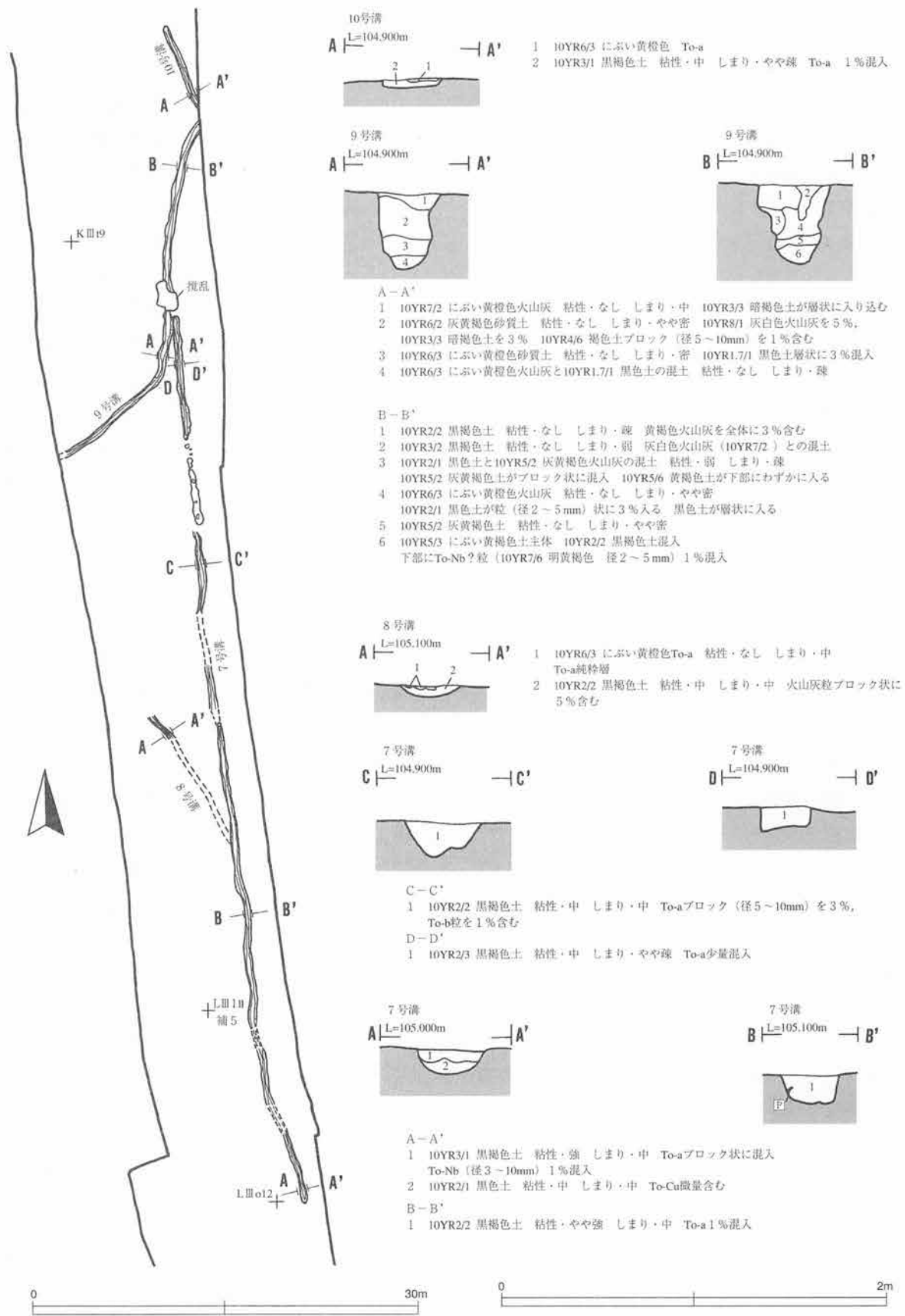
第8号溝状遺構（第58図・写真図版67）

＜位置＞調査区中央7①区、LⅢj11～LⅢi10区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。

＜形状＞平面形は溝状、断面形は浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ11m、幅35cm前後、深さ5～10cmを測る。



第57図 第1～6号溝状遺構



第58図 第7~10号溝状遺構

＜埋土＞黒褐色土を主体とする。十和田 a 降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面等から古代と思われる。

第9号溝状遺構（第58図・写真図版67）

＜位置＞調査区中央7②区、LⅢ d 9～KⅢ s 11区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。第13号溝状遺構を切る。＜形状＞平面形は溝状、断面形はU字形を呈する。＜規模＞長さ30m、幅35cm前後、深さ40cm前後を測る。＜埋土＞にぶい黄橙色砂質土を主体とする。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面等から古代と思われる。

第10号溝状遺構（第58図・写真図版68）

＜位置＞調査区中央7②区、KⅢ r 10～KⅢ q 10区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。＜形状＞平面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ6.8m 幅35cm 深さ5cm前後を測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。十和田 a 降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面等から古代と思われる。

第11号溝状遺構（第59図・写真図版68）

＜位置＞調査区中央7②区、KⅢ q 9～KⅢ p 10区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。＜形状＞平面形は溝状、断面形は浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ16m、幅220cm前後、深さ27cm前後を測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。十和田 a 降下火山灰を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面等から縄文～古代と思われる。

第12号溝状遺構（第59図・写真図版69）

＜位置＞調査区南寄り5区、MⅢ r 11～MⅢ o 15区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。南西および北東部は調査区外へのびる。第14、15号溝状遺構に切られる。＜形状＞平面形は溝状、断面形は浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ20m、幅120cm前後、深さ30cm前後を測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。＜出土遺物＞石鏃1点が出土している。（第80図・写真図版85）＜時期＞検出面等から古代以降と思われる。

第13号溝状遺構（第59図・写真図版69）

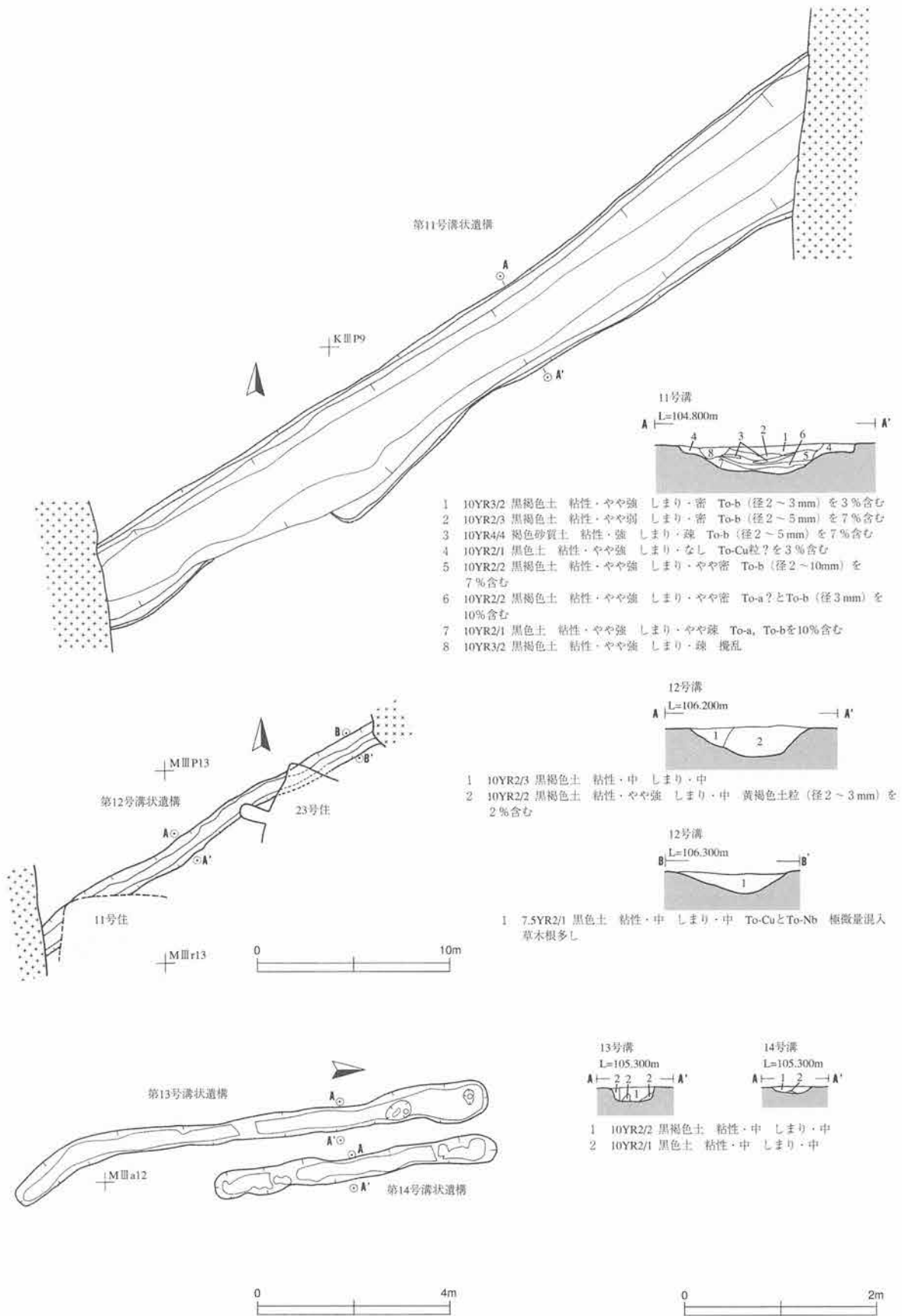
＜位置＞調査区南寄り6②区、LⅢ t 11区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層上面で検出した。＜形状＞平面形は溝状、断面形は浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ10m、幅45cm、深さ13cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代～中世と思われる。

第14号溝状遺構（第59図・写真図版69）

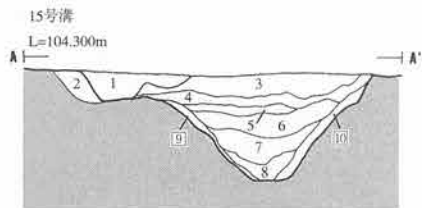
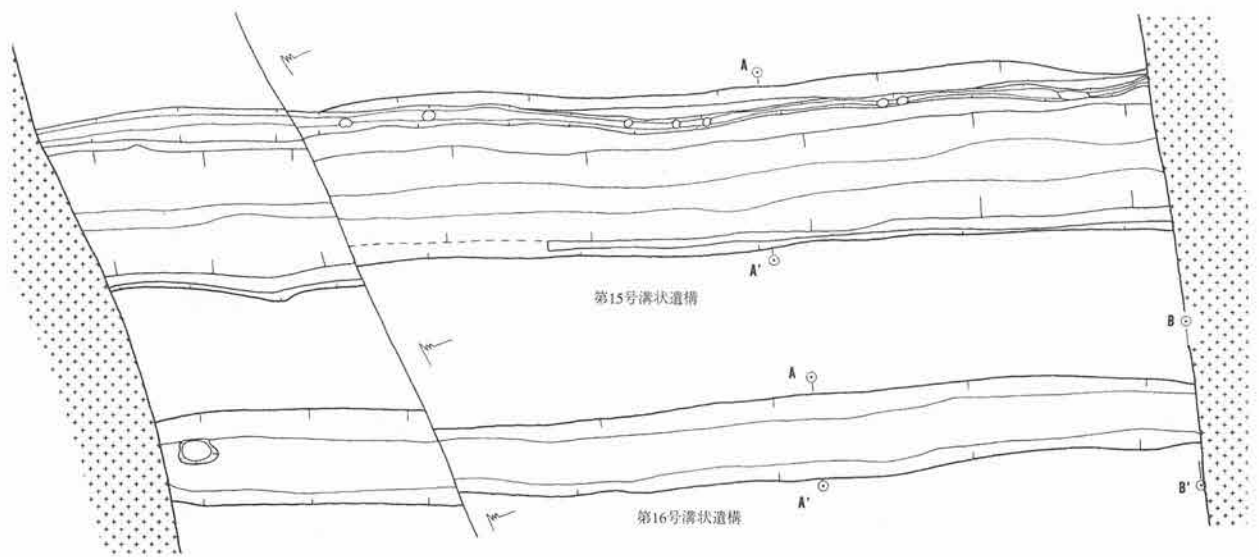
＜位置＞調査区南寄り6②区、LⅢ t 11区の平坦面に位置する。第13号溝状遺構の東に平行する。＜検出状況＞Ⅱ層上面で検出した。＜形状＞平面形は溝状、断面形は皿状を呈する。＜規模＞長さ195cm 幅17cm前後、深さ7cm前後を測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代～中世と思われる。

第15号溝状遺構（第60図・写真図版70）

＜位置＞調査区北寄り7④区、JⅢ g 3～JⅢ g 6区の平坦面に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。＜形状＞平面形は溝状、断面形は逆三角形を呈する。北側に溝がもう一条平行する。＜規模＞長さ17.2m、幅160cm、深さ84cmを測る。北側部分は長さ17.5m 幅30cm 深さ21cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。＜出土遺物＞土師器3点が出土している。＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代以降と思われる。区画溝の可能性はある。



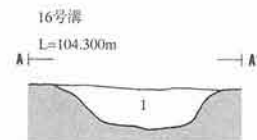
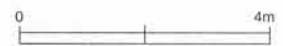
第59図 第11~14号溝状遺構



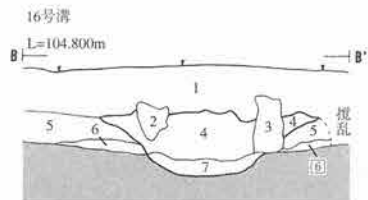
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 新期攪乱? 下部にTo-a混入
- 2 10YR2/1 黒色土と10YR1.7/1黒色土の混土 粘性・中 しまり・中 (掘りすぎ?)
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・密 To-bと思われる白色粒2%, To-Cu粒7%混入
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・強 しまり・やや疎 黄褐色粒(径2mm)を2%含む
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・密 黄褐色粒(径2~4mm)を7%含む
- 6 10YR2/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・疎 To-Nb粒(径2~10mm)を3%含む
- 7 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Nb粒(径5~10mm)を10%含む 砂粒が全体に混入(土:砂=50:50)
- 8 10YR1.7/1 黒色土 粘性・強 しまり・疎 To-Nb粒(径5~10mm)を7%含む
- 9 10YR1.7/1 黒色土 粘性・やや強 しまり・中 黄褐色粒(径2mm)をわずかに含む
- 10 10YR2/2 黒褐色土 粘性・やや強 しまり・中 黄褐色粒(径1~2mm)を全体に3%含む

JIII h5

JIII h6



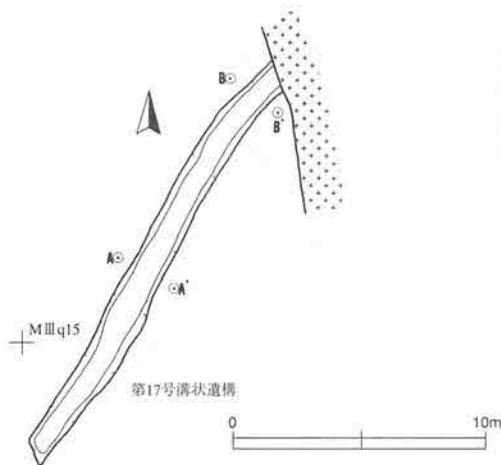
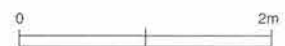
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 上部にTo-b 1%, 下部にTo-Nb 2%混入



- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 表土 雑草根多し
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 攪乱
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性・中 しまり・疎 To-Nb粒(径3mm)を1%含む 攪乱
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu粒をわずかに含む
- 5 10YR1.7/1 黒色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu粒を3%含む
- 6 10YR3/2 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎
- 7 10YR2/1 黒色土 粘性・中 しまり・中 To-Nb粒?(径3mm)を5%含む(中央部中心)



- 1 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性・中 しまり・やや疎 To-Cu 1%混入 To-Nb(径3~5mm)極微量含む
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・中 しまり・中 To-Cu多量に含む



第60図 第15~17号溝状遺構

第16号溝状遺構（第60図・写真図版70）

＜位置＞調査区北寄り7④区、JⅢh3～JⅢh6区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出、第15号溝状遺構の南側に平行する。＜形状＞平面形は溝状、断面形は逆台形を呈する。＜規模＞長さ16.8m、幅120cm深さ50cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。南部浮石をわずかに含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代以降と思われる。

第17号溝状遺構（第60図・写真図版70・71）

＜位置＞調査区南寄り5②区、MⅢq15～MⅢp15区に位置する。＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。北東部は調査区外にのびる。＜形状＞平面形は溝状、断面形は浅鉢状を呈する。＜規模＞長さ358cm、幅19～30cm、深さ7～13cmを測る。＜埋土＞黒褐色土を主体とする。中掬浮石を含む。＜出土遺物＞出土していない。＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代以降と思われる。

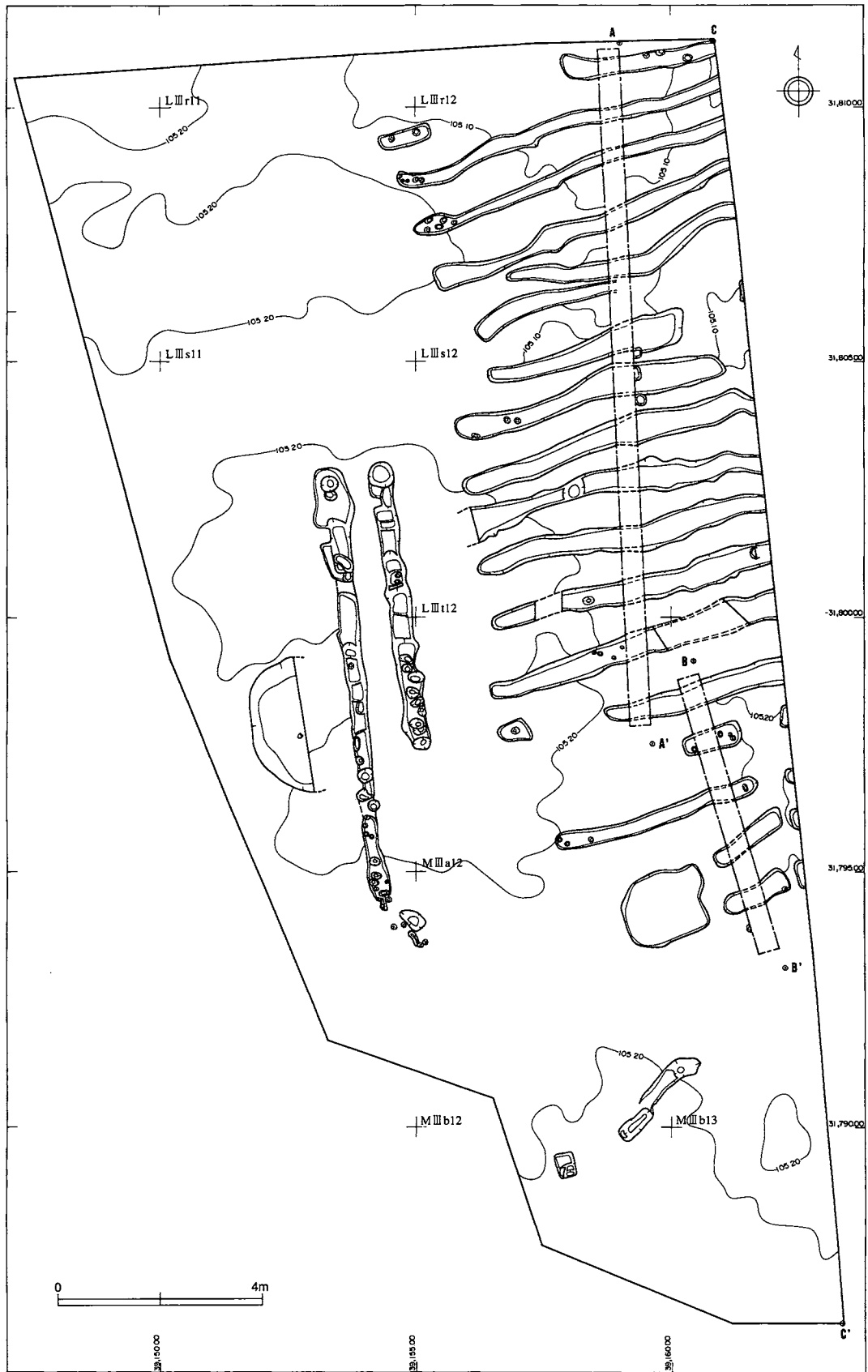
7. 畠状遺構（第61・62図・写真図版71・72）

＜位置＞調査区南寄り6②区 MⅢa12～LⅢr12区に位置する。
＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。東部は調査区外にのびる。畝部分は削平される。
＜形状＞平面形は溝状、畝間部分は浅鉢状を呈する。
＜規模＞106m²の範囲内に18条の畝間が見られる。長さ各106～630cm 幅38～70cm 深さ10cm前後を測る。
＜埋土＞十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土を主体とする。
＜出土遺物＞縄文土器6点と土師器片1点が出土している。縄文土器は畠造成時に混入したものと思われる。土師器片は12号住居の土器片と接合したことから、住居に伴う畠跡の可能性はある。
＜時期＞検出面や周囲の状況等から古代と思われる。

付篇参照

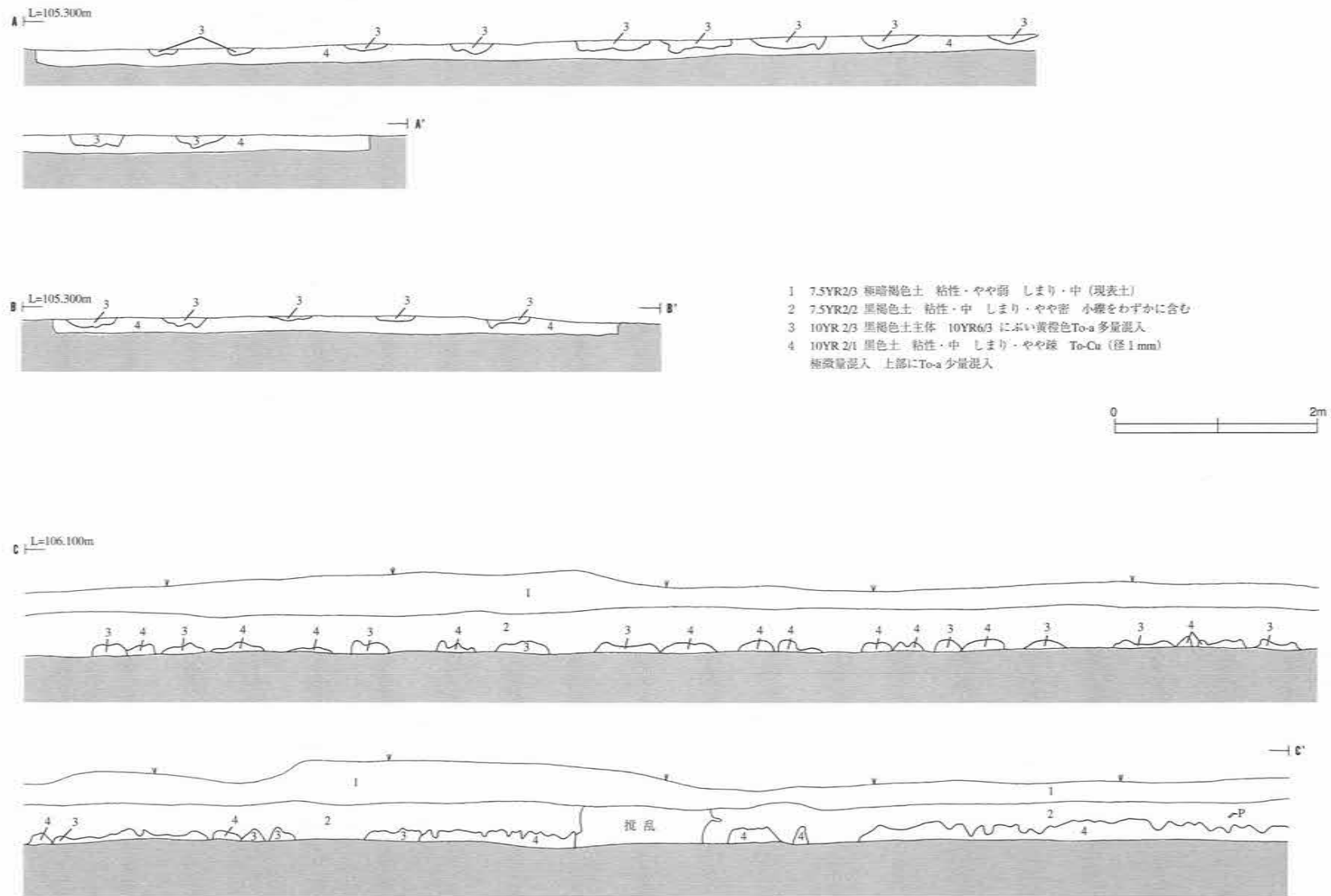
8. 井戸跡（第63図・写真図版72）

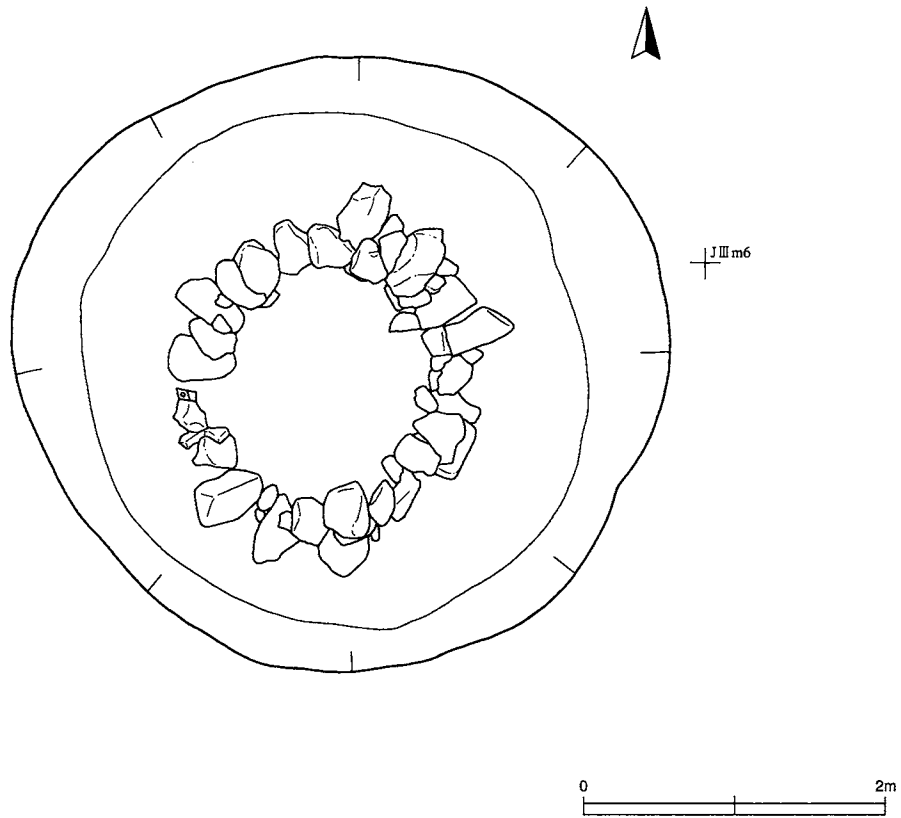
＜位置＞調査区北寄り7④区、JⅢn5区の平坦面に位置する。
＜検出状況＞Ⅱ層面で検出した。円形の黒色土と礫が確認された。崩落の危険性があり、完掘不能であった。
＜形状＞平面形はほぼ円形を呈する。
＜規模＞開口部径407cm、底部径259cm、深さ250cm（推定）を測る。10～50cm前後の礫が径230cmの円形に組まれる。
＜埋土＞十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土を主体とする。
＜出土遺物＞近現代の陶磁器が出土した。
＜時期＞検出面や周囲の状況等から判断し近現代のものと思われる。



第61図 畠状遺構 (1)

第62図 皇状遺構 (2)





第63図 井戸跡

9. 遺物包含層

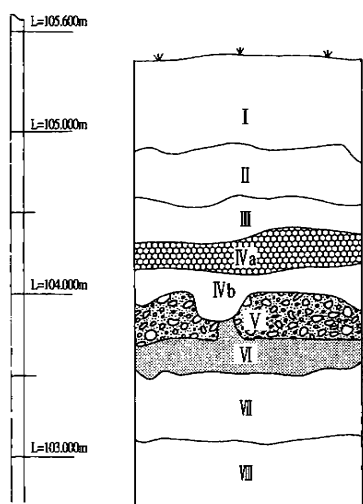
(1) 縄文早期遺物包含層

調査区の中央部6②区～7②区にかけて縄文早期遺物包含層が広がる。明確な包含層を把握することは困難であるが、長瀬B遺跡の調査結果から推定し、馬淵川方向に向かって、東方に延びているものと思われる。当層は基本土層のVI層にあたる。出土した遺物は全て南部浮石の下からで、土器型式は寺の沢式に比定される。取り上げはほとんどを点取りとし、掲載した遺物の出土地点については取り上げ番号を記した。

(2) 縄文前期遺物包含層

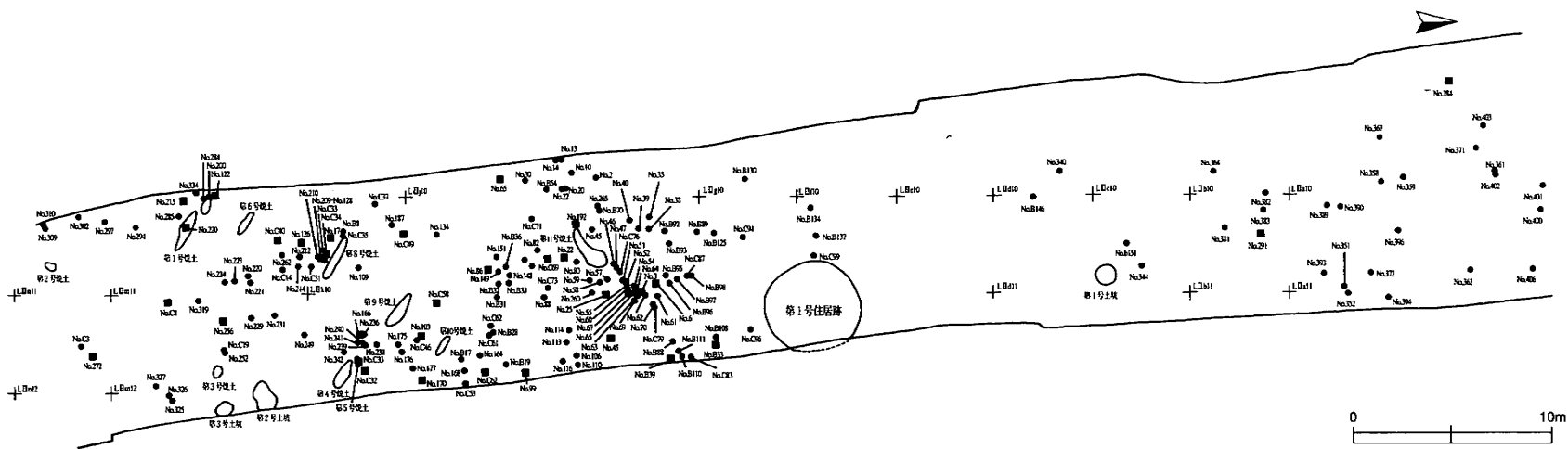
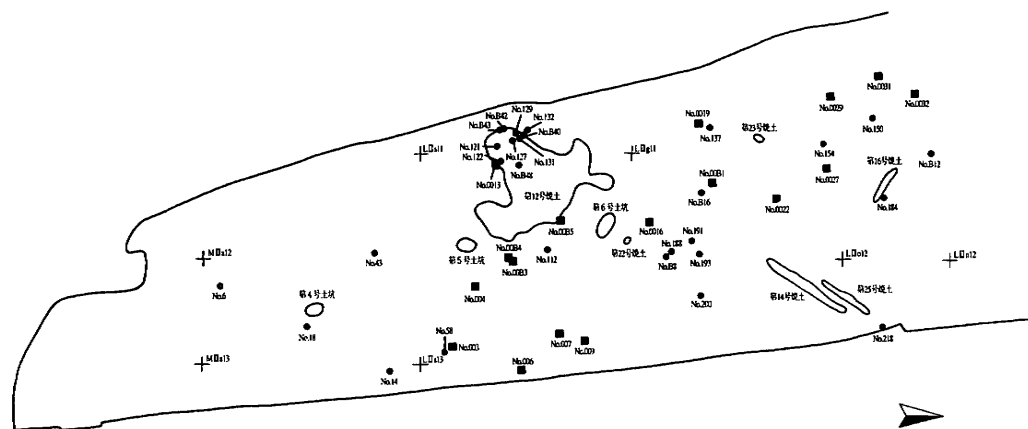
調査区の中央部5区～6①区にかけて縄文前期遺物包含層が広がるが、密度としては濃くはない。層位はIV a層で、南部浮石の上層にあたる。土器型式は長七谷地Ⅲ群に比定される。

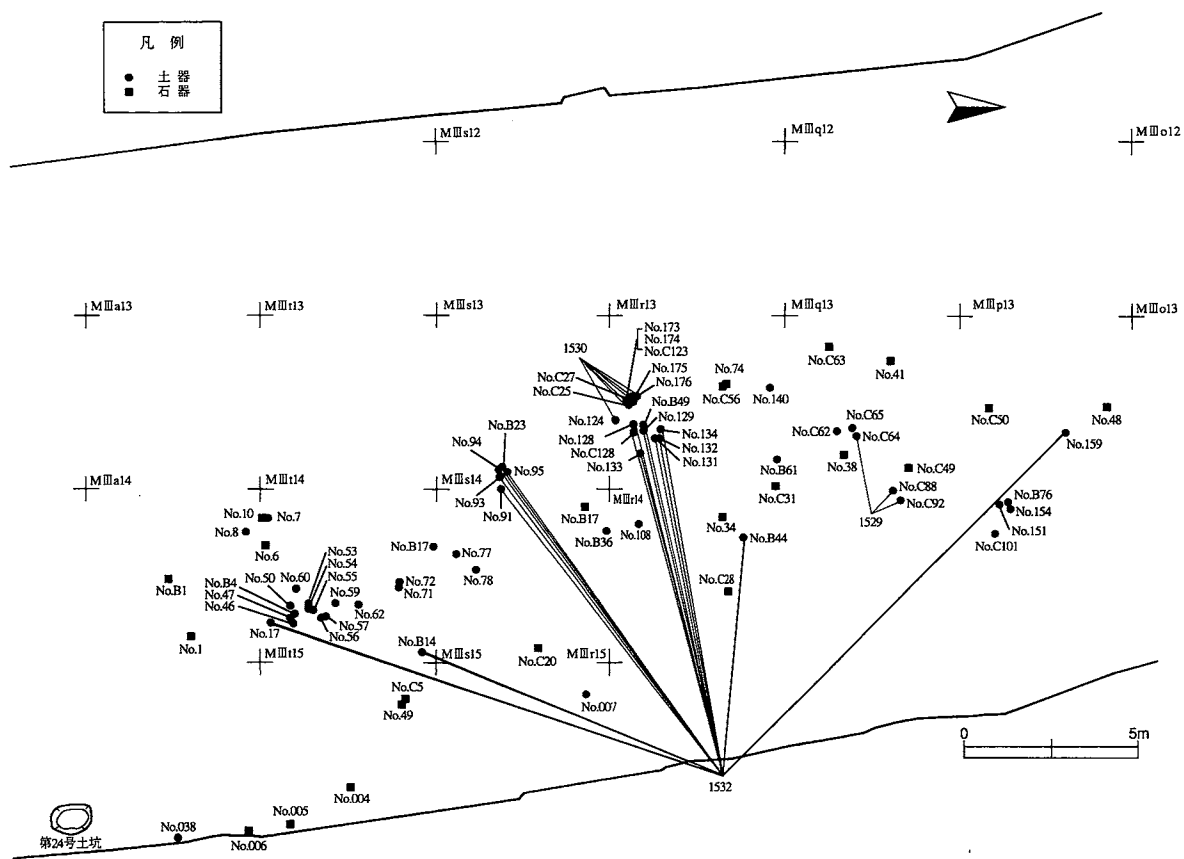
第64图 遗物包含层(早期)



凡例

- 石器
- 石器





第65图 遺物包含層 (前期)

V. 遺構外出土遺物

1. 土器 (第81～93図・写真図版86～94)

遺構外から出土した土器類の総量は、大コンテナ (42×32×30cm) 約14箱である。この内縄文土器は12箱、土師器は2箱である。縄文土器は早期から晩期にわたるが、半数は縄文早期の土器である。出土地点は調査区中央部5区から7-②区にかけてが大半を占める。特に遺物包含層としてとらえた範囲からの出土が顕著である。

ここでは、最近の土器編年研究の成果を考慮に入れながら、縄文時代早期をⅠ群、前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群、弥生時代をⅥ群、古代の土師器をⅦ群に時期区分した。これらの中で細分可能なものについては従来の土器型式によって分類を試みた。なお、実測図及び写真図版の掲載にあたっては基本土層のⅥ層 (早期)、Ⅳa層 (前期初頭)、その他の層に分け掲載した。

<第Ⅰ群土器> 縄文時代早期中葉に位置づけられる土器群で、寺の沢式土器に比定される一群である。出土層位は基本土層のⅥ層である。胎土には浮石を含むものが圧倒的に多く、焼成は良好である。内面はナデまたはミガキによる調整がなされる。復原個体数は多くはないが、器形は砲弾状の尖底深鉢形土器である。尖底部の角度は60°～80°の間に集中する (第109図)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾するものが多い。口縁部形態は平縁口縁、左右不均整の波状口縁、片口状口縁に大別されるが、平縁口縁の割合が多い。口唇部形態は内角に明確な稜があり外傾するもの (外削ぎ) とやや丸味を呈し稜が明確でないものの2種類に分類される。口唇部には貝殻腹縁圧痕文・短貝殻腹縁圧痕文・ヘラ刻みなどが施される。施文文様は貝殻文・刺突文・沈線文の3要素が認められ、これらの要素の組み合わせは以下のとおりである。

- A 貝殻文のみを施文するもの
- B 刺突文のみを施文するもの
- C 貝殻文と刺突文を施文するもの
- D 刺突文と沈線文を施文するもの
- E 貝殻文と刺突文と沈線文を施文するもの
- F 貝殻文と沈線文を施文するもの

各要素の出現の比率は、貝殻文が圧倒的に多い。貝殻文は施文手法の違いにより、貝殻腹縁圧痕文 (腹縁を短く加工した貝を押圧した文様を含む)、貝殻腹縁押し引き文、貝殻背圧痕文に分けられる。貝殻腹縁圧痕文は斜位・縦位・横位に単一あるいは組み合わせにより施文する。斜位の施文は同一の傾きで地文的に施される場合が多いが、傾きを変えることで羽状に施文するものもある。縦位・横位の組み合わせで幾何学的文様を構成するものもみられる。

刺突文には、棒状工具、ヘラ状工具、竹管様工具等が用いられている。区画文として施文されているものもみられる。

沈線文は幅1～2mm程度の浅い施文が多い。刺突文とあわせて口縁部文様帯を構成するものや区画文として施文されているものなどがある。

<第Ⅱ群土器> 縄文時代前期に位置づけられる土器群である。出土層位はⅣa層からⅢ層下位である。

- 1 a 類 前期初頭に位置づけられる土器群で、長七谷地Ⅲ群に比定される一群である。口縁はほとんどが平縁を呈する。底部は丸底を基本とするが、体部下半から口縁部までほぼ真っ直ぐに立ち上がるものと体部下半から口縁部までやや外傾して立ち上がり口縁がやや開くものと2種類に分けられる。口唇部は丸味をもってつくられるものと平坦に整形しているものがある。胎土には植物繊維や浮石が含まれるものが多い。器面には0段多条によるLR、RL2本の異原体を用いて羽状縄文を表出することを特徴としている。羽状縄文は原体を強く回転押捺しているため条がやや深く、条と条の境に明瞭な稜が見られるものが多い。
- 1 b 類 前期初頭に位置づけられる土器群で、上川名Ⅱ式、花積下層式に類似する一群である。口縁は平縁や波状を呈する。胎土には繊維・浮石を含む。捺糸圧痕による渦巻文や刺突文・隆帯などを組み合わせ施文する。
- 1 c 類 前期初頭に位置づけられる土器群で、早稲田6類に類似する土器である。285、286は同一個体と推定され、縄文のみを施文する平縁の深鉢である。底部は乳房状の尖底である。胎土に繊維を含む。
- 2 類 前期末葉に位置づけられる土器群で、円筒下層d式に比定される一群である。木目状捺糸文や多軸絡条体が用いられる。胎土に繊維・浮石が混入する。

<第Ⅲ群土器> 縄文時代中期に位置づけられる土器群である。

- 1 a 類 中期中葉に位置づけられる土器群で、円筒上層c土器に類似する一群である。301は貼り付けとヘラ状工具による刺突文がみられる。
- 1 b 類 中期中葉に位置づけられる土器群で、大木8b式に類似する一群である。302は口縁部がやや外反する山形口縁で渦巻状の貼り付けがみられる。
- 2 類 中期末葉に位置づけられる土器群で、大木10式に比定される一群である。小破片が多く器形や形態の詳細が明確なものは少ないが、口縁部が外反ぎみに直立する器形が主体であると思われる。

<第Ⅳ群土器> 縄文時代後期に位置づけられる土器群である。

- 1 類 後期初頭に位置づけられる土器群である
- 2 類 後期前葉の十腰内Ⅰ式に相当すると思われる土器群である。沈線文を主体としている。
- 3 類 後期中葉の十腰内Ⅱ式に相当すると思われる土器群である。
- 4 類 後期末葉の十腰内Ⅴ式に相当すると思われる土器群である。

<第Ⅴ群土器> 縄文時代晩期に位置づけられる土器群である。

- 1 類 晩期中葉前半、大洞C1式に相当すると思われる土器群である。347は2個1対の小突起をもち、口縁部に沈線が施される。
- 2 類 晩期中葉後半、大洞C2式に相当すると思われる土器群である。磨消縄文が施されるほか、口縁部等に連続する刻目や沈線が用いられている。
- 3 類 晩期終末期、大洞A'式に相当すると思われる土器群である。356は変形工字文が施される口縁部片である。

<第Ⅵ群土器> 弥生時代中期に位置づけられる土器と思われる。357は体部に3条の平行沈線をもつ壺と思われる。

<第Ⅶ群土器> 古代の土師器である。遺構外遺物であるが何らかの遺構に伴う遺物と思われる。いずれも

非ロクロ成形の土師器である。358は丸底風の坏である。359は底部に木葉痕のある外面ヘ
ラミガキ調整の鉢、360は頸部に平行沈線が施されるハケメ・ヘラミガキ主体の甕である。

2. 石器・石製品類（第94～103図・写真図版95～100）

今回の調査で出土した石器・石製品の総数は大コンテナで6箱を数える。これらの内使用痕の認められな
い剥片類、破損及び風化の著しい礫石器を除いて登録し、内151点を実測掲載した。

石製品を含め器種ごとに分類したが、その器種内で形状や個々の特徴等により細分したものもある。細
分の仕方については以下に示した。なお、実測図及び写真図版の掲載にあたっては基本土層のVI層（早期）、
IV a層（前期初頭）、その他の層に分け掲載した。

A. 石鏃

茎の有無と基部の形状から以下のように細分される。

I群 有茎鏃

1類 凸基

II群 無茎鏃

1類 平基（VI層、IV a層で多く出土している。）

2類 凹基

III群 棒状

B. 石匙

ツマミの位置と刃部の縦・横によって2つに分類した。

I群 横形のもの

II群 縦形のもの

C. 石篋

D. 尖頭器

ほぼ全体に成形加工が及び尖った刃部を有する。

E. 不定形石器

上記以外の剥片石器を一括し、形状と刃部の形態により分類した。

I群 剥片の1縁辺、2～3縁辺、全縁に刃部加工が施される石器で、各種スクレーパー類とされる石 器である。

II群 細部加工剥片・使用痕の認められる剥片

F. 磨製石斧

G. 磨石・敲石・凹石類

これらを一括して扱い、複数の使用痕が認められる場合はそれぞれの組み合わせで細分した。

I群 磨石……磨面（擦面）を有する礫石器

II群 凹石……凹みを有する礫石器

III群 敲石……敲打痕を有する礫石器

IV群 磨石と凹石の特徴を有する礫石器

V群 敲石と凹石の特徴を有する礫石器

VI群 磨石と敲石の特徴を有する礫石器

H. 石皿

片面に使用痕をもつ。

I. 石錘

491は中央部が太い溝状に加工される。

J. 砥石

492は四面使用の砥石である。

K. 有孔石製品

493については用途不明である。

L. 抉状耳飾り

再加工痕が認められる。付篇P 207～210参照。

3. 土製品 (第104図・写真図版101)

遺構外から出土した土製品類 (ミニチュア土器を含める) は土偶1点、ミニチュア土器2点、円盤状土製品7点、泥面子1点である。

A. 土偶

495は頭部から胸部が残存する土偶で、沈線文・刺突文で描かれる。縄文後期と推定される。

B. ミニチュア土器

手づくねのミニチュア土器である。

C. 円盤状土製品

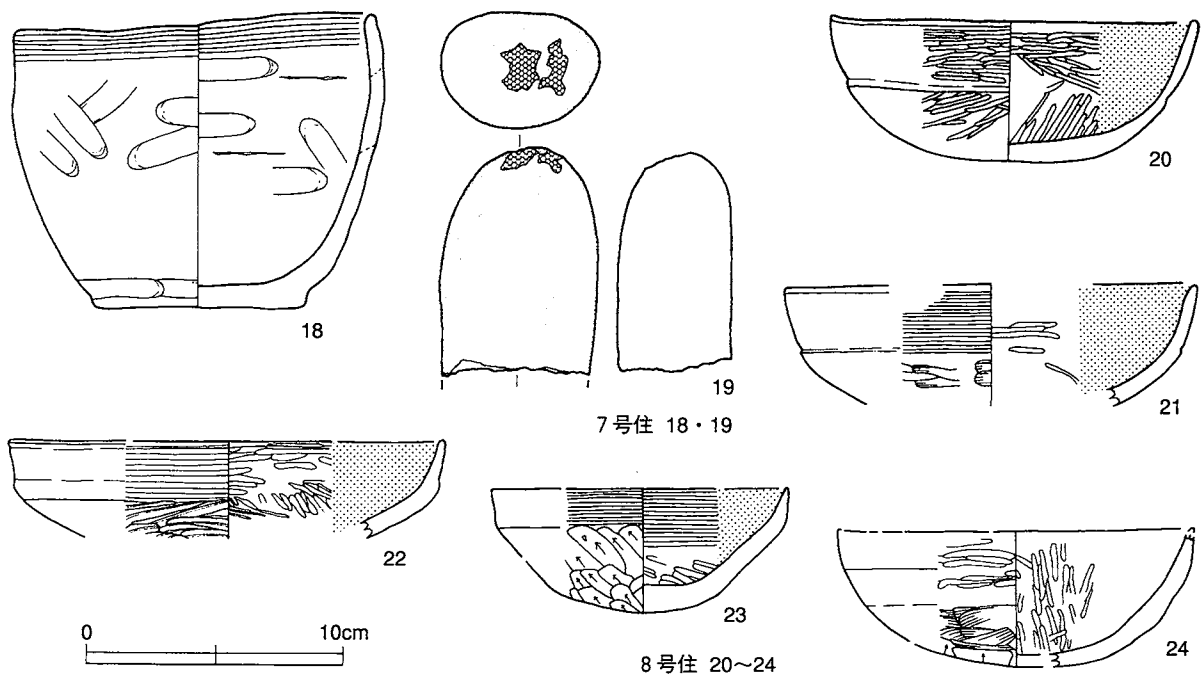
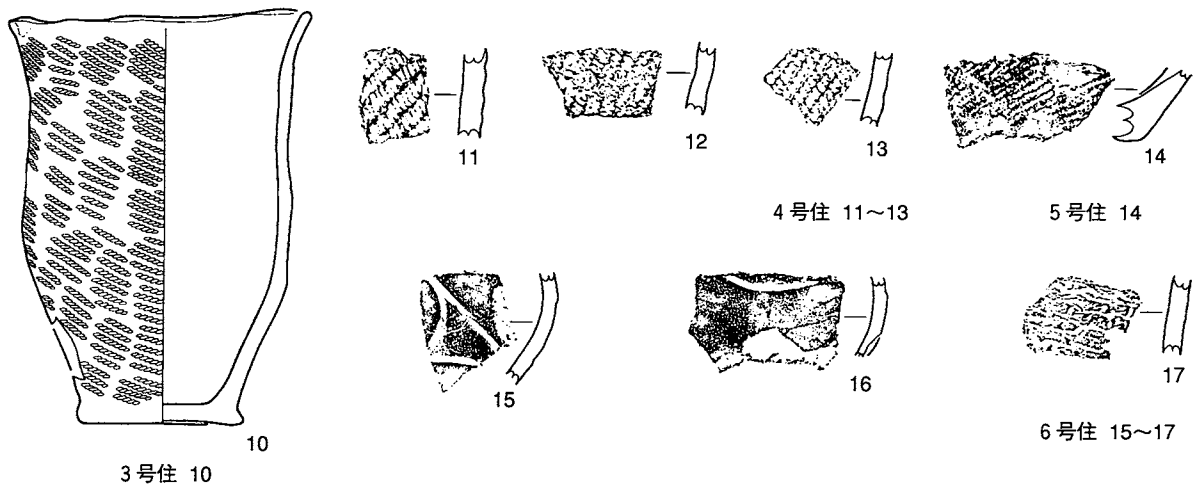
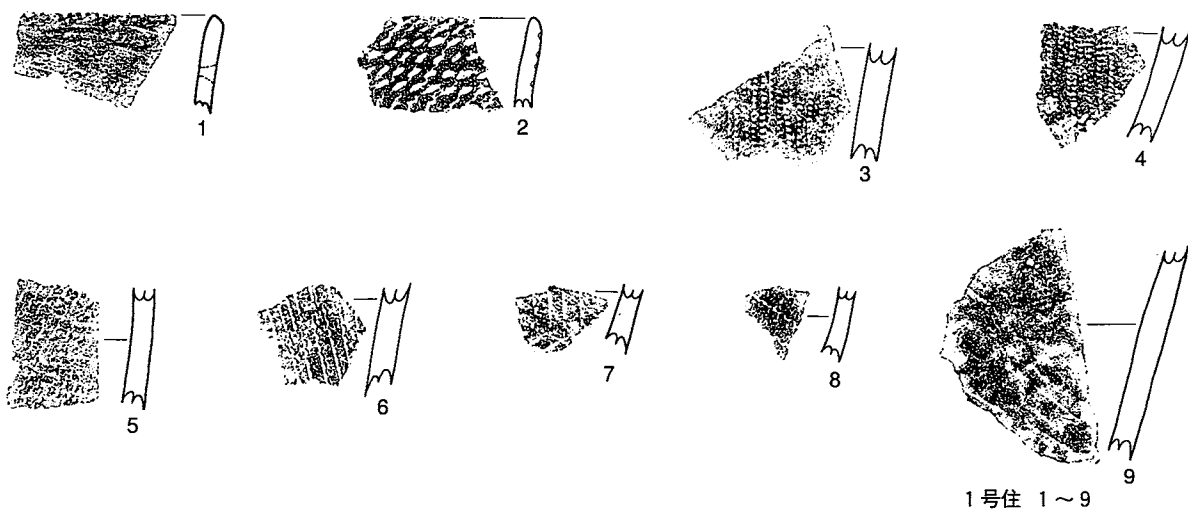
いずれも側縁打欠きで、一部研磨された様子がうかがえる。

D. 泥面子

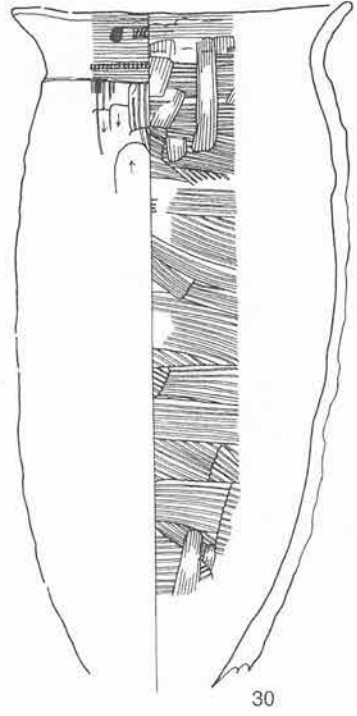
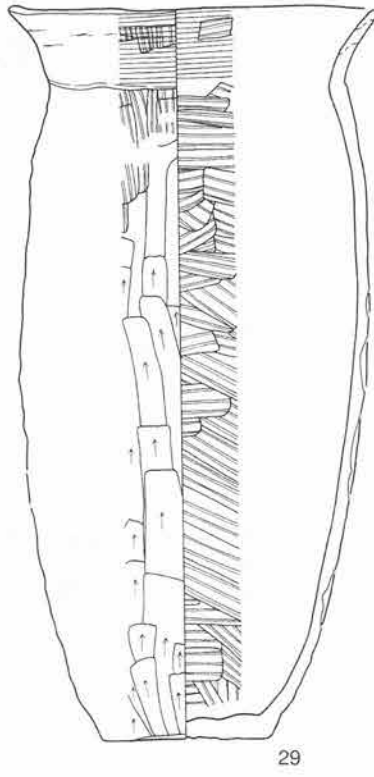
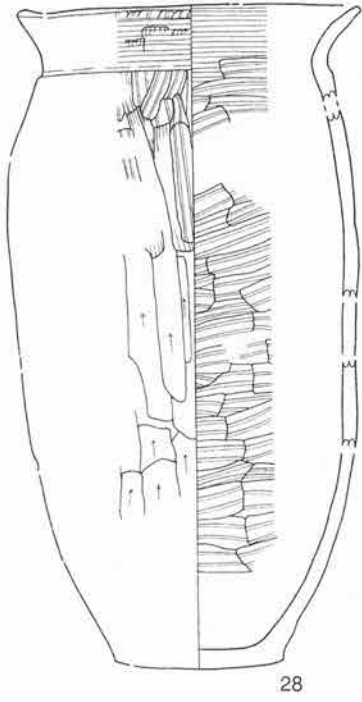
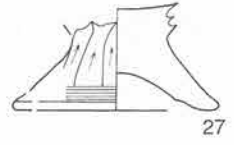
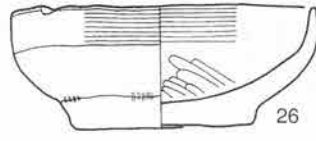
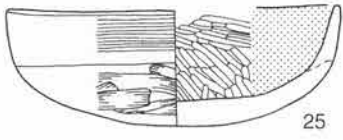
近世の遺物と思われる。

4. 金属製品 (第105図・写真図版102)

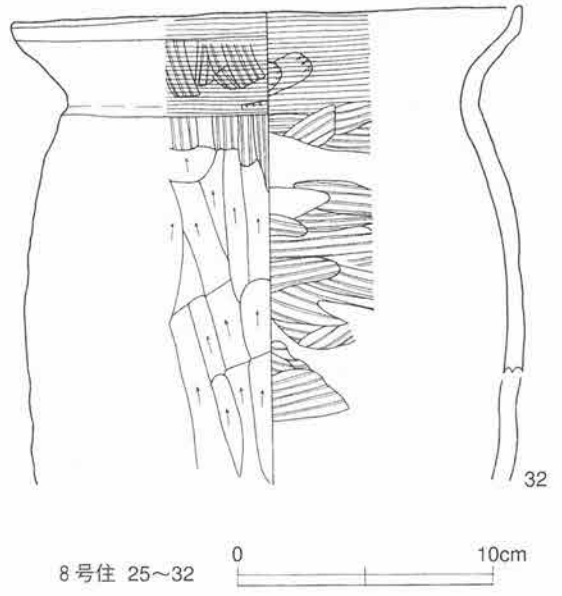
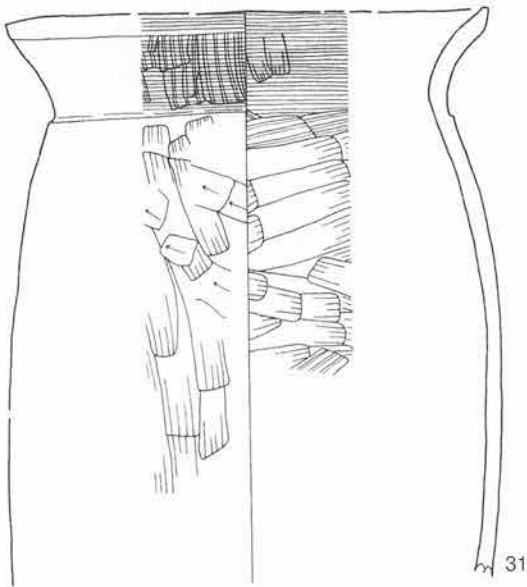
508から511は鋳写しの模鋳銭の可能性が大きい。514から516は遺構外出土遺物であるが、近世の墓壙に関わる銭貨と思われる。



第66图 遺構内出土遺物 (1)

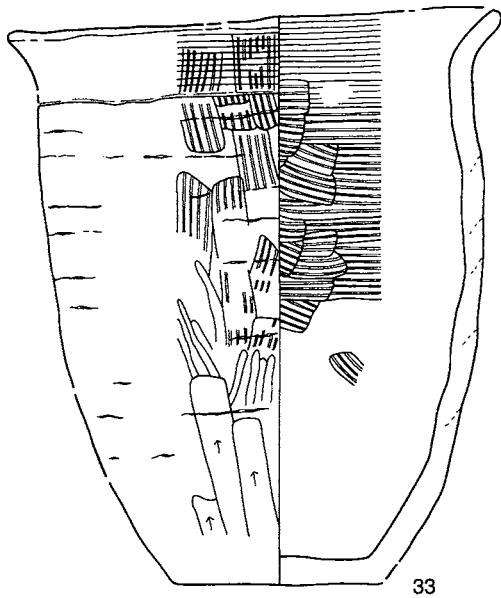


0 10cm
(28~30)

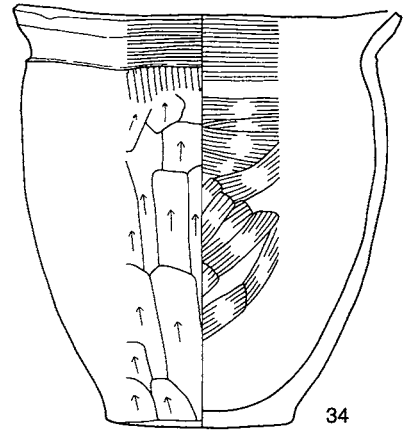


0 10cm
8号住 25~32

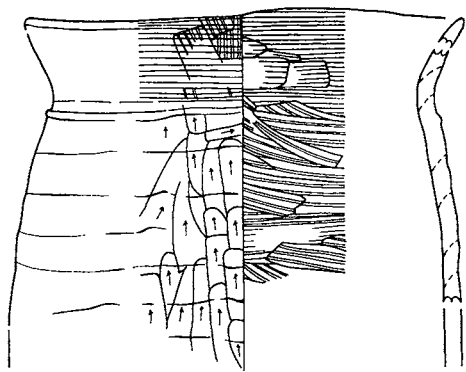
第67図 遺構内出土遺物(2)



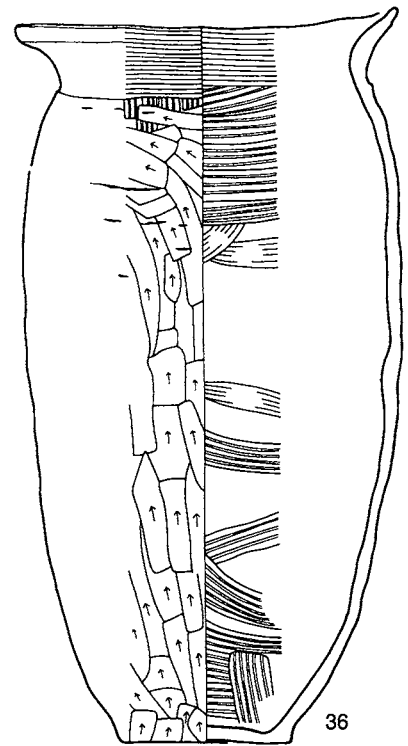
33



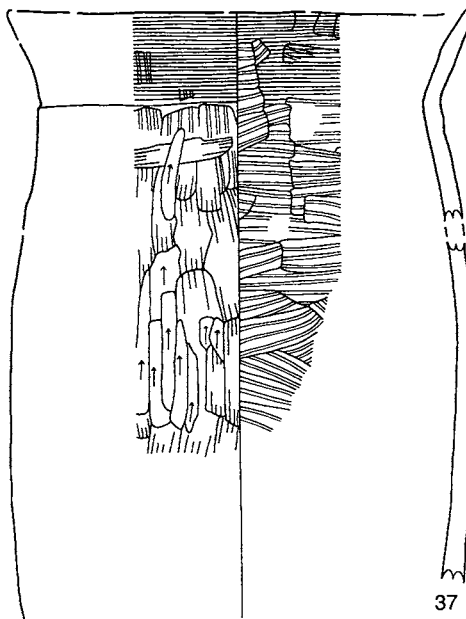
34



35

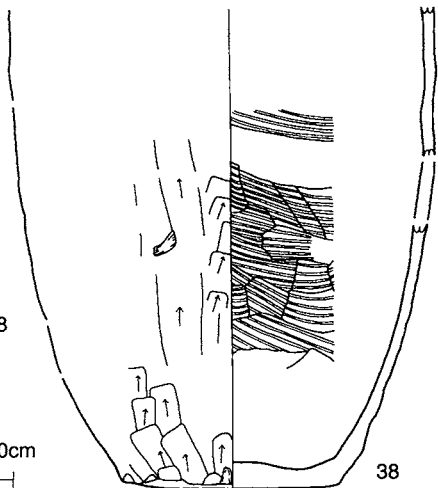
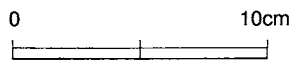


36



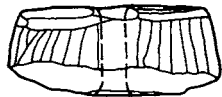
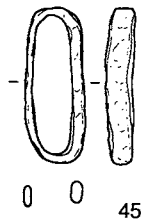
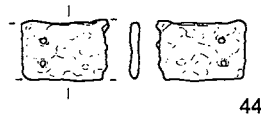
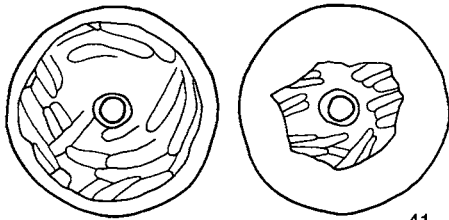
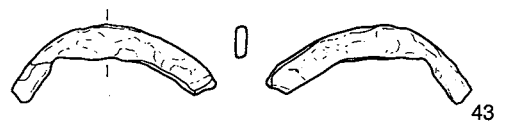
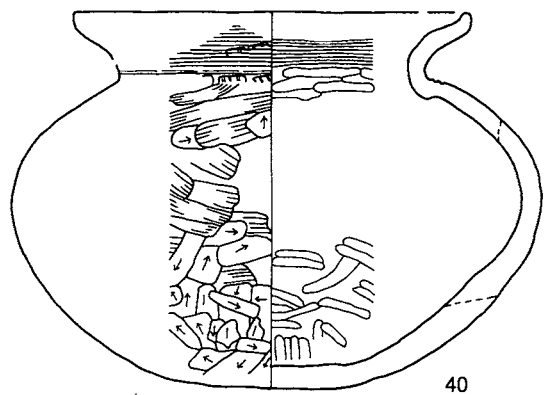
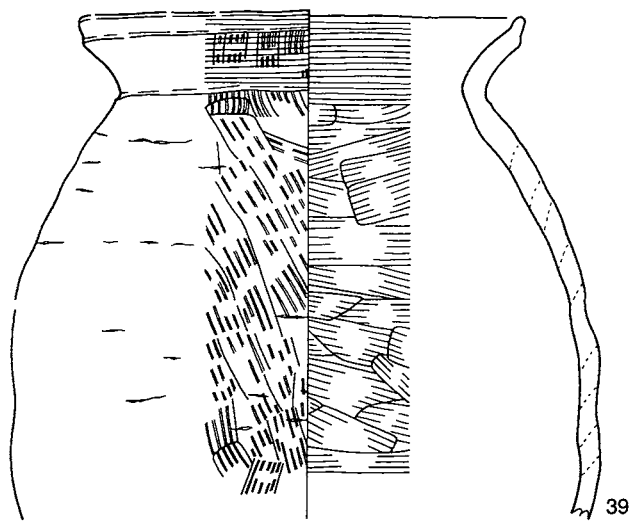
37

8号住 33~38



38

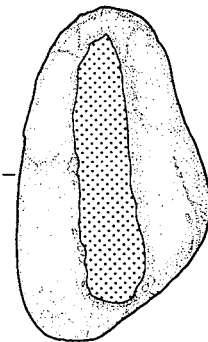
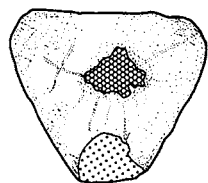
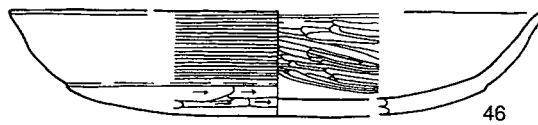
第68図 遺構内出土遺物 (3)



8号住 39~45

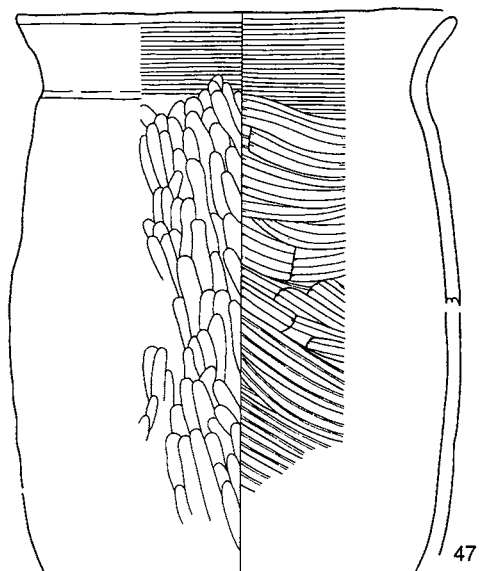
0 5cm

(41・43~45)

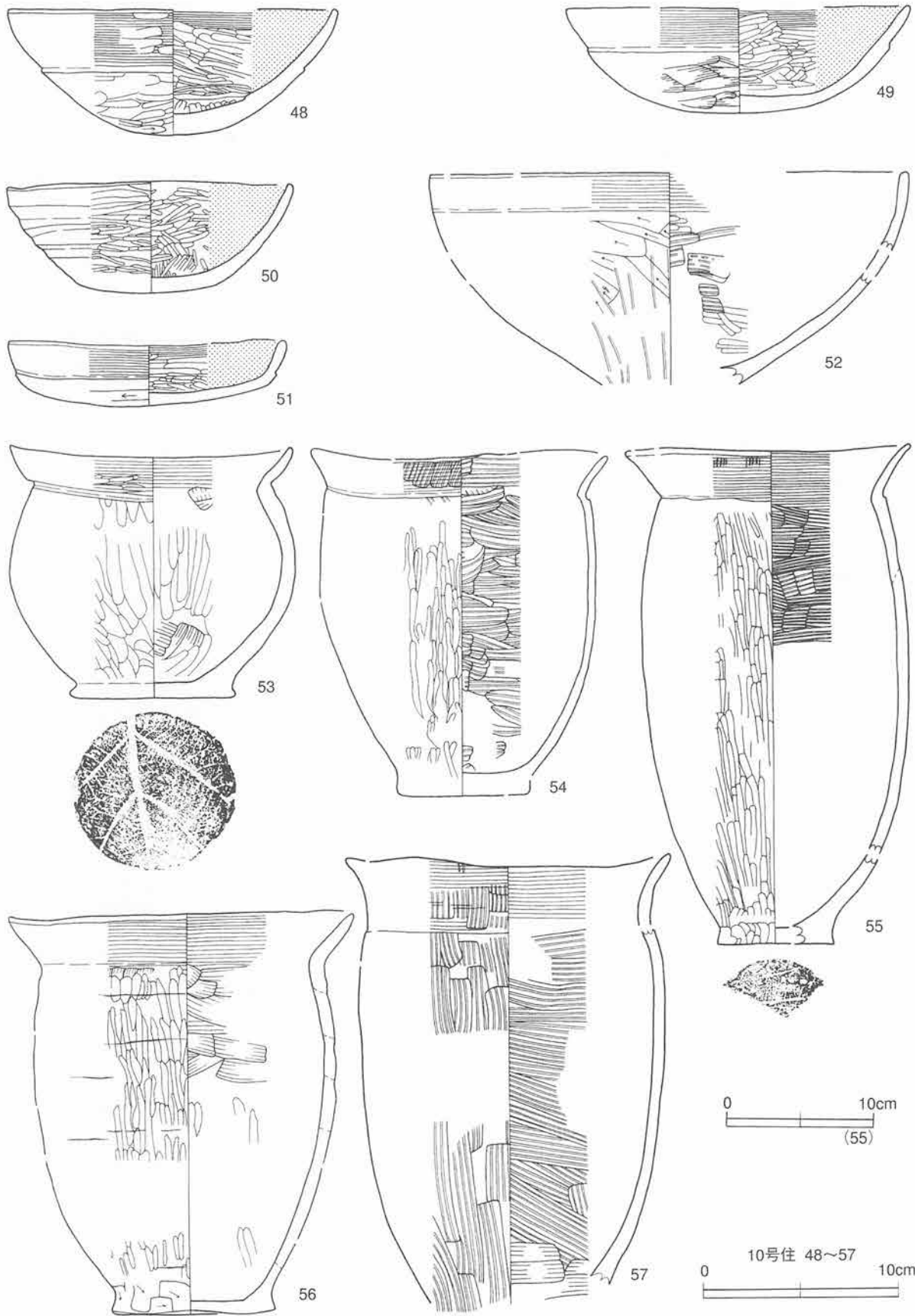


9号住 46・47

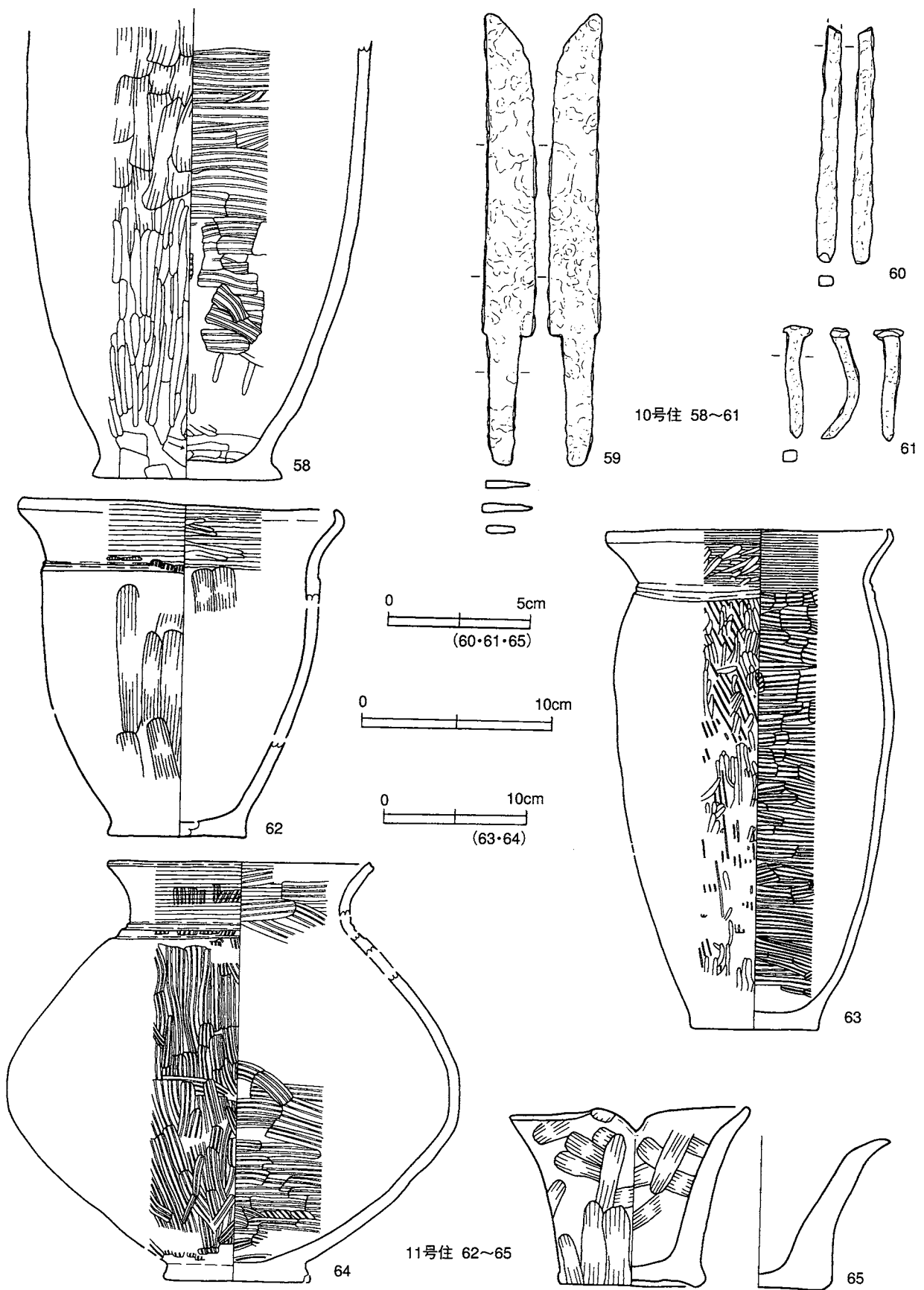
0 10cm



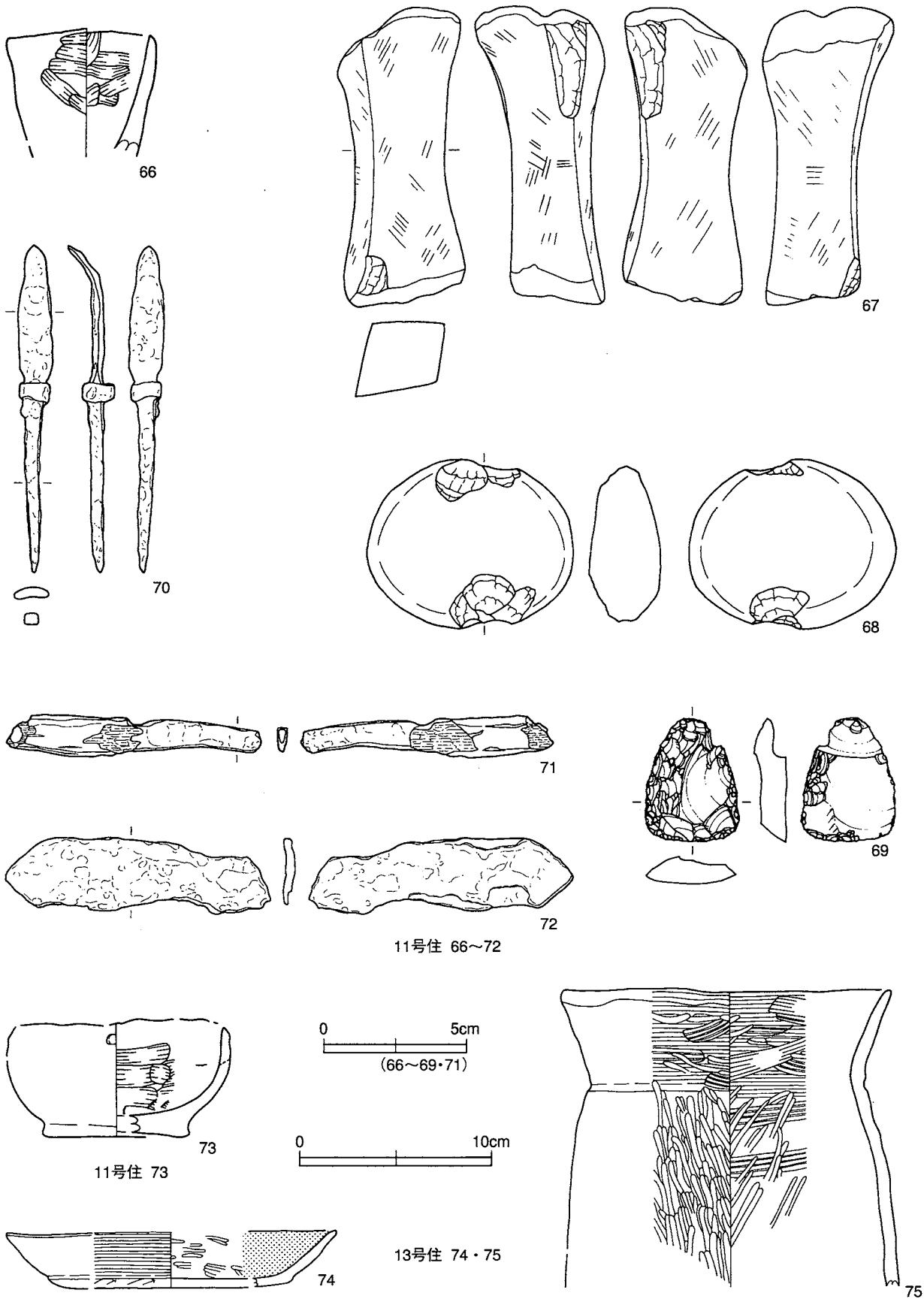
第99图 遺構内出土遺物(4)



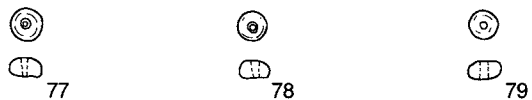
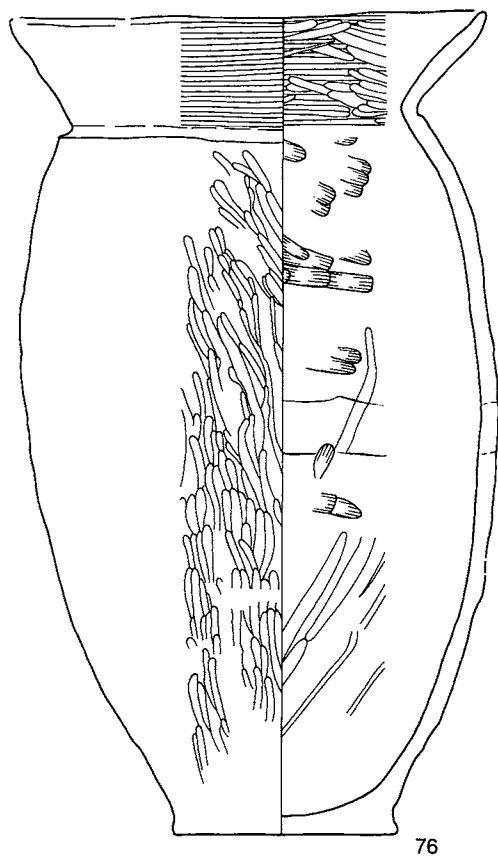
第70図 遺構内出土遺物 (5)



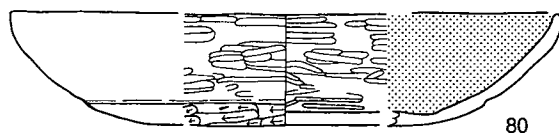
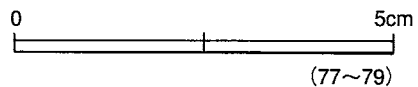
第71図 遺構内出土遺物 (6)



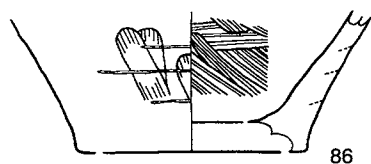
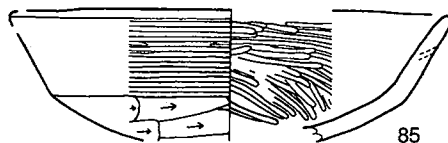
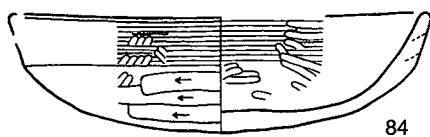
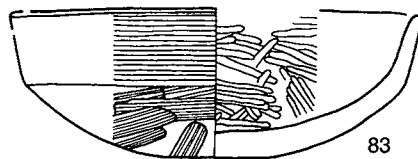
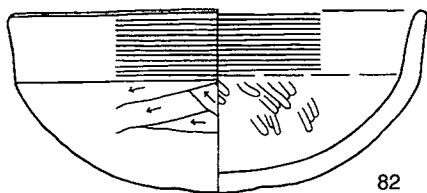
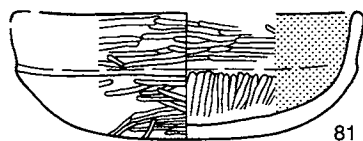
第72図 遺構内出土遺物 (7)



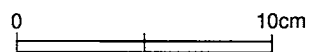
13号住 76~79



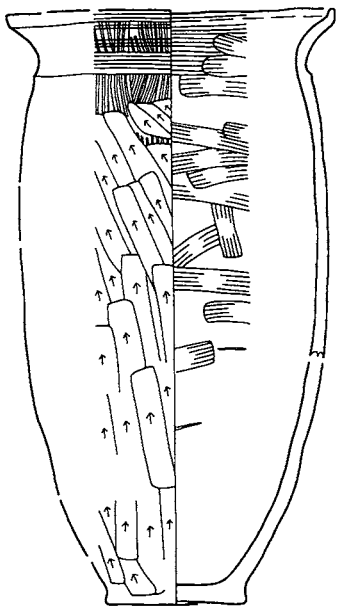
14号住 80



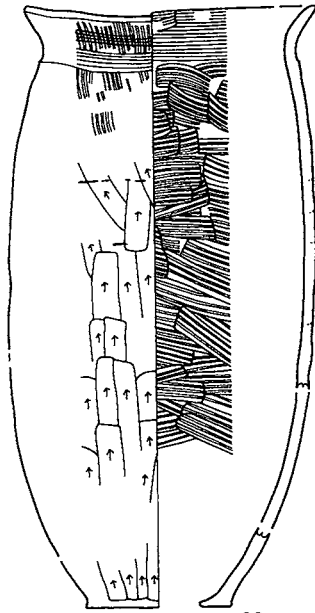
15号住 81~86



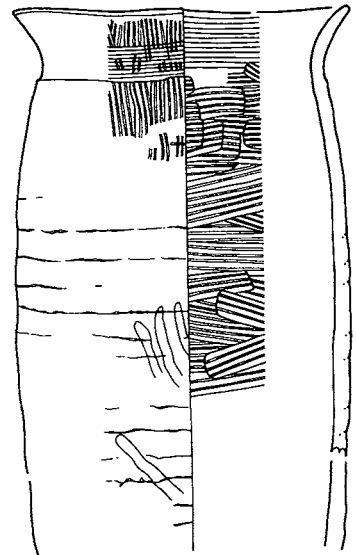
第73図 遺構内出土遺物(8)



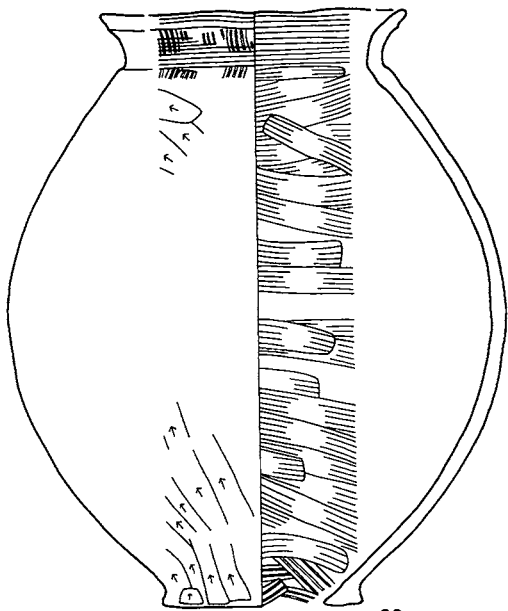
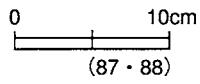
87



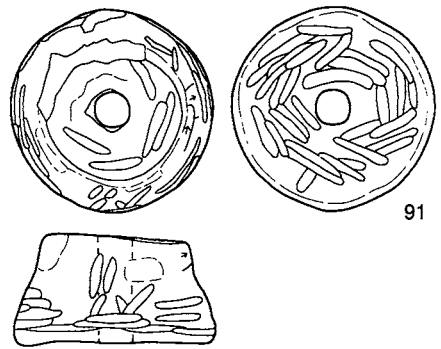
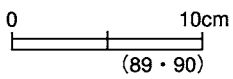
88



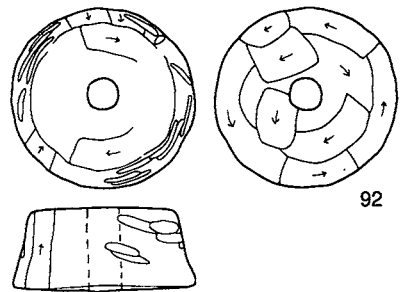
89



90

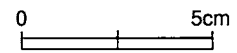


91

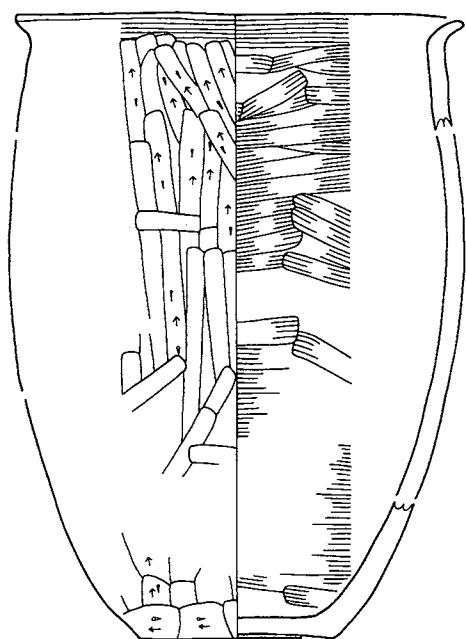


92

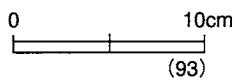
15号住 87~92



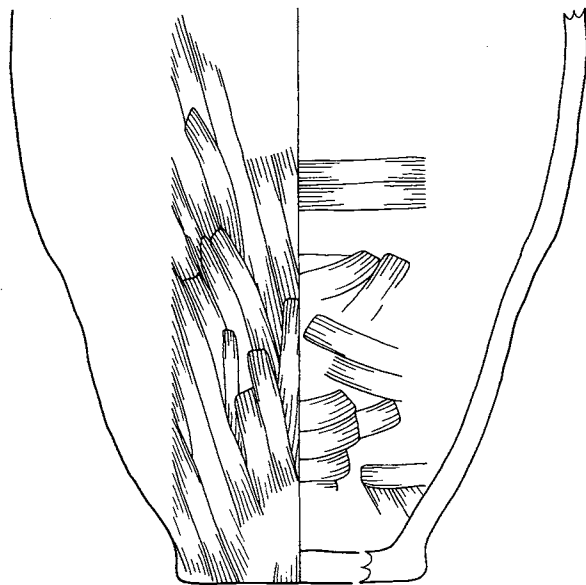
第74図 遺構内出土遺物 (9)



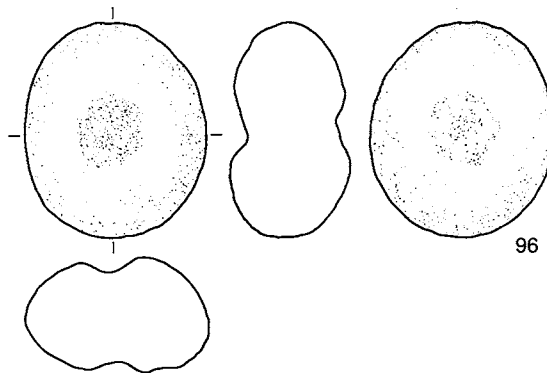
93



(93)

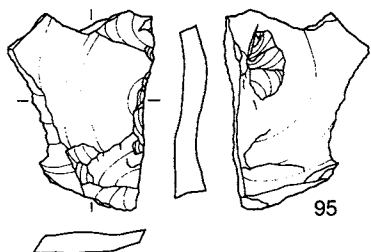


94

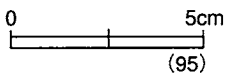


96

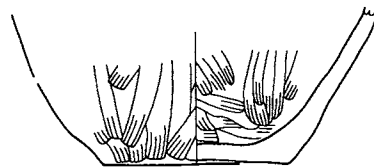
20号住 93~96



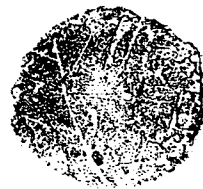
95



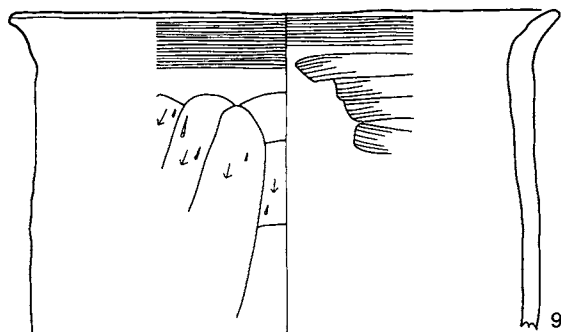
(95)



98



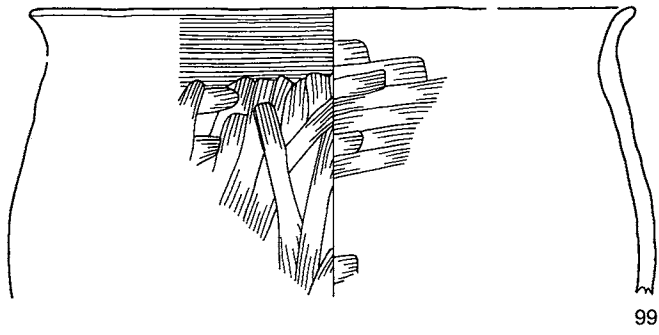
21号住 97・98



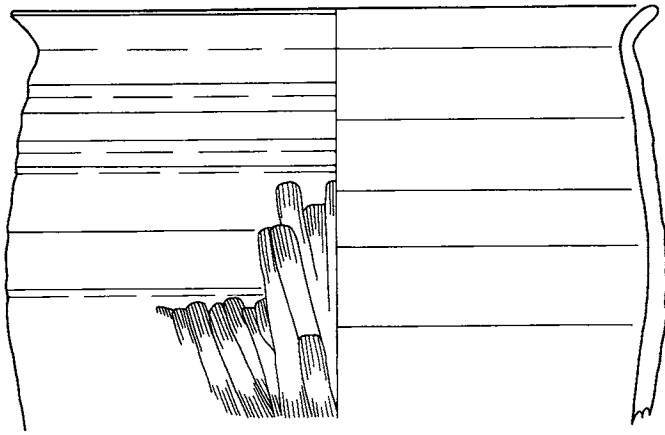
97



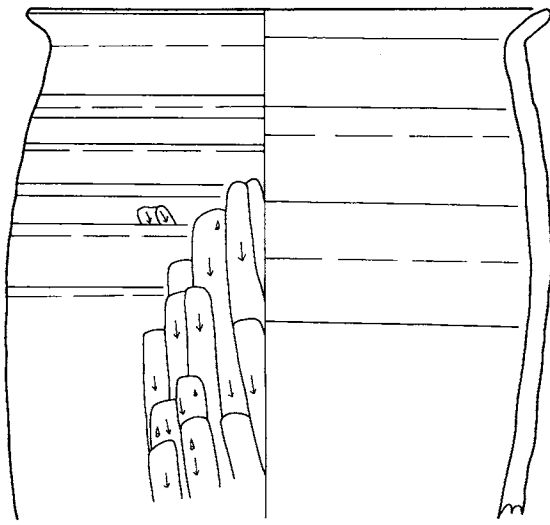
第75图 遺構内出土遺物 (10)



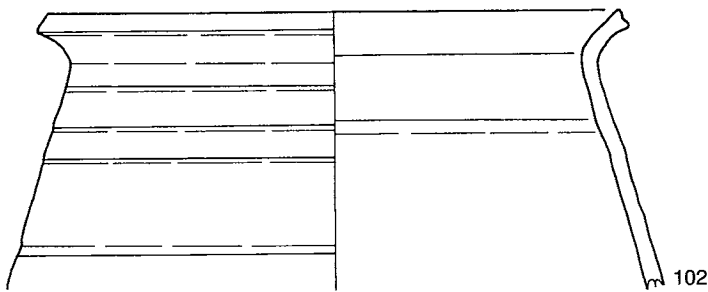
99



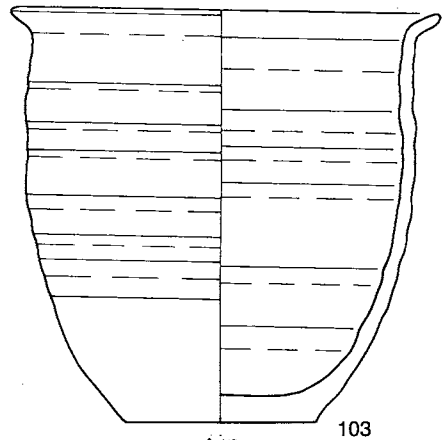
100



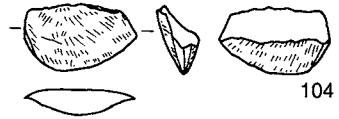
101



102

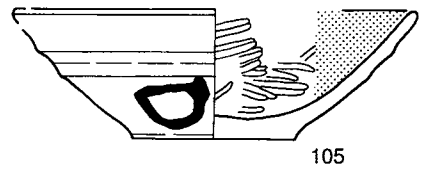


103

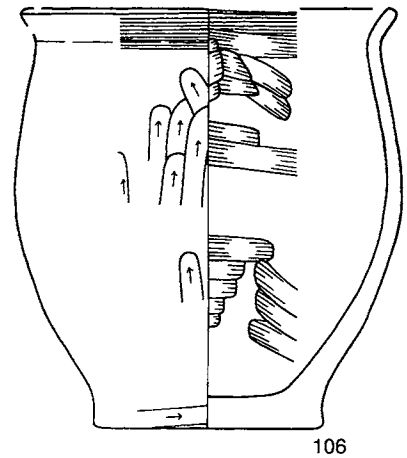


104

21号住 99~104

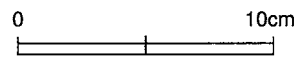


105

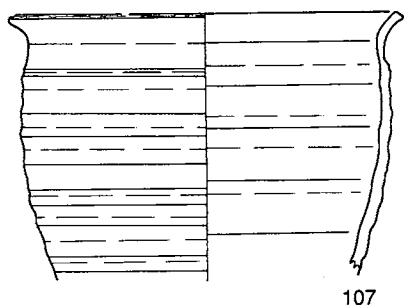


106

22号住 105・106

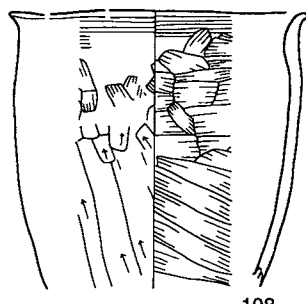


第76図 遺構内出土遺物 (11)

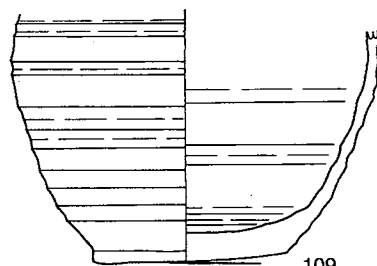


107

22号住 107



108



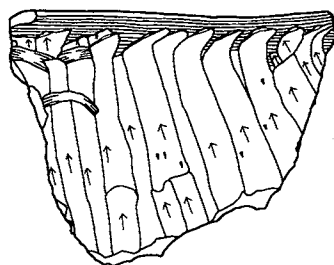
109



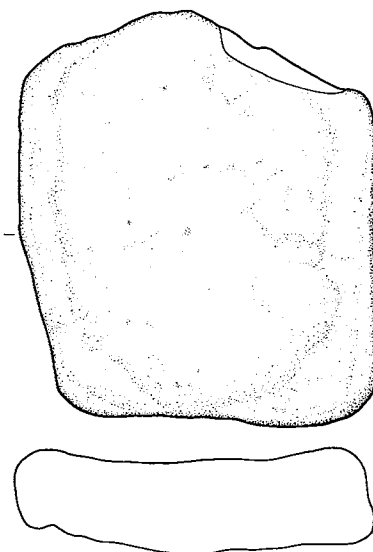
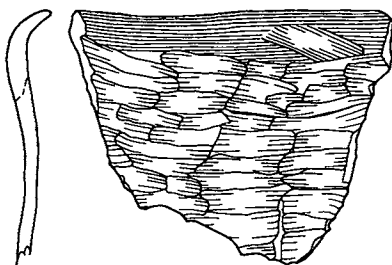
23号住 108・109



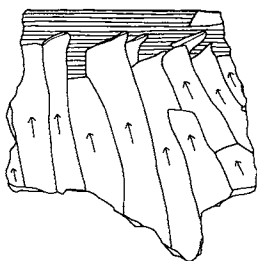
110



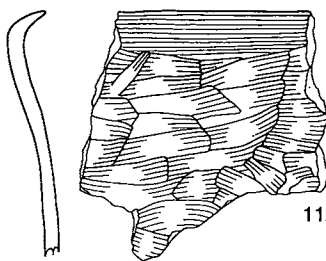
111



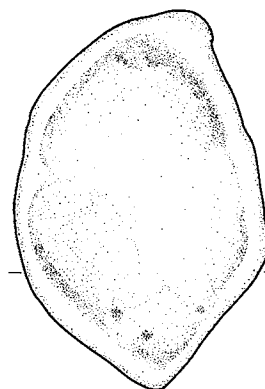
113



112



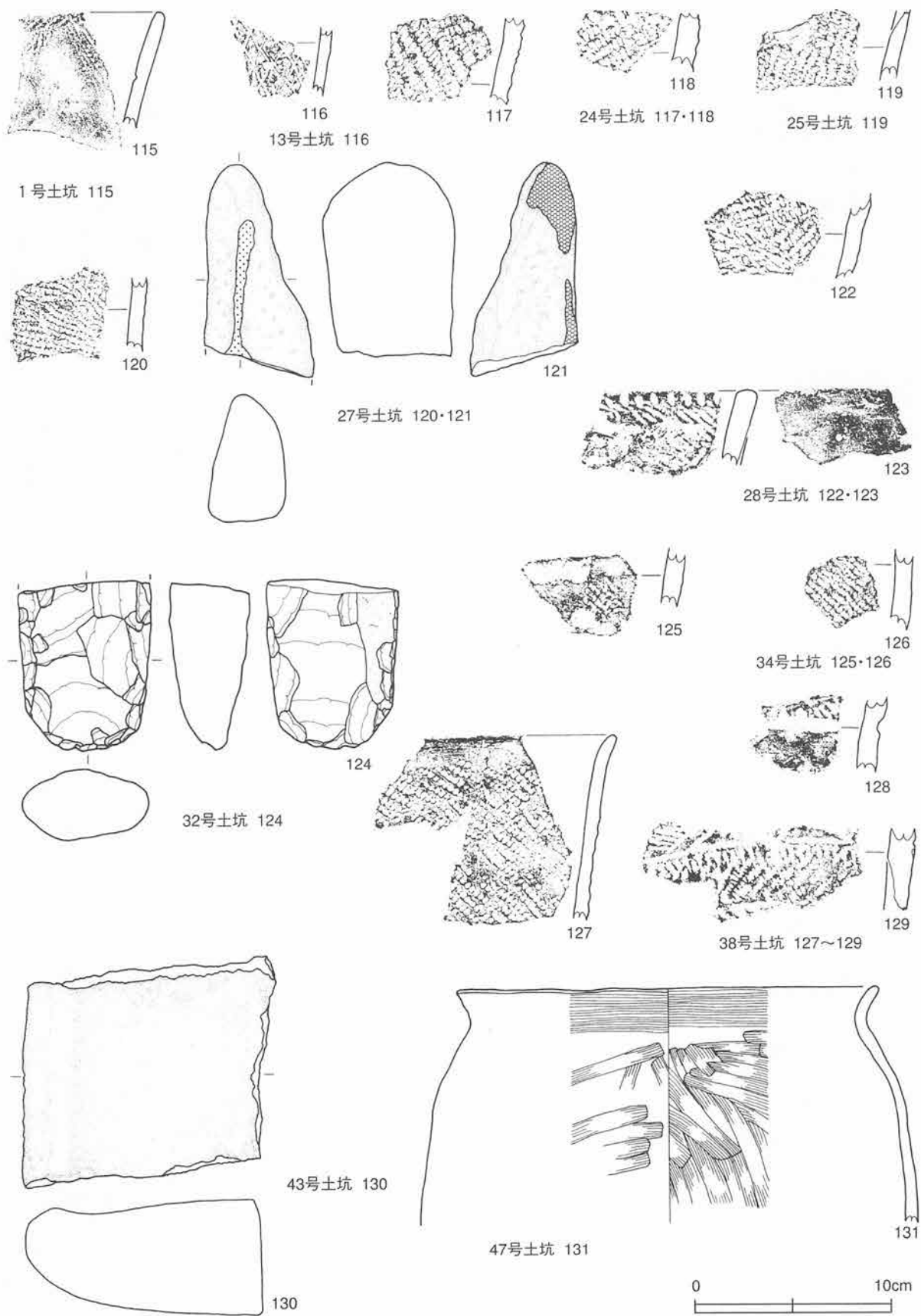
24号住 110~114



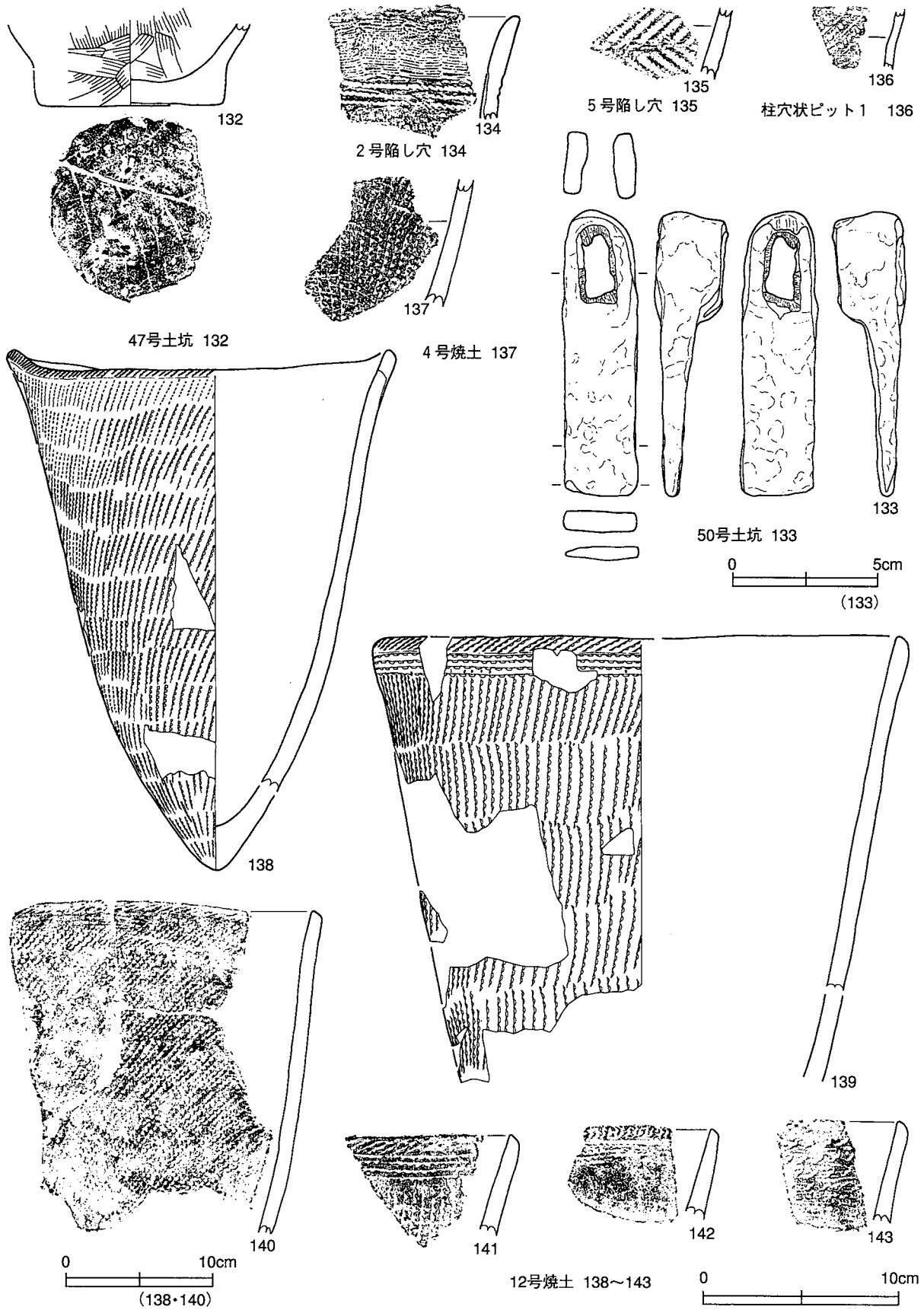
114



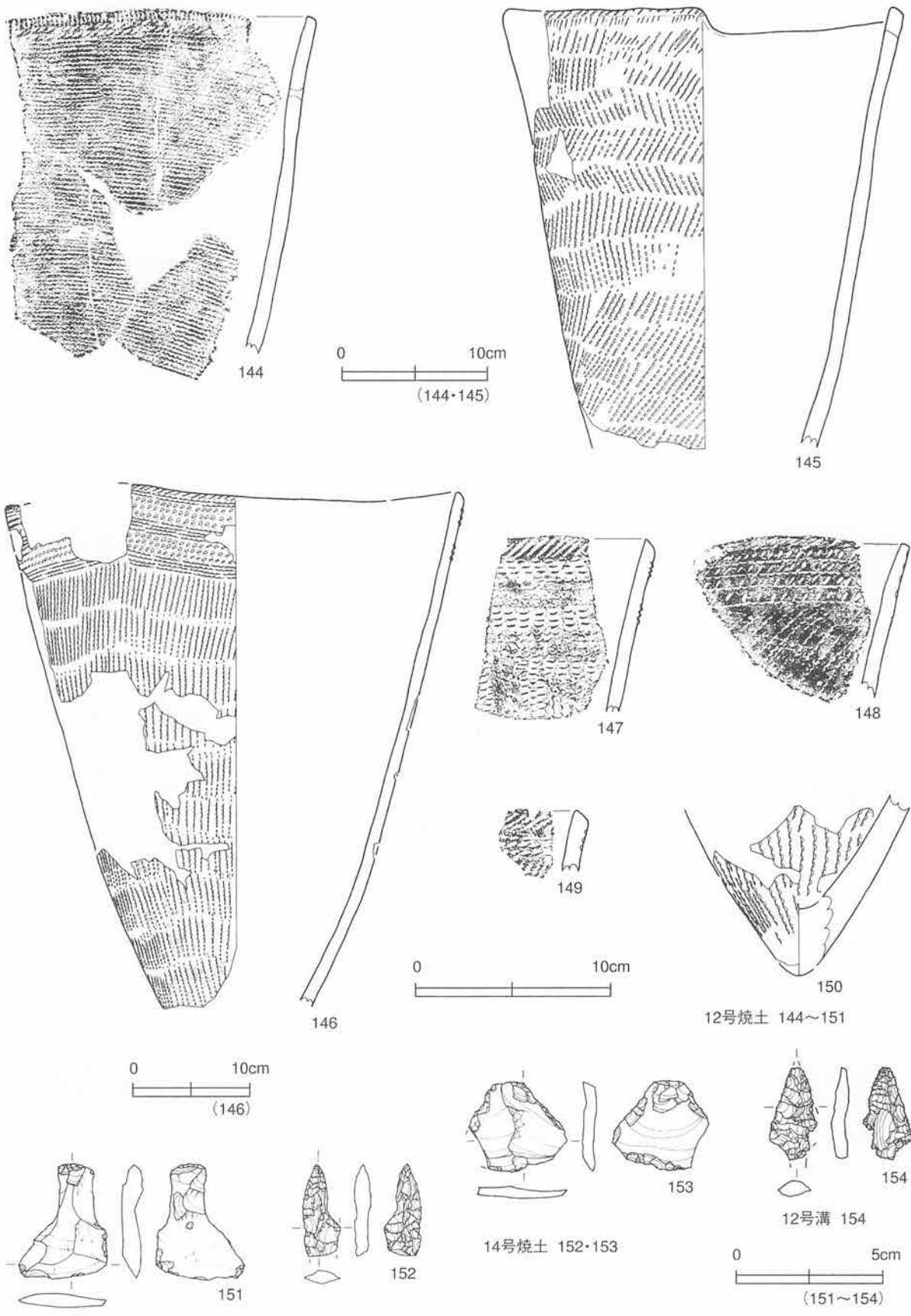
第77图 遺構内出土遺物 (12)



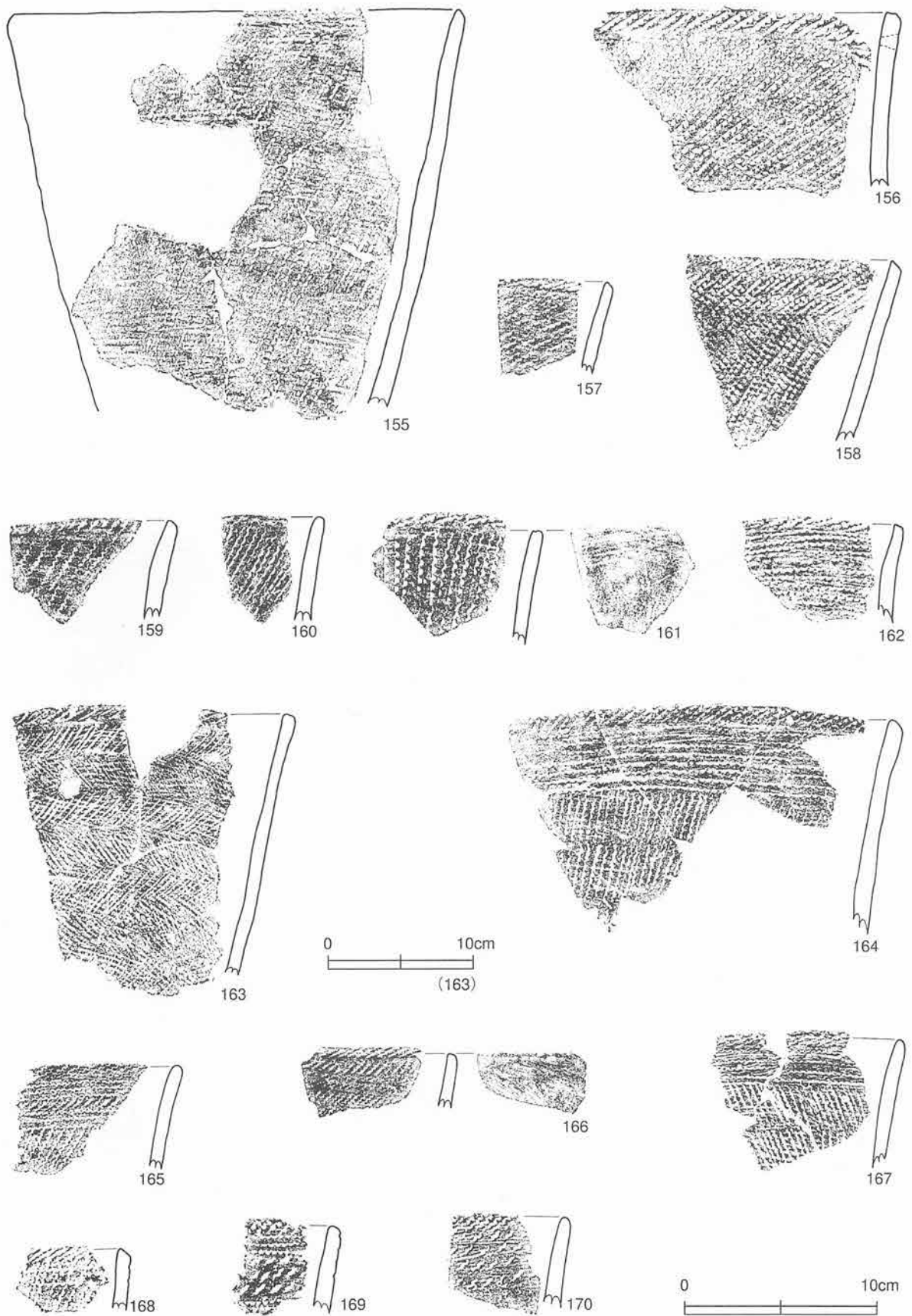
第78图 遺構内出土遺物 (13)



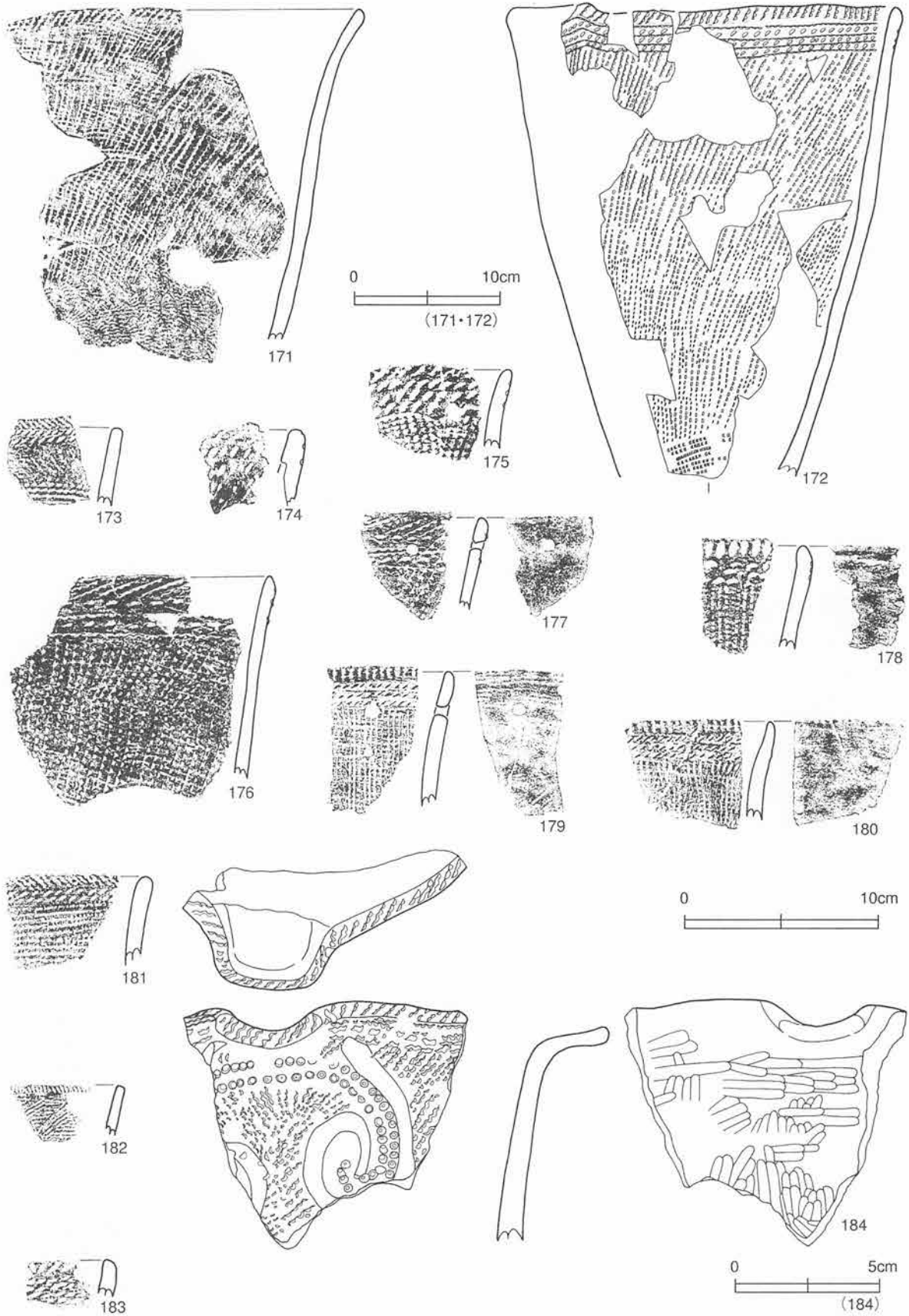
第79図 遺構内出土遺物 (14)



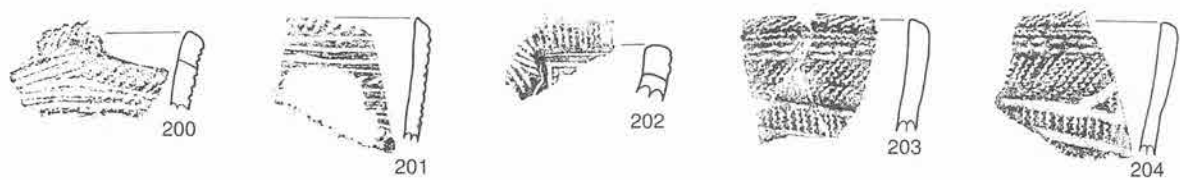
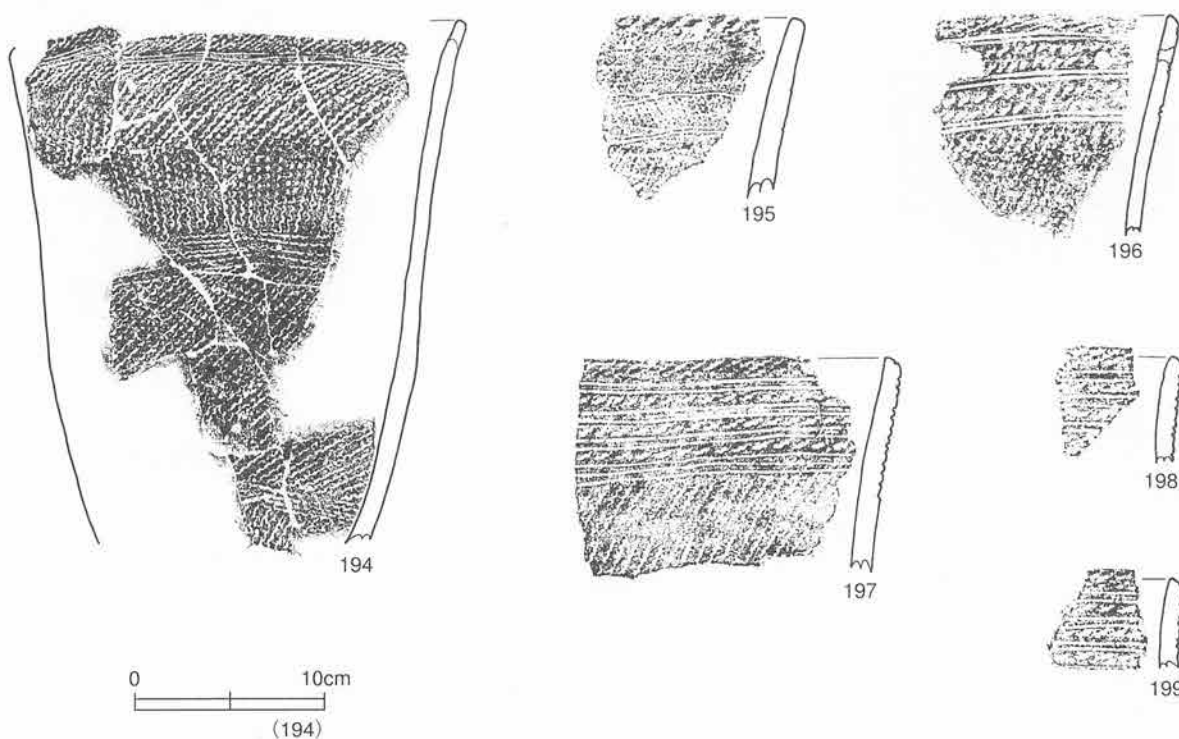
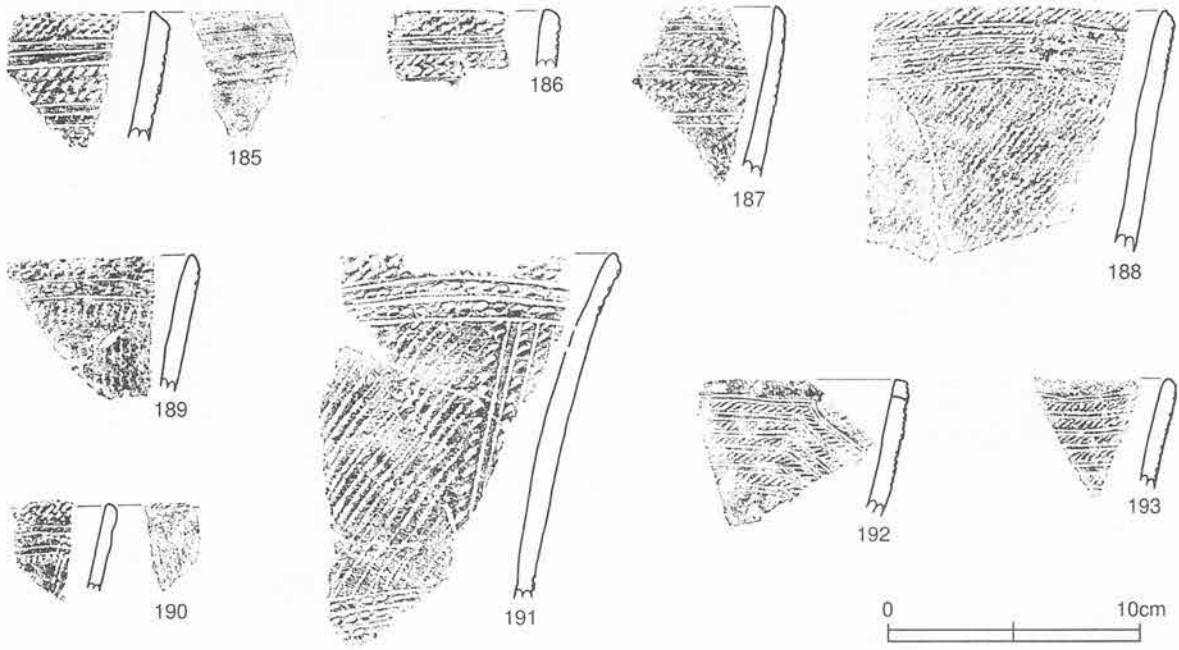
第80図 遺構内出土遺物 (15)



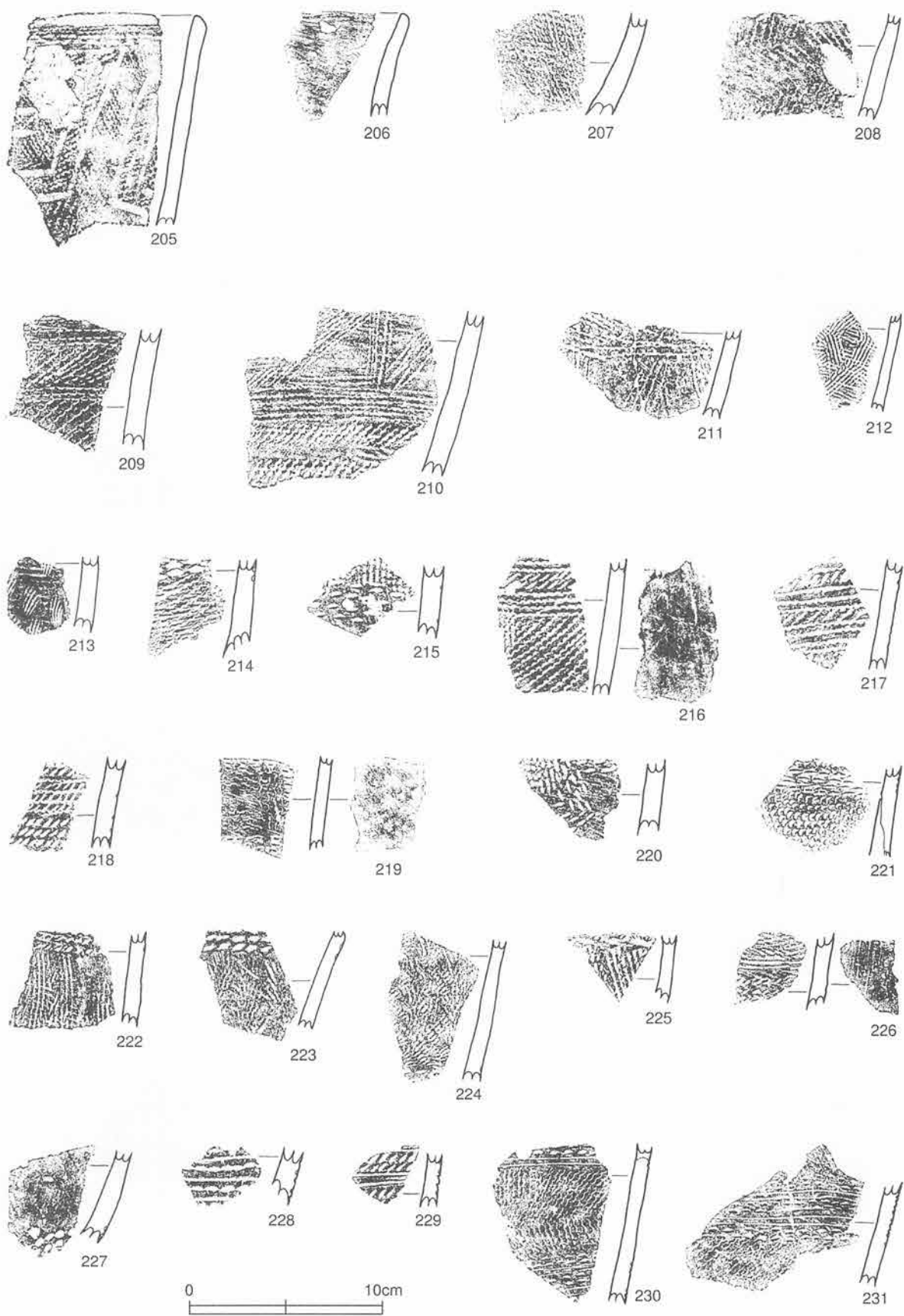
第81図 遺構外出土土器(1) ~VI層~



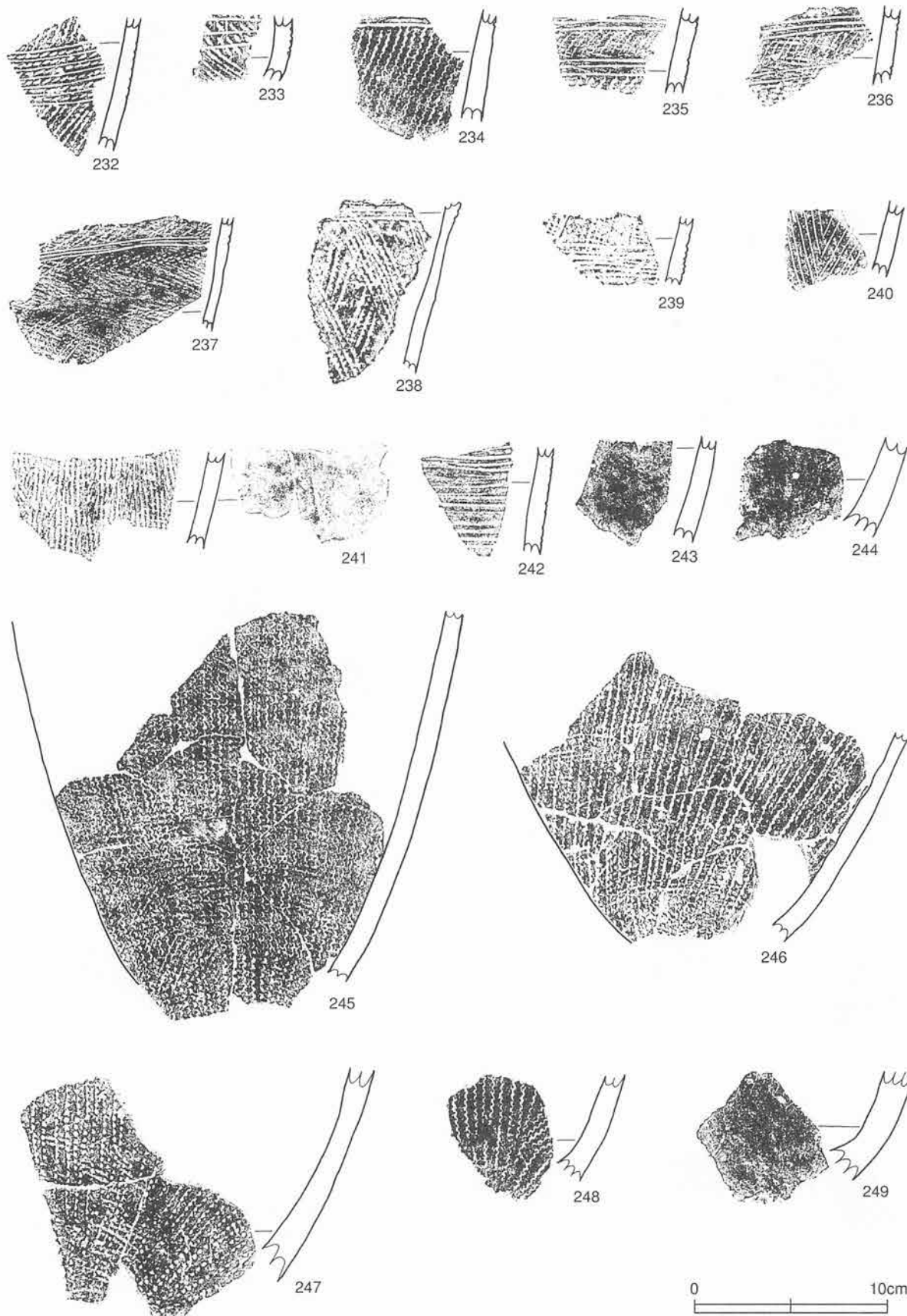
第82図 遺構外出土土器 (2) ~VI層~



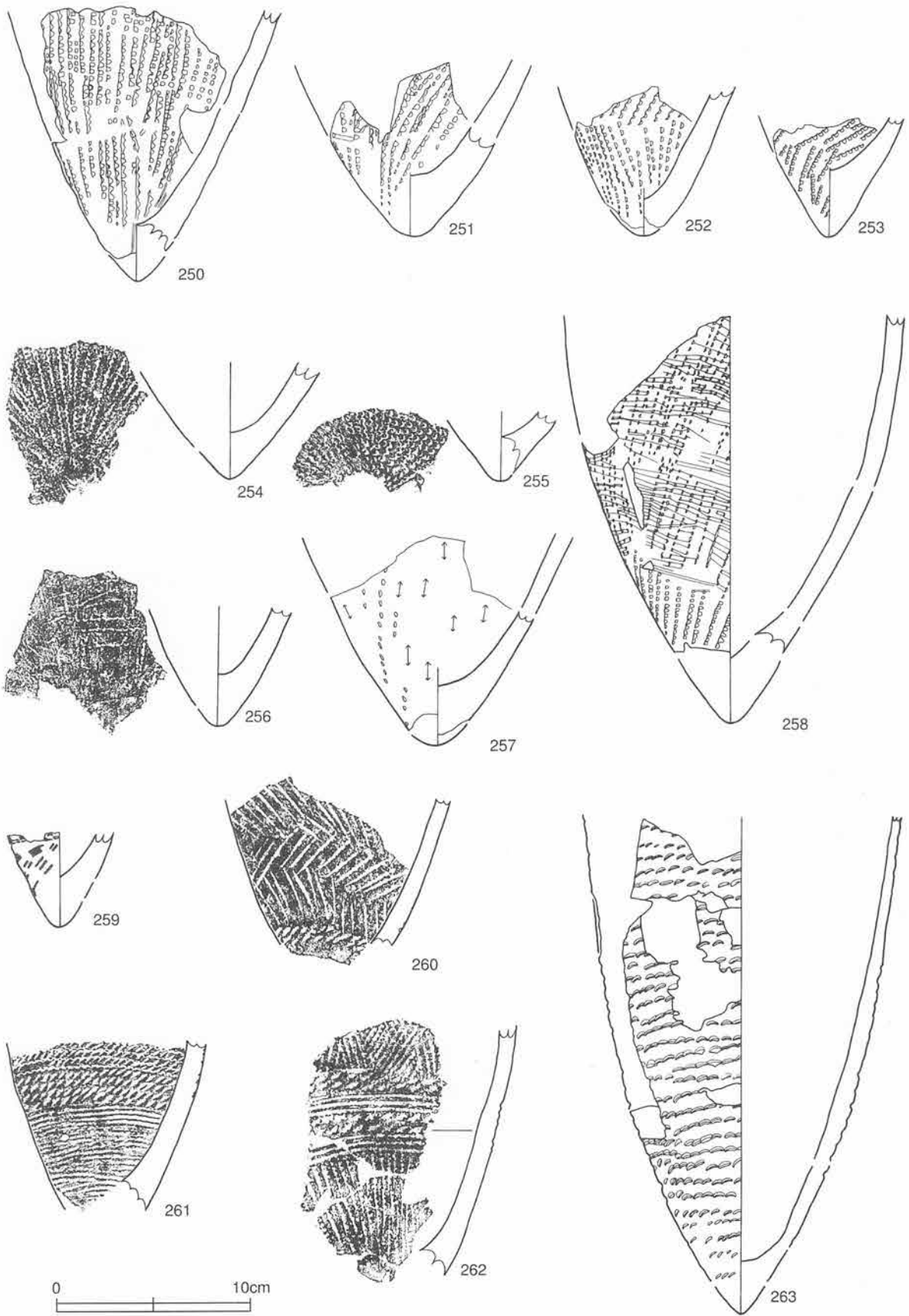
第83図 遺構外出土土器 (3) ~VI層~



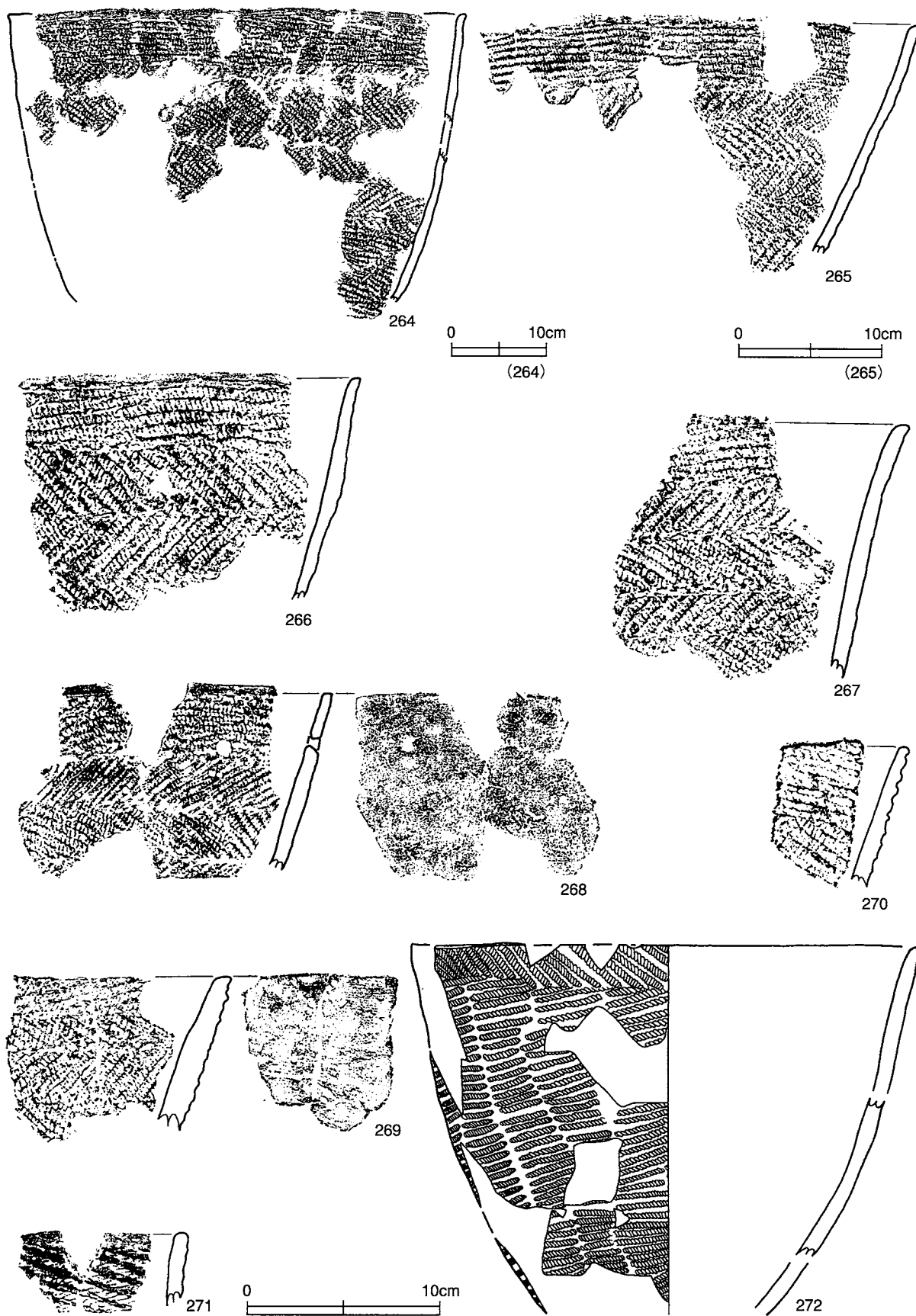
第84図 遺構外出土土器(4) ~VI層~



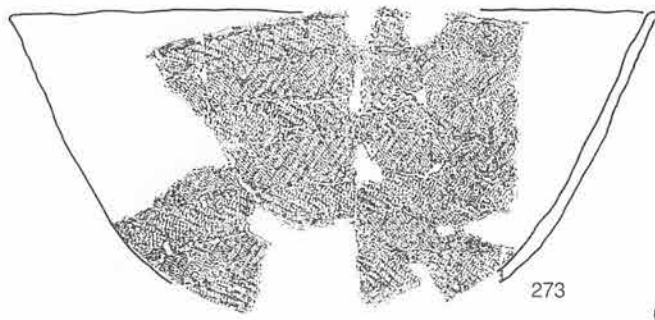
第85図 遺構外出土土器 (5) ~VI層~



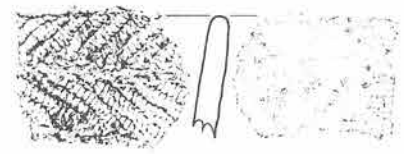
第86図 遺構外出土器(6) ~VI層~



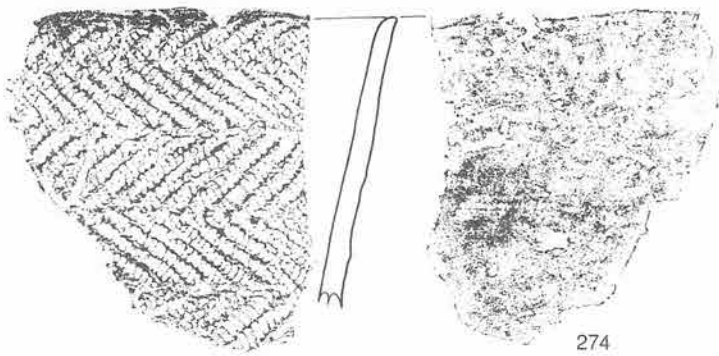
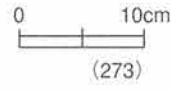
第87図 遺構外出土土器(7) ~IV a層~



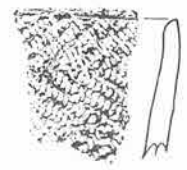
273



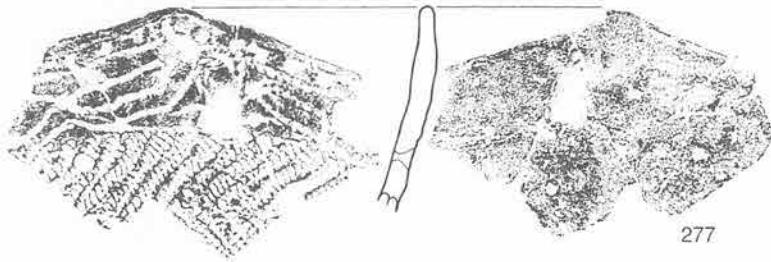
275



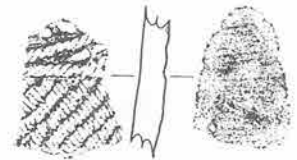
274



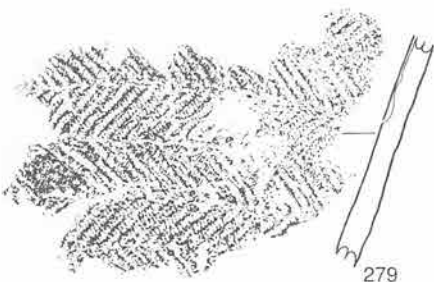
276



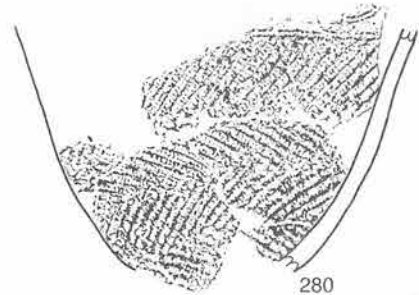
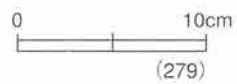
277



278

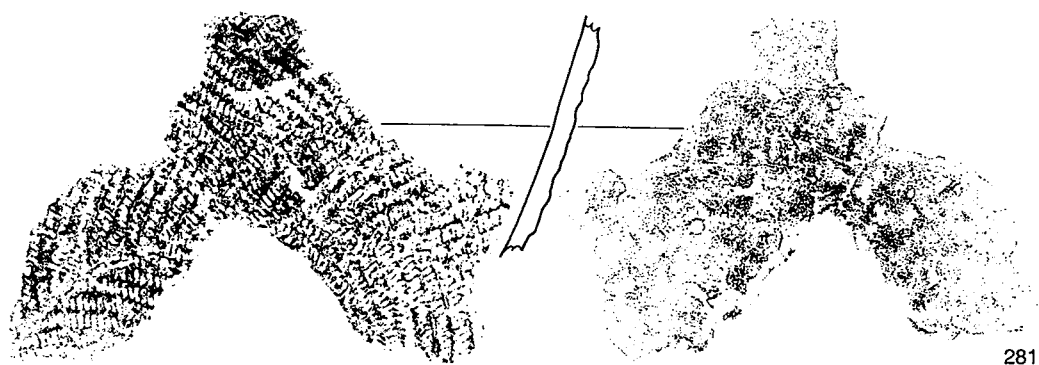


279

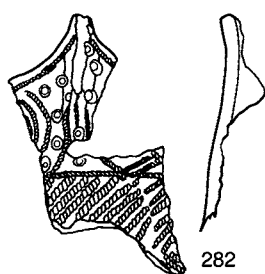


280

第88図 遺構外出土土器(8) ~IV a層~



281



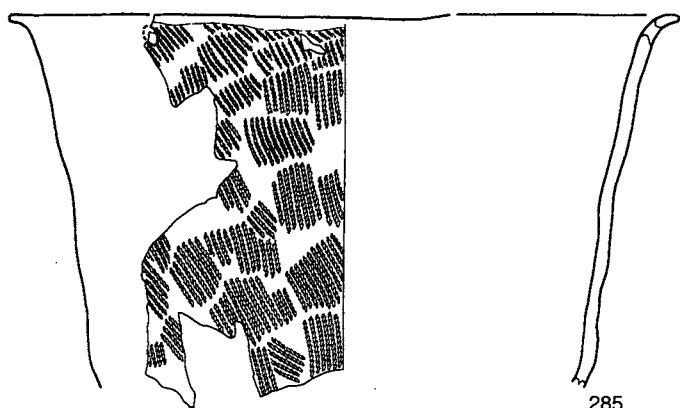
282



283



284



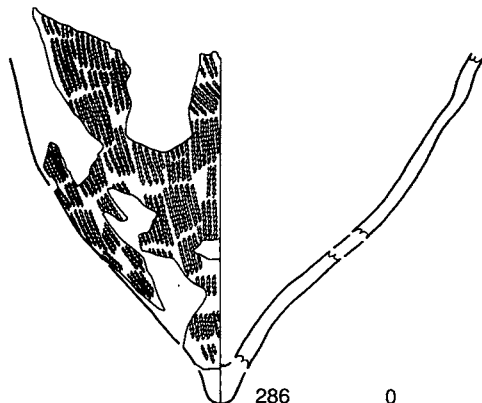
285



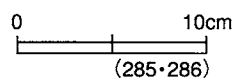
287



288

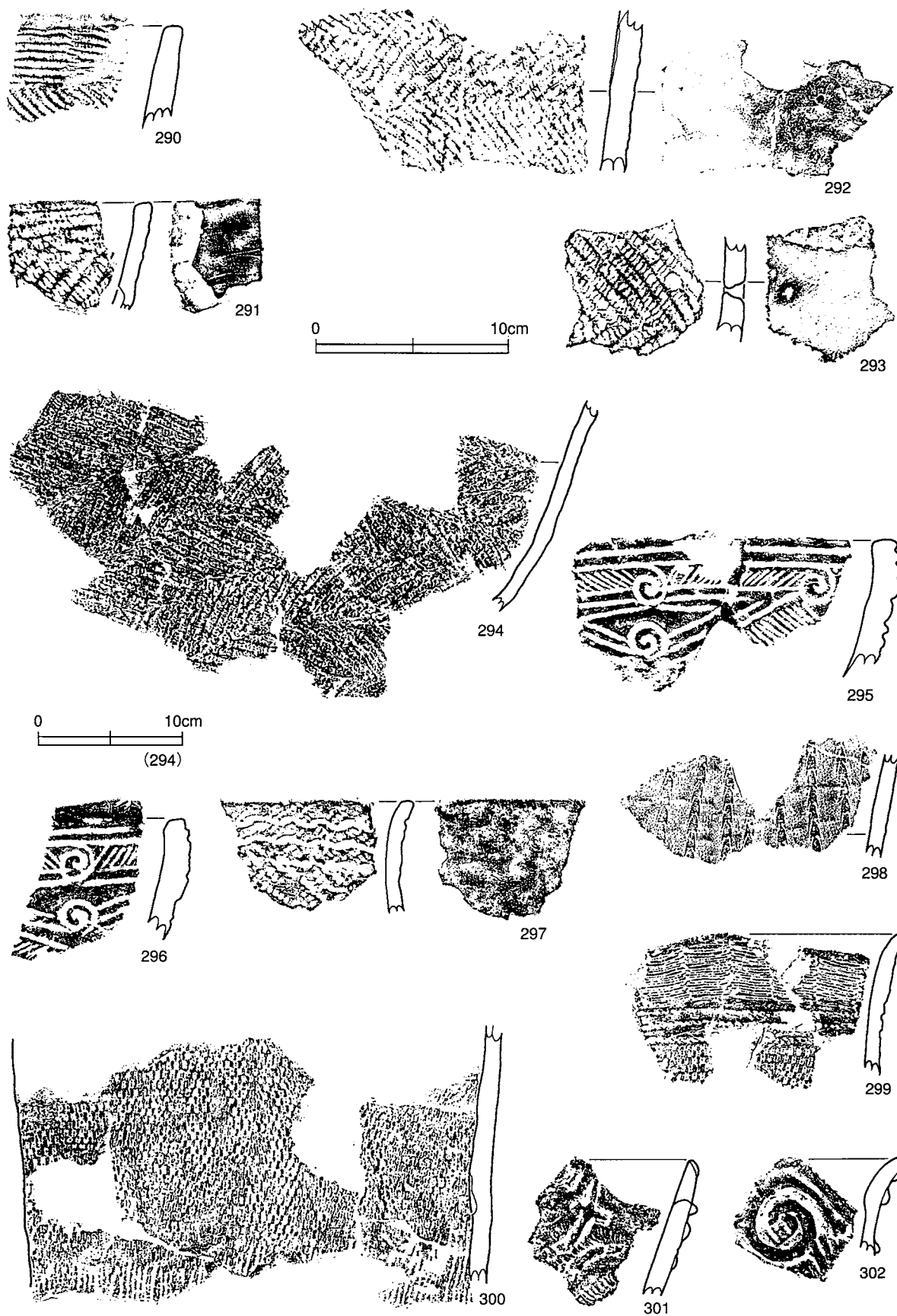


286

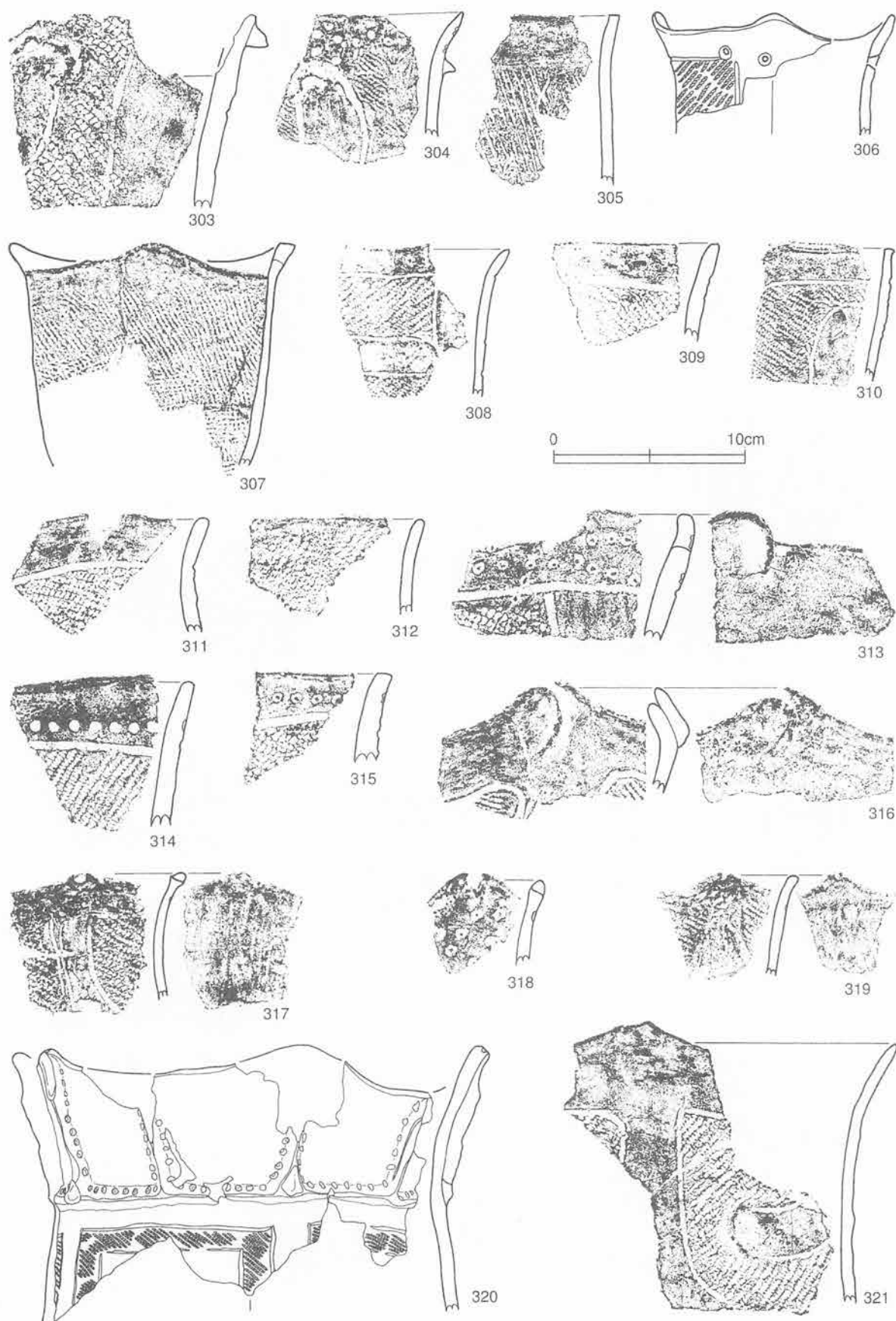


289

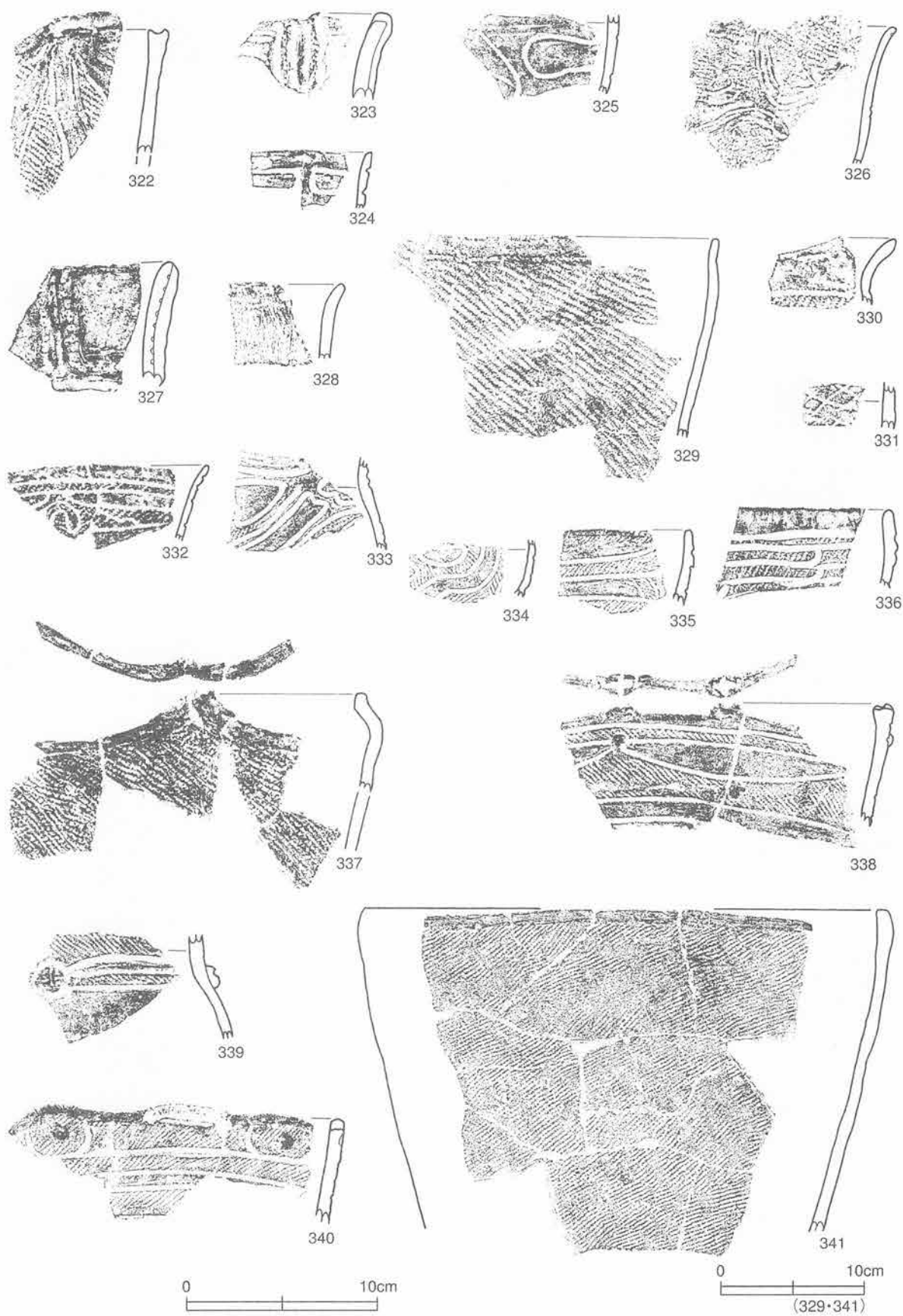
第89圖 遺構外出土土器(9) ~IV a層~



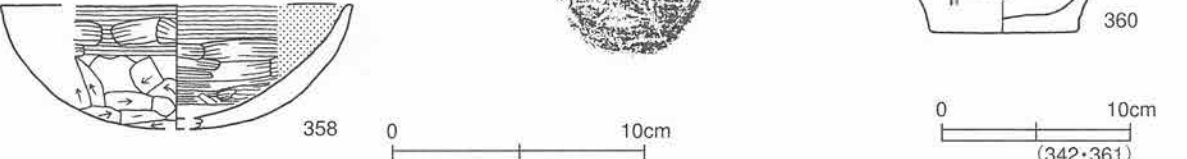
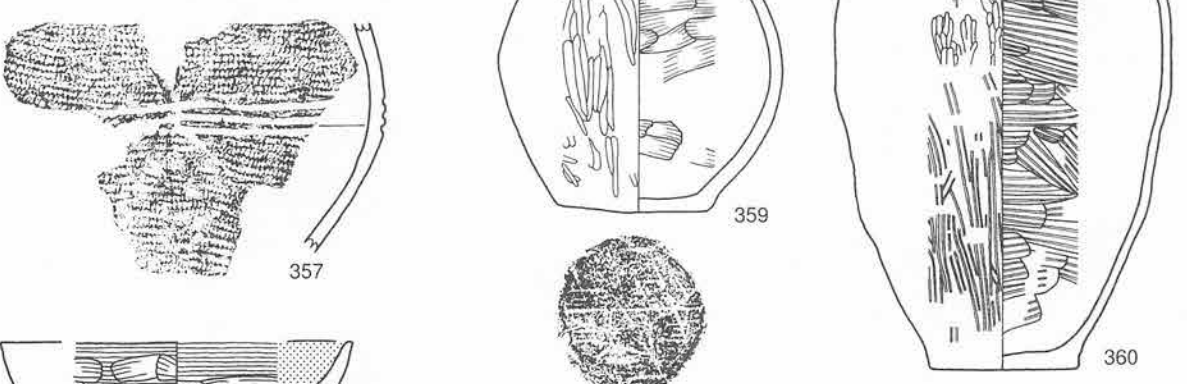
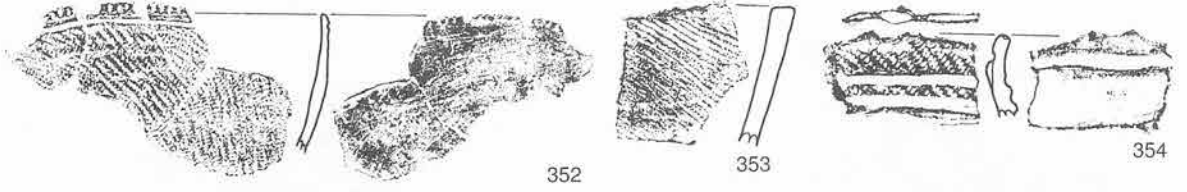
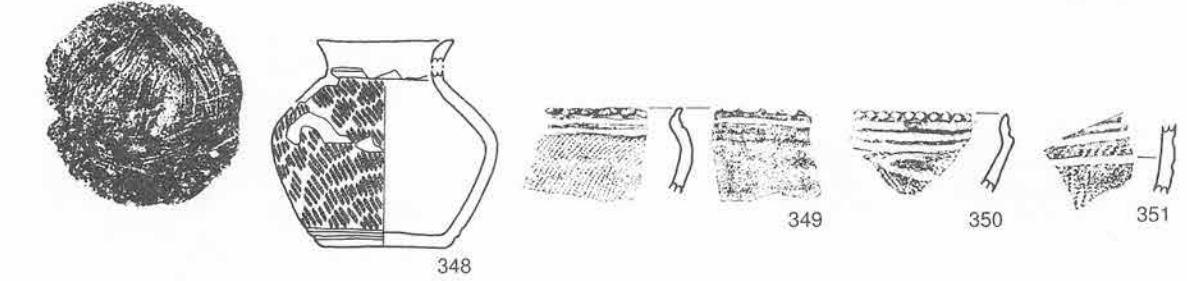
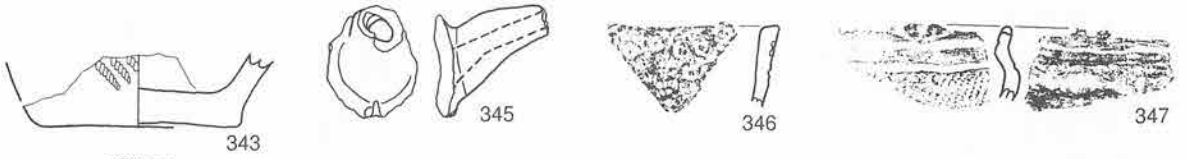
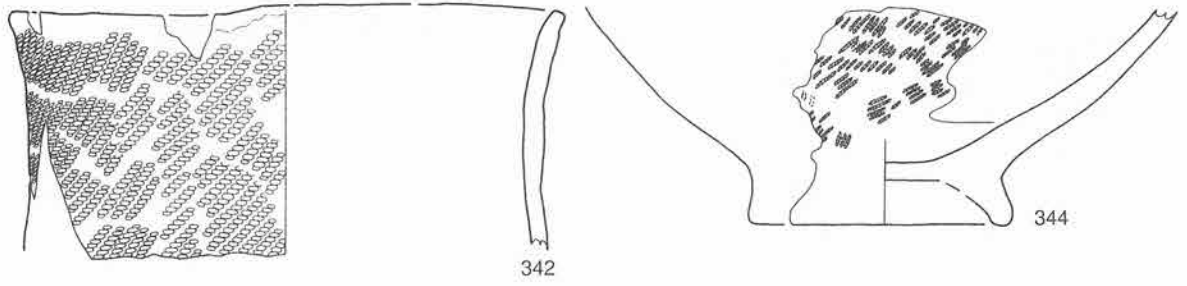
第90图 遺構外出土土器 (10)



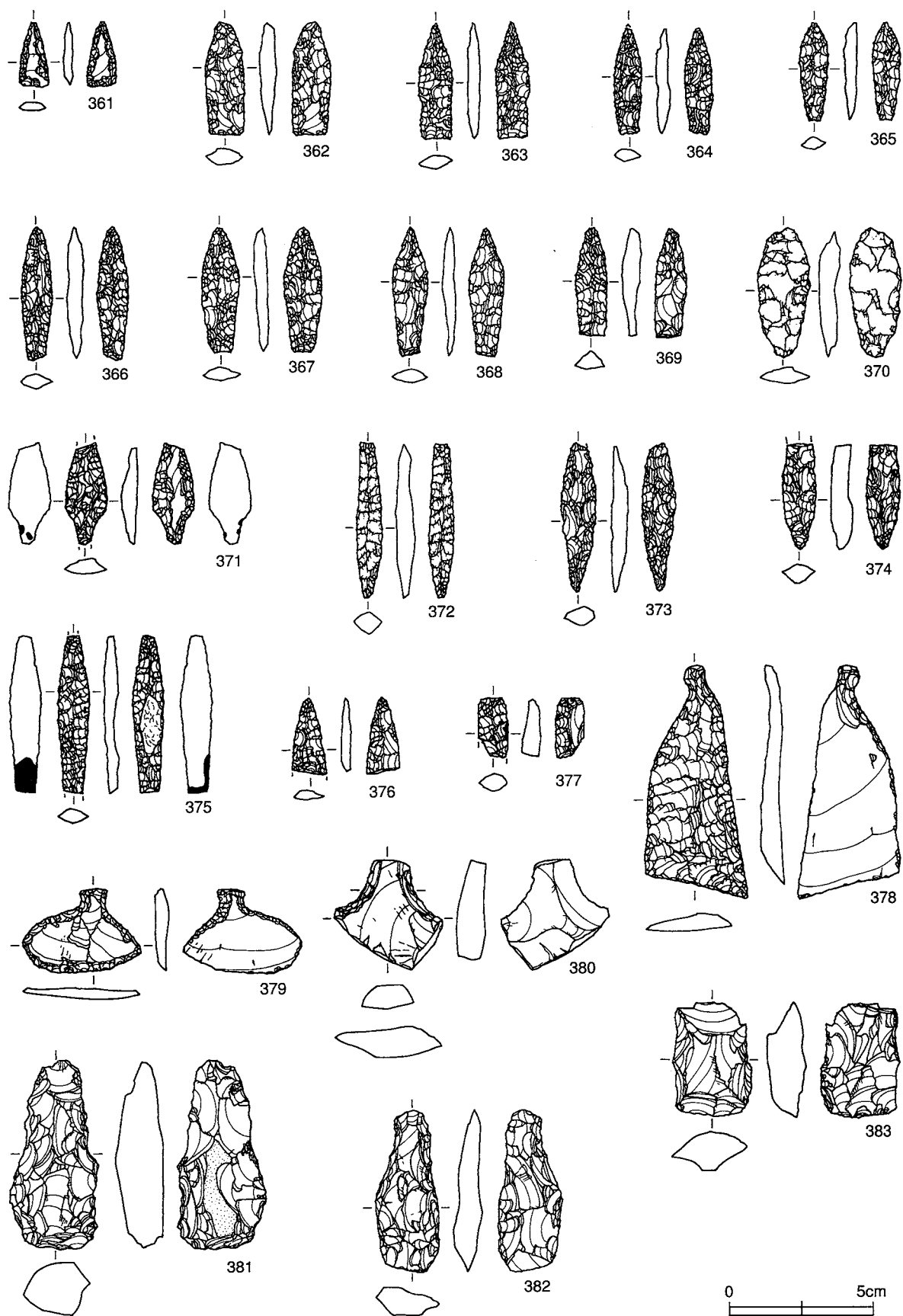
第91図 遺構外出土土器 (11)



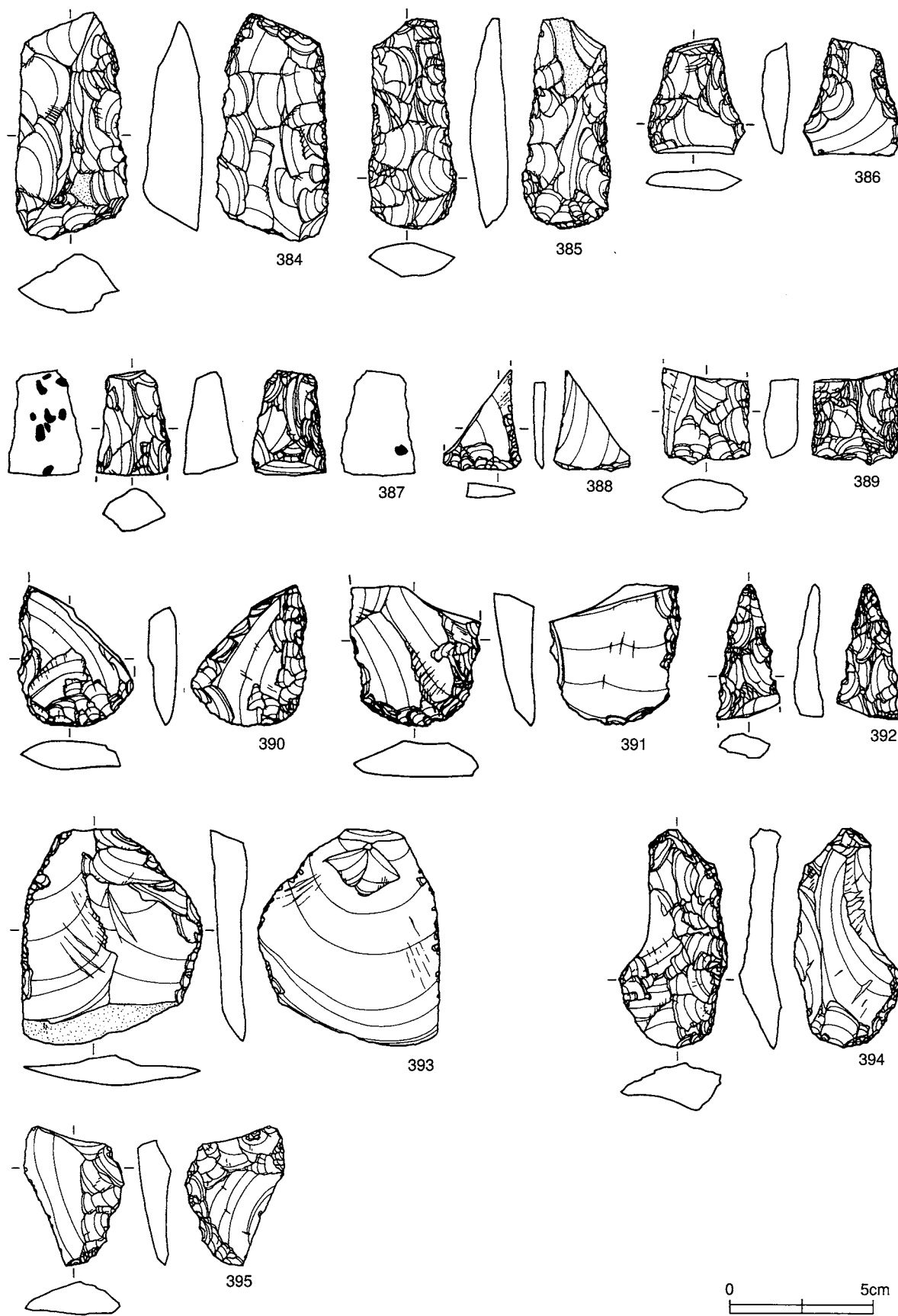
第92図 遺構外出土土器 (12)



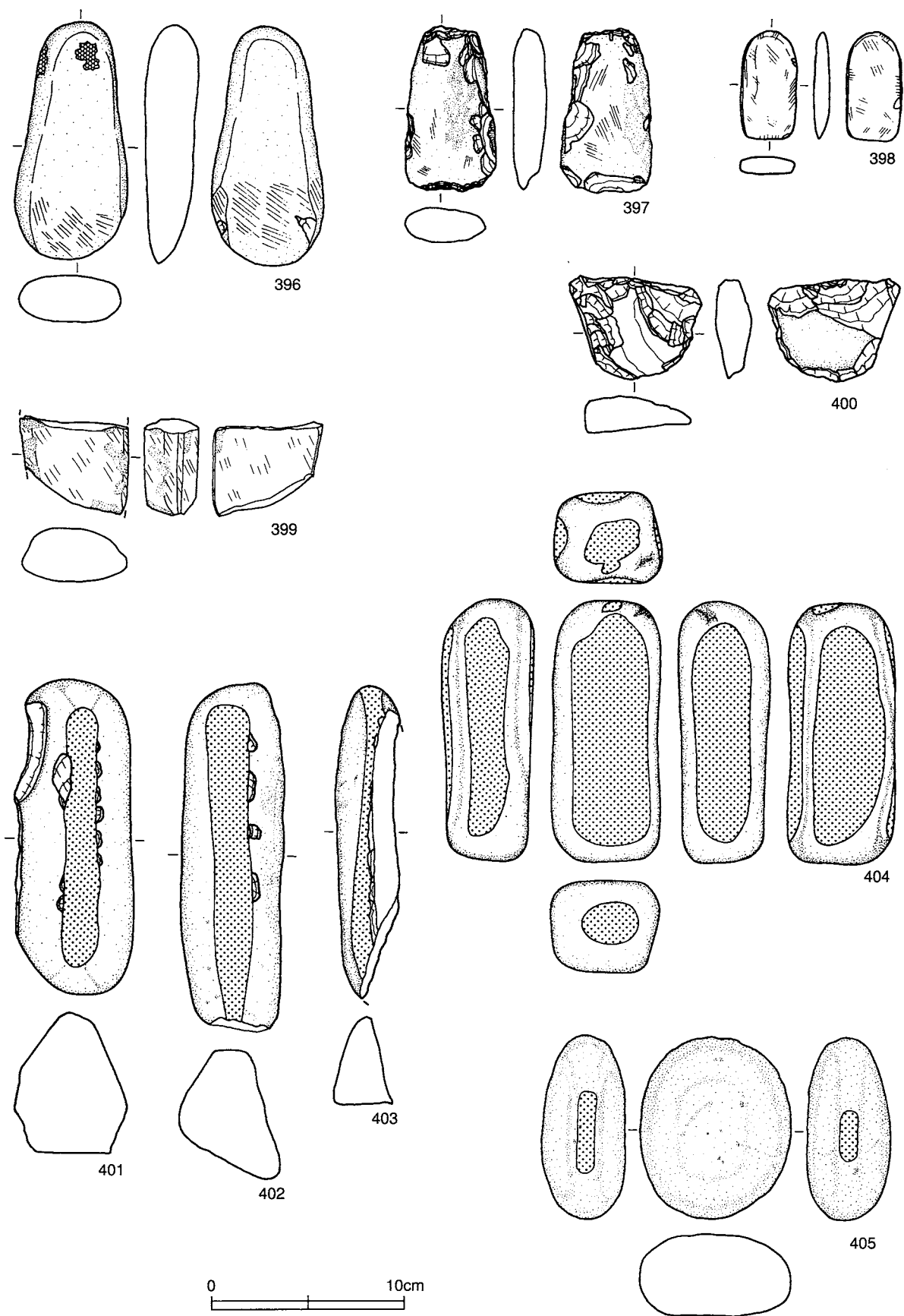
第93図 遺構外出土器 (13)



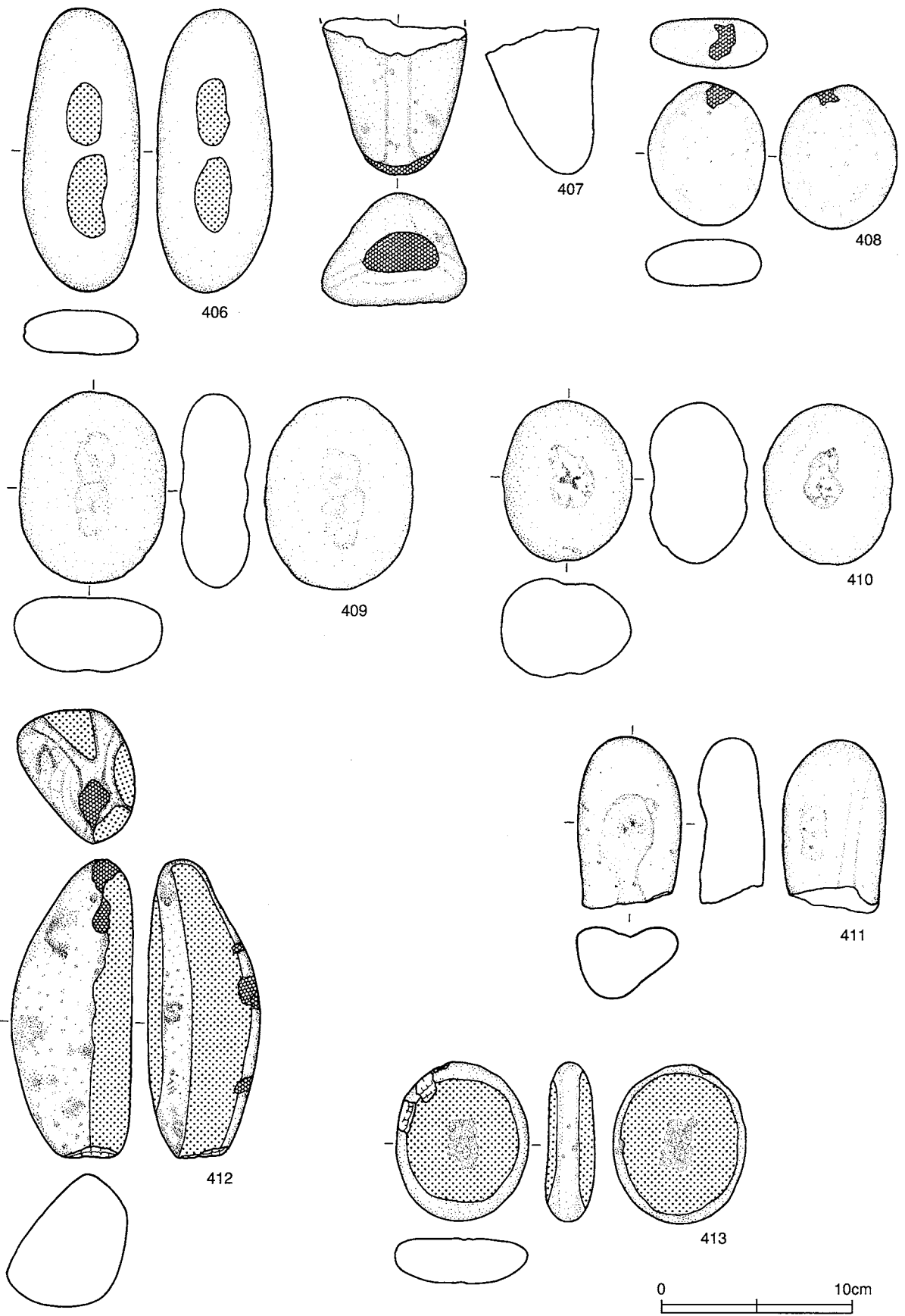
第94図 遺構外出土石器 (1) ~VI層~



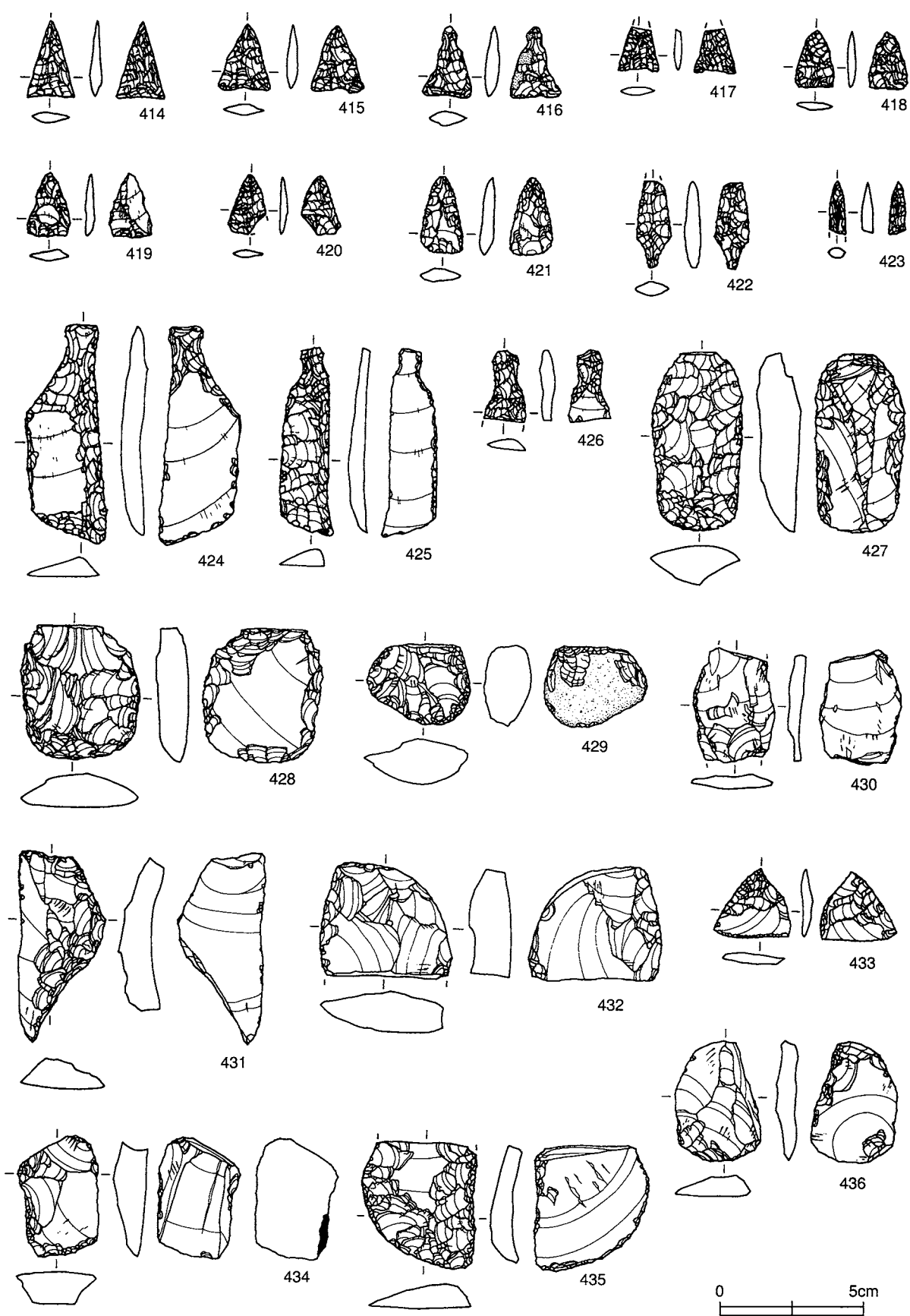
第95図 遺構外出土石器(2) ~Ⅵ層~



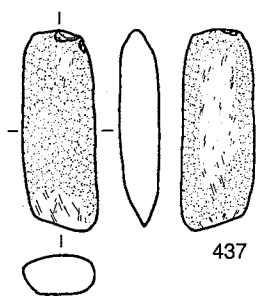
第96図 遺構外出土石器 (3) ~Ⅵ層~



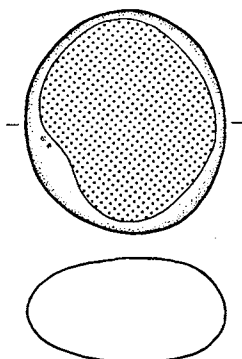
第97図 遺構外出土石器(4)～Ⅵ層～



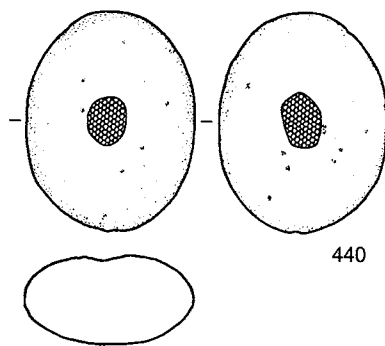
第98図 遺構外出土石器 (5) ~Ⅳa層~



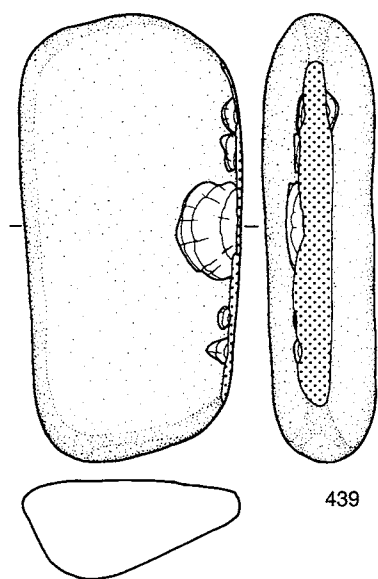
437



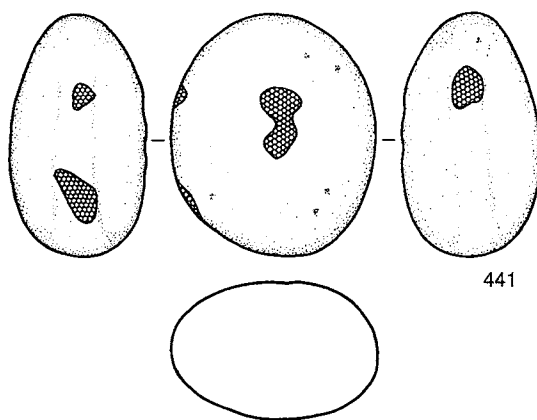
438



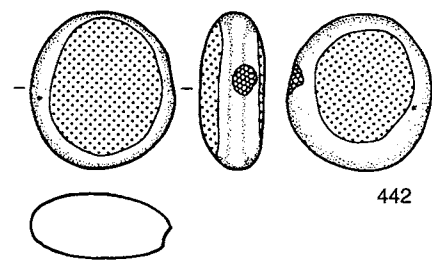
440



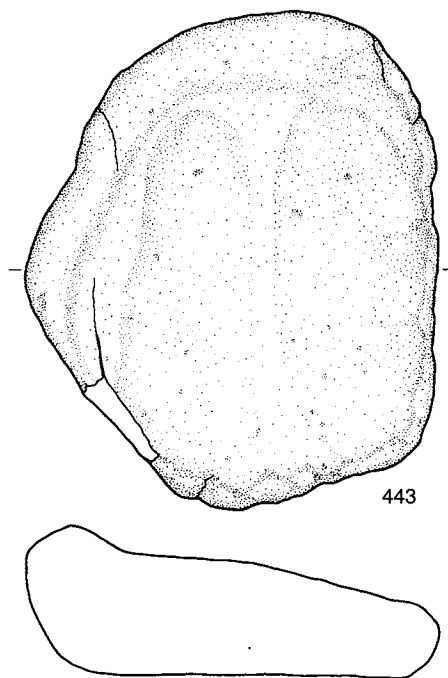
439



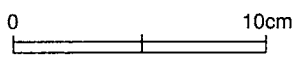
441



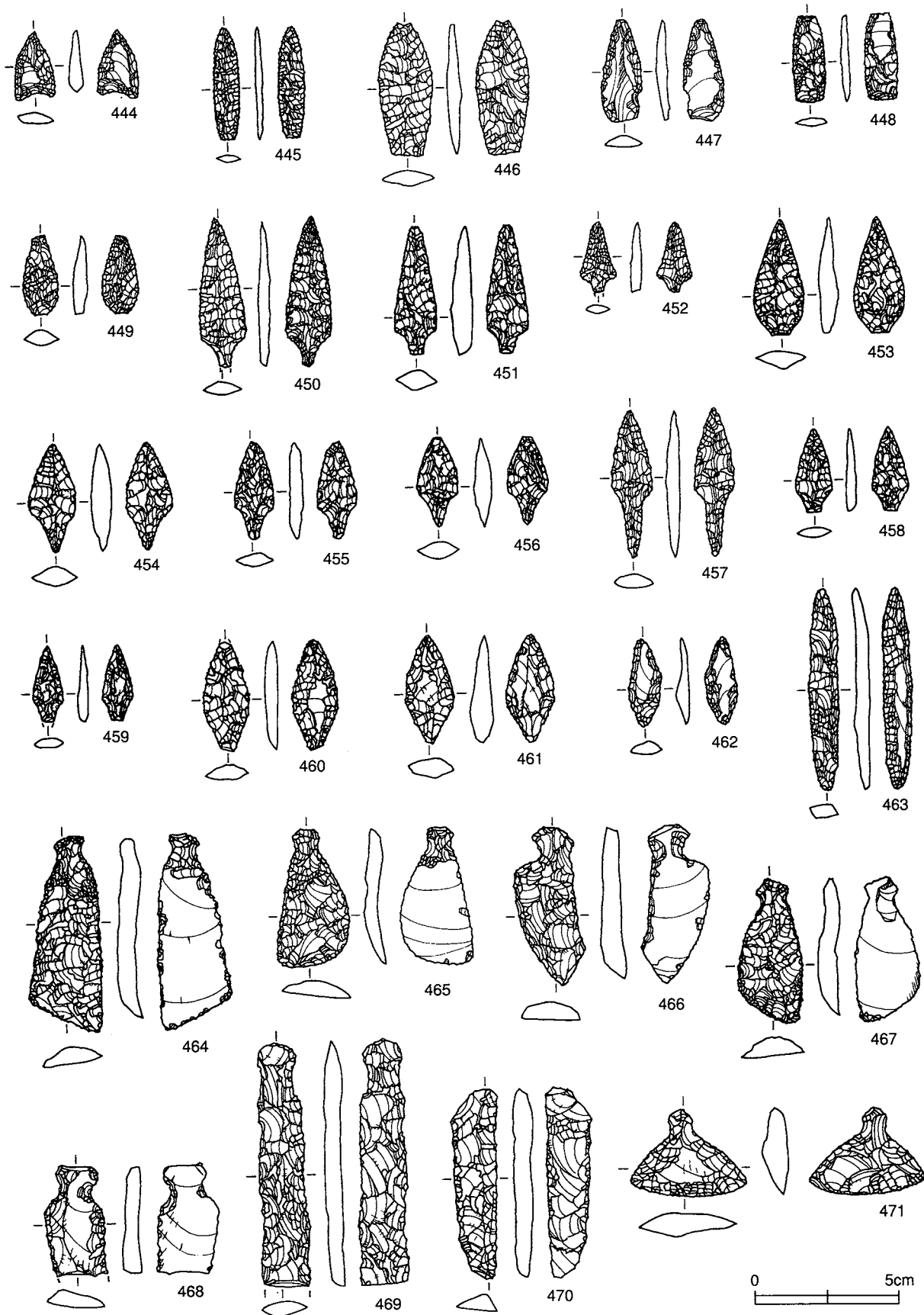
442



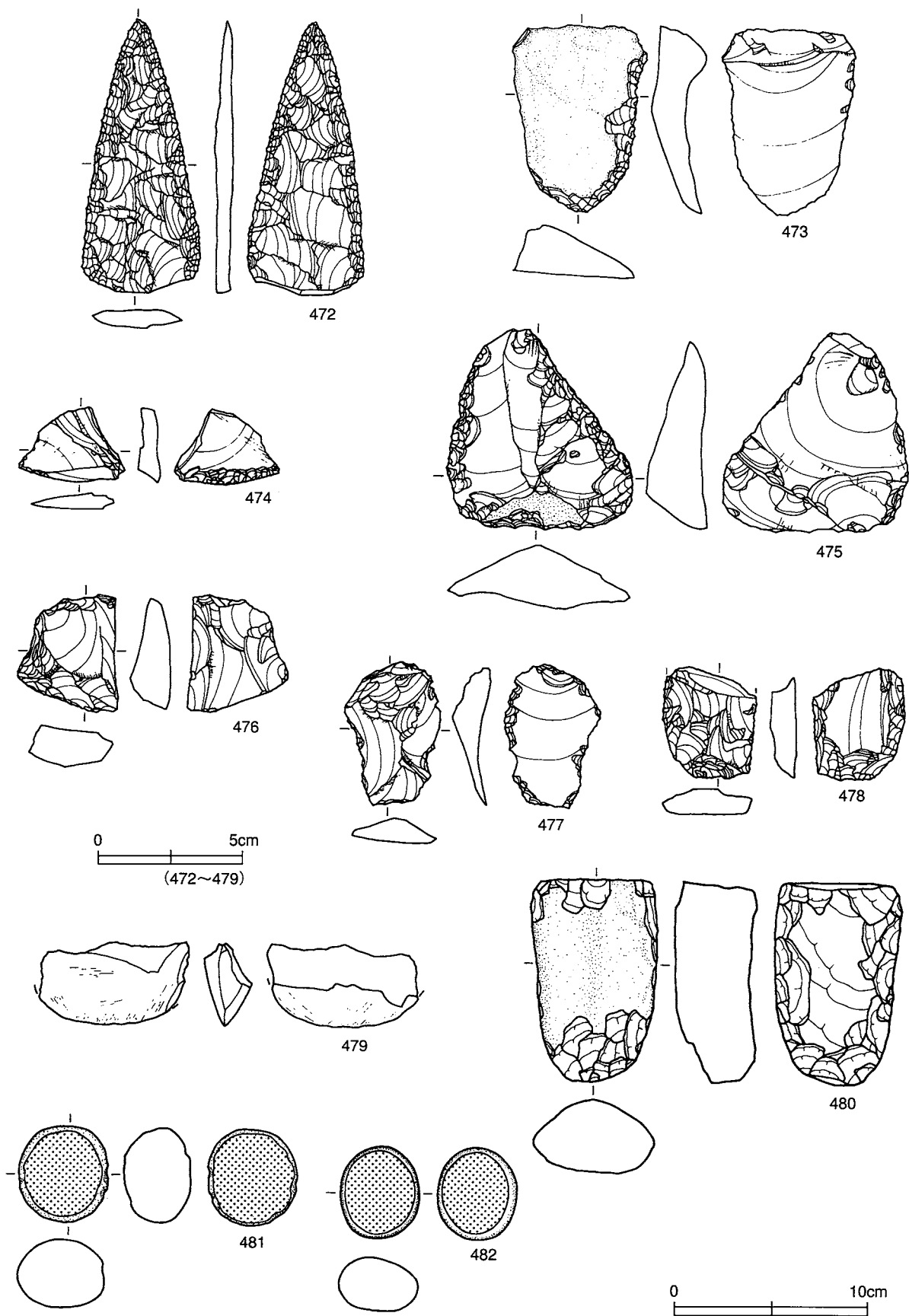
443



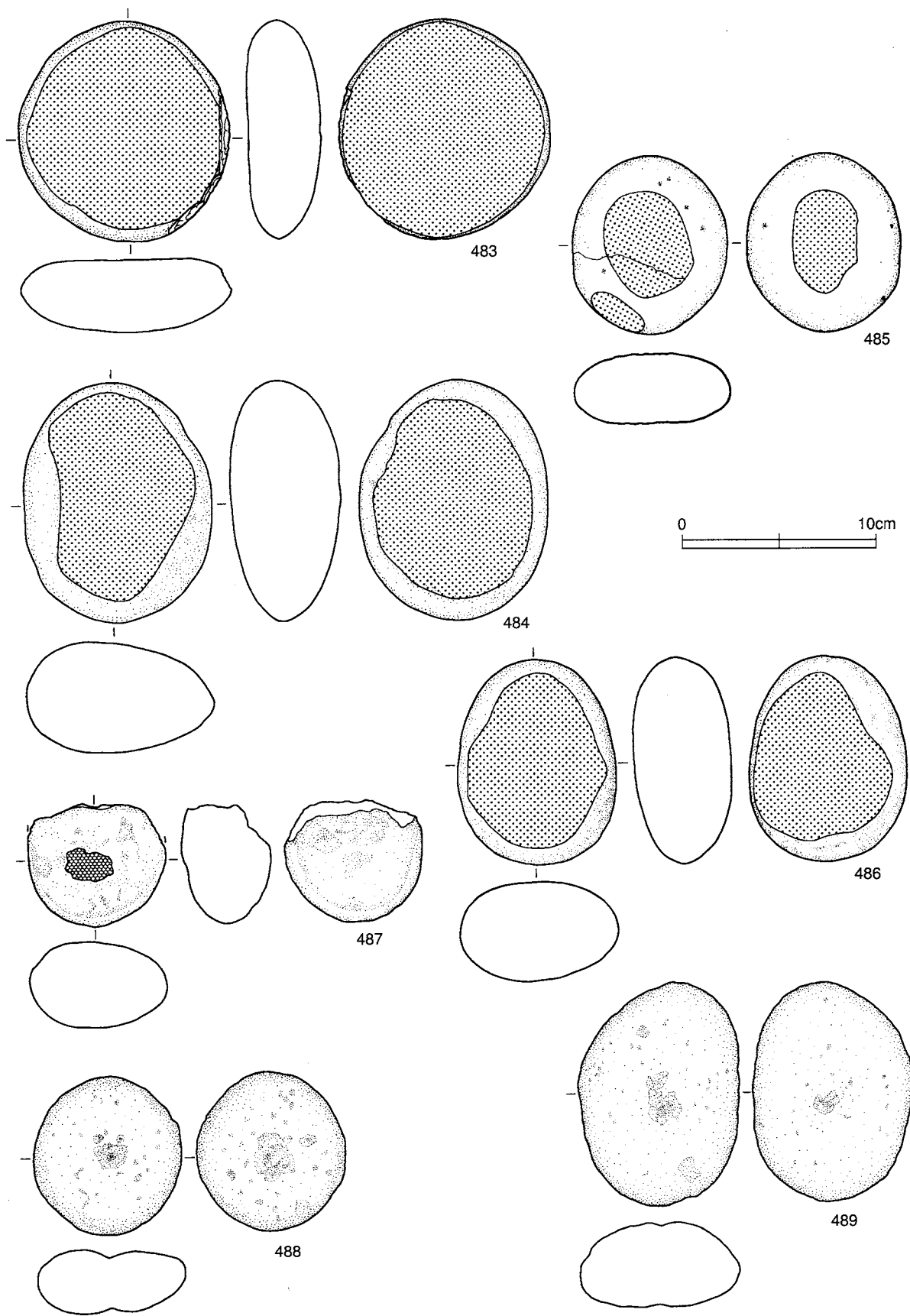
第99図 遺構外出土石器(6) ~IV a層~



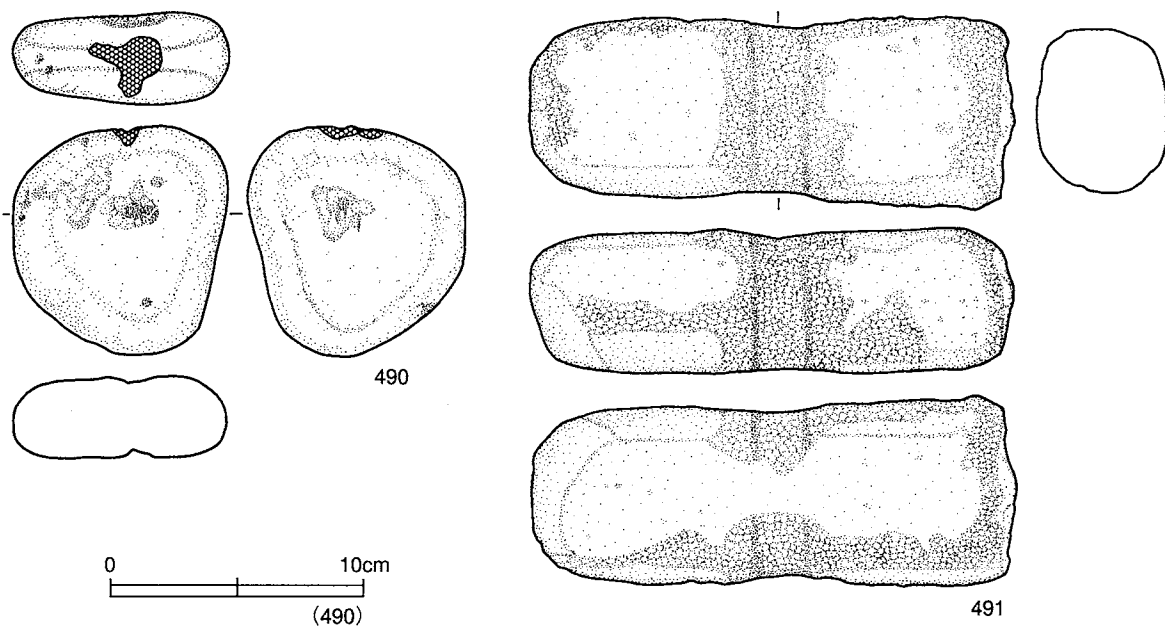
第100图 遺構外出土石器 (7)



第101図 遺構外出土石器 (8)

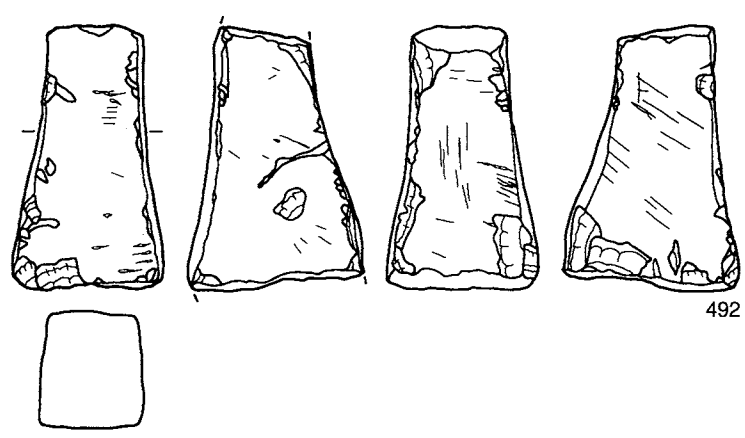


第102図 遺構外出土石器(9)

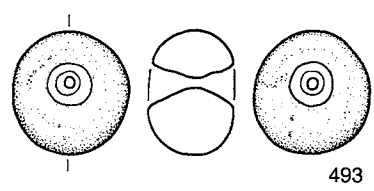


0 10cm
(490)

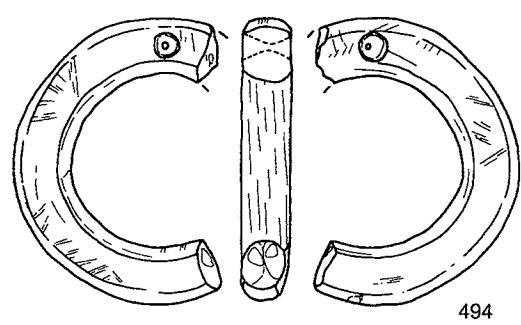
491



492



493

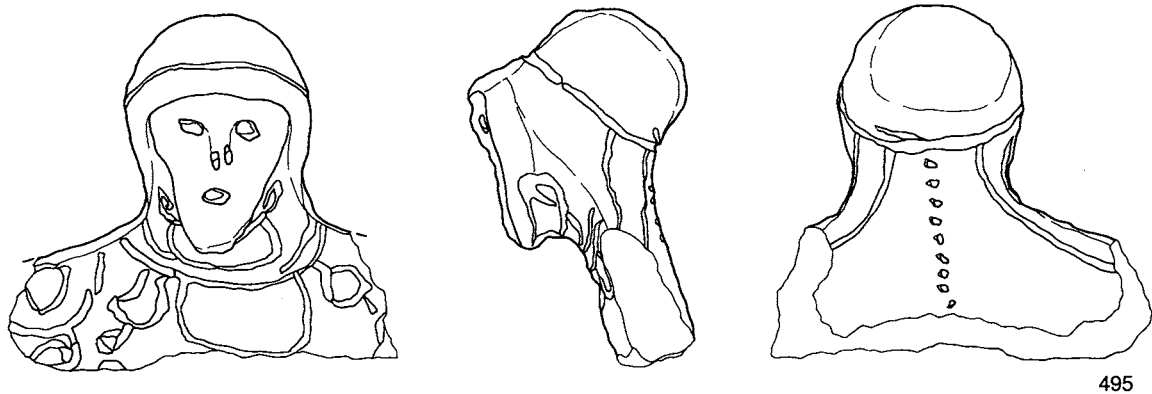


494

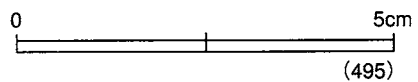
0 5cm

0 5cm
(494)

第103図 遺構外出土石器 (10) ・石製品



495



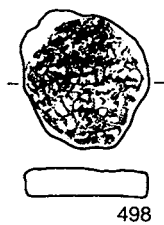
(495)



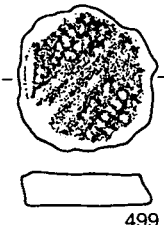
496



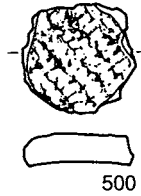
497



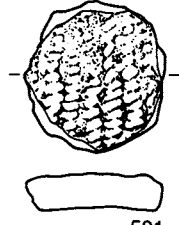
498



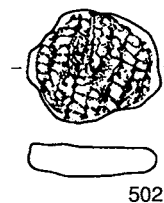
499



500



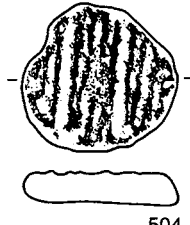
501



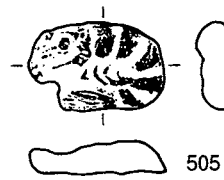
502



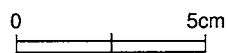
503



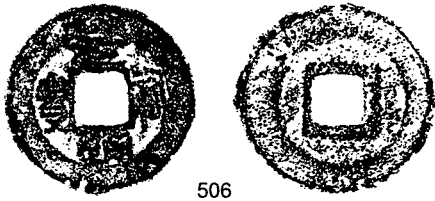
504



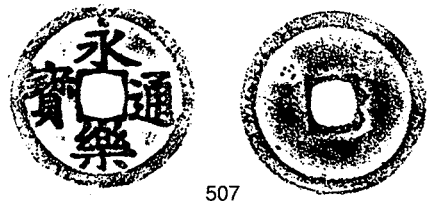
505



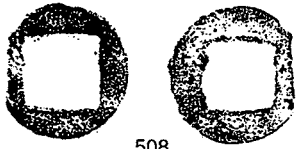
第104図 遺構外出土土製品



506



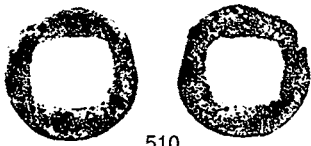
507



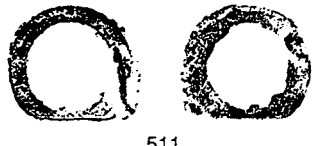
508



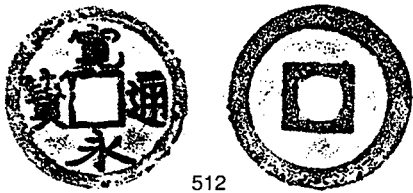
509



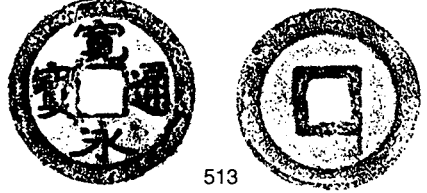
510



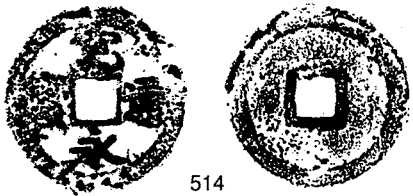
511



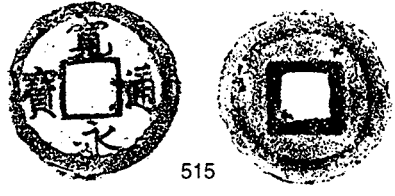
512



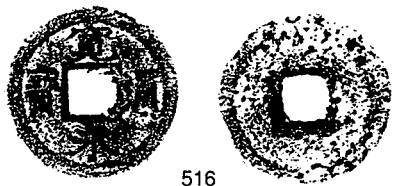
513



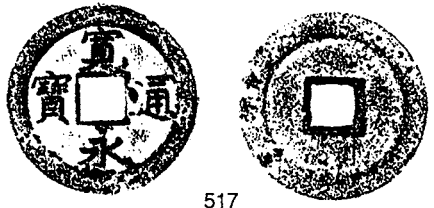
514



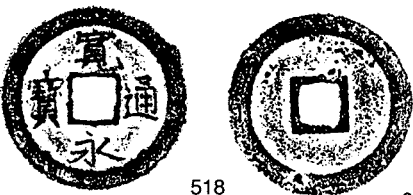
515



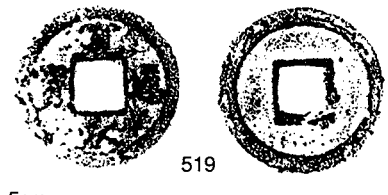
516



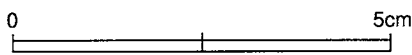
517



518



519



第105圖 遺構外出土貨幣

第2表

土器観察表

(縄文土器観察表)

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類
1	1号住 NO1	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、浮石含む、補修孔	ミガキ	I
2	1号住 NO6	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文、浮石含む	ミガキ	I
3	1号住 NO7	深鉢	体部	貝殻腹縁押し引き文、浮石含む	ナデ	I
4	1号住 NO9	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
5	1号住 NO5	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
6	1号住 NO3	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
7	1号住 NO4	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む、炭化物付着	ミガキ	I
8	1号住 NO8	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
9	1号住 NO2	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、条痕文、浮石含む	ナデ	I
10	3号住 石囲炉	深鉢	口縁～底部	L R、ミガキ、砂粒含む	ナデ	Ⅲ2
11	4号住 埋土	深鉢	体部	L R、繊維含む	ナデ	Ⅲ～Ⅳ
12	4号住 埋土	深鉢	体部	L R、浮石含む	ナデ	Ⅲ～Ⅳ
13	4号住 埋土	深鉢	体部	L R	ナデ	Ⅲ～Ⅳ
14	5号住 埋土	深鉢	底部	L R	ナデ	Ⅲ～Ⅳ
15	6号住 埋土	鉢	体部	沈線、外面ミガキ、16と同一個体	ナデ	Ⅳ～Ⅴ
16	6号住 埋土	鉢	体部	沈線、外面ミガキ	ナデ	Ⅳ～Ⅴ
17	6号住 埋土	深鉢	体部	不整綾絡文、浮石含む	ナデ	Ⅱ～Ⅲ
115	1号土坑 埋土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、条痕文、浮石含む	ナデ	I
116	13号土坑 埋土	深鉢	体部	網目状燃糸文、砂粒含む	ナデ	Ⅳ
117	24号土坑 埋土	深鉢	体部	羽状縄文、繊維・浮石含む	ナデ	Ⅱ1a
118	24号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、浮石・繊維含む	ナデ	Ⅱ1a
119	25号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、浮石含む	ナデ	Ⅱ1a
120	27号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、金雲母	ナデ	Ⅱ1a
122	28号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、繊維・浮石含む	ナデ	Ⅱ1a
123	28号土坑 埋土	深鉢	口縁部	R L、口唇部刺突、繊維・海綿骨針含む	ミガキ	Ⅱ1a
125	34号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、砂粒	ナデ	Ⅳ
126	34号土坑 埋土	深鉢	体部	L R、砂粒含む、黒斑あり	ナデ	Ⅳ
127	38号土坑 埋土	深鉢	口縁部	L R、砂粒含む	ナデ	Ⅳ
128	38号土坑 埋土	深鉢	体部	燃糸圧痕、沈線文	ナデ	Ⅳ
129	38号土坑 埋土	深鉢	体部	燃糸圧痕、刺突列、羽状縄文、繊維・砂粒含む	ナデ	Ⅱ1a
134	2号陥し穴埋土	深鉢	口縁部	燃糸圧痕、多軸縞条体	ナデ	Ⅱ2
135	5号陥し穴埋土	深鉢	体部	羽状縄文、繊維・砂粒含む	ナデ	Ⅱ1a
136	1号柱穴P埋土	深鉢	口縁部	燃糸圧痕、金雲母・砂粒含む	ミガキ	Ⅳ
137	4号焼土	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ミガキ	I
138	12号焼土	深鉢	口縁～底部	口縁部左右不均整波状、貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
139	12号焼土	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
140	12号焼土	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ミガキ	I
141	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ミガキ	I
142	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、条痕文、浮石含む	ナデ	I
143	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
144	12号焼土	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
145	12号焼土	深鉢	口縁～体部	口縁部左右不均整波状、貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
146	12号焼土	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
147	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃) 浮石	ナデ	I
148	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文、浮石含む	ナデ	I
149	12号焼土	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)	ナデ	I
150	12号焼土	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
155	早NO 51,55,60	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
156	7㉑区NO 116	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、補修孔	ミガキ	I
157	7㉒区NO 367	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、	ミガキ	I
158	7㉑区NO 249	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き、外削ぎ、浮石	ナデ	I
159	7㉒区NO 344	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石含む	ミガキ	I
160	7㉑区NO 294	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
161	7㉑区NO 88	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
162	7㉑区NO 13	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石含む	ミガキ	I
163	早NO 137,150	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石含む	ミガキ	I
164	7㉑区NO B 89	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石含む	ミガキ	I

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類
165	7①区NO 113	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、2条平行、外削ぎ	ミガキ	I
166	7①区NO C 99	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石含む	ミガキ	I
167	7①区NO 107	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、条痕文、外削ぎ、浮石	ミガキ	I
168	6②区NO B 48	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、外削ぎ、浮石	ミガキ	I
169	早NO 184	深鉢	体部	口唇短貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕列	ミガキ	I
170	7②区NO 362	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕列、貝殻腹縁、条痕文	ミガキ	I
171	早NO 14	深鉢	口縁～体部	口唇短貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、貝殻背圧痕	ミガキ	I
172	早NO 134,148	深鉢	口縁～体部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き、刺突	ナデ	I
173	7②区NO 393	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突、片刃平棒工具	ナデ	I
174	早NO 18	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突、片刃平棒工具	ナデ	I
175	7②区NO 352	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き文、刺突文(片刃)	ナデ	I
176	7①区NO 176	深鉢	口縁～体部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突(片刃)、補修孔	ミガキ	I
177	7①区NO 240	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突(片刃)、浮石	ミガキ	I
178	7①区NO 35	深鉢	口縁部	口唇部ヘラ刻み、貝殻押し引き文、刺突文(片刃)	ナデ	I
179	7②区NO 401	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、条痕文、刺突(片刃)、内面条痕文	ナデ	I
180	7②区NO 406	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、条痕文、刺突文(片刃)、炭化物	ミガキ	I
181	7①区NO C 83	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き文、刺突文(片刃)	ミガキ	I
182	7②NO B 146	深鉢	口縁部	口唇部ヘラ刻み、貝殻背圧痕、海綿骨針含む	ナデ	I
183	7②区NO 389	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、刺突文、沈線文、海綿骨針含む	ミガキ	I
184	7①区NO C 3	深鉢	口縁部	片口状口縁、口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、刺突文	ミガキ	I
185	7①区NO 284	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文、沈線文	ミガキ	I
186	早NO 58	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、刺突文(両刃平棒工具)、沈線文	ミガキ	I
187	7①区NO 262	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き文、刺突文、沈線文	ミガキ	I
188	7②区NO 351	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文、沈線文	ナデ	I
189	L III d 11 V層	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突文、沈線文	ミガキ	I
190	7①区NO C 14	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、沈線文、刺突文	ミガキ	I
191	7①区NO 110	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、刺突列、沈線	ミガキ	I
192	7①区NO 59	深鉢	口縁部	左右不均整波状、口唇貝殻腹縁圧痕、爪形刺突、沈線文	ミガキ	I
193	7①区NO 114	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、爪形刺突、沈線文、外削ぎ	ミガキ	I
194	早NO 221	深鉢	口縁～体部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ミガキ	I
195	7①区NO C 73	深鉢	口縁部	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕(羽状)、刺突、沈線	ナデ	I
196	7①区NO C 37	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線文、外削ぎ	ミガキ	I
197	NO B 16	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線	ミガキ	I
198	6③区 ?	深鉢	体部	口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
199	L III g 11 III層	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ナデ	I
200	早NO B 8	深鉢	口縁部	左右不均整波状、口唇貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
201	7②区NO 364	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、沈線文、外削ぎ	ミガキ	I
202	7①区NO 334	深鉢	口縁部	左右不均整波状、口唇貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
203	7①区NO 265	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線	ナデ	I
204	7①区NO 106	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線	ミガキ	I
205	早NO 218	深鉢	口縁部	口唇貝殻腹縁圧痕、貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線	ミガキ	I
206	7①区NO 67	深鉢	口縁部	条痕文、浮石含む	ナデ	I
207	7①区NO 20	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、長石含む	ナデ	I
208	7②区NO 372	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ナデ	I
209	7①NO B 130	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む	ミガキ	I
210	7①区NO 200	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、浮石含む、黒斑あり	ナデ	I
211	7①区NO 54	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、雲母含む	ナデ	I
212	7②区NO 340	深鉢	体部	貝殻背圧痕、海綿骨針含む	ナデ	I
213	7①NO B 137	深鉢	体部	貝殻背圧痕、条痕文	ミガキ	I
214	7②区NO 340	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(両刃平棒工具)、条痕文、浮石	ナデ	I
215	7②区NO 396	深鉢	体部	貝殻押し引き文、刺突文(片刃)、浮石含む	ミガキ	I
216	7①区NO 187	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、浮石含む	ミガキ	I
217	7②区NO 381	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、浮石	ミガキ	I
218	7①区NO 310	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、浮石含む	ナデ	I
219	7②区NO 394	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、浮石含む	ミガキ	I
220	7③区VI層	深鉢	体部	貝殻押し引き文、刺突文(片刃)、浮石含む	ミガキ	I
221	K III d 8 VI層	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文、海綿骨針含む	ミガキ	I
222	7②区NO 382	深鉢	体部	貝殻条痕文、刺突文(片刃)、海綿骨針含む	ミガキ	I

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類
223	7㉔区NO 358	深鉢	体部	貝殻条痕文、刺突文、海綿骨針含む	ミガキ	I
224	7㉔区NO 371	深鉢	体部	貝殻条痕文、刺突文(片刃)、海綿骨針含む	ミガキ	I
225	7㉔区NO 403	深鉢	体部	貝殻条痕文、刺突文(片刃)、海綿骨針含む	ナデ	I
226	7㉔区NO 400	深鉢	体部	貝殻条痕文、刺突文(片刃)、海綿骨針含む	ミガキ	I
227	7㉔区NO 38	深鉢	体~底部	貝殻条痕文、刺突文(片刃)、浮石含む	ナデ	I
228	7㉔区NO C 96	深鉢	体部	刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
229	7㉔区NO 175	深鉢	体部	刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
230	7㉔区NO C 46	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
231	7㉔区NO 168	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
232	7㉔区NO B 17	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
233	7㉔区NO C 62	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
234	7㉔区NO 164	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
235	L III h 12 VI層	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
236	7㉔区NO 220	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、沈線文、条痕文、浮石含む	ミガキ	I
237	7㉔区NO C 71	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、沈線文、条痕文、浮石含む	ミガキ	I
238	早NO 188	深鉢	口縁部	貝殻押し引き文、沈線文、浮石含む	ミガキ	I
239	早B 21	深鉢	体部	貝殻腹縁圧痕、貝殻押し引き文、沈線文、浮石含む	ナデ	I
240	7㉔区NO B 134	深鉢	体部	貝殻条痕文、沈線文、浮石含む、黒斑あり	ミガキ	I
241	7㉔区NO 361	深鉢	体部	貝殻条痕文、海綿骨針含む	ミガキ	I
242	7㉔区NO 402	深鉢	体部	貝殻条痕文、浮石含む	ミガキ	I
243	7㉔区NO 120	深鉢	体部	無文、内外面ミガキ、浮石含む	ミガキ	I
244	7㉔区NO 390	深鉢	体~底部	条痕文、外面ミガキ、浮石含む、黒斑あり	ナデ	I
245	早NO B 98	深鉢	体~底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
246	早NO 22,40,46	深鉢	体~底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
247	早NO 10	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
248	早NO 32	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
249	早NO 383	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
250	早NO 39,110	深鉢	体~底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
251	早NO B 8	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
252	L III s 11 VI層	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
253	早NO 200	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
254	早NO 110	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
255	早NO B 32	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ミガキ	I
256	早NO 10	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕	ナデ	I
257	早NO C 53	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕、外面ミガキ	ナデ	I
258	早NO 52,61,62	深鉢	体~底部	貝殻押し引き文	ミガキ	I
259	早NO B 96	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)	ナデ	I
260	早BNO 151	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕、刺突文(片刃)	ナデ	I
261	早NO 309	深鉢	底部	貝殻腹縁圧痕、刺突文、条痕文	ナデ	I
262	早NO 188,191	深鉢	体~底部	貝殻腹縁圧痕、短貝殻腹縁圧痕、沈線文	ナデ	I
263	早NO 30,40,80	深鉢	体~底部	刺突文	ナデ	I
264	前NO C 88	深鉢	口縁~体部	口唇RL、羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石	ナデ	II 1 a
265	前NO 46,47,54	深鉢	口縁~体部	口唇RL、羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石、煤付着	ナデ	II 1 a
266	前NO 53,57	深鉢	口縁部	口唇RL、羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
267	前NO 154	深鉢	口縁部	口唇RL、羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ミガキ	II 1 a
268	前NO 71,72	深鉢	口縁部	口唇RL、羽状縄文(LR、RL)、補修孔、繊維・浮石	ナデ	II 1 a
269	前NO 38	深鉢	口縁部	口唇捻糸圧痕、羽状縄文、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
270	M III o 14 IV a	深鉢	口縁部	口唇捻糸圧痕、RL、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
271	前NO C 101	深鉢	口縁部	捻糸圧痕、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
272	M III p 12 IV a	深鉢	口縁~体部	RL、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
273	前NO 124	鉢	口縁~体部	羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
274	前NO 62、140	深鉢	口縁部	羽状縄文(LR、RL)、内削ぎ、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
275	前NO 108	深鉢	口縁部	羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ミガキ	II 1 a
276	前NO B 36	深鉢	口縁部	羽状縄文(LR、RL)、内削ぎ、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
277	前NO B 61	深鉢	口縁部	山形口縁、刻み、捻糸圧痕、羽状縄文、補修孔	ナデ	II 1 a
278	前NO 133	深鉢	体部	捻糸圧痕、棒状刺突文、浮石含む	ナデ	II 1 a
279	O III d 18 III層	深鉢	体部	羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
280	前NO 6.10	深鉢	体部	羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類
281	前NO 50,54,55,56	深鉢	体部	羽状縄文(LR、RL)、繊維・浮石多量混入	ナデ	II 1 a
282	前NO 77,B 17	深鉢	口縁部	山形口縁、捺糸圧痕、円形刺突、LR、繊維・浮石含む	ミガキ	II 1 b
283	前NO 8,10	深鉢	口縁部	平縁、捺糸圧痕、円形刺突、LR、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 b
284	前NO 78	深鉢	口縁部	平縁、捺糸圧痕、円形刺突、LR、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 b
285	LIV r 10 IV a 層	深鉢	口縁～体部	RL	ナデ	II 1 c
286	L III r 10 IV a 層	深鉢	体～底部	285と同一個体、乳房状尖底	ナデ	II 1 c
287	M III b 12 IV a 層	深鉢	口縁部	平縁、捺糸圧痕、LR、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
288	M III b 12 IV a 層	深鉢	口縁部	捺糸圧痕、LR、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
289	前NO 7	深鉢	体部	貼り付け、LR、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
290	O III d 18 III 層	深鉢	口縁部	RL、黒斑あり、繊維・浮石含む	ナデ	II 1 a
291	N III c 14 III 層	深鉢	口縁部	口唇部RL、体部LR、黒斑あり、砂粒・浮石含む	ナデ	II 1 a
292	O III h 16 III 層	深鉢	体部	羽状縄文、砂粒・浮石含む	ナデ	II 1 a
293	O III a 15 III 層	深鉢	体部	羽状縄文、補修孔あり、砂粒・浮石含む	ナデ	II 1 a
294	O III d 18 IV a 層	深鉢	体部	羽状縄文、砂粒・浮石含む	ナデ	II 1 a
295	O II i 14 III 層	深鉢	口縁部	捺糸圧痕、渦巻文、刻み、砂粒・浮石含む	ナデ	II 1 b
296	O III i 14 IV 層	深鉢	口縁部	捺糸圧痕、刻み、浮石・繊維含む、295と同一個体	ナデ	II 1 b
297	N III b 14 III 層	深鉢	口縁部	綾絡文、浮石含む	ナデ	II
298	M III n 11 IV a 層	深鉢	体部	木目状捺糸文、浮石含む	ナデ	II 2
299	L III c 11 III 層	深鉢	口縁部	捺糸文、多軸絡条体、砂粒・浮石含む	ナデ	II 2
300	L III d 10 III 層	深鉢	体部	299と同一個体、多軸絡条体、繊維含む	ナデ	II 2
301	M III o 14 IV a 層	深鉢	口縁部	貼り付け、刺突文、砂粒含む	ナデ	III 1 a
302	J III j 6 III 層	深鉢	口縁部	山形口縁、渦巻状貼り付け、浮石含む	ナデ	III 1 b
303	L III g 11 III 層	深鉢	体部	貼り付け、沈線区画充填縄文、LR、砂粒含む	ミガキ	III 2
304	L III o 11 III 層	深鉢	口縁部	円形刺突、貼り付け、沈線、LR、砂粒含む	ナデ	III 2
305	N III c 14 II 層	深鉢	口縁部	捺糸圧痕、砂粒含む	ミガキ	III 2
306	O IV a 14 II 層	深鉢	口縁部	RL、沈線文、補修孔あり、炭化物付着、金雲母含む	ナデ	III 2
307	L III j 11 III 層	深鉢	口縁～体部	山形口縁、LR、炭化物付着	ミガキ	III 2
308	O III a 14 II 層	深鉢	口縁部	沈線文、RL、磨消縄文、ひれ状突起、金雲母含む	ナデ	III 2
309	L III s 12 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、LR、磨消縄文、砂粒含む	ナデ	III 2
310	L III l 12 III 層	深鉢	口縁部	貼り付け、沈線文、磨消縄文、LR、砂粒含む	ナデ	III 2
311	L III o 10 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、LR、金雲母・砂粒含む	ミガキ	III 2
312	O III c 14 II 層	深鉢	口縁部	捺糸圧痕、砂粒含む	ミガキ	III 2
313	L III g 10 III 層	深鉢	口縁部	山形口縁、口唇内面貼り付け、円形刺突、沈線、LR	ミガキ	III 2
314	L III l 10 III 層	深鉢	体部	円形刺突、沈線文、RL、砂粒含む	ナデ	III 2
315	L III r 11 III 層	深鉢	口縁部	平縁、円形刺突、沈線、LR	ナデ	III 2
316	O III c 17 II 層	深鉢	口縁部	山形口縁、沈線文、LR、砂粒含む	ナデ	III 2
317	L III j 10 III 層	深鉢	体部	小山形口縁、刻み、円形刺突、沈線文、LR、黒斑あり	ナデ	III 2
318	L III j 9 III 層	深鉢	体部	小山形口縁、刻み、円形刺突、砂粒含む	ナデ	III 2
319	L III l 11 II 層	深鉢	体部	小山形口縁、刻み、刺突文、沈線文、LR、砂粒含む	ナデ	III 2
320	M III s 11 II 層	深鉢	口縁～体部	円形刺突、貼り付け、沈線区画、砂礫・金雲母含む	ナデ	IV 1
321	O III b 14 II 層	深鉢	口縁～体部	山形口縁、沈線文、RL、磨消縄文、ひれ状貼り付け	ナデ	IV 1
322	L III i 10 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、磨消縄文、砂礫含む	ナデ	IV 1
323	N III e 13 II 層	深鉢	口縁部	隆沈線、砂粒含む	ミガキ	IV 1
324	P III c 20 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、刺突、砂粒含む	ミガキ	IV 1
325	M III p 12 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、海綿骨針・砂礫含む	ナデ	IV 1
326	L III b 10 II 層	深鉢	口縁部	刺突文、沈線文、磨消縄文、捺糸文、海綿骨針・砂礫含む	ミガキ	IV 1
327	N III d 13 II 層	深鉢	口縁部	隆帯、円形刺突列、砂礫含む	ナデ	IV 2
328	L III s 11 III 層	深鉢	口縁部	条線文、やや外反	ナデ	IV 2
329	M III e 11 III 層	深鉢	口縁～体部	捺糸圧痕、LR、砂礫含む	ナデ	II
330	N III c 13 II 層	深鉢	口縁部	小山形口縁、捺糸圧痕、LR、砂粒含む	ミガキ	IV
331	P III e 20 II 層	深鉢	体部	網目状捺糸文、砂粒含む	ナデ	IV 2
332	L III t 11 III 層	深鉢	口縁部	沈線文、磨消縄文、LR	ナデ	IV 2
333	M III s 12 II 層	深鉢	体部	沈線文、磨消縄文、LR	ナデ	IV 2
334	L III i 10 I 層	深鉢	体部	沈線文、LR、浮石・砂粒含む	ナデ	IV 2
335	L III i 10 II 層	深鉢	口縁部	沈線文、磨消縄文、LR、砂粒含む	ナデ	IV 2
336	N III f 14 II 層	深鉢	口縁部	沈線文、LR、磨消縄文、砂粒含む	ミガキ	IV 2
337	L III j 10 III 層	深鉢	口縁部	小山形口縁、LR、砂粒含む	ナデ	IV 3
338	K III l 18 III 層	深鉢	口縁部	口唇小突起、沈線文、磨消縄文、RL、砂粒含む	ナデ	IV 4

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類
339	KⅢ l 8 Ⅱ層	深鉢	体部	ボタン状貼り付け、刻み、沈線、RL V	ナデ	Ⅳ4
340	MⅢ m 10 Ⅱ層	深鉢	口縁部	小山形口縁、刺突、沈線、磨消縄文、LR、砂粒含む	ナデ	Ⅳ
341	LⅢ f 9 Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	平縁、LR、砂粒含む	ナデ	Ⅳ
342	LⅢ s 10 Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	RL	ナデ	Ⅳ
343	NⅢ g 14 Ⅲ層	深鉢	底部	RL、底面条線文	ナデ	Ⅳ
344	JⅢ e 6 Ⅲ層	鉢	体～底部	LR	ナデ	Ⅳ
345	LⅢ d 9 Ⅲ層	注口	注口部	欠損、砂粒含む	ナデ	Ⅳ
346	LⅢ p 10 Ⅲ層	深鉢	口縁部	竹管刺突、砂粒含む	ナデ	Ⅲ～Ⅳ
347	OⅡ e 17 Ⅱ層	鉢	体部	2個1対小突起、沈線、磨消縄文、LR、内面沈線	ミガキ	V1
348	NⅢ e 12 Ⅱ層	壺	口縁～底部	RL、沈線文、砂粒含む	ナデ	V1～V2
349	GⅢ i 19 Ⅱ層	鉢	口縁部	口唇刻み、沈線文、LR、内面沈線、砂粒少量含む	ミガキ	V2
350	MⅢ p 11 Ⅲ層	鉢	口縁部	口唇刻み、沈線文、磨消縄文、RL、砂粒少量含む	ミガキ	V2
351	PⅢ o 15 Ⅱ層	深鉢	体部	沈線文、LR、磨消縄文、砂礫含む	ミガキ	V2
352	LⅢ i 9 Ⅲ層	鉢	口縁部	口唇刻み、沈線文、RL、浮石含む	ナデ	V2
353	PⅢ c 19 Ⅲ層	深鉢	口縁部	平縁、RL、黒斑あり	ナデ	V2
354	NⅢ f 12 Ⅱ層	鉢	口縁部	2個1対小山形口縁、RL、2条平行沈線、海綿骨針含む	ミガキ	V2
355	NⅢ a 14 Ⅲ層	鉢	口縁部	平行沈線文、RL、内面沈線、砂粒少量含む	ミガキ	V2
356	4区T3～4Ⅱ?	鉢	口縁部	変形工字文、砂粒含む	ナデ	V3
357	LⅢ s 11 Ⅲ層	壺	体部	3条平行沈線、LR、砂礫含む	ナデ	Ⅵ

(土師器観察表)

(): 推定値

番号	出土地点	器種	外面調整 (口縁部)	外面調整 (体部～底部)	内面調整 (口縁部)	内面調整 (体部～底部)	法量 (cm)			備 考
							口径	底径	器高	
18	7号住埋土	鉢	ヨコナデ	指ナデ	ヨコナデ	指ナデ	14.1	8.2	11.6	輪積み痕 8後
20	8号住NO 15	坏	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	14.4	—	5.8	外面有段、内黒
21	8号住カマド	坏	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	16.2	—	4.8	外面有段、内黒
22	8号住NO 26	坏	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	17.0	—	3.8	内黒
23	8号住NO 27	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラミガキ	11.6	—	5.0	内黒
24	8号住NO 15	坏	ヘラミガキ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	13.9	—	4.6	
25	8号住NO 20	坏	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	13.0	—	4.8	輪積み痕、内黒
26	8号住NO 5	坏	ヨコナデ		ヨコナデ	ヘラミガキ	12.0	7.2	4.8	
27	8号住NO 31	高坏		ヘラケズリ			—	(8.0)	4.2	脚部
28	8号住埋土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヘラケズリ	ヨコナデ	ハケメ	17.8	(8.8)	35.0	頸部有段
29	8号住NO 25	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヘラケズリ	ヨコナデ→ハケメ	ハケメ	19.5	8.7	38.8	頸部有段、輪積み痕
30	8号住NO 24	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ・ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラナデ	ハケメ・ヘラナデ	17.9	—	36.2	頸部沈線状の有段
31	8号住埋土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ナデ→ヘラケズリ	ヘラナデ→ヨコナデ	ハケメ	18.9	—	22.4	頸部有段
32	8号住NO 2	甕	ヨコナデ→ケズリ	ハケメ→ヘラケズリ	ケズリ→ヨコナデ	ハケメ	20.0	—	18.4	頸部有段
33	8号住NO 16	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ・ミガキ・ケズリ	ヨコナデ	ハケメ	19.3	8.1	22.8	頸部沈線状の段、輪積み痕
34	8号住NO 8	甕	ヨコナデ	ハケメ・ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	15.3	7.4	16.7	頸部有段、底部内面丸味
35	8号住埋土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラナデ	ヘラナデ・ハケメ	16.9	—	13.8	頸部有段、輪積み痕
36	8号住NO 22	甕	ヨコナデ	ハケメ・ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ・ハケメ	20.5	9.0	39.0	
37	8号住NO 19	甕	ハケメ→ヨコナデ	ヘラナデ・ケズリ	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ	18.3	—	24.1	
38	8号住NO 3	甕		ヘラケズリ		ハケメ	—	8.5	21.5	
39	8号住NO 9	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ	ヨコナデ	ヘラナデ	14.7	—	20.2	口縁部・頸部有段、輪積み痕
40	8号住NO 1	甕	ヨコナデ	ヘラナデ・ケズリ	ヨコナデ	ヘラミガキ	15.7	6.0	14.8	球胴甕、頸部有段、輪積み痕、内面丸味
46	9号住カマド	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	(21.0)	—	4.0	外面有段、底部ヘラケズリ
47	9号住カマド	甕	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケメ	17.2	—	22.2	頸部有段
48	10号住床面	坏	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	(16.8)	—	6.4	外面有段、底部内面丸み、内黒
49	10号住NO 1	坏	ヨコナデ	ヘラナデ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	(17.6)	—	(5.4)	外面有段、内黒
50	10号住床直	坏	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	14.6	6.0	5.6	外面有段、内黒
51	10号住埋土	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	14.2	12.0	3.4	外面有段、内黒
52	10号住埋土	鉢	ヨコナデ	ヘラケズリ→ハケメ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ→ハケメ	(24.8)	—	11.0	外面沈線状の段
53	10号住NO 3	甕	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラナデ・ミガキ	(14.4)	8.4	13.1	頸部有段、底部木葉痕、底部外面張り出し
54	10号住埋土	甕	ヨコナデ→ハケメ	ヘラミガキ	ハケメ	ハケメ	15.2	6.5	18.1	頸部有段、底部内面丸味
55	10号住埋土	甕	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケメ	19.6	(8.6)	34.6	頸部有段、底部内面卵形、輪積み痕
56	10号住NO 10	甕	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ・ナデ	ヨコナデ	ヘラナデ・ミガキ	17.6	8.3	20.7	輪積み痕、底部外面張り出し
57	10号住埋土	甕	ヨコナデ→ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	ハケメ・ヘラミガキ	16.7	—	23.7	
58	10号住NO 1	甕		ヘラナデ・ミガキ		ヘラミガキ・ハケメ	—	9.8	24.4	底部外面張り出し、底部内面やや丸味
62	11号住NO 1	甕	ヨコナデ→ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラナデ	16.6	7.3	18.0	口唇部やや内湾、頸部有段
63	11号住NO 2	甕	ヨコナデ→ミガキ	ハケメ・ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケメ	20.3	9.0	35.7	頸部有段、底部内面卵形
64	11号住NO 16	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	18.7	10.3	29.8	球胴甕、頸部有段、底部外面張り出し小
73	12号住、島状	鉢	指ナデ		ヘラナデ	ヘラナデ	10.8	7.6	6.2	6㊦区島状遺構と接合、輪積み痕

番号	出土地点	器種	外面調整 (口縁部)	外面調整 (体部～底部)	内面調整 (口縁部)	内面調整 (体部～底部)	法量 (cm)			備 考
							口径	底径	器高	
74	13号住NO4	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	17.1	10.0	3.0	外面有段、内黒
75	13号住NO2	甕	ヨコナデ→ミガキ・ハケメ	ヘラミガキ	ヨコナデ→ミガキ・ヘラナデ	ハケメ・ヘラミガキ	17.2	—	15.8	頸部有段
76	13号住埋土	甕	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラナデ・ミガキ	18.6	8.7	32.4	頸部有段、底部内面丸味、輪積み痕
80	14号住埋土	坏	ヘラミガキ	ケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	21.6	—	4.4	外面有段、内黒
81	15号住NO3	坏	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	13.2	—	5.0	外面有段、内黒
82	15号住床面	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラミガキ	16.0	—	7.3	
83	15号住NO7	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	16.0	—	6.0	
84	15号住NO14	坏	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ・ヘラケズリ	ヨコナデ→ミガキ	ヘラミガキ	16.0	—	4.6	輪積み痕
85	15号住焼土	坏	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	17.0	—	5.2	輪積み痕
86	15号住埋土	甕		ヘラナデ		ヘラケズリ	—	8.8	5.6	輪積み痕
87	15号住焼土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラナデ	ヘラナデ	21.3	9.2	39.4	頸部沈線状の段、輪積み痕、底部張り出し
88	15号住埋土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ・ヘラケズリ	ヨコナデ	ハケメ	19.3	9.6	39.8	頸部沈線状の段、輪積み痕
89	15号住埋土	甕	ハケメ→ヨコナデ	ヘラミガキ・ハケメ	ヨコナデ	ハケメ	17.8	—	29.1	頸部沈線状の段、輪積み痕
90	15号住床面	甕	ハケメ→ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ・ハケメ	16.0	10.4	31.8	頸部沈線状の段、底部内面丸味
93	20号住カマド	甕	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	23.5	10.2	33.3	底部木葉痕
94	20号住カマド	甕		ヘラナデ		ヘラナデ	22.6	9.5	23.2	
97	21号住埋土	甕	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	21.5	—	12.7	
98	21号住カマド	甕		ヘラナデ		ヘラナデ	—	7.3	6.2	底部木葉痕
99	21号住埋土	甕	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	23.8	—	11.5	
100	21号住埋土	甕	ロクロ	ロクロ・ヘラナデ	ロクロ	ロクロ	25.3	—	16.3	
101	21号住カマド	甕	ロクロ	ロクロ・ヘラケズリ	ロクロ	ロクロ	20.5	—	20.3	
102	21号住床直	甕	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	22.3	—	11.1	
103	21号住カマド	甕	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	16.9	7.6	16.6	回転糸切り痕
105	22号住床面	坏	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	15.6	6.4	5.2	墨書、内黒
106	22号住床面	甕	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	14.4	8.0	16.6	
107	22号住埋土	甕	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	15.3	—	10.4	
108	23号住カマド	甕	ヨコナデ	ヘラナデ・ケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	11.8	—	10.9	
109	23号住床面	甕		ロクロ		ロクロ	—	7.6	9.8	回転糸切り痕
110	24号住NO15	坏	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	14.2	5.8	5.8	回転糸切り痕、内黒
111	24号住NO6	甕	ヨコナデ→ケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラナデ	ヘラナデ	12.7	—	10.1	輪積み痕
112	24号住NO4	甕	ヨコナデ→ケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	7.7	—	10.0	
131	47号土坑埋土	甕	ヨコナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	21.5	—	12.3	
132	47号土坑埋土	甕		ヘラナデ		ヘラナデ	—	9.5	5.1	底部木葉痕
358	LⅢ11Ⅱ層	坏	ヨコナデ→ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ・ミガキ	13.9	—	4.9	内黒
359	KⅢf8Ⅱ層	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラナデ	ヘラナデ	7.1	6.1	10.8	底部木葉痕
360	MⅢm11Ⅱ層	甕	ハケメ→ヨコナデ	ヘラミガキ・ハケメ	ヨコナデ→ミガキ	ハケメ	13.8	8.0	30.0	頸部平行沈線、底部内面やや丸味

第3表

石器・石製品観察表

番号	出土地点・層位	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質(山地)	備考
19	7号住埋土	敲石	8.8	6.1	4.5	416.6	安山岩(二戸市周辺)	
42	8号住NO2	磨石+敲石	12.9	7.4	5.8	827.5	砂岩(二戸市周辺)	
67	11号住埋土	砥石	10.6	4.4	4.6	204.1	砂岩(二戸市周辺)	四面使用、一部欠損
68	11号住NO1	石鏟	6.0	7.2	2.5	140.0	安山岩(二戸市周辺)	未製品
69	11号住NO1	石篋	4.4	3.3	0.9	14.7	頁岩(二戸市周辺)	一部欠損
95	20号住埋土	不定形石器	5.4	3.8	0.8	15.6	頁岩(北上山地)	1縁辺刃部加工
96	20号住埋土	凹石	8.5	7.2	4.7	355.2	安山岩(奥羽山脈)	
104	21号住埋土	磨製石斧	2.6	4.4	1.0	13.9	砂岩(北上山地)	刃部のみ
113	24号住NO13	石皿	16.5	14.1	3.6	1625.4	安山岩(二戸市周辺)	
114	24号住NO15	石皿	14.9	10.0	2.3	497.0	安山岩(二戸市周辺)	
121	27号土坑埋土	磨石+敲石	11.1	5.6	6.7	454.7	安山岩(奥羽山脈)	
124	32号土坑埋土	石斧	8.7	6.8	4.0	326.1	角閃玢岩(北上山地)	
130	43号土坑埋土	石皿	11.8	12.0	5.5	1482.3	安山岩(二戸市周辺)	
151	12号焼土	不定形石器	4.0	3.0	0.7	3.7	凝灰岩(奥羽山脈)	2縁辺刃部加工
152	14号焼土NO8	石鏟	3.2	1.3	0.6	1.8	頁岩(北上山地)	一部欠損
153	14号焼土NO6	不定形石器	3.1	3.4	0.5	4.8	頁岩(北上山地)	3縁辺刃部加工
154	12号溝埋土	石鏟	3.3	1.7	0.6	2.6	頁岩(二戸市周辺)	一部欠損、有基凸基
361	早NO4	石鏟	2.3	1.0	0.3	0.5	頁岩(北上山地)	無茎平基
362	早NO22	石鏟	3.9	1.4	0.6	3.0	頁岩(北上山地)	無茎平基
363	7㊦区早NO128	石鏟	4.1	1.2	0.5	2.1	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
364	7㊦区早NO C8	石鏟	3.7	0.9	0.5	1.9	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
365	7㊦区早NO126	石鏟	3.4	1.0	0.5	1.4	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
366	早NOB1	石鏟	4.6	1.1	0.6	2.7	頁岩(北上山地)	無茎平基
367	早NO16	石鏟	4.3	1.3	0.5	2.9	頁岩(北上山地)	無茎平基
368	早NO32	石鏟	4.4	1.2	0.5	2.1	頁岩(北上山地)	無茎平基
369	7㊦区早NO166	石鏟	3.8	1.1	0.6	2.4	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
370	7㊦区早NO25	石鏟	4.5	1.8	0.7	5.9	頁岩(二戸市周辺)	
371	MIII r15 III層	石鏟	3.5	1.5	0.6	2.6	頁岩(北上山地)	有基凸基、アスファルト付着
372	7㊦区早NO45	石鏟	5.4	0.9	0.6	2.9	頁岩(二戸市周辺)	棒状、錐の可能性
373	7㊦区早NO215	石鏟	5.2	6.2	0.6	3.9	頁岩(二戸市周辺)	棒状、尖頭器?
374	7㊦区早NO103	石鏟	3.6	1.2	0.8	3.3	頁岩(二戸市周辺)	棒状
375	早NO19	石鏟	5.5	1.1	0.5	2.7	頁岩(北上山地)	無茎平基、アスファルト付着
376	早NO3	石鏟	2.7	1.2	0.4	1.0	頁岩(北上山地)	基部欠損
377	7㊦区早NO272	石鏟	2.1	1.1	0.6	1.3	頁岩(二戸市周辺)	先端部、基部欠損
378	MIII o 14 IV a層	石匙	8.1	3.6	0.8	17.1	頁岩(北上山地)	
379	L III t 11 IV a層	石匙	3.0	4.1	0.4	4.4	頁岩(北上山地)	
380	7㊦区早NO22	石匙	3.8	3.8	1.0	14.9	頁岩(二戸市周辺)	欠損
381	7㊦区早NO117	石篋	6.6	3.1	1.7	32.4	頁岩(二戸市周辺)	
382	7㊦区早NOC33	石篋	5.7	2.2	1.1	11.5	頁岩(二戸市周辺)	
383	7㊦区早NOC69	石篋	4.0	2.7	1.4	14.8	頁岩(二戸市周辺)	
384	7㊦区早NOB39	石篋	7.3	3.9	2.0	60.8	頁岩(二戸市周辺)	
385	7㊦区早NOC40	石篋	7.2	3.0	1.3	28.9	頁岩(二戸市周辺)	
386	7㊦区早NOC33	石篋	4.1	3.4	1.0	11.5	頁岩(二戸市周辺)	一部欠損
387	早NO13	石篋	3.6	2.5	1.9	14.9	頁岩(北上山地)	アスファルト付着
388	7㊦区早NO86	石篋	3.5	2.7	0.5	3.6	頁岩(二戸市周辺)	欠損
389	早NO9	石篋	3.3	3.1	1.2	14.8	頁岩(北上山地)	欠損
390	7㊦区早NO220	石篋	4.9	4.0	1.0	19.7	珪質頁岩(二戸市周辺)	欠損
391	7㊦区早NOC32	石篋	4.9	4.5	1.4	29.7	頁岩(二戸市周辺)	欠損
392	早NO7	尖頭器	4.7	2.2	1.0	7.6	頁岩(北上山地)	先端部のみ
393	7㊦区早NO170	不定形石器	7.5	6.3	1.3	50.4	頁岩(二戸市周辺)	2縁辺刃部加工
394	早NO29	不定形石器	7.6	3.7	1.6	32.9	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
395	早NO6	不定形石器	4.9	3.5	1.2	15.5	頁岩(北上山地)	1縁辺刃部加工
396	7㊦区早NO99	磨製石斧	12.3	5.9	2.5	392.8	玢岩(二戸市周辺)	敲痕あり
397	7㊦区早NO256	磨製石斧	8.6	4.6	1.8	123.3	緑色岩(北上山地北部)	一部欠損
398	7㊦区早NOC58	磨製石斧	5.6	2.9	0.9	24.1	頁岩(二戸市周辺)	
399	7㊦区早NO284	磨製石斧	5.0	5.8	2.8	114.1	砂岩(二戸市周辺)	欠損
400	7㊦区早NO6	石斧	5.4	6.9	1.4	70.2	砂岩(二戸市周辺)	
401	6㊦区早NOB4	磨石	16.3	6.2	7.3	1246.1	安山岩(奥羽山脈)	

番号	出土地点・層位	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質(山地)	備考
402	6㉔区早NOB3	磨石	18.3	5.3	6.7	776.4	安山岩(奥羽山脈)	
403	7㉑区早NO3	磨石	16.3	3.2	4.5	326.1	砂岩(二戸市周辺)	
404	6区早NO31	磨石	13.2	5.7	4.8	680.3	角閃玢岩(北上山地)	
405	7㉑区早NO117	磨石	9.4	7.8	4.3	497.9	砂岩(二戸市周辺)	
406	早NO27	磨石	14.8	6.1	2.2	379.2	ほんれい岩(北上山地)	
407	7㉑区早NO122	敲石	8.1	7.5	4.6	345.2	安山岩(二戸市周辺)	欠損
408	7㉑区早NO192	敲石	7.1	6.1	2.3	157.6	安山岩(二戸市周辺)	
409	7㉑区早NO65	凹石	9.9	7.6	3.7	440.7	安山岩(二戸市周辺)	
410	7㉔区早NO291	凹石	8.4	6.8	5.1	345.4	安山岩(二戸市周辺)	
411	6㉔区早NOB5	凹石	9.5	5.4	4.5	224.9	安山岩(奥羽山脈)	欠損
412	7㉑区早NOB33	磨石+敲石	15.5	7.5	5.8	821.9	安山岩(二戸市周辺)	
413	7㉑区早NOC62	磨石+凹石	8.2	6.9	2.3	195.6	安山岩(二戸市周辺)	
414	5区前NO C5	石鏃	2.7	1.7	0.4	1.1	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
415	5区前NO6	石鏃	2.3	1.8	0.4	0.6	凝灰岩(二戸市周辺)	無茎平基
416	5区前NO C50	石鏃	2.5	1.7	0.5	0.9	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
417	5区前NO C28	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.4	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基、先端部欠損
418	5区前NO74	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
419	5区前NO38	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.9	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
420	5区前NO C63	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.4	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基、一部欠損
421	5区前NO1	石鏃	2.7	1.4	0.5	0.8	凝灰岩(二戸市周辺)	無茎平基
422	5区前NO C20	石鏃	3.0	1.1	0.5	1.5	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基、先端部欠損
423	5区前NO C56	石鏃	1.8	0.6	0.4	0.3	頁岩(二戸市周辺)	錐の可能性
424	5区前NO48	石匙	7.6	2.8	0.9	14.8	頁岩(二戸市周辺)	
425	5区前NO C31	石匙	6.6	1.8	0.7	6.7	頁岩(二戸市周辺)	
426	5区前NO B17	石匙	2.5	1.5	0.5	1.6	頁岩(二戸市周辺)	欠損
427	5区前NO41	石筥	6.2	3.1	1.6	31.4	頁岩(二戸市周辺)	
428	5区前NO34	石筥	4.7	4.1	1.1	29.5	頁岩(二戸市周辺)	
429	MIII o 14 IV a層	石筥	2.8	3.6	1.6	17.7	頁岩(北上山地)	破損後再加工
430	MIII o 14 IV a層	不定形石器	4.0	2.9	0.5	5.5	頁岩(北上山地)	1縁辺刃部加工
431	MIII a 11 IV a層	不定形石器	6.7	3.0	1.5	21.7	頁岩(奥羽山脈)	1縁辺刃部加工
432	5区前NOB1	不定形石器	4.2	4.7	1.4	32.7	頁岩(二戸市周辺)	1縁辺刃部加工
433	5区前NO7	不定形石器	2.5	2.6	0.4	2.2	頁岩(二戸市周辺)	2縁辺刃部加工
434	MIII o 14 IV a層	不定形石器	4.3	2.9	1.1	11.9	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
435	MIII o 14 IV a層	不定形石器	4.5	4.0	1.0	16.9	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
436	MIII o 14 IV a層	不定形石器	4.2	3.0	0.8	7.7	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
437	MIII r 15 IV a層	磨製石斧	8.0	3.0	1.6	63.6	ホルンフェルス	(北上山地)
438	5㉔区前NO4	磨石	8.8	7.9	4.1	369.7	安山岩(奥羽山脈)	
439	5区前NOC49	磨石	17.6	8.8	3.5	1114.8	砂岩(北上山地)	
440	MIII o 14 IV a層	敲石	8.7	6.7	3.5	284.9	安山岩(奥羽山脈)	
441	5㉔区前NO5	敲石	9.7	8.2	5.5	658.4	安山岩(奥羽山脈)	
442	5㉔区前NO6	磨石+敲石	6.2	2.7	2.1	120.9	安山岩(奥羽山脈)	
443	5区前NO49	石皿	19.8	16.4	4.5	2229.9	安山岩(奥羽山脈)	
444	OIII c 15 III層	石鏃	2.4	1.4	0.5	1.4	頁岩(北上山地)	無茎凹基
445	KIII l 9 IV層	石鏃	3.9	0.9	0.3	0.9	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基
446	OIII d 16 III層	石鏃	4.6	1.8	0.5	3.9	頁岩(北上山地)	無茎平基
447	NIII d 13 II層	石鏃	3.5	1.4	0.4	2.2	頁岩(北上山地)	無茎平基
448	NIII a 13 IV b層	石鏃	3.0	1.1	0.3	1.2	頁岩(二戸市周辺)	無茎平基、先端部欠損
449	MIII a 9 II層	石鏃	2.7	1.2	0.5	1.7	頁岩(北上山地)	無茎平基
450	NIII a 15 III層	石鏃	5.2	1.6	0.5	3.3	頁岩(北上山地)	有茎凸基
451	LIII s 11 II層	石鏃	4.4	1.4	0.8	3.5	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
452	NIII c 14 II層	石鏃	2.4	1.3	0.4	0.9	頁岩(北上山地)	有茎凸基
453	KIII p 10 II層	石鏃	4.0	1.7	0.7	3.5	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
454	KIII o 8 II層	石鏃	3.7	1.6	0.8	2.7	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
455	MIII j 10 IV層	石鏃	3.4	1.4	0.5	2.0	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
456	OIII g 18 II層	石鏃	3.1	1.4	0.6	2.1	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
457	MIII e 10 II層	石鏃	5.1	1.4	0.5	2.7	頁岩(北上山地)	有茎凸基
458	KIII o 8 II層	石鏃	2.9	1.3	0.4	1.3	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
459	KIII o 8 II層	石鏃	2.6	1.1	0.4	0.9	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基

番号	出土地点・層位	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石質(山地)	備考
460	OⅢ d 17 Ⅱ層	石鏃	3.7	1.7	0.5	2.8	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基、先端部欠損
461	7④区NO1	石鏃	3.7	1.6	0.6	3.3	頁岩(二戸市周辺)	有茎凸基
462	OⅢ g 17 Ⅲ層	石鏃	3.0	1.2	0.5	1.3	頁岩(北上山地)	有茎凸基
463	OⅢ b 14 Ⅲ層	石鏃	7.0	1.0	0.5	4.4	頁岩(北上山地)	棒状
464	OⅢ c 14 Ⅲ層	石匙	6.8	2.5	0.6	10.0	頁岩(北上山地)	
465	OⅢ e 16 Ⅲ層	石匙	4.7	2.5	0.6	6.5	頁岩(北上山地)	
466	MⅢ d 11 Ⅱ層	石匙	6.9	2.0	0.9	8.3	頁岩(北上山地)	
467	OⅢ b 15 Ⅲ層	石匙	4.8	2.2	0.7	6.5	黒曜石	
468	NⅢ b 14 Ⅲ層	石匙	3.9	2.1	0.5	5.7	頁岩(北上山地)	一部欠損
469	KⅢ l 9 IV a 層	石匙	8.5	1.7	0.7	11.9	頁岩(二戸市周辺)	一部欠損
470	KⅢ l 9 IV a 層	石匙	6.7	1.6	0.7	6.6	頁岩(二戸市周辺)	
471	LⅢ h 9 IV a 層	石匙	3.0	4.0	0.9	6.7	珪質頁岩(二戸市周辺)	
472	OⅢ b 15 Ⅲ層	尖頭器	9.5	4.1	0.7	27.1	頁岩(北上山地)	
473	NⅢ c 13 Ⅲ層	不定形石器	6.5	4.7	2.1	53.6	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
474	OⅢ b 18 Ⅲ層	不定形石器	2.6	3.7	8.0	5.7	頁岩(二戸市周辺)	1縁辺刃部加工
475	NⅢ a 12 Ⅲ層	不定形石器	7.0	6.5	2.	77.8	頁岩(二戸市周辺)	3縁辺刃部加工
476	OⅢ d 15 Ⅱ層	不定形石器	4.1	3.5	1.5	20.8	頁岩(北上山地)	2縁辺刃部加工
477	OⅢ a 14 Ⅱ層	不定形石器	5.0	3.3	1.0	13.4	頁岩(北上山地)	3縁辺刃部加工
478	NⅢ f 12 Ⅲ層	不定形石器	3.9	3.2	0.9	13.7	頁岩(北上山地)	3縁辺刃部加工
479	PⅢ b 19 Ⅲ層	石斧	2.9	5.0	1.5	27.6	砂岩(北上山地)	刃部のみ
480	OⅢ f 16 Ⅲ層	石斧	10.5	6.6	4.2	427.8	角閃玢岩(北上山地)	
481	OⅢ e 14 Ⅱ層	磨石	5.0	4.6	4.5	114.5	安山岩(奥羽山脈)	
482	LⅢ r 11 Ⅲ層	磨石	4.9	4.2	2.7	72.7	安山岩(奥羽山脈)	
483	OⅢ e 16 Ⅱ層	磨石	11.3	10.9	3.9	756.3	角閃玢岩(北上山地)	
484	MⅢ b 9 Ⅱ層	磨石	12.4	9.8	5.4	1034.2	安山岩(奥羽山脈)	
485	LⅢ r 10 Ⅲ層	磨石	9.3	8.1	3.6	413.9	安山岩(奥羽山脈)	
486	OⅢ b 14 Ⅱ層	磨石	10.7	8.2	5.0	653.6	安山岩(奥羽山脈)	
487	OⅢ d 16 Ⅱ層	敲石	6.3	7.1	4.4	281.6	安山岩(奥羽山脈)	欠損
488	JⅢ f 6 Ⅲ層	凹石	8.2	7.7	3.3	279.9	安山岩(二戸市周辺)	
489	KⅢ s11 Ⅱ層	凹石	11.3	8.3	4.2	630.6	安山岩(二戸市周辺)	
490	LⅢ n11 Ⅱ層	敲石+凹石	9.0	8.5	3.4	405.1	安山岩(二戸市周辺)	
491	KⅢ g 9 Ⅱ層	石錘	12.9	4.4	3.4	407.9	安山岩(二戸市周辺)	
492	OⅢ f 16 Ⅲ層	砥石	7.0	4.1	3.0	37.1	凝灰岩(奥羽山脈)	四面使用、欠損
493	KⅢ f 9 Ⅳ層	有孔石製品	3.3	3.1	2.3	21.9	砂岩(北上山地)	穿孔1.1cm
494	MⅢ p 13 Ⅲ層	挟状耳飾り	3.8	2.8	0.7	6.8		

第4表
土製品観察表

番号	出土地点・層位	器種	部位	備考
41	8号住 NO35 A	紡錘車		上端径4.6cm、下端径5.5cm、高さ2.2cm、ヘラミガキ
65	11号住 NO3	ミニチュア		ヘラナデ
66	11号住 NO5	ミニチュア		手づくね、ヘラナデ
91	15号住 埋土	紡錘車		上端径3.4cm、下端径5.2cm、高さ2.9cm、ヘラミガキ
92	15号住 床面	紡錘車		上端径3.9cm、下端径4.8cm、高さ2.2cm、ヘラケズリ、ヘラミガキ
495	OⅢ c 15 Ⅱ層	土偶	頭部~胸部	沈線文、刺突文
496	LⅢ e 11 Ⅲ層	ミニチュア		手づくね
497	LⅢ i 9 Ⅲ層	ミニチュア		手づくね
498	LⅢ e 11 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、一部研磨、LR
499	LⅢ e 11 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、LR
500	OⅢ e 14 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、一部研磨、LR
501	NⅢ e 13 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、RL
502	LⅢ o 12 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、一部研磨、LR
503	5区T2 I層	円盤状土製品		側縁打欠、一部研磨RL
504	LⅢ o 12 Ⅱ層	円盤状土製品		側縁打欠、一部研磨、LR
505	OⅢ e 14 I層	泥面子		蝦形

第5表

金属製品観察表

番号	出土地点・層位	種別	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
43	8号住 埋土3層	不明	5.3	0.9	0.3	7.0	鉄、処理後実測
44	8号住 NO37A	刀子	2.1	1.4	0.2	2.0	鉄、処理後実測、破損
45	8号住 NO33A	縮金具	4.1	0.5	0.2	4.0	鉄、処理後実測
59	10号住 NO1	刀子	24.0	2.3	0.2	96.0	鉄、処理後実測
60	10号住 埋土7層	釘	8.3	0.6	0.4	6.0	鉄、処理後実測
61	10号住 埋土3層	釘	4.0	0.6	0.4	5.0	鉄、処理後実測
70	11号住 NO2	ヤリガンナ	17.1	1.8	0.6	42.0	鉄、処理後実測、刀子の可能性
71	11号住 NO3	刀子	8.8	1.0	0.3	18.0	鉄、処理後実測、木質部残存
72	11号住 NO1	鎌	13.5	3.4	0.3	101.0	鉄、処理後実測
133	50号土坑 埋土	鉄斧	9.8	2.5	0.7	141.0	鉄、処理後実測、木質部残存
506	OⅢh17I層	銭貨	直径2.4	穿径0.8	0.15	3.4	銅、銭名不明
507	7㊤区	銭貨	直径2.4	穿径0.6	0.2	3.0	銅、永楽通寶
508	GⅡo17Ⅱ層	銭貨	直径1.8	穿径0.9	0.05	0.5	銅、無文銭、鋳写し模鑄銭の可能性
509	GⅡo17Ⅱ層	銭貨	直径1.7	穿径0.8	0.1	0.5	銅、無文銭、鋳写し模鑄銭の可能性
510	GⅡo17Ⅱ層	銭貨	直径1.8	穿径1.0	0.05	0.5	銅、無文銭、鋳写し模鑄銭の可能性
511	GⅡo17Ⅱ層	銭貨	直径1.7	穿径1.1	0.05	0.6	銅、無文銭、鋳写し模鑄銭の可能性
512	50号土坑 埋土	銭貨	直径2.4	穿径0.6	0.15	3.6	銅、寛永通寶(古)初鑄1636年
513	50号土坑 埋土	銭貨	直径2.4	穿径0.6	0.1	3.4	銅、寛永通寶(古)初鑄1636年
514	KⅢk7Ⅱ層	銭貨	直径2.4	穿径0.6	0.15	3.9	銅、寛永通寶(古?)初鑄1636年
515	KⅢk7Ⅱ層	銭貨	直径2.3	穿径0.7	0.1	2.9	銅、寛永通寶(新)初鑄1697年
516	KⅢk7Ⅱ層	銭貨	直径2.2	穿径0.6	0.1	2.5	銅、寛永通寶(新)初鑄1697年
517	51号土坑 埋土	銭貨	直径2.5	穿径0.7	0.15	3.8	銅、寛永通寶(新)初鑄1697年
518	51号土坑 埋土	銭貨	直径2.4	穿径0.6	0.1	3.6	銅、寛永通寶(新)初鑄1697年
519	51号土坑 埋土	銭貨	直径2.2	穿径0.6	0.1	2.1	銅、寛永通寶(新)初鑄1697年

第6表

ガラス製品観察表

番号	出土地点・層位	種別	直径mm	内径mm	備考
77	13号住カマド付近	ガラス玉	4.2	1.5	青淡色
78	13号住カマド付近	ガラス玉	3.8	1.3	青淡色
79	13号住カマド付近	ガラス玉	3.8	1.5	青淡色

VI. まとめ

1. 遺構

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡（以下、住居跡と略す）24棟、住居状遺構1棟、土坑51基、柱穴状ピット140基、石囲炉2基、焼土遺構23基、陥し穴状遺構7基、溝状遺構17条、畠状遺構1ヶ所、井戸跡1基である。竪穴住居跡の密度は大きくはないが、検出面や出土遺物から判断し米沢遺跡の性格は、縄文時代、奈良時代、平安時代の集落跡として位置づけられると思われる。住居跡の時期は、縄文早期1棟、前期1棟、中～後期3棟、後～晩期1棟、奈良時代13棟、平安時代5棟に大別される。調査区における分布をみると、南側に縄文前期と中～後期あわせて3棟、中央部の平坦面に早期1棟中～後期1棟、後～晩期1棟、古代の住居跡18棟が分布する。なお、調査区の南側及び北西側では遺構は全く検出されていない。それぞれの時期にわたって多くの住居が検出されていないため、時期別の特徴や時間的変遷を明らかにするには、資料不足ではあるが、縄文早期及び前期の住居跡は炉を持たず、中～後期の住居跡ではIV層上位に床面をもち、炉は石囲炉である。後晩期の住居跡はIII層に床面をもち、炉は不明である。縄文早期の住居跡が1棟検出されたが、周囲に比較的多くの焼土が検出されており屋外炉の可能性が想定される。隣接する長瀬B遺跡では南部浮石を含む埋土と寺の沢式土器が確認されておりほぼ同時期の遺構と思われる。

奈良時代の住居跡の割合が多いが、これらも隣接する長瀬B遺跡の住居群と同様の特徴を有しており、一つの集落を形成していたものと思われる。周辺の遺跡等から推察すると地形的な制約もあり、馬淵川流域に沿った形で集落が展開しているのが見てとれる。主軸方位は概ね奈良時代が北西から西方向、平安時代が北東から東方向である。

土坑については、用途不明のものが多いが、住居跡の周囲から検出されており、住居跡と何らかの関係を有するものと思われる。これらの中には墓塚と思われるものも含まれると思われる。柱穴状ピットは140基検出されたが、周囲に壁や床面などは確認できず、これらの配列からは住居跡の柱穴とは断定できない。焼土遺構についても、いずれも赤変しているが、周囲からは明確な柱穴は検出されず、住居跡の床面と判断できる痕跡も確認されない。

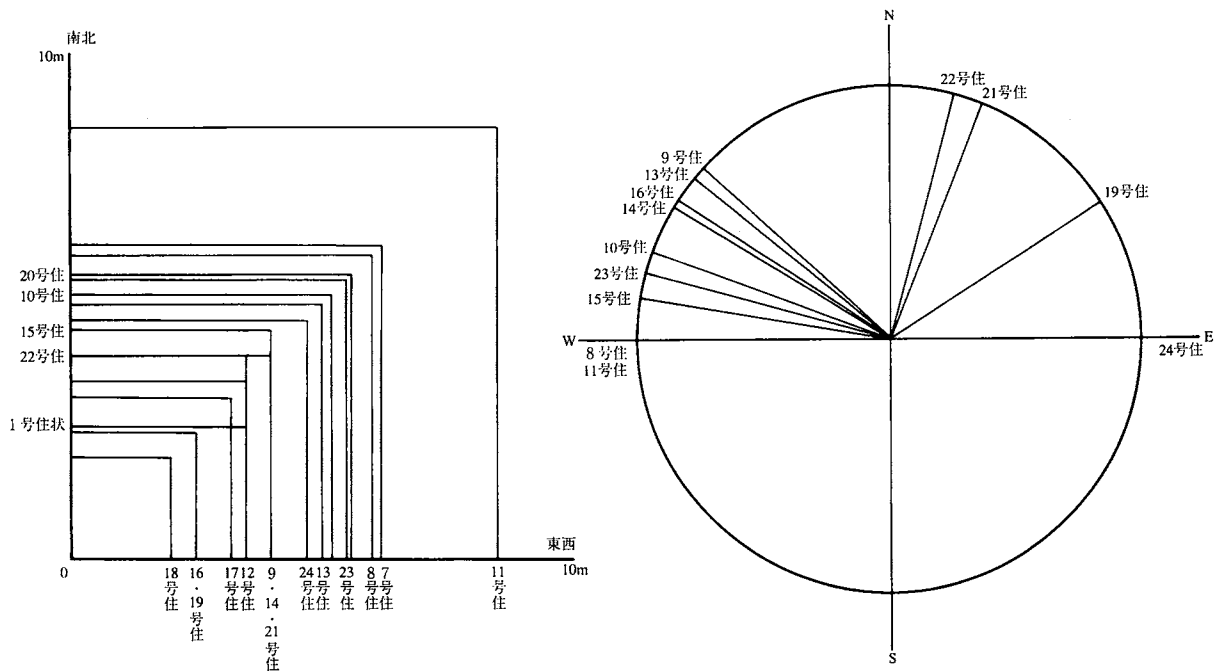
陥し穴状遺構が7基検出されたことから、縄文時代の一時期には狩り場として利用されたことが理解される。

溝状遺構は17条検出されたが用途は不明である。中には区画溝として用いられた可能性があるものも存在する。

畠状遺構が1ヶ所検出されている。小規模ながらも意図的な生産行為が行われたものと推測される。自然科学分析結果から陸稲栽培の可能性も考えられる。

2. 遺物

今回の調査で出土した土器類の総量は、大コンテナで26箱である。このうち遺構内からは12箱、遺構外からは14箱出土した。遺構外土器の内、約6箱は遺物包含層からの出土である。古代以降の遺物と縄文時代の遺物は約半分である。時期別でみると、縄文時代早期中葉、前期初頭から末葉、中期中葉から末葉、後期初頭から末葉、晩期中葉から末葉、弥生時代、奈良時代、平安時代がみられる。この中で主体となるのは、早期中葉期と古代である。早期の土器ほとんどが貝殻文を主体とする寺の沢式の土器と思われる。三沢市小田内沼（4）遺跡出土の土器と同時期と考えられる。早期遺物包含層の上層には南部浮石が比較的厚く堆積していることから、南部浮石降下以前であることは明らかである。南部浮石の上位のIV a層では前期初頭の



第106図 住居跡規模及び軸方向分布図

長七谷地Ⅲ群の土器が出土している。

当遺跡出土の土師器については概ね8世紀前半代と10世紀前半代に分けられると思われる。出土した8世紀前半代の坏の特徴としては、底部が丸底または丸底風で内面が黒色処理されしかもよくみがかれ、内外の段が明瞭なものが多く見られる。甕は器形的には体部上半にややふくらみを有し、調整は全般にヘラミガキ、ハケメを主体とし、底部内面はやや丸味を帯びたもの・平底のものが見られる。全体的には長瀬B遺跡とほぼ同時期の遺物である。馬淵川下流域では田面木遺跡、酒美平遺跡、丹後平古墳などで同様の資料が認められる。10世紀前半代の土師器については、坏が全てロクロ使用のものとなり、甕はロクロ使用と不使用のものが認められる。これらが出土した住居跡の埋土状況から判断し、十和田a 降下火山灰以後の遺物であることが推測される。

出土量のみで遺跡の時期を判断するわけにはいかないが、概ね当遺跡は縄文時代早期中葉期から平安時代までが中心といえるであろう。

3. おわりに

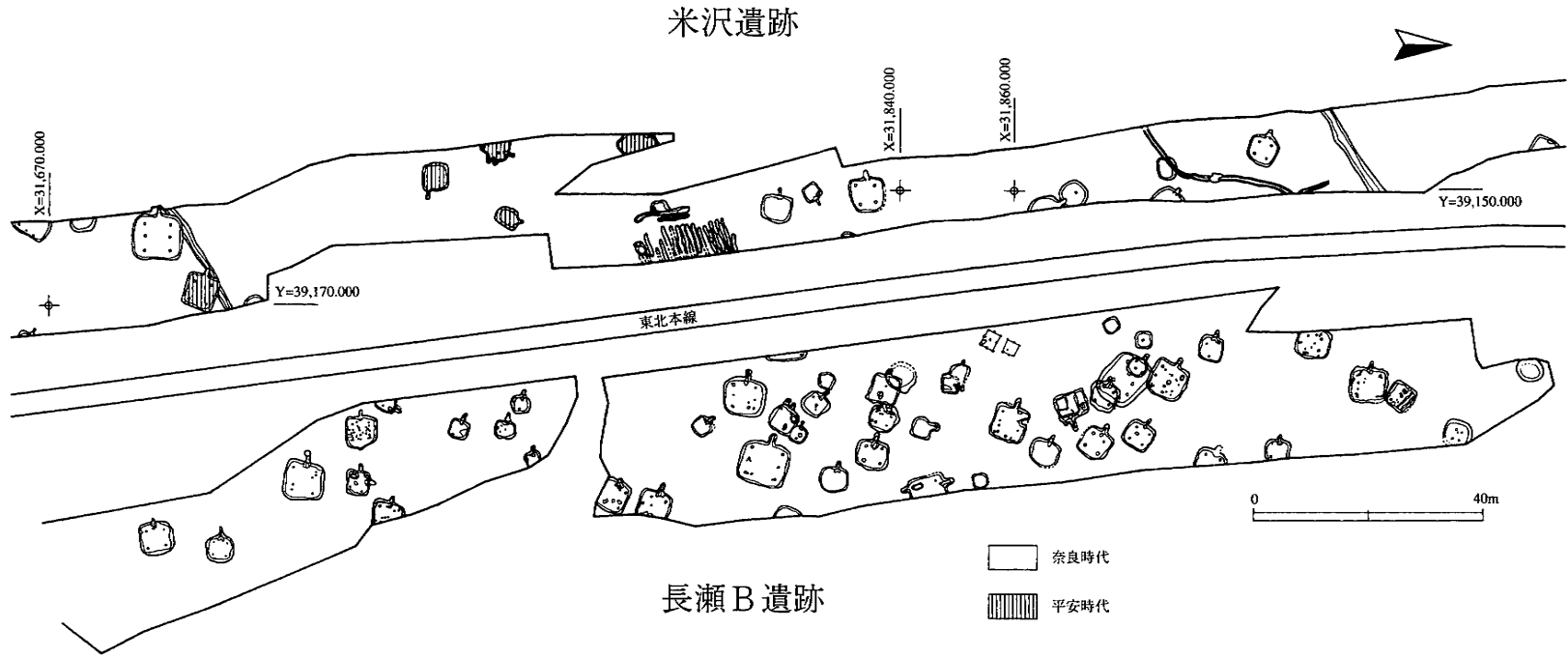
調査の結果、以上のような遺構や遺物が確認され、本遺跡の性格・内容の一端が明らかになった。執筆者の不勉強もあり比較・検討・考察が十分とはいえず、周辺遺跡との関連や土器の編年の位置付けなど検討を加えるべき点が多々あると思われるが、ご容赦願いたい。この報告書が広く活用され、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いである。

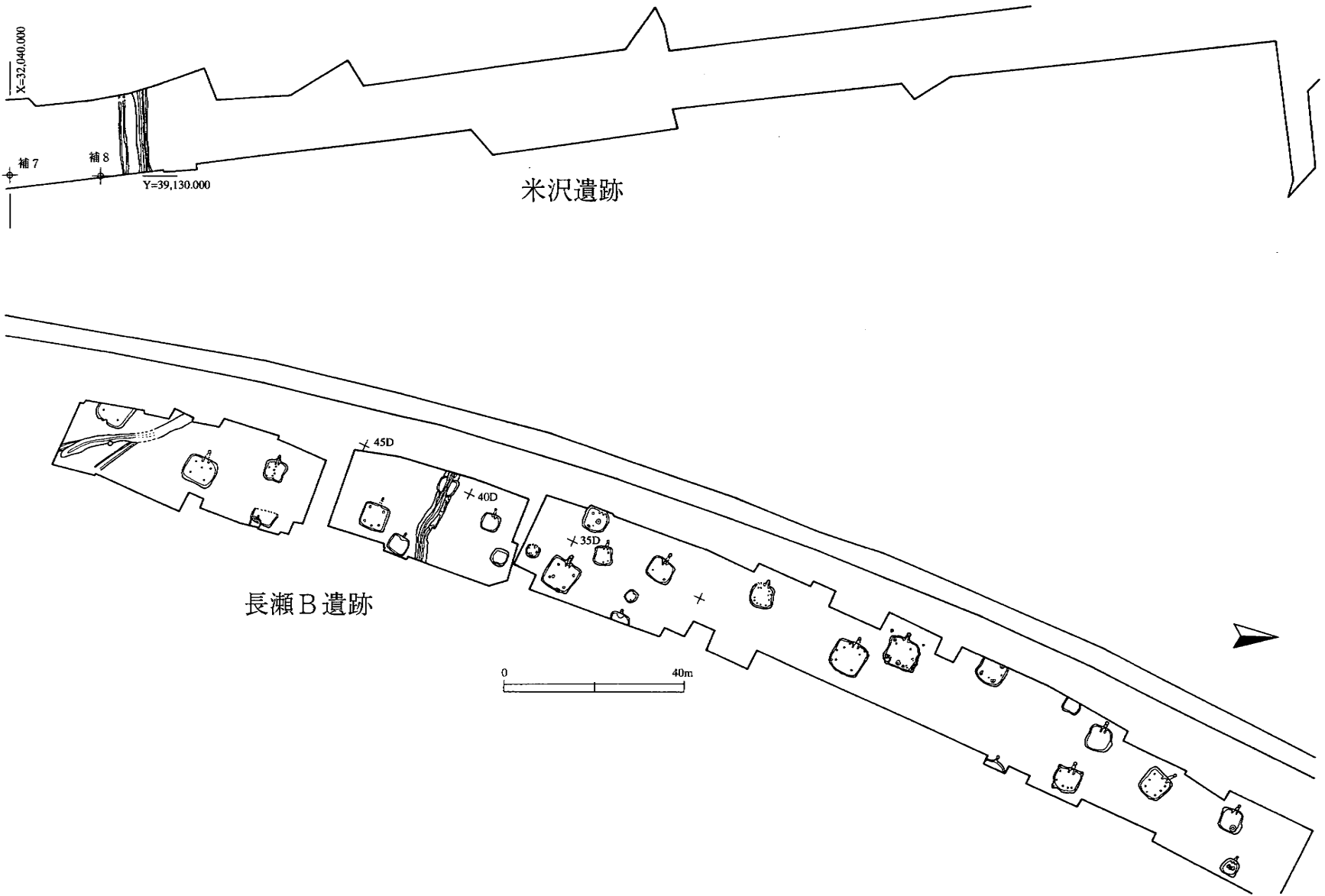
第7表 古代の住居跡一覧表

() 内は推定

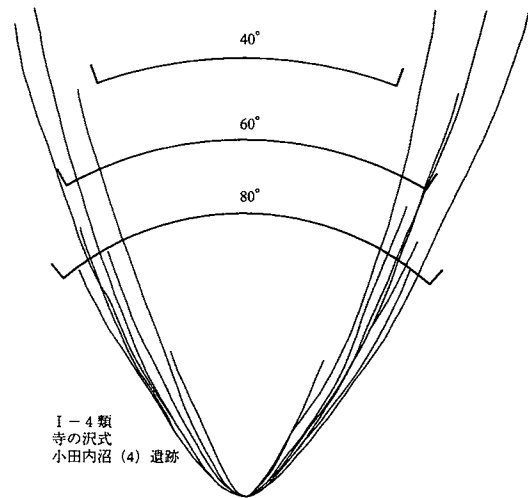
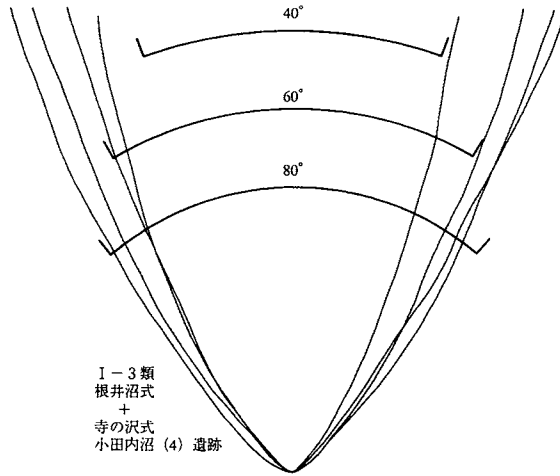
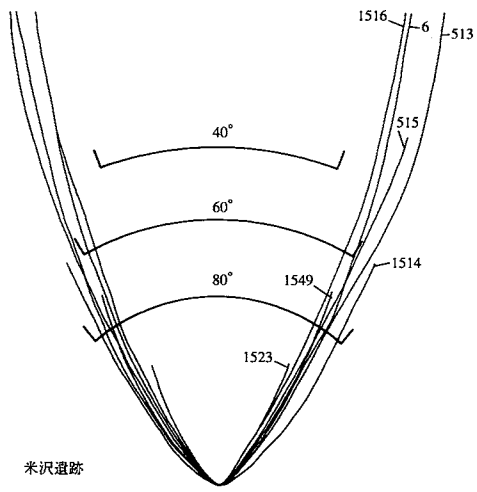
遺構名	平面形	規模 (m)	壁高 (cm)	床面積 (㎡)	カマドの位置	主軸方位	付属 施設	柱 穴	柱穴 配置	焼失の 有無
第7号住居跡	隅丸方形	一辺 6.2	北東壁 45 ~ 50 南東壁 40 ~ 43	(31.3)				3		
第8号住居跡	隅丸方形	一辺 6.0	北壁 68 ~ 71 南壁 70.0 西壁 63 ~ 67 東壁 60.0	(36.0)	西壁中央部	N - 90° - W		4	四角形	有
第9号住居跡	隅丸方形	一辺 4.0	北西壁 55 ~ 71 南西壁 64 ~ 74	(16.0)	北西壁中央部	N - 48° - W		1		有
第10号住居跡	隅丸方形	一辺 5.2	北西壁 66 ~ 68 南東壁 63 ~ 69 南西壁 64 ~ 67 北東壁 73 ~ 81	27.0	北西壁中央部	N - 70° - W		4	四角形	有
第11号住居跡	隅丸方形	一辺 8.5	北壁 48 ~ 56 南壁 53 ~ 59 西壁 50 ~ 60 東壁 48 ~ 53	72.25	西壁中央部	N - 90° - W		6	四角形	有
第12号住居跡	隅丸方形	一辺 3.5	北壁 52 ~ 54 東壁 42 ~ 48 南壁 33 ~ 36	(27.0)						
第13号住居跡	隅丸方形	一辺 5.0	北西壁 30.0 南西壁 70.0	(25.0)	北西壁中央部	N - 51° - W		1		有
第14号住居跡	隅丸方形	一辺 4.0	北西壁 30.0 南西壁 30.0	(12.3)	北西壁中央部	N - 59° - W				
第15号住居跡	隅丸方形	4.0 × 4.5	北西壁 65.4 北東壁 60.4 南西壁 81.8 南東壁 66.3	18.0	北西壁中央部	N - 81° - W		7		有
第16号住居跡	隅丸方形	一辺 2.5	北西壁 45.0 南西壁 43.1	(6.25)	北西壁北隅	N - 57° - W				
第17号住居跡	隅丸方形	一辺 3.2	西壁 44.7 南壁 54.9	(10.24)						
第18号住居跡	隅丸方形	一辺 2.0	西壁 53.5 南壁 57.7	(4.0)				2		
第19号住居跡	隅丸方形	一辺 2.5	北西壁 58.3 北東壁 52.4 南西壁 54.9 南東壁 51.6	6.25	北東壁中央 南寄り	N - 58° - E	貯蔵穴	9		有
第20号住居跡	隅丸方形	一辺 5.6	北西壁 55.0 南東壁 40 ~ 43 南西壁 37 ~ 45	(28.0)	北西壁北寄り					有
第21号住居跡	隅丸方形	一辺 4.0	北東壁 68 ~ 70 南東壁 62.0 南西壁 61 ~ 62	(17.6)	北東壁東寄り	N - 22° - E	出入り 口?	2		有
第22号住居跡	隅丸方形	4.0 × 3.5	北西壁 68 ~ 71 北東壁 (28 ~ 38) 南西壁 55 ~ 62 南東壁 (20 ~ 36)	14.0	北東壁中央部	N - 15° - E		1		
第23号住居跡	隅丸方形	一辺 5.5	北西壁 43 ~ 45 北東壁 (35 ~ 40) 南西壁 42 ~ 48 南東壁 (37 ~ 42)	30.25	北西壁中央部	N - 75° - W		4	四角形	有
第24号住居跡	隅丸方形	一辺 4.7	北壁 59 ~ 64 東壁 55 ~ 61 南壁 59 ~ 66 西壁 60 ~ 67	22.1	北東壁南端 住居の南東隅	N - 90° - E	貯蔵穴			
第1号住居状 遺構	隅丸方形	3.5 × 2.6	北西壁 65 ~ 67 北東壁 63 ~ 68 南西壁 46 ~ 58 南東壁 72 ~ 78	9.1						

第107図 長瀬B・米沢遺跡関連遺構配置図(1)

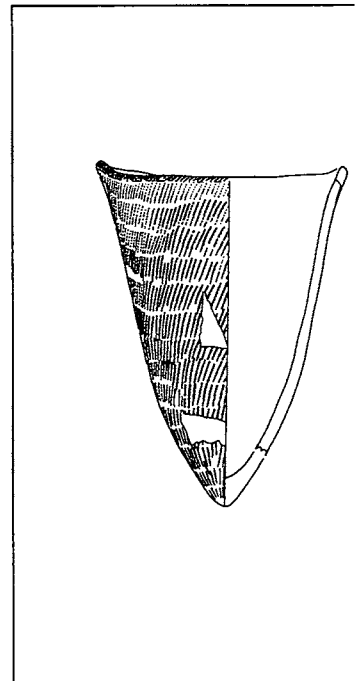
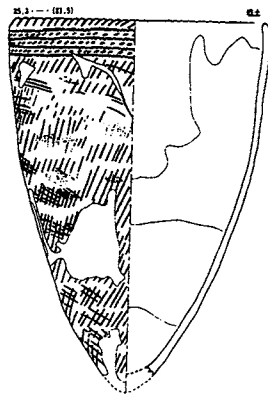
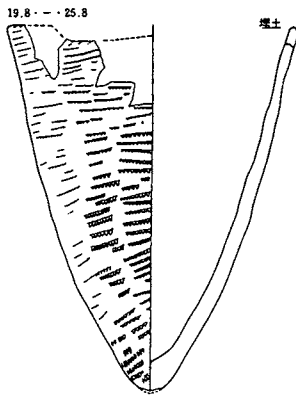
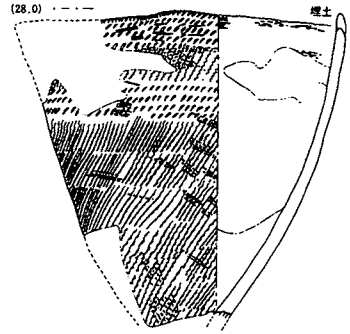
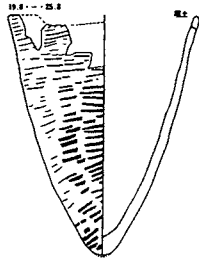
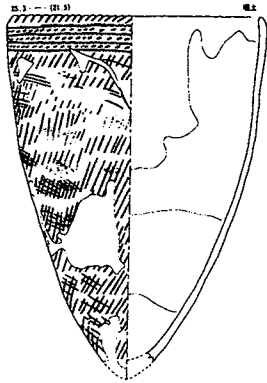




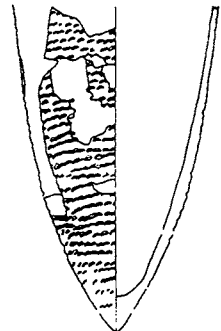
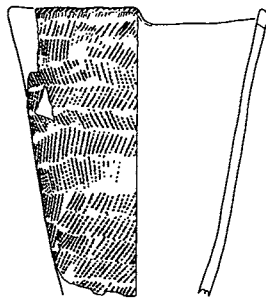
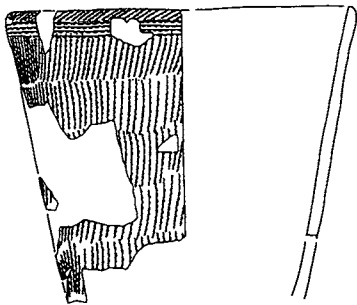
第108図 長瀬B・米沢遺跡関連遺構配置図(2)



第109図 尖底部角度

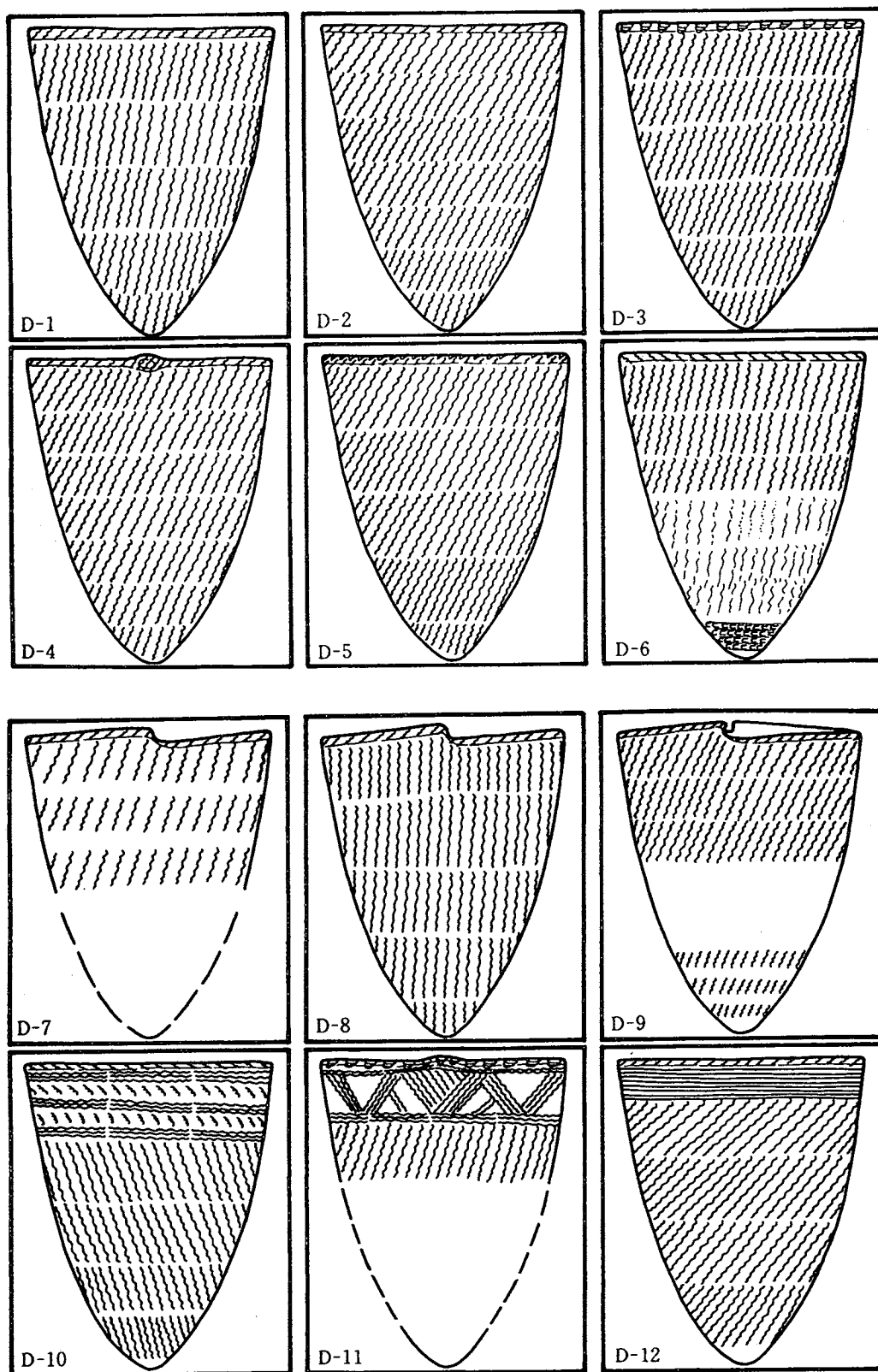


二戸市長瀬B遺跡



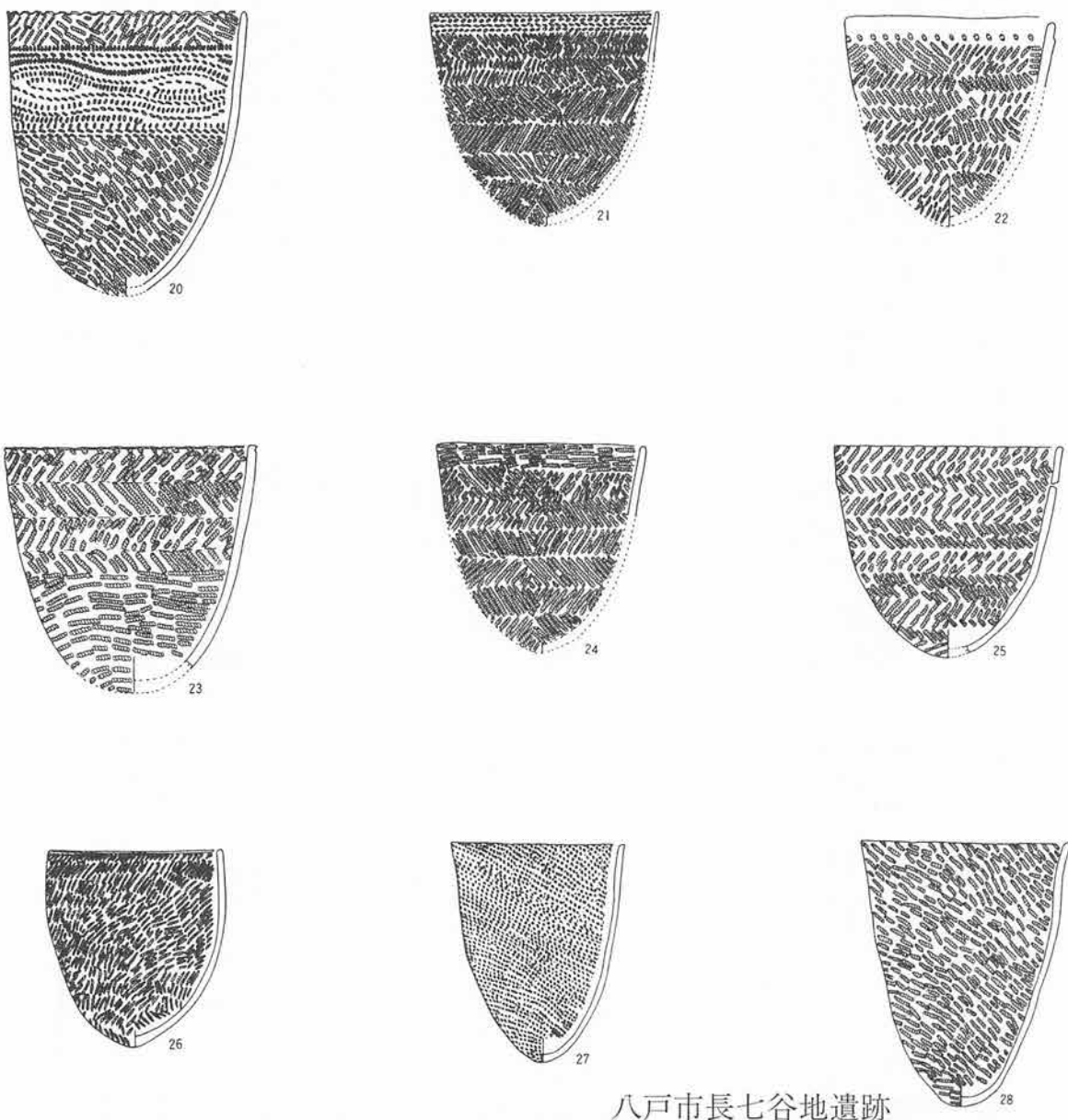
米沢遺跡

第110図 土器模式図1 (早期)



三沢市小田内沼(4)遺跡

第111図 土器模式図2(早期)

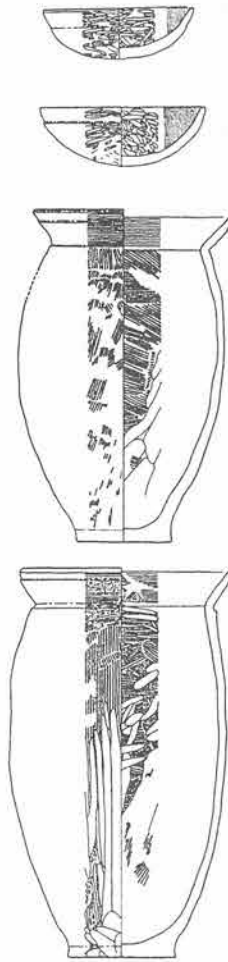
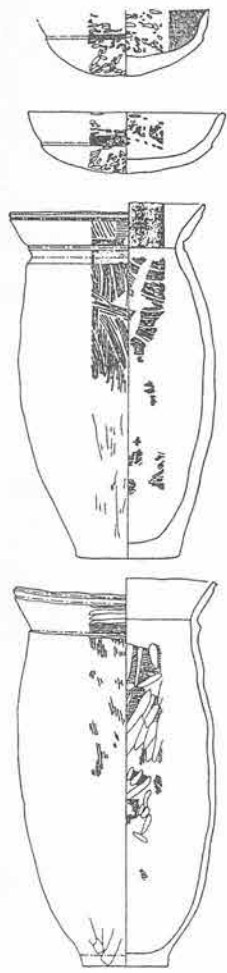


八戸市長七谷地遺跡

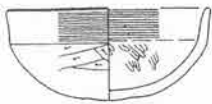
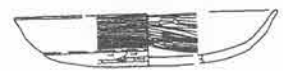
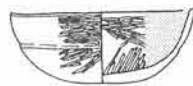


米沢遺跡

第112図 土器模式図3 (前期)

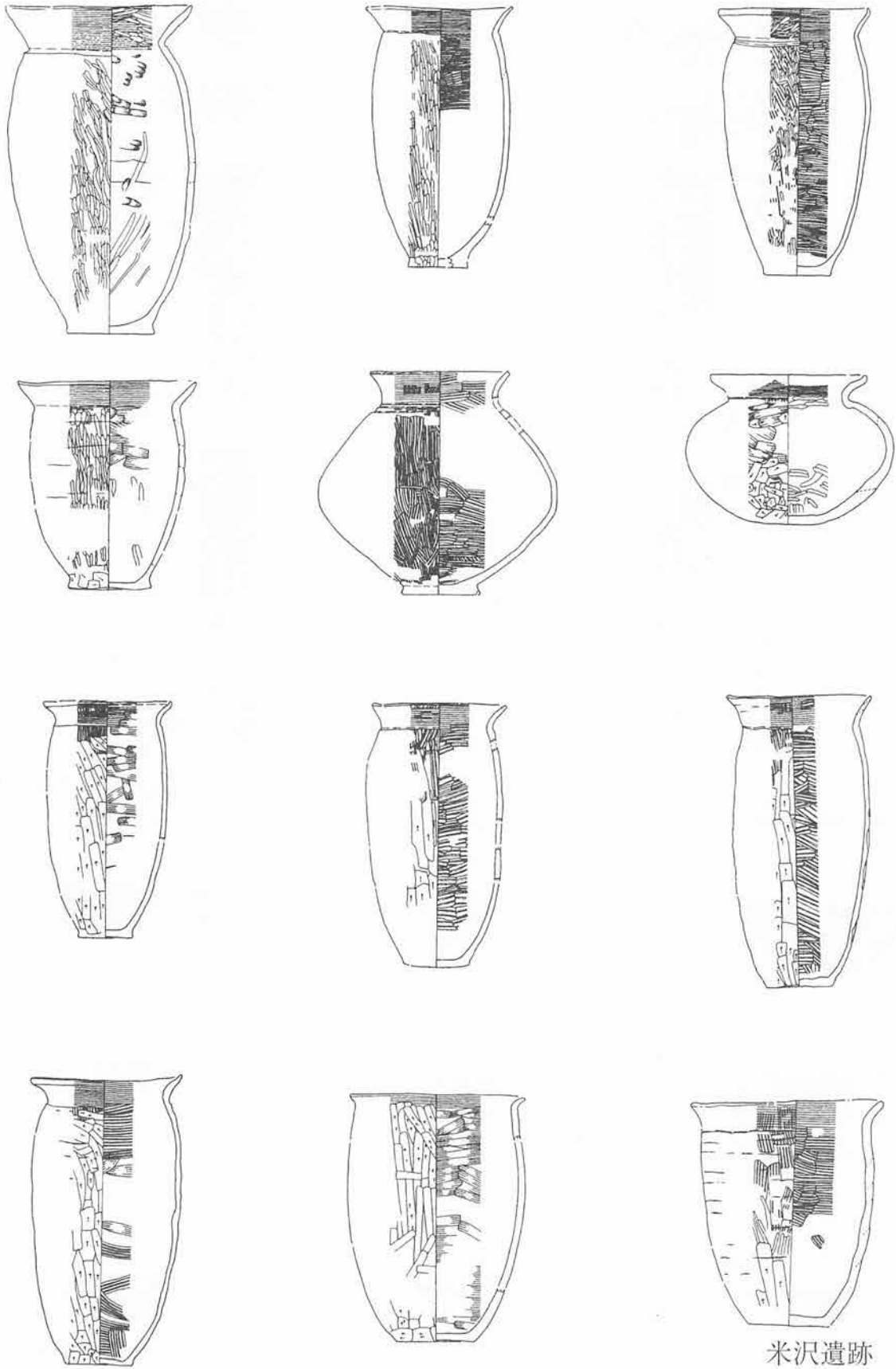


長瀬B遺跡



米沢遺跡

第113図 土師器模式図4



第114図 土師器模式図5

《参考・引用文献》

- 岩手県文化振興事業団（1983）：『長瀬B遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第55集
岩手県文化振興事業団（1983）：『上里遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第55集
岩手県滝沢村教育委員（1986）：『湯舟沢遺跡』滝沢村文化財調査報告書第2集
高橋信雄・熊谷常正・小田野哲憲（1982）：『岩手の土器』岩手県立博物館
富樫泰時（1989）：「貝殻沈線文土器様式」『縄文土器大観』第1巻. 小学館
三宅徹也（1989）：「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』第1巻. 小学館
磯崎正彦ほか（1968）：「十腰内遺跡」『岩木山』岩木山刊行会
岩手県文化振興事業団（1997）：『上鷹生遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第253集
岩手県文化振興事業団（1994）：『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第225集
岩手県文化振興事業団（1993）：『新山権現社遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第188集
岩手県文化振興事業団（1998）：『江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第277集
秋田県埋蔵文化財センター（1990）『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書』
秋田県文化財調査報告書第193集
青森県教育委員会（1985）：『売場遺跡発掘調査報告書』
『土偶芸術と信仰』『古代史発掘3』講談社
岩手県文化振興事業団（1983）：『駒焼場遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第55集
岩手県文化振興事業団（1997）：『沢内B遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第253集
岩手県文化振興事業団（1994）：『上田面Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第225集
岩手県文化振興事業団（1993）：『上台遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第188集
岩手県文化振興事業団（1998）：『大芦遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第277集
秋田県埋蔵文化財センター（1990）『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書』
青森県三沢市教育委員会：（平成3）『小田内沼（1）・（4）遺跡発掘調査報告書』
三沢市埋蔵文化財調査報告書第10集
青森県教育委員会（1980）：『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』青森県埋文報第57集
三宅徹也他（1976）：『下田代納屋B遺跡発掘調査報告書』青森県立郷土館調査報告
秋田県教育委員会（1988）：『寒川Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
名久井文明（1989）：「東北地方北部における縄文時代早期貝殻腹縁文土器の系統」
第4回縄文文化検討会シンポジウム
二戸市教育委員会（昭56）：『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（平成2）：『紀要X』
第24回古代城柵官衙遺跡検討会（1998）：『東方地方の古代集落』
宇部則保（1989）：「青森県における7・8世紀の土師器一馬淵川下流域を中心として」
『北海道考古学第25号』北海道考古学会
鈴木道之介（1991）：『石器入門事典』柏書房
町田勝則（1996）：「石器の研究法」（財）長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ

付篇 分析・鑑定

1. 炭化材の樹種同定

高橋 利彦 (木工舎「ゆい」)

1998年度二戸市米沢遺跡出土炭化材の樹種同定

1. 試料

試料は平安時代のものとされる竪穴住居址3遺構 (SI06・SI07・SI08) から検出されたもの7点 (No. 1~7) と、約1.3万年前に十和田火山から噴出したとされている八戸火山灰中から検出されたもの1点 (No. 8) の計8点である (表1参照)。

2. 方法

試料を室内で自然乾燥させたのち木口・柀目・板目の3断面を作製、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡 (加速電圧10KV) で観察・同定した。同時に電子顕微鏡写真図版 (図版1) も作製した。電子顕微鏡観察に当たっては (株) ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝致します。なお、ネガ・フィルムと残った炭化材は木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

No. 1はナナカマド属の一種に、No. 2~4はコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種に同定された。

No. 5~7は木本ではなく、イネ科草木 (ススキ?) であった。

No. 8は試料が細片であったうえに非常に脆く、観察用の材片を得ることができなかった。試料は針葉樹のようであるが確認できなかった。

試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、各Taxonの科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」(佐竹ほか1989)にしたがい、一般的な性質などについては「木の事典 第1巻~第17巻」(平井1979~1982)も参考にした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (Quercus subgen. Quercus sect. Prinus sp.)

ブナ科 No.2, 3, 4

環孔材で孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は横断面では楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独。単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状~網目状となる。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと同組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

コナラ節はコナラ亜属 (落葉ナラ類) の中で果実 (いわゆるドングリ) が1年目に熟するグループで、カシワ (Quercus dentata) ・ミズナラ (Q. crispula) ・コナラ (Q. serrata) ・ナラガシワ (Q. aliena) といくつかの変・品種を含む。ミズナラ・カシワ・コナラは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州 (岩手・秋田県以南) ・四国・九州に分布する。このうち平野部で普通に見られるのはコナラである。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ (Q. acutissima) に次ぐ優良材である。

・ナナカマド属の一種 (*Sorbus* sp.) バラ科 No.1

散孔材で、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～5個が複合する。年輪界付近でやや急に密度を減少させる。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では網目状となる。道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性～異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は短接線状。年輪界は不明瞭。

ナナカマド属は羽状複葉をもつナナカマド (*Sorbus comixta*) の仲間と単葉をもつアズキナシ (*S. alnifolia*) の仲間に分けられ、6種が自生しいくつかの品種がある。このうち最も分布域の広いのはアズキナシで、北海道から九州まで(伊豆半島を除く)の底山地に普通に見られる。アズキナシの材は重硬・強靱で、器具・建築・家具・旋作・薪炭材などに用いられる。

・イネ科草本(ススキ?) [cf. *Miscanthus sinensis*] No.5, 6, 7

中実の茎(桿)の基本組織の中に維管束が散在する不斉中心柱をもつ。

炭化材の中には稀にタケ亜科が検出されることがあるが、タケ亜科は中空の桿をもち、試料より硬質の炭化物となることからそれ以外の草本のものと判断した。イネ科草本の中で試料のように経が大きく木質化した桿をもつものとしてはススキとヨシ (*Phragmites communis*) が思いつくが、ススキの桿は中実であるがヨシの桿は中空であることから、試料はススキの可能性が高いと考える。ただ、草本に関する検討は十分とはいえないため、現時点では確定できない。

以上の同定結果を検出遺構などとともに一覧表で示す(表1)。

表1 米沢遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	検出遺構など (現場登録)	種名
1	SI07 床 No.1	ナナカマド属の一種
2	SI08 床 No.4	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
3	SI08 床 No.5	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
4	SI08 床 No.7	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
5	SI06 埋土下部	イネ科草本(ススキ?)
6	SI07 床上7cm	イネ科草本(ススキ?)
7	SI08 床上	イネ科草本(ススキ?)
8	4区深掘りセクション VII層	針葉樹?

4. 考察

今回同定対象とした平安時代のものとされる竪穴住居址検出の炭化材のうち、SI07試料 (No.1) はナナカマド属に、SI08試料 (No.2~4) はコナラ節に同定された。用材に関しては、試料の出土状況などについての情報がほとんどないため議論できないが、筆者がこれまでに検討してきた住居址出土炭化材の中では、コナラ節は玉山村芋田Ⅱ遺跡の9~10世紀のものとされるE15住試料¹⁾で、また、ナナカマド属は九戸村南田Ⅰ遺跡の10世紀のものとされるSI02試料 (ただし類似種とされている)²⁾でも認められている。

No.8は、残念ながらその樹種のみならず針葉樹であることも確認できなかったが、十和田火山の東側では十和田八戸火砕流に飲み込まれた埋没林が各地で検出され、カラマツ属 (*Larix*) やトウヒ属 (*Picea*) を主体とする亜寒帯性針葉樹林があったことが明らかにされてきており (大池ほか 1977, 寺田ほか 1994など)、試料もそうした森林の構成種に由来する可能性もあろう。

ところで、今回の試料のように炭化材が、材としての構造を保ったまま残存・出土するのは、その木材が適度の断面積³⁾をもっていたり、炭化が進んだ段階で火が消えるなど“好”条件がいくつも重なった場合に限られる (高橋 1998)。イネ科のうちタケ亜科は稈の木質化が進んでいるため炭化「材」として出土することも稀にはあるが、草本が検出された例はほとんどない⁴⁾。ススキが直接火を受ければ、燃え尽きて試料のように稈の構造をとどめることはまずないと思う。燃焼途中で土や水を使って消化した場合でも、土ではその量や硬さ・撒き方によってはススキの形が崩れ、試料のような出土状況は示さないだろうし、余熱で灰化が進んでしまうと思う。水を使った場合には冷却は急速にできるだろうが、やはり撒き方によっては形が崩れてしまうだろう。間接的に熱を受けた場合には試料のように炭化が進むのかはわからない。これまで述べてきたことはあくまで机上の思考にすぎないから、様々な場合を想定した燃焼実験を行う必要があると思う。

<注>

- 1) 既報の「芋田Ⅱ遺跡出土炭化材樹種同定報告書」(木工舎「ゆい」1998)を参照のこと。
- 2) 同じく「芋田Ⅱ遺跡出土炭化材樹種同定報告書」(木工舎「ゆい」1998)を参照のこと。
- 3) 断面積が大きすぎると中心部まで火が回らずに消えることがある。この状態で埋積すると未炭化部分は腐朽が進み、出土する炭化材の量は、断面積が小さく内部まで炭化が進んだものより少なくなってしまう場合もある。
- 4) 筆者の知る範囲では、ヨシ属が群馬県赤城村の勝保沢中ノ山遺跡の奈良時代とされる墓墳から1点 (鈴木・能城 1988)、ススキと見られるイネ科草本が宮古市近内中村遺跡の縄文時代晩期とされる住居址埋土中から1点 (鎌田 1999) 報告されているのみである。

引用文献

- 平井 信二 1979~1982 「木の事典 第1巻~第17巻」, かなえ書房。
- 鎌田 祐二 1999 宮古市近内中村遺跡, 「岩手考古学会第22回研究大会発表資料」, 3-4。
- 大池 昭二・松山 力・竹内 貞子 1977 八戸浮石層直下の埋没化石林の¹⁴C年代—日本の第四紀層の¹⁴C年代 (118) —, 地球科学, 31:136-137。
- 佐竹 義輔・原 寛・亘理 俊次・富成 忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」, 平凡社, 321,305pp。
- 鈴木 三男・能城 修一 1988 群馬県勝保沢中ノ山遺跡出土炭化材の樹種, 「勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ—関越自動車道 (新潟線) 地域埋蔵文化財発掘調査報告書第22集」, 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文

化財調査事業団, 180-192.

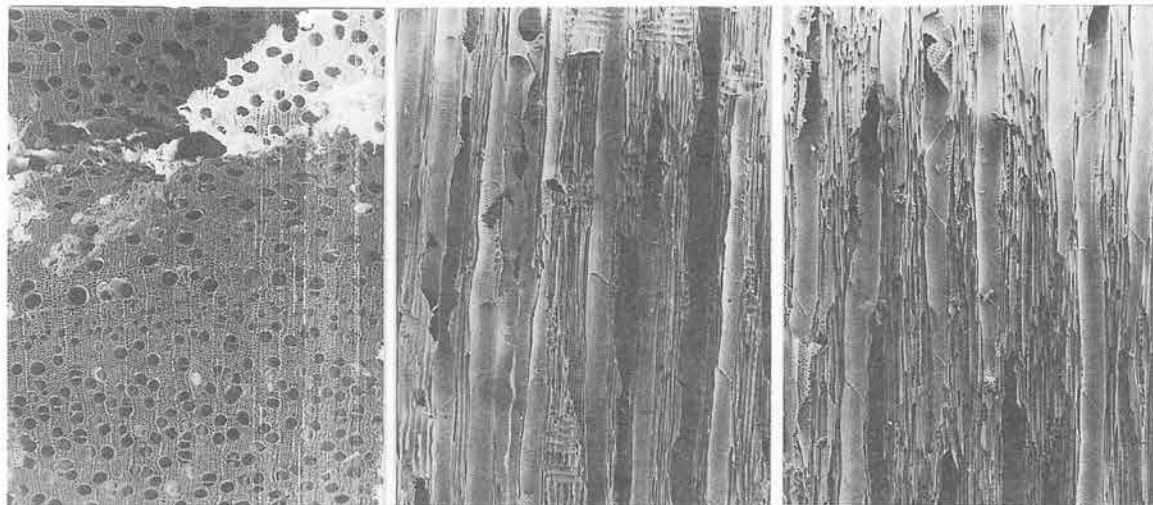
高橋 利彦 1998 杉の堂遺跡出土炭化材の樹種, 「水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集 杉の堂遺跡 -市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書I-」, (財)水沢市埋蔵文化財調査センター, 16-17.

寺田 和雄・太田 貞明・鈴木 三男・能城 修一・辻 誠一郎 1994 十和田火山東麓における八戸テフラ直下の埋没林への年輪年代学の適用, 第四紀研究, 33:153-164.

- 図版 1
1. コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 No.2
 2. ナナカマド属の一種 No.1
 3. イネ科草本 (ススキ?) No.6

a : 木口 x40 b : 柁目 x100 c : 板目 x100

图版 1



1 a

1 b

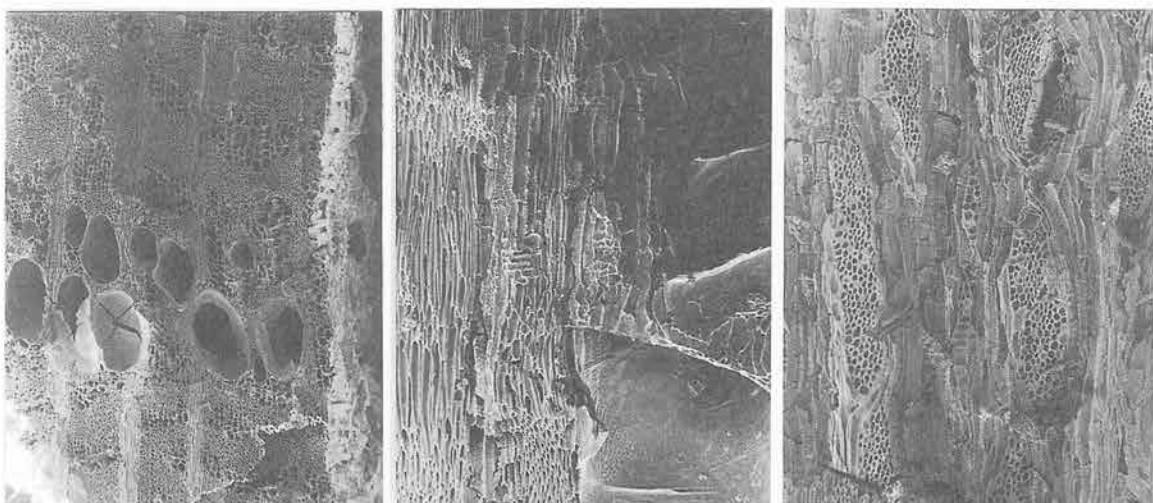
1 c



2 a

2 b

2 c



3 a

3 b

3 c

1. 試料

試料は7点 (No.1-7) で、奈良時代のものとされる7住居跡 (SI06・SI10・SI11・SI12・SI14・SI16・SI18) の床面から検出されたものである (表1参照)。SI16を除く6住居跡は焼失住居址とされ、試料はその構築材と考えられている。No.6の用途は不明である。

2. 結果

No.6は炭化が不十分なためか、非常に軟らかくSEM用の断面が作製できなかった。実体顕微鏡による観察のみであったため確実な同定ができず類似種としたが、試料は以下の3分類群 (ここでは亜科・節・種の異なった階級の分類単位を総称している) に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ」(佐竹ほか1989) にしたがひ、一般的性質については「木の事典 第2巻」(平井1979) も参考にした。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*) クルミ科 No. 2, (6)

散孔材で年輪界付近で管径を減少させる。管孔は単独および2-4個が複合、横断面では楕円形。道管は単穿孔をもつ。放射組織は同性~異性、1-4細胞幅、1-50細胞高。柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。No.6は上記のようにSEM観察ができなかったため類似種とした。

オニグルミは北海道から九州までの川沿いなどに生育する落葉高木である。材の硬さは中程度、加工は容易で狂いが少なく、保存性は低い。銃床として広く用いられるほか、各種器具・家具材などの用途も知られている。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 No. 3, 4, 5, 7

環孔材で孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は横断面では円形~楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射線組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のもの複合組織がある。柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

コナラ属は、コナラ亜属 (落葉ナラ類) の中で果実 (ドングリ) が開花の年に熟すグループで、カシワ (*Quercus dentata*)、ミズナラ (*Q. crispula*)、コナラ (*Q. serrata*)、ナラガシワ (*Q. aliena*) といくつかの変品種がある。カシワ・ミズナラ・コナラは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州 (青森県を除く)・四国・九州に分布する。このうちコナラは樹高20mになる落葉高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・構材などの用途があり、薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

・イネ科タケ亜科 (*Gramineae* subfamily *Bambusoideae* sp.) No.1

中空の桿の基本組織の中に維管束が散在する不斉中心柱をもつ。

タケ亜科 (タケ・ササ類) には多数の種が含まれるが、解剖学的特徴のみでは区別できない。

以上の同定結果を検出遺構などとともに一覧表で示す（表1）。

表1 米沢遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	検出遺構・層位など (現場登録)	樹種
1	SI06 床面焼土内	イネ科タケ亜科
2	SI10 床面 No.1A	オニグルミ
3	SI11 床面 No.1	コナラ属コナラ亜属コナラ節
4	SI12 床面 No.1	コナラ属コナラ亜属コナラ節
5	SI14 床面 No.1	コナラ属コナラ亜属コナラ節
6	SI16 床面	オニグルミ類似種
7	SI18 床面 No.1	コナラ属コナラ亜属コナラ節

3. 考察

同定対象とした試料は、コナラ節4点（SI11・SI12・SI14・SI18）、オニグルミ・オニグルミ類似種各1点（SI10・SI16）、タケ亜科1点（SI06）に同定された。昨年検討した試料は、SI08の床面検出材3点がコナラ節に、SI06の埋土下部から検出されたものがイネ科草本（ススキ?）に同定されている¹⁾。1住居址1-3点の炭化材が検討されたにすぎないため断定はできないが、材質の重硬なコナラ節が多いことから本遺跡の住居ではコナラ節を主な構築材として用いていた可能性もあろう²⁾。

同時代の類例としては、盛岡市台太郎遺跡のRA081住居³⁾や、青森県南部町前比良遺跡の3号住居跡（嶋倉 1988）⁴⁾からもコナラ節が認められている。一方、二戸市上台遺跡の2住居からはクマシデ属とススキ属が認められている⁵⁾。

<注>

- 1) 「米沢遺跡出土炭化材樹種同定報告書」（木工舎「ゆい」1999）を参照のこと。
- 2) ただし、炭材として硬くて良質なコナラ節は、炭化材としても他の樹種より残存しやすい可能性もあり（パリノ・サーヴェイ株式会社 1986）、検出例の多さが本来の用材の多さに直ちに結びつかない可能性もある。
- 3) 既報の「台太郎遺跡出土炭化材樹種同定報告書」（木工舎「ゆい」1998）を参照のこと。
- 4) 埋土検出材のほとんどがコナラとコナラ?とされ、ヤチダモも1点ある。また床面からはイネ科草本も認められている。
- 5) 既報の「上台遺跡出土炭化材樹種同定報告書」（木工舎「ゆい」1999）を参照のこと。

引用文献

平井信二 1979 「木の事典 第2巻」, かなえ書房.

パリノ・サーヴェイ株式会社 1986 上貝塚遺跡 001 住居跡の炭化材樹種同定, 「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書V 一谷・上貝塚・若葉台・塚 (1)・(2)・馬土手 (1)・(2)・(3) 一」, 日本道路公団東京第一建設局・(財) 千葉県文化財センター, 386-388.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本 I」, 平凡社, 321pp.

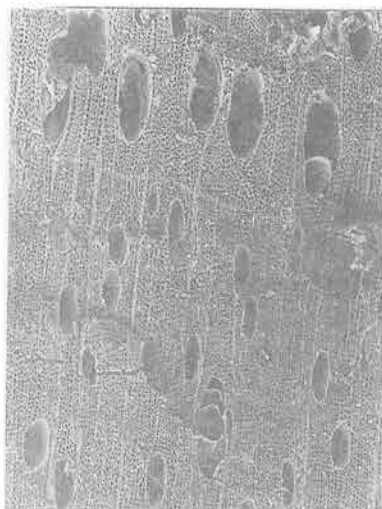
嶋倉巳三郎 1988 前比良遺跡の炭化木, 「青森県埋蔵文化財調査報告書第 108 集 前比良遺跡 一県営三戸地区広域営農団地農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 昭和62年度」, 青森県教育委員会, 46-47.

- 図版 1
1. オニグルミ No.2
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 No.5
 3. イネ科タケ亜科 No.1

a : 木口 x40 b : 柾目 x100 c : 板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ, 柾目では左から右.

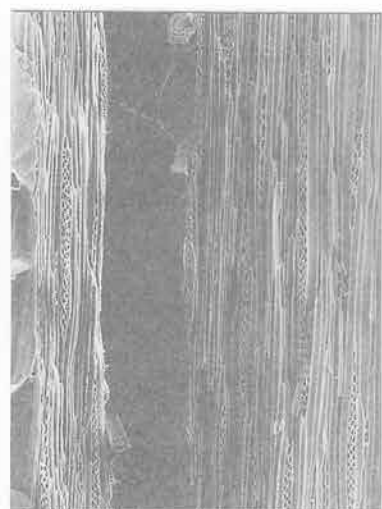
图版 1



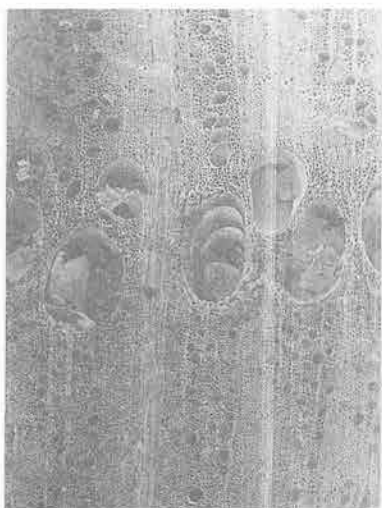
1 a



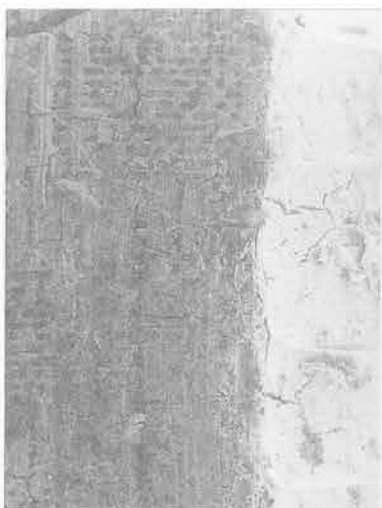
1 b



1 c



2 a



2 b



2 c



3 a

1. 試料

試料はNo.1～4の4点で、奈良時代のものとされるSI21住居跡（No.1, 2）と平安時代?のものとされるSI25住居跡（No.3, 4）の床面から検出されたものである。いずれも用途などは明らかにされていない。

遺跡は馬淵川左岸の米沢段丘上（標高約105m）に立地する。

2. 方法

試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）3断面を作製し、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（SEM, 加速電圧 10kV）で観察・同定した。併せて各分類群1点の電子顕微鏡写真図版を作製した（図版1・2）。SEM観察にあたっては（株）ニッテツ・ファイナ・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝いたします。なお、ネガ・フィルムと残った炭化材は木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料の中には確実な同定ができず類似種としたものもあったが、以下の4分類群（ここでは属と種の異なった階級の分類単位を総称している）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」（佐竹ほか1989）にしたがい、県内での自然分布については「岩手県植物誌」（岩手植物の会 1970）を参照した。また、一般的性質については「木の事典 第4・10・16巻」（平井 1980-1982）も参考にした。

・ヤナギ属 (*Salix* sp.) ヤナギ科 No. 4

散孔材で、道管は年輪全体にはほぼ一様に分布するが年輪界付近でやや管径を減少させる。管孔は単独および2-3個が複合、横断面では楕円形～やや角張った楕円形。道管は単穿孔をもち、放射組織の直立細胞との間では網目状の壁孔が目立つ。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。年輪界はやや不明瞭。

ヤナギ属は国内に約35種が知られ、主観雑種も多く分類の困難な群である。時に植栽される落葉低木または高木である。県内にはタチヤナギ (*Salix subfragilis*) ・キツネヤナギ (*S. vulpina*) など10種ほどが自生する。材は一般に軽軟で、割裂性が大きく耐朽性は低い。大径木が少ないため小細工物にする程度で、とくに重要な用途は知られていない。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No. 1

環孔材で孔圏部は多列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配置する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および2-3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。軟組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫓木などに用いられる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 No.3

環孔材で孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減し、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では楕円形、単独。小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥壁が認められる。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-60細胞高でしばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きい加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つにあげられる。

・ヌルデ類似種 (cf. *Rhus javanica* var. *roxburghii*) ウルシ科 No.2

環孔材と思える2年枝で、孔圏部は多列、孔圏外で急に管径を減じたのち漸減する。大道管は横断面では楕円形、単独または複合、小道管は横断面ではやや角張った楕円形で2-5個が複合する。道管は単穿孔をもち。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-40細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界はやや不明瞭。若齢のため本来の形質を示していない可能性もあるため類似種としておく。

ヌルデは北海道から琉球の山野に普通の落葉小高木である。材は軽軟～中程度で、加工は容易、耐朽性は高い。器具材や旋作・薪炭材として用いられるほか、杭や浮子としての用途も知られる。

以上の同定結果を検出遺構などとともに一覧で表す(表1)。

表1 米沢遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	検出遺構・層位 (現場登録)	時代	樹種
1	SI21・床面直上	奈良	クリ
2	SI21・床面直上焼土	奈良	ヌルデ類似種
3	SI21・床面直上	平安?	ケヤキ
4	SI21・床面直上	平安?	ヤナギ属

4. 考察

今回同定対象とされた試料は、上記の4分類群に同定された。昨年検討したSI10・11・12・14・16・18出土材6点は、コナラ節(4点)とオニグルミ(類似種を含む)(2点)に、一昨年検討したSI08出土材3点はいずれもコナラ節に同定されている。これらのほとんどは建築材とみられるものであることから、用途の違いが用材の違いとなって表れている可能性もあろう。

また、本遺跡で得られた結果は、炭化の仕方・程度によっては、炭材としても良質で各地・各時代の遺跡からの出土例が多数報告されている(伊東ほか 1987, 伊東 1990)コナラ節に加えて、ヤナギ属・オニグルミ・ヌルデなどの軟質材も残りうる(高橋 1998)ことを明確に示している。

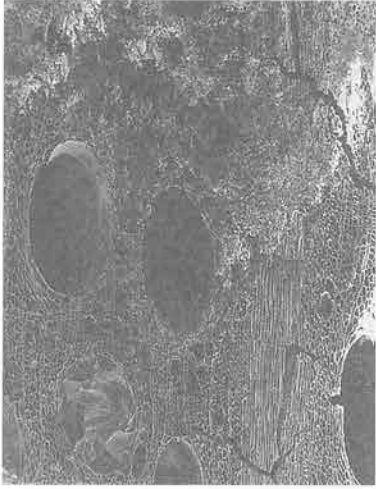
試料に近い時代の堅穴住居跡から検出された炭化材では、南隣の戸町一戸城跡の奈良・平安時代のものとされる5住居跡出土の52点が、コナラ(22)・ヤチダモ(14)・ヤナギ(7)・クリ(3)・サワグル

ミ(2)・ケヤキ(2)・クヌギ(1)・ヤマグワ(1)に同定されている例(嶋倉 1982)がある。今回の試料と共通する分類群もふくまれているが、これらもその用途・性格は明らかにされていない。

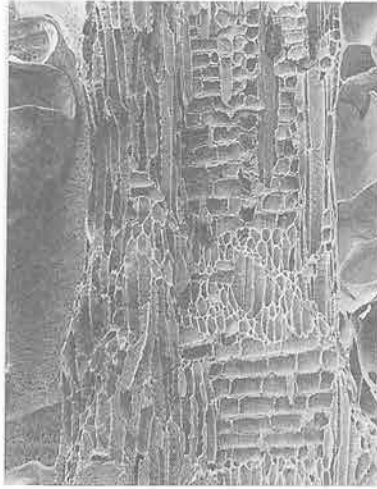
引用文献

- 平井信二 1980-1982 「木の事典 第4・10・16巻」, かなえ書房。
- 伊東隆夫・山口和穂・林 昭三・布谷知夫・島地 謙 1987 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途, 木材研究・資料, 第23号, 42-210
- 伊東隆夫 1990 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ, 木材研究・資料, 第26号, 91-189.
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」, 703pp.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」, 平凡社, 321, 305pp.
- 嶋倉巳三郎 1982 炭化木の樹種について, 「一戸町文化調査報告書第2集 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 一戸城跡」, 一戸町教育委員会・建設省岩手工事事務所, 303-308.
- 高橋利彦 1998 杉の堂遺跡出土炭化材の樹種, 「水沢市埋蔵文化調査センター調査報告書第10集 杉の堂遺跡 一市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ」, (財)水沢市埋蔵文化財調査センター, 16-17.

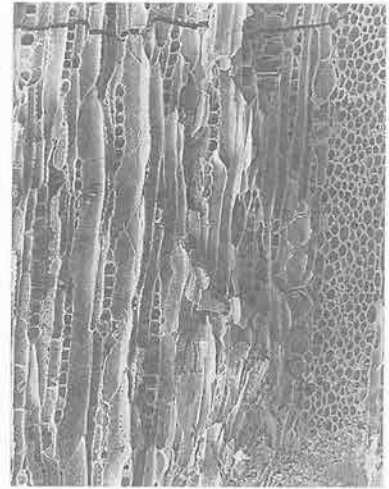
图版 1



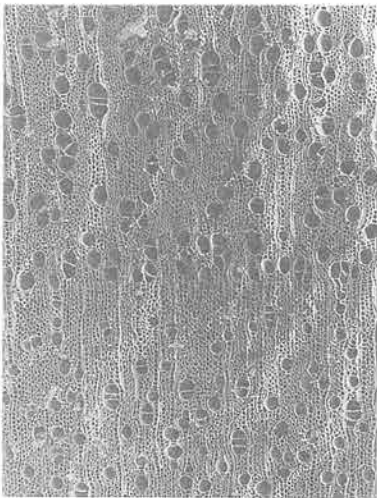
1 a



1 b



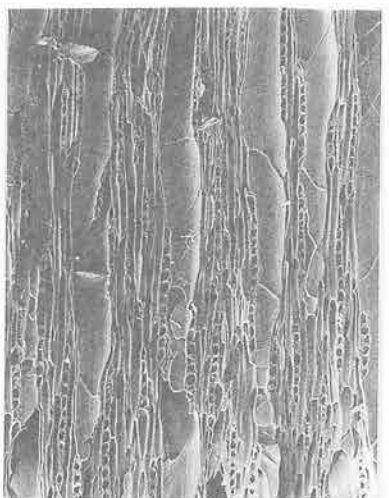
1 c



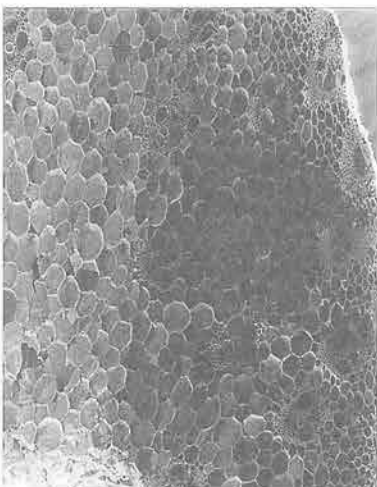
2 a



2 b



2 c



3 a

図版 2



4 a

4 b

4 c

- 図版 1 1. ヤナギ属 No. 4
2. クリ No. 1
3. ケヤキ No. 3

図版 2 4. スルデ類似種 No. 2

a : 木口 x40 b : 柁目 x40 c : 板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柁目では左から右。

2. 米沢遺跡出土火山灰の分析鑑定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

岩手県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、岩手火山、秋田駒ヶ岳火山、十和田火山など東北地方北部に分布する火山のほか、遠く北海道、中部、中国、九州、さらには、中国北朝鮮国境などに位置する火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる（たとえば、早田・八木、1991など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで、遺跡発掘調査の際に認められたテフラについて、発掘調査担当者により採取された試料を対象に火山ガラス比分析、重鉍物組成分析（以上を合わせてテフラ組成分析と呼ぶ）、屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を行うことになった。

2. 分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、10号竪穴住居跡から採取された合計8試料である。

3. 分析・測定方法

(1) テフラ組成分析（火山ガラス比・重鉍物組成分析）

テフラ組成分析の手順は、次の通りである。

- 1) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 2) 80℃で恒温乾燥。
- 3) 分析篩により、1/4-1/8mmの粒子篩別。
- 4) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態色調別組成を求める（火山ガラス比分析）。
- 5) 偏光顕微鏡下で重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める（重鉍物組成分析）。

(2) 屈折率測定

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井、1972、1993）による。

4. 分析結果

10号住居内埋土試料のテフラ組成ダイヤグラムを図7に、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析の結果を表16および表17に示す。試料に含まれる火山ガラスは32%で、量の多い順に軽石型（繊維束状、スポンジ状:22.8%）、中間型（6%）、バブル型（平板状:3.2%）からなる。色調としては、無色透明の火山ガラスが認められる。重鉍物としては、量の多い順に磁鉄鉍(41.6%)、斜方輝石(37.2%)、単斜輝石(20.8%)などが含まれている。

10号住居跡に含まれる火山ガラスの割合は50.4%で、量の多い順位に軽石型（繊維束状、スポンジ状:36%）、中間型（11.6%）、バブル型（平板状:2.8%）からなる。色調としては、無色透明のほか、淡褐色、淡灰色、淡緑色などの火山ガラスが認められる。重鉍物としては、量の多い順に斜方輝石(46%)、磁鉄鉍(37.6%)、単斜輝石(16%)などが含まれている。

屈折率測定の結果を表18に示す。試料に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.502-1.507と1.706-1.709である。このことから、本試料にはTo-aに由来するテフラ粒子が含まれていると考えられ

る。

なお、本試料に含まれるTO-a起源の火山ガラスの屈折率は、町田ほか(1981)や町田・新井(1992)などのテフラ・カタログに記載されているTo-aのそれより高い。これは、カタログに値が載せられている火山ガラスが給源である十和田火山近傍で採取されたもので、十分に水和が行われていない分厚いガラスが多く含まれているためと考えられる。実際、十和田火山から遠い岩手県南部や、仙台市周辺さらに福島市周辺で検出されたTo-aに含まれる火山ガラスの屈折率については、今回の値と同じような値が得られる（古環境研究所、未公表資料）。

5. まとめ

岩手県内の発掘調査において認められたテフラ試料について、火山ガラス比分析、重鉱物組成分析（以上、テフラ組成分析）と屈折率測定を行った。その結果、十和田a火山灰(To-a, 915AD)に由来する可能性の高いテフラ粒子が検出された。なお、テフラが一次堆積層として認められたか否かについては、現地において土層断面を観察できなかったことから言及できない。

*1 放射性炭素 (^{14}C) 年代。

*2 B-Tの噴出年代については、923-924年（町田・福沢, 1996）、937年（池田ほか, 1997）、944-947（早川・小山, 1998）などの説がある。

文献

- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
- 早川由紀夫（1983）十和田火山中振テフラ層の分布、粒度組成、年代。火山, 28, p.263-273.
- 早川由紀夫・小山真人（1998）日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日。火山, 第2集, 43, p.403-407.
- 池田まゆみ・福沢仁之・岡村 真・松岡裕美（1997）青森県小川原湖と十三湖における過去2300年間の環境変動と地震津波。平成8年度文部省科研費研究成果報告書「汽水湖堆積物を用いた過去2000年間の気候・海水準・降砂変動の解明」（研究代表者 福沢仁之）, p.124-159.
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広（1981）日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・福沢仁之（1996）湖沼堆積物からみた10世紀白頭山大噴火の発生年代。日本第四紀学会講演要旨集, no.26, p.80-81.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰。第四紀研究, 5, p.29-35.
- 早田 勉・八木浩司（1991）東北地方の第四紀テフラ研究。第四紀研究, 30, p.369-378.

3. 岩手県米沢遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 米沢遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。

米沢遺跡の発掘調査では、十和田 a 火山灰（To-a, 915年）の直下から畠状遺構が検出された。ここでは、同遺構におけるイネ科栽培植物の検討を主目的として分析を行った。

2. 試料

分析試料は、東側断面および東壁面北側から採取された計6点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

[イネ科－タケ亜科]

クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

[イネ科－その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

[シダ類]

[樹木]

その他

5. 考察

(1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ族型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネとヒエ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

1) イネ

イネは、東側断面の畝部（試料1）および東壁面北側の畝部（試料5、6）から検出された。密度は700～1,400個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。ただし、これらの遺構は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、これらの遺構もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

2) ヒエ属型

ヒエ属型は、分析を行ったすべての試料から検出された。このうち、東側断面の畝部（試料1）では密度が3,600個/gと比較的低い値であり、その他の試料でも700～2,100個/gと低い値であるが、ヒエ属は葉身中における植物珪酸体の密度が低いことから、植物体量としてはかなり過大に評価する必要がある。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを完全に識別するには至っていない（杉山ほか、1988）。ただし、ここでは畝状遺構から検出されていることから、栽培種に由来するものである可能性が高いと考えられる。以上のことから、To-a直下の畝状遺構ではヒエが栽培されていた可能性が高いと考えられる。

3) その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものが含まれており、ウシクサ族B（大型）の中にはサトウキビ属に近似したものが含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畝作物は分析の対象外となっている。

(2) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、全体的に棒状珪酸体やイネ科（未分類等）が多量に検出され、ウシクサ族Aやクマザサ属型も比較的多く検出された。また、部分的にヨシ属、ススキ属型、ミヤコザサ節型、シダ類、樹木起源なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にクマザサ属型が優勢であることが分かる。

以上の結果から、To-a直下層の堆積当時は、クマザサ属（チシマザサ節やチマキザサ節）を主体としてススキ属やチガヤ属なども生育するイネ科植生であり、周囲ではヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

クマザサ属は氷点下5℃程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている（高槻，1992）。遺跡周辺にクマザサ属などのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、十和田a火山灰（To-a，915年）直下の畠状遺構では、分析を行ったすべての試料からヒエ属型が検出され、ヒエが栽培されていた可能性が高いと判断された。また、一部の試料からイネが検出され、稲作が行われていた可能性も認められた。

当時の遺跡周辺は、クマザサ属（チシマザサ節やチマキザサ節）を主体としてススキ属やチガヤ属なども生育するイネ科植生であり、周囲ではヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。

参考文献

- 杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第2号，p.27-37.
- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—．考古学と自然科学，20，p.81-92.
- 高槻成紀（1992）北に生きるシカたち—シカ、ササそして雪をめぐる生態学—．どうぶつ社.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—．考古学と自然科学，9，p.15-29.

表1 岩手県、米沢遺跡における植物珪酸体分析結果
検査密度 (単位: ×100個/g)

分類群	地点・試料 学名	東側断面				東壁面北側	
		1	2	3	4	5	6
イネ科	Gramineae (Grasses)						
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	7				14	7
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	36	20	7	7	21	14
キビ族型	Paniceae type	80	60	28	14	56	68
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)			21	7	7	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	7				7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	58	87	78	56	77	96
ウシクサ族B	Andropogoneae B type						7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)						
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except Miyakozasa)	72	140	176	153	92	123
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. Miyakozasa	7		14	28	7	
未分類等	Others	36	13	21	7		7
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin	14	53	35	14	14	34
棒状珪酸体	Rod-shaped	579	867	769	548	676	902
茎部起源	Stem origin				7		
未分類等	Others	470	693	579	548	563	676
シダ類	Fern	14					
樹木起源	Arboreal						
その他	Others		7	7			
植物珪酸体総数	Total	1382	1946	1736	1388	1528	1940

おもな分類群の推定生産量 (単位: : .)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.21				0.41	0.20
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	3.04	1.68	0.59	0.58	1.77	1.15
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)			1.34	0.44	0.44	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.08				0.08
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except Miyakozasa)	0.54	1.05	1.32	1.15	0.69	0.92
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. Miyakozasa	0.02		0.04	0.08	0.02	

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>						
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> set. <i>Nezasa</i>						
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except Miyakozasa)	96	100	97	93	97	100
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	4		3	7	3	

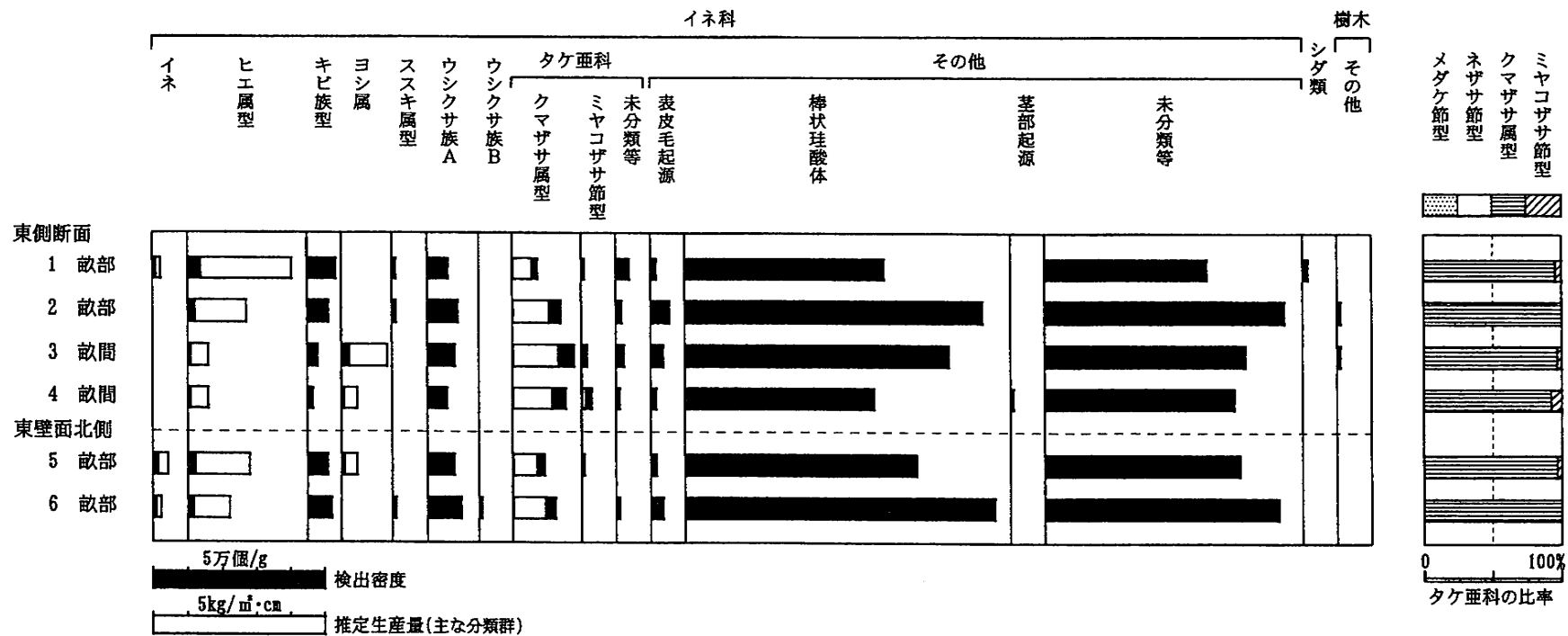
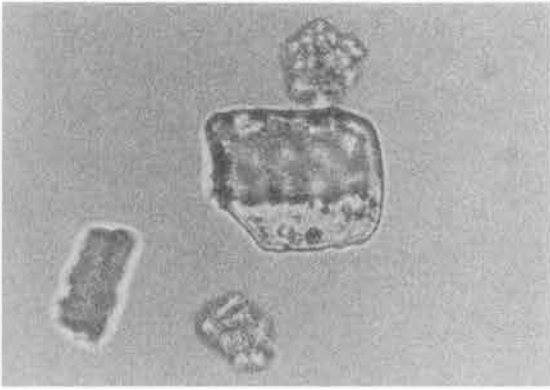


図1 米沢遺跡、To-a直下畝遺構における植物珪酸体分析結果

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真
 （倍率はすべて400倍）

No.	分類群	地点	試料名
1	イネ	東側断面	1
2	イネ	東壁面北側	5
3	イネ（側面）	東側断面	1
4	ヒエ属型	東側断面	1
5	ヒエ属型	東側断面	2
6	キビ族型	東壁面北側	6
7	ヨシ属	東壁面北側	5
8	ススキ属型	東壁面北側	6
9	ウシクサ族A	東側断面	2
10	ウシクサ族B	東側断面	1
11	クマザサ属型	東側断面	2
12	クマザサ属型	東壁面北側	6
13	ミヤコザサ節型	東側断面	1
14	棒状珪酸体	東壁面北側	5
15	シダ類	東壁面北側	1



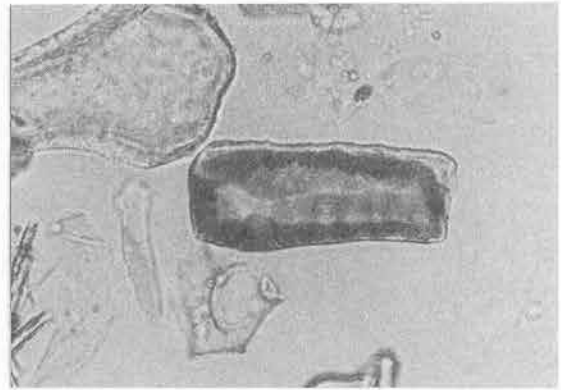
1



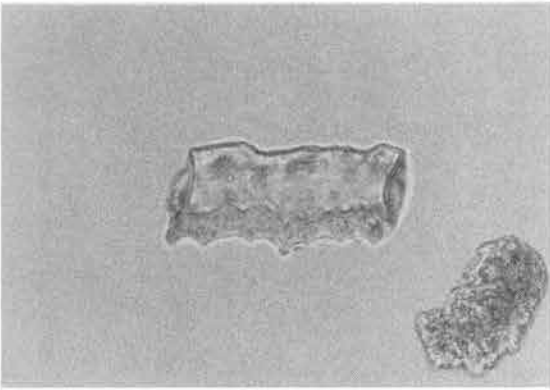
2



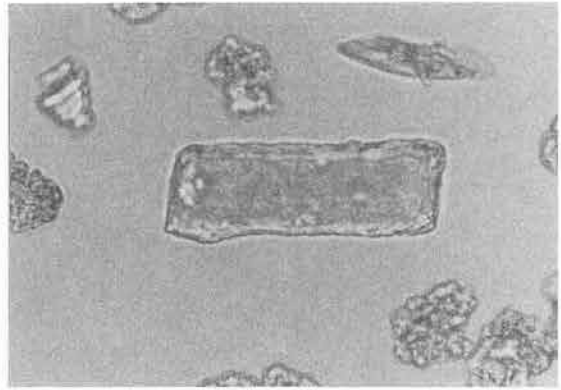
3



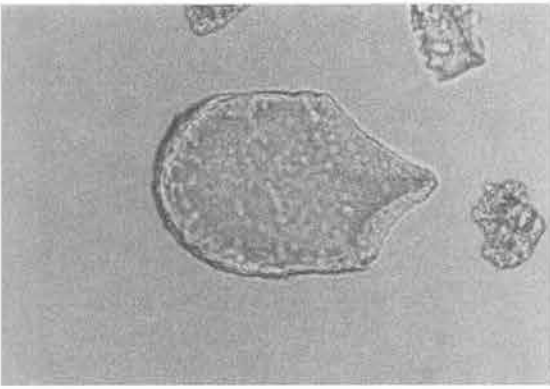
4



5



6



7



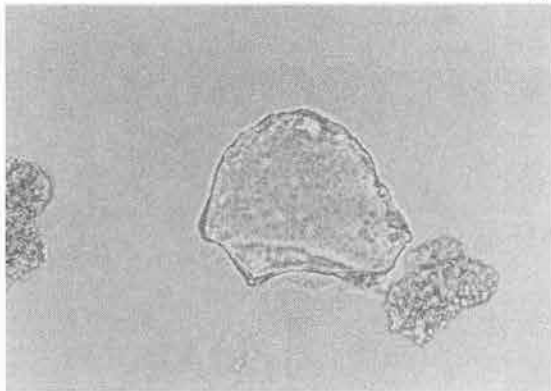
8



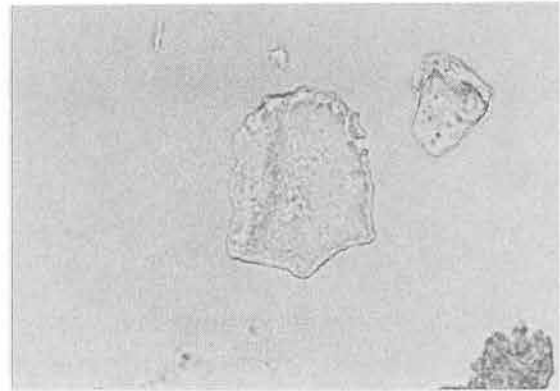
9



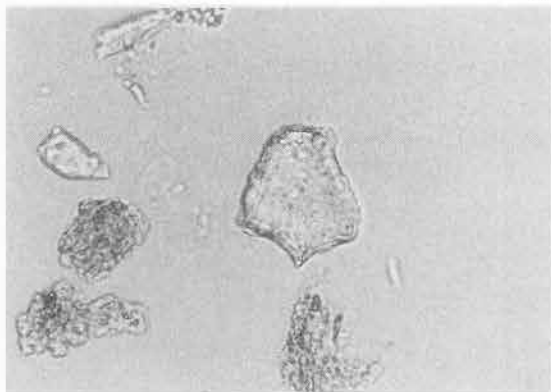
10



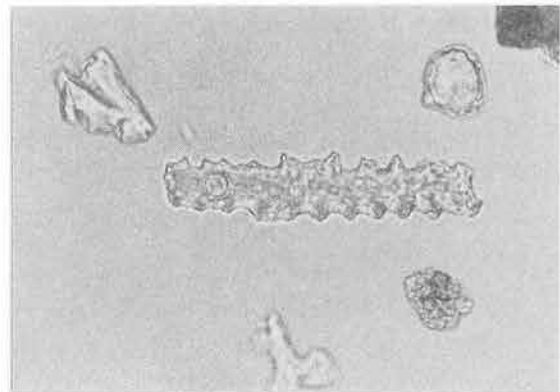
11



12



13



14



15

0 50 100 μm

II. 米沢遺跡における花粉分析

1. はじめに

種子植物やシダ植物等が生産する花粉・胞子は、分解されにくく堆積物中に比較的良好に保存される。花粉は、風媒花植物であれば空中に飛散し、虫媒花植物ならば昆虫により運搬され、多くの場合、地表に落下後土壤中あるいは雨水や河川で運搬され水域に堆積する。花粉分析では、堆積物より抽出した花粉の種類構成や相対比率から地層の対比を行ったり、植生や土地条件などの古環境や古気候の推定が行われる。一般には、比較的広域に分布する水成堆積物を対象として、堆積盆単位などのやや広域な植生や環境の復元に用いられるが、考古遺跡では、堆積域の狭い遺構などの堆積物から、局地的な植生や環境の復元にも用いられている。

ここでは、十和田 a 火山灰 (To-a, 915年) の直下から検出された畠状遺構について、花粉分析から同遺構における畑作物の検討を行うとともに、植生、環境の推定を行う。

2. 試料

試料は、十和田 a 火山灰直下の畠状遺構の畝部 (試料 1、2)、畝間部 (試料 3、4) の 4 点である。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村 (1973) を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 1 濃硫酸のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離 (1500rpm、2 分間) の後、上澄みを捨てるという操作を 3 回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって 300~1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 8、樹木花粉と草本花粉を含むもの 1、草本花粉 7、シダ植物胞子 2 形態の計 18 である。これらの学名と和名および粒数を表 1 に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

[樹木花粉]

スギ、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属ーアサダ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科ーイラクサ科

[草本花粉]

イネ科、アカザ科ーヒユ科、セリ亜科、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

各試料とも花粉が少なかった。草本花粉が多く、イネ科、ヨモギ属が比較的多く出現する。他にタンポポ亜科、キク亜科が出現する。樹木花粉は少なく、コナラ属コナラ亜属を主に出現する。畝（試料1、2）と畝間（試料3、4）による花粉構成の差はないが、畝（試料1、2）の方が相対的に花粉数が多い。寄生虫卵および消化残渣は検出されなかった。

5. 花粉分析からみた植生と環境

各試料とも花粉の産出量が少ないが、これは花粉の集積する水成の環境でなかったためと考えられる。草本花粉のイネ科、ヨモギ属がやや多いことから、相対的に乾燥した環境を好むヨモギ属やイネ科の耕地雑草が生育していたようである。明らかな栽培植物は検出されなかったが、イネ科には雑穀類が含まれるため、雑穀の栽培の可能性も考えられる。なお、畑作の栽培植物は花粉生産数の極めて少ない風媒花植物が多く、花粉分析には反映されにくい。寄生虫卵は検出されなかったが、畝の乾燥した環境下では分解された可能性がある。樹木は周囲には少なく、コナラ属コナラ亜属（ミズナラなど）を主にやや遠方に分布していたと考えられる。

参考文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p. 248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

表1 米沢遺跡における花粉分析結果

分類群		1	2	3	4
学名	和名	畝	畝	畝間	畝間
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1			
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			1	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		3		1
<i>Betula</i>	カバノキ属	1			
<i>Capinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ				2
<i>Quercus subgen Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属		3	1	1
<i>Quercus subgen Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜種	1			
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1			1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1			
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Gramineae	イネ科	22	13	3	6
Chenopodiaceae Amaranthaceae	アサガ科-ヒユ科	1			
Apiodeae	セリ亜科	1			
Valerianaceae	オミナエシ科				1
Lactucoideae	タンポポ亜種	1	2		2
Asteroidae	キク亜科		6		
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	50	62	12	9
Fern spore	シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子	1			
Trilate type spore	三条溝胞子	1		1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	3	7	1	6
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	74	84	15	18
Total pollen	花粉総数	78	91	16	24
Unknown pollen	未同定花粉	2	2	0	1
Fern spore	シダ植物胞子	2	0	1	1
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)

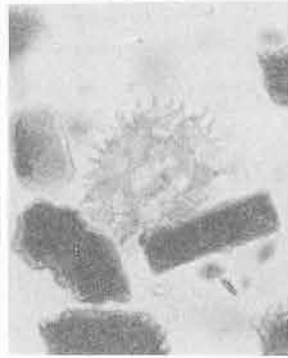
米沢遺跡の花粉・孢子遺体



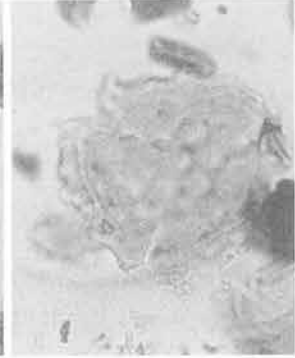
1 ニレ属—ケヤキ



2 イネ科



3 タンポポ科



4 キク科



5 ヨモギ属



6 ヨモギ属



7 シダ植物单条溝孢子



8 シダ植物三条溝孢子

— 10 μ m

Ⅲ. 米沢遺跡における種実同定分析

1. 試料

試料は、十和田 a 火山灰直下の畠状遺構の畝部（試料 1、2）、畝間部（試料 3、4）の 4 点で、花粉分析の試料と同一のものである。

2. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- 1) 試料 200cc に水を加え放置し、泥化を行う。
- 2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mm の篩で水洗選別を行う。
- 3) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

3. 結果

分析の結果、畠状遺構の畝の試料 1、2、畝間の試料 3、4 の各試料とも、種実は検出されなかった。

4. 考察

米沢遺跡において十和田 a 直下より検出された畠状遺構の畝および畝間の堆積物について種実類の抽出を試みた。その結果、種実類は検出されず、栽培植物の検討を行うことは困難であった。

一般に、乾燥あるいは乾湿を繰り返す環境下では、土壌生成作用によって有機質は分解されやすい。本遺跡で検出された畠跡においても、このような原因で有機質である種実類が分解されたと考えられる。

参考文献

南木陸彦（1993）葉・果実・種子。日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.

4. 米沢遺跡出土の耳飾り玉の非破壊による蛍光X線分析結果

藁科哲男

(京都大学原子炉実験所)

出土玉類の色調をみて白とか緑色が主体のとき、ヒスイ以外に玉髓、メノウなどが考えられるが、遺跡の発掘調査報告書などには一般的に肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のように思われているのが実態で、命名定義が不十分なものが多いと思われる。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度を調べる、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどで、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となる。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）とか碧玉の原産地うち、どこの産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法1) および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法2, 3) が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は含有元素分析に蛍光X線分析法と含有イオン、色中心を分析する電子スピン共鳴法を併用することにより産地分析を正確に行った例4) が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原材産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉など玉類は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになる玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。今回分析を行った玉は二戸市に位置する米沢遺跡の縄文時代～平安時代で縄文時代前期の層から出土した耳飾りである。

蛍光X線スペクトルを図1(65421)に示した。分析された元素はナトリウム(Na)は痕跡程度で、マグネシウム(Mg)、珪素(Si)は主成分的に分析され、アルミニウム(Al)元素も相対的に大きくなっている。また、カリウム(K)も含有され、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)は相対的に少なく、カリウムを置換して残ったと思われるルビジウム(Rb)が観測されている。バリウム(Ba)元素はピークとして確認されるが、痕跡程度のピークとしてはストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)、また、鉄(Fe)元素は純粋結晶鉱物以外の岩石には一般的に含有されている元素で、鉄ピークに対してマンガン(Mn)ピークが大きいのが特徴的である。これらピークの相対的高さの結果を表1に比重の結果とともに示した。現在調査を終えている10ヶ所のヒスイ(硬玉、軟玉)産地および、10ヶ所の碧玉産地の玉材の組成と一致しなかった。また、耳飾り玉はMg/Siの比が大きいことから瑪瑙の可能性も非常に低いと思われ、マグネシウムが主成分の岩石は透角閃石、陽起石など軟玉の可能性が推測されるが、比重が2.666で軟玉に達しない。比重と成分から超塩基性岩に由来する蛇紋石とか非常に柔らかいと滑石の玉類と推測され、この玉の

原材の産地は、何処かの変成岩帯に由来すると思われるが、現段階では、原石産地の調査に加えて似た組成の玉類の分析データを集積することが大切と思われる。ヒスイ（硬玉、軟玉）以外の玉類の石材産地は原石産地が不明のものが多く産地が特定できないが、非破壊の元素分析からでも、岩石名を特定する場合の誤判定を避ける非常に貴重な資料となるため、組成分析はできる限り実行することが大切で、不定形非破壊分析には同時多元素分析の方法でなければ、定形試料用の逐次元素分析法（波長分散型）では計算された結果は精密分析値の様に計算されるが、いくら分析者が正確な分析を強調しても、実態は、試料が少しでも動くとも分析値が大きく変動するため元素間ピークの相対的な高さの関係すら不確実になることを理解しておかなければならない。同時多元素分析（エネルギー分散型）では原理的に変動の影響が少ないのが特徴である。岩石名決定には最低条件として組成分析結果との整合性を考慮すべきと思われる。

参考文献

- 1) 茅原一也（1964）、長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 藁科哲男・東村武信（1987）、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1-18
- 3) 藁科哲男・東村武信（1990）、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。
檀原考古学研究所紀要『考古学論攷』, 14:95-109
- 4) 藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina（1992）、Alloction of Jasper Archeological
Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological
Science 19:357-373
- 6) 番場猛夫（1967）、北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録
No.18:11-15
- 7) 河野義礼（1939）、本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。
岩石礦物鉱床学雑誌22:195-201

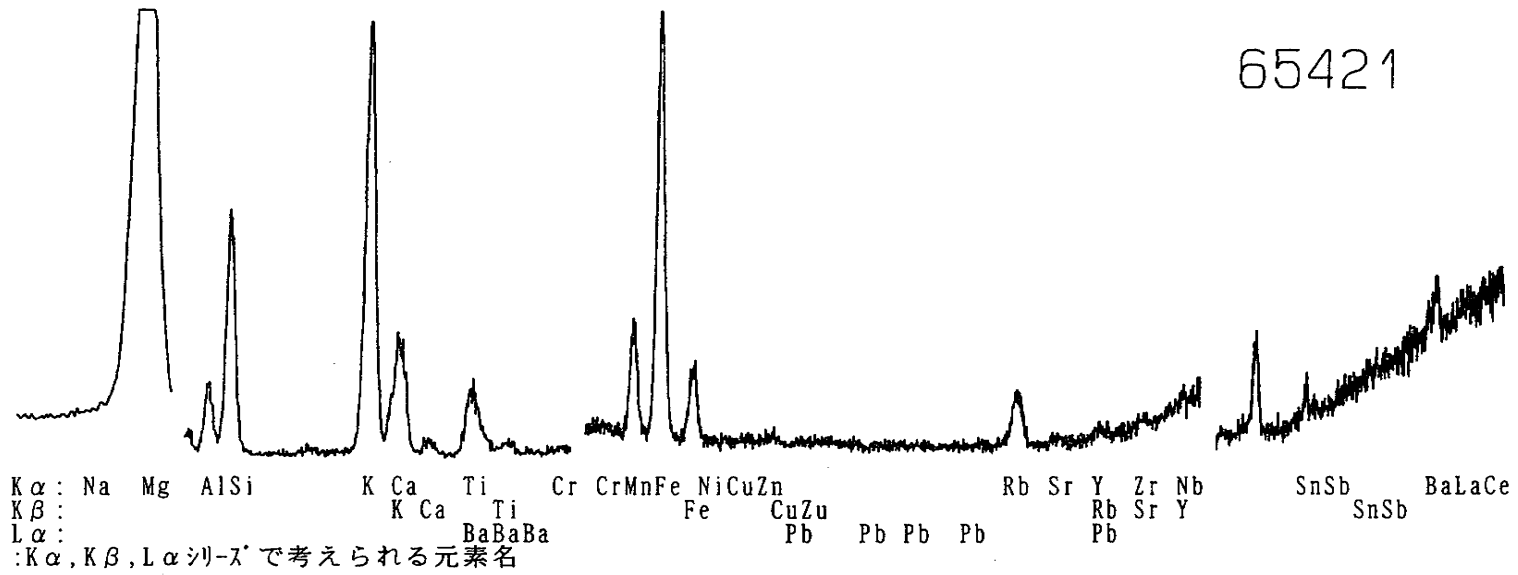


図1 米沢遺跡出土の耳飾り玉(65421)の蛍光X線スペクトル

表 1-1 米沢遺跡出土玉の元素比および比重の分析結果

遺物名	分析番号	元 素 比								
		Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ti/Si	Cr/Fe	Mn/Fe	Ni/Fe
耳飾り	65421	0.190	8.384	0.201	2.533	0.607	0.449	0.000	0.262	0.001
	JG-1 ^{a)}	0.006	0.110	0.073	4.047	3.046	0.898	0.001	0.023	0.001

表 1-2 米沢遺跡出土玉の元素比および比重の分析結果

遺物名	分析番号	元 素 比								
		Rb/Fe	Sr/Fe	Y/Fe	Zr/Fe	Nb/Fe	Ba/Zr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr
耳飾り	65421	0.156	0.018	0.000	0.022	0.032		42.033		
	JG-1 ^{a)}	0.270	0.360	0.062	0.268	0.029	7.432	5.522	0.234	0.232

表 1-3 米沢遺跡出土玉の元素比および比重の分析結果

遺物名	分析番号	元 素 比								
		K/Fe	K/Ca	Ca/ K	Ca/Fe	Ti/ K	Ti/Fe	Ti/Ca	Fe/Zr	Rb/Zr
耳飾り	65421	0.028	4.173	0.240	0.006	0.177	0.006	0.740	45.860	7.134
	JG-1 ^{a)}	0.107	1.329	0.753	0.083	0.222	0.023	0.295	3.738	1.008

表 1-4 米沢遺跡出土玉の元素比および比重の分析結果

遺物名	分析番号	元 素 比								遺物重量 グラム	比 重
		Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr		
耳飾り	65421	0.815	0.000	1.446	56.252	8.751	0.000	1.227	1.774	6.77534	2.666
	JG-1 ^{a)}	1.346	0.231	0.108	2.778	0.749	0.172	0.743	0.080		

a): 標準試料、Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192.

5. 米沢遺跡出土ガラス玉の非破壊分析法による検査結果

岩手県立博物館 咲山 まどか, 赤沼 英男

米沢遺跡の奈良時代に比定される住居跡から、3点のガラス玉（すべて小玉、青淡色）が検出された。古代のガラス玉については研究者によって組成に関する自然科学的調査が行われている。その結果によると、6世紀ごろまでは主として青緑色のアルカリ石灰ガラスが多くみられ、7世紀末ごろからは国産の鉛ガラスの製造が行われていたものと推定されている。^{1)~3)}。ガラス玉3点についてエレクトロン・プローブ・マイクロ・アナライザー（EPMA）およびエネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDS）により分析し、融剤と着色剤に関し検討したところ、アルカリ石灰ガラスであり、接着剤としては鉄鉱物を素材としていることが明らかとなった。以下では自然科学的調査によって得られた知見について述べる。

1 分析資料

分析した資料は米沢遺跡から出土したガラス玉3点である。資料の外観形状ならびに色を表1に、外観写真を写真1、EDSでのX線の照射位置を写真2に示す。

2. 分析方法

分析対象としたガラス玉をアルコールで超音波洗浄した後、十分に自然乾燥した。資料の変色を抑制するためEDSのX線照射範囲を0.1mmφに絞込み分析を行った。次に資料をカーボン蒸着し、EPMA分析に供した。

測定条件は以下のとおりである。

EPMA		EDS	
電圧	15kV	電圧	30kV
分析結晶	LIF, PETJ, TAP, LDE2	電流	0.3mA

3. 分析結果ならびに考察

No.1（小玉・青淡色）のEPMAによる分析結果を図1aに示す。これにより、この小玉はケイ素（Si）を主成分とし、カルシウム（Ca）、アルミニウム（Al）、マグネシウム（Mg）を含み、他に微量のナトリウム（Na）が含有されていることがわかった。また、EDSによる分析結果を図2aに示す。NaのK α 線（1.0KeV）、MgのK α 線（1.2KeV）、AlのK α 線（1.5KeV）、SiのK α 線（1.7KeV）、カリウム（K）のK α 線（3.3KeV）、CaのK α 線（3.7KeV）、マンガン（Mn）のK α 線（5.9KeV）、鉄（Fe）のK α 線（6.7eV）、銅（Cu）のK α 線（8.0eV）、鉛（Pb）のL α 線（10.6eV）が確認された。これらの半定量値が60%以上80%未満を「++++」、4%以上8%未満を「+++」、2%以上5%未満を「++」、1%以上2%未満を「+」、1%未満を「+」とし、結果を整理すると表2のとおりとなる。図1a、図2a、表2に従えば、主原料にSi、融剤にはCa、Naが使用されており、着色剤はFe鉱物と推定された。

ところでガラスは珪酸を主原料に、融剤にNa、Caなどのアルカリ元素を使用したアルカリ石灰ガラスと、融剤にPbを使用した鉛ガラスに分類される。上記の分析結果からNo.1ガラスはNa、Caを融剤とするアルカリ石灰ガラス（中でも特にNaの多いソーダ石灰ガラス）として扱うことができる。着色剤としてFeを含み、青淡色を呈している。同様に他の2点の分析結果をまとめると図1b、図2b、図2c、表2のごとくなる。これらもNa、Caの多いソーダ石灰ガラスに分類される。青淡色の着色剤もNo.1ガラス同様鉄酸化物が使われたものと推定された。

図3に肥塚により明らかにされた弥生時代から奈良時代のガラス組成の変遷を示す⁵⁾。今回調査を行った資料No.1~3のガラスはソーダ石灰ガラスで、奈良時代に比定されており、直線Dの延長上にある。今回の調査により、ソーダ石灰ガラスの使用が、奈良時代まで延びることが推定された。今後更に分析数を増やし、また破壊可能な資料についてはICP（誘導プラズマ蛍光分光光度計）による定量分析がなされることにより、詳細が明らかになることが期待される。

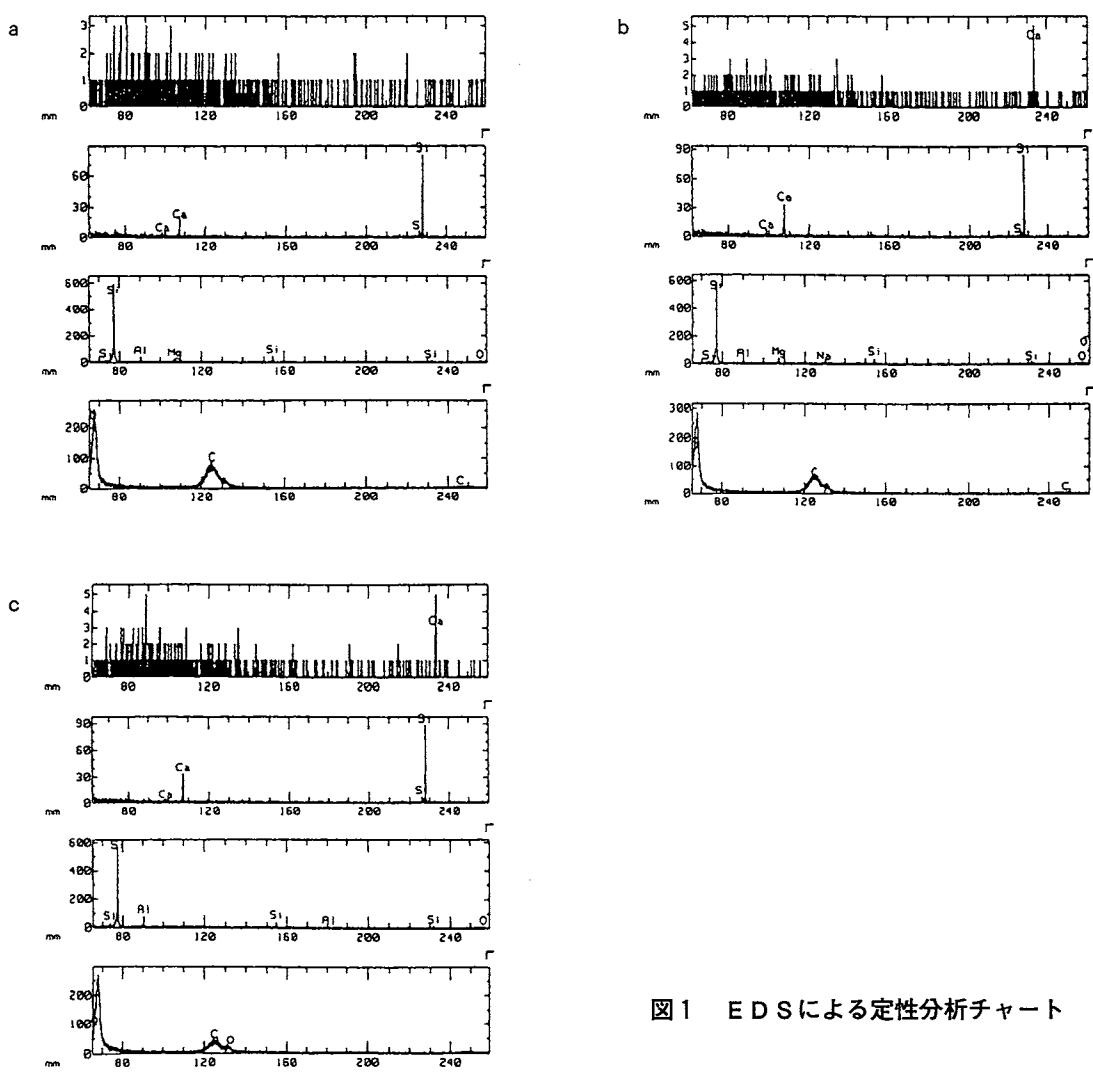


図1 EDSによる定性分析チャート

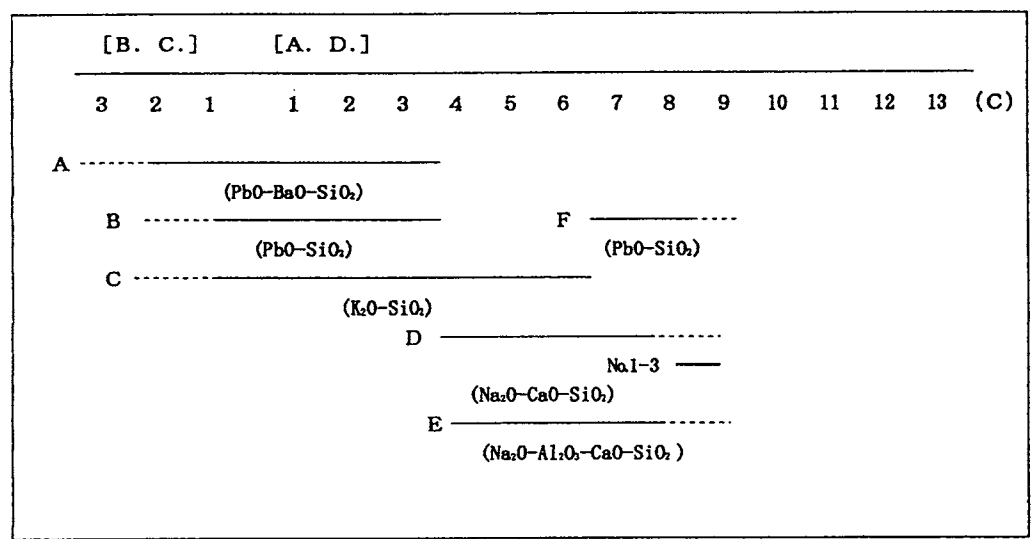


図3 古代ガラスの組成変遷

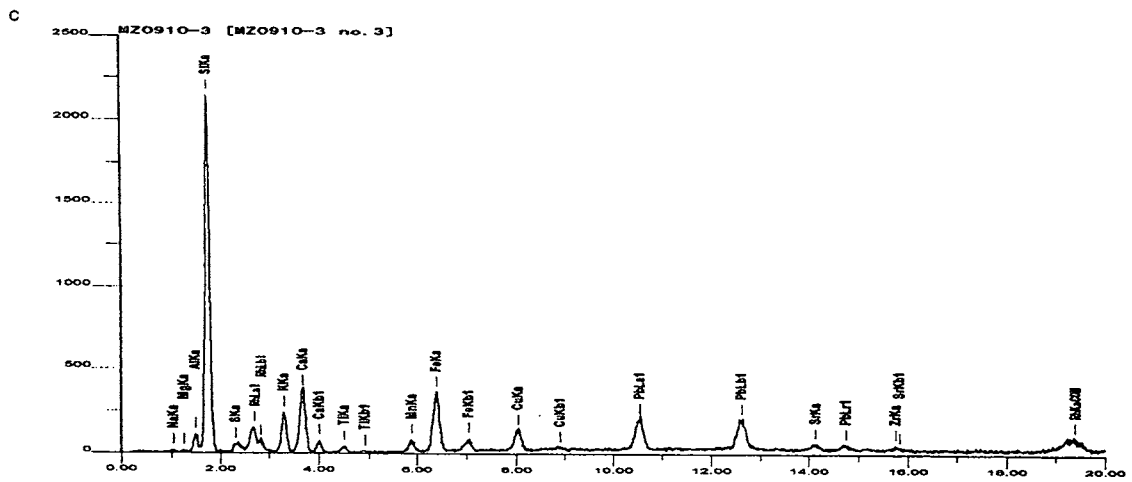
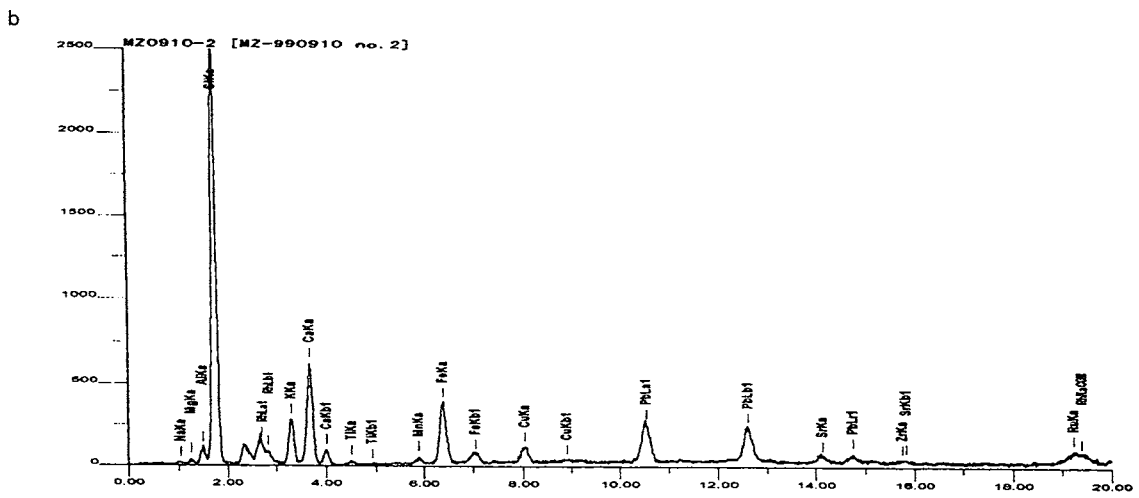
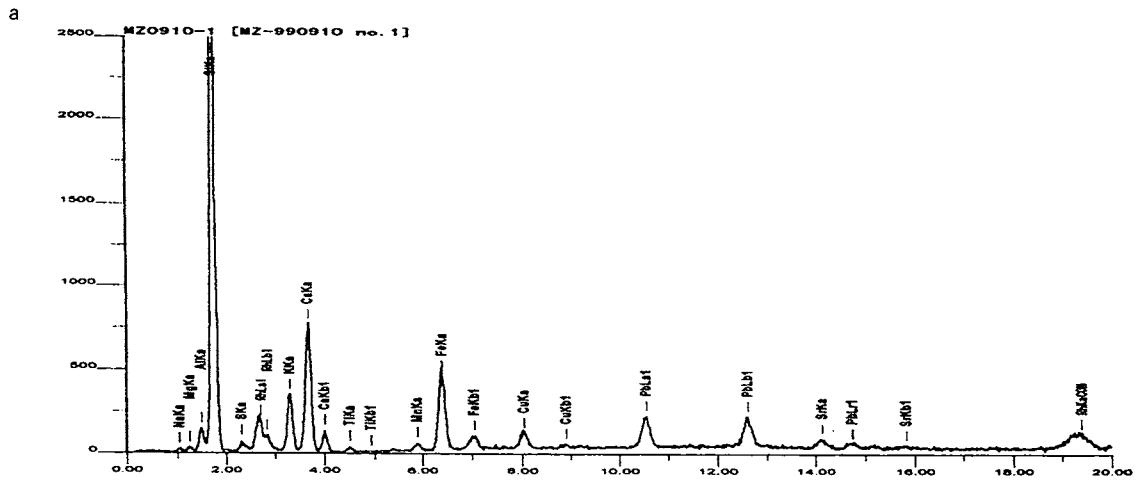


図2 EDSによる定性分析チャート

註

- 1) 富沢威他『古代ガラスの化学』「化学の領域」43
- 2) 吉武素水『ガラスの製造』・ガラス・35～73
- 3) 小林行雄『続古代の技術』塙書房、東京
- 4) 日本の美術37「ガラス」
- 5) 肥塚隆保「文化財論叢」966 国立奈良文化財研究所

表1 資料一覧

肉眼観察							
資料No.	遺物番号	色	形	状態	直径(mm)内径(mm)	出土地	推定年代
1	MZ990910-1	青	丸	完形	4.2 1.5	米沢(二戸市)	奈良
2	MZ990910-2	青	丸	完形	3.8 1.5	米沢(二戸市)	奈良
3	MZ990910-3	青	丸	完形	3.8 1.3	米沢(二戸市)	奈良

資料番号、遺物番号、肉眼観察、年代は埋蔵文化財センター工藤氏による。

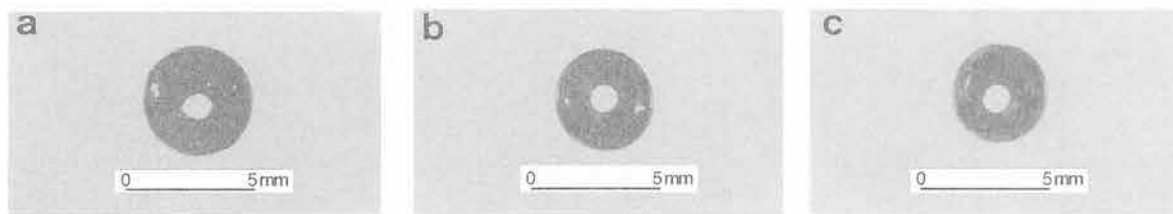


写真1 資料の外観写真

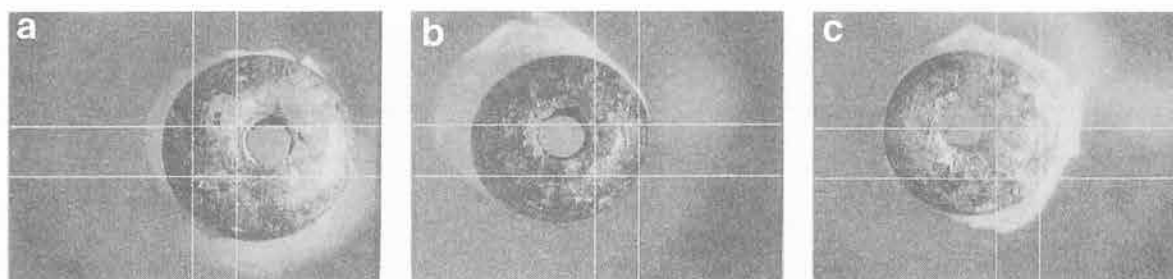


写真2 EDSのX線照射位置

表2 米沢遺跡出土ガラス玉の半定量分析結果

資料No.	主原料		融 剤					着色剤		
	Si	Pb	Ca	Na	Al	K	Mg	Mn	Fe	Cu
1	+++++	+++	++++	++++	+++	+++	+++	+	++	+
2	+++++	+++	++++	++++	++++	+++	+++	+	++	+
3	+++++	+++	++++	++++	++++	+++	+++	+	++	+

表の「+++++」は60%以上80%未満、「++++」は4%以上8%未満、「+++」は2%以上5%未満、「++」は1%以上2%未満、「+」は1%未満の半定量値を表す。

写 真 图 版



遺跡遠景（南から）



調査区中央部全景（東から）

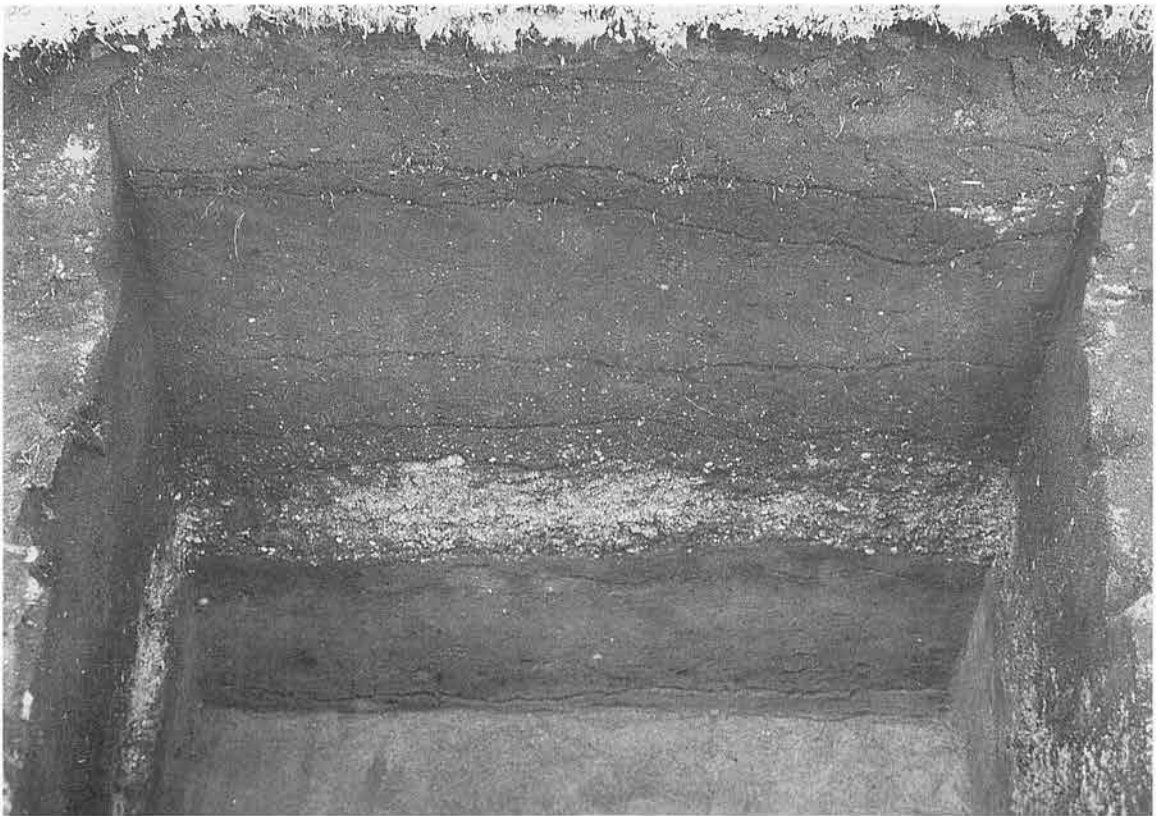
写真図版1 全景写真



5区調査前風景（南から）

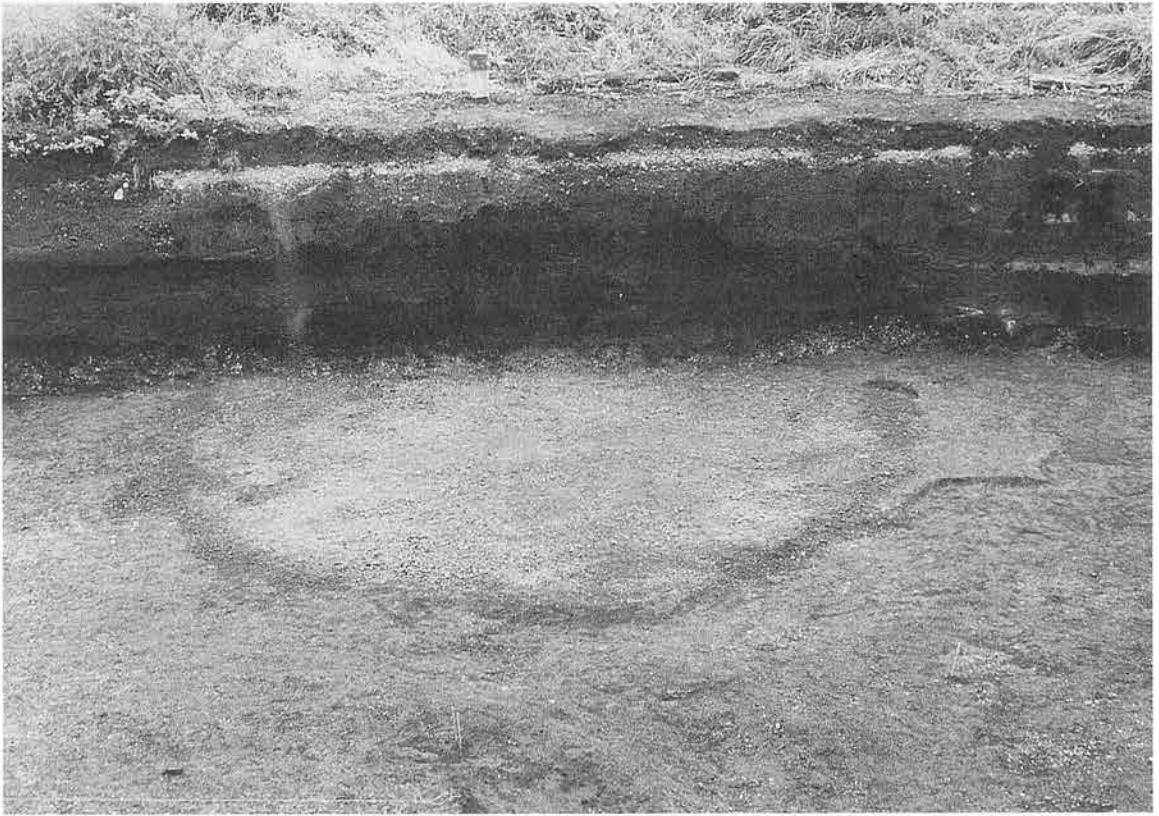


7-②区調査前風景（南から）

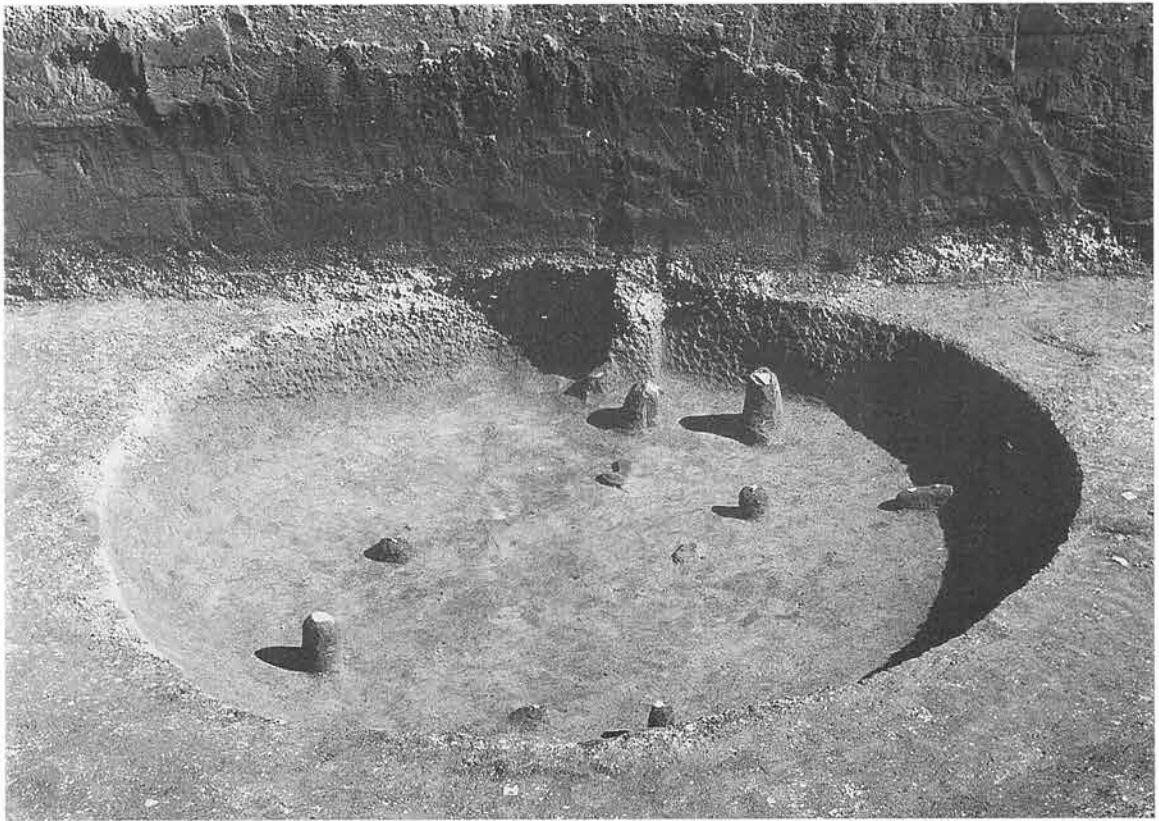


基本土層

写真図版2 調査前風景・基本土層



検出

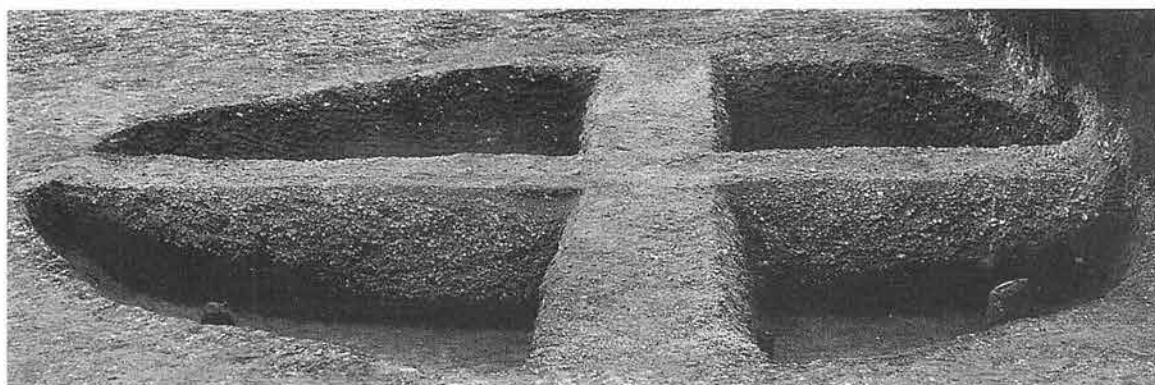


炭化材・遺物出土状況

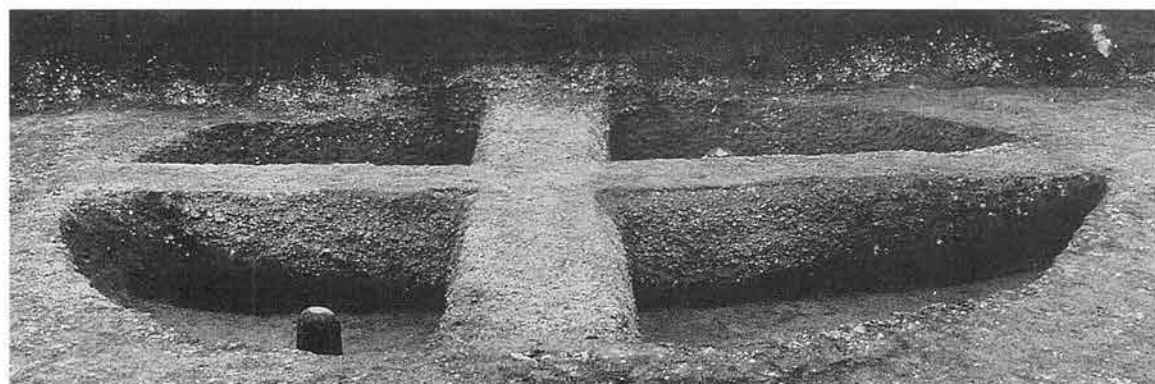
写真図版3 第1号住居跡(1)



平面



断面

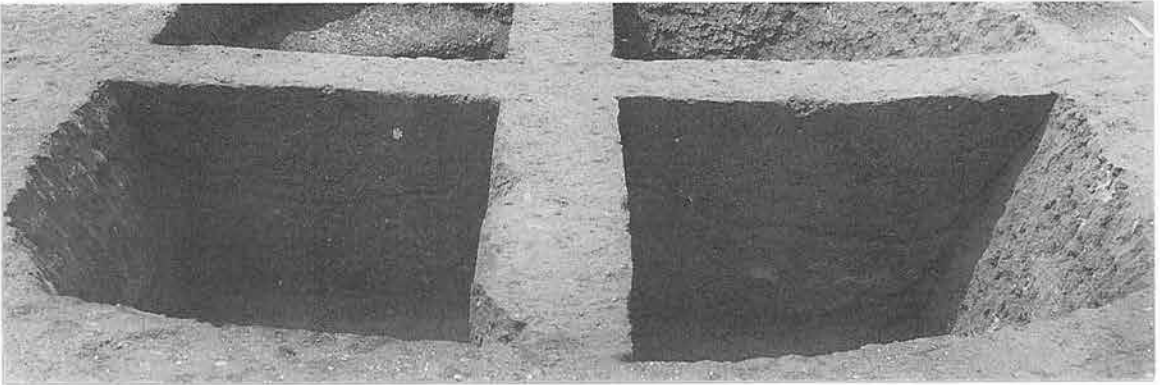


断面

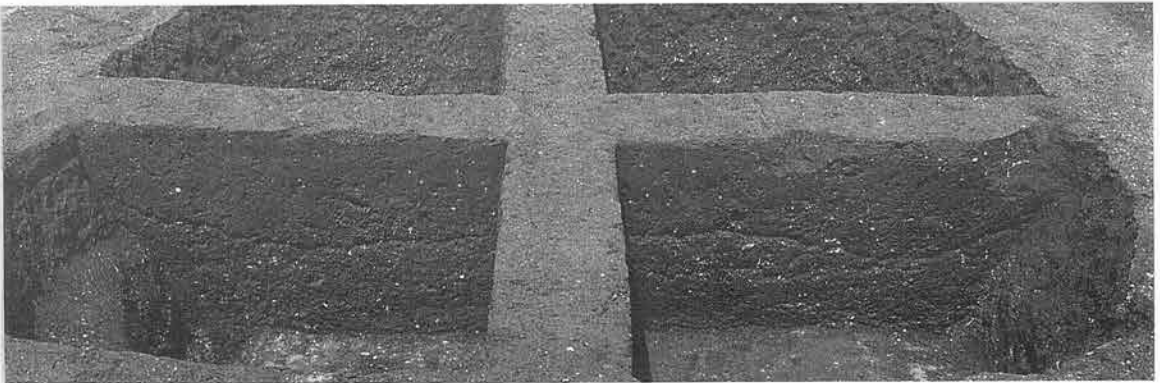
写真図版4 第1号住居跡(2)



平面



断面

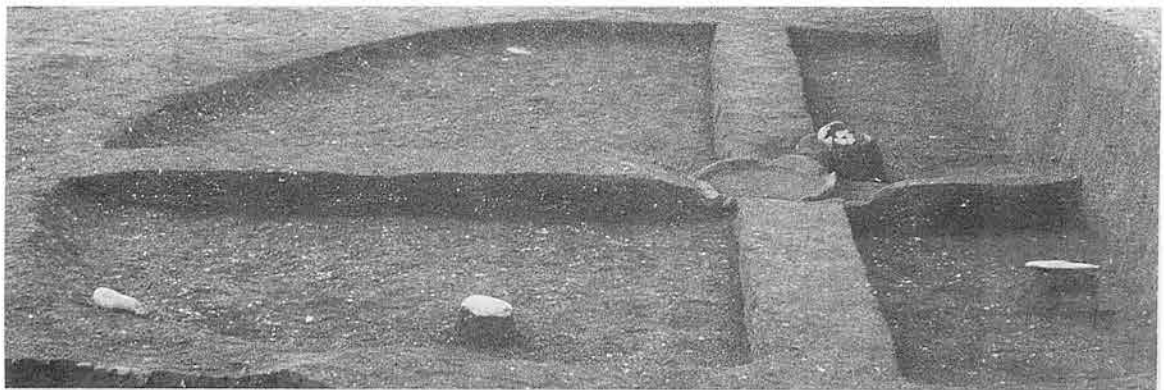


断面

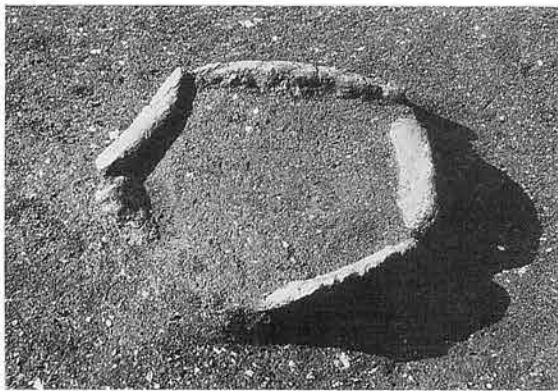
写真図版5 第2号住居跡



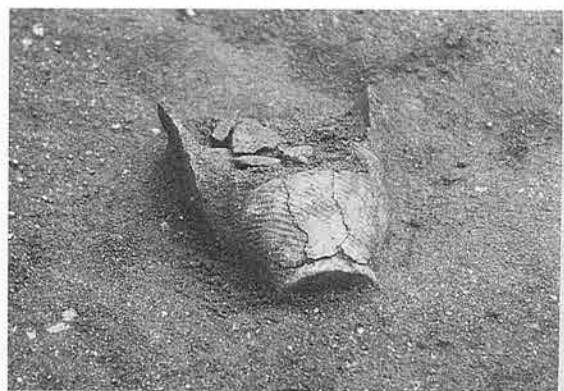
平面



断面



炉 平面

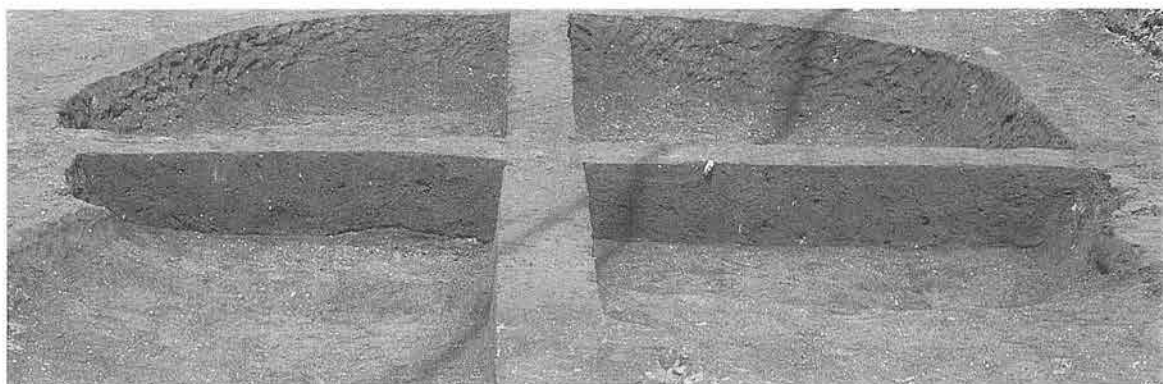


遺物出土状況

写真図版 6 第 3 号住居跡



平面



断面



炉 平面



炉 断面

写真图版7 第4号住居跡



平面

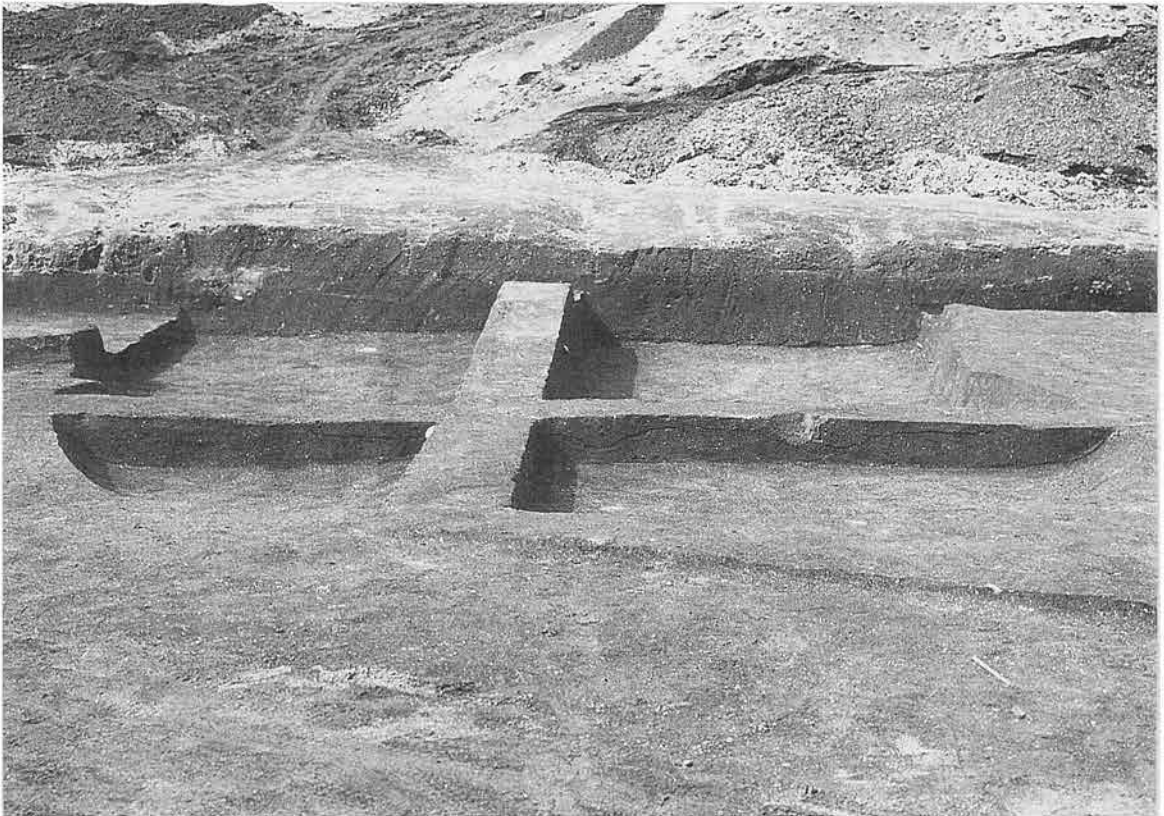


断面

写真图版 8 第 5 号住居跡



平面

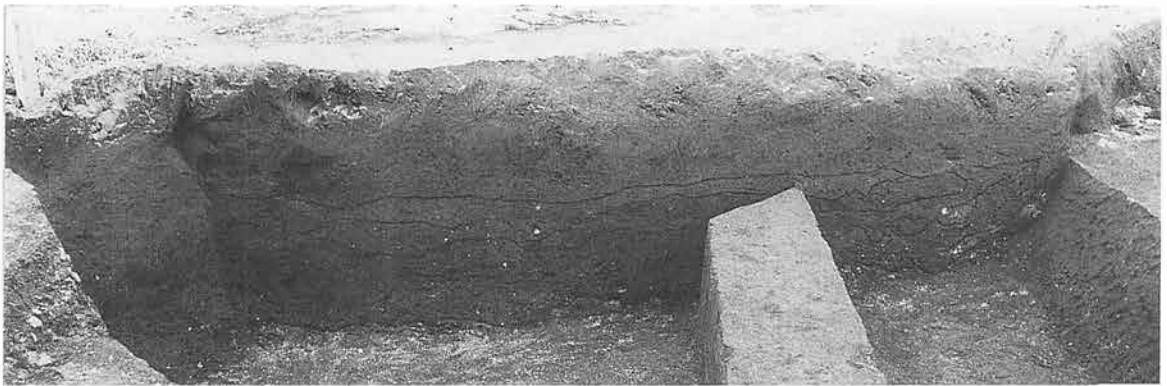


断面

写真图版9 第6号住居跡



平面 (H11年度)



断面 (B-B')



断面 (A-A')



遺物出土状況

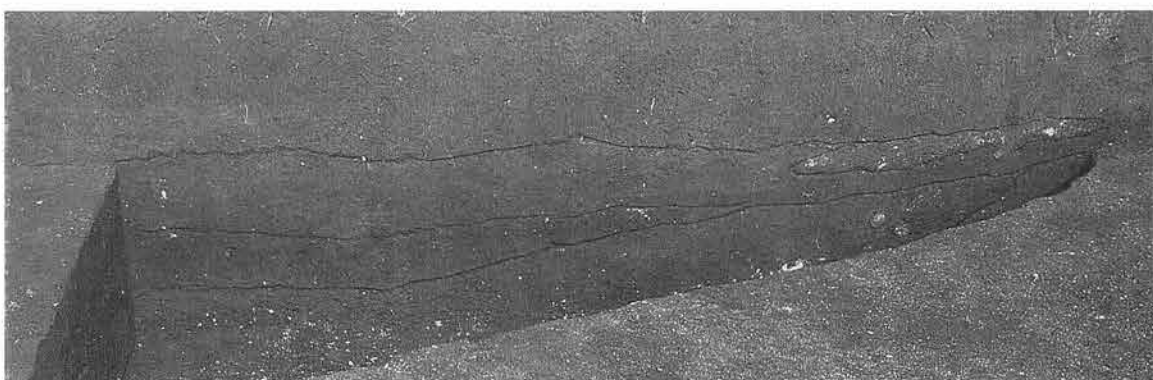
写真図版10 第7号住居跡 (1)



平面 (H10年度)



断面 (C-C')



断面 (D-D')

写真図版11 第7号住居跡 (2)



炭化材、遺物出土状況



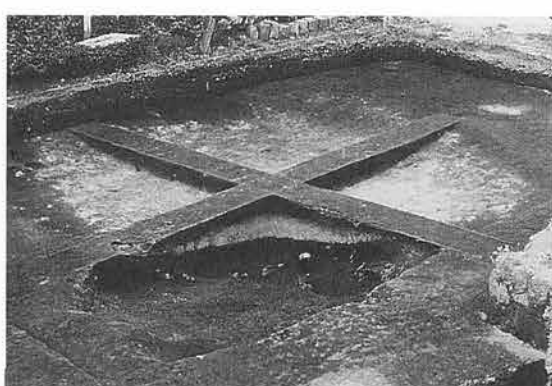
遺物出土状況



遺物出土状況

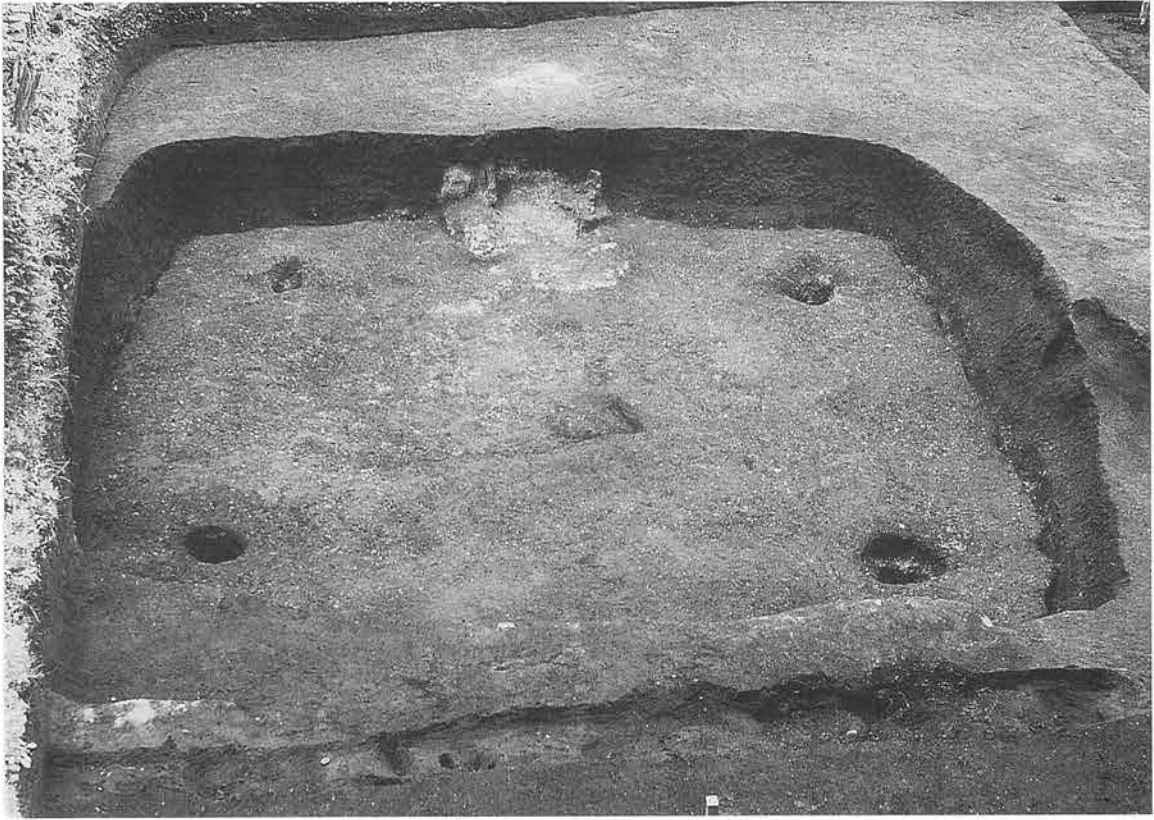


遺物出土状況

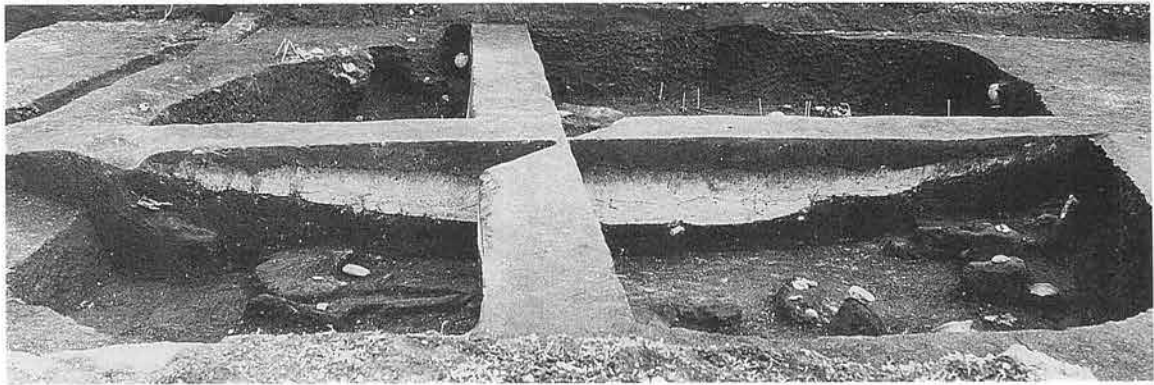


火山灰検出

写真図版12 第8号住居跡(1)



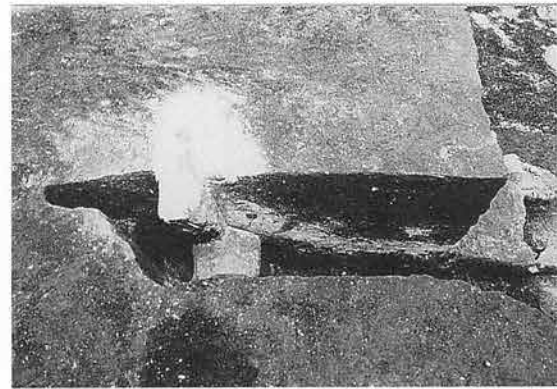
平面



断面

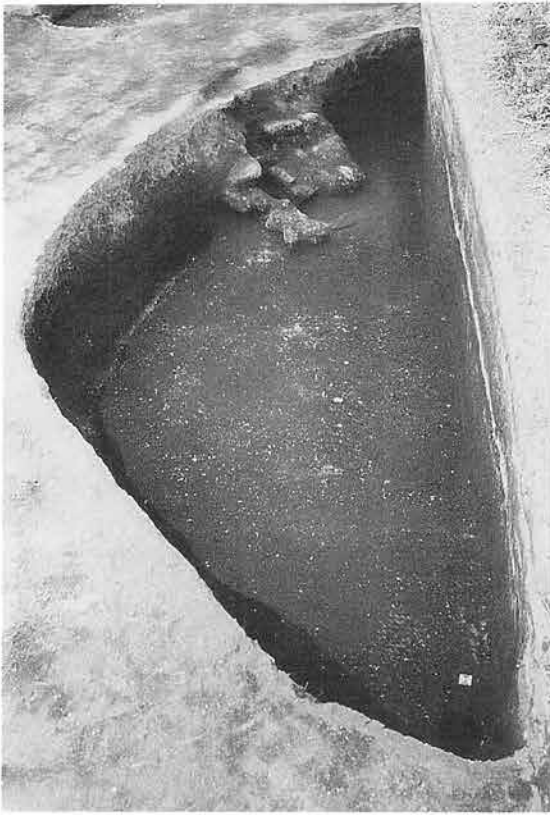


カマド検出



煙道部 断面

写真図版13 第8号住居跡(2)



平面



遺物出土状況



煙道部 断面



断面

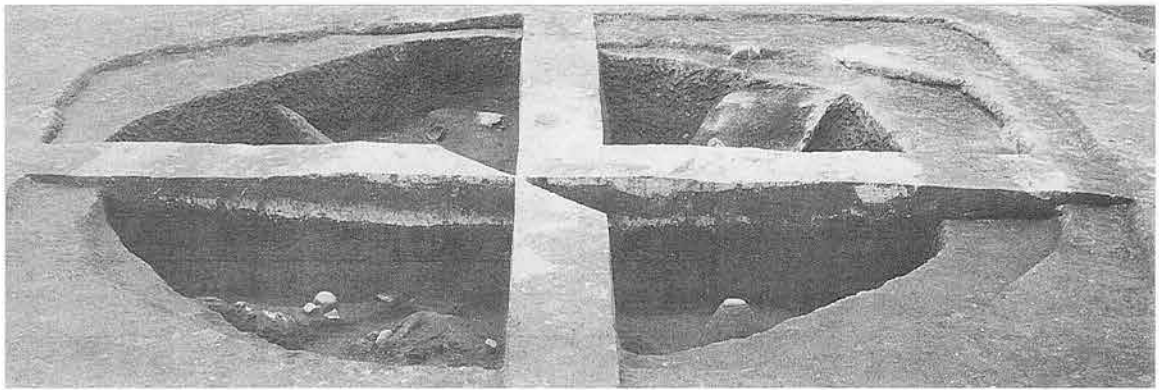


断面

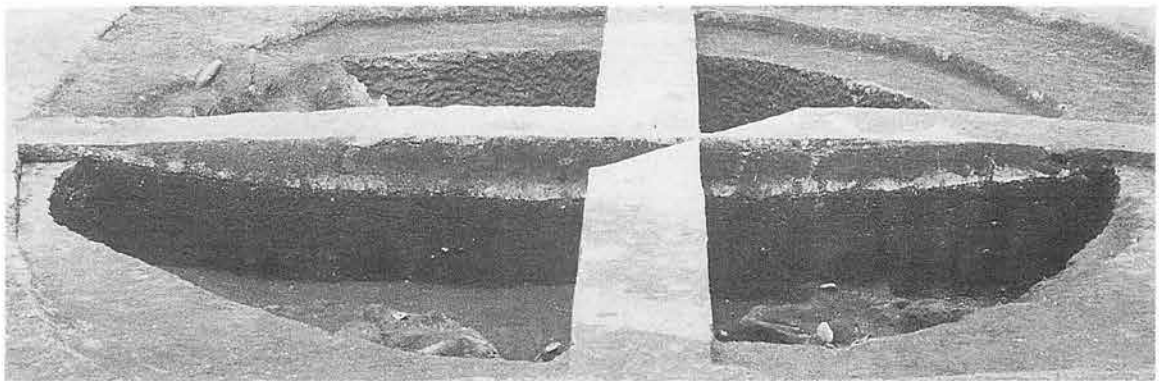
写真図版14 第9号住居跡



炭化材・遺物出土状況



断面



断面

写真図版15 第10号住居跡(1)



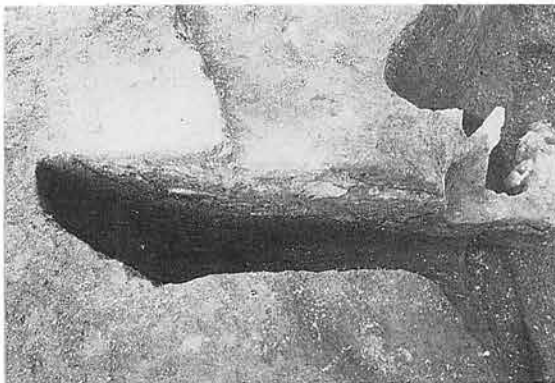
平面



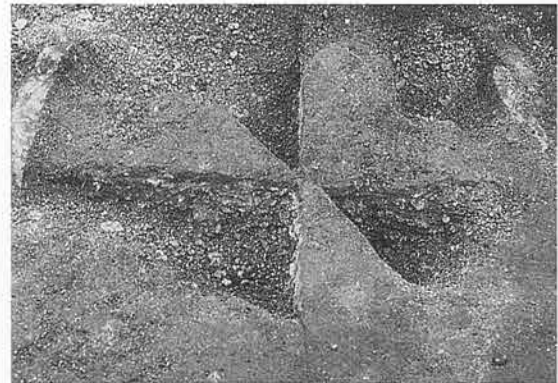
カマド検出



袖部 断面



煙道部 断面

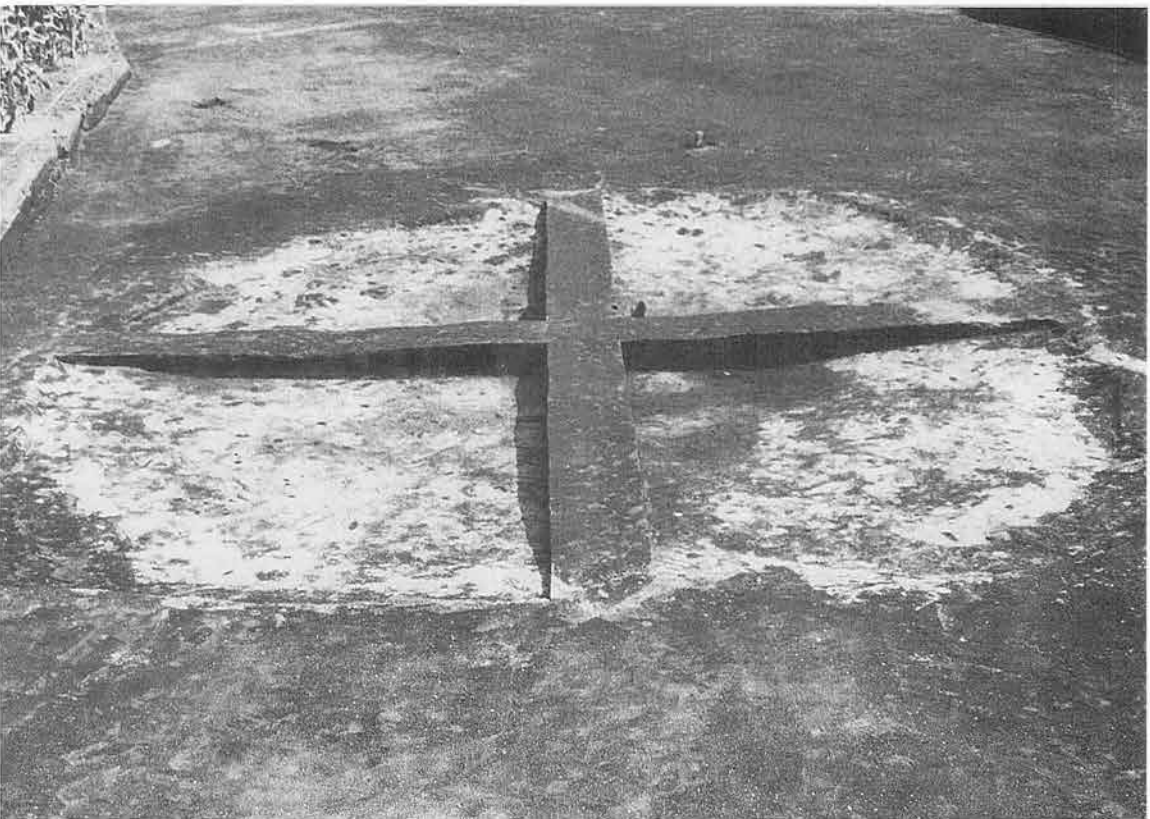


燃烧部 断面

写真図版16 第10号住居跡(2)



検出

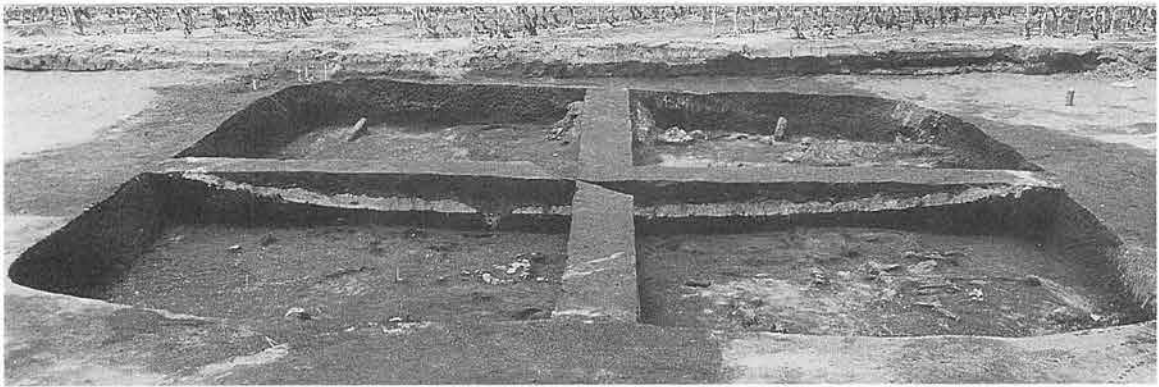


火山灰検出

写真図版17 第11号住居跡(1)



平面



断面

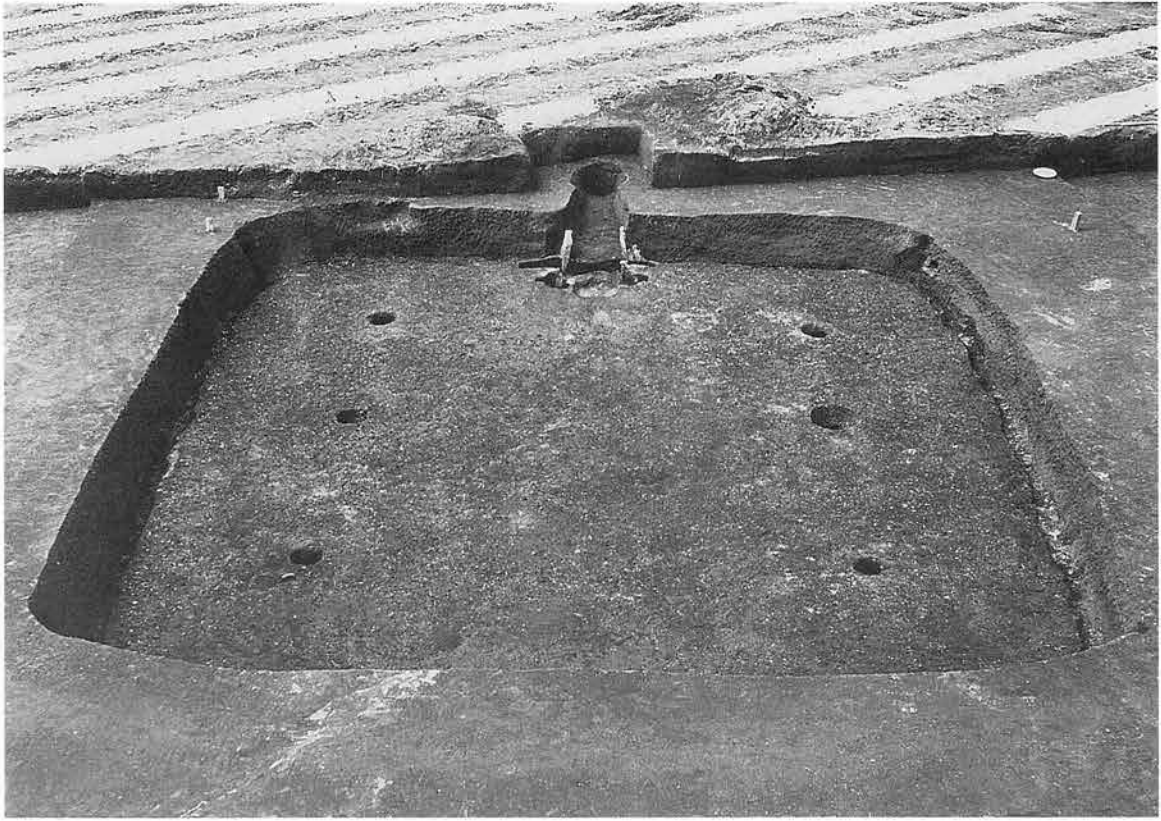


遺物出土状況

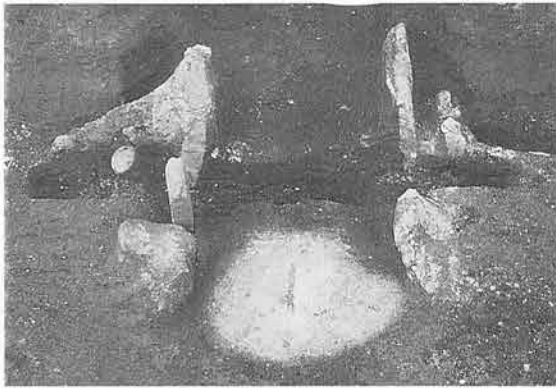


カマド検出

写真図版18 第11号住居跡(2)



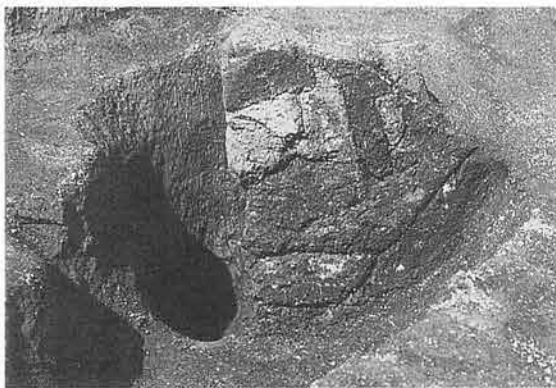
平面



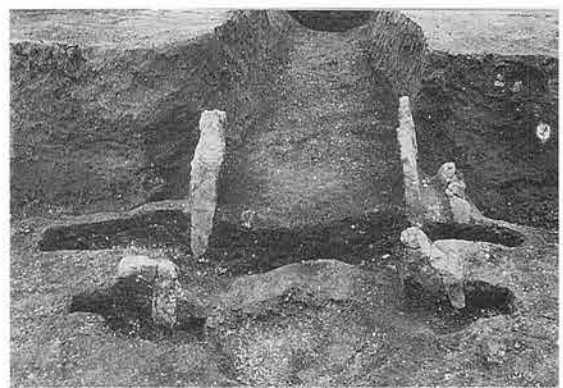
燃烧部 平面



燃烧部 断面

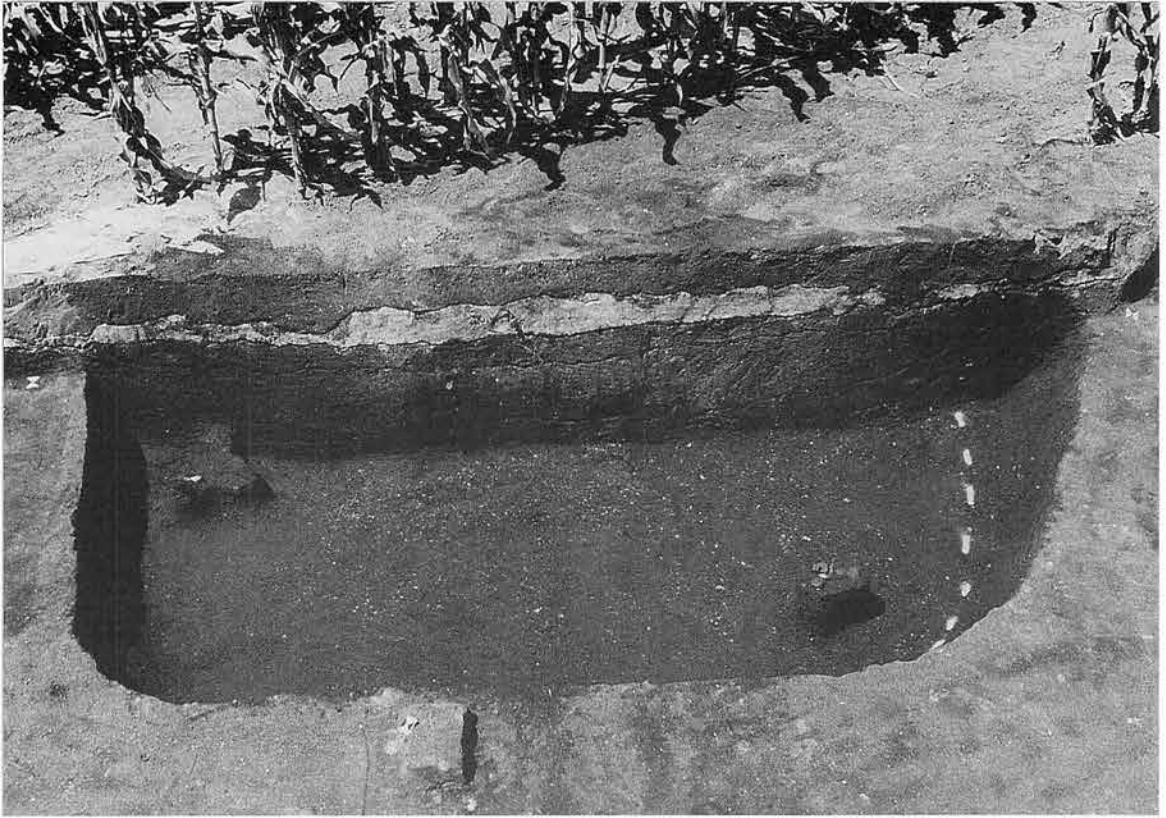


煙道部 断面

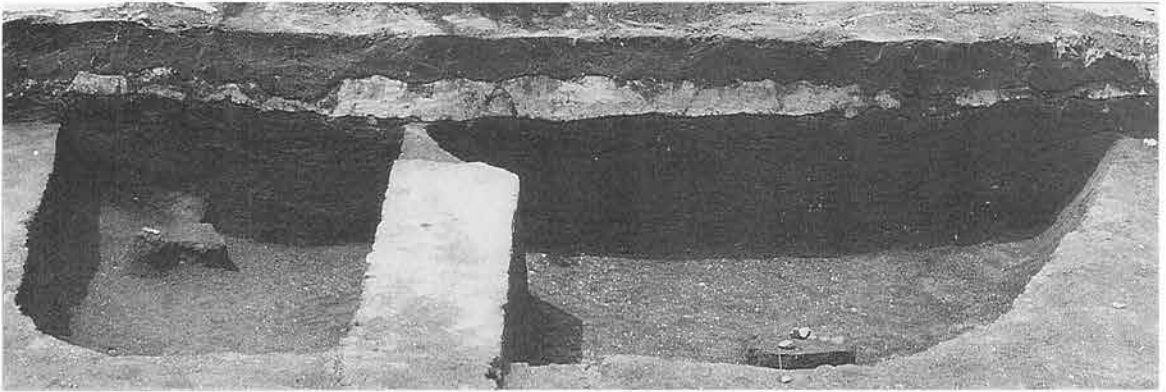


袖部 断面

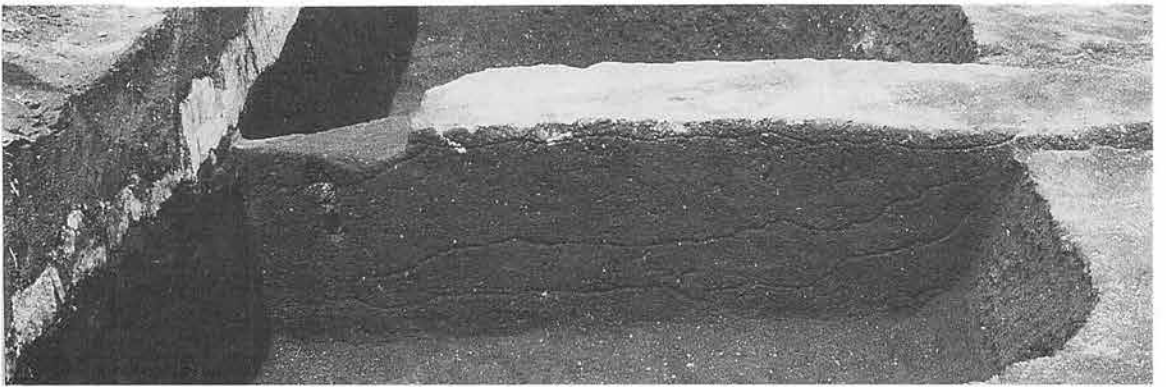
写真図版19 第11号住居跡(3)



平面



断面

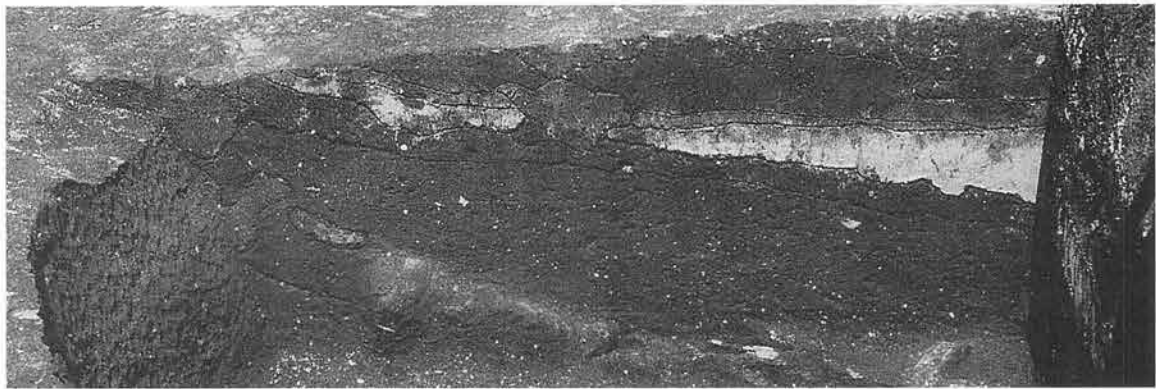


断面

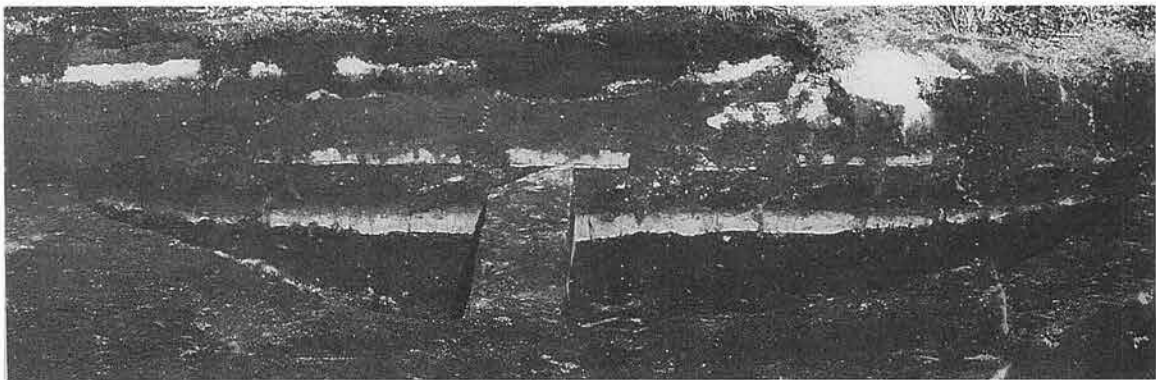
写真图版20 第12号住居跡



炭化材検出

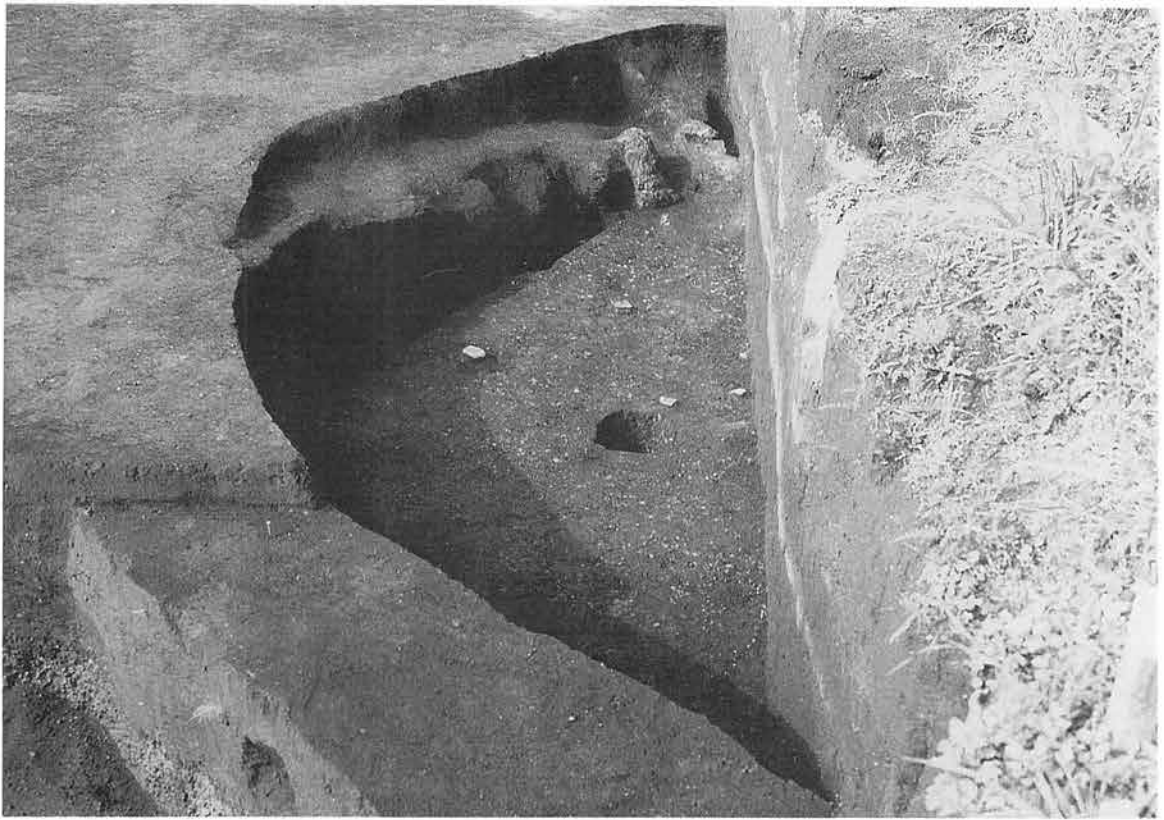


断面



断面

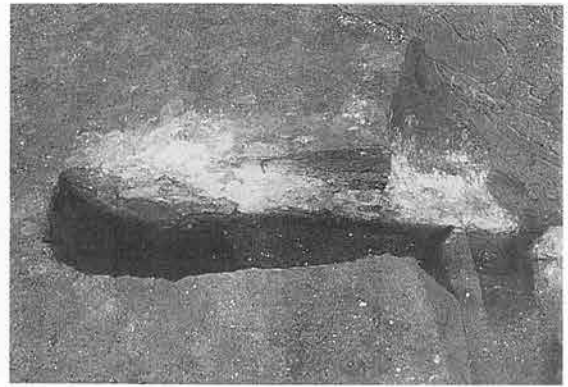
写真図版21 第13号住居跡(1)



平面



炭化材・遺物出土状況



煙道部 断面



煙道部 断面

写真図版22 第13号住居跡(2)



平面



断面



カマド検出

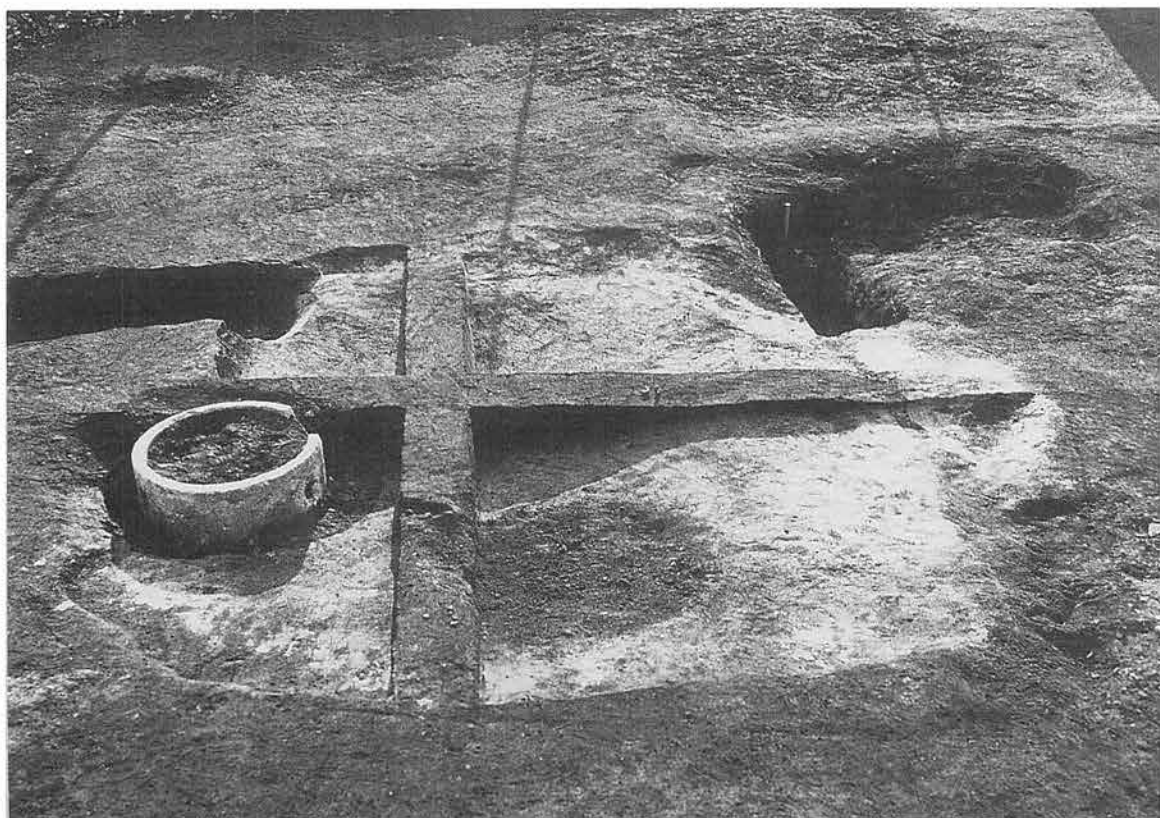


袖部 断面

写真図版23 第14号住居跡

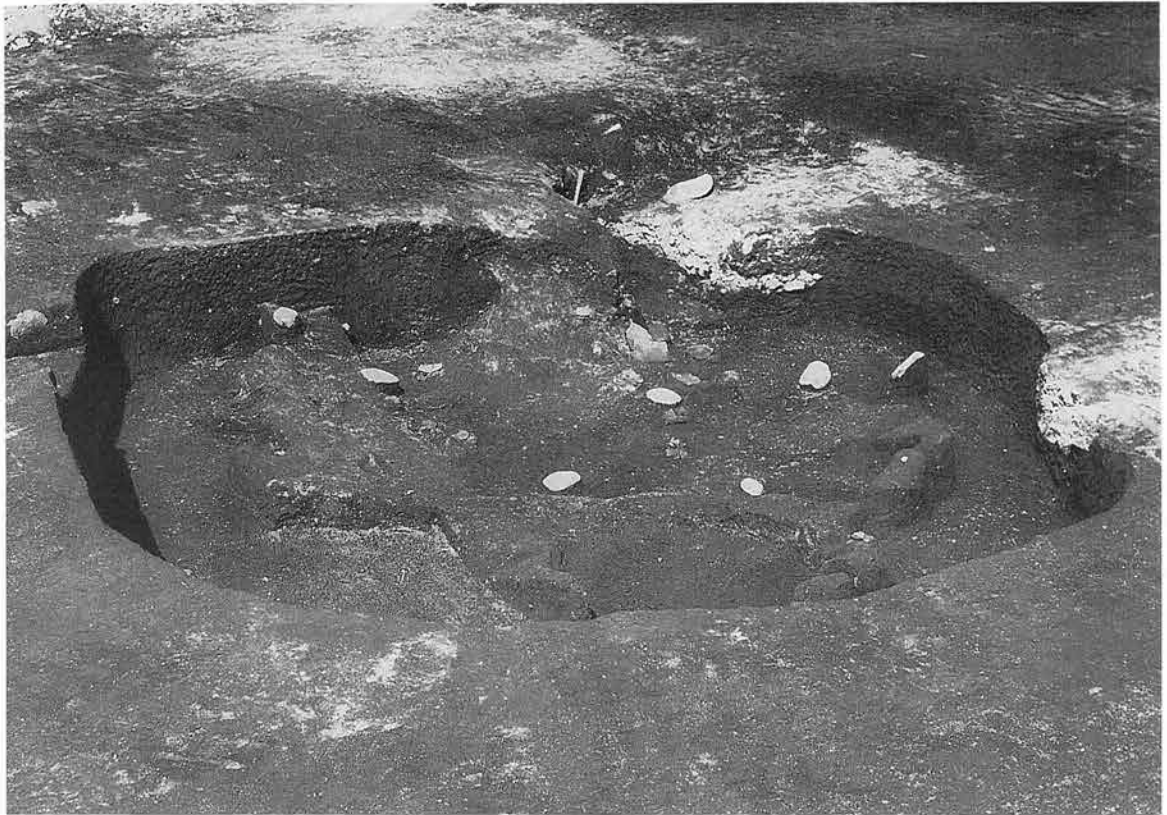


検出

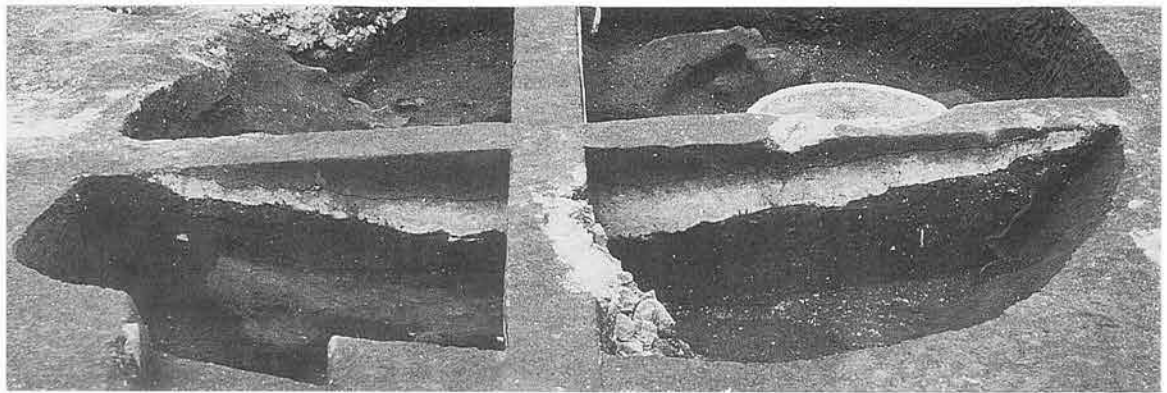


火山灰検出

写真図版24 第15号住居跡(1)



炭化材・遺物出土状況



断面

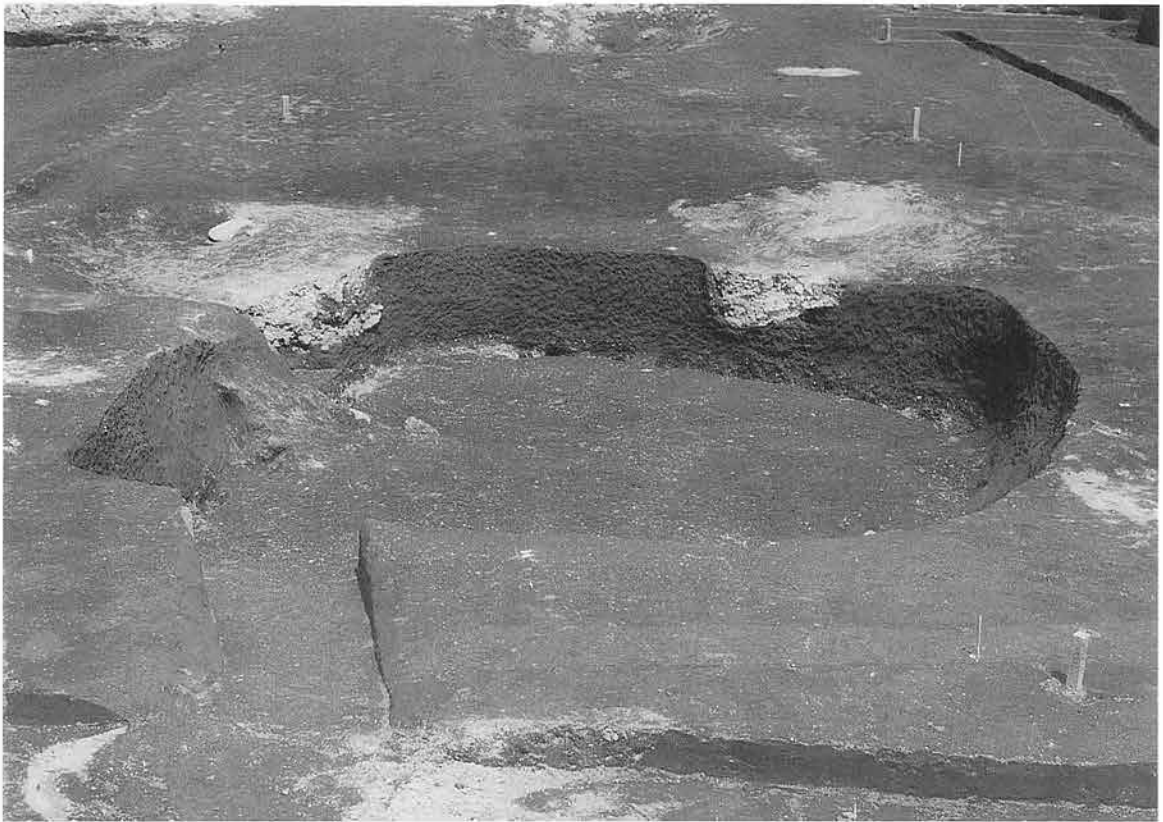


遺物出土状況



壁溝 断面

写真図版25 第15号住居跡(2)



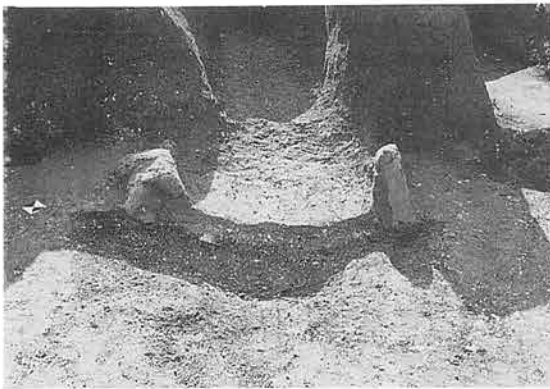
平面



カマド検出



袖部 断面

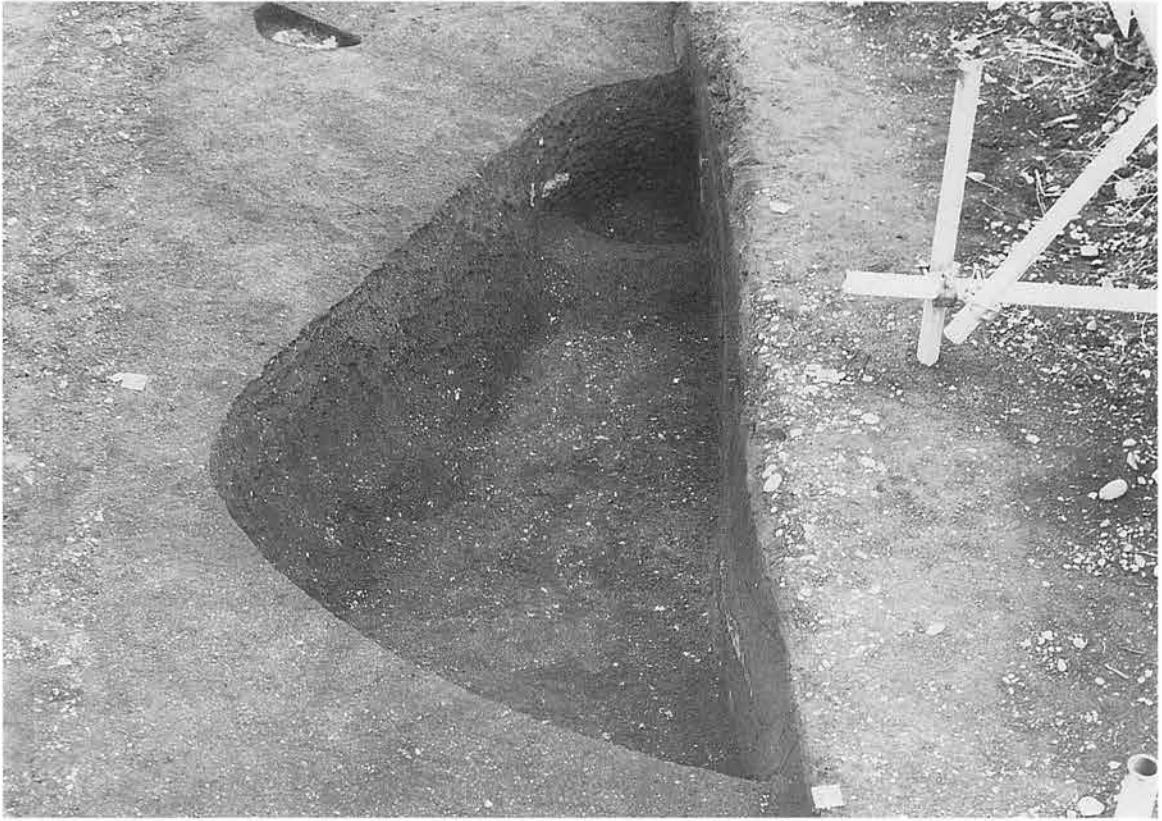


燃烧部 断面

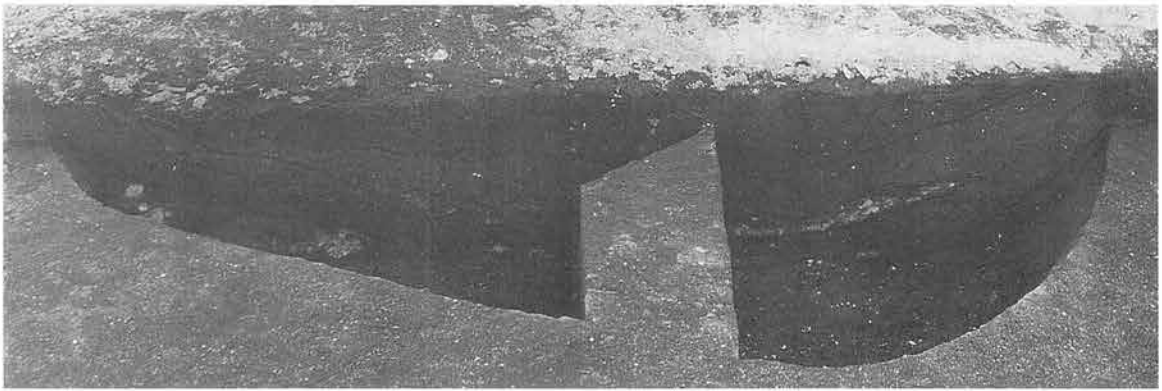


煙道部 断面

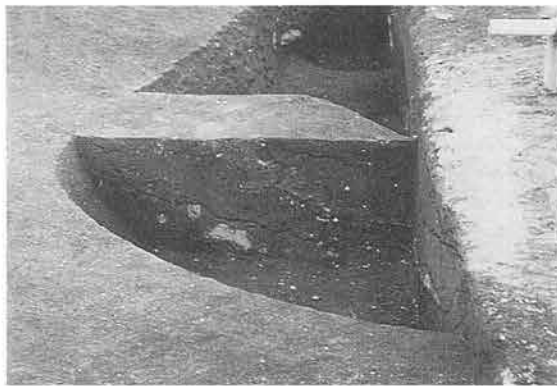
写真図版26 第15号住居跡 (3)



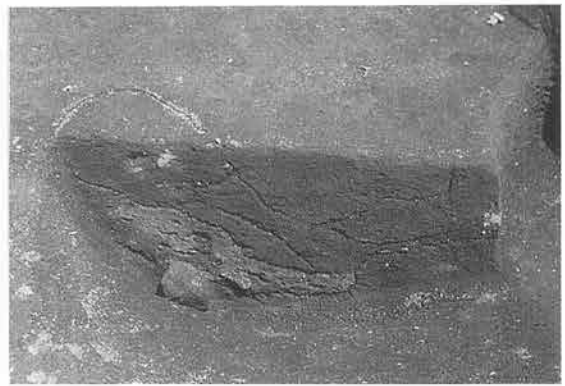
平面



断面



断面

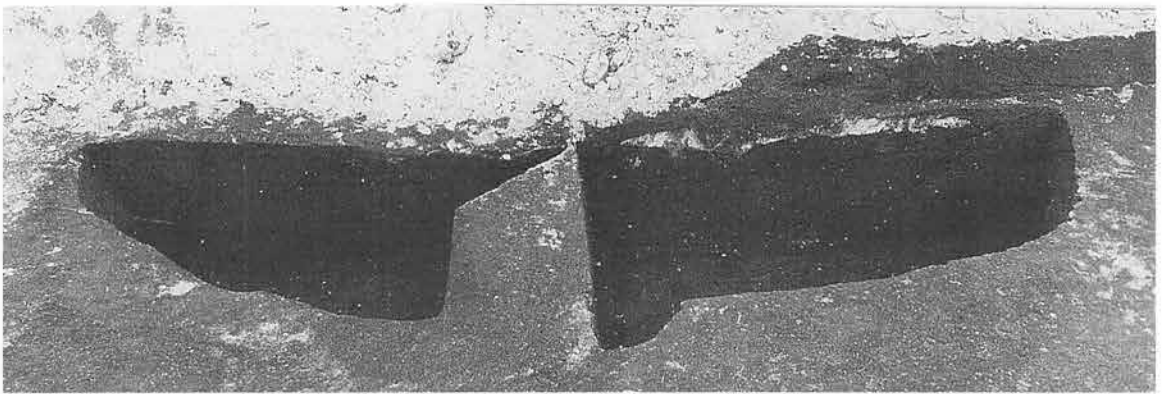


煙道部 断面

写真図版27 第16号住居跡



平面

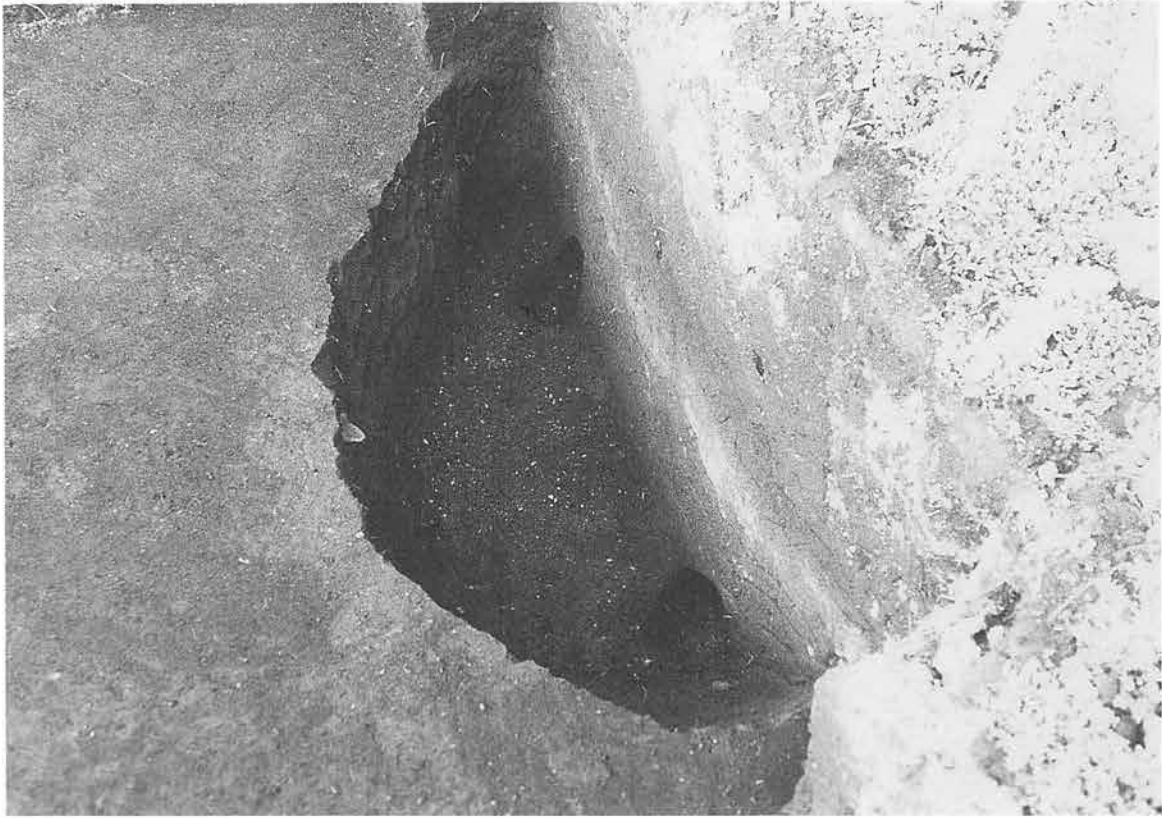


断面

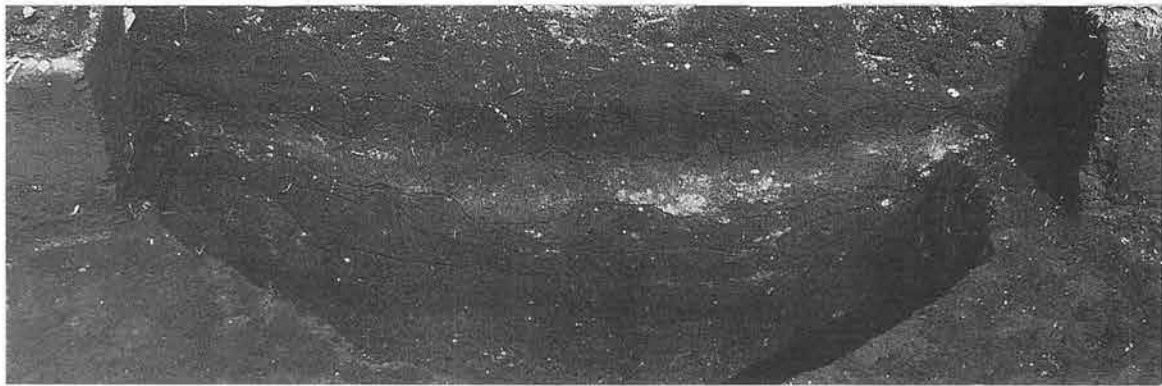


断面

写真图版28 第17号住居跡



平面



断面

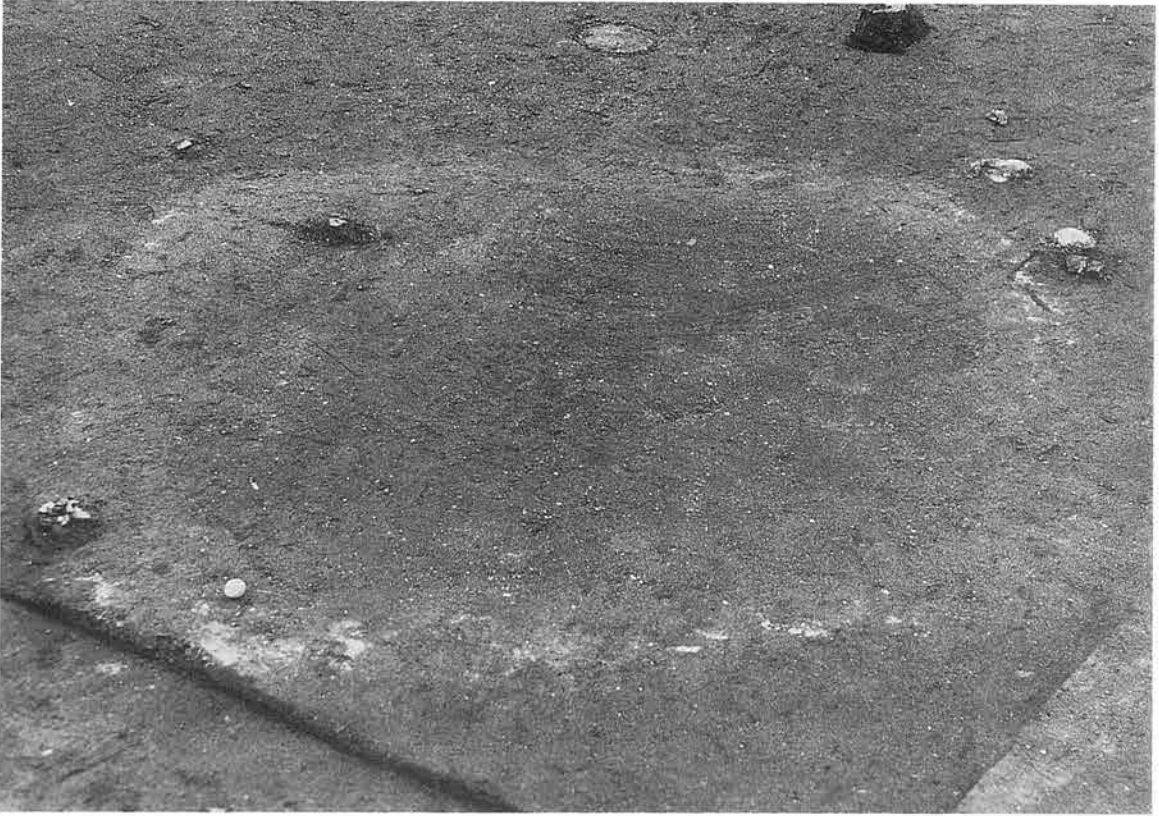


6-②③区精査状況



作業風景

写真図版29 第18号住居跡



検出

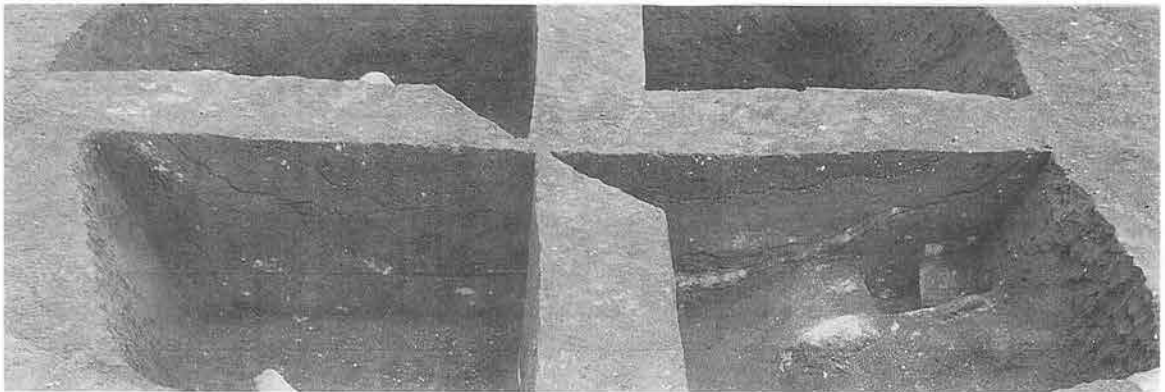


平面(1)

写真図版30 第19号住居跡(1)



平面 (2)



断面



袖部 断面

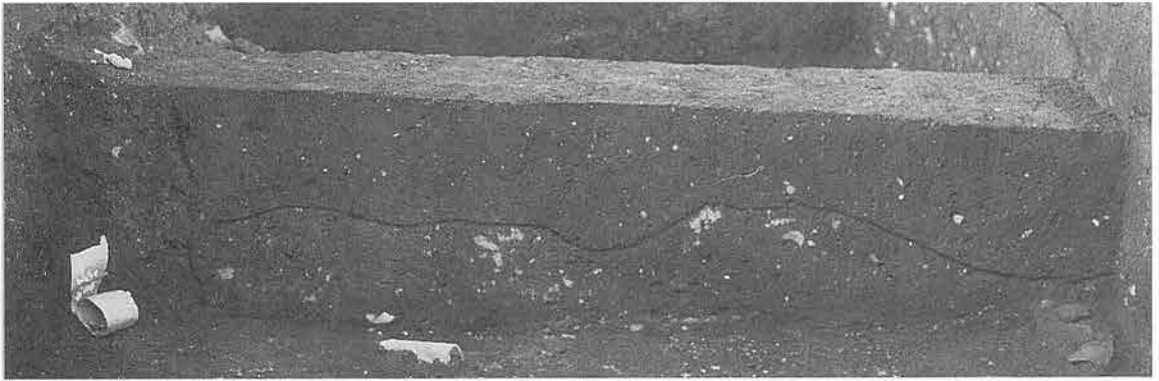


煙道部 断面

写真図版31 第19号住居跡 (2)



平面



断面

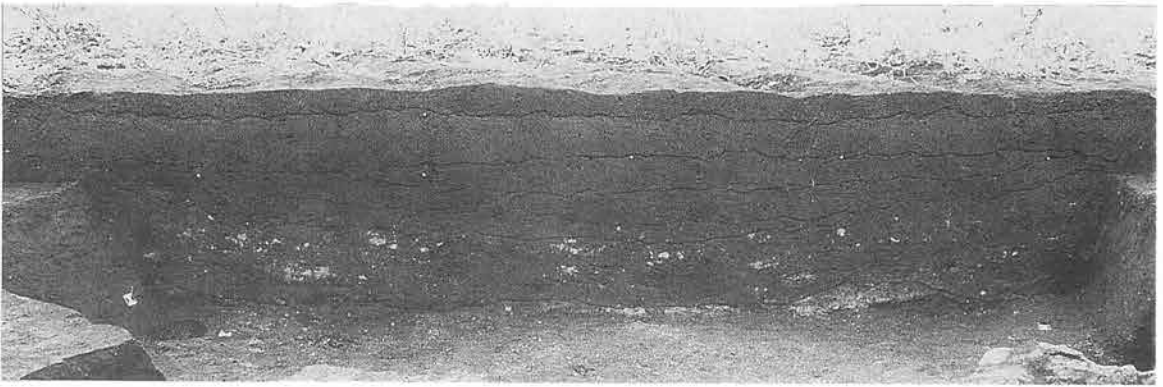


断面

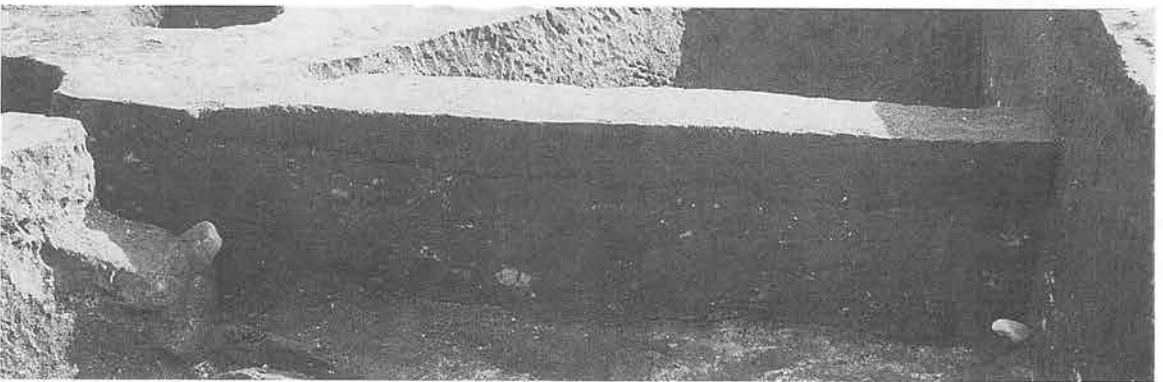
写真図版32 第20号住居跡



炭化材・遺物出土状況



断面



断面

写真図版33 第21号住居跡(1)



平面



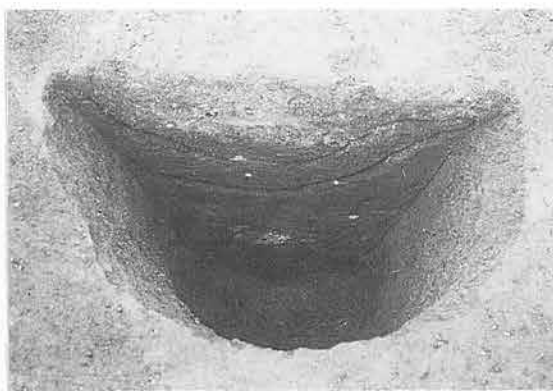
カマド検出



袖部 断面



煙出し部 隙検出



P2断面

写真図版34 第21号住居跡(2)



平面 (H11年度)



断面 (A-A')

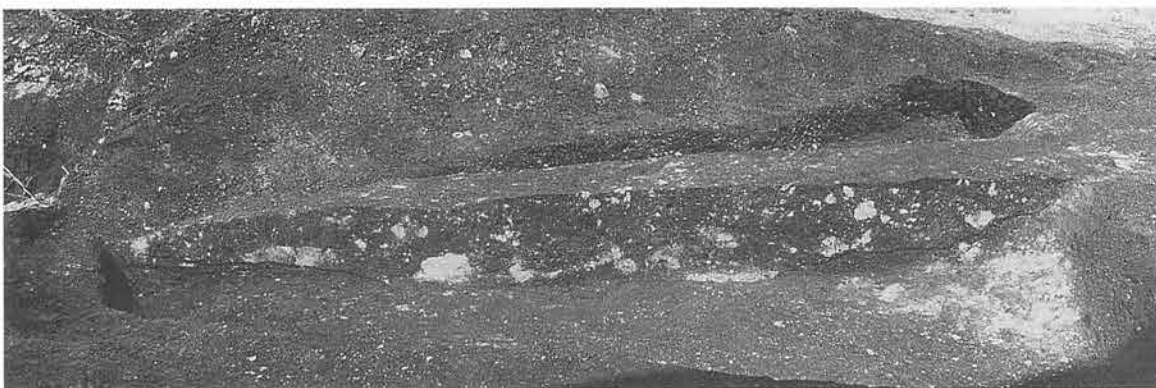


断面 (B-B')

写真図版35 第22号住居跡 (1)



平面（平成12年度①）



断面（E-E'）



断面（D-D'）

写真図版36 第22号住居跡（2）



平面（平成12年度②）



カマド袖石検出



煙道部 断面

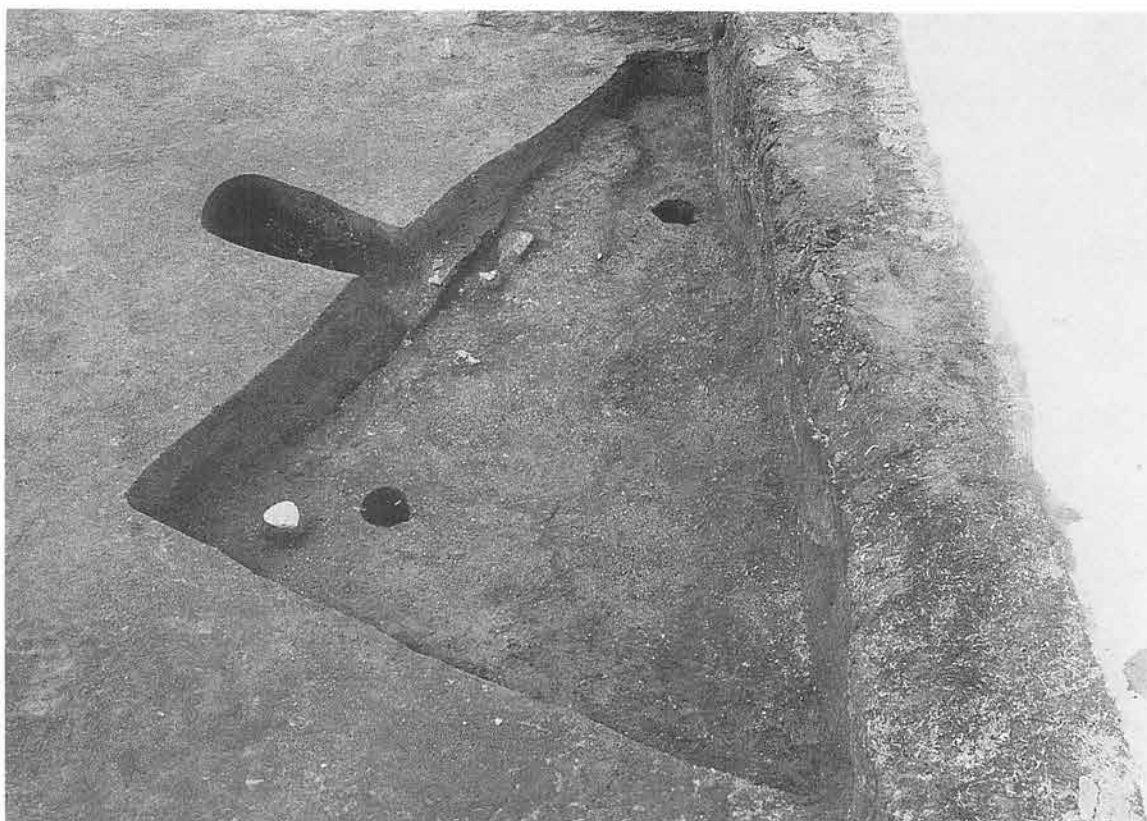


袖部 断面

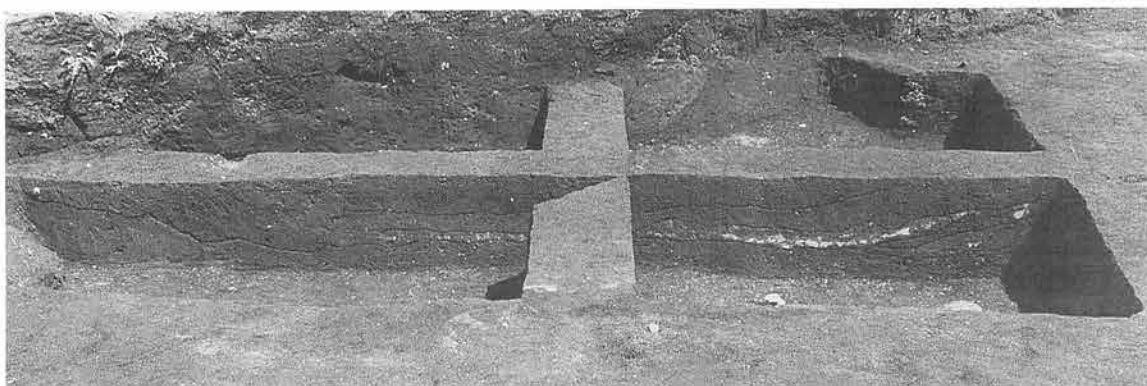


煙道部 断面

写真図版37 第22号住居跡（3）



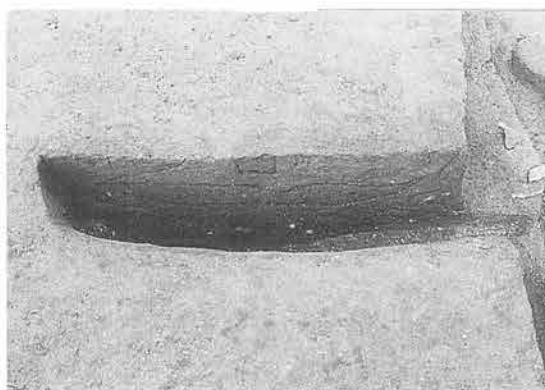
平面 (H11年度)



断面 (B-B')

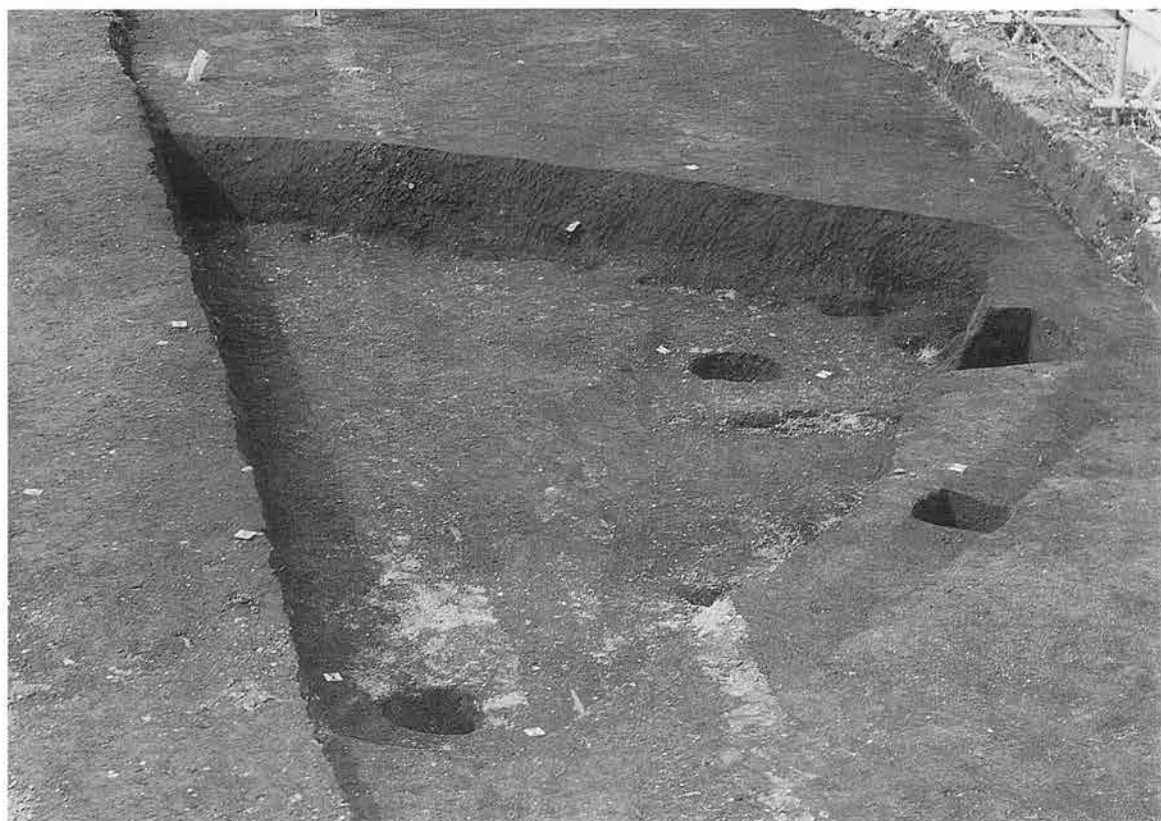


遺物出土状況

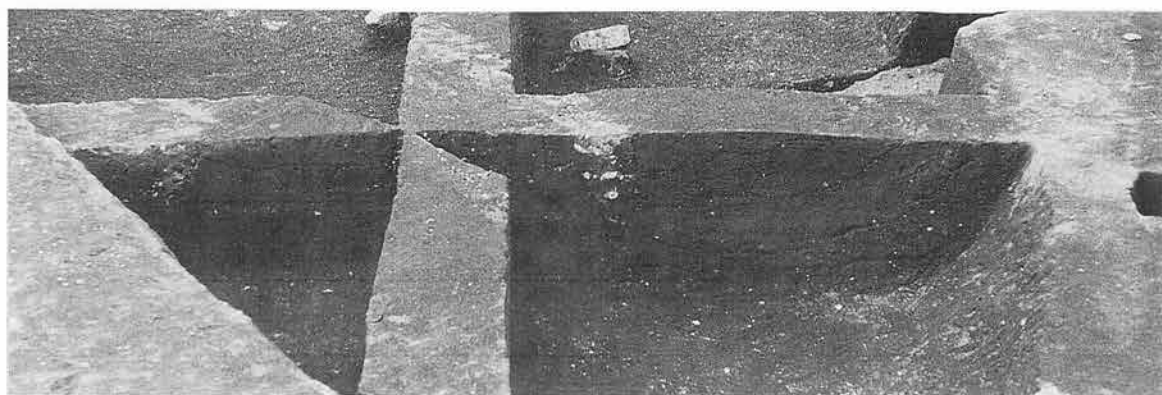


煙道部 断面

写真図版38 第23号住居跡 (1)



平面 (H12年度)



断面 (C-C')

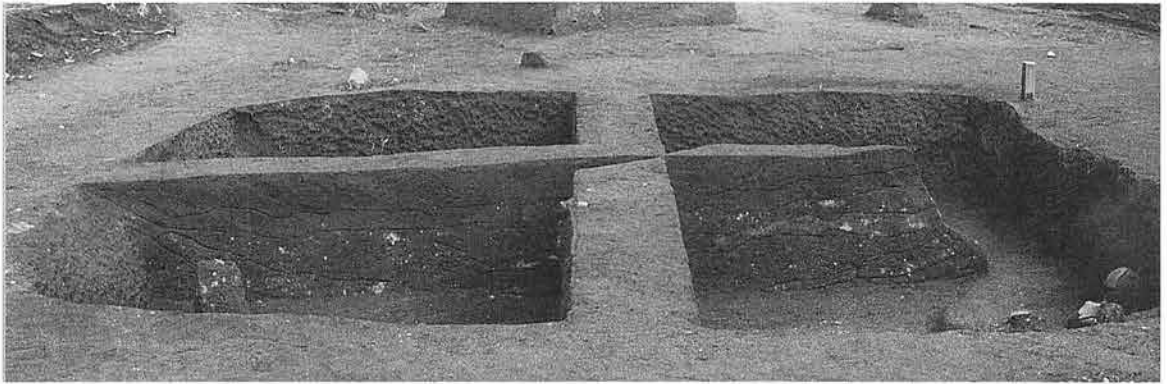


断面 (D-D')

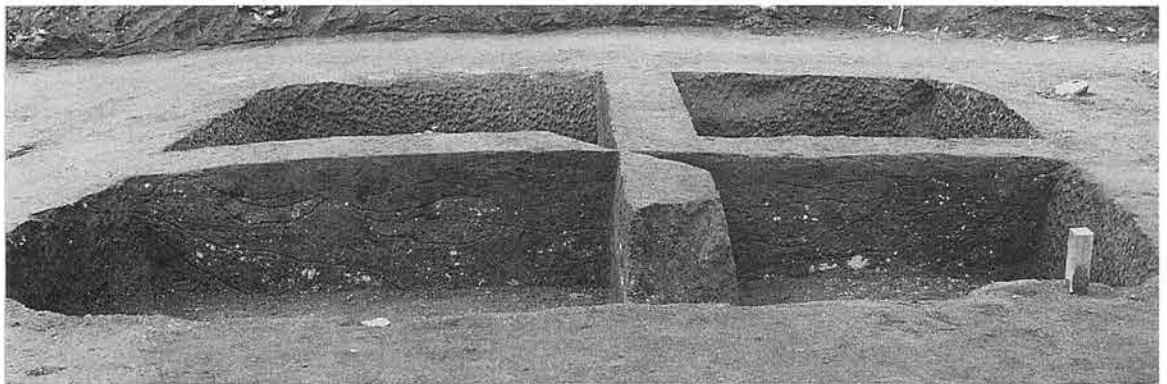
写真図版39 第23号住居跡 (2)



平面 (1)

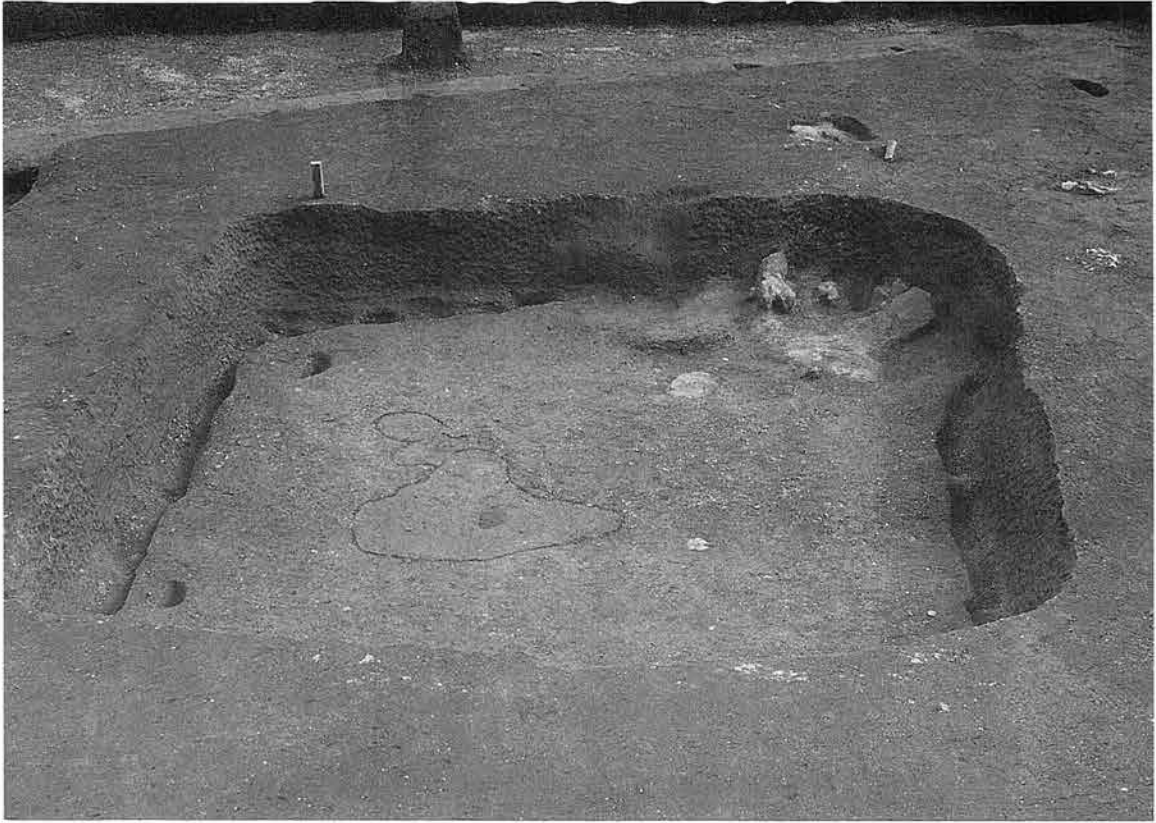


断面

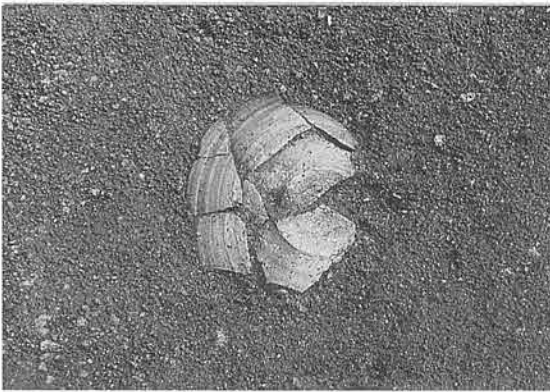


断面

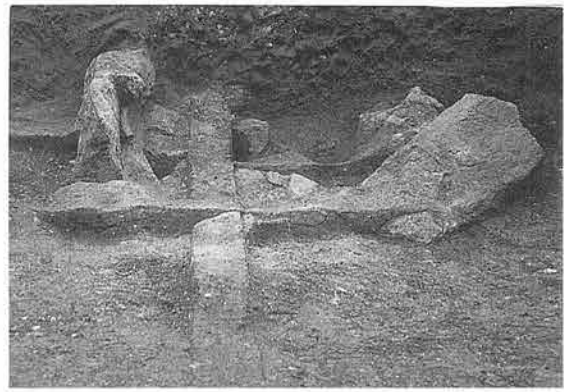
写真図版40 第24号住居跡 (1)



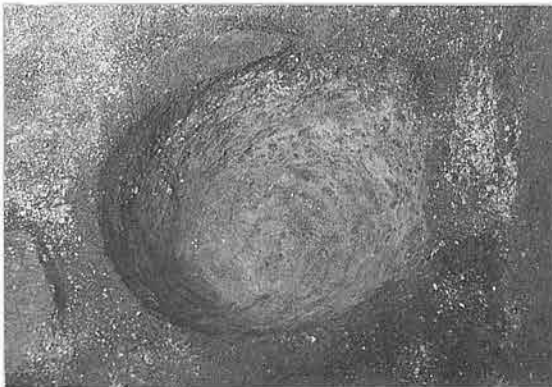
平面 (2)



遺物出土状況



燃烧部 断面



貯蔵穴 平面

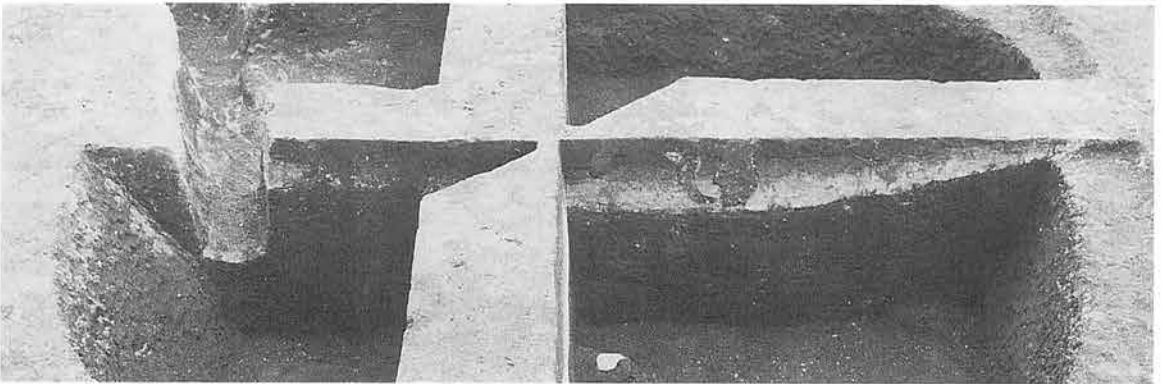


煙道部 断面

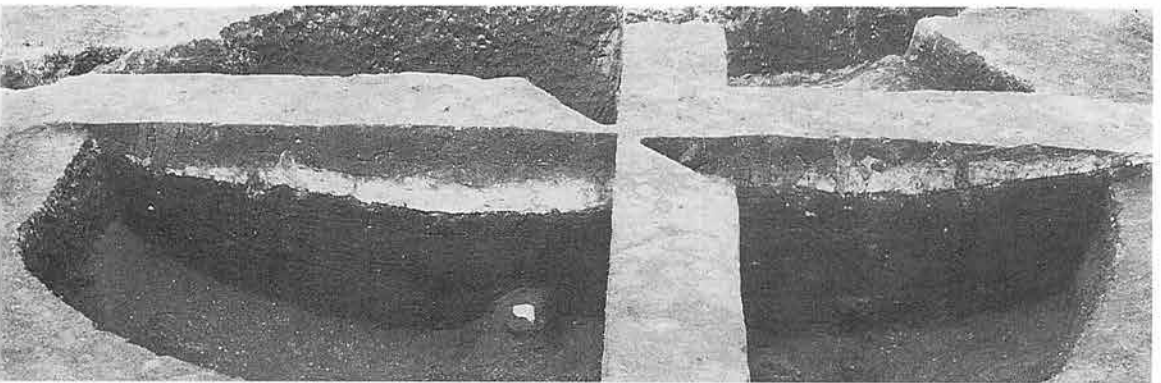
写真図版41 第24号住居跡 (2)



平面



断面

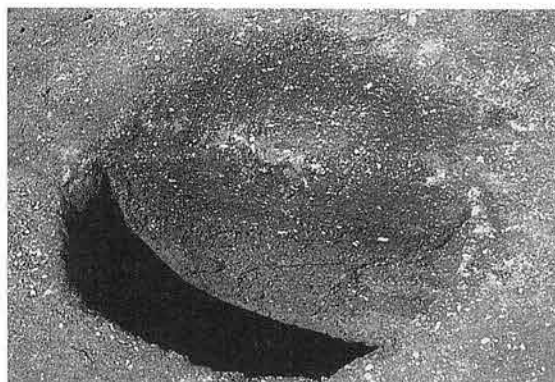


断面

写真图版42 第1号住居状遺構



第1号土坑 平面



第1号土坑 断面



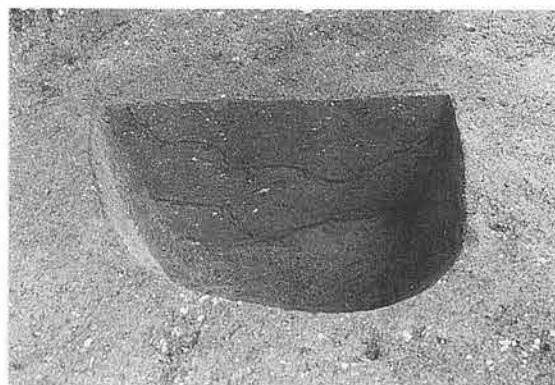
第2号土坑 平面



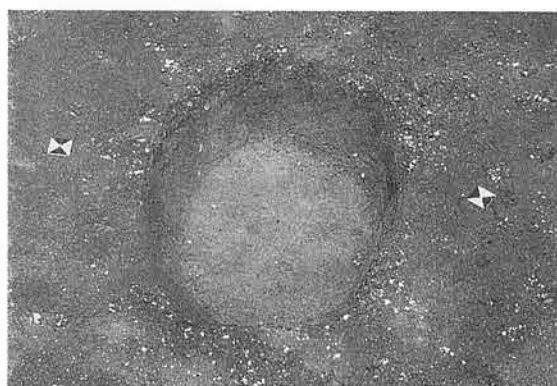
第2号土坑 断面



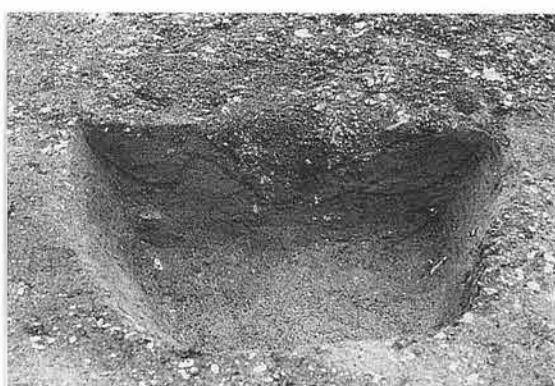
第3号土坑 平面



第3号土坑 断面



第4号土坑 平面

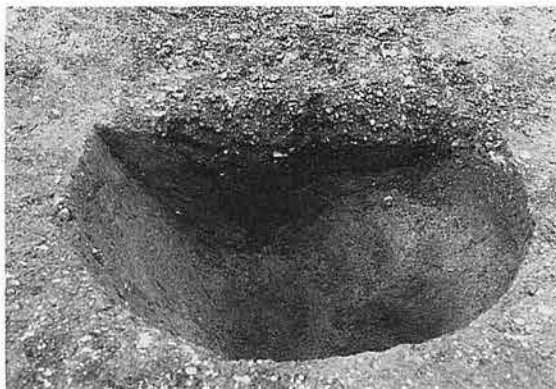


第4号土坑 断面

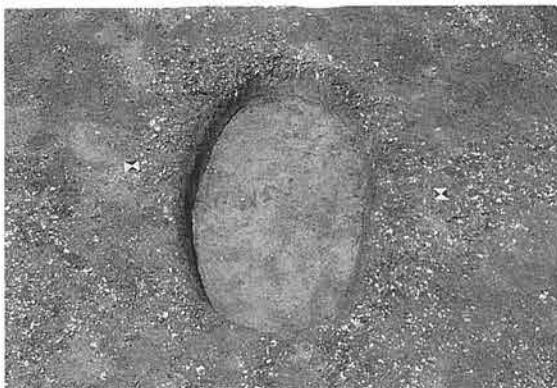
写真図版43 第1～4号土坑



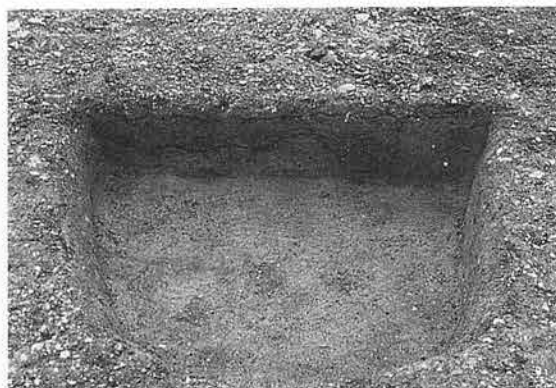
第5号土坑 平面



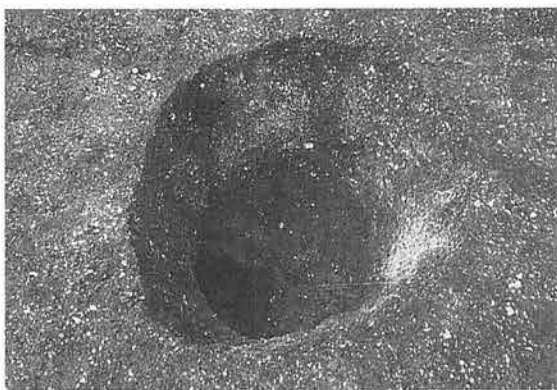
第5号土坑 断面



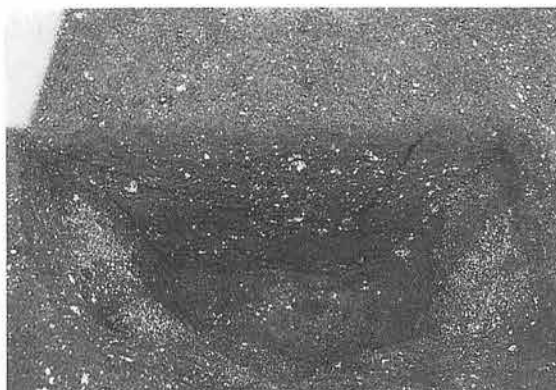
第6号土坑 平面



第6号土坑 断面



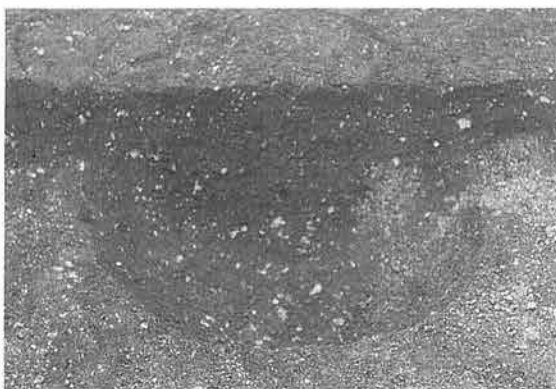
第7号土坑 平面



第7号土坑 断面



第8号土坑 平面

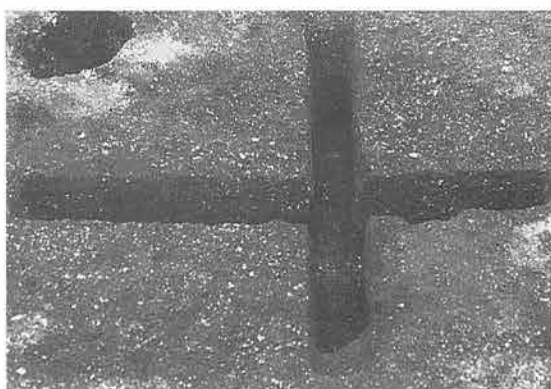


第8号土坑 断面

写真図版44 第5～8号土坑



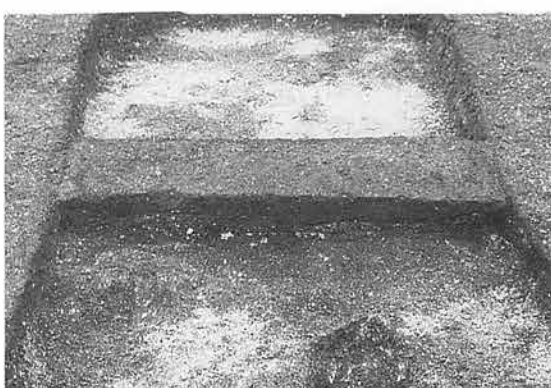
第9号土坑 平面



第9号土坑 断面



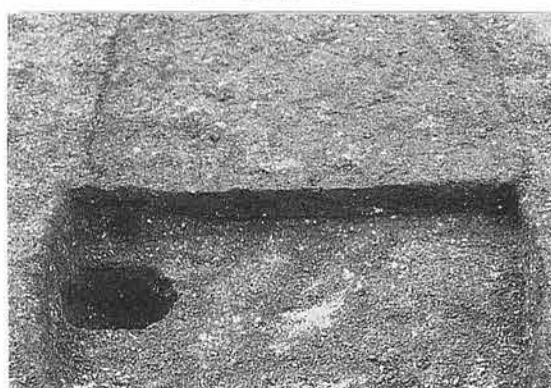
第10号土坑 平面



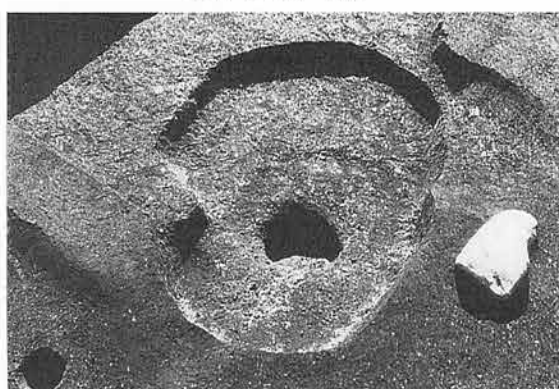
第10号土坑 断面



第11号土坑 平面



第11号土坑 断面



第12号土坑 平面



第12号土坑 断面

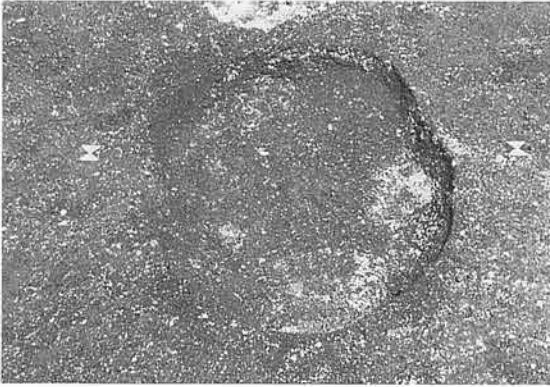
写真图版45 第9~12号土坑



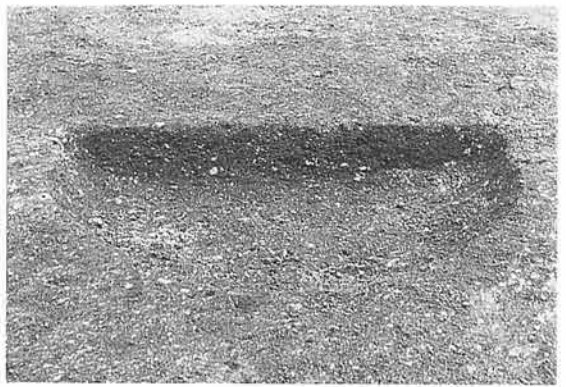
第13号土坑 平面



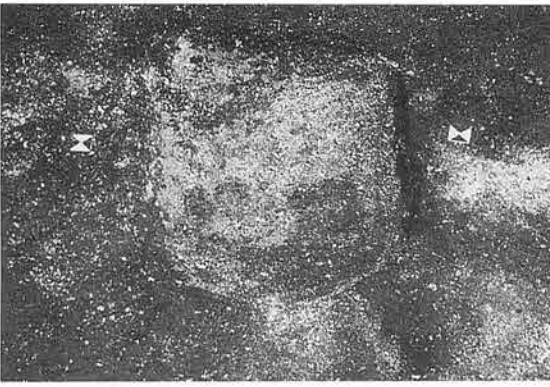
第13号土坑 断面



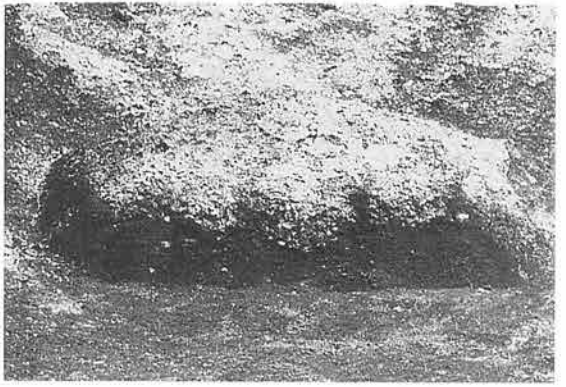
第14号土坑 平面



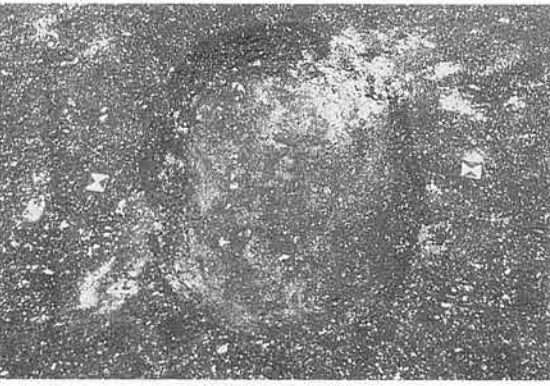
第14号土坑 断面



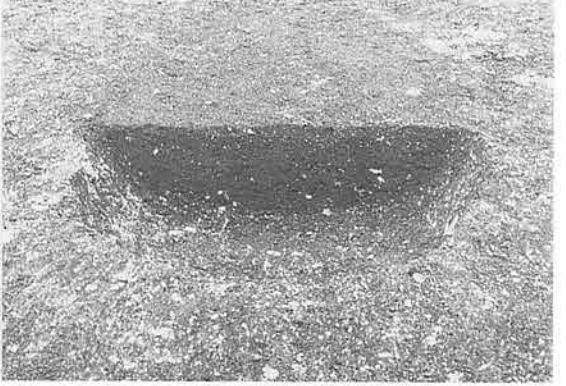
第15号土坑 平面



第15号土坑 断面

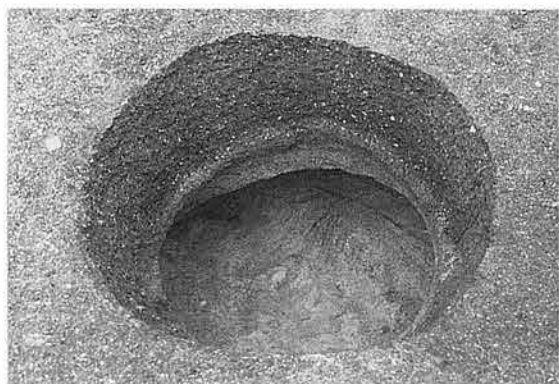


第16号土坑 平面

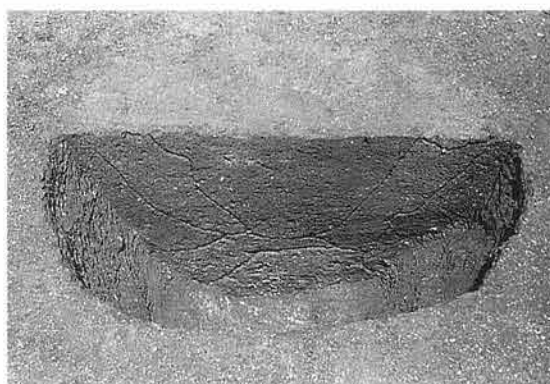


第16号土坑 断面

写真图版46 第13~16号土坑



第17号土坑 平面



第17号土坑 断面



第18号土坑 平面



第18号土坑 断面



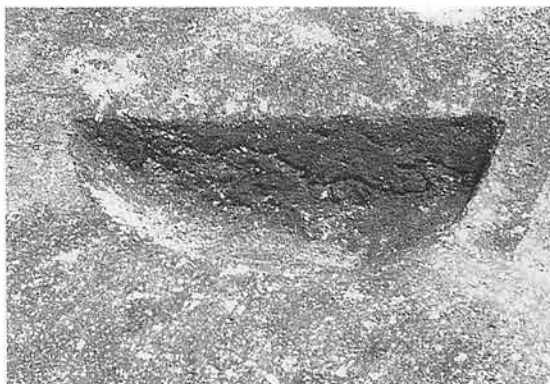
第19号土坑 平面



第19号土坑 断面

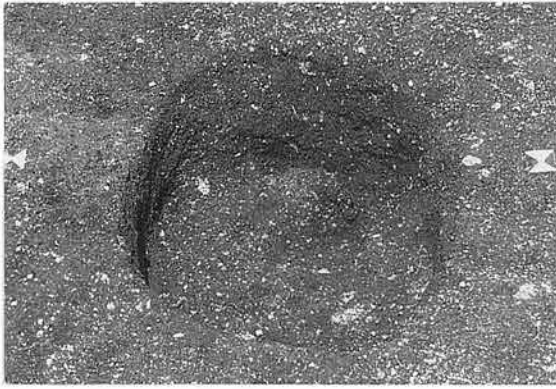


第20号土坑 平面

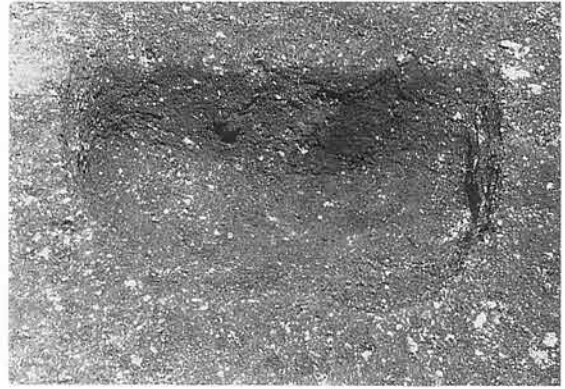


第20号土坑 断面

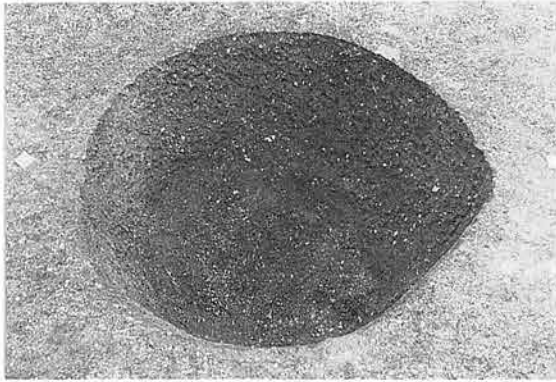
写真图版47 第17~20号土坑



第21号土坑 平面



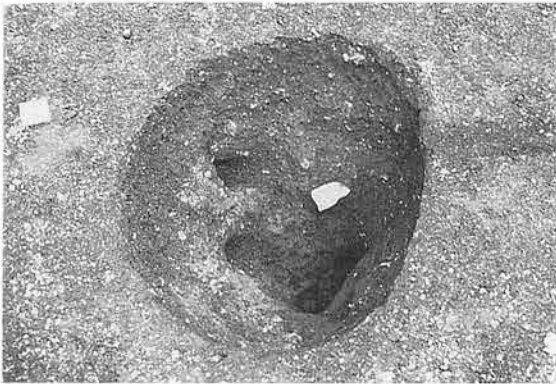
第21号土坑 断面



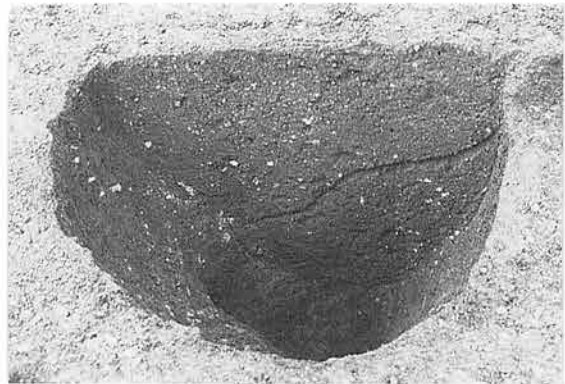
第22号土坑 平面



第22号土坑 断面



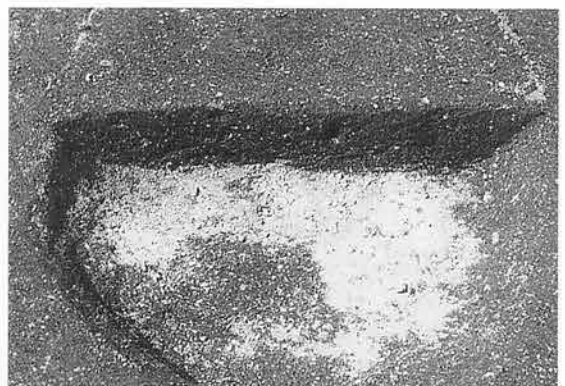
第23号土坑 平面



第23号土坑 断面



第24号土坑 平面

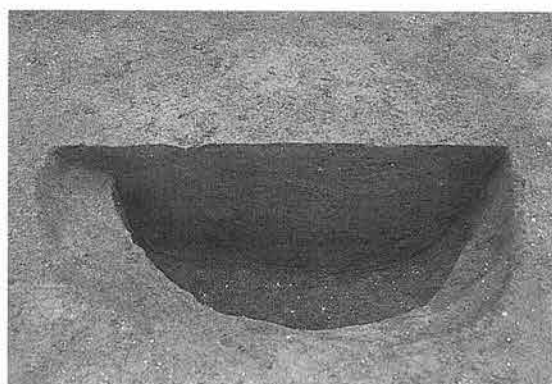


第24号土坑 断面

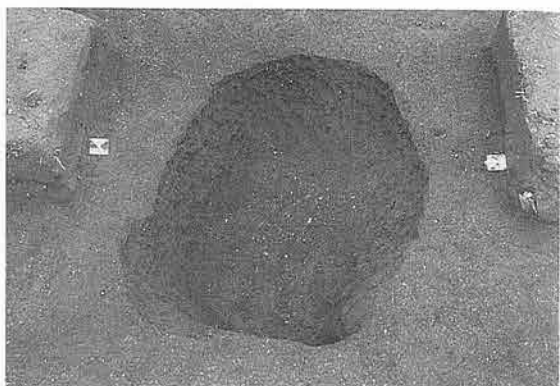
写真図版48 第21～24号土坑



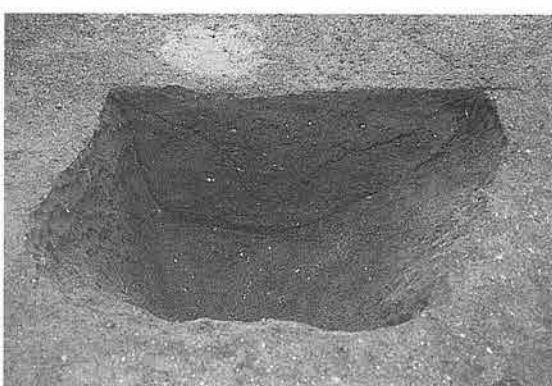
第25号土坑 平面



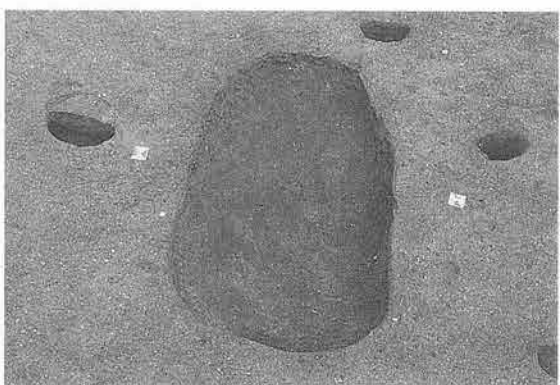
第25号土坑 断面



第26号土坑 平面



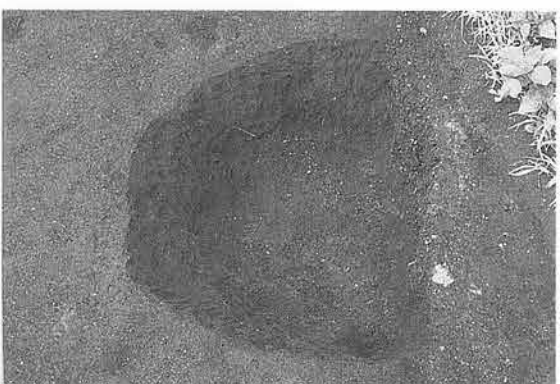
第26号土坑 断面



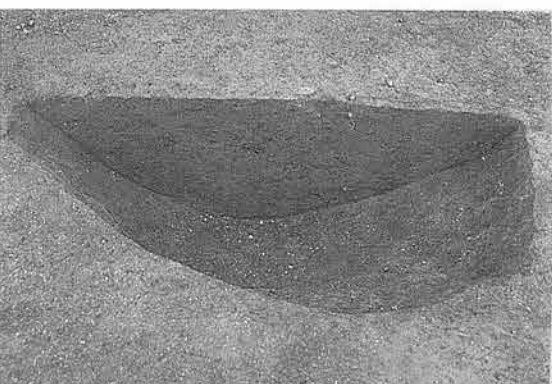
第27号土坑 平面



第27号土坑 断面

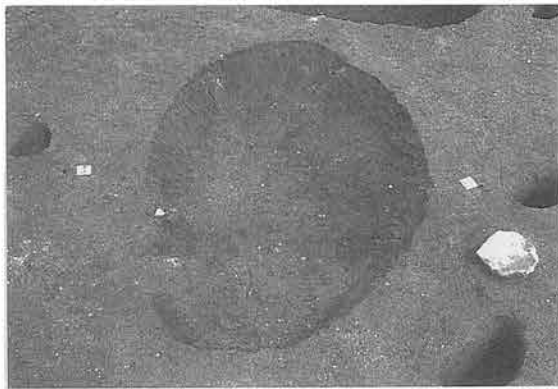


第28号土坑 平面

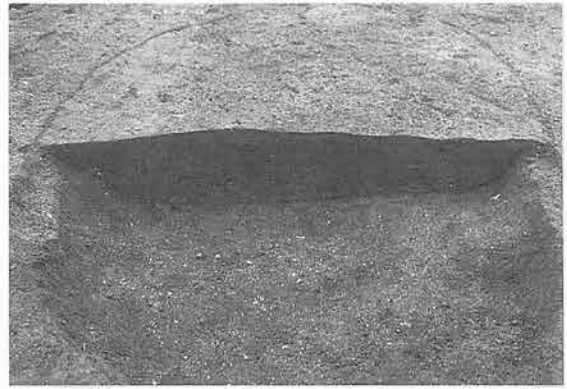


第28号土坑 断面

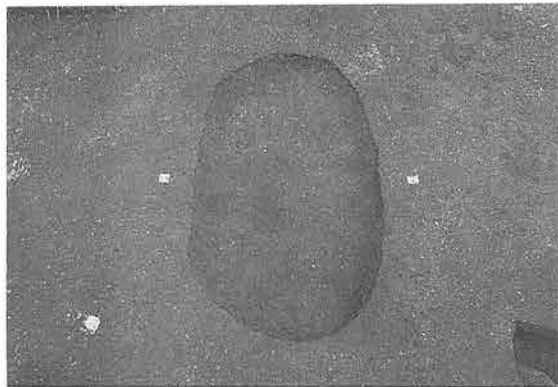
写真图版49 第25~28号土坑



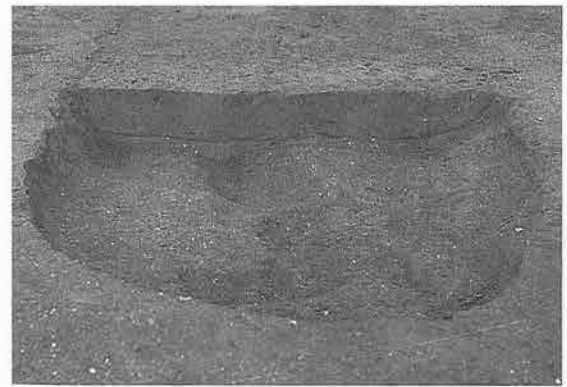
第29号土坑 平面



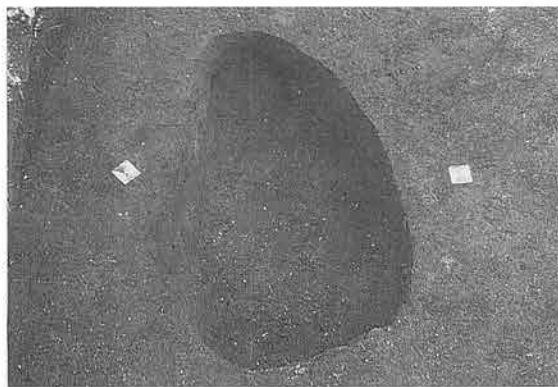
第29号土坑 断面



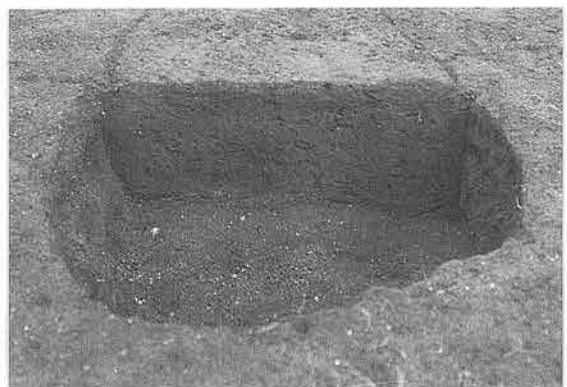
第30号土坑 平面



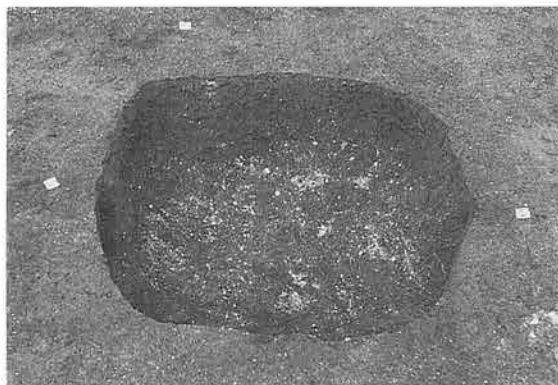
第30号土坑 断面



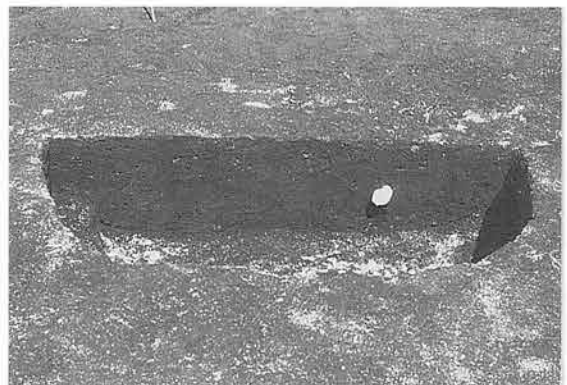
第31号土坑 平面



第31号土坑 断面



第32号土坑 平面



第32号土坑 断面

写真図版50 第29～32号土坑



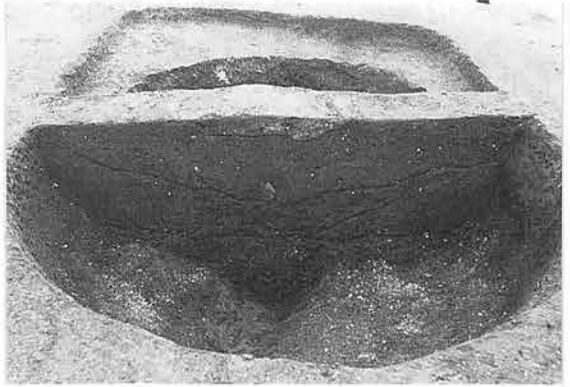
第33号土坑 平面



第33号土坑 断面



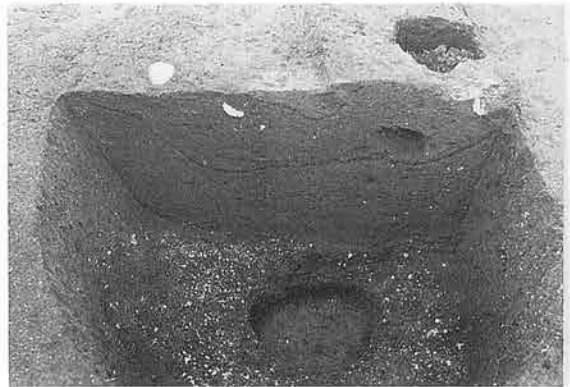
第34号土坑 平面



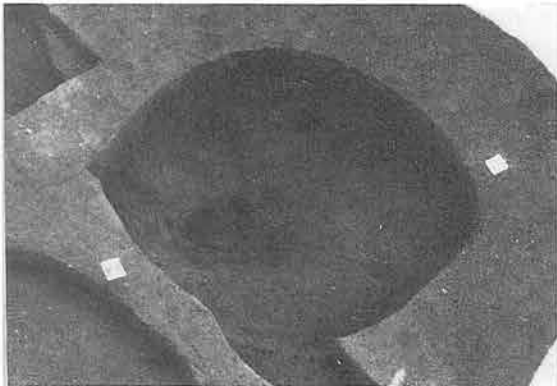
第34号土坑 断面



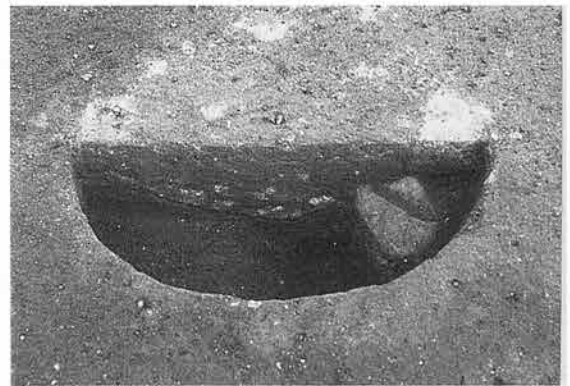
第35号土坑 平面



第35号土坑 断面

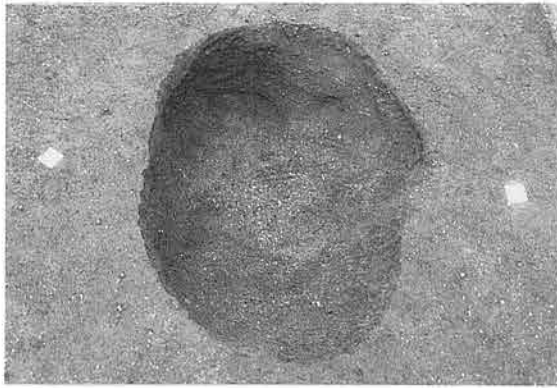


第36号土坑 平面



第36号土坑 断面

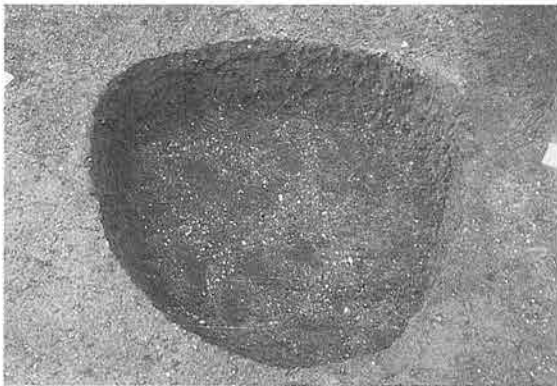
写真图版51 第33~36号土坑



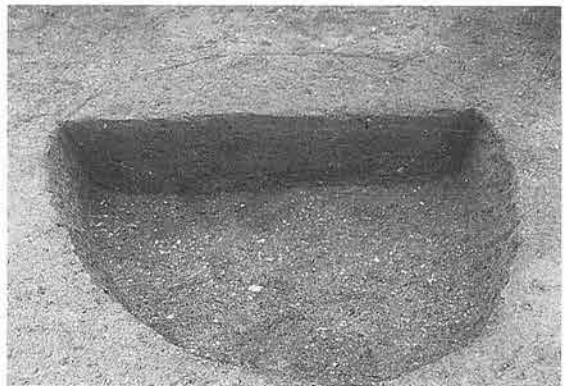
第37号土坑 平面



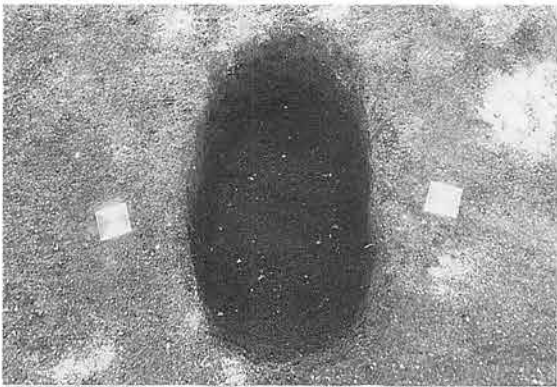
第37号土坑 断面



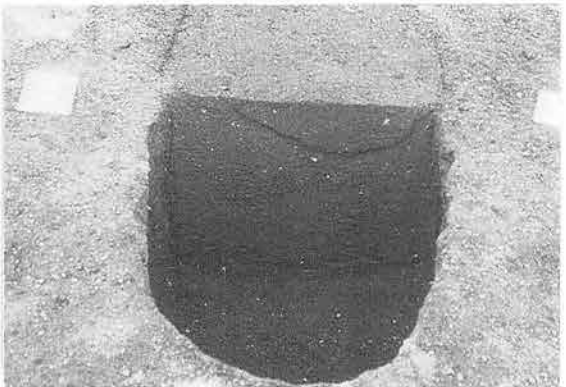
第38号土坑 平面



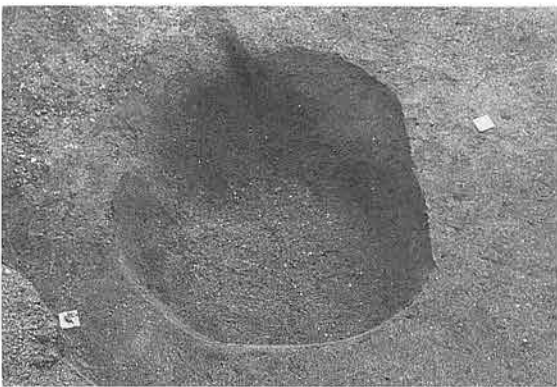
第38号土坑 断面



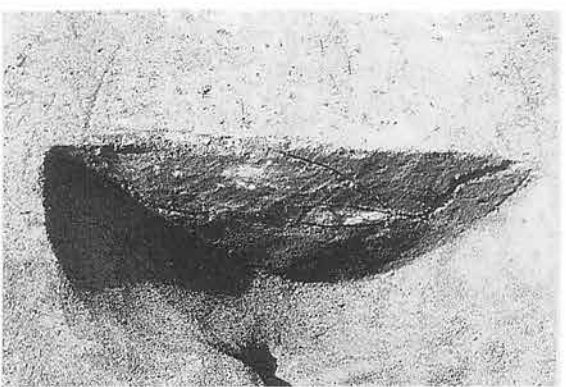
第39号土坑 平面



第39号土坑 断面



第40号土坑 平面

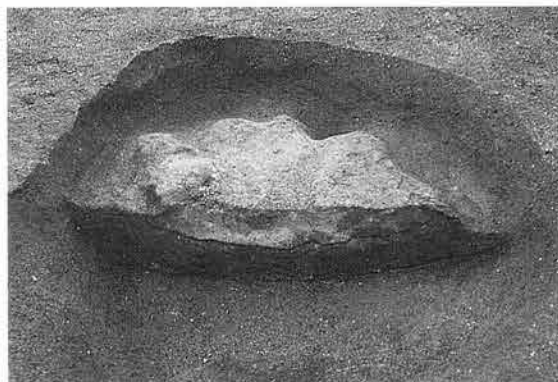


第40号土坑 断面

写真图版52 第37~40号土坑 (1)



第40号土坑内烧土 平面



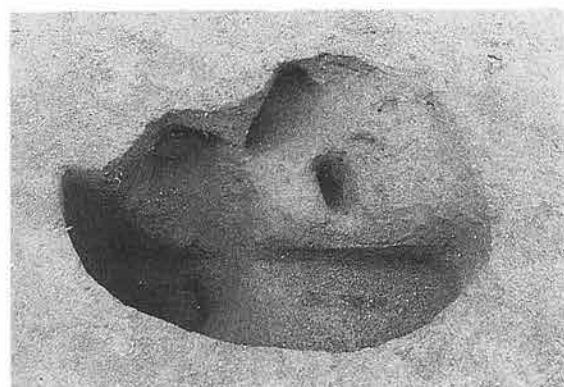
第40号土坑内烧土 断面



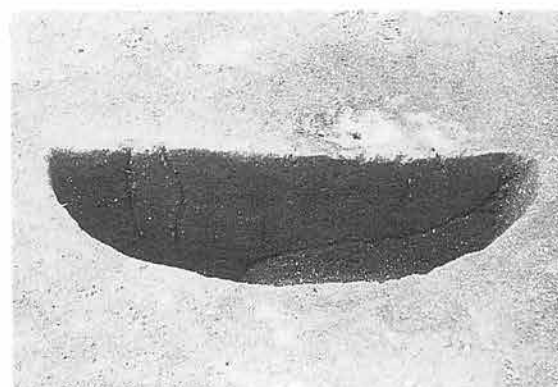
第41号土坑 平面



第41号土坑 断面



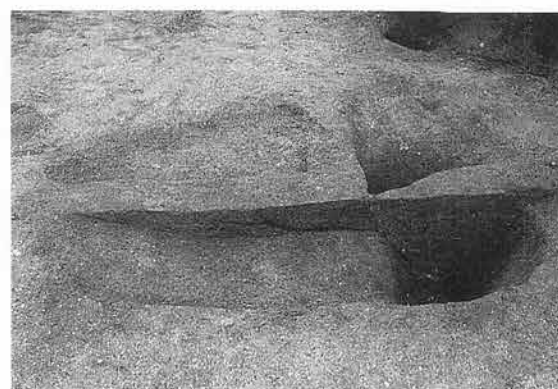
第42号土坑 平面



第42号土坑 断面



第43号土坑 平面



第43号土坑 断面

写真图版53 第40(2)~43号土坑



第44号土坑 平面



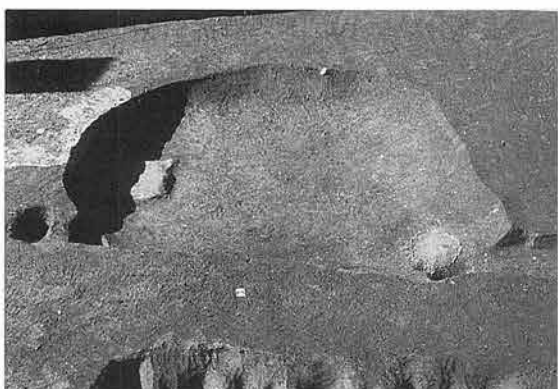
第44号土坑 断面



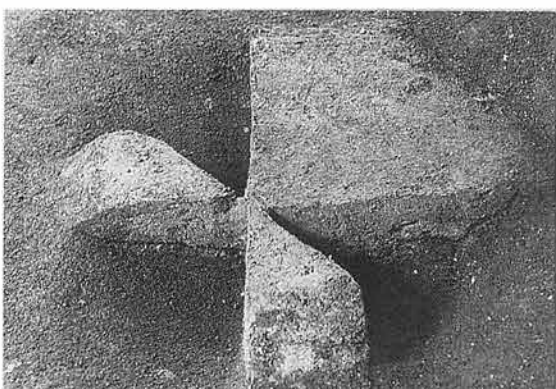
第45号土坑 平面



第45号土坑 断面



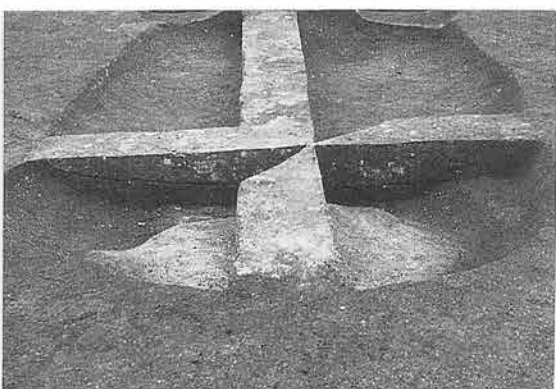
第45号土坑内烧土 平面



第45号土坑内烧土 断面

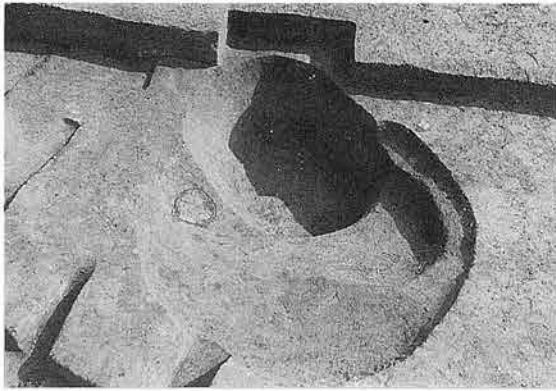


第46号土坑 平面

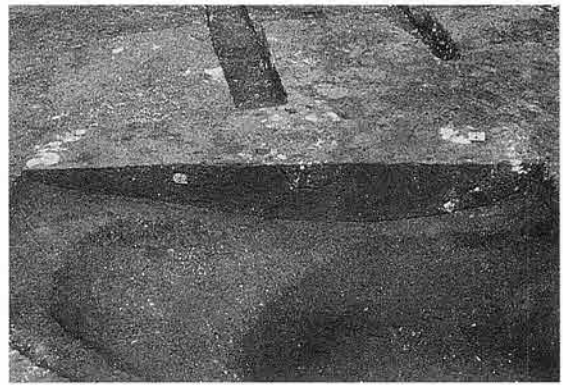


第46号土坑 断面

写真图版54 第44~46号土坑



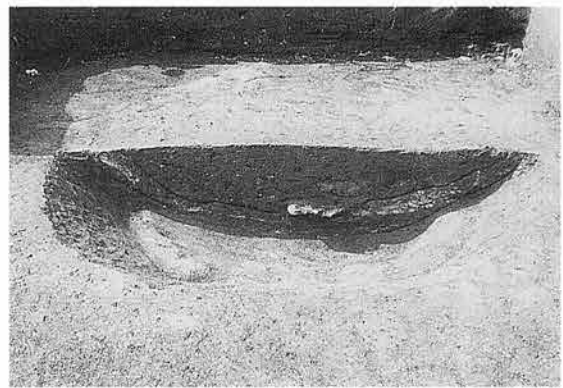
第47·48号土坑 平面



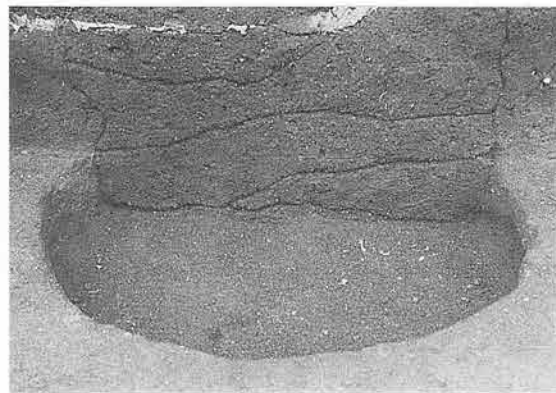
第48号土坑 断面



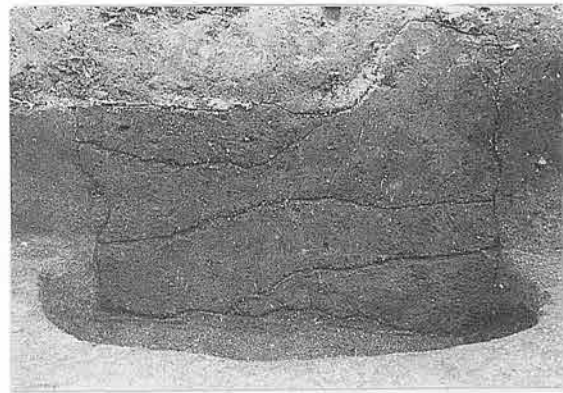
第49号土坑 平面



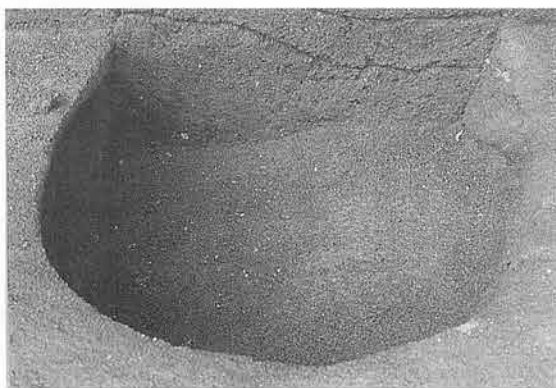
第49号土坑 断面



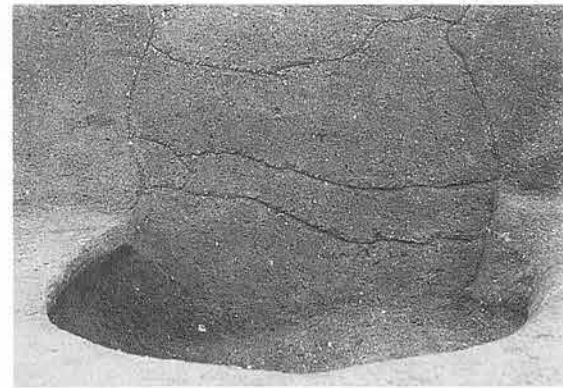
第50号土坑 平面



第50号土坑 断面

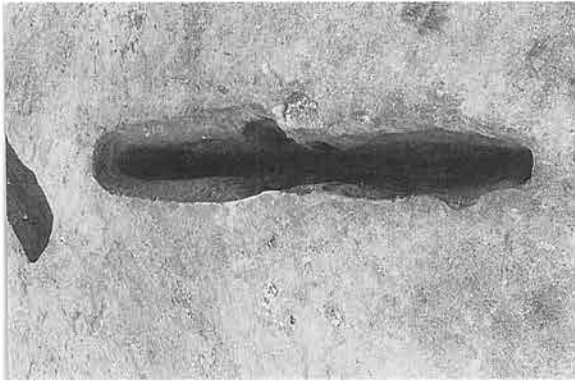


第51号土坑 平面



第51号土坑 断面

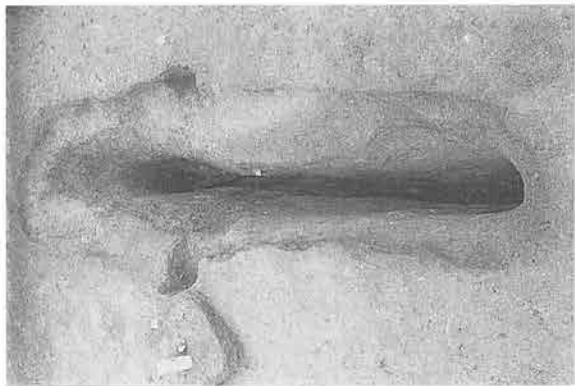
写真图版55 第47~51号土坑



第1号陥し穴状遺構 平面



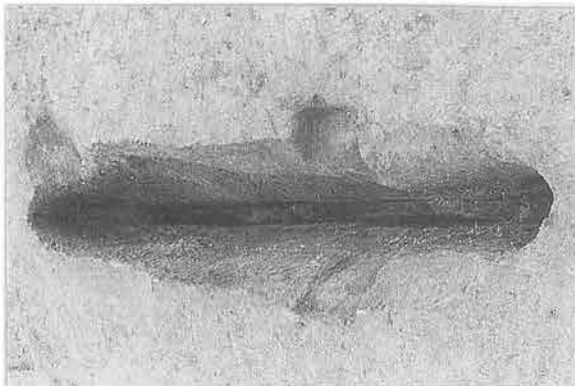
第1号陥し穴状遺構 断面



第2号陥し穴状遺構 平面



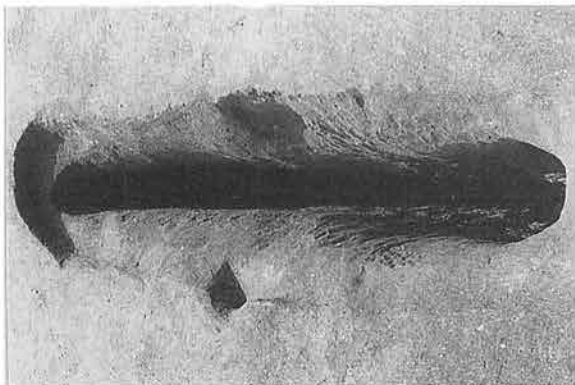
第2号陥し穴状遺構 断面



第3号陥し穴状遺構 平面



第3号陥し穴状遺構 断面



第4号陥し穴状遺構 平面

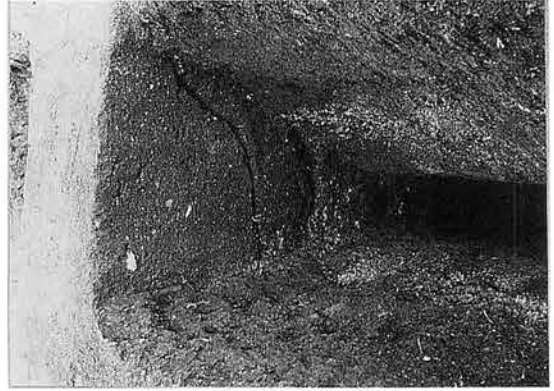


第4号陥し穴状遺構 断面

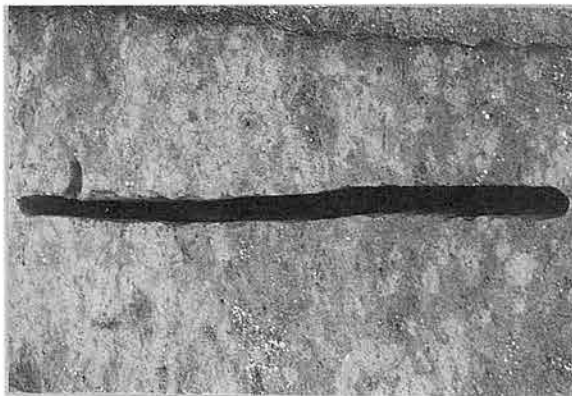
写真図版56 第1～4号陥し穴状遺構



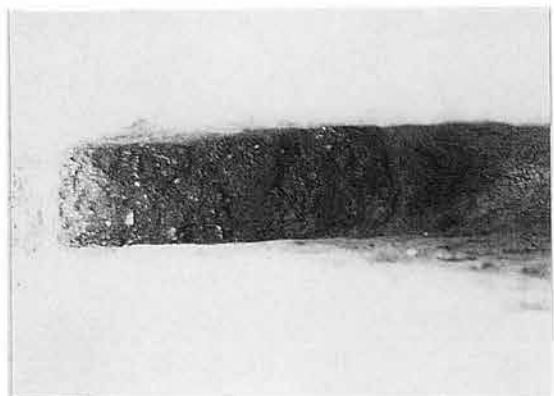
第5号陥し穴状遺構 平面



第5号陥し穴状遺構 断面



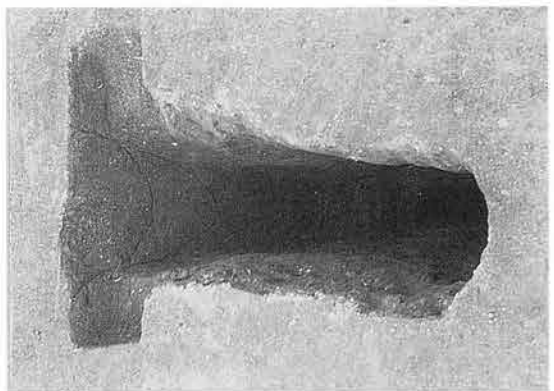
第6号陥し穴状遺構 平面



第6号陥し穴状遺構 断面

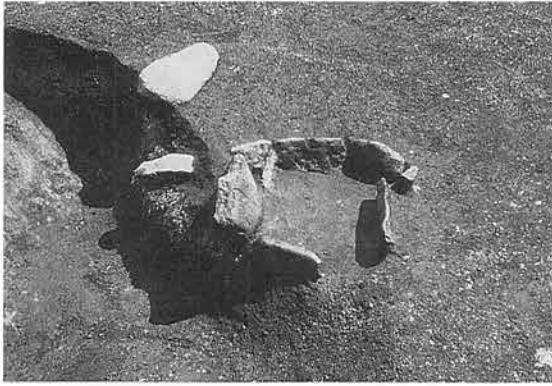


第7号陥し穴状遺構 平面

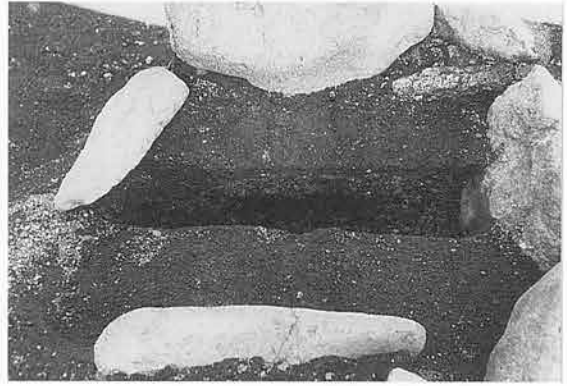


第7号陥し穴状遺構 断面

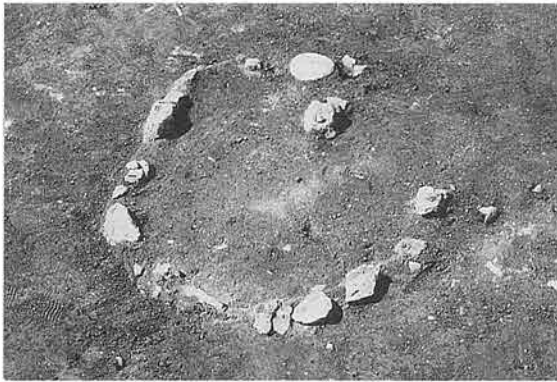
写真図版57 第5～7号陥し穴状遺構



第1号石田炉 平面



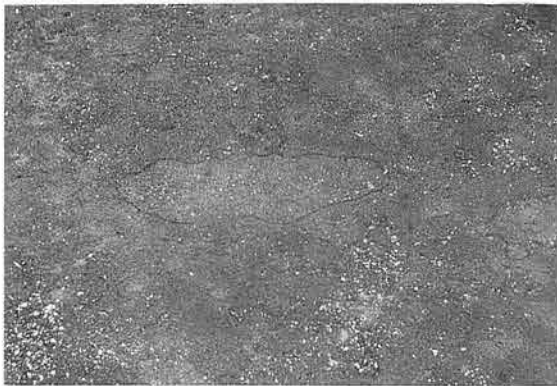
第1号石田炉 断面



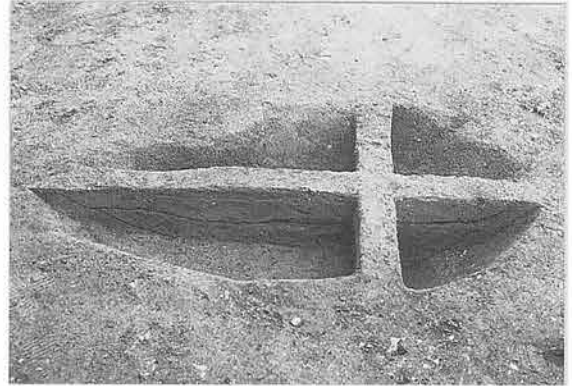
第2号石田炉 平面



第2号石田炉 断面



第1号烧土 平面



第1号烧土 断面



第2号烧土 平面

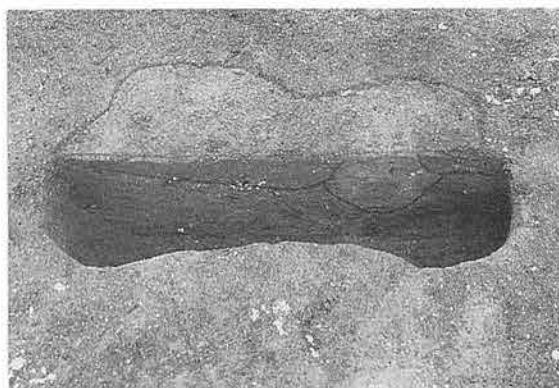


第2号烧土 断面

写真图版58 第1・2号石田炉, 第1・2号烧土



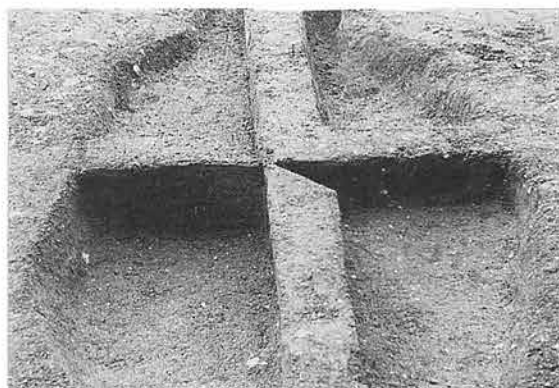
第3号烧土 平面



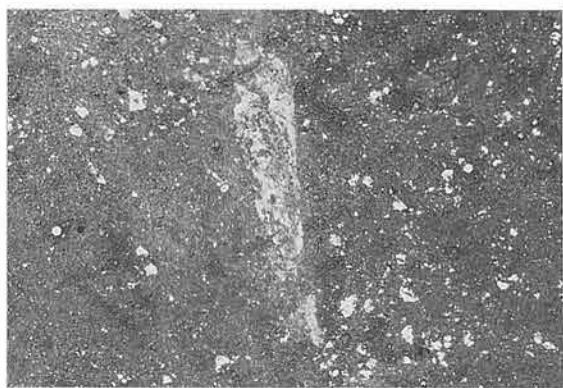
第3号烧土 断面



第4号烧土 平面



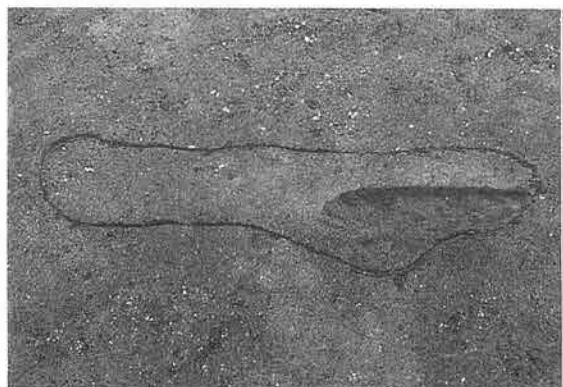
第4号烧土 断面



第5号烧土 平面



第5号烧土 断面



第6号烧土 平面



第6号烧土 断面

写真图版59 第3~6号烧土



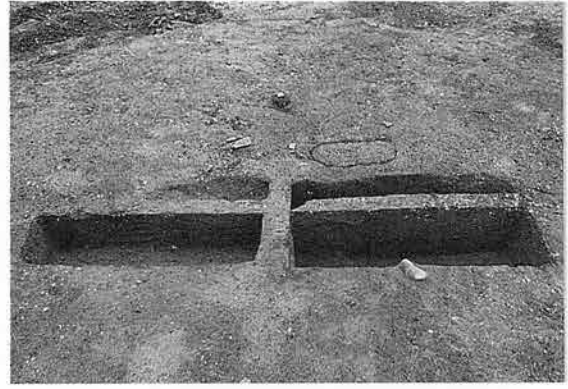
第7号烧土 平面



第7号烧土 断面



第8号烧土 平面



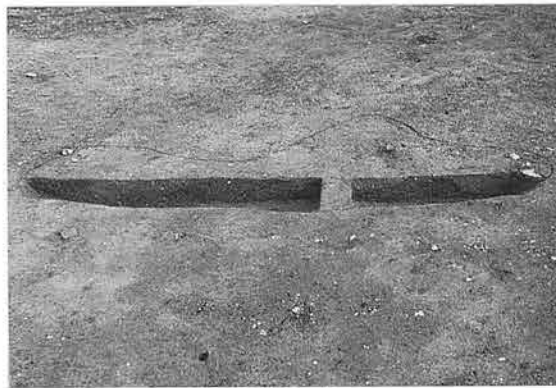
第8号烧土 断面



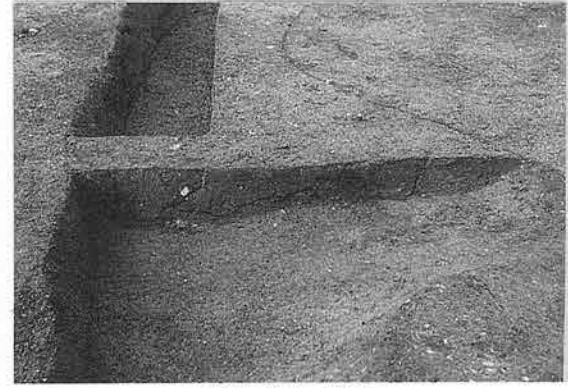
第9号烧土 平面



第9号烧土 断面

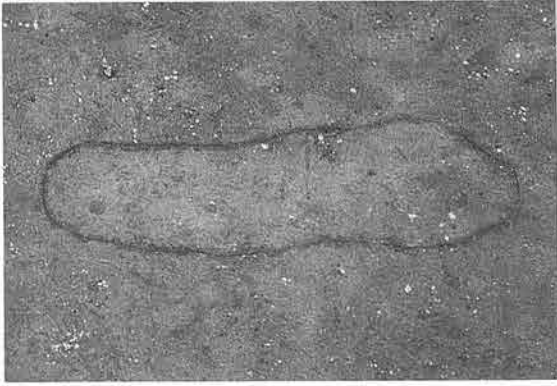


第9号烧土 断面

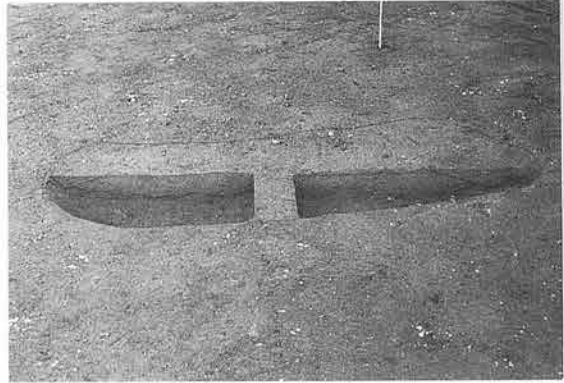


第9号烧土 断面

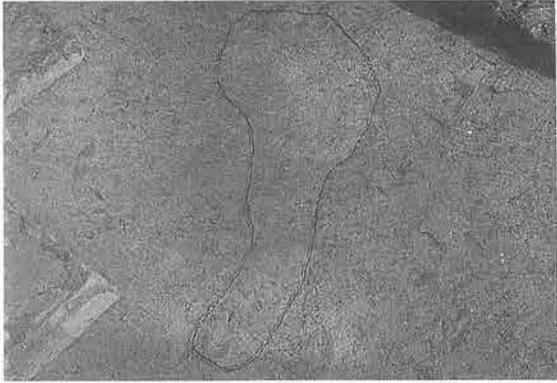
写真图版60 第7~9号烧土



第10号烧土 平面



第10号烧土 断面



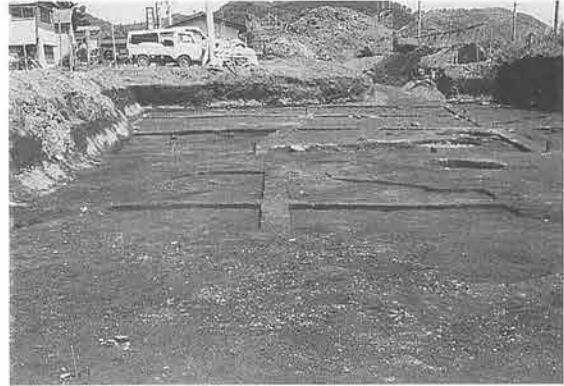
第11号烧土 平面



第11号烧土 断面



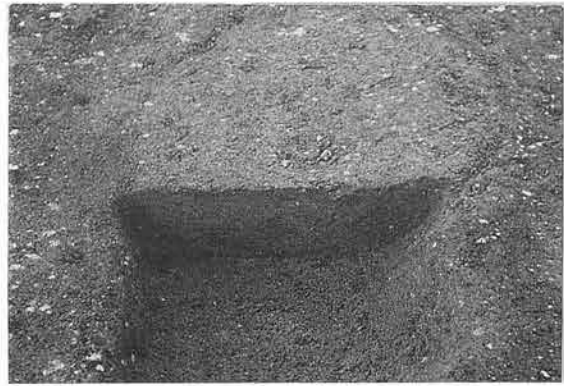
第12号烧土 平面



第12号烧土 断面



第13号烧土 平面

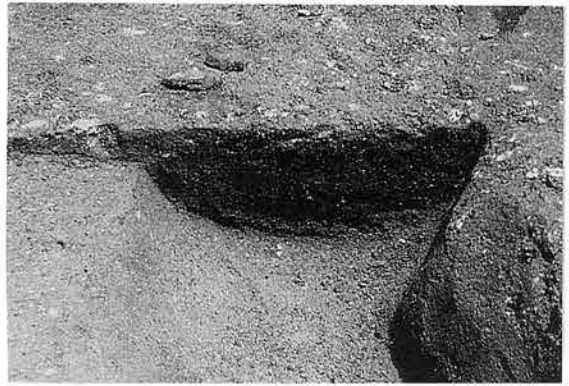


第13号烧土 断面

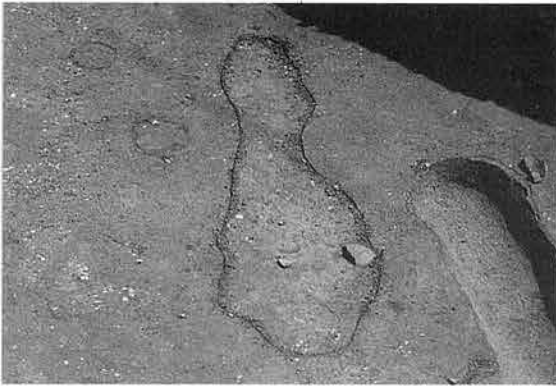
写真图版61 第10~13号烧土



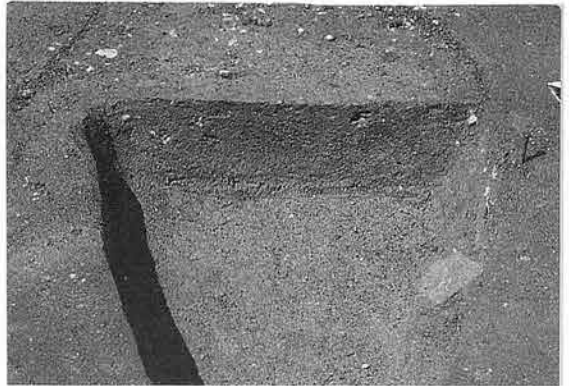
第14号烧土 平面



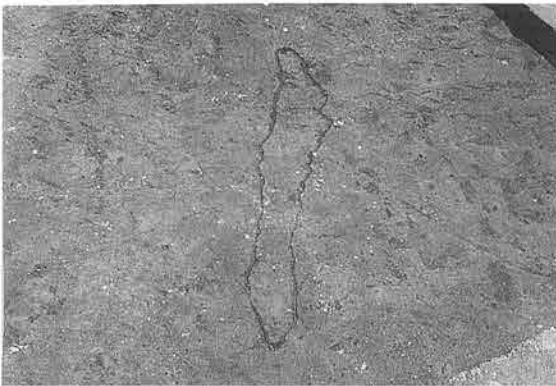
第14号烧土 断面



第15号烧土 平面



第15号烧土 断面



第16号烧土 平面



第16号烧土 断面



第17号烧土 平面

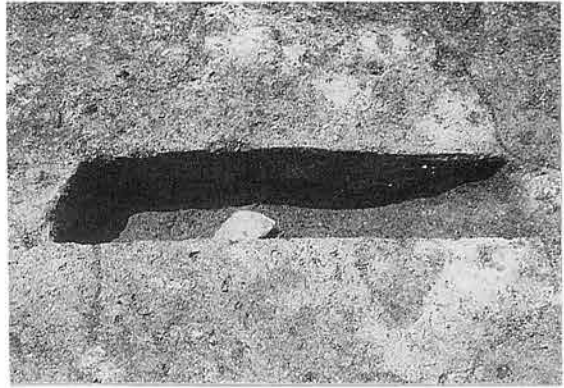


第17号烧土 断面

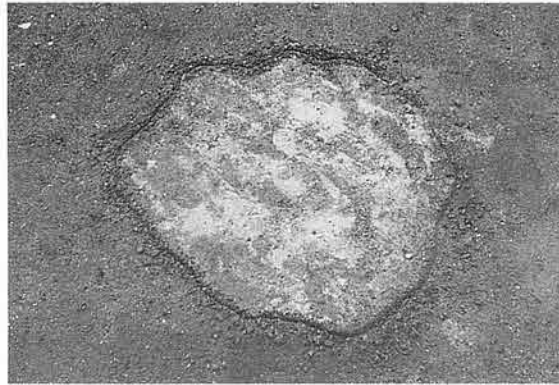
写真图版62 第14~17号烧土



第18号烧土 平面



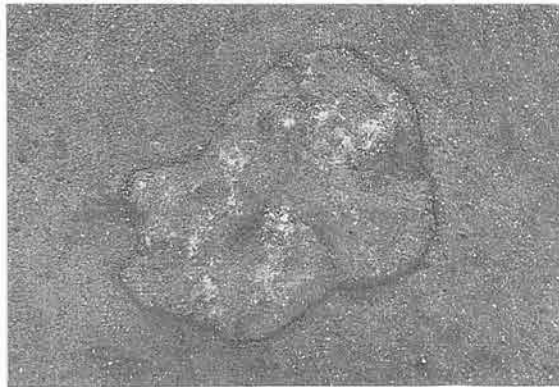
第18号烧土 断面



第19号烧土 平面



第19号烧土 断面



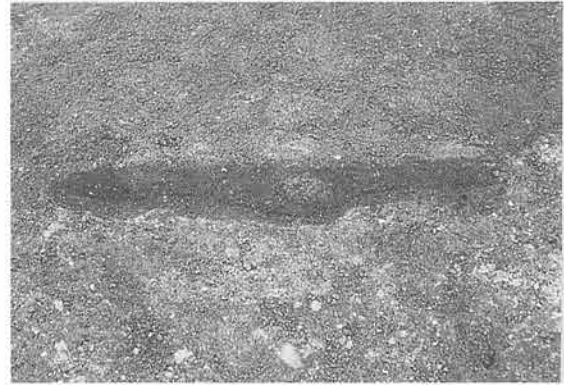
第20号烧土 平面



第20号烧土 断面



第21号烧土 平面

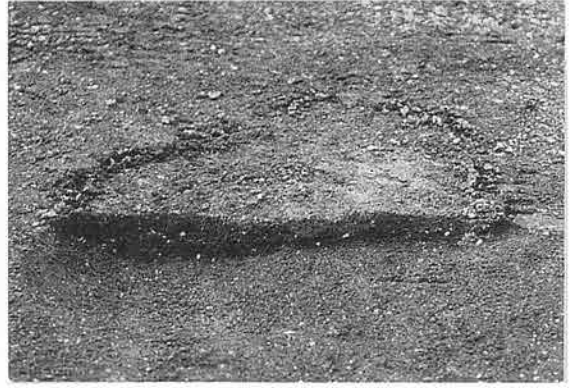


第21号烧土 断面

写真图版63 第18~21号烧土



第22号烧土 平面



第22号烧土 断面



第23号烧土 平面



第23号烧土 断面



第1・2号沟状遺構 平面



第1号沟状遺構 断面

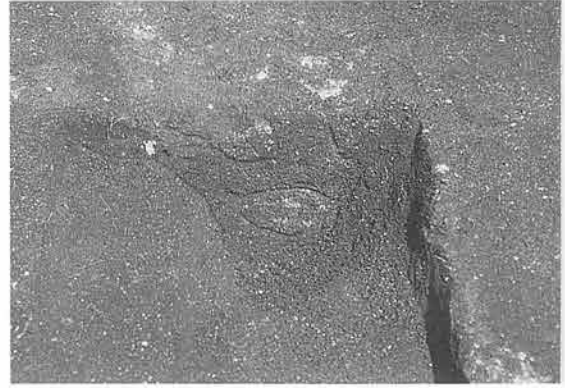


第2号沟状遺構 断面

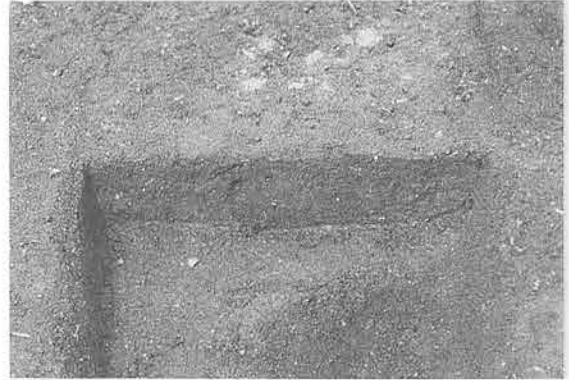
写真図版64 第22・23号烧土, 第1・2号沟状遺構



第3号溝状遺構 平面



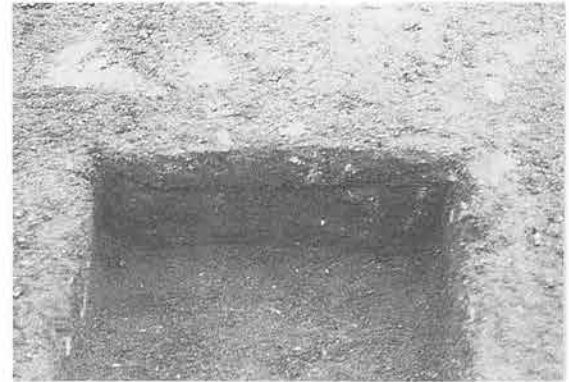
第3号溝状遺構 断面



第4号溝状遺構 断面



第4～6号溝状遺構 平面

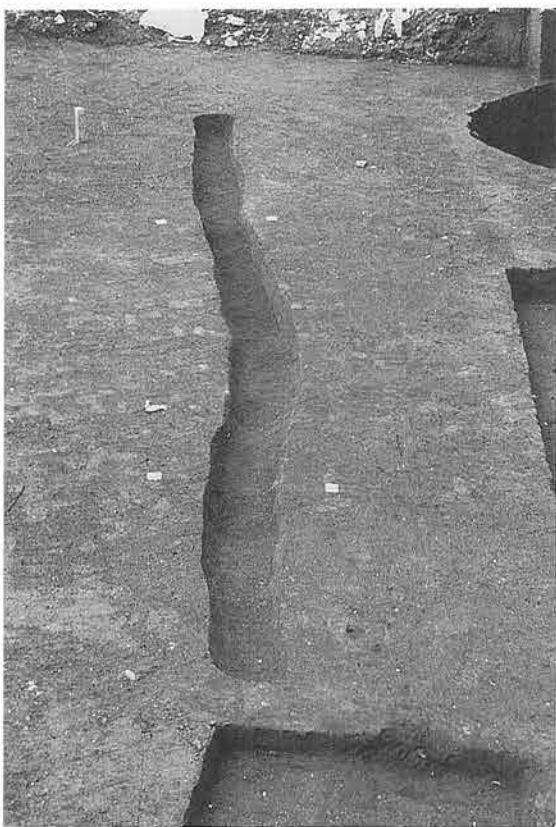


第5号溝状遺構 断面



第6号溝状遺構 断面

写真図版65 第3～6号溝状遺構



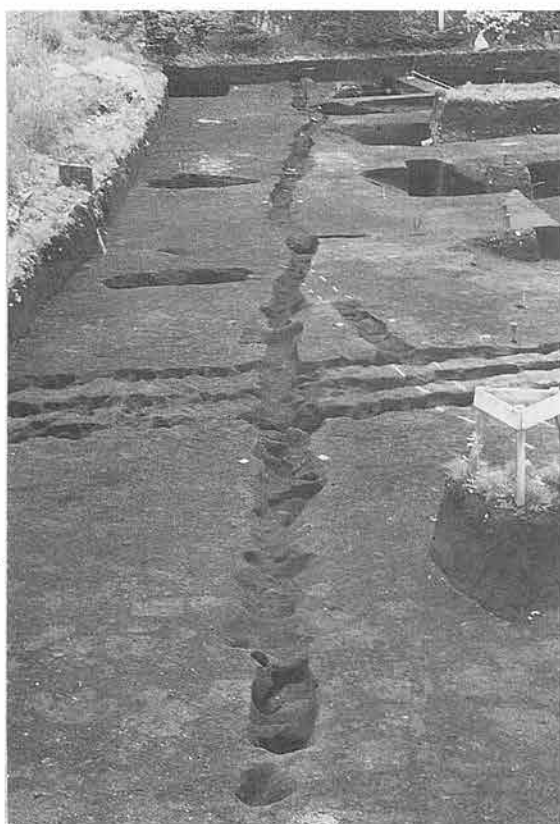
第7号沟状遺構（南端部）平面



断面



断面



第7号沟状遺構（中央部）平面

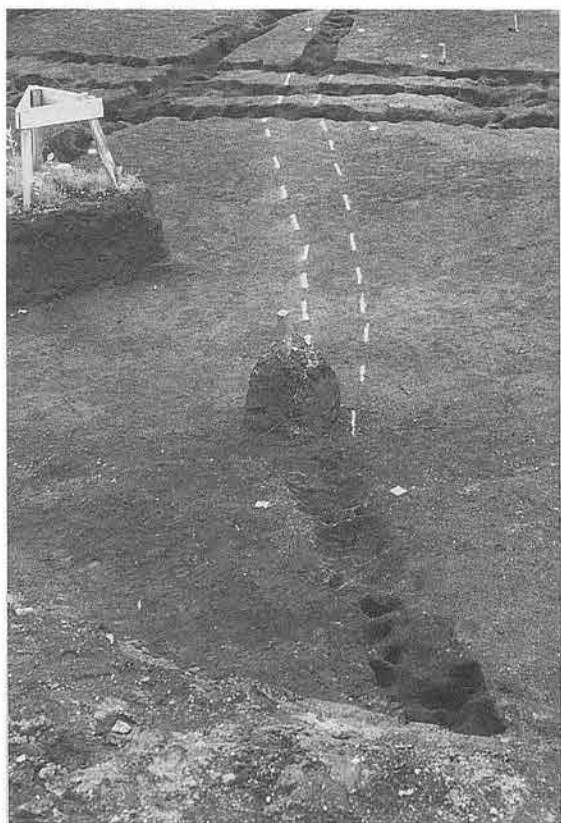


断面

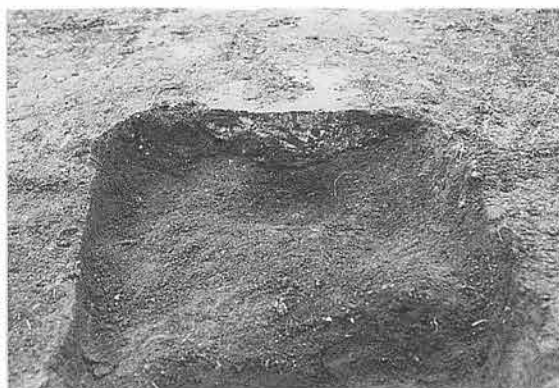


断面

写真図版66 第7号沟状遺構（1）



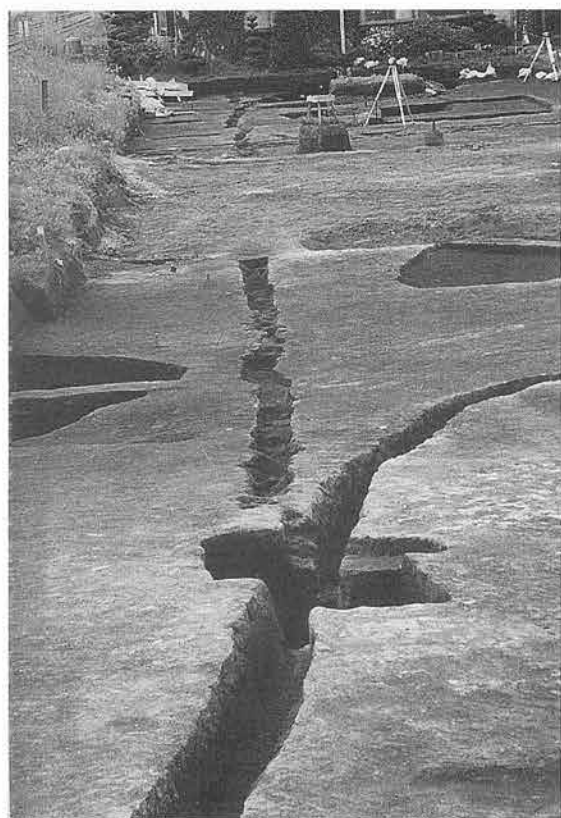
第8号溝状遺構 平面



第8号溝状遺構 断面



第8号溝状遺構 断面



第7・9号溝状遺構 平面



第9号溝状遺構 断面



第9号溝状遺構 断面

写真図版67 第7(2)～9号溝状遺構



第10号溝状遺構 平面



第10号溝状遺構 断面



第10号溝状遺構 断面



第11号溝状遺構 平面



第11号溝状遺構 断面

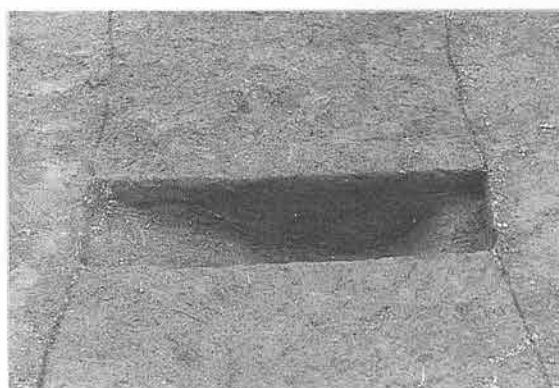
写真図版68 第10・11号溝状遺構



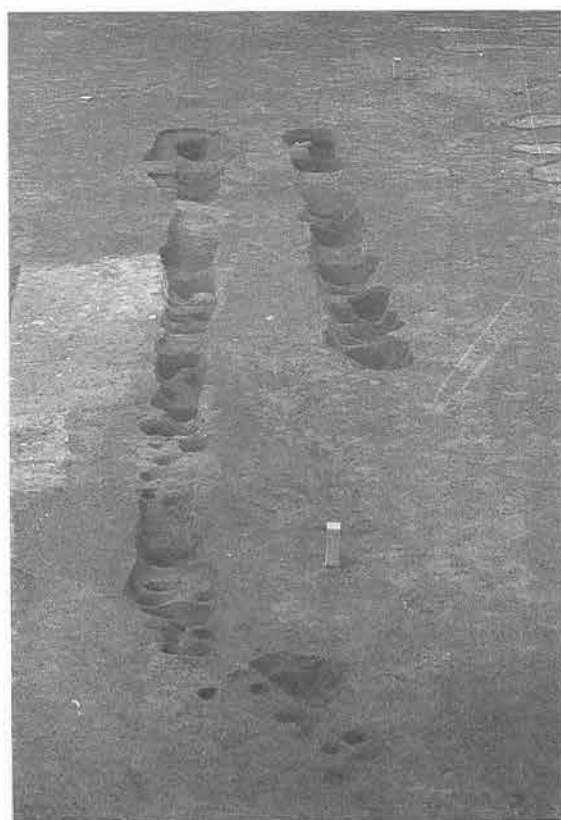
第12号溝状遺構 平面



第12号溝状遺構 断面



第12号溝状遺構 断面



第13・14号溝状遺構 平面



第13号溝状遺構 断面



第14号溝状遺構 断面

写真図版69 第12～14号溝状遺構



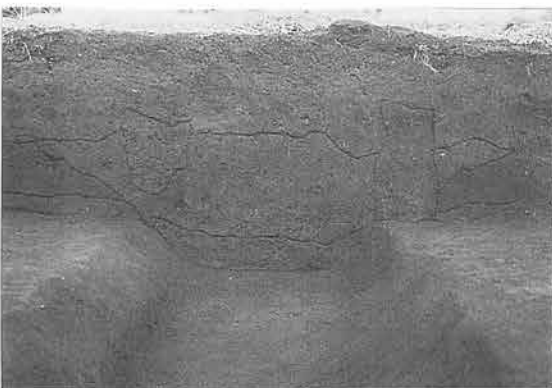
第15号溝状遺構 平面



第16号溝状遺構 平面



第15号溝状遺構 断面



第16号溝状遺構 断面



第17号溝状遺構 平面

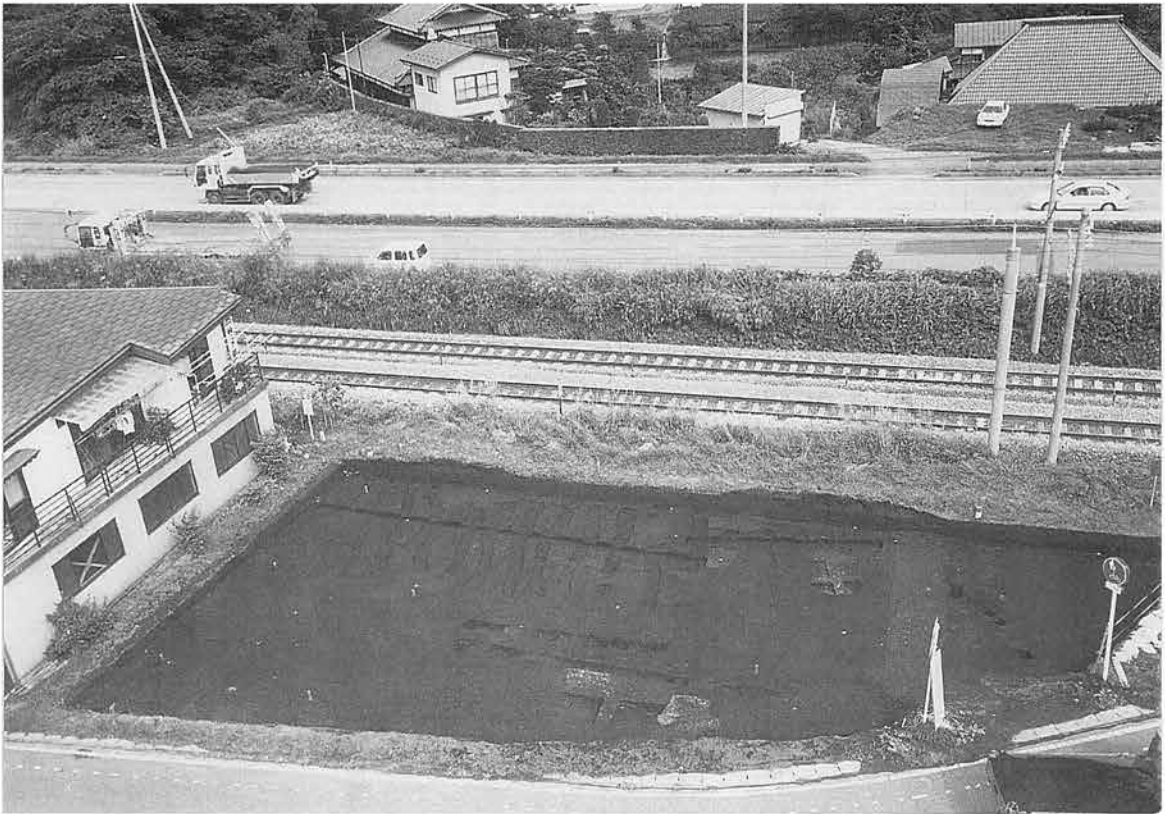
写真図版70 第15～17号溝状遺構 (1)



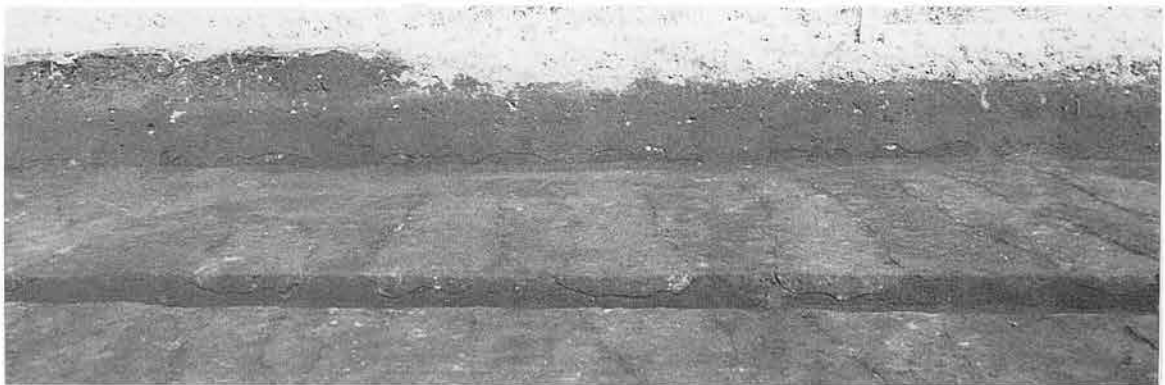
第17号溝状遺構 断面



第17号溝状遺構 断面

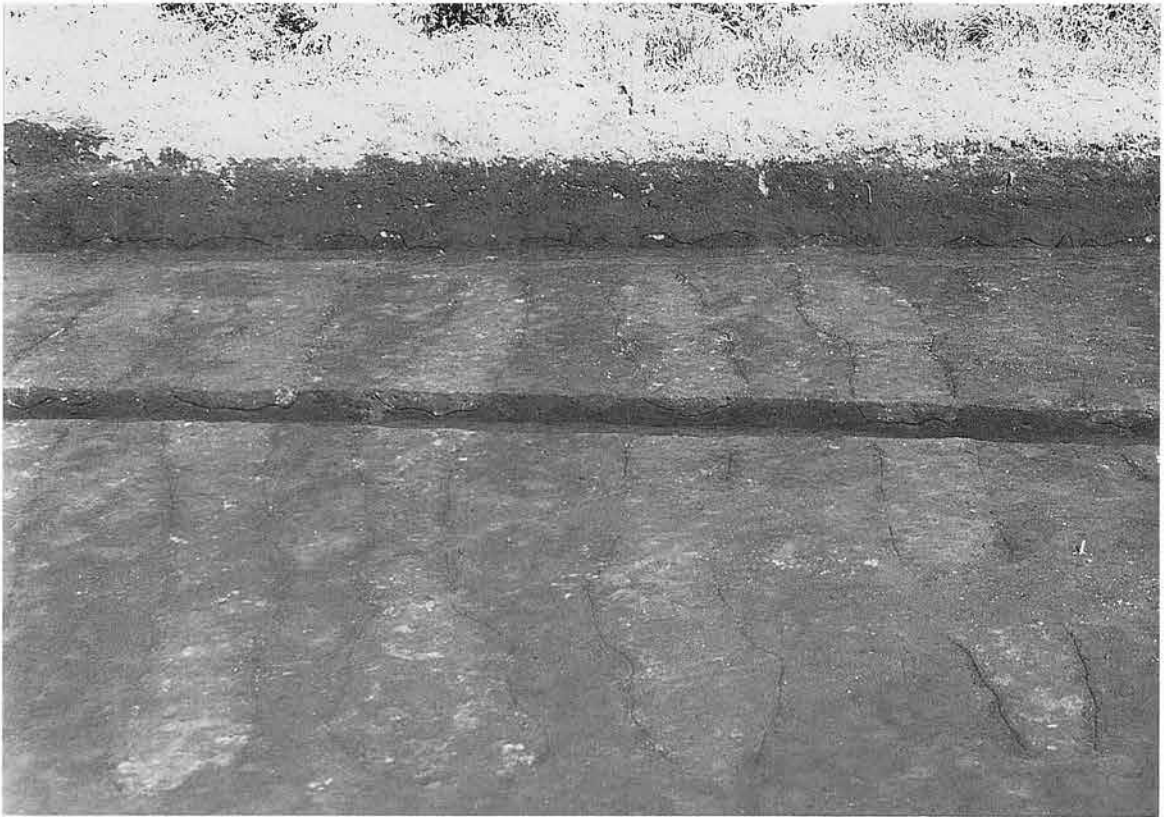


畠状遺構 平面

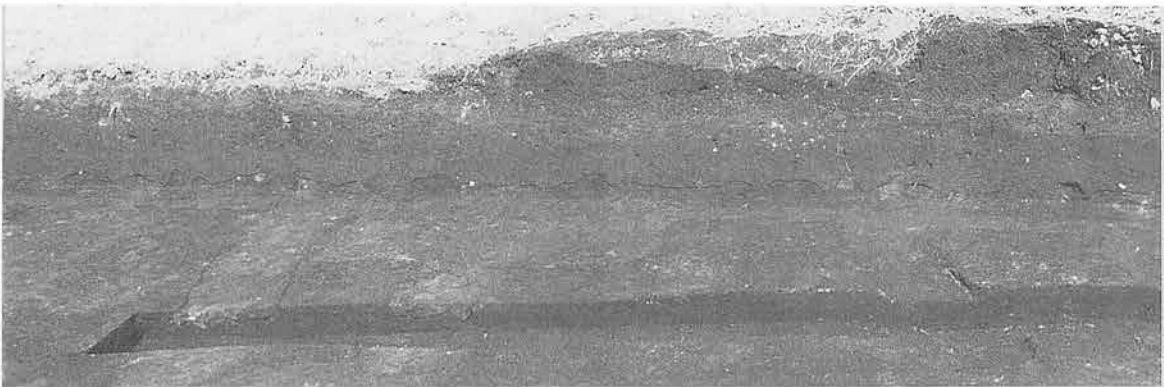


畠状遺構 断面

写真図版71 第17号溝状遺構(2)・畠状遺構(1)



畠状遺構 断面



畠状遺構 断面



井戸跡 平面

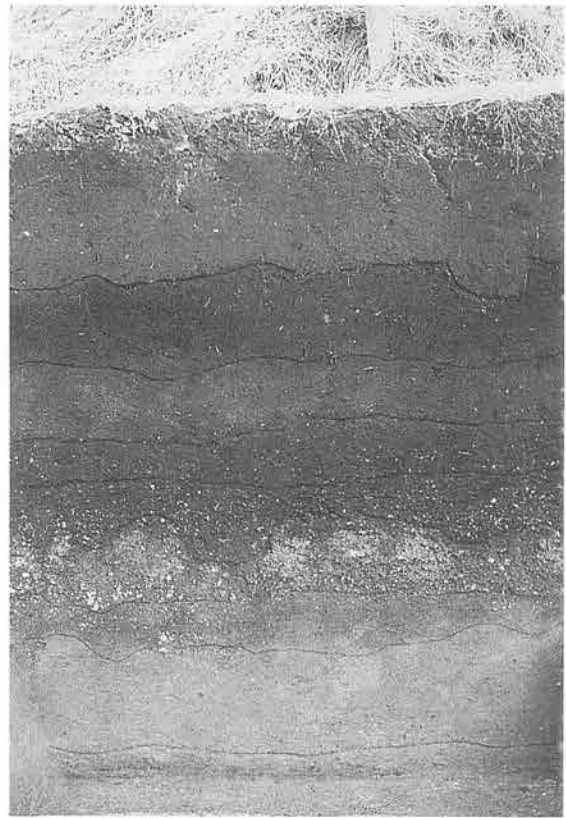


井戸跡 断面

写真図版72 畠状遺構(2)・井戸跡



7-①②区精査状況



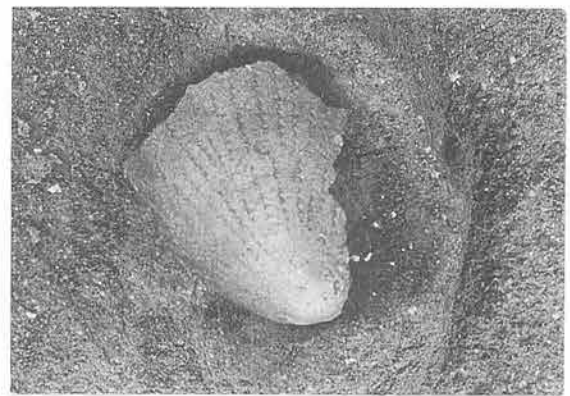
土層断面



作業風景



遺物出土状況



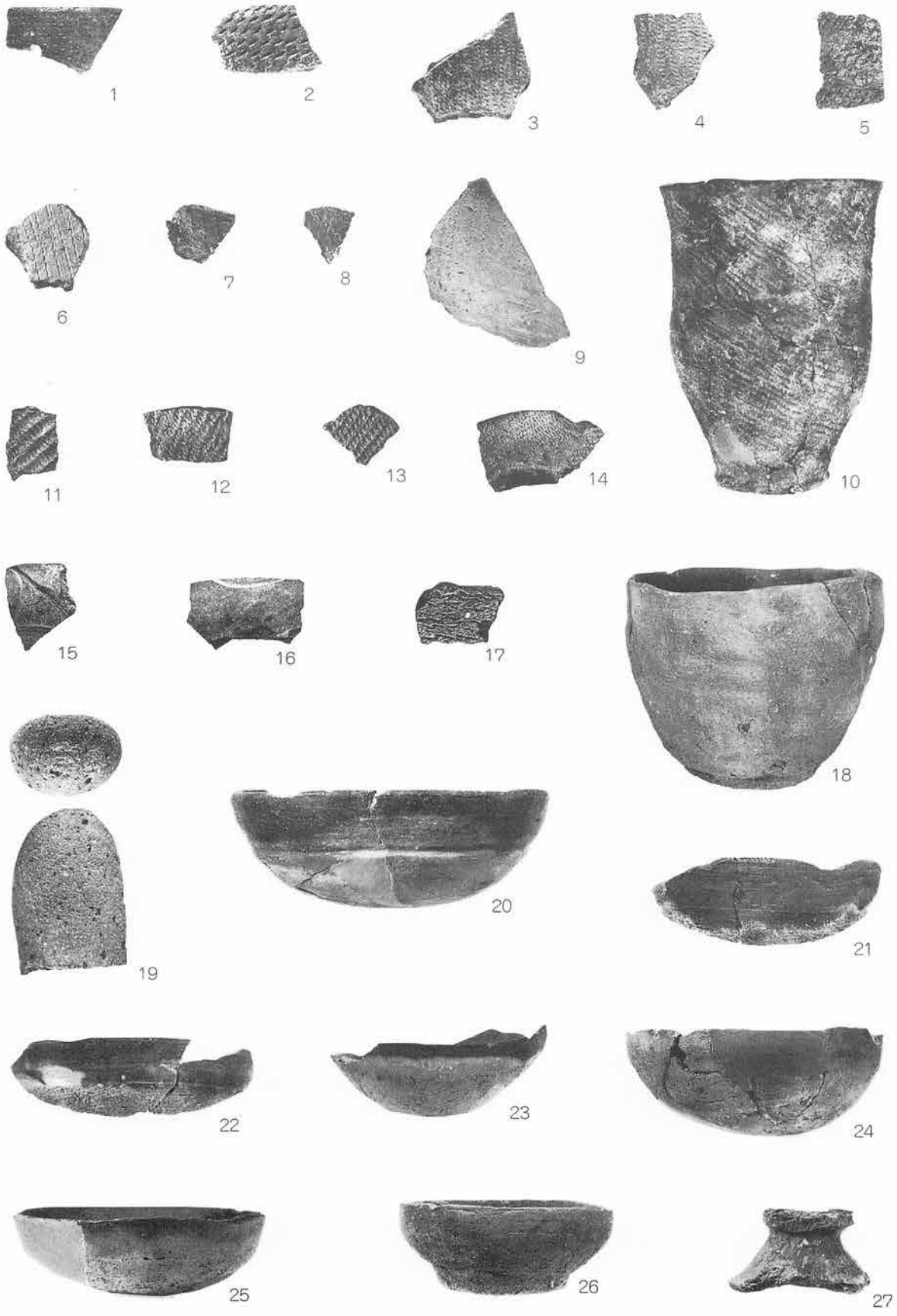
遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



写真図版74 遺構内出土遺物 (1)



写真図版75 遺構内出土遺物(2)



33



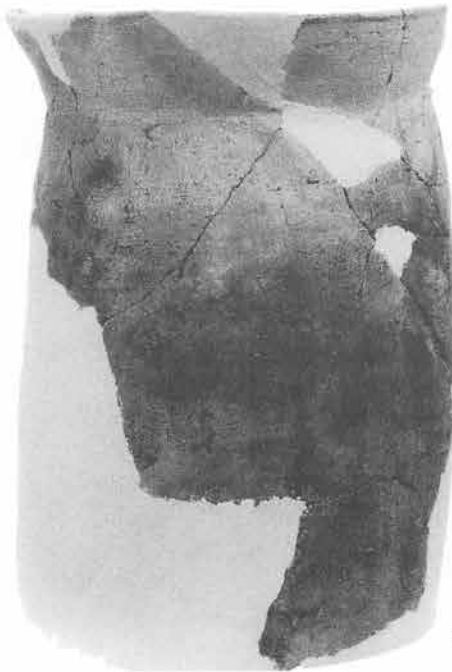
34



35



36



37



38

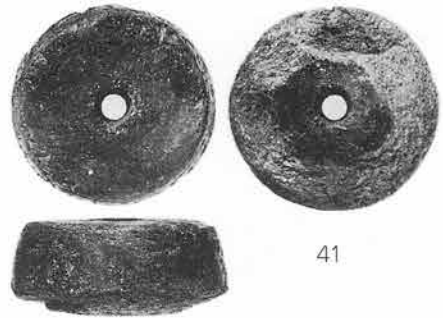
写真図版76 遺構内出土遺物 (3)



39



40



41



43



42



44



45



46



48



49



47



50

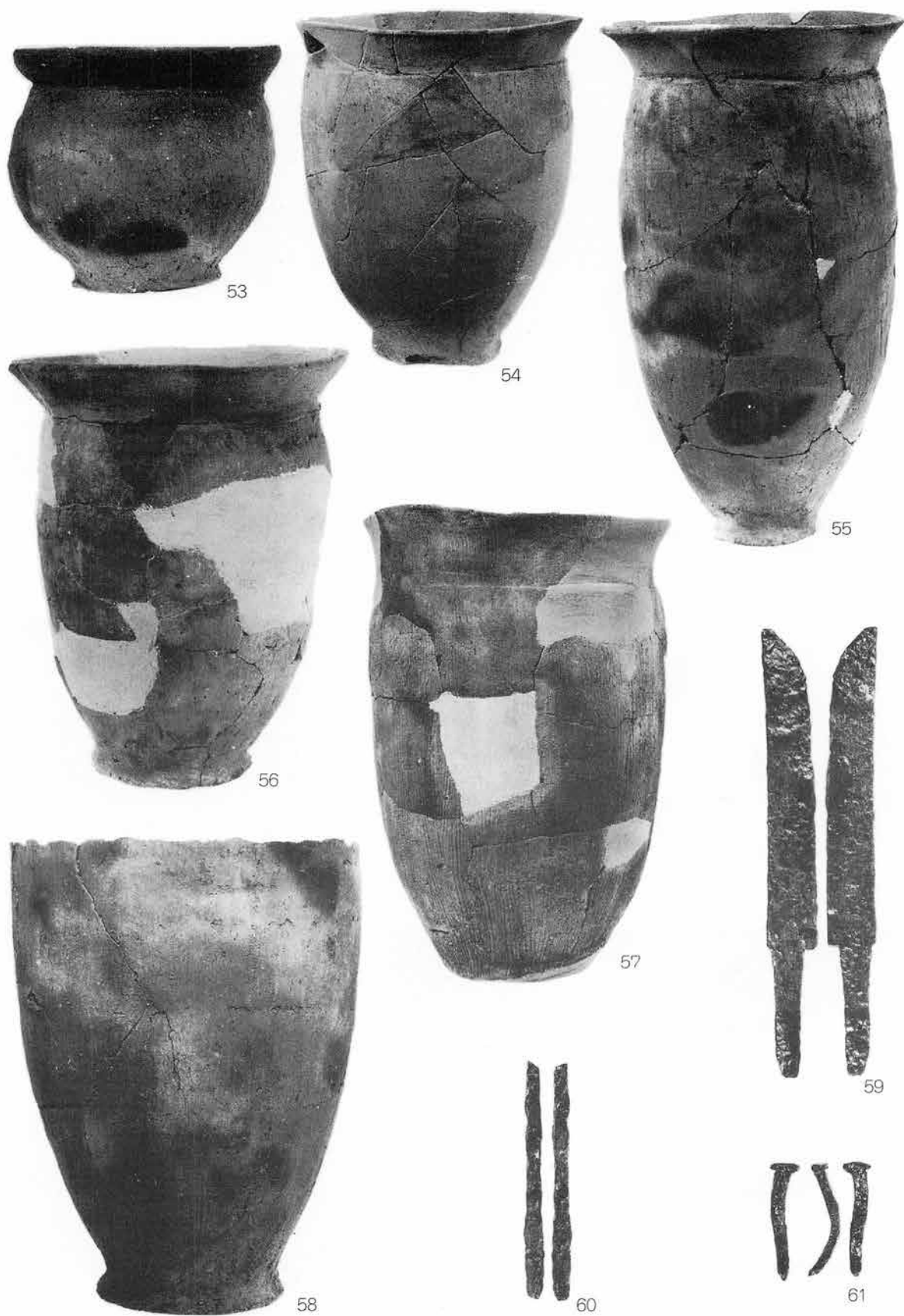


51



52

写真図版77 遺構内出土遺物(4)



写真図版78 遺構内出土遺物 (5)



62



64



63



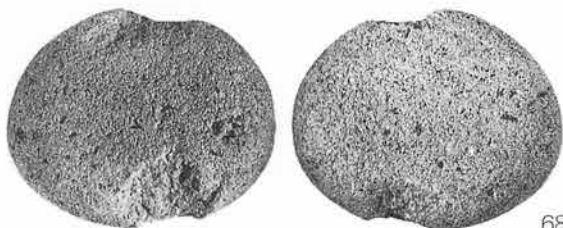
65



66



67

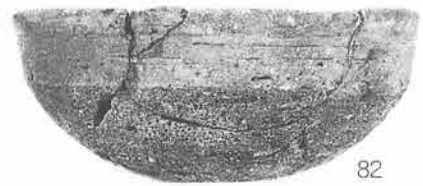


68



69

写真図版79 遺構内出土遺物(6)



写真図版80 遺構内出土遺物 (7)



87



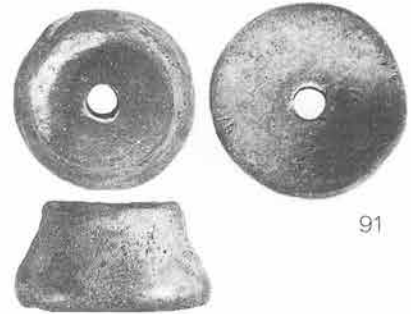
88



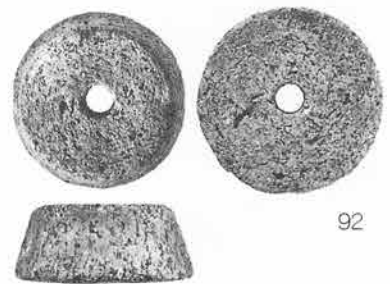
89



90

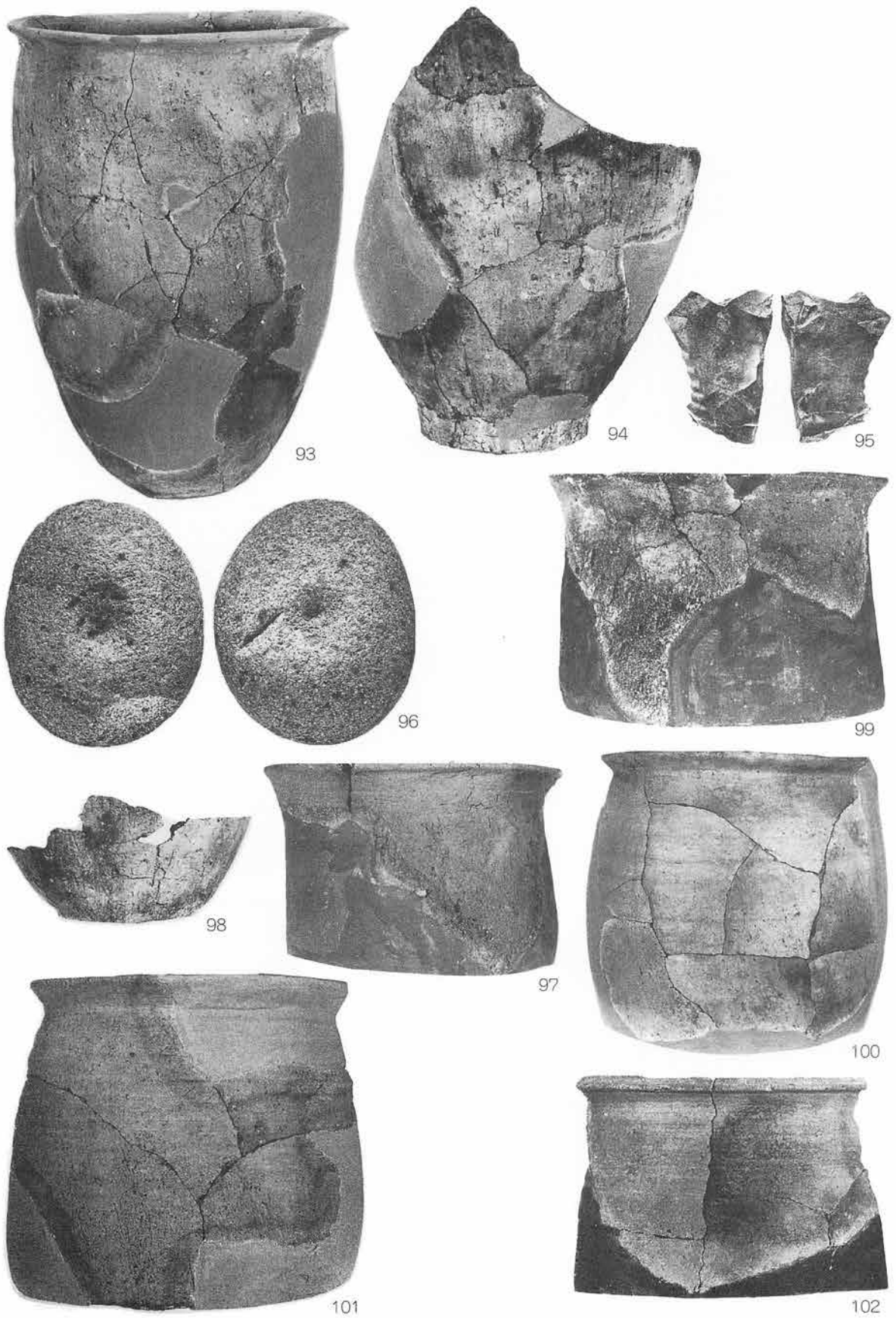


91



92

写真図版81 遺構内出土遺物 (8)



写真図版82 遺構内出土遺物 (9)



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118

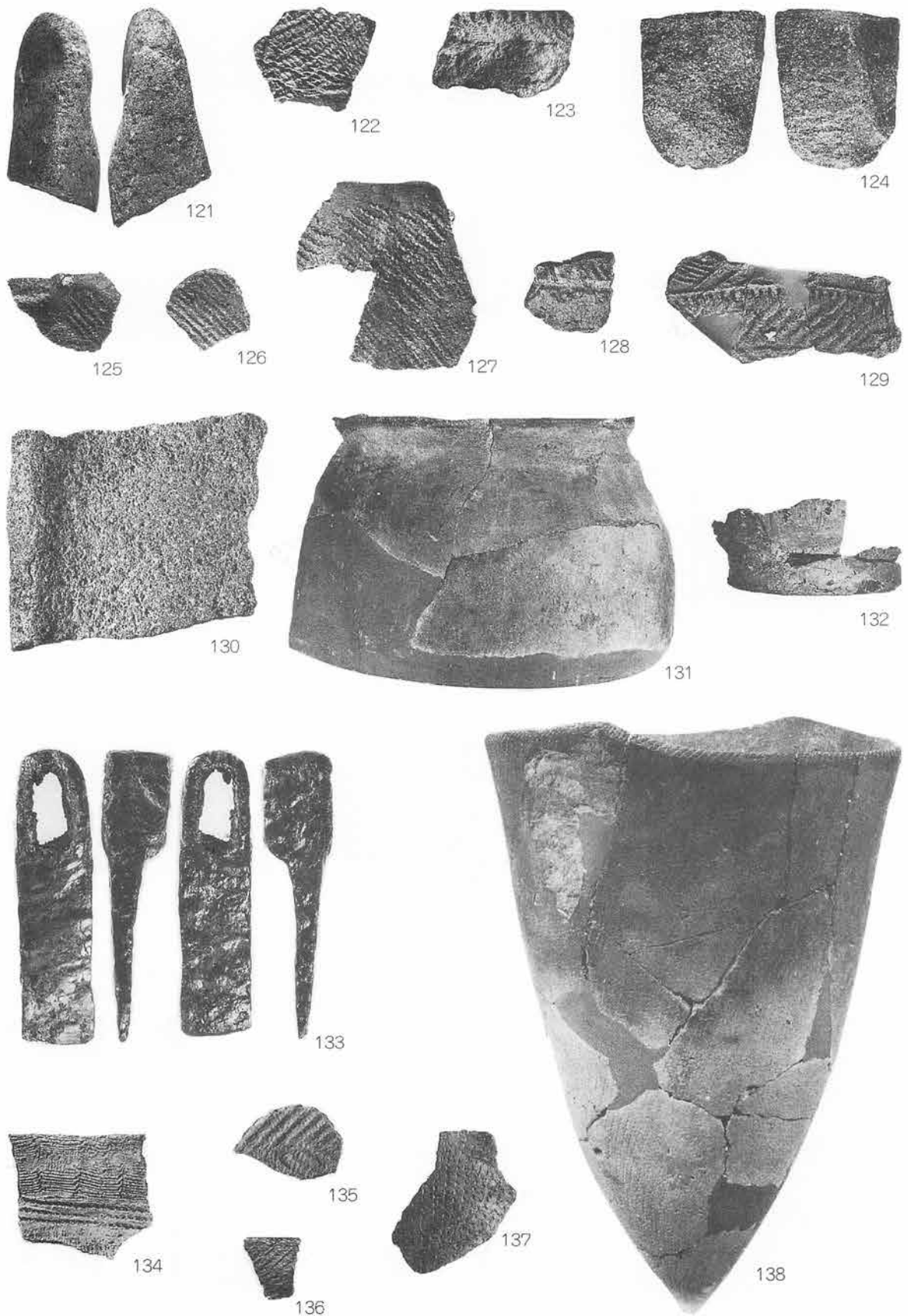


119

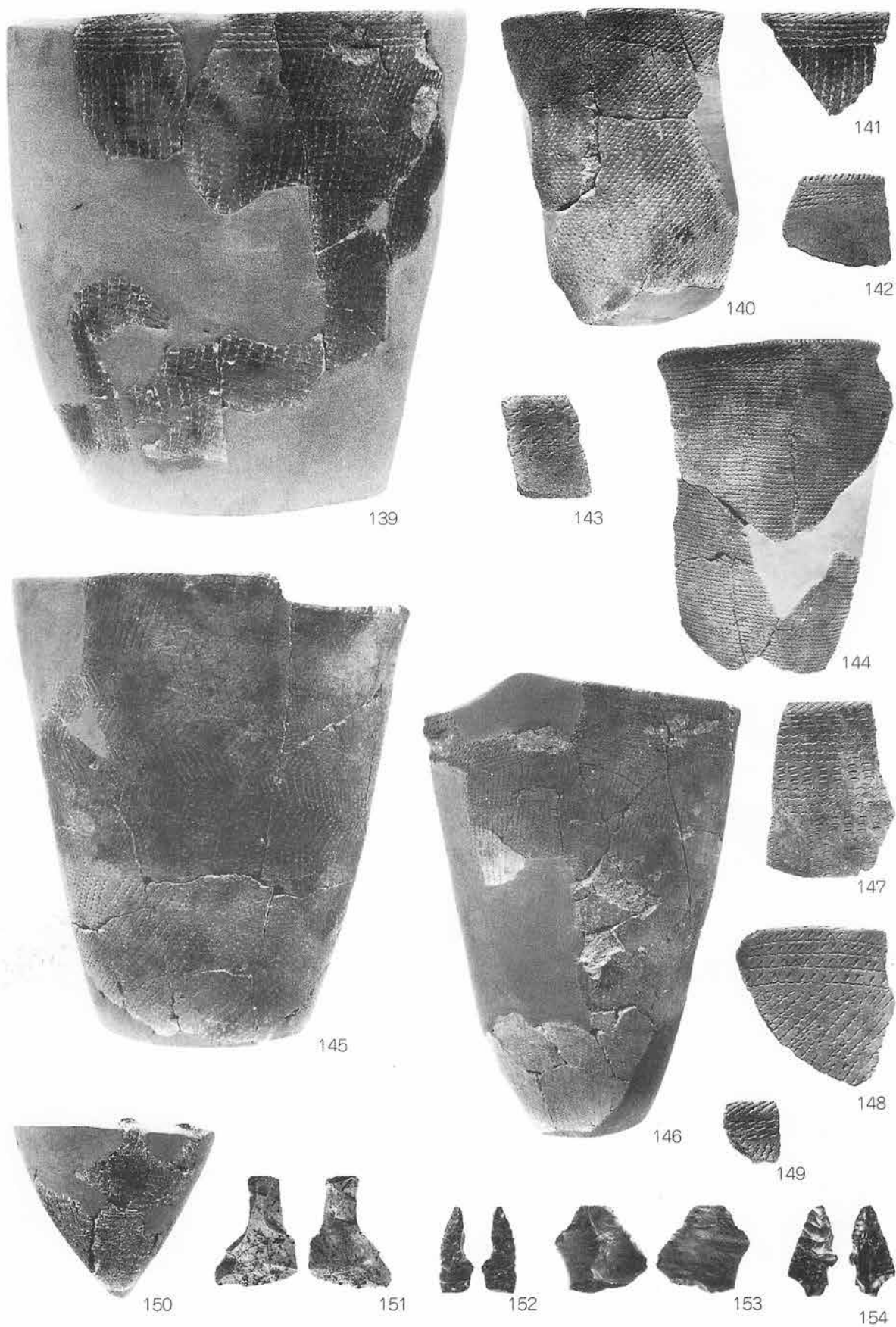


120

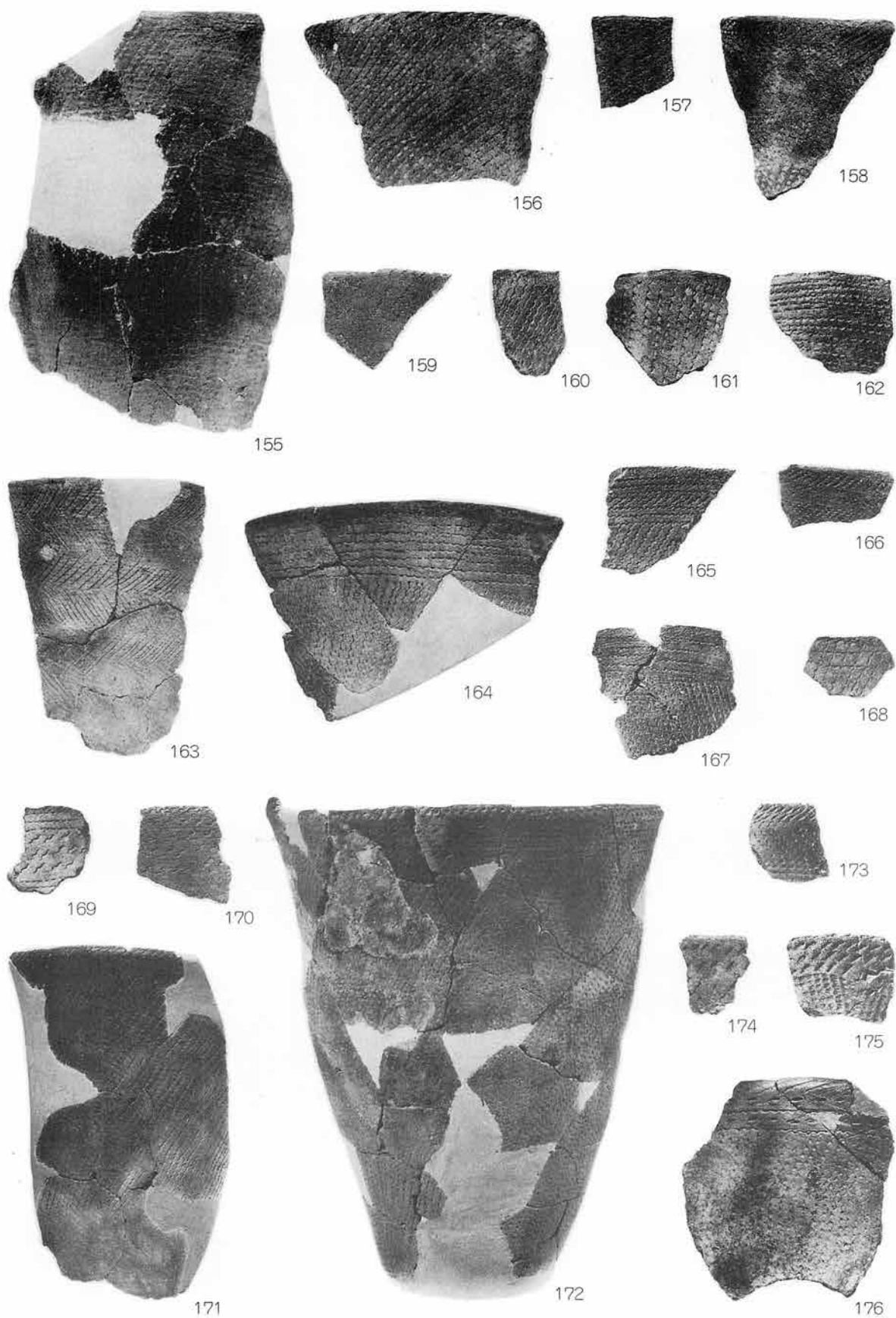
写真図版83 - 遺構内出土遺物 (10)



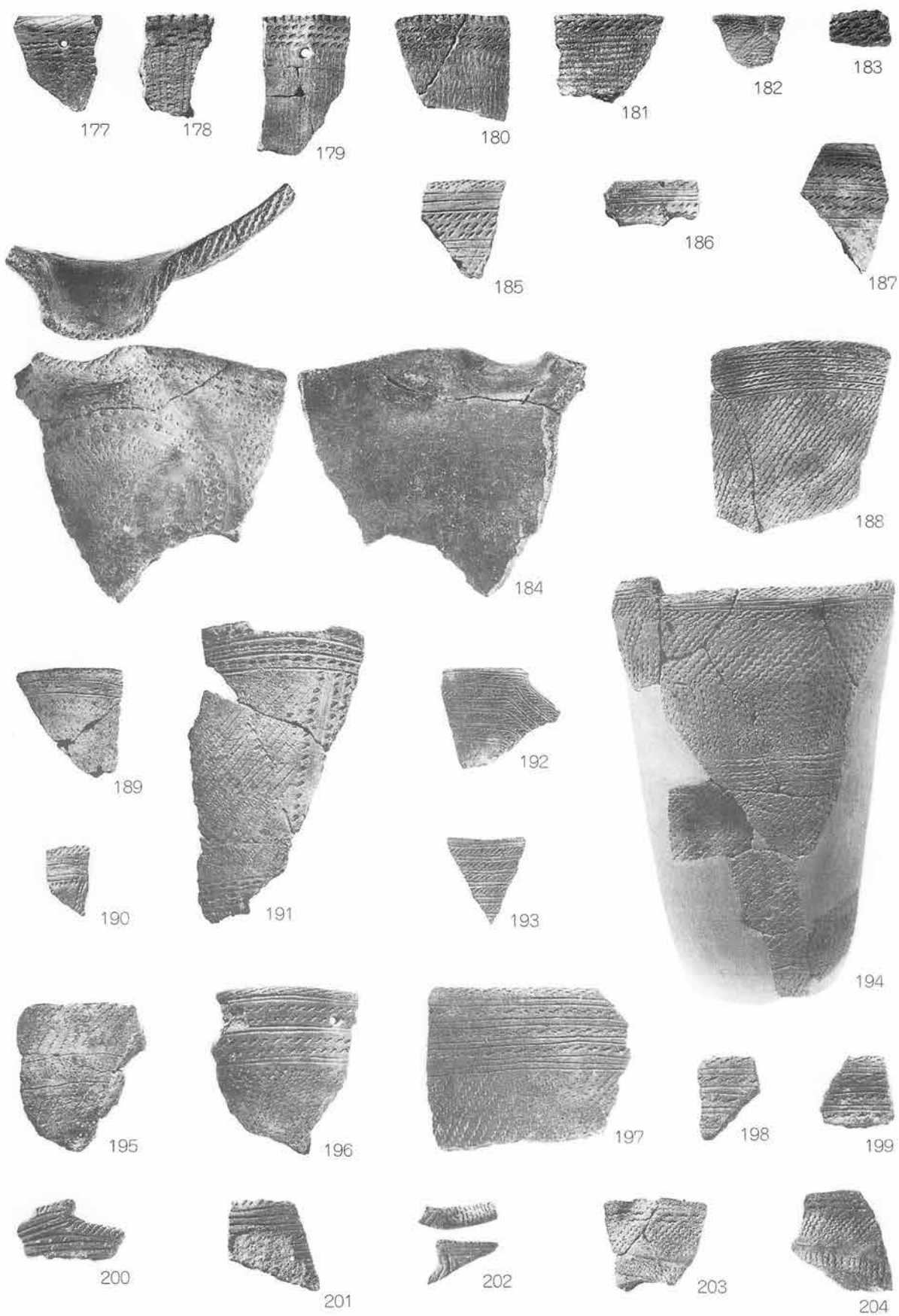
写真図版84 遺構内出土遺物 (11)



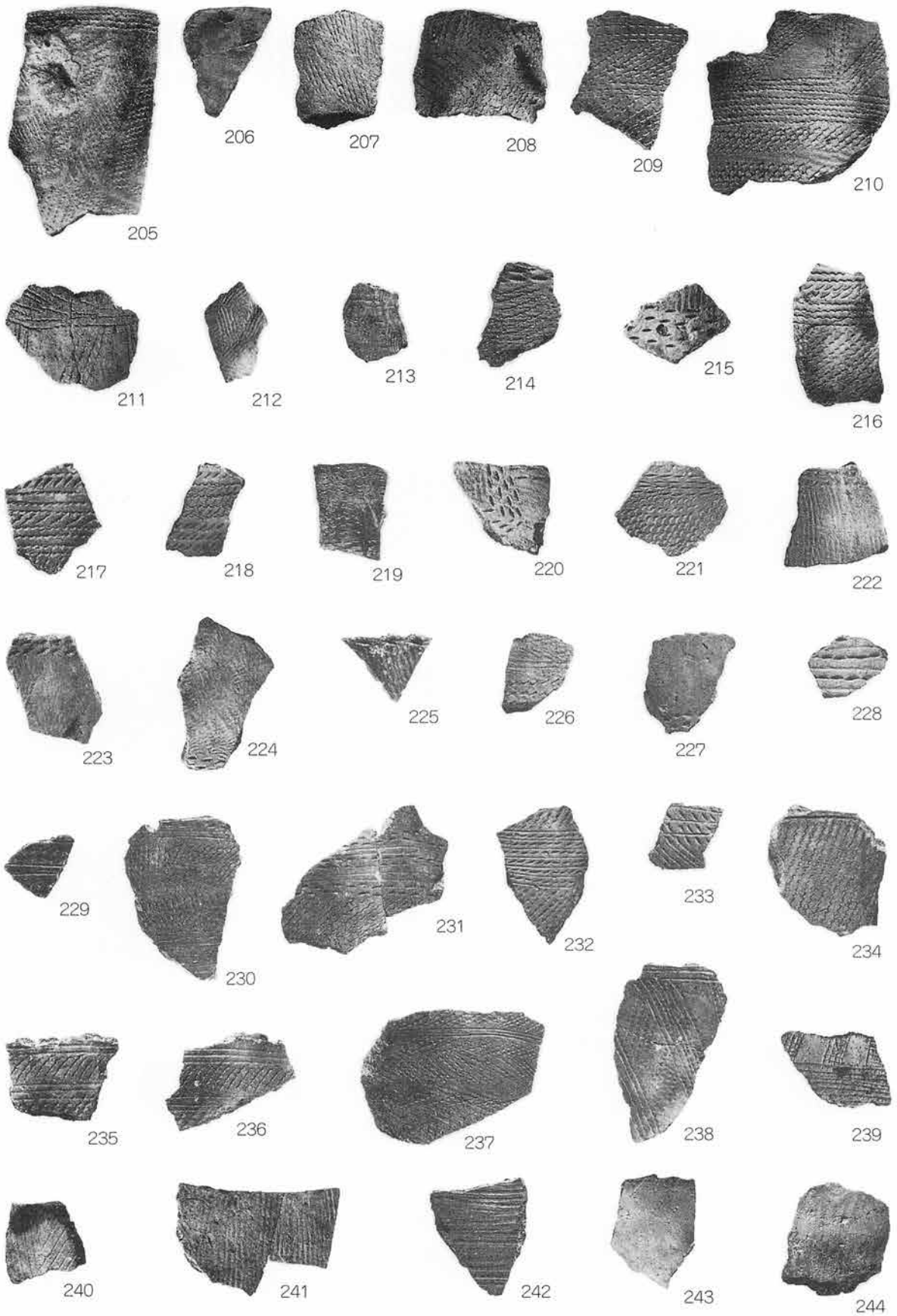
写真図版85 遺構内出土遺物 (12)



写真図版86 遺構外出土土器(1) ~VI層~



写真図版87 遺構外出土土器(2)～Ⅵ層～



写真図版88 遺構外出土土器(3) ~Ⅵ層~



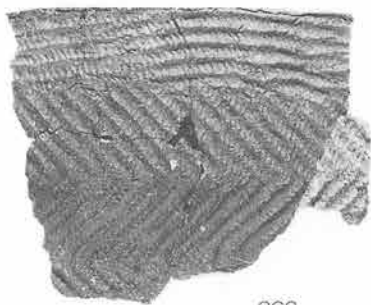
写真図版89 遺構外出土土器（4）～Ⅵ層～



264



265



266



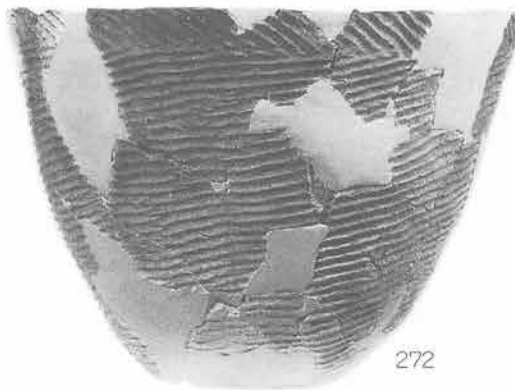
267



268



269



272



270



271



273



274

写真図版90 遺構外出土土器(5) ~Ⅳa層~



275



276



277



278



279



280



281



282



285



283



284



287



288

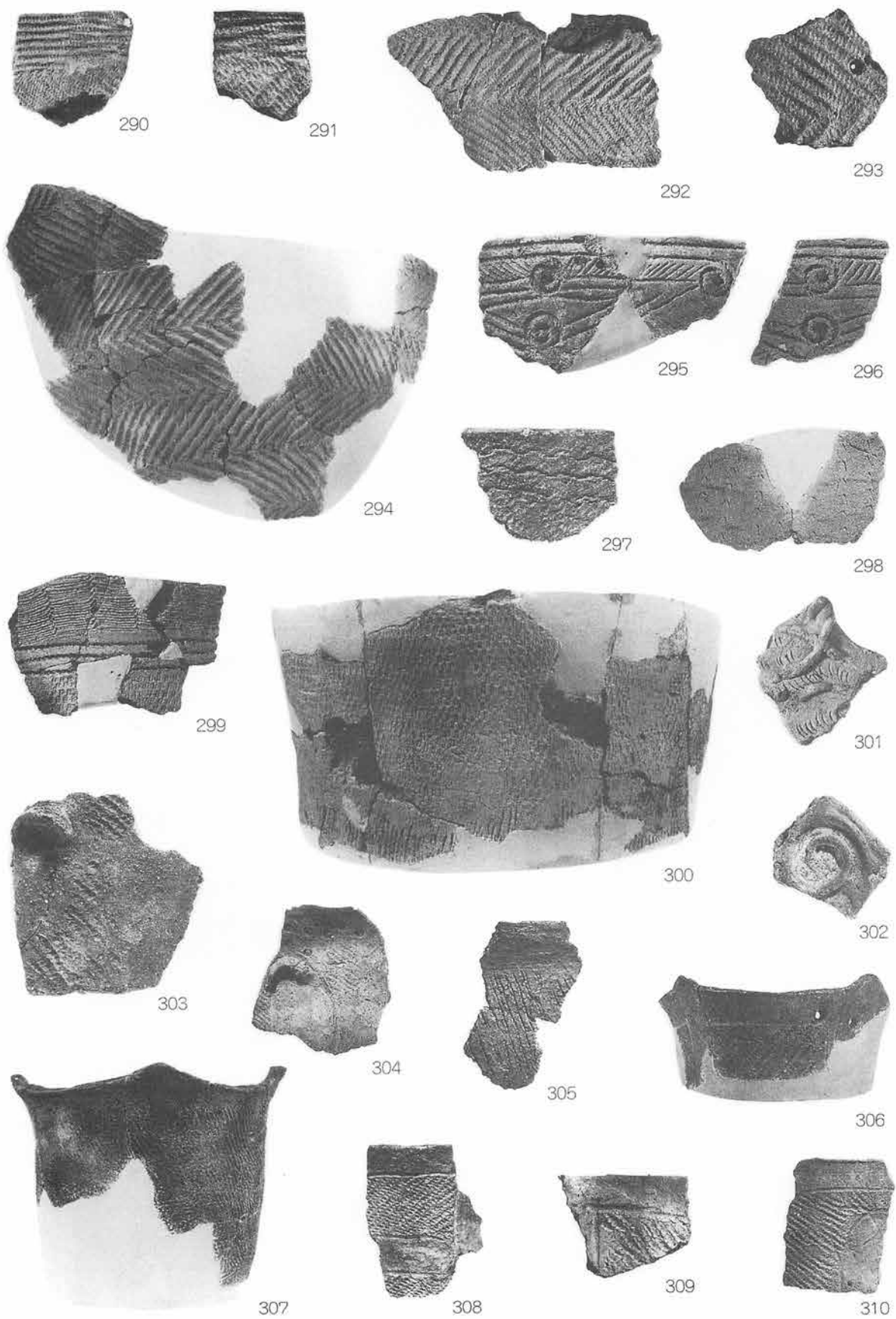


289

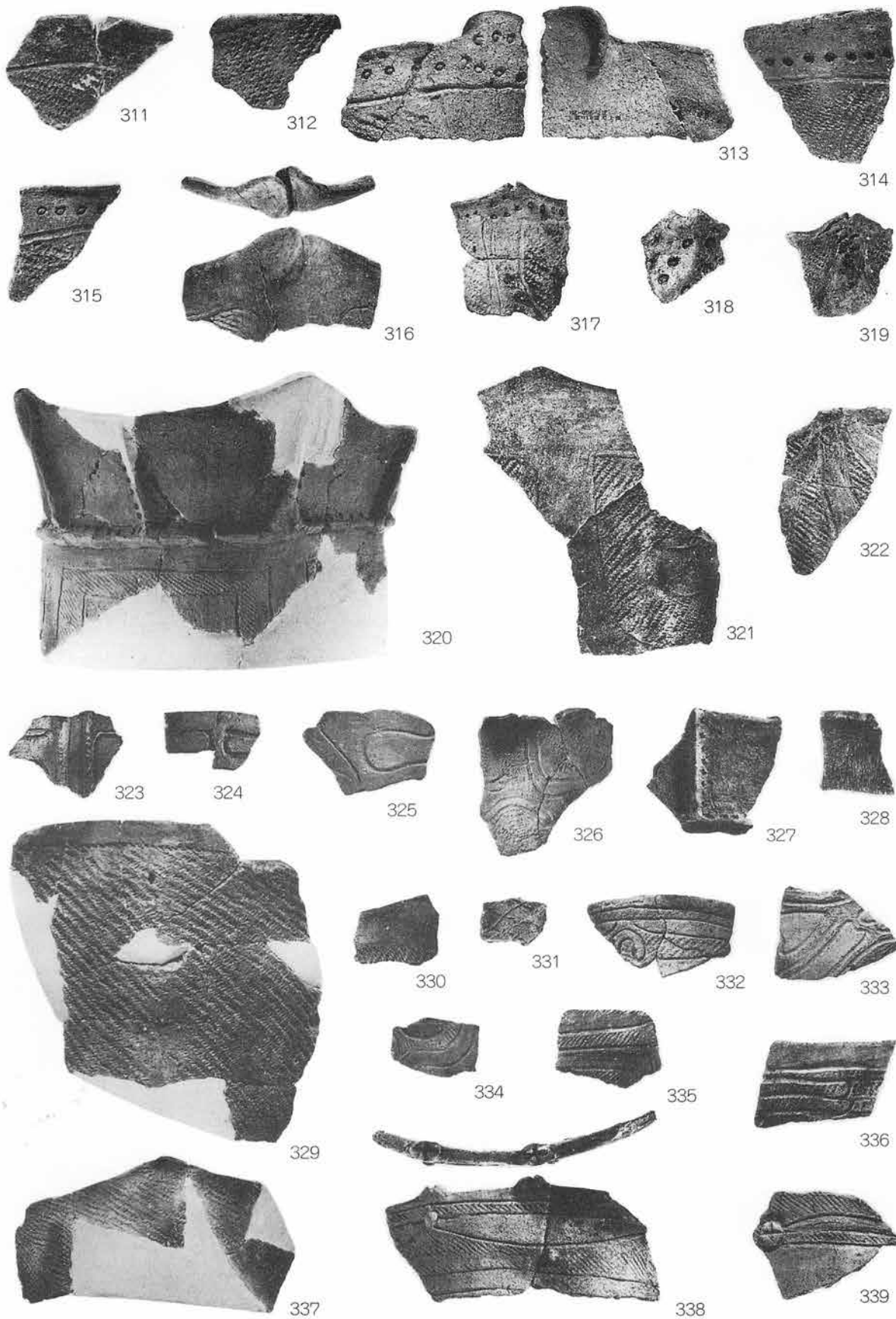


286

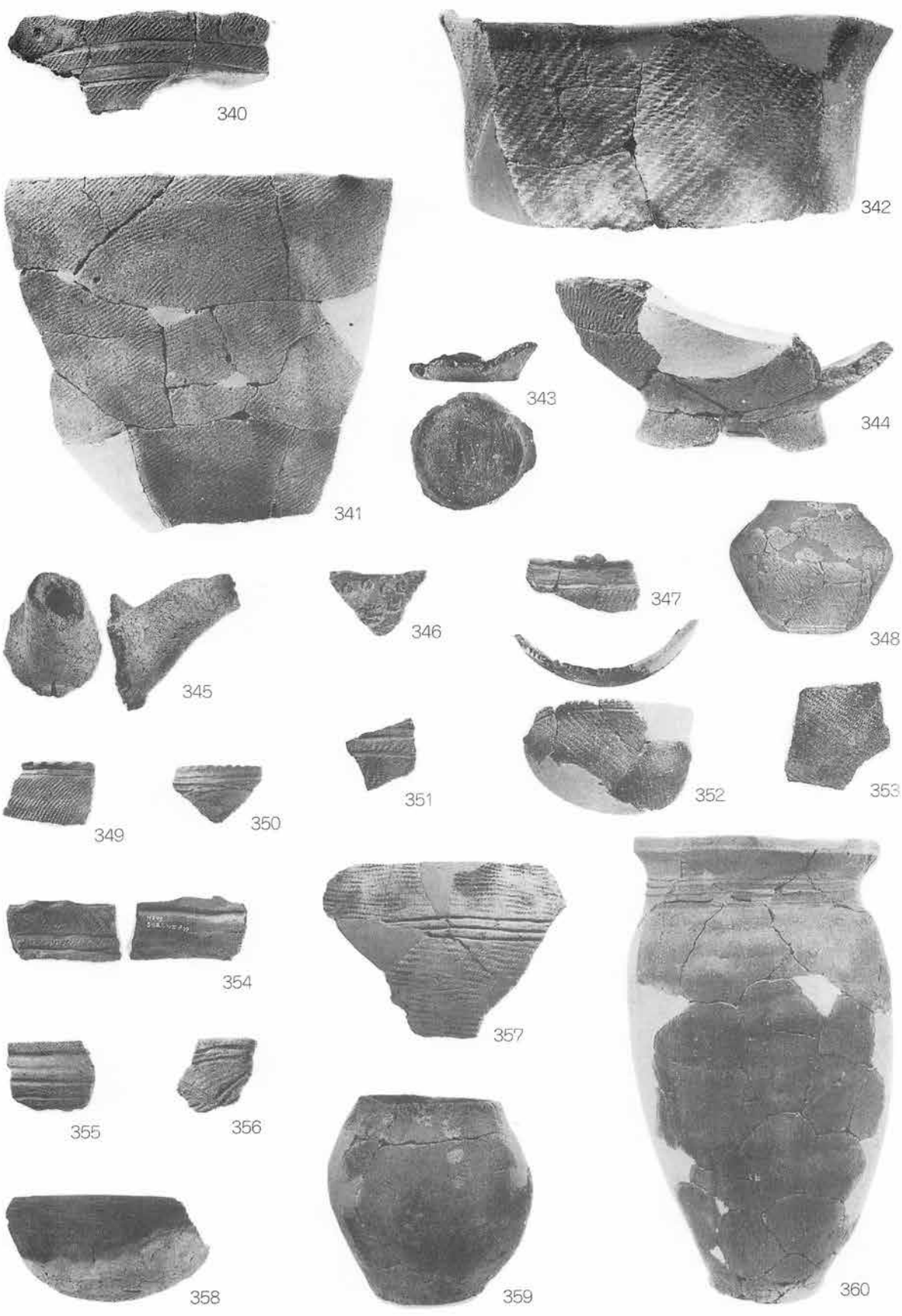
写真図版91 遺構外出土土器(6) ~Ⅳa層~



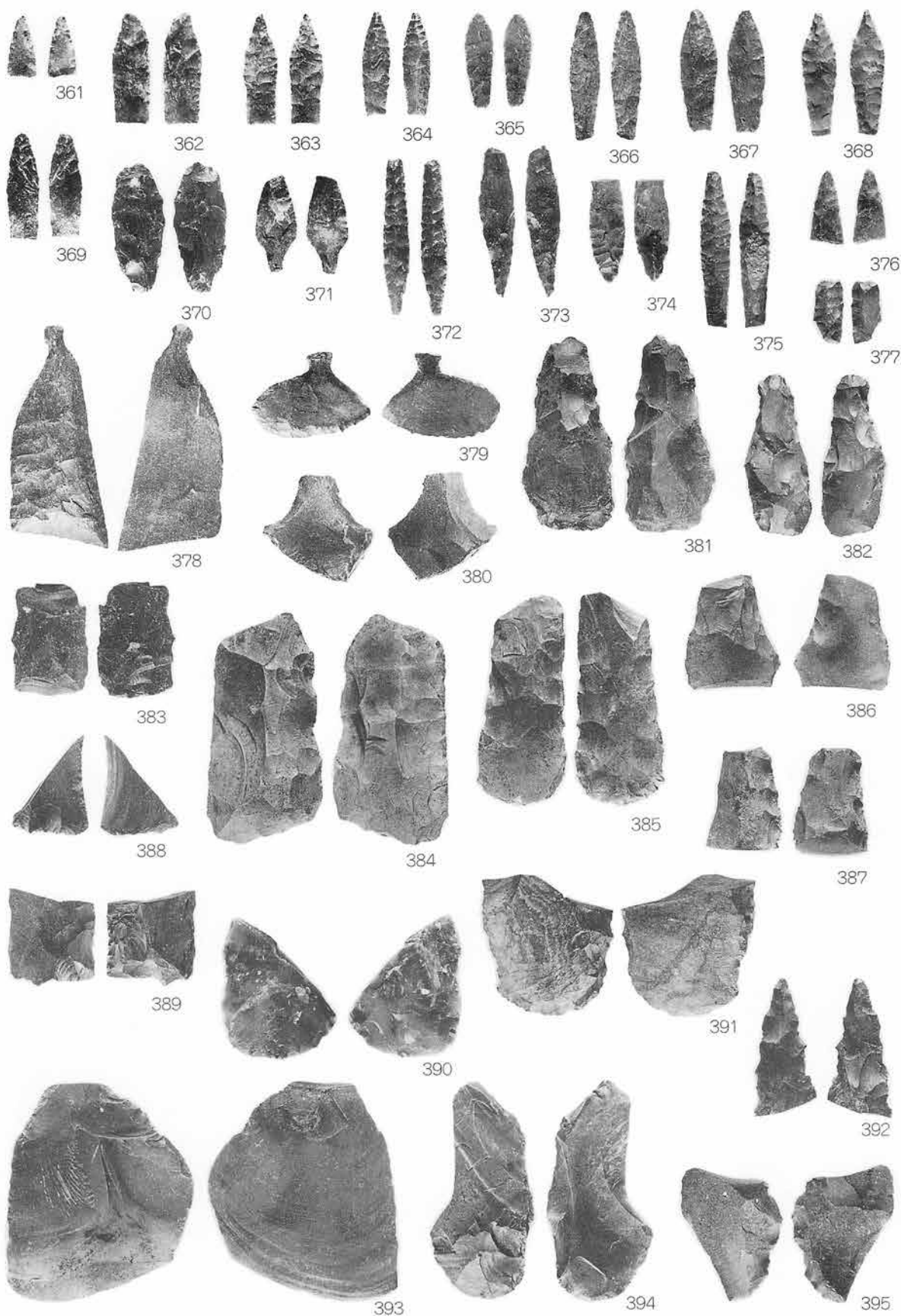
写真图版92 遺構外出土土器 (7)



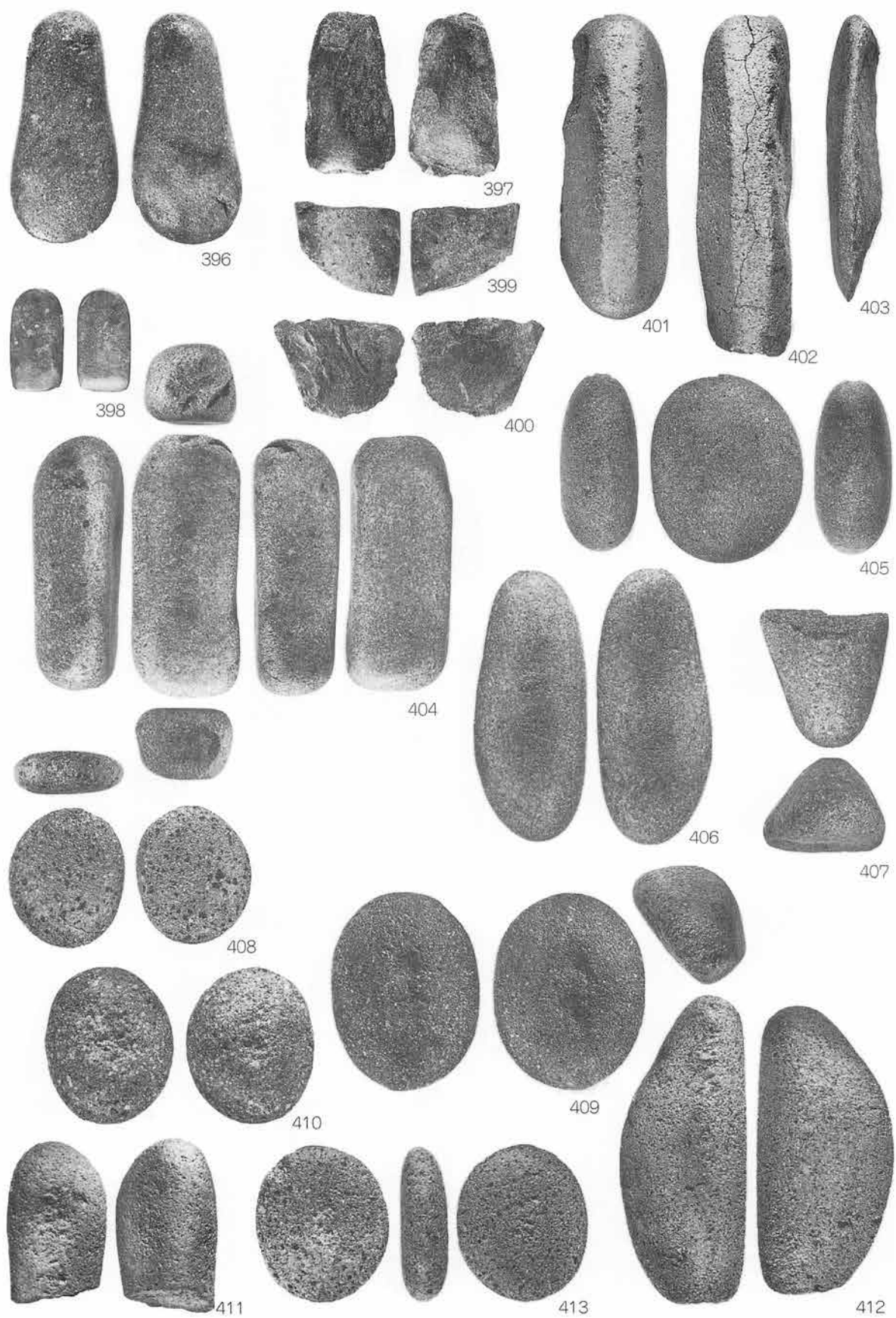
写真图版93 遺構外出土土器 (8)



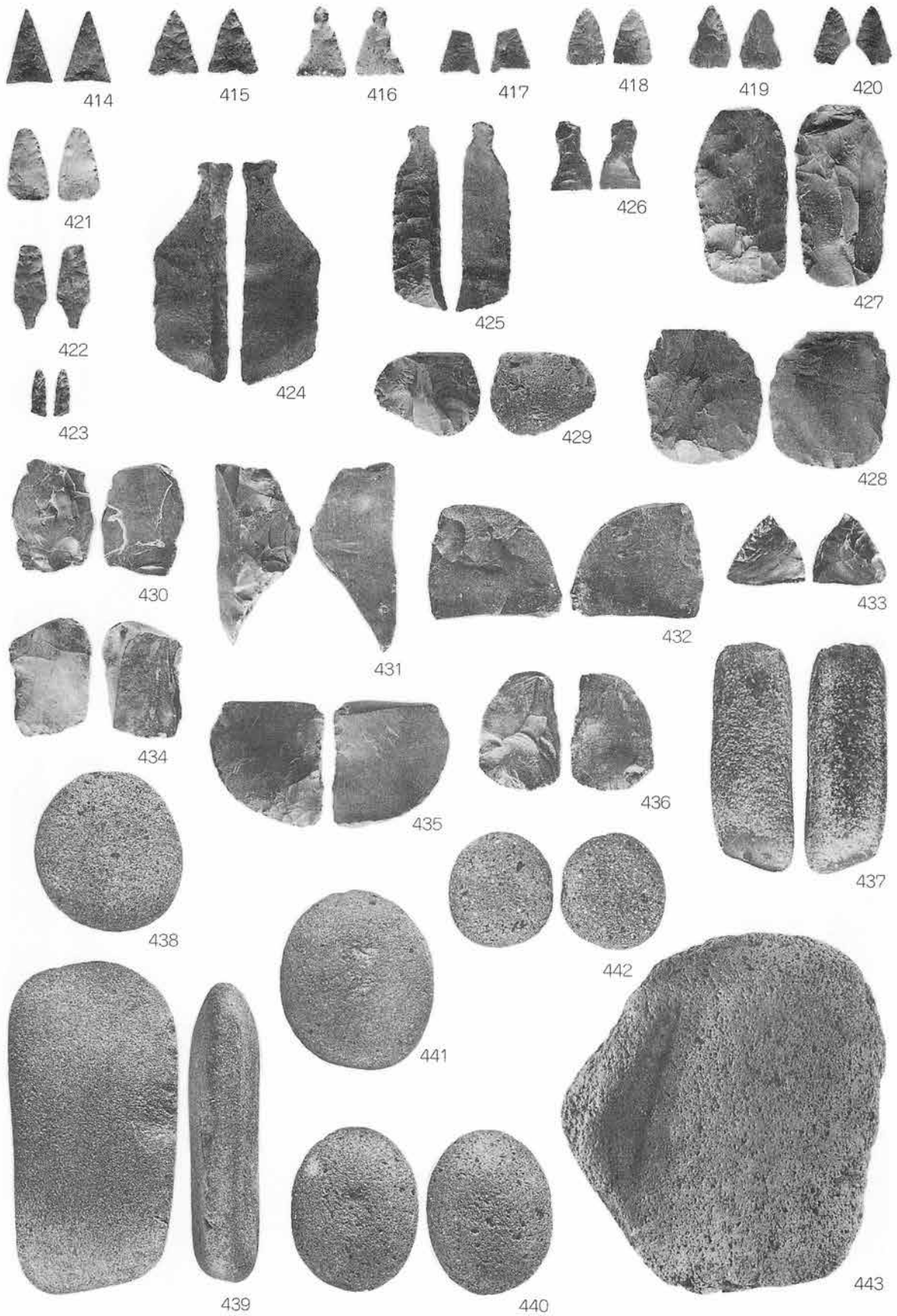
写真図版94 遺構外出土土器 (9)



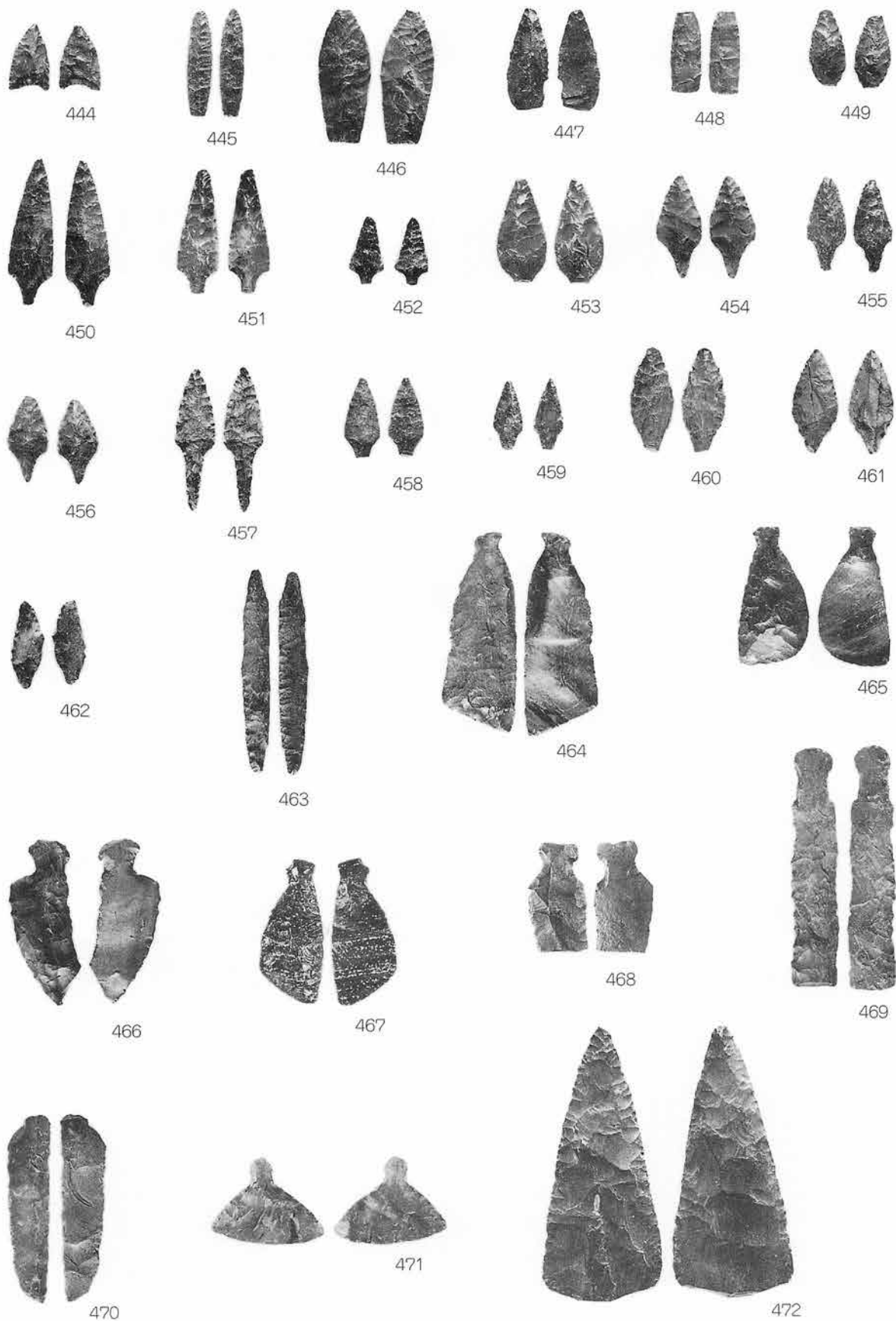
写真図版95 遺構外出土石器(1) ~VI層~



写真図版96 遺構外出土石器(2) ~Ⅵ層~



写真図版97 遺構外出土石器(3) ~IV a層~



写真図版98 遺構外出土石器（4）



473



475



474



476



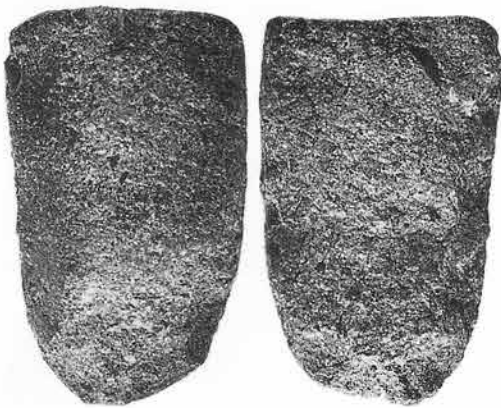
477



478



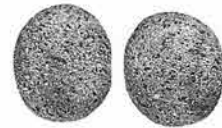
479



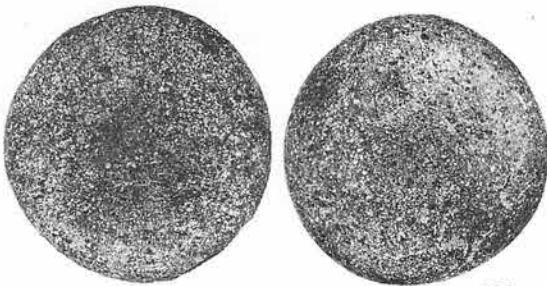
480



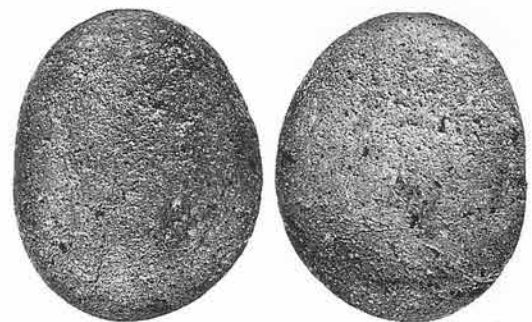
481



482



483

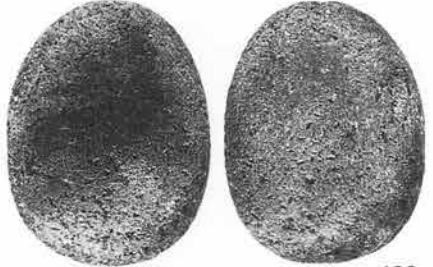


484

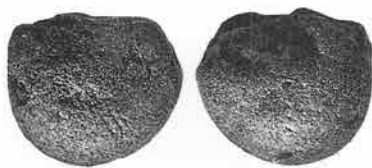
写真図版99 遺構外出土石器 (5)



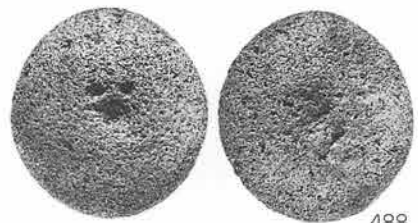
485



486



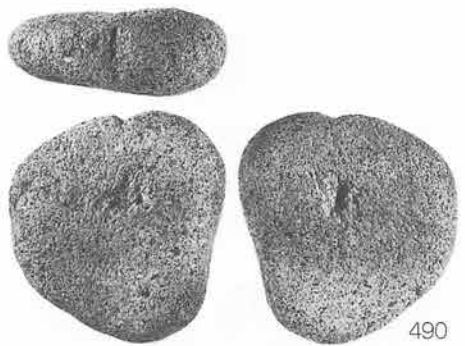
487



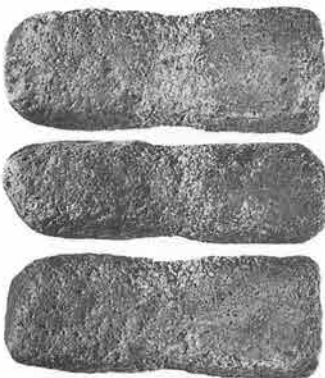
488



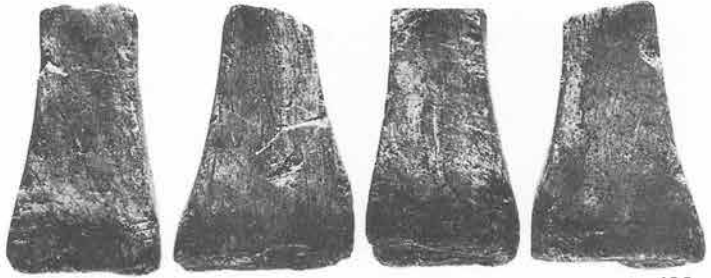
489



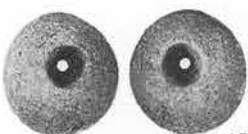
490



491



492



493



494

写真図版100 遺構外出土石器(6)・石製品



495



496



497



498



499



500



501



502



503



504



505

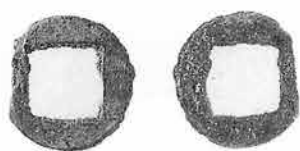
写真図版101 遺構外出土土製品



506



507



508



509



510



511



512



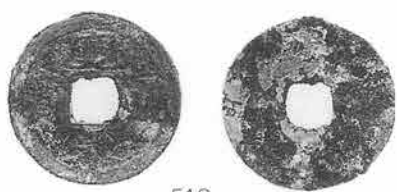
513



514



515



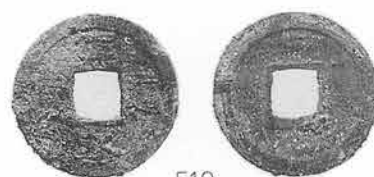
516



517



518



519

写真図版102 遺構外出土貨幣

報 告 書 抄 録

ふりがな	まい さわ い せき はくつ つ ちょう さ ほうこくしよ							
書 名	米 沢 遺 跡 発 掘 調 査 報 告 書							
副 書 名	東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業関連遺跡発掘調査							
巻 次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 376 集							
編 著 者 名	工藤徹・齋藤麻紀子							
編 集 機 関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒 020 - 0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 Tel. 019 - 038 - 9001							
発行年月日								
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調 査 原 因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "		m ²	
まいさわいせき 米沢遺跡	いわてけんのにのへし 岩手県二戸市 まいさわあざながせ 米沢字長瀬 24 - 2 ほか	03213	IE99-0390	4 0 度 1 7 分 0 4 秒	1 4 1 度 1 7 分 3 8 秒	20000411 ~ 20000602	16, 649	東北新幹線盛 岡・八戸間建 設事業に関連 する緊急発掘 調査
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
米沢遺跡	集 落 跡	縄文時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡	2 4 棟	縄文土器			
			住居状遺構	1 棟	土師器			
			土坑	5 1 基	土製品			
			陥し穴遺構	7 基	石器・石製品			
			柱穴状ピット	1 4 0 基	鉄製品			
			石囲炉	2 基	ガラス製品			
			焼土遺構	2 3 基				
			溝状遺構	1 7 基				
			畠状遺構	1 ケ所				
			井戸跡	1 基				

平成13年度（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職員】

所 長 伊 藤 民 也

副 所 長 高 橋 正 儀

〔管理課〕

課 長 菲 沢 正 吾
 課 長 補 佐 山 崎 善 光
 〃 山 岸 直 美
 主 査 立 花 多加志

嘱 託 高 橋 照 雄
 〃 佐々木 光 重
 〃 加 藤 美代子
 〃 湯 沢 邦 子

〔調査第一課〕

課 長 佐々木 勝
 課 長 補 佐 佐々木 清 文
 〃 高 橋 義 介
 文化財専門員 小山内 透
 文化財調査員 中 田 迪
 〃 飯 森 秀 文
 〃 赤 石 登
 〃 吉 田 充
 〃 亀 大 二郎
 〃 小 原 眞 一
 〃 佐々木 信 一
 〃 小笠原 健 一郎
 〃 金 野 進
 〃 小 松 則 也
 〃 小 岩 淵 計
 〃 鳥 居 達 人
 〃 金 子 昭 彦
 〃 羽 柴 直 人
 〃 千 葉 正 彦
 〃 長 村 克 稔
 〃 星 藤 あき子
 〃 佐 藤 貴 広
 〃 村 上 拓
 〃 本 多 準 一郎
 〃 村 木 敬
 〃 北 村 忠 昭
 〃 高 瀬 克 範
 〃 丸 山 浩 治
 〃 島 原 弘 征
 〃 中 村 絵 美
 期限付調査員 小 林 弘 卓
 〃 小 江 藤 敦
 〃 菊 池 賢
 〃 井 上 信 介
 〃 川 又 晋
 〃 吉 田 真由美
 〃 坂 部 恵 造
 〃 木 村 ひかり

〔調査第二課〕

課 長 高橋 與右衛門
 課 長 補 佐 中 川 重 紀
 文化財専門員 金 子 佐知子
 文化財調査員 阿 部 眞 澄
 〃 飯 坂 一 重
 〃 阿 部 徹
 〃 濱 田 宏
 〃 安 藤 由紀夫
 〃 高 木 晃 一
 〃 佐 藤 淳 一
 〃 星 雅 之
 〃 菅 原 靖 男
 〃 半 澤 武 彦
 〃 杉 沢 昭太郎
 〃 溜 浩 二郎
 〃 中 村 直 美
 〃 西 澤 正 晴
 〃 八 木 勝 枝
 〃 (阿 部 勝 則)
 期限付調査員 吉 川 徹
 〃 北 田 勲
 〃 吉 田 里 和
 〃 原 美津子
 〃 齋 藤 麻紀子
 〃 駒 木 野 智 寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第376集

米沢遺跡発掘調査報告書
東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業関連発掘調査

印刷 平成14年3月20日

発行 平成14年3月29日

発行 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185

電話 (019) 638-9001・9002

FAX (019) 638-8563

印刷 (有) 橋本印刷

〒020-0015 岩手県盛岡市本町通1丁目15-29

電話 (019) 652-1354